

東久留米市
障害者施策に関するアンケート調査
報告書

令和8年6月
東久留米市

目 次

I	調査の概要.....	1
1	調査の目的.....	1
2	調査対象.....	1
3	調査期間.....	2
4	調査方法.....	2
5	回収状況.....	2
6	調査結果の表示方法.....	2
II	成人調査結果.....	3
	あなた（あて名のご本人）自身について.....	3
	あなたの障害の状況について.....	10
	日常生活について.....	35
	地域での生活について.....	48
	社会参加について.....	60
	障害福祉サービスなどについて.....	65
	雇用・就労について.....	98
	東久留米市の障害福祉施策について.....	109
III	児童調査結果.....	128
	あなた（あて名のご本人）自身について.....	128
	あなたの障害の状況について.....	135
	日常生活について.....	158
	地域での生活について.....	169
	障害福祉サービスなどについて.....	178
	障害児福祉について.....	197
	東久留米市の障害福祉施策について.....	209
IV	市民調査結果.....	227
	あなたご自身について.....	227
	障害への理解について.....	233
	東久留米市の障害福祉施策について.....	250
V	資料.....	261
	成人調査調査票.....	261
	児童調査調査票.....	273
	一般市民調査調査票.....	285

I 調査の概要

1 調査の目的

東久留米市障害者計画・第8期障害福祉計画・第4期障害児福祉計画の策定にあたり、みなさまの日頃の生活状況や、市の障害福祉施策に対するご意見を伺い、現状の把握分析及びニーズ分析を行い、計画策定に役立てることを目的に調査を実施しました。

2 調査対象

(1) 当事者調査

成人調査：令和8年3月1日時点で、各種障害者手帳を所持あるいは医療費助成を受給中の市民

児童調査：令和8年3月1日時点で、0～17歳の児童の中で各種障害者手帳を所持あるいは医療費助成等を受給中の児童

当事者調査については、次の種別ごとに無作為抽出を行っております

成人調査	市内対象者数	抽出者数	割合(%)
① 身体障害者手帳所持者	2,984	842	40.3
② 愛の手帳（療育手帳）所持者	704	199	9.5
③ 精神保健福祉手帳所持者及び自立支援医療（精神通院）受給者	2,775	790	37.5
④ 難病医療費助成受給者	934	267	12.7
⑤ 小児慢性特定疾病医療費助成受給者	6	2	0.0
小 計	7,403	2,100	100
児童調査	市内対象者数	抽出者数	割合(%)
① 身体障害者手帳所持者	43	14	7.0
② 愛の手帳（療育手帳）所持者	273	88	44.3
③ 精神保健福祉手帳所持者及び自立支援医療（精神通院）受給者	73	24	11.9
④ 難病医療費助成受給者	2	1	0.3
⑤ 小児慢性特定疾病医療費助成受給者	31	10	5.0
⑥ その他児童福祉法に規定する児童通所サービス費の受給者 （①から⑤に該当せず児童福祉法に規定される児童通所サービス費の支給を受けている者）	194	63	31.5
小 計	616	200	100
合 計	6,963	2,300	100

※対象者数の計数にあたって、複数の種別に該当する者については、以下の順位において最上位となる種別に計上しております。

②>①>③>④>⑤>⑥

(2) 市民調査：令和8年3月1日時点で、18歳以上64歳以下の市民を無作為抽出

3 調査期間

成人調査：令和8年5月22日～令和8年6月12日

児童調査：令和8年5月22日～令和8年6月12日

市民調査：令和8年5月22日～令和8年6月12日

4 調査方法

成人調査：郵送による配布・回収及びWEBによる回答

児童調査：郵送による配布・回収及びWEBによる回答

市民調査：郵送による配布・回収及びWEBによる回答

5 回収状況

調査票の種類	配布数	回収数	回収率
成人調査	2,100件	960件	45.7%
児童調査	200件	90件	45.0%
市民調査	1,200件	436件	36.3%

6 調査結果の表示方法

- ・回答は各質問の回答者数を基数とした百分率（％）で示してあります。また、小数点以下第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が100.0%にならない場合があります。
- ・複数回答が可能な設問の場合、回答者が全体に対してどのくらいの比率であるかという見方になるため、回答比率の合計が100.0%を超える場合があります。
- ・クロス集計の場合、無回答を排除しているため、クロス集計の有効回答数の合計と単純集計（全体）の有効回答数が合致しないことがあります。なお、クロス集計とは、複数項目の組み合わせで分類した集計のことで、複数の質問項目を交差して並べ、表やグラフを作成することにより、その相互の関係を明らかにするための集計方法です。
- ・回答者数が1桁の場合、回答件数による表記としています。また、クロス集計において回答者数が1桁の場合は、コメントを差し控えています。

Ⅱ 成人調査結果

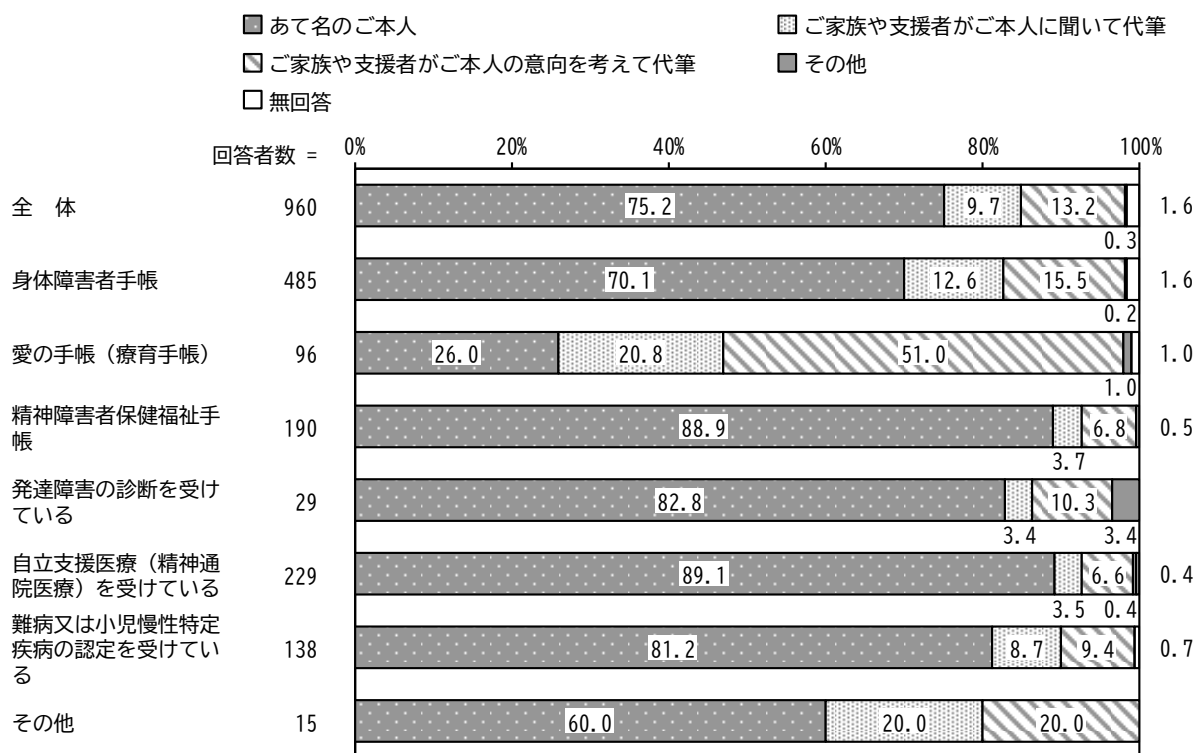
あなた（あて名のご本人）自身について

問1 この調査票にご回答いただくのは、どなたですか。（○印は1つ）

「あて名のご本人」の割合が 75.2%、「ご家族や支援者がご本人に聞いて代筆」の割合が 9.7%、「ご家族や支援者がご本人の意向を考えて代筆」の割合が 13.2%となっています。

【手帳の種類・診断別】

手帳の種類・診断別にみると、精神障害者保健福祉手帳、自立支援医療（精神通院医療）を受けているで「あて名のご本人」、愛の手帳（療育手帳）で「ご家族や支援者がご本人に聞いて代筆」「ご家族や支援者がご本人の意向を考えて代筆」の割合が高くなっています。

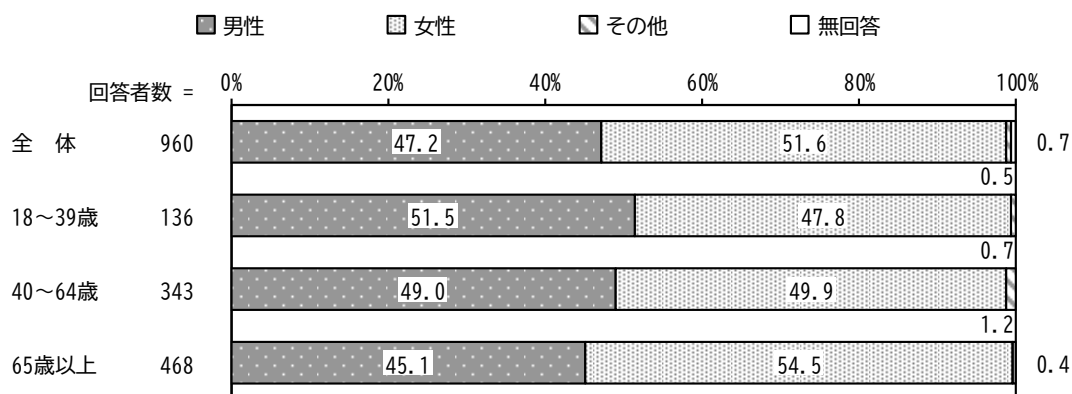


問2 あなたの性別は、次のうちどれですか。(○印は1つ)

「男性」の割合が47.2%、「女性」の割合が51.6%となっています。

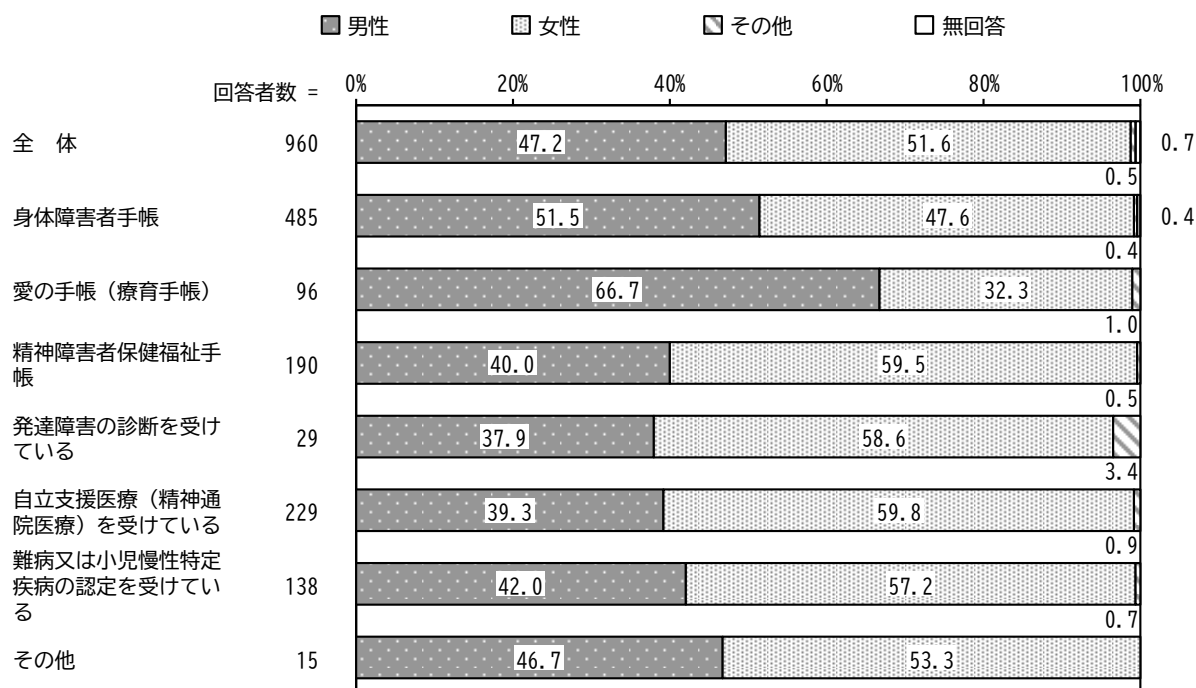
【年齢別】

年齢別にみると、年齢が上がるほど「女性」の割合が高くなっています。



【手帳の種類・診断別】

手帳の種類・診断別にみると、愛の手帳（療育手帳）で「男性」の割合が高くなっています。

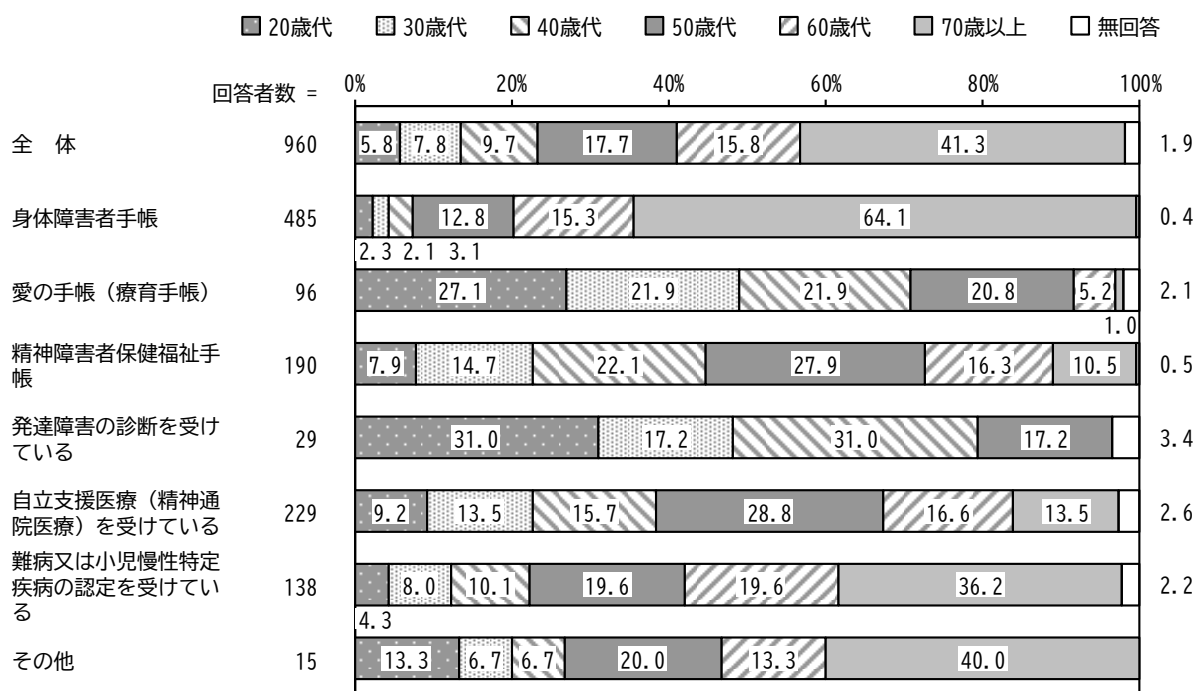


問3 あなたの年齢（令和8年4月1日現在）をお答えください。

「70歳以上」の割合が41.3%と最も高く、次いで「50歳代」の割合が17.7%、「60歳代」の割合が15.8%となっています。

【手帳の種類・診断別】

手帳の種類・診断別にみると、発達障害の診断を受けているで「20歳代」「40歳代」、愛の手帳（療育手帳）で「30歳代」、精神障害者保健福祉手帳、自立支援医療（精神通院医療）を受けているで「50歳代」、身体障害者手帳で「70歳以上」の割合が高くなっています。

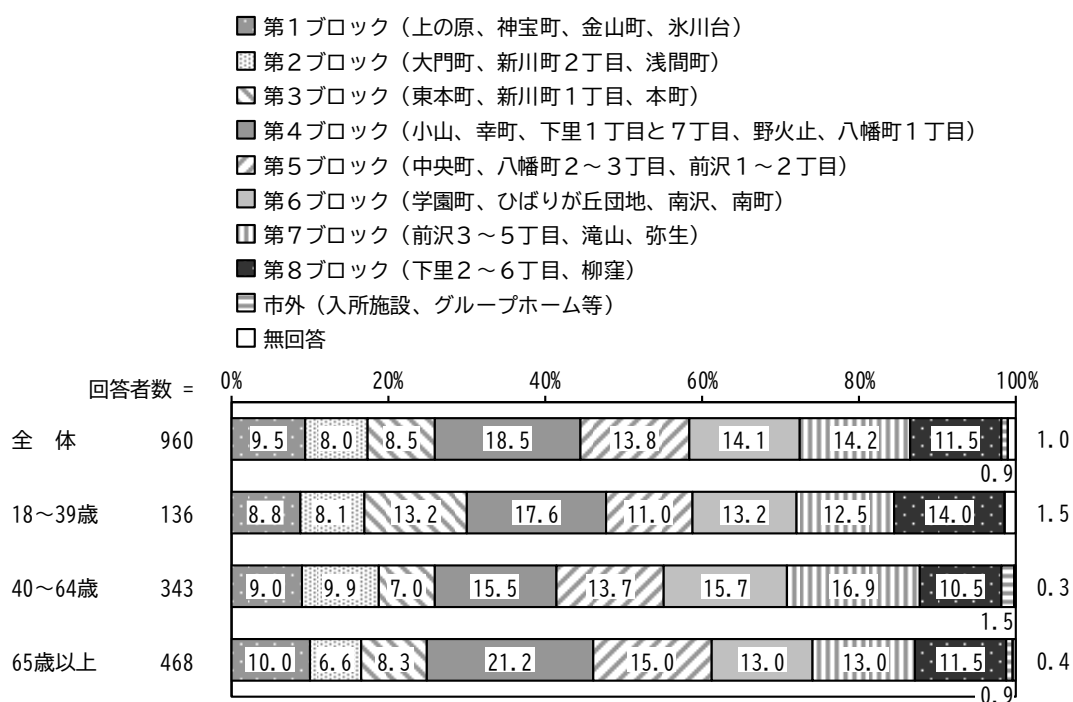


問4 あなたのお住まいをお聞きます。(○印は1つ)

「第4ブロック（小山、幸町、下里1丁目と7丁目、野火止、八幡町1丁目）」の割合が18.5%と最も高く、次いで「第7ブロック（前沢3～5丁目、滝山、弥生）」の割合が14.2%、「第6ブロック（学園町、ひばりが丘団地、南沢、南町）」の割合が14.1%となっています。

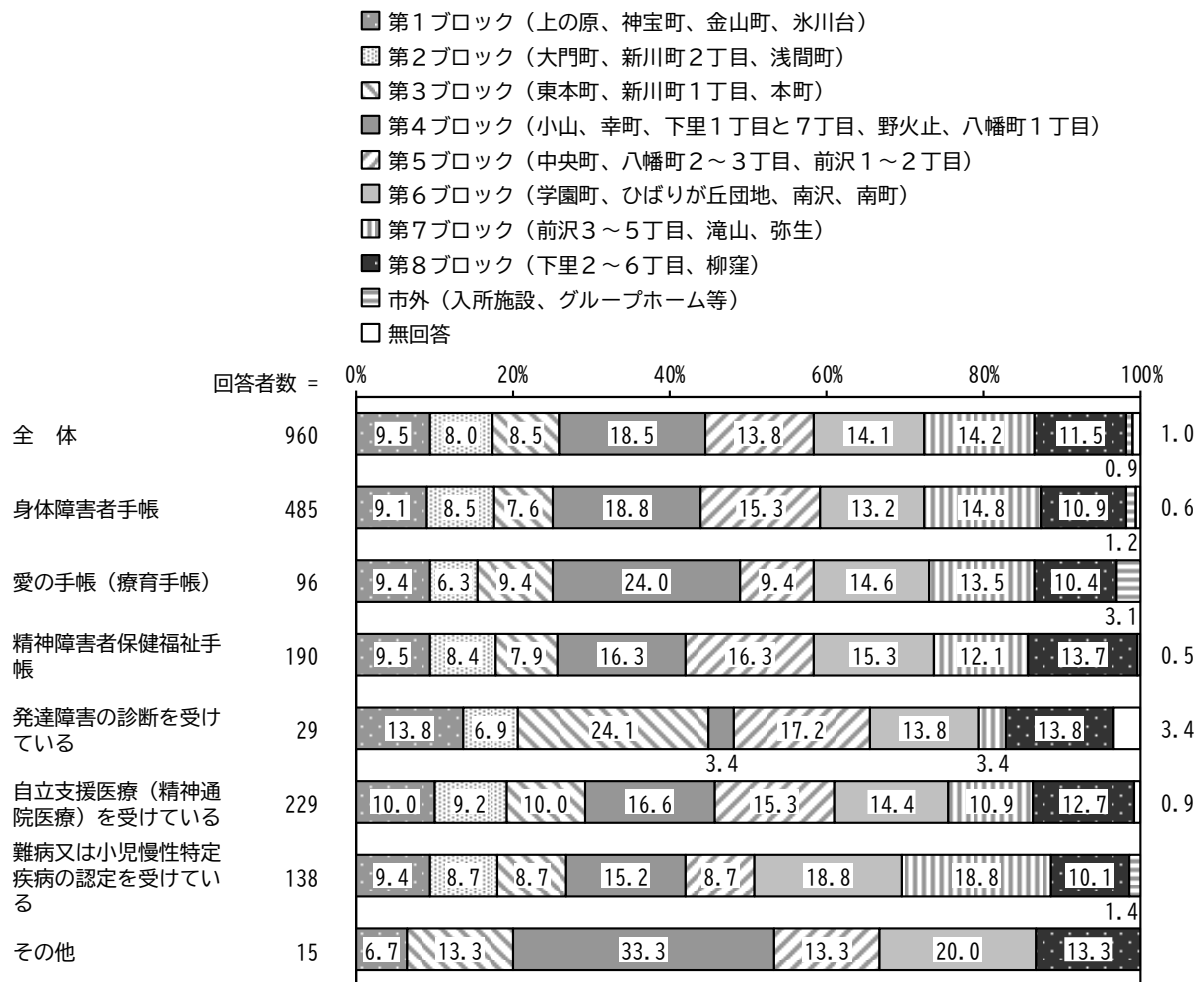
【年齢別】

年齢別にみると、大きな差はみられません。



【手帳の種類・診断別】

手帳の種類・診断別にみると、発達障害の診断を受けているで「第3ブロック（東本町、新川町1丁目、本町）」の割合が高く、難病又は小児慢性特定疾病の認定を受けているで「第5ブロック（中央町、八幡町2～3丁目、前沢1～2丁目）」、発達障害の診断を受けているで「第7ブロック（前沢3～5丁目、滝山、弥生）」の割合が低くなっています。

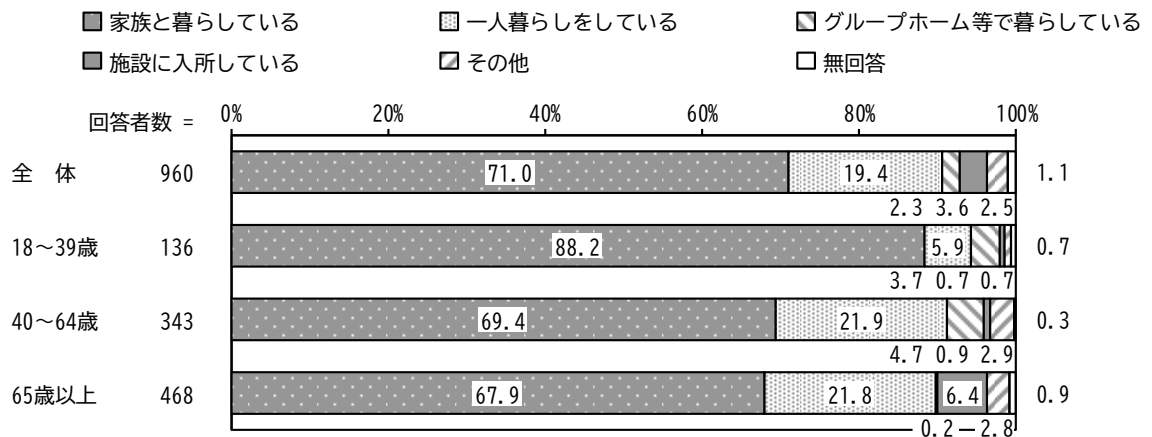


問5 あなたはどのような暮らし方をしていますか。(○印は1つ)

「家族と暮らしている」の割合が71.0%と最も高く、次いで「一人暮らしをしている」の割合が19.4%となっています。

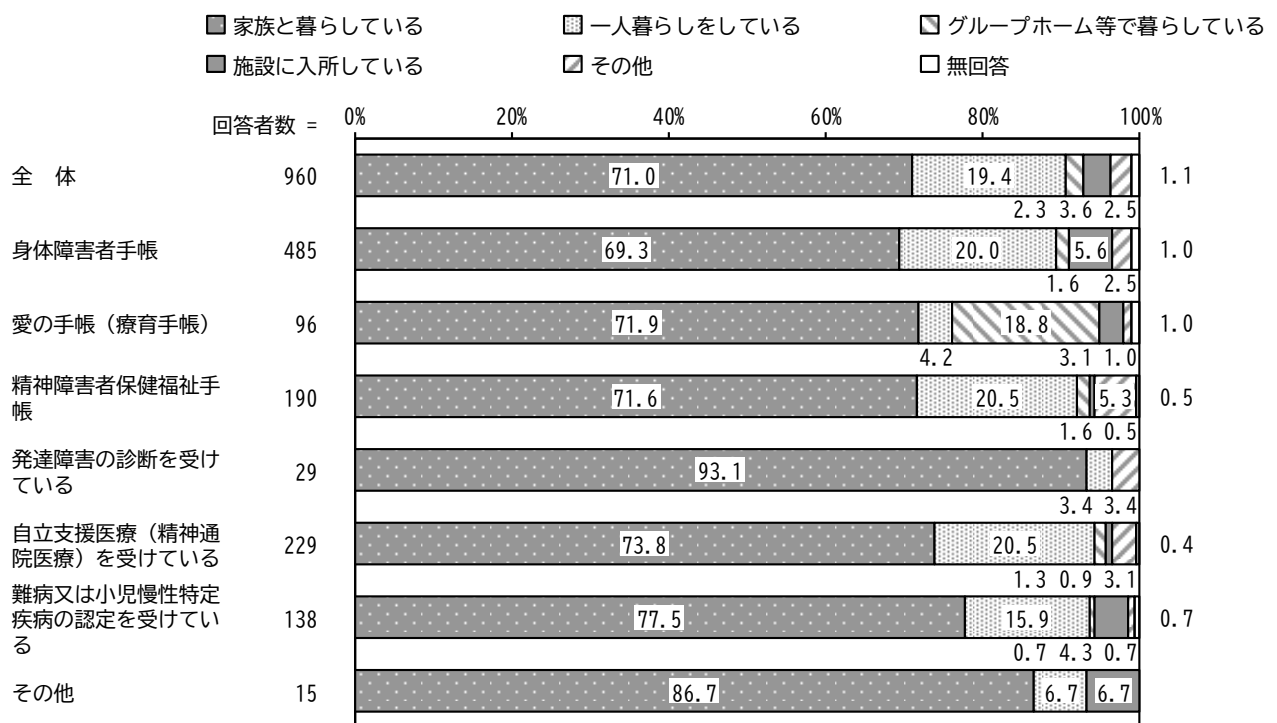
【年齢別】

年齢別にみると、年齢が下がるほど「家族と暮らしている」の割合が高くなっています。また、18～39歳で「一人暮らしをしている」の割合が低くなっています。



【手帳の種類・診断別】

手帳の種類・診断別にみると、発達障害の診断を受けているで「家族と暮らしている」、愛の手帳（療育手帳）で「グループホーム等で暮らしている」の割合が高くなっています。



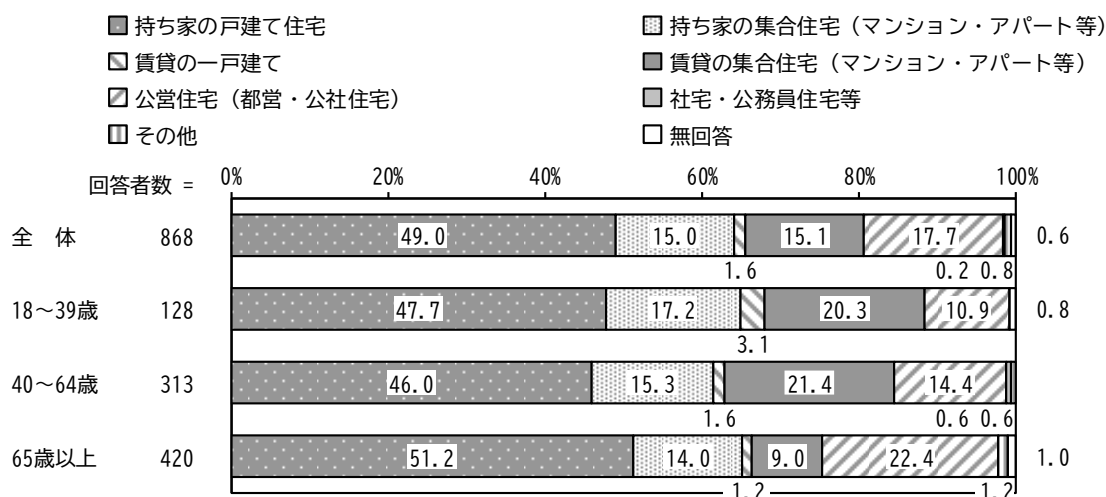
問5で「家族と暮らしている」か「一人暮らしをしている」に○をつけた方にお聞きます。

問5－1 あなたのお住まいの種類はどれですか。(○印は1つ)

「持ち家の戸建て住宅」の割合が49.0%と最も高く、次いで「公営住宅（都営・公社住宅）」の割合が17.7%、「賃貸の集合住宅（マンション・アパート等）」の割合が15.1%となっています。

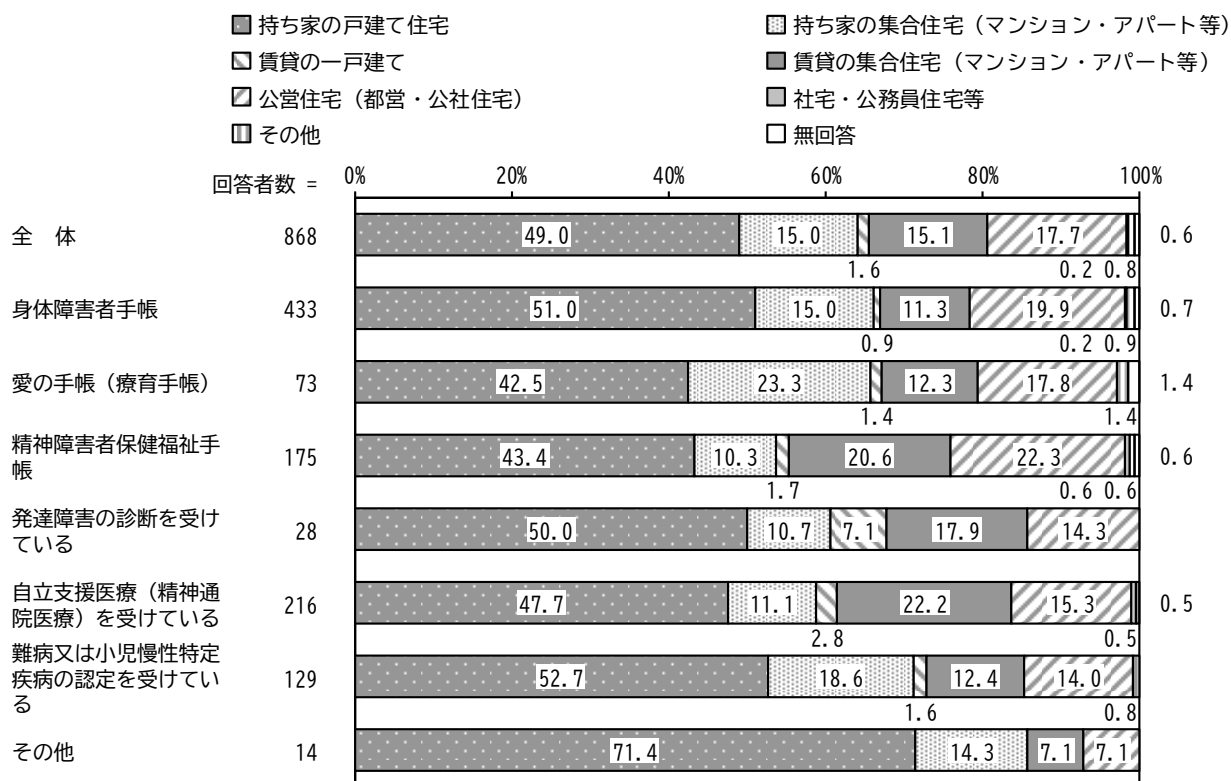
【年齢別】

年齢別にみると、年齢が上がるほど「公営住宅（都営・公社住宅）」の割合が高くなっています。



【手帳の種類・診断別】

手帳の種類・診断別にみると、愛の手帳（療育手帳）で「持ち家の集合住宅（マンション・アパート等）」、発達障害の診断を受けているで「賃貸の一戸建て」、精神障害者保健福祉手帳、自立支援医療（精神通院医療）を受けているで「賃貸の集合住宅（マンション・アパート等）」の割合が高くなっています。



あなたの障害の状況について

問6 あなたの持っている手帳の種類と等級、診断の有無をお聞きます。あてはまる手帳の番号と、カッコ内の等級（度数）に○をつけてください。（あてはまるものすべてに○印）

「身体障害者手帳」の割合が 50.5%と最も高く、次いで「自立支援医療（精神通院医療）を受けている」の割合が 23.9%、「精神障害者保健福祉手帳」の割合が 19.8%となっています。

【年齢別】

年齢別にみると、年齢が下がるほど「愛の手帳（療育手帳）」「発達障害の診断を受けている」「自立支援医療（精神通院医療）を受けている」の割合が高く、「身体障害者手帳」の割合が低くなっています。また、18～39 歳、40～64 歳で「精神障害者保健福祉手帳」の割合が高くなっています。

単位：％

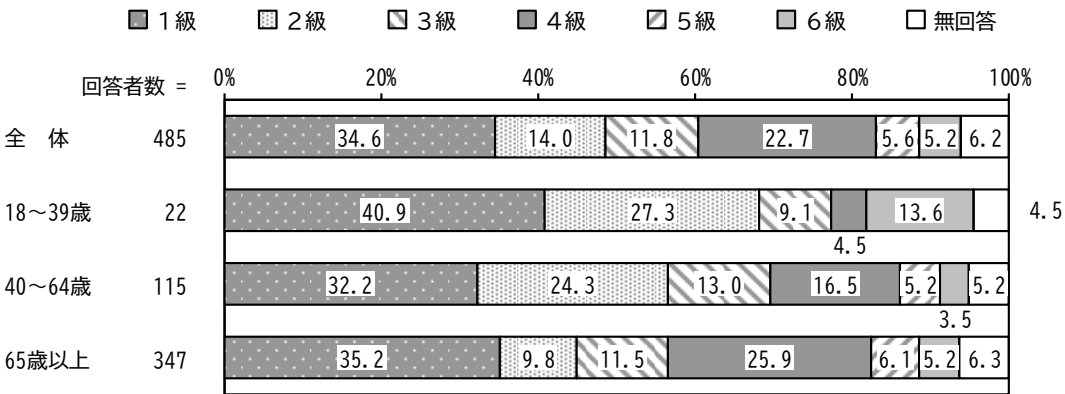
区分	回答者数 (件)	身体障害者手帳	愛の手帳 (療育手帳)	精神障害者保健福祉手帳	発達障害の診断を受けている	自立支援医療（精神通院医療）を受けている	難病又は小児慢性特定疾病の認定を受けている	その他	無回答
全 体	960	50.5	10.0	19.8	3.0	23.9	14.4	1.6	1.6
18～39歳	136	16.2	34.6	32.4	11.0	40.4	12.5	2.2	0.0
40～64歳	343	33.5	13.1	33.5	4.1	36.2	15.5	1.5	0.3
65歳以上	468	74.1	0.4	6.6	0.0	10.0	13.9	1.5	1.9

身体障害者手帳の等級

「1 級」の割合が 34.6%と最も高く、次いで「4 級」の割合が 22.7%、「2 級」の割合が 14.0%となっています。

【年齢別】

年齢別にみると、年齢が上がるほど「4 級」の割合が高く、「2 級」の割合が低くなっています。

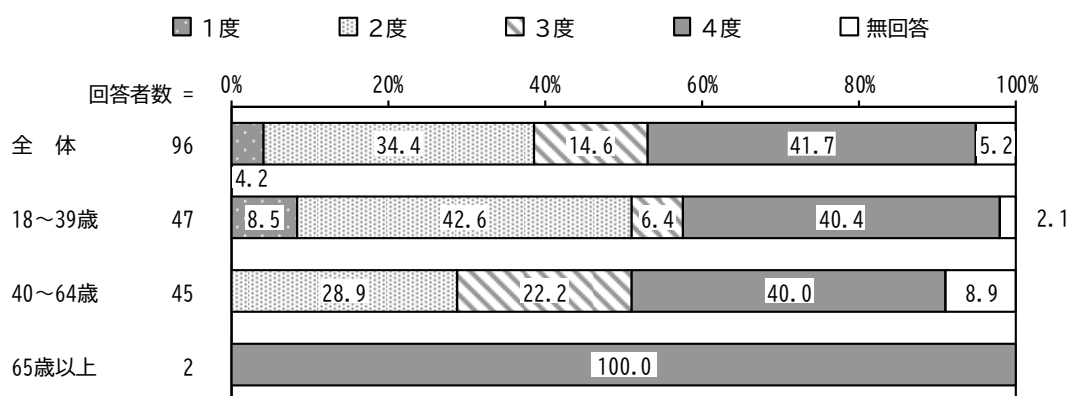


愛の手帳（療育手帳）の程度

「4度」の割合が41.7%と最も高く、次いで「2度」の割合が34.4%、「3度」の割合が14.6%となっています。

【年齢別】

年齢別にみると、年齢が下がるほど「2度」の割合が高くなっています。

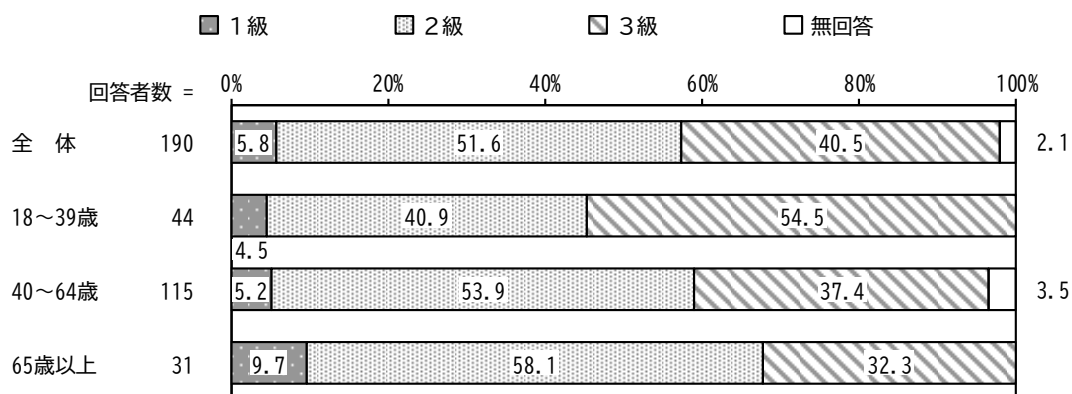


精神障害者保健福祉手帳の等級

「1級」の割合が5.8%、「2級」の割合が51.6%、「3級」の割合が40.5%となっています。

【年齢別】

年齢別にみると、18～39歳で「3級」の割合が高く、「2級」の割合が低くなっています。



問6で「身体障害者手帳」に○をつけた方にお聞きします。

問6－1 障害の種類は次のうちどれですか。(あてはまるものすべてに○印)

「肢体不自由（上肢機能障害・下肢機能障害・体幹機能障害）」の割合が46.4%と最も高く、次いで「内部障害（心臓機能障害、腎臓機能障害、呼吸器機能障害、膀胱・直腸機能障害、小腸機能障害、免疫機能障害、肝臓機能障害）」の割合が41.6%となっています。

【年齢別】

年齢別にみると、年齢が下がるほど「肢体不自由（上肢機能障害・下肢機能障害・体幹機能障害）」「視覚障害」の割合が高く、「内部障害（心臓機能障害、腎臓機能障害、呼吸器機能障害、膀胱・直腸機能障害、小腸機能障害、免疫機能障害、肝臓機能障害）」の割合が低くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	肢体不自由 (上肢機能障害・ 下肢機能障害・ 体幹機能障害)	音声・言語・そ しゃく機能障 害	視覚障害	聴覚・平衡機能 障害	内部障害(心臓機能障害、 腎臓機能障害、呼吸器機 能障害、膀胱・直腸機能障 害、小腸機能障害、免疫機 能障害、肝臓機能障害)	無回答
全 体	485	46.4	4.3	6.8	8.2	41.6	4.1
18～39歳	22	59.1	0.0	13.6	9.1	27.3	4.5
40～64歳	115	48.7	6.1	10.4	3.5	34.8	6.1
65歳以上	347	45.0	3.7	5.2	9.8	45.0	3.5

【手帳の種類・診断別】

手帳の種類・診断別にみると、愛の手帳（療育手帳）で「肢体不自由（上肢機能障害・下肢機能障害・体幹機能障害）」、愛の手帳（療育手帳）、精神障害者保健福祉手帳で「視覚障害」、精神障害者保健福祉手帳で「聴覚・平衡機能障害」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	肢体不自由（上肢機能障害・ 下肢機能障害・体幹機能障害）	音声・言語・そしゃく機能障害	視覚障害	聴覚・平衡機能障害	内部障害（心臓機能障害、 腎臓機能障害、呼吸器機能障害、 膀胱・直腸機能障害、小腸機能障害、 免疫機能障害、肝臓機能障害）	無回答
全 体	485	46.4	4.3	6.8	8.2	41.6	4.1
身体障害者手帳	485	46.4	4.3	6.8	8.2	41.6	4.1
愛の手帳（療育手帳）	21	71.4	4.8	14.3	0.0	23.8	0.0
精神障害者保健福祉手帳	12	50.0	0.0	16.7	16.7	25.0	16.7
発達障害の診断を受けている	2	50.0	0.0	50.0	0.0	50.0	0.0
自立支援医療（精神通院医療）を受けている	22	50.0	9.1	9.1	0.0	40.9	13.6
難病又は小児慢性特定疾病の認定を受けている	26	50.0	7.7	11.5	0.0	46.2	3.8
その他	4	25.0	25.0	0.0	25.0	50.0	0.0

問7 あなたが社会生活上で課題となる行動・疾病はありますか。(あてはまるものすべてに○印)

「睡眠障害」の割合が19.5%と最も高くなっています。

【年齢別】

年齢別にみると、年齢が下がるほど「自傷」「多動」「睡眠障害」「昼夜逆転」「パニック」「一つの行動に集中して他が目に入らない」「てんかん」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	自傷	他傷	破壊行動	行動停止	大声・奇声	多動	反復行動	異食	偏食	摂食障害 (過食・拒食)	睡眠障害
全 体	960	4.7	1.3	1.0	4.6	2.8	4.1	2.6	0.6	3.0	3.0	19.5
18～39歳	136	13.2	4.4	4.4	8.8	7.4	12.5	8.1	1.5	4.4	5.1	30.1
40～64歳	343	6.1	1.2	1.2	6.1	3.5	3.8	2.3	0.6	3.8	6.1	25.1
65歳以上	468	1.1	0.4	0.0	2.4	1.1	1.5	1.3	0.4	1.7	0.2	12.0

区分	昼夜逆転	パニック	一つ の行動に集中 して他が目に入 らない	自分 でトイレに行 けない	排せつ物を触 つてしまう	飛び出し等突 発的な行為	不法等不適切 な行為	てんかん	その他	特 に ない	無 回 答
全 体	5.5	9.7	6.6	7.1	0.7	0.8	0.7	4.5	12.7	47.7	6.3
18～39歳	12.5	19.1	18.4	7.4	2.9	3.7	3.7	11.8	17.6	25.0	2.2
40～64歳	7.0	15.5	9.3	2.0	0.6	0.6	0.6	6.1	12.5	45.2	5.0
65歳以上	2.4	2.4	1.1	10.9	0.2	0.2	0.0	1.1	11.8	56.2	8.3

【手帳の種類・診断別】

手帳の種類・診断別にみると、発達障害の診断を受けているで「自傷」「行動停止」「大声・奇声」「多動」「反復行動」「昼夜逆転」「一つの行動に集中して他が目に入らない」、精神障害者保健福祉手帳、発達障害の診断を受けているで「睡眠障害」、精神障害者保健福祉手帳で「パニック」、愛の手帳（療育手帳）で「てんかん」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	自傷	他傷	破壊行動	行動停止	大声・奇声	多動	反復行動	異食	偏食	摂食障害 (過食・拒食)	睡眠障害
全 体	960	4.7	1.3	1.0	4.6	2.8	4.1	2.6	0.6	3.0	3.0	19.5
身体障害者手帳	485	1.2	0.8	0.4	2.3	1.6	1.4	1.4	0.6	1.6	0.6	10.1
愛の手帳（療育手帳）	96	9.4	7.3	4.2	12.5	10.4	9.4	7.3	2.1	2.1	6.3	11.5
精神障害者保健福祉手帳	190	12.1	2.1	2.1	9.5	6.8	11.1	6.8	1.1	8.9	11.1	50.5
発達障害の診断を受けている	29	17.2	0.0	10.3	17.2	13.8	48.3	17.2	0.0	0.0	6.9	48.3
自立支援医療（精神通院医療）を受けている	229	10.9	2.6	2.6	10.5	3.1	9.6	3.1	0.4	6.1	7.9	39.7
難病又は小児慢性特定疾病の認定を受けている	138	1.4	0.0	0.0	2.9	0.7	0.0	0.7	0.0	0.7	0.0	10.9
その他	15	6.7	0.0	0.0	20.0	6.7	20.0	6.7	0.0	0.0	0.0	6.7

区分	昼夜逆転	パニック	一つの行動に集中して他が目に入らない	自分でトイレに行けない	排せつ物を触ってしまう	飛び出し等突発的な行為	不法等不適切な行為	てんかん	その他	特にない	無回答
全 体	5.5	9.7	6.6	7.1	0.7	0.8	0.7	4.5	12.7	47.7	6.3
身体障害者手帳	2.5	3.1	1.9	10.9	0.4	0.2	0.2	3.3	13.6	57.1	6.2
愛の手帳（療育手帳）	6.3	12.5	14.6	12.5	6.3	4.2	1.0	21.9	12.5	29.2	4.2
精神障害者保健福祉手帳	15.3	29.5	18.9	1.6	0.0	1.6	2.1	6.3	17.9	12.6	5.8
発達障害の診断を受けている	20.7	20.7	55.2	3.4	0.0	3.4	6.9	6.9	13.8	3.4	0.0
自立支援医療（精神通院医療）を受けている	13.1	24.0	14.8	0.9	0.0	0.9	1.7	8.7	13.1	24.5	3.9
難病又は小児慢性特定疾病の認定を受けている	1.4	2.9	2.2	7.2	0.0	0.0	0.0	2.9	8.0	66.7	7.2
その他	13.3	13.3	26.7	6.7	0.0	6.7	0.0	6.7	26.7	40.0	6.7

問8 あなたが社会生活上で課題となる行動・疾病の中で、特に配慮が必要と覚ることはありますか。(あてはまるものすべてに○印)

「睡眠障害」の割合が14.4%と最も高くなっています。

【年齢別】

年齢別にみると、年齢が下がるほど「睡眠障害」「パニック」「一つの行動に集中して他が目に入らない」「てんかん」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	自傷	他傷	破壊行動	行動停止	大声・奇声	多動	反復行動	異食	偏食	摂食障害 (過食・拒食)	睡眠障害
全 体	960	2.7	1.5	1.0	3.5	2.2	2.0	1.3	0.5	2.1	1.8	14.4
18～39歳	136	8.8	4.4	2.9	5.9	4.4	5.1	2.2	0.7	1.5	1.5	22.8
40～64歳	343	2.6	1.5	1.5	4.7	2.9	1.7	1.7	0.6	2.9	3.5	18.4
65歳以上	468	1.1	0.6	0.0	1.9	1.1	1.3	0.6	0.4	1.5	0.6	9.0

区分	昼夜逆転	パニック	一つ の行動に集中 して他が目に入 らない	自分 でトイレに行 けない	排せ つ物を触つて しまう	飛び 出し等突発的 な行為	不法 等不適切な行 為	てん かん	その他	特 に ない	無 回 答
全 体	2.9	7.8	4.4	6.6	0.8	0.5	0.5	4.3	8.8	51.8	8.5
18～39歳	3.7	16.2	12.5	6.6	2.2	2.2	1.5	12.5	6.6	32.4	7.4
40～64歳	4.1	12.5	5.8	1.5	0.9	0.3	0.9	5.5	10.2	49.9	6.4
65歳以上	1.9	1.9	0.9	10.3	0.2	0.2	0.0	0.9	8.5	59.2	10.0

【手帳の種類・診断別】

手帳の種類・診断別にみると、精神障害者保健福祉手帳で「睡眠障害」「パニック」、発達障害の診断を受けているで「一つの行動に集中して他が目に入らない」、愛の手帳（療育手帳）で「てんかん」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	自傷	他傷	破壊行動	行動停止	大声・奇声	多動	反復行動	異食	偏食	摂食障害 (過食・拒食)	睡眠障害
全 体	960	2.7	1.5	1.0	3.5	2.2	2.0	1.3	0.5	2.1	1.8	14.4
身体障害者手帳	485	0.8	0.8	0.6	1.6	1.6	1.0	0.4	0.6	1.4	0.6	6.4
愛の手帳（療育手帳）	96	7.3	7.3	3.1	10.4	8.3	6.3	3.1	2.1	2.1	4.2	10.4
精神障害者保健福祉手帳	190	5.8	2.6	2.6	6.3	4.7	4.2	3.7	0.5	4.7	5.3	38.9
発達障害の診断を受けている	29	0.0	3.4	6.9	6.9	3.4	10.3	0.0	0.0	0.0	0.0	20.7
自立支援医療（精神通院医療）を受けている	229	5.2	2.6	2.6	7.9	1.7	3.5	1.7	0.0	3.5	3.1	30.6
難病又は小児慢性特定疾病の認定を受けている	138	1.4	0.0	0.0	2.2	0.7	0.0	0.0	0.0	1.4	0.0	5.8
その他	15	0.0	0.0	0.0	13.3	0.0	6.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

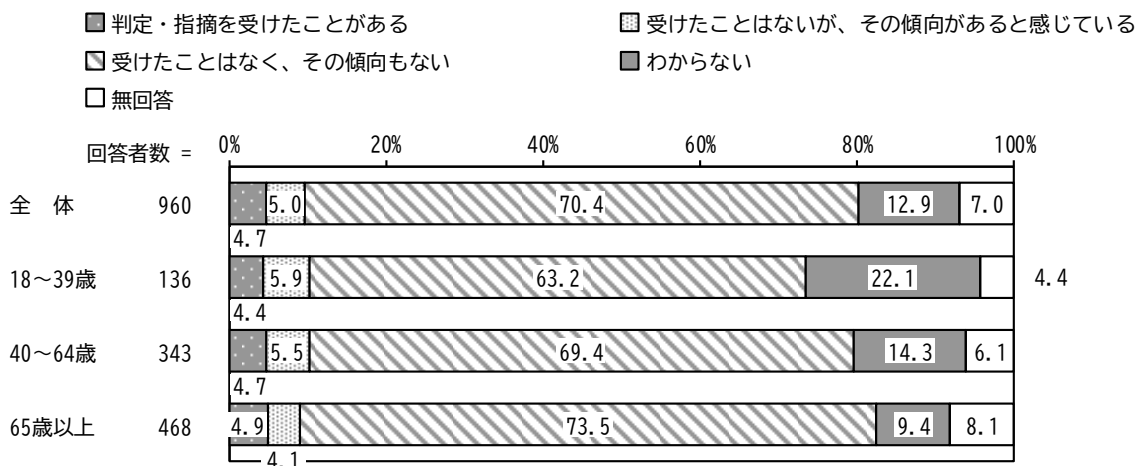
区分	昼夜逆転	パニック	一つの行動に集中して他が目に入らない	自分でトイレに行けない	排せつ物を触ってしまう	飛び出し等突発的な行為	不法等不適切な行為	てんかん	その他	特にない	無回答
全 体	2.9	7.8	4.4	6.6	0.8	0.5	0.5	4.3	8.8	51.8	8.5
身体障害者手帳	1.6	2.7	1.2	10.1	0.4	0.0	0.2	3.1	9.7	59.8	8.9
愛の手帳（療育手帳）	5.2	11.5	12.5	11.5	6.3	2.1	1.0	20.8	6.3	31.3	8.3
精神障害者保健福祉手帳	6.8	24.7	12.6	1.6	0.0	1.1	2.1	6.3	14.2	20.0	7.4
発達障害の診断を受けている	3.4	13.8	31.0	0.0	0.0	3.4	6.9	3.4	6.9	27.6	3.4
自立支援医療（精神通院医療）を受けている	7.4	18.8	9.2	1.3	0.4	0.4	0.9	8.3	10.5	30.6	5.2
難病又は小児慢性特定疾病の認定を受けている	0.7	2.9	1.4	6.5	0.0	0.0	0.0	2.9	6.5	71.0	8.0
その他	6.7	13.3	20.0	13.3	0.0	0.0	0.0	6.7	6.7	53.3	6.7

問9 これまでに、専門機関等から「強度行動障害（あるいはそれに相当する状態）」との判定や指摘を受けたことがありますか。（○印は1つ）

「判定・指摘を受けたことがある」の割合が4.7%、「受けたことはないが、その傾向があると感じている」の割合が5.0%、「受けたことはなく、その傾向もない」の割合が70.4%となっています。

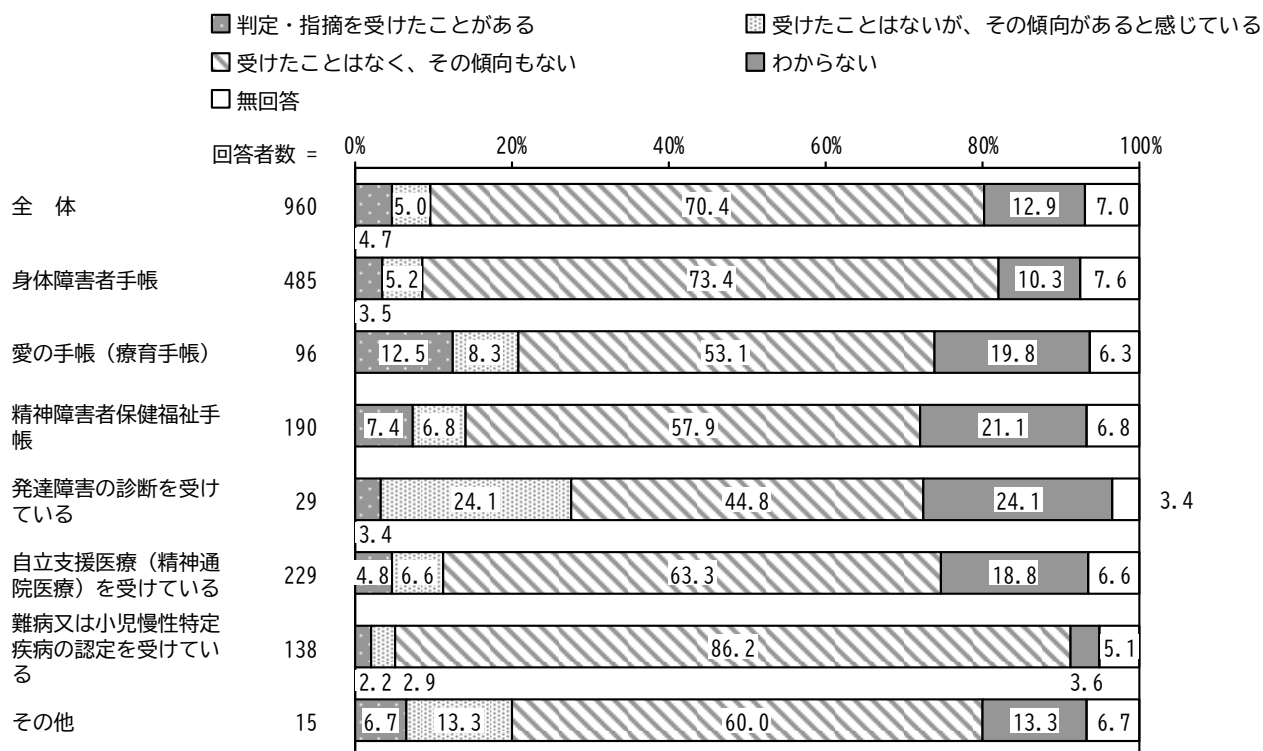
【年齢別】

年齢別にみると、年齢が上がるほど「受けたことはなく、その傾向もない」の割合が高くなっています。



【手帳の種類・診断別】

手帳の種類・診断別にみると、発達障害の診断を受けているで「受けたことはないが、その傾向があると感じている」、難病又は小児慢性特定疾病の認定を受けているで「受けたことはなく、その傾向もない」の割合が高くなっています。



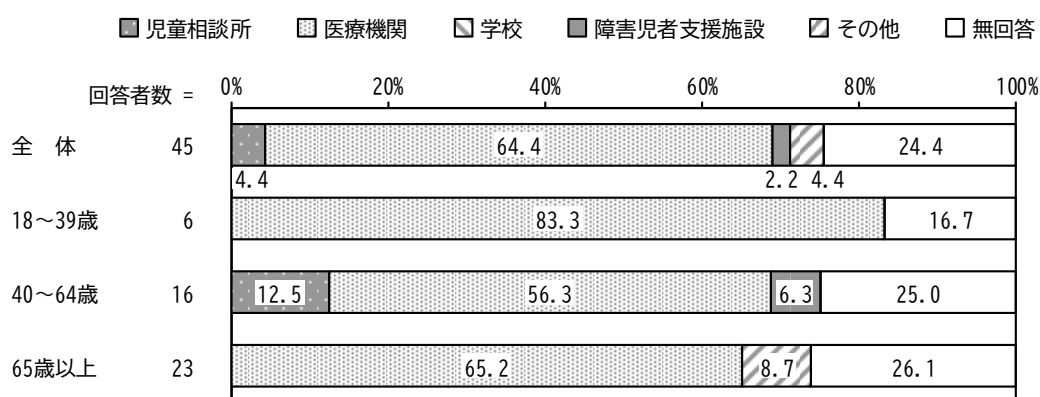
問9で「判定・指摘を受けたことがある」に○をつけた方にお聞きします。

問9-1 具体的にどこで判定・指摘を受けましたか。(○印は1つ)

「医療機関」の割合が64.4%と最も高くなっています。

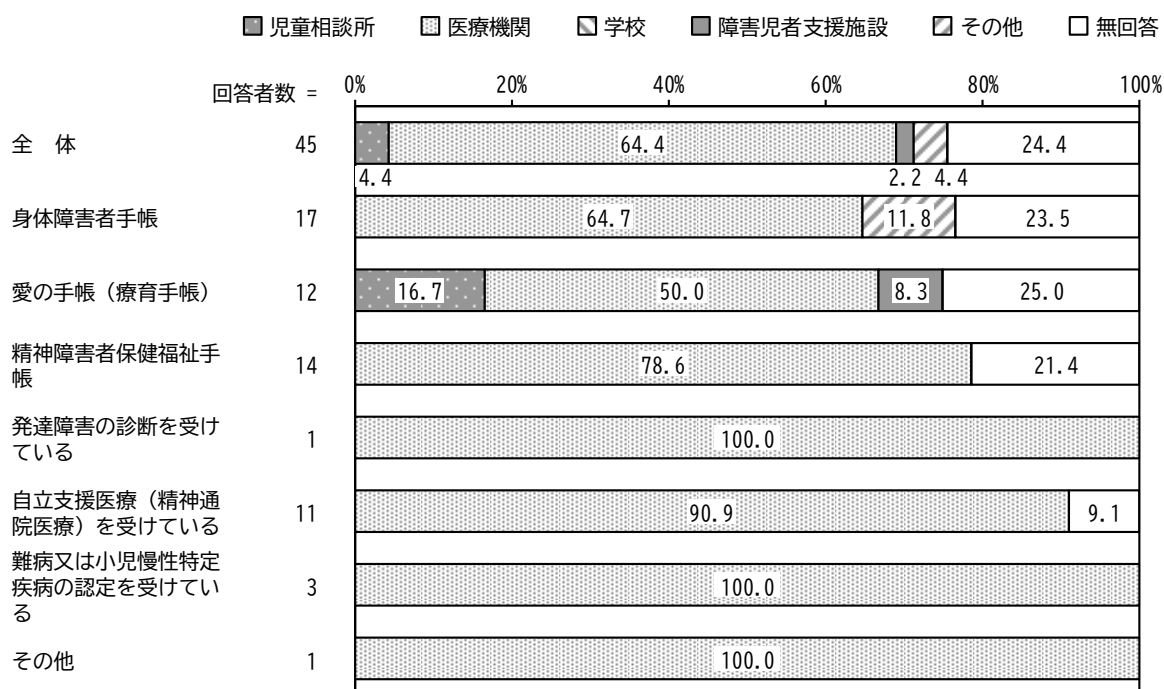
【年齢別】

年齢別にみると、40～64歳で「児童相談所」「障害児者支援施設」の割合が高く、65歳以上で「医療機関」の割合が高くなっています。



【手帳の種類・診断別】

手帳の種類・診断別にみると、愛の手帳（療育手帳）で「児童相談所」、自立支援医療（精神通院医療）を受けているで「医療機関」の割合が高くなっています。



問9で「判定・指摘を受けたことがある」に○をつけた方にお聞きします。

問9-2 あなたが困っていることは何ですか。(あてはまるものすべてに○印)

「親亡き後の生活、受け入れ先、金銭管理、地域での暮らし」の割合が26.7%と最も高く、次いで「予定変更、場所の移動、音・光などの刺激に敏感」、「施設、家族、医療など複数の支援者が関わる」の割合が20.0%となっています。

【年齢別】

年齢別にみると、年齢が下がるほど「言葉での表現が難しい場合、要求や不快感が伝わらず、行動が激しくなる」「予定変更、場所の移動、音・光などの刺激に敏感」「受け入れ可能な病院や施設が限られる」「自傷・他害につながる行動が突然起こることがある」「行動の理由が環境や状況により異なるため、一般的な回避・軽減方法が当てはまらない」「親亡き後の生活、受け入れ先、金銭管理、地域での暮らし」「わがまま」「しつけの問題」と誤解されることがある」の割合が高くなっています。

区分	回答者数(件)	言葉での表現が難しい場合、要求や不快感が伝わらず、行動が激しくなる	予定変更、場所の移動、音・光などの刺激に敏感	受け入れ可能な病院や施設が限られる	周囲の視線や誤解、危険回避の難しさ	自傷・他害につながる行動が突然起こることがある	24時間体制の見守りが必要なケースも多い
全 体	45	11.1	20.0	17.8	8.9	13.3	6.7
18～39歳	6	16.7	66.7	50.0	16.7	33.3	50.0
40～64歳	16	12.5	25.0	18.8	18.8	25.0	0.0
65歳以上	23	8.7	4.3	8.7	0.0	0.0	0.0

区分	施設、家族、医療など複数の支援者が関わる	行動の理由が環境や状況により異なるため、一般的な回避・軽減方法が当てはまらない	親亡き後の生活、受け入れ先、金銭管理、地域での暮らし	「わがまま」「しつけの問題」と誤解されることがある	その他	無回答
全 体	20.0	6.7	26.7	6.7	13.3	26.7
18～39歳	66.7	33.3	66.7	16.7	16.7	0.0
40～64歳	12.5	6.3	50.0	12.5	0.0	6.3
65歳以上	13.0	0.0	0.0	0.0	21.7	47.8

【手帳の種類・診断別】

手帳の種類・診断別にみると、愛の手帳（療育手帳）で「言葉での表現が難しい場合、要求や不快感が伝わらず、行動が激しくなる」「受け入れ可能な病院や施設に限られる」「24 時間体制の見守りが必要なケースも多い」「施設、家族、医療など複数の支援者が関わる」「親亡き後の生活、受け入れ先、金銭管理、地域での暮らし」、愛の手帳（療育手帳）、精神障害者保健福祉手帳で「予定変更、場所の移動、音・光などの刺激に敏感」、精神障害者保健福祉手帳で「自傷・他害につながる行動が突然起こることがある」、自立支援医療（精神通院医療）を受けているで「行動の理由が環境や状況により異なるため、一般的な回避・軽減方法が当てはまらない」「わがまま」「しつけの問題」と誤解されることがある」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	言葉での表現が難しい場合、要求や不快感が伝わらず、行動が激しくなる	予定変更、場所の移動、音・光などの刺激に敏感	受け入れ可能な病院や施設に限られる	周囲の視線や誤解、危険回避の難しさ	自傷・他害につながる行動が突然起こることがある	24 時間体制の見守りが必要なケースも多い
全 体	45	11.1	20.0	17.8	8.9	13.3	6.7
身体障害者手帳	17	11.8	0.0	11.8	0.0	0.0	5.9
愛の手帳（療育手帳）	12	25.0	33.3	33.3	16.7	16.7	25.0
精神障害者保健福祉手帳	14	0.0	35.7	14.3	14.3	28.6	0.0
発達障害の診断を受けている	1	0.0	100.0	0.0	100.0	0.0	0.0
自立支援医療（精神通院医療）を受けている	11	0.0	27.3	18.2	18.2	18.2	0.0
難病又は小児慢性特定疾病の認定を受けている	3	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	33.3
その他	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

区分	施設、家族、医療など複数の支援者が関わる	行動の理由が環境や状況により異なるため、一般的な回避・軽減方法が当てはまらない	親亡き後の生活、受け入れ先、金銭管理、地域での暮らし	「わがまま」「しつけの問題」と誤解されることがある	その他	無回答
全 体	20.0	6.7	26.7	6.7	13.3	26.7
身体障害者手帳	23.5	0.0	5.9	0.0	23.5	35.3
愛の手帳（療育手帳）	33.3	8.3	66.7	8.3	8.3	8.3
精神障害者保健福祉手帳	14.3	14.3	42.9	7.1	0.0	14.3
発達障害の診断を受けている	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
自立支援医療（精神通院医療）を受けている	9.1	18.2	27.3	18.2	0.0	18.2
難病又は小児慢性特定疾病の認定を受けている	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	66.7
その他	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0

問9で「判定・指摘を受けたことがある」に○をつけた方にお聞きします。

問9-3 どのような支援が必要ですか。(あてはまるものすべてに○印)

「本人のペースを尊重する」の割合が35.6%と最も高く、次いで「安心できる方・場所の確保」の割合が33.3%、「身体の不調を早期に気づける仕組み」の割合が28.9%となっています。

【年齢別】

年齢別にみると、年齢が下がるほど「わかりやすいコミュニケーション手段の提供」「見通しを持てる生活づくり」「感覚刺激への配慮」「本人が選べる場面を増やす」「成功体験を積み重ねる機会づくり」「身体の不調を早期に気づける仕組み」「安心できる方・場所の確保」「興味や得意を活かした活動の提供」「行動が起きる前のサインに合わせた支援」「本人のペースを尊重する」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	わかりやすいコミュニケーション手段の提供	見通しを持てる生活づくり	感覚刺激への配慮	本人が選べる場面を増やす	成功体験を積み重ねる機会づくり	身体の不調を早期に気づける仕組み	安心できる方・場所の確保	興味や得意を活かした活動の提供	行動が起きる前のサインに合わせた支援	本人のペースを尊重する	その他	無回答
全 体	45	24.4	17.8	15.6	13.3	17.8	28.9	33.3	17.8	22.2	35.6	8.9	31.1
18～39歳	6	33.3	50.0	50.0	50.0	50.0	66.7	66.7	50.0	50.0	83.3	0.0	0.0
40～64歳	16	25.0	25.0	18.8	18.8	31.3	31.3	56.3	25.0	31.3	50.0	6.3	25.0
65歳以上	23	21.7	4.3	4.3	0.0	0.0	17.4	8.7	4.3	8.7	13.0	13.0	43.5

【手帳の種類・診断別】

手帳の種類・診断別にみると、愛の手帳（療育手帳）で「わかりやすいコミュニケーション手段の提供」「見通しを持てる生活づくり」「本人が選べる場面を増やす」「成功体験を積み重ねる機会づくり」「身体の不調を早期に気づける仕組み」「安心できる方・場所の確保」「興味や得意を活かした活動の提供」「行動が起きる前のサインに合わせた支援」「本人のペースを尊重する」の割合が高くなっています。

単位：％

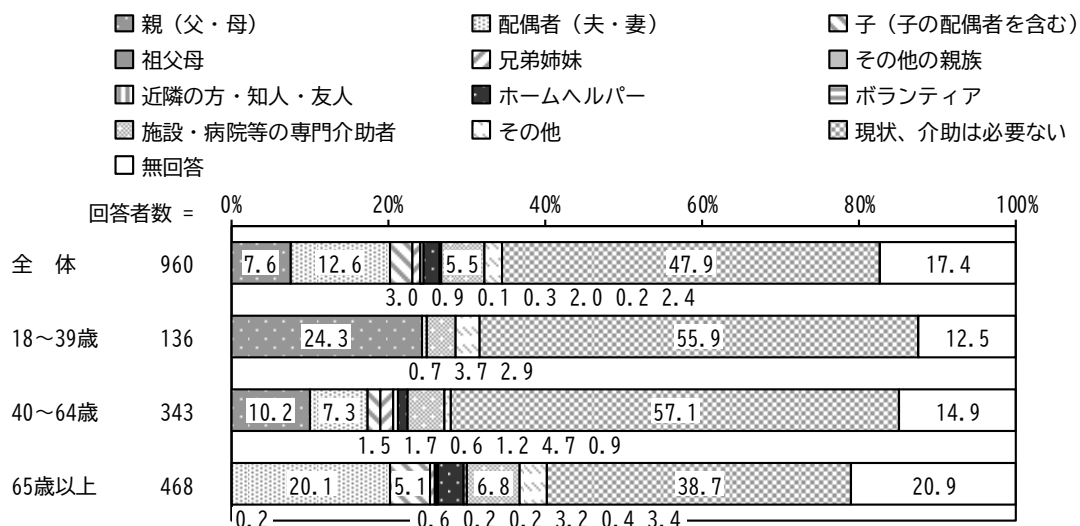
区分	回答者数 (件)	わかりやすいコミュニケーション手段の提供	見通しを持てる生活づくり	感覚刺激への配慮	本人が選べる場面を増やす	成功体験を積み重ねる機会づくり	身体の不調を早期に気づける仕組み	安心できる方・場所の確保	興味や得意を活かした活動の提供	行動が起きる前のサインに合わせた支援	本人のペースを尊重する	その他	無回答
全 体	45	24.4	17.8	15.6	13.3	17.8	28.9	33.3	17.8	22.2	35.6	8.9	31.1
身体障害者手帳	17	17.6	5.9	5.9	0.0	0.0	23.5	17.6	5.9	5.9	11.8	11.8	41.2
愛の手帳（療育手帳）	12	41.7	41.7	25.0	41.7	50.0	50.0	66.7	50.0	41.7	58.3	0.0	16.7
精神障害者保健福祉手帳	14	21.4	14.3	21.4	7.1	21.4	28.6	28.6	7.1	28.6	42.9	7.1	35.7
発達障害の診断を受けている	1	0.0	100.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	100.0	0.0	100.0	0.0	0.0
自立支援医療（精神通院医療）を受けている	11	36.4	18.2	18.2	18.2	36.4	36.4	36.4	18.2	36.4	54.5	0.0	18.2
難病又は小児慢性特定疾病の認定を受けている	3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	66.7
その他	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0

問10 あなたは普段の生活で介助を必要としていますか。介助が必要な方は、主な介助者の方をお答えください。(○印は1つ)

「配偶者（夫・妻）」の割合が12.6%と最も高くなっています。

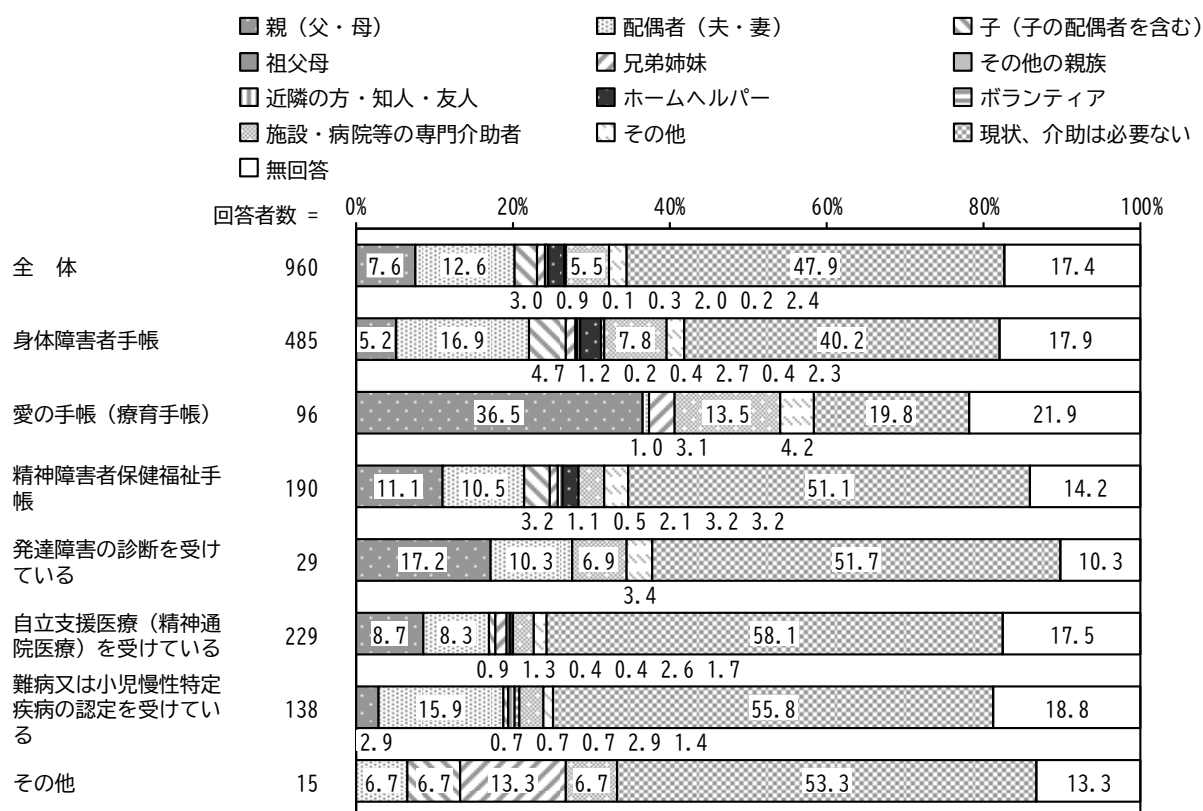
【年齢別】

年齢別にみると、年齢が上がるほど「配偶者（夫・妻）」の割合が高く、「親（父・母）」の割合が低くなっています。



【手帳の種類・診断別】

手帳の種類・診断別にみると、愛の手帳（療育手帳）で「親（父・母）」「施設・病院等の専門介助者」の割合が高く、愛の手帳（療育手帳）で「配偶者（夫・妻）」の割合が低くなっています。



問 11 普段から、家族・親族の方が介助している方にお聞きします。現在、主な介助者の方が困っていることは何ですか。（あてはまるものすべてに○印）

「介助者自身の健康に不安がある」の割合が 33.0%と最も高く、次いで「代わりの介助を頼める方がいない」、「精神的な負担が大きい」の割合が 30.5%となっています。

【年齢別】

年齢別にみると、年齢が下がるほど「休養や息抜きの時間がない」「仕事に出られない」「経済的な負担が大きい」「平日、本人の会社や福祉施設の終わりが早く、長時間労働ができない」の割合が高くなっています。また、18～39 歳で「介助者自身の健康に不安がある」、40～64 歳で「精神的な負担が大きい」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数（件）	代わりの介助を頼める方がいない	休養や息抜きの時間がない	長期の旅行や外出ができない	仕事に出られない	介助者自身の健康に不安がある	身体的な負担が大きい	精神的な負担が大きい	経済的な負担が大きい	平日、本人の会社や福祉施設の終わりが早く、長時間労働ができない	その他	特にない	無回答
全 体	233	30.5	16.7	23.6	6.4	33.0	25.3	30.5	19.7	3.4	3.9	20.6	5.2
18～39歳	34	32.4	26.5	29.4	14.7	50.0	26.5	35.3	26.5	11.8	2.9	8.8	2.9
40～64歳	71	33.8	16.9	14.1	8.5	23.9	21.1	40.8	19.7	2.8	2.8	25.4	5.6
65歳以上	123	28.5	13.8	28.5	3.3	34.1	28.5	23.6	17.9	1.6	4.9	21.1	4.1

【手帳の種類・診断別】

手帳の種類・診断別にみると、自立支援医療（精神通院医療）を受けているで「休養や息抜きの時間がない」「精神的な負担が大きい」「経済的な負担が大きい」、難病又は小児慢性特定疾病の認定を受けているで「介助者自身の健康に不安がある」、愛の手帳（療育手帳）で「平日、本人の会社や福祉施設の終わりが早く、長時間労働ができない」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数（件）	代わりの介助を頼める方がいない	休養や息抜きの時間がない	長期の旅行や外出ができない	仕事に出られない	介助者自身の健康に不安がある	身体的な負担が大きい	精神的な負担が大きい	経済的な負担が大きい	平日、本人の会社や福祉施設の終わりが早く、長時間労働ができない	その他	特にない	無回答
全 体	233	30.5	16.7	23.6	6.4	33.0	25.3	30.5	19.7	3.4	3.9	20.6	5.2
身体障害者手帳	137	28.5	16.1	29.2	5.8	33.6	28.5	24.8	16.1	2.2	4.4	24.8	3.6
愛の手帳（療育手帳）	39	38.5	23.1	25.6	15.4	38.5	15.4	28.2	10.3	15.4	7.7	28.2	5.1
精神障害者保健福祉手帳	49	36.7	24.5	16.3	6.1	28.6	28.6	46.9	36.7	2.0	2.0	4.1	6.1
発達障害の診断を受けている	8	12.5	0.0	12.5	12.5	50.0	0.0	50.0	37.5	0.0	0.0	0.0	12.5
自立支援医療（精神通院医療）を受けている	44	27.3	31.8	20.5	9.1	36.4	29.5	56.8	40.9	6.8	2.3	6.8	4.5
難病又は小児慢性特定疾病の認定を受けている	27	37.0	18.5	29.6	3.7	51.9	22.2	25.9	14.8	3.7	3.7	18.5	0.0
その他	4	75.0	25.0	0.0	25.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	25.0	25.0	0.0

問 12 普段から、家族・親族の方が介助している方にお聞きします。今後、介助や支援にあたって課題になると考えられることは何ですか。（あてはまるものすべてに○印）

「介助者自身の健康に不安がある」の割合が 36.5%と最も高く、次いで「代わりの介助を頼める方がいない」の割合が 36.1%、「精神的な負担が大きい」の割合が 28.8%となっています。

【年齢別】

年齢別にみると、年齢が下がるほど「代わりの介助を頼める方がいない」「本人の住まいの確保」「本人の権利擁護に関する問題」の割合が高くなっています。また、18～39 歳で「介助者自身の健康に不安がある」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	代わりの介助を頼 める方がいない	休養や息抜きの時 間がない	長期の旅行や外出 ができない	仕事に出られない	介助者自身の健康 に不安がある	身体的な負担が大 きい	精神的な負担が大 きい
全 体	233	36.1	14.2	21.9	6.4	36.5	24.5	28.8
18～39歳	34	41.2	20.6	23.5	8.8	52.9	29.4	35.3
40～64歳	71	36.6	11.3	14.1	5.6	26.8	23.9	38.0
65歳以上	123	34.1	13.8	26.8	6.5	39.0	24.4	22.0

区分	経済的な負担が大 きい	本人の住まいの確 保	本人の権利擁護に 関する問題	本人の会社や福祉 施設の終わった後 の居場所がない	その他	特にな い	無回 答
全 体	24.0	4.7	5.2	4.7	5.6	15.0	9.0
18～39歳	29.4	14.7	20.6	8.8	8.8	2.9	0.0
40～64歳	22.5	8.5	2.8	8.5	2.8	19.7	12.7
65歳以上	23.6	0.0	2.4	1.6	6.5	16.3	7.3

【手帳の種類・診断別】

手帳の種類・診断別にみると、難病又は小児慢性特定疾病の認定を受けているで「代替りの介助を頼める方がいない」「長期の旅行や外出ができない」、自立支援医療（精神通院医療）を受けているで「精神的な負担が大きい」「経済的な負担が大きい」、愛の手帳（療育手帳）で「本人の住まいの確保」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数（件）	代替りの介助を頼める方がいない	休養や息抜きの間がない	長期の旅行や外出ができない	仕事に出られない	介助者自身の健康に不安がある	身体的な負担が大きい	精神的な負担が大きい
全 体	233	36.1	14.2	21.9	6.4	36.5	24.5	28.8
身体障害者手帳	137	34.3	13.1	24.1	4.4	39.4	26.3	21.2
愛の手帳（療育手帳）	39	38.5	17.9	17.9	12.8	41.0	23.1	30.8
精神障害者保健福祉手帳	49	36.7	14.3	26.5	6.1	32.7	20.4	36.7
発達障害の診断を受けている	8	25.0	0.0	12.5	12.5	50.0	12.5	25.0
自立支援医療（精神通院医療）を受けている	44	36.4	22.7	25.0	6.8	38.6	27.3	47.7
難病又は小児慢性特定疾病の認定を受けている	27	51.9	22.2	44.4	7.4	44.4	33.3	29.6
その他	4	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0

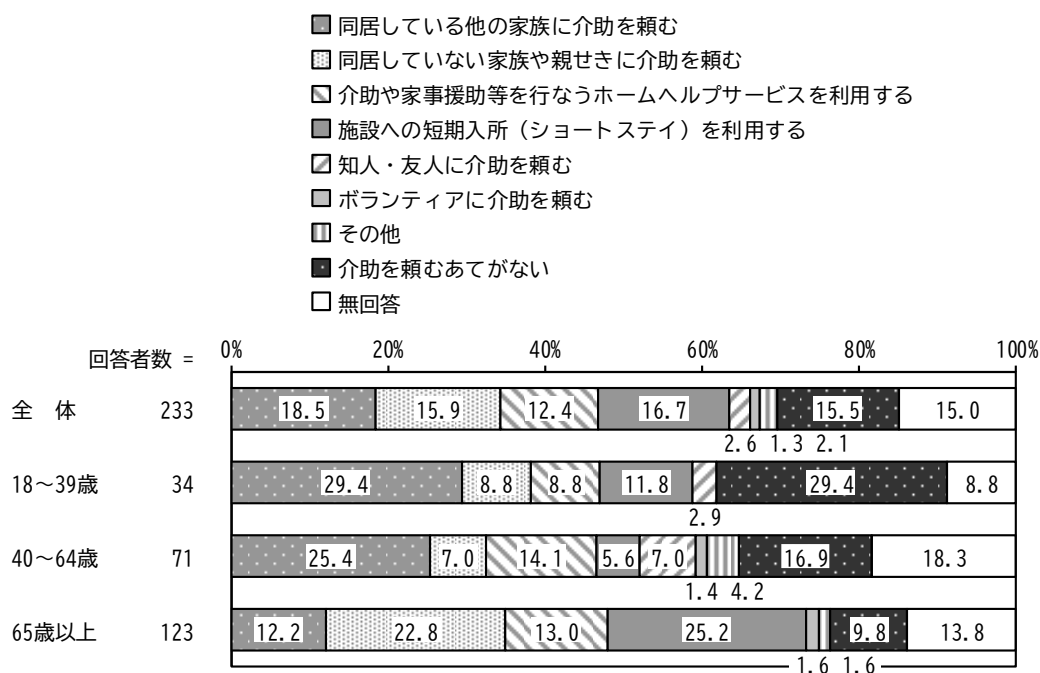
区分	経済的な負担が大きい	本人の住まいの確保	本人の権利擁護に関する問題	本人の会社や福祉施設の終わつた後の居場所がない	その他	特にない	無回答
全 体	24.0	4.7	5.2	4.7	5.6	15.0	9.0
身体障害者手帳	19.7	2.9	3.6	2.2	7.3	19.7	6.6
愛の手帳（療育手帳）	17.9	17.9	12.8	12.8	10.3	12.8	10.3
精神障害者保健福祉手帳	32.7	4.1	10.2	6.1	4.1	4.1	12.2
発達障害の診断を受けている	37.5	0.0	12.5	0.0	25.0	0.0	12.5
自立支援医療（精神通院医療）を受けている	43.2	6.8	9.1	0.0	4.5	4.5	6.8
難病又は小児慢性特定疾病の認定を受けている	29.6	7.4	3.7	3.7	0.0	11.1	7.4
その他	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	25.0

問 13 普段から、家族・親族の方が介助している方にお聞きします。普段介助している方が一時的に介助できなくなったとき、あなたはどのようにしますか。(1つに○印)

「同居している他の家族に介助を頼む」の割合が18.5%と最も高く、次いで「施設への短期入所（ショートステイ）を利用する」の割合が16.7%、「同居していない家族や親せきに介助を頼む」の割合が15.9%となっています。

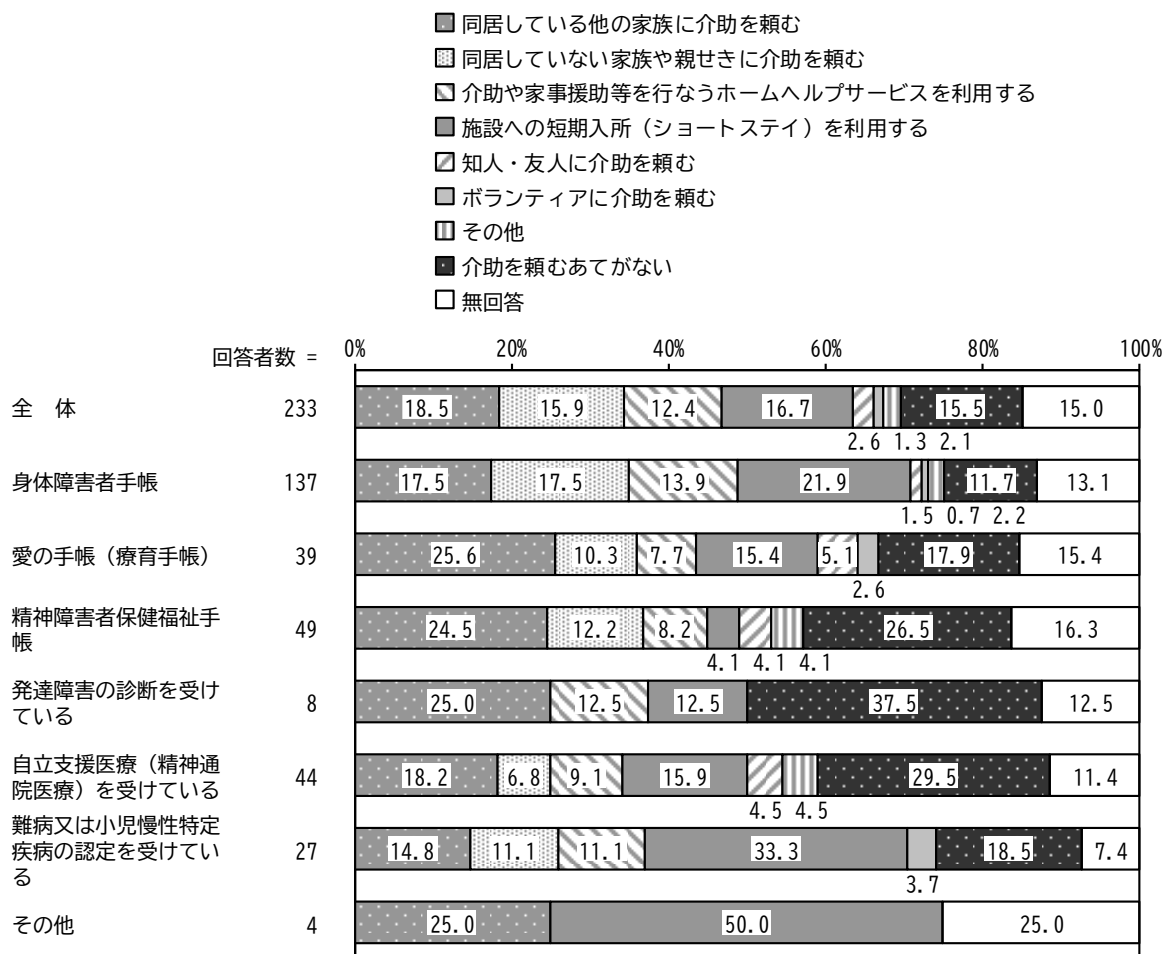
【年齢別】

年齢別にみると、年齢が下がるほど「同居している他の家族に介助を頼む」の割合が高くなっています。また、40～64歳で「施設への短期入所（ショートステイ）を利用する」の割合が低くなっています。



【手帳の種類・診断別】

手帳の種類・診断別にみると、愛の手帳（療育手帳）、精神障害者保健福祉手帳で「同居している他の家族に介助を頼む」、難病又は小児慢性特定疾病の認定を受けているで「施設への短期入所（ショートステイ）を利用する」の割合が高くなっています。



問 14 あなたは、医療的な支援（医療的ケア）を受けていますか。（あてはまるものすべてに○印）

「受けていない」の割合が 63.6%と最も高くなっています。

【年齢別】

年齢別にみると、年齢が下がるほど「受けていない」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	受けていない	経管栄養（留置チューブ・胃ろう・腸ろう）	吸引（口鼻腔内・エアウェイ内・気管内）	酸素管理	エアウェイの管理	導尿	気管切開部の衛生管理
全 体	960	63.6	0.8	1.4	0.9	0.0	0.7	0.3
18～39歳	136	80.1	2.2	1.5	0.7	0.0	0.7	1.5
40～64歳	343	70.6	0.6	0.9	0.9	0.0	0.0	0.3
65歳以上	468	54.3	0.6	1.7	1.1	0.0	1.3	0.0

区分	胃ろう・腸ろう部の衛生管理	ストマ（人工肛門・人工膀胱）の管理	中心静脈栄養	人工透析	定時の薬液吸入	人工呼吸器の作動状況の確認及び緊急時の連絡等	その他	無回答
全 体	0.5	2.2	0.2	6.1	1.0	0.2	8.6	16.6
18～39歳	1.5	0.7	0.7	0.0	1.5	0.7	8.1	9.6
40～64歳	0.3	0.9	0.0	4.4	0.9	0.3	5.5	16.3
65歳以上	0.4	3.6	0.2	9.2	1.1	0.0	10.9	18.4

【手帳の種類・診断別】

手帳の種類・診断別にみると、発達障害の診断を受けているで「受けていない」、身体障害者手帳で「人工透析」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数（件）	受けていない	経管栄養（留置チューブ・胃ろう・腸ろう）	吸引（口鼻腔内・エアウェイ内・気管内）	酸素管理	エアウェイの管理	導尿	気管切開部の衛生管理
全 体	960	63.6	0.8	1.4	0.9	0.0	0.7	0.3
身体障害者手帳	485	55.1	1.4	1.9	1.6	0.0	1.4	0.6
愛の手帳（療育手帳）	96	77.1	4.2	3.1	1.0	0.0	1.0	2.1
精神障害者保健福祉手帳	190	67.4	0.5	1.6	0.5	0.0	0.0	0.0
発達障害の診断を受けている	29	89.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
自立支援医療（精神通院医療）を受けている	229	72.5	0.9	0.9	0.4	0.0	0.0	0.0
難病又は小児慢性特定疾病の認定を受けている	138	68.1	1.4	2.2	1.4	0.0	0.0	0.7
その他	15	73.3	0.0	6.7	0.0	0.0	0.0	0.0

区分	胃ろう・腸ろう部の衛生管理	ストマ（人工肛門・人工膀胱）の管理	中心静脈栄養	人工透析	定時の薬液吸入	人工呼吸器の作動状況の確認及び緊急時の連絡等	その他	無回答
全 体	0.5	2.2	0.2	6.1	1.0	0.2	8.6	16.6
身体障害者手帳	0.6	4.3	0.2	12.0	1.6	0.4	9.5	15.3
愛の手帳（療育手帳）	3.1	2.1	1.0	1.0	3.1	1.0	5.2	11.5
精神障害者保健福祉手帳	0.5	0.0	0.0	0.0	0.5	0.5	10.0	20.5
発達障害の診断を受けている	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.4	6.9
自立支援医療（精神通院医療）を受けている	0.4	0.9	0.4	0.0	0.4	0.0	8.7	16.6
難病又は小児慢性特定疾病の認定を受けている	1.4	0.0	0.0	3.6	2.2	0.0	6.5	16.7
その他	0.0	0.0	6.7	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0

問 14 で何らかの医療的ケアを受けている方にお聞きします。

問 14－1 あなたは、医療的ケアに関して、困っていることや不安に思うことはありますか。（あてはまるものすべてに○印）

「いつ症状が急変するか怖い」の割合が 30.5%と最も高く、次いで「経済的な負担が大きい」の割合が 18.9%、「体調が変化した場合、医療機関を受診すべきか判断に迷う」の割合が 12.6%となっています。

【年齢別】

年齢別にみると、年齢が下がるほど「いつ症状が急変するか怖い」「医療者の対応に不安がある」「経済的な負担が大きい」「時間的制約により働きたくても働くことができない」の割合が高くなっています。

単位：％単位：％

区分	回答者数（件）	いつ症状が急変するか怖い	体調が変化した場合、医療機関を受診すべきか判断に迷う	日常的なケアや症状への対応が難しい	医療者の対応に不安がある	医療用物品の調達・管理が難しい	主たる介護者が、ケアによる身体的な負担が大きい	主たる介護者が、ケアにより自分の時間を持てない	経済的な負担が大きい	時間的制約により働きたくても働くことができない	医療的ケアが必要な方がいる家族同士のつながりがない	特筆したい内容・その他	無回答
全 体	190	30.5	12.6	10.0	4.2	3.7	12.1	6.8	18.9	5.8	1.1	15.8	32.1
18～39歳	14	35.7	14.3	21.4	14.3	7.1	14.3	14.3	42.9	14.3	0.0	14.3	7.1
40～64歳	45	33.3	11.1	6.7	4.4	0.0	8.9	2.2	22.2	8.9	2.2	17.8	31.1
65歳以上	128	28.9	13.3	10.2	3.1	4.7	12.5	7.0	14.1	3.9	0.8	15.6	35.9

【手帳の種類・診断別】

手帳の種類・診断別にみると、愛の手帳（療育手帳）で「いつ症状が急変するか怖い」「医療者の対応に不安がある」「主たる介護者が、ケアによる身体的な負担が大きい」「主たる介護者が、ケアにより自分の時間を持てない」「時間的制約により働きたくても働くことができない」、精神障害者保健福祉手帳で「日常的なケアや症状への対応が難しい」「経済的な負担が大きい」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数（件）	いつ症状が急変するか怖い	体調が変化した際、医療機関を受診すべきか判断に迷う	日常的なケアや症状への対応が難しい	医療者の対応に不安がある	医療用物品の調達・管理が難しい	主たる介護者が、ケアによる身体的な負担が大きい	主たる介護者が、ケアにより自分の時間を持てない	経済的な負担が大きい	時間的制約により働きたくても働くことができない	医療的ケアが必要な方がいる家族同士つながりがない	特筆したい内容・その他	無回答
全 体	190	30.5	12.6	10.0	4.2	3.7	12.1	6.8	18.9	5.8	1.1	15.8	32.1
身体障害者手帳	144	28.5	12.5	6.9	4.2	4.2	9.7	5.6	15.3	6.3	0.0	13.9	35.4
愛の手帳（療育手帳）	11	54.5	9.1	9.1	18.2	0.0	27.3	18.2	27.3	18.2	0.0	0.0	18.2
精神障害者保健福祉手帳	23	43.5	13.0	30.4	13.0	4.3	17.4	8.7	39.1	8.7	8.7	30.4	17.4
発達障害の診断を受けている	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
自立支援医療（精神通院医療）を受けている	25	36.0	12.0	24.0	12.0	4.0	24.0	12.0	36.0	4.0	4.0	16.0	24.0
難病又は小児慢性特定疾病の認定を受けている	21	42.9	19.0	14.3	4.8	4.8	19.0	9.5	23.8	4.8	0.0	23.8	14.3
その他	1	100.0	0.0	100.0	0.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

日常生活について

問 15 あなたは、平日に会社や福祉施設が終わってからどこで過ごしたいですか。（あてはまるものすべてに○印）

「自宅」の割合が 83.6%と最も高くなっています。

【年齢別】

年齢別にみると、年齢が下がるほど「自宅」「障害者向けのグループホームや短期入所（ショートステイ）」「カフェやレストランなどの飲食店」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数（件）	自宅	家族や友人の家	地域センター	地区センター	家族が帰ってくるまで、会社や福祉施設で過ごしたい	障害者向けのグループホームや短期入所（ショートステイ）	図書館や公民館などの公共施設	カフェやレストランなどの飲食店	趣味や習い事の教室	当事者会やピアサポートの集まり	福祉サービス事業所が主催する余暇活動やイベント	その他	無回答
全 体	960	83.6	4.7	0.9	0.9	0.7	3.4	4.6	9.1	5.2	1.1	2.4	4.4	10.4
18～39歳	136	89.7	9.6	0.0	0.0	1.5	10.3	4.4	14.7	8.1	2.2	7.4	4.4	2.2
40～64歳	343	89.2	5.0	0.3	0.0	0.9	3.5	4.7	12.0	4.7	1.5	1.5	2.9	4.7
65歳以上	468	77.8	3.2	1.7	1.9	0.4	1.5	4.7	5.3	4.9	0.6	1.7	5.6	16.9

【手帳の種類・診断別】

手帳の種類・診断別にみると、愛の手帳（療育手帳）で「障害者向けのグループホームや短期入所（ショートステイ）」「福祉サービス事業所が主催する余暇活動やイベント」、発達障害の診断を受けているで「図書館や公民館などの公共施設」「カフェやレストランなどの飲食店」「趣味や習い事の教室」「当事者会やピアサポートの集まり」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数（件）	自宅	家族や友人の家	地域センター	地区センター	福祉施設で過ごしたい	障害者向けのグループホームや短期入所（ショートステイ）	図書館や公民館などの公共施設	飲食店	趣味や習い事の教室	当事者会やピアサポートの集まり	福祉サービス事業所が主催する余暇活動やイベント	その他	無回答
全 体	960	83.6	4.7	0.9	0.9	0.7	3.4	4.6	9.1	5.2	1.1	2.4	4.4	10.4
身体障害者手帳	485	80.2	3.9	1.4	1.2	0.4	2.9	3.9	5.8	3.9	0.6	2.3	4.7	14.2
愛の手帳（療育手帳）	96	69.8	8.3	1.0	0.0	3.1	21.9	4.2	11.5	6.3	1.0	15.6	5.2	7.3
精神障害者保健福祉手帳	190	89.5	5.8	0.5	0.5	0.5	3.2	5.8	16.8	5.8	3.2	1.6	6.3	5.3
発達障害の診断を受けている	29	89.7	6.9	0.0	0.0	6.9	6.9	17.2	24.1	20.7	17.2	6.9	6.9	3.4
自立支援医療（精神通院医療）を受けている	229	89.5	4.8	1.3	0.4	0.9	3.1	5.7	14.8	7.4	3.5	0.9	4.4	5.2
難病又は小児慢性特定疾病の認定を受けている	138	89.9	5.8	0.7	1.4	0.0	1.4	5.8	10.1	5.8	0.7	2.2	1.4	8.0
その他	15	86.7	6.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	26.7	6.7	0.0	0.0	6.7	6.7

問16 あなたには、日常生活で困っていることはありますか。(あてはまるものすべてに○印)

「身体・健康のこと」の割合が34.8%と最も高く、次いで「将来の生活のこと」の割合が31.3%、「仕事や収入・生活費のこと」の割合が27.7%となっています。

【年齢別】

年齢別にみると、年齢が下がるほど「治療・訓練のこと」「仕事や収入・生活費のこと」「日常会話・コミュニケーションのこと」「学習活動や趣味の活動など」「友人関係、近所づきあい」「将来の生活のこと」「外出・買い物など」「保健・医療サービスに関すること」「福祉サービスに関すること」「金銭管理・契約などのこと」「結婚、性、恋愛などに関すること」「親や介護者の高齢化のこと」「相談できる方がいない(限られている)」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	治療・訓練のこと	仕事や収入・生活費のこと	日常会話・コミュニケーションのこと	学習活動や趣味の活動など	友人関係、近所づきあい	将来の生活のこと	外出・買い物など	保健・医療サービスに関すること	住宅・生活の場所のこと	福祉サービスに関すること
全 体	960	9.6	27.7	13.5	4.3	7.4	31.3	19.0	6.6	7.3	6.8
18～39歳	136	14.0	48.5	27.2	13.2	17.6	50.7	22.8	10.3	11.0	14.0
40～64歳	343	9.9	39.1	12.8	4.4	9.9	40.8	18.4	7.3	11.4	7.0
65歳以上	468	8.1	13.5	9.8	1.5	2.4	18.6	17.9	4.9	3.2	4.7

区分	進学・学校生活のこと	交通機関の利用に関すること	金銭管理・契約などのこと	身体・健康のこと	結婚、性、恋愛などに関すること	親や介護者の高齢化のこと	相談できる方がいない(限られている)	その他	特にない	無回答
全 体	0.9	10.8	9.6	34.8	4.5	18.4	11.9	3.5	23.1	7.2
18～39歳	5.9	11.8	25.0	32.4	14.7	29.4	18.4	2.2	14.0	2.9
40～64歳	0.3	10.2	12.8	36.4	6.4	22.4	17.5	2.9	19.2	5.2
65歳以上	0.0	11.1	2.6	34.8	0.2	12.2	5.8	4.5	28.6	10.0

【手帳の種類・診断別】

手帳の種類・診断別にみると、精神障害者保健福祉手帳で「仕事や収入・生活費のこと」、発達障害の診断を受けているで「日常会話・コミュニケーションのこと」「学習活動や趣味の活動など」「友人関係、近所づきあい」「将来の生活のこと」「住宅・生活の場所のこと」「金銭管理・契約などのこと」「相談できる方がいない（限られている）」、愛の手帳（療育手帳）で「福祉サービスに関すること」、愛の手帳（療育手帳）、発達障害の診断を受けているで「親や介護者の高齢化のこと」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数（件）	治療・訓練のこと	仕事や収入・生活費のこと	日常会話・コミュニケーションのこと	学習活動や趣味の活動など	友人関係、近所づきあい	将来の生活のこと	外出・買い物など	保健・医療サービスに関すること	住宅・生活の場所のこと	福祉サービスに関すること
全 体	960	9.6	27.7	13.5	4.3	7.4	31.3	19.0	6.6	7.3	6.8
身体障害者手帳	485	9.1	16.5	9.1	1.4	3.7	23.3	17.7	5.4	4.7	6.0
愛の手帳（療育手帳）	96	10.4	25.0	30.2	7.3	11.5	41.7	19.8	14.6	11.5	18.8
精神障害者保健福祉手帳	190	12.6	56.3	21.1	8.9	17.9	51.6	28.4	9.5	17.9	10.0
発達障害の診断を受けている	29	13.8	48.3	44.8	24.1	31.0	69.0	24.1	13.8	24.1	13.8
自立支援医療（精神通院医療）を受けている	229	10.0	49.3	21.4	10.5	14.0	45.4	21.4	9.6	14.0	8.3
難病又は小児慢性特定疾病の認定を受けている	138	10.9	21.7	8.0	1.4	4.3	24.6	16.7	2.9	4.3	2.2
その他	15	26.7	33.3	0.0	0.0	13.3	20.0	20.0	13.3	13.3	6.7

区分	進学・学校生活のこと	交通機関の利用に関すること	金銭管理・契約などのこと	身体・健康のこと	結婚、性、恋愛などに関すること	親や介護者の高齢化のこと	相談できる方がいない（限られている）	その他	特にない	無回答
全 体	0.9	10.8	9.6	34.8	4.5	18.4	11.9	3.5	23.1	7.2
身体障害者手帳	0.2	12.0	4.7	35.3	1.6	15.3	6.6	4.3	26.0	9.7
愛の手帳（療育手帳）	0.0	11.5	30.2	27.1	8.3	38.5	18.8	4.2	17.7	5.2
精神障害者保健福祉手帳	2.6	14.2	23.2	38.9	10.0	28.4	25.3	4.2	7.9	4.7
発達障害の診断を受けている	10.3	17.2	48.3	24.1	10.3	41.4	34.5	0.0	3.4	3.4
自立支援医療（精神通院医療）を受けている	2.2	12.7	20.1	35.4	7.4	25.8	22.7	2.6	13.5	4.8
難病又は小児慢性特定疾病の認定を受けている	0.0	8.7	2.2	37.0	5.8	18.1	6.5	0.0	34.8	2.9
その他	0.0	6.7	20.0	20.0	13.3	13.3	20.0	6.7	20.0	6.7

問 17 あなたは、日常生活で困った時に、誰に（どこに）相談・確認しますか。（あてはまるものすべてに○印）

「家族・親戚」の割合が71.1%と最も高く、次いで「医療関係者」の割合が29.6%、「近隣の方・友人・知人」の割合が13.3%となっています。

【年齢別】

年齢別にみると、年齢が下がるほど「近隣の方・友人・知人」「医療関係者」「福祉施設の職員」「インターネット、SNS」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	家族・親戚	近隣の方・友人・知人	医療関係者	福祉施設の職員	公的機関（市役所、保健所、児童相談所など）	民生委員・児童委員	同じ悩みや障害を持つ子の保護者	相談支援事業所	インターネット、SNS	その他	相談しない	無回答
全 体	960	71.1	13.3	29.6	13.2	13.2	0.5	0.8	5.2	5.6	5.3	5.8	6.0
18～39歳	136	75.0	20.6	35.3	19.9	12.5	0.0	2.2	11.0	11.8	6.6	5.1	2.9
40～64歳	343	68.8	13.7	32.1	12.8	12.0	0.0	1.2	3.5	8.2	6.1	7.3	3.5
65歳以上	468	72.2	11.3	26.7	11.8	14.5	1.1	0.2	4.7	2.1	4.5	4.7	8.1

【手帳の種類・診断別】

手帳の種類・診断別にみると、難病又は小児慢性特定疾病の認定を受けているで「家族・親戚」、自立支援医療（精神通院医療）を受けているで「近隣の方・友人・知人」、発達障害の診断を受けているで「医療関係者」「インターネット、SNS」、愛の手帳（療育手帳）で「福祉施設の職員」「公的機関（市役所、保健所、児童相談所など）」「同じ悩みや障害を持つ子の保護者」、愛の手帳（療育手帳）、発達障害の診断を受けているで「相談支援事業所」の割合が高くなっています。

単位：％

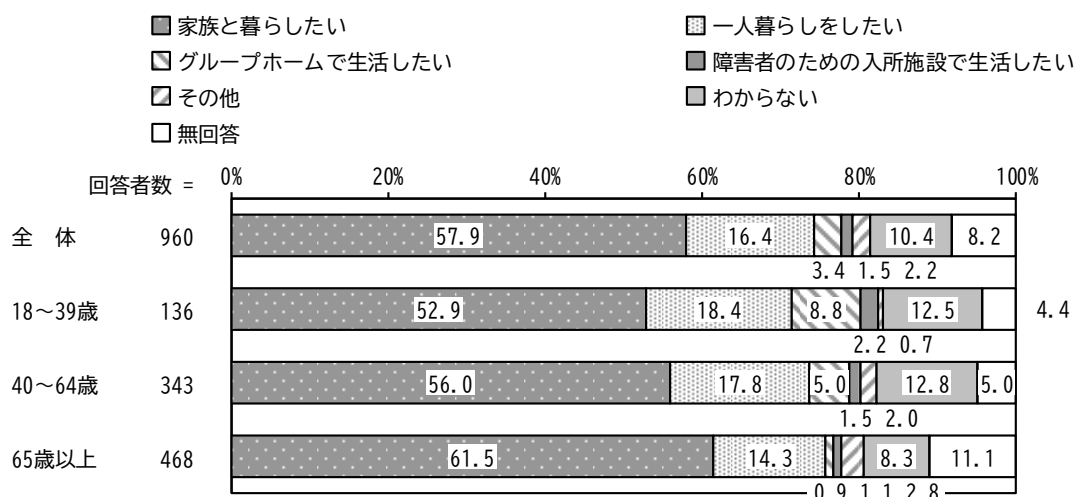
区分	回答者数 (件)	家族・親戚	近隣の方・友人・知人	医療関係者	福祉施設の職員	公的機関（市役所、保健所、児童相談所など）	民生委員・児童委員	同じ悩みや障害を持つ子の保護者	相談支援事業所	インターネット、SNS	その他	相談しない	無回答
全 体	960	71.1	13.3	29.6	13.2	13.2	0.5	0.8	5.2	5.6	5.3	5.8	6.0
身体障害者手帳	485	73.2	12.2	24.7	12.8	13.8	0.8	0.2	5.4	3.5	5.8	6.4	6.0
愛の手帳（療育手帳）	96	66.7	4.2	15.6	40.6	18.8	0.0	6.3	13.5	3.1	4.2	6.3	6.3
精神障害者保健福祉手帳	190	65.8	17.9	44.7	14.2	14.7	0.0	0.5	7.4	13.2	8.9	4.2	4.7
発達障害の診断を受けている	29	72.4	13.8	51.7	24.1	10.3	0.0	0.0	13.8	17.2	10.3	10.3	3.4
自立支援医療（精神通院医療）を受けている	229	68.6	19.2	41.5	13.1	13.1	0.4	1.3	6.1	12.7	5.2	4.4	4.8
難病又は小児慢性特定疾病の認定を受けている	138	79.0	12.3	33.3	6.5	10.1	0.0	0.0	2.2	5.1	2.2	4.3	6.5
その他	15	46.7	6.7	40.0	13.3	26.7	0.0	6.7	0.0	13.3	6.7	13.3	13.3

問18 あなたは今後、どのような生活の場で暮らしたいと思いますか。(○印は1つ)

「家族と暮らしたい」の割合が57.9%と最も高く、次いで「一人暮らしをしたい」の割合が16.4%となっています。

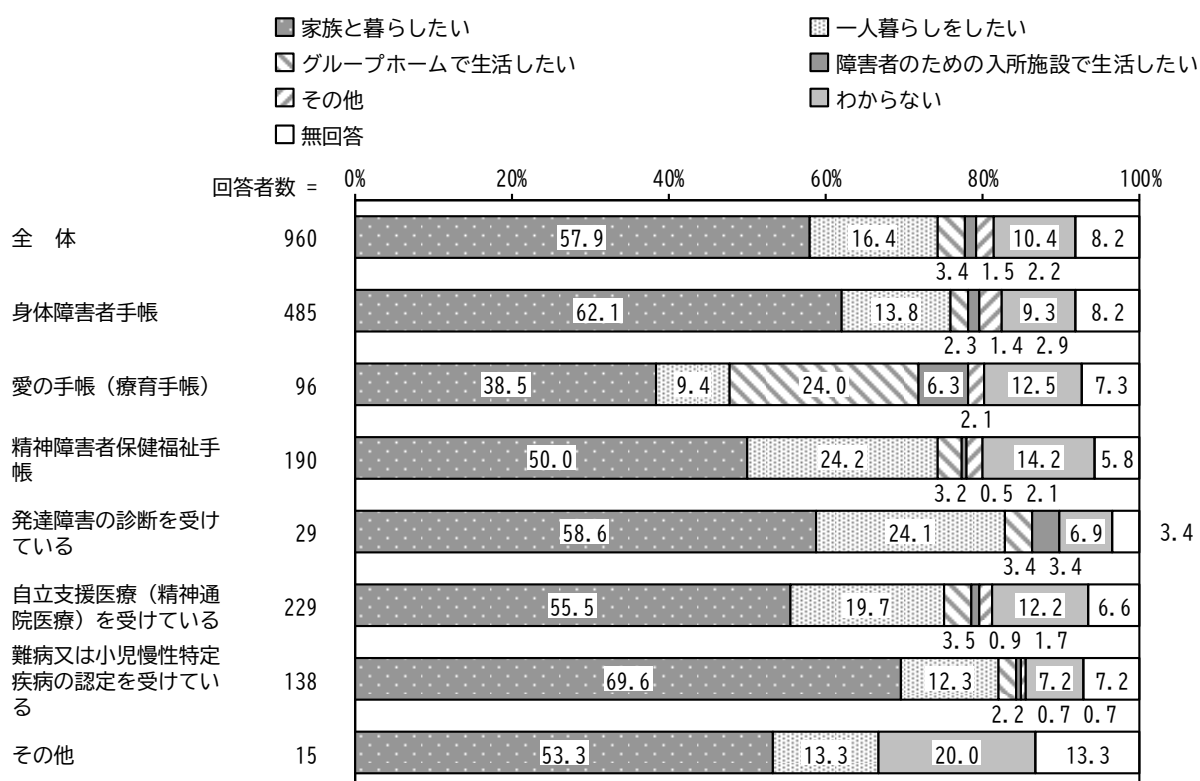
【年齢別】

年齢別にみると、年齢が上がるほど「家族と暮らしたい」の割合が高く、「一人暮らしをしたい」の割合が低くなっています。



【手帳の種類・診断別】

手帳の種類・診断別にみると、難病又は小児慢性特定疾病の認定を受けているで「家族と暮らしたい」、愛の手帳（療育手帳）で「グループホームで生活したい」の割合が高くなっています。

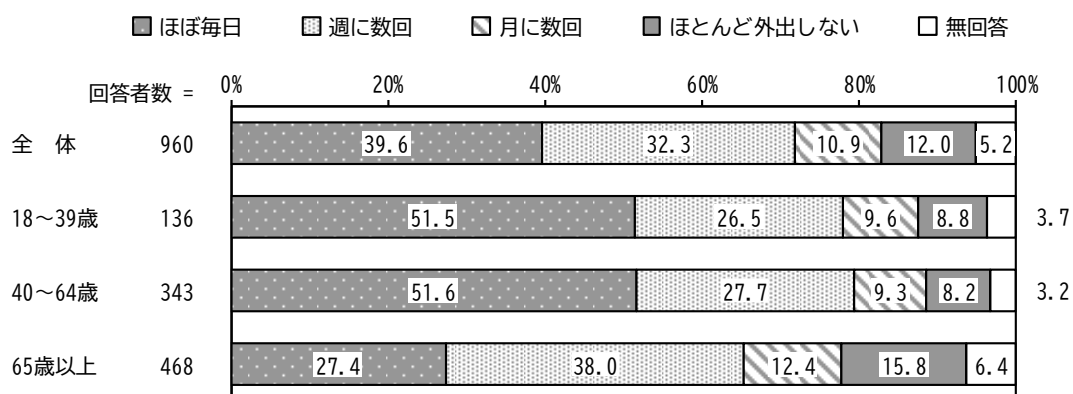


問 19 あなたは、普段どれくらい外出しますか。(○印は1つ)

「ほぼ毎日」の割合が 39.6%と最も高く、次いで「週に数回」の割合が 32.3%、「ほとんど外出しない」の割合が 12.0%となっています。

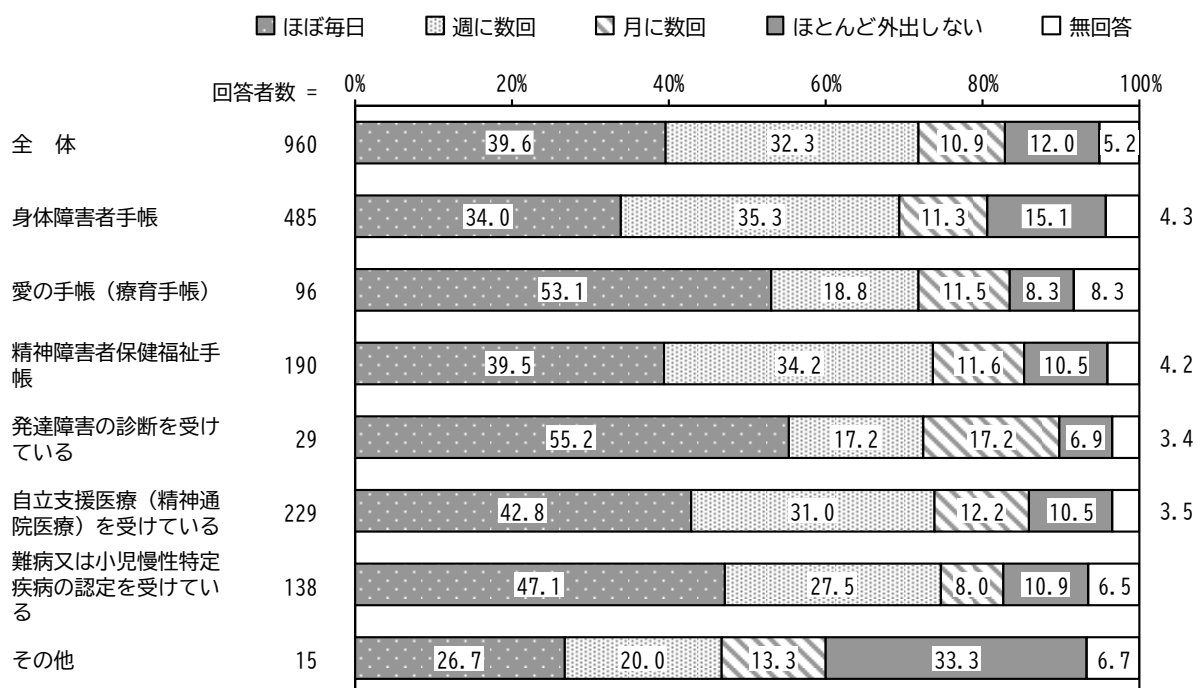
【年齢別】

年齢別にみると、年齢が上がるほど「週に数回」の割合が高くなっています。また、18～39 歳、40～64 歳で「ほぼ毎日」の割合が高くなっています。



【手帳の種類・診断別】

手帳の種類・診断別にみると、愛の手帳（療育手帳）、発達障害の診断を受けているで「ほぼ毎日」の割合が高く、「週に数回」の割合が低くなっています。



問 20 普段外出するときに、困り事や心配事は何ですか。(あてはまるものすべてに○印)

「交通費（運賃など）にお金がかかる」の割合が 16.5%と最も高く、次いで「道路や駅に階段や段差が多い」の割合が 15.9%、「休憩できる場所が少ない」の割合が 15.0%となっています。

【年齢別】

年齢別にみると、年齢が下がるほど「交通費（運賃など）にお金がかかる」「周囲の目が気になる」「発作など突然の体調不良が心配」「困った時にどうすればよいか心配」の割合が高く、「バスや電車などの乗り降りが難しい」「道路や駅に階段や段差が多い」「トイレやエレベーターなどの建物の設備が不便」の割合が低くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	バスや電車などの 公共交通機関が少 ない、またはない	バスや電車などの 乗り降りが難しい	道路や駅に階段や 段差が多い	切符の買い方や乗 換えがわかりにく い	トイレやエレベ ーターなどの建物 の設備が不便	介助者が確保でき ない	交通費（運賃など） にお金がかかる	ヘルパーの利用料 などにお金がかか る
全 体	960	6.6	14.8	15.9	4.6	10.1	4.3	16.5	4.4
18～39歳	136	5.1	8.1	4.4	8.1	5.1	5.1	22.1	6.6
40～64歳	343	7.6	11.4	14.0	3.8	7.9	2.9	20.7	3.5
65歳以上	468	6.0	19.7	20.9	4.3	13.2	5.1	11.8	4.5

区分	周囲の目が気にな る	周囲の方からの配 慮・手助けがない	発作など突然の体 調不良が心配	困った時にどうす ればよいか心配	休憩できる場所が 少ない	その他	特 に ない	無 回 答
全 体	7.1	2.8	12.7	12.1	15.0	6.7	34.1	9.3
18～39歳	15.4	2.9	20.6	16.9	14.7	11.0	35.3	2.9
40～64歳	11.4	3.8	17.2	12.8	15.2	6.1	34.7	7.3
65歳以上	1.5	2.1	7.3	10.3	15.2	6.0	33.3	12.0

【手帳の種類・診断別】

手帳の種類・診断別にみると、身体障害者手帳で「バスや電車などの乗り降りが難しい」、愛の手帳（療育手帳）で「切符の買い方や乗換えがわかりにくい」、精神障害者保健福祉手帳、発達障害の診断を受けているで「交通費（運賃など）にお金がかかる」「周囲の目が気になる」「発作など突然の体調不良が心配」、発達障害の診断を受けているで「休憩できる場所が少ない」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数（件）	バスや電車などの公共交通機関が少ない、またはない	バスや電車などの乗り降りが難しい	道路や駅に階段や段差が多い	切符の買い方や乗換えがわかりにくい	トイレやエレベーターなどの建物の設備が不便	介助者が確保できない	交通費（運賃など）にお金がかかる	ヘルパーの利用料などにお金がかかる
全 体	960	6.6	14.8	15.9	4.6	10.1	4.3	16.5	4.4
身体障害者手帳	485	6.2	20.4	22.9	4.7	15.1	4.7	12.0	5.2
愛の手帳（療育手帳）	96	5.2	12.5	6.3	14.6	5.2	12.5	8.3	13.5
精神障害者保健福祉手帳	190	7.9	8.9	10.0	6.3	4.7	2.1	30.5	3.7
発達障害の診断を受けている	29	3.4	3.4	0.0	3.4	3.4	0.0	27.6	3.4
自立支援医療（精神通院医療）を受けている	229	7.9	7.9	10.5	4.4	4.8	2.2	26.6	3.9
難病又は小児慢性特定疾病の認定を受けている	138	9.4	18.1	15.9	1.4	13.0	4.3	15.2	2.9
その他	15	20.0	0.0	20.0	20.0	6.7	0.0	13.3	13.3

区分	周囲の目が気になる	周囲の方からの配慮・手助けがない	発作など突然の体調不良が心配	困った時にどうすればよいか心配	休憩できる場所が少ない	その他	特にない	無回答
全 体	7.1	2.8	12.7	12.1	15.0	6.7	34.1	9.3
身体障害者手帳	3.3	2.1	8.7	11.1	15.9	8.9	30.7	9.7
愛の手帳（療育手帳）	10.4	2.1	9.4	20.8	9.4	10.4	33.3	12.5
精神障害者保健福祉手帳	17.9	5.8	23.2	20.5	20.5	10.0	24.2	7.4
発達障害の診断を受けている	20.7	3.4	24.1	10.3	31.0	6.9	20.7	6.9
自立支援医療（精神通院医療）を受けている	13.5	3.1	22.3	16.2	17.5	4.8	31.0	7.4
難病又は小児慢性特定疾病の認定を受けている	1.4	6.5	13.8	9.4	15.2	2.2	42.8	9.4
その他	6.7	0.0	0.0	13.3	26.7	6.7	33.3	13.3

問 21 あなたが生活していく上での収入は何ですか。(あてはまるものすべてに○印)

「年金・手当など」の割合が 64.5%と最も高く、次いで「勤め先の給与・賃金」の割合が 26.1%、「家族の収入・親戚などの援助」の割合が 22.5%となっています。

【年齢別】

年齢別にみると、年齢が下がるほど「勤め先の給与・賃金」の割合が高くなっています。また、65 歳以上で「年金・手当など」、18～39 歳で「家族の収入・親戚などの援助」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	勤め先の給与・賃金	通所施設・事業所などの賃金・工賃	事業収入(自営業など)	財産収入(家賃収入など)	年金・手当など	家族の収入・親戚などの援助	生活保護費	その他	無回答
全 体	960	26.1	4.1	2.0	3.0	64.5	22.5	7.7	2.0	4.6
18～39歳	136	55.1	8.8	1.5	0.7	43.4	36.8	2.9	2.9	2.9
40～64歳	343	42.0	7.6	2.0	0.9	44.6	30.9	11.4	2.6	3.5
65歳以上	468	5.8	0.2	2.1	5.3	85.7	12.6	6.6	1.3	5.3

【手帳の種類・診断別】

手帳の種類・診断別にみると、発達障害の診断を受けているで「勤め先の給与・賃金」、愛の手帳（療育手帳）で「通所施設・事業所などの賃金・工賃」、身体障害者手帳で「年金・手当など」、発達障害の診断を受けている、自立支援医療（精神通院医療）を受けているで「家族の収入・親戚などの援助」の割合が高くなっています。

単位：％

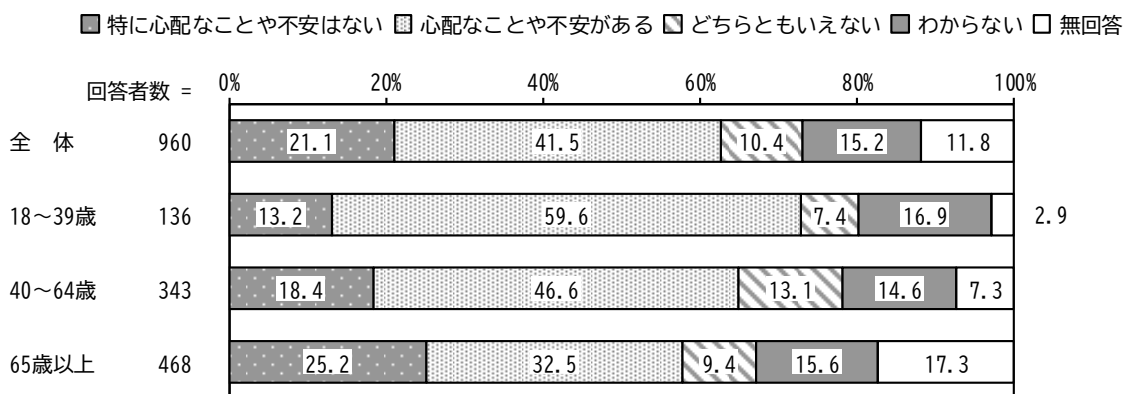
区分	回答者数 (件)	勤め先の給与・賃金	通所施設・事業所などの賃金・工賃	事業収入(自営業など)	財産収入(家賃収入など)	年金・手当など	家族の収入・親戚などの援助	生活保護費	その他	無回答
全 体	960	26.1	4.1	2.0	3.0	64.5	22.5	7.7	2.0	4.6
身体障害者手帳	485	15.1	2.9	1.9	3.7	79.4	14.6	5.4	2.1	3.3
愛の手帳（療育手帳）	96	33.3	19.8	1.0	2.1	65.6	32.3	6.3	1.0	5.2
精神障害者保健福祉手帳	190	32.6	7.9	2.1	1.1	58.9	33.7	15.8	3.2	5.3
発達障害の診断を受けている	29	51.7	0.0	3.4	0.0	44.8	37.9	0.0	3.4	3.4
自立支援医療（精神通院医療）を受けている	229	34.5	4.4	2.6	3.1	46.3	35.8	11.8	2.6	4.4
難病又は小児慢性特定疾病の認定を受けている	138	37.7	0.7	2.2	2.2	53.6	23.9	1.4	0.7	5.8
その他	15	26.7	0.0	0.0	6.7	46.7	13.3	6.7	13.3	13.3

問 22 あなた（ご本人）やご家族、介助してくれる方は、あなた（ご本人）の”親が亡くなった後”や、将来の生活について、心配なことや不安がありますか。（○印は1つ）

「特に心配なことや不安はない」の割合が 21.1%、「心配なことや不安がある」の割合が 41.5%、「どちらともいえない」の割合が 10.4%となっています。

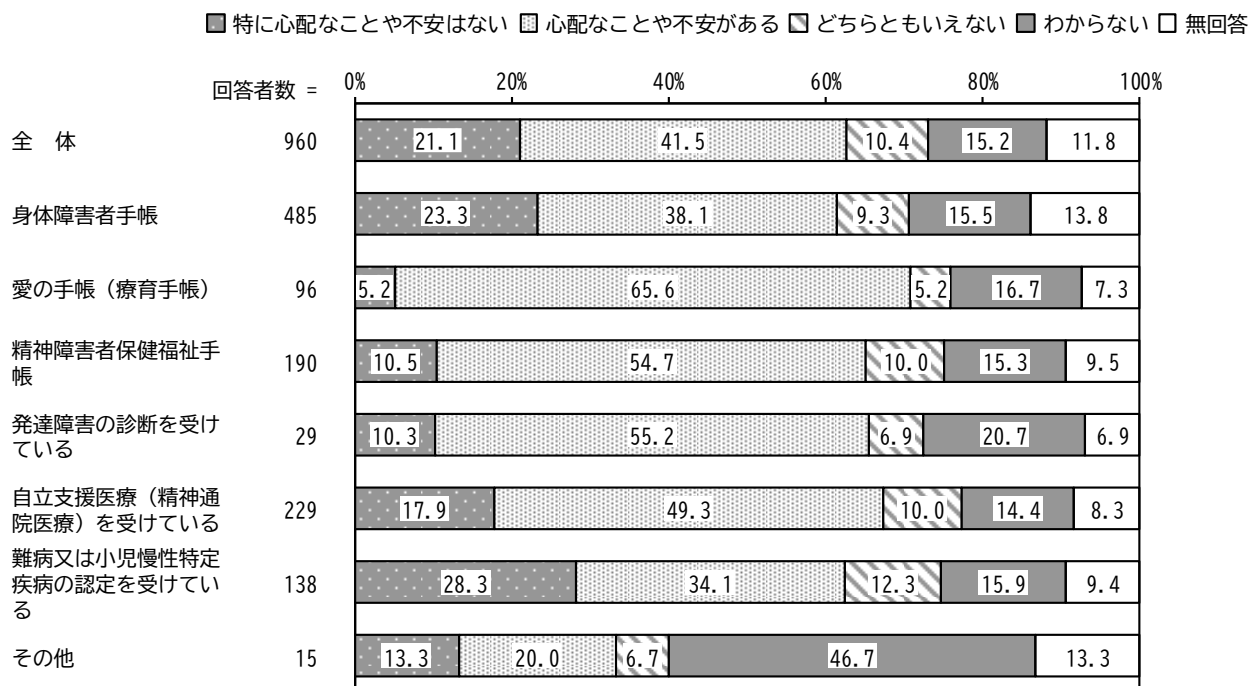
【年齢別】

年齢別にみると、年齢が上がるほど「特に心配なことや不安はない」の割合が高く、「心配なことや不安がある」の割合が低くなっています。



【手帳の種類・診断別】

手帳の種類・診断別にみると、愛の手帳（療育手帳）で「心配なことや不安がある」の割合が高く、「特に心配なことや不安はない」の割合が低くなっています。



問 23 あなた（ご本人）やご家族は、「親が亡くなった後」の生活に関するつぎのことについて、心配や不安を感じていますか。（あてはまるものすべてに○印）

「災害や急病などの緊急時」の割合が 28.9%と最も高く、次いで「生活に必要な収入」の割合が 27.7%、「日常的な介助や家事の援助」の割合が 23.9%となっています。

【年齢別】

年齢別にみると、年齢が下がるほど「住む場所」「日常的な意思決定や支援」「相談できる方や機関」「医療機関の受診」「生活に必要な収入」「お金の管理や支援」「日中を過ごす場」「休みの日の過ごし方」「災害や急病などの緊急時」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	住む場所	日常的な介助や家事の援助	日常的な意思決定や支援	相談できる方や機関	医療機関の受診	生活に必要な収入	お金の管理や支援	日中を過ごす場	休みの日の過ごし方	緊急時	災害や急病などの	その他	無回答
全 体	960	19.4	23.9	15.0	18.8	19.6	27.7	23.4	7.3	6.9	28.9		9.5	27.0
18～39歳	136	41.2	32.4	34.6	36.0	31.6	48.5	50.0	13.2	20.6	33.1		7.4	13.2
40～64歳	343	24.2	19.5	15.7	23.9	18.1	35.9	26.2	10.2	8.2	29.4		10.5	21.9
65歳以上	468	9.2	24.4	8.5	10.0	17.5	16.0	13.9	3.2	2.1	27.8		9.4	34.2

【手帳の種類・診断別】

手帳の種類・診断別にみると、愛の手帳（療育手帳）で「住む場所」「日常的な介助や家事の援助」「日常的な意思決定や支援」「医療機関の受診」「お金の管理や支援」「日中を過ごす場」「休みの日の過ごし方」「災害や急病などの緊急時」、愛の手帳（療育手帳）、精神障害者保健福祉手帳、発達障害の診断を受けているで「相談できる方や機関」、精神障害者保健福祉手帳で「生活に必要な収入」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	住む場所	日常的な 援助	日常的な 介助や家 事の援助	日常的な 意思決定 や支援	相談できる 方や機関	医療機関の 受診	生活に必要な 収入	お金の管理や 支援	日中を過ごす 場	休みの日の過 ごし方	災害や急病な どの緊急時	その他	無回答
全 体	960	19.4	23.9	15.0	18.8	19.6	27.7	23.4	7.3	6.9	28.9	9.5	27.0	
身体障害者手帳	485	12.6	26.4	11.1	12.4	20.8	20.4	16.3	3.7	3.1	30.7	10.3	29.7	
愛の手帳（療育手帳）	96	45.8	42.7	44.8	35.4	41.7	37.5	54.2	28.1	28.1	49.0	6.3	10.4	
精神障害者保健福祉手帳	190	26.3	26.8	24.2	34.2	20.5	45.8	39.5	11.1	11.6	32.6	11.1	16.3	
発達障害の診断を受けている	29	37.9	31.0	37.9	34.5	24.1	41.4	44.8	10.3	10.3	41.4	10.3	13.8	
自立支援医療（精神通院医療）を受けている	229	27.9	21.4	19.7	31.4	22.3	40.2	31.9	9.2	8.7	29.3	8.7	18.3	
難病又は小児慢性特定疾病の認定を受けている	138	16.7	18.8	8.0	15.2	16.7	20.3	20.3	6.5	4.3	25.4	7.2	37.0	
その他	15	26.7	0.0	0.0	13.3	13.3	46.7	33.3	6.7	0.0	33.3	6.7	13.3	

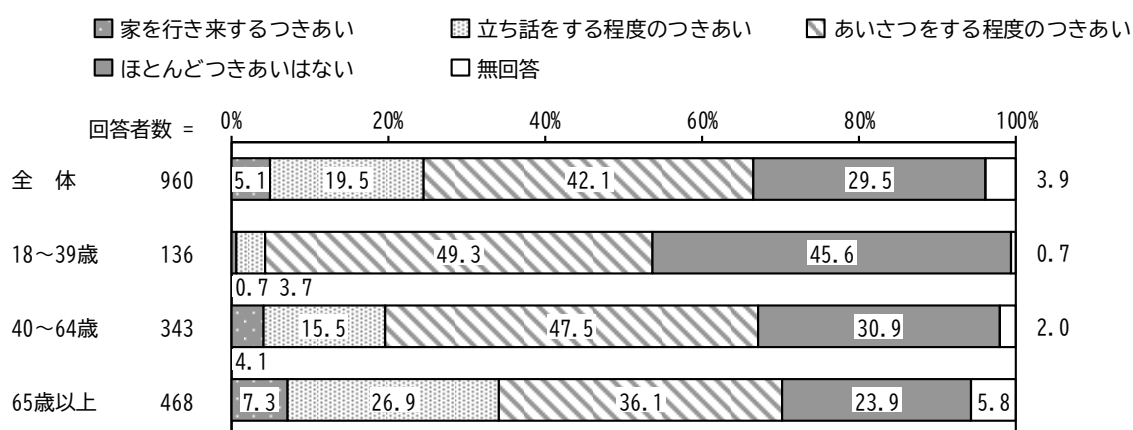
地域での生活について

問 24 あなたは、普段、近所の方とどの程度おつきあいをしていますか。(○印は1つ)

「あいさつをする程度のつきあい」の割合が 42.1%と最も高く、次いで「ほとんどつきあいはない」の割合が 29.5%、「立ち話をする程度のつきあい」の割合が 19.5%となっています。

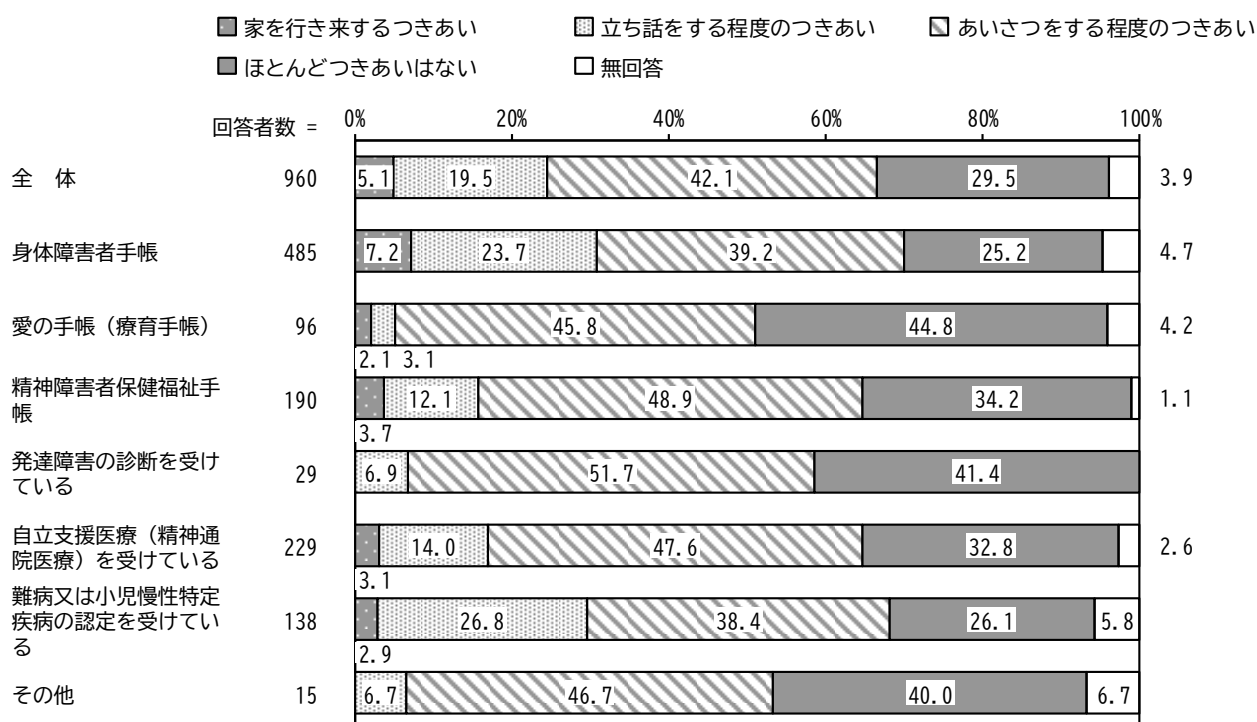
【年齢別】

年齢別にみると、年齢が低くなるほど「あいさつをする程度のつきあい」の割合が高くなっています。また、18～39歳で「ほとんどつきあいはない」の割合が高く、「立ち話をする程度のつきあい」の割合が低くなっています。



【手帳の種類・診断別】

手帳の種類・診断別にみると、愛の手帳（療育手帳）で「ほとんどつきあいはない」の割合が高く、「立ち話をする程度のつきあい」の割合が低くなっています。

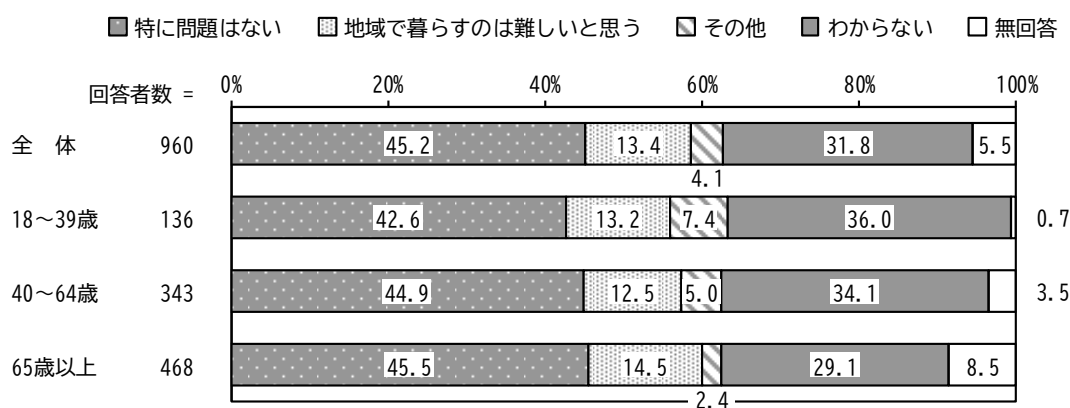


問 25 障害者が入所施設で生活するのではなく、今後、住み慣れた地域で暮らしていくことについてどう思いますか。(○印は1つ)

「特に問題はない」の割合が 45.2%、「地域で暮らすのは難しいと思う」の割合が 13.4%となっています。

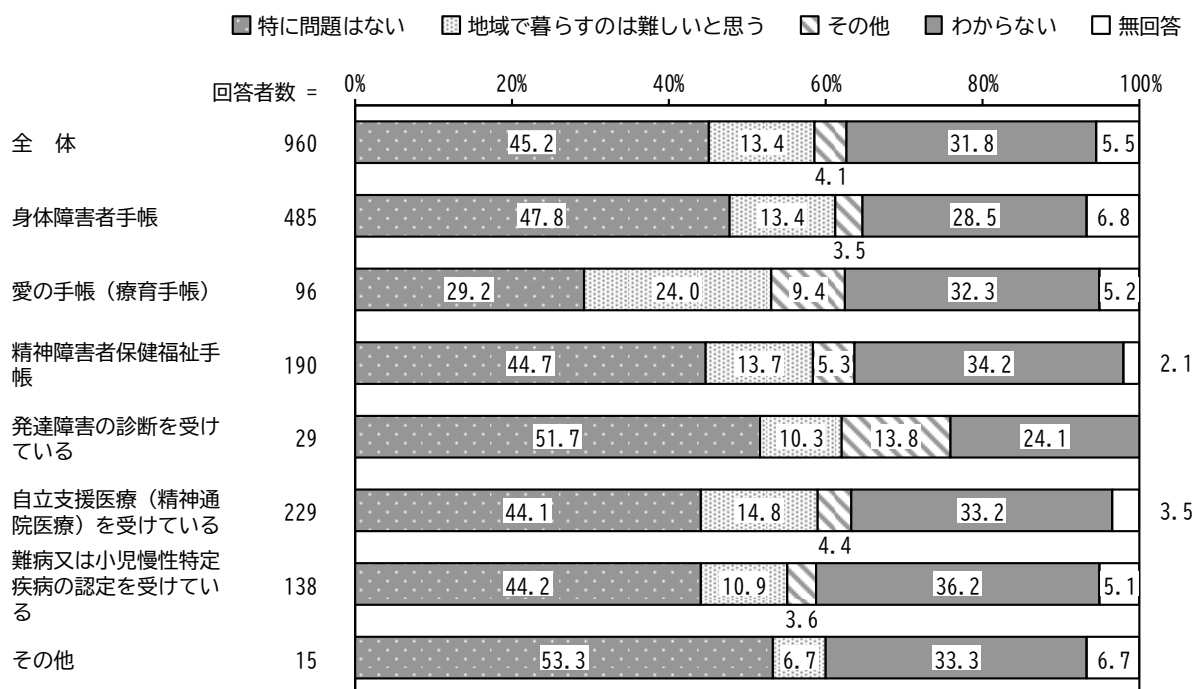
【年齢別】

年齢別にみると、大きな差はみられません。



【手帳の種類・診断別】

手帳の種類・診断別にみると、愛の手帳（療育手帳）で「地域で暮らすのは難しいと思う」の割合が高くなっています。



問 26 あなたは、障害者が地域で生活していくためには何が必要だと思いますか。(特に必要と思われるもの3つまで○印)

「地域生活やサービス利用に関する相談支援」の割合が 38.8%と最も高く、次いで「利用しやすい医療機関」の割合が 27.0%、「訪問系サービスの充実」の割合が 23.4%となっています。

【年齢別】

年齢別にみると、年齢が下がるほど「地域生活やサービス利用に関する相談支援」「日中の活動・訓練場所や作業所の充実」「グループホームの拡充」「一般就労するための支援」「地域の方たちの障害に対する理解」の割合が高く、「交通機関や施設などのバリアフリー化」の割合が低くなっています。また、40～64 歳で「障害者のための住宅の確保」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	地域生活やサービス 利用に関する相談支援	訪問系サービスの充実	日中の活動・訓練場所 や作業所の充実	グループホームの拡充	手話などによるコミュニ ケーションの支援	失語症によりコミュニ ケーションが難しい方 への意思疎通支援	障害者のための住宅の 確保
全 体	960	38.8	23.4	14.8	9.6	1.0	3.0	19.1
18～39歳	136	46.3	26.5	26.5	16.9	1.5	0.7	19.9
40～64歳	343	39.4	22.2	18.1	11.1	1.5	4.1	26.5
65歳以上	468	35.9	23.7	9.0	6.2	0.6	3.0	13.0

区分	利用しやすい医療機関	一般就労するための支 援	交通機関や施設などの バリアフリー化	地域の方たちの障害に 対する理解	その他	特に困っていることは ない	無回答
全 体	27.0	10.7	13.1	18.5	2.6	13.0	9.4
18～39歳	32.4	19.1	7.4	24.3	3.7	8.1	2.9
40～64歳	21.9	15.7	11.7	22.2	2.6	9.6	7.9
65歳以上	29.5	4.3	15.8	13.7	2.1	16.9	12.6

【手帳の種類・診断別】

手帳の種類・診断別にみると、愛の手帳（療育手帳）で「日中の活動・訓練場所や作業所の充実」「グループホームの拡充」、発達障害の診断を受けているで「一般就労するための支援」「地域の方たちの障害に対する理解」の割合が、難病又小児慢性特定疾病の認定を受けているで「訪問系サービスの充実」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数（件）	地域生活やサービス利用に関する相談支援	訪問系サービスの充実	日中の活動・訓練場所や作業所の充実	グループホームの拡充	手話などによるコミュニケーションの支援	失語症によりコミュニケーションが難しい方への意思疎通支援	障害者のための住宅の確保
全 体	960	38.8	23.4	14.8	9.6	1.0	3.0	19.1
身体障害者手帳	485	36.5	24.7	10.1	6.6	0.8	3.9	16.5
愛の手帳（療育手帳）	96	40.6	19.8	26.0	35.4	1.0	1.0	22.9
精神障害者保健福祉手帳	190	38.4	26.3	18.4	6.8	1.6	3.2	28.9
発達障害の診断を受けている	29	34.5	17.2	24.1	3.4	10.3	3.4	20.7
自立支援医療（精神通院医療）を受けている	229	40.6	18.8	18.8	8.3	1.7	1.3	25.3
難病又は小児慢性特定疾病の認定を受けている	138	39.1	30.4	15.2	8.7	0.7	2.2	18.8
その他	15	33.3	26.7	13.3	6.7	0.0	6.7	13.3

区分	利用しやすい医療機関	援 一般就労するための支援	交通機関や施設などのバリアフリー化	地域の方たちの障害に対する理解	その他	特に困っていることはない	無回答
全 体	27.0	10.7	13.1	18.5	2.6	13.0	9.4
身体障害者手帳	29.9	5.8	15.3	14.8	2.3	15.1	9.7
愛の手帳（療育手帳）	26.0	9.4	5.2	16.7	3.1	6.3	13.5
精神障害者保健福祉手帳	21.6	21.1	6.8	24.7	4.7	8.4	7.4
発達障害の診断を受けている	20.7	31.0	10.3	31.0	6.9	6.9	6.9
自立支援医療（精神通院医療）を受けている	26.2	17.5	10.0	27.1	3.1	10.0	7.9
難病又は小児慢性特定疾病の認定を受けている	26.1	8.0	17.4	18.1	2.2	15.9	6.5
その他	13.3	20.0	20.0	6.7	0.0	6.7	20.0

問 27 あなたは、相手とコミュニケーションをする時や必要な情報を利用する時に、特に困るのはどのような場合ですか。(あてはまるものすべてに○印)

「初めて行くところに出かける時」の割合が 34.7%と最も高く、次いで「病院にかかった時」の割合が 20.5%、「買い物をする時」の割合が 14.2%となっています。

【年齢別】

年齢別にみると、年齢が下がるほど「飲食店を利用する時」「初めて行くところに出かける時」「銀行を利用する時」「旅行をする時」「買い物をする時」「スポーツやレクリエーションに参加する時」「住まいを探す時」「仕事をする時」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	飲食店を利用する時	初めて行くところに出かける時	銀行を利用する時	病院にかかった時	旅行をする時	買い物をする時	スポーツやレクリエーションに参加する時	住まいを探す時	仕事をする時	その他	無回答
全 体	960	9.8	34.7	11.5	20.5	12.5	14.2	6.9	9.8	11.6	13.0	30.4
18～39歳	136	12.5	44.1	17.6	25.0	17.6	19.9	13.2	19.1	28.7	14.7	16.2
40～64歳	343	11.1	39.4	11.4	19.0	12.2	13.1	7.3	12.8	17.5	14.6	24.2
65歳以上	468	8.1	28.6	10.0	20.7	11.3	13.0	4.7	4.9	1.9	10.9	39.3

【手帳の種類・診断別】

手帳の種類・診断別にみると、愛の手帳（療育手帳）で「飲食店を利用する時」「銀行を利用する時」「病院にかかった時」「買い物をする時」、愛の手帳（療育手帳）、発達障害の診断を受けているで「初めて行くところに出かける時」、発達障害の診断を受けているで「スポーツやレクリエーションに参加する時」「住まいを探す時」「仕事をする時」の割合が高くなっています。

単位：％

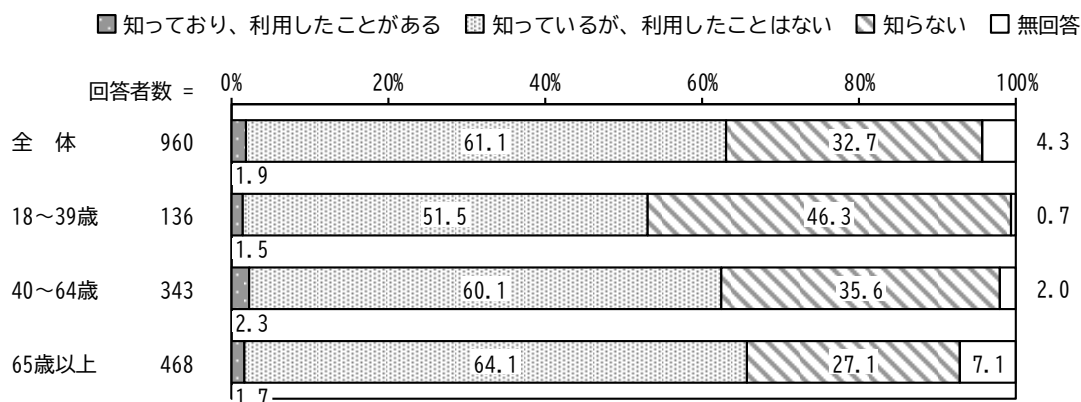
区分	回答者数(件)	飲食店を利用する時	初めて行くところに出かける時	銀行を利用する時	病院にかかった時	旅行をする時	買い物をする時	スポーツやレクリエーションに参加する時	住まいを探す時	仕事をする時	その他	無回答
全 体	960	9.8	34.7	11.5	20.5	12.5	14.2	6.9	9.8	11.6	13.0	30.4
身体障害者手帳	485	10.7	30.7	12.8	21.9	14.2	14.0	5.6	5.6	5.8	12.2	35.9
愛の手帳（療育手帳）	96	26.0	47.9	34.4	44.8	20.8	31.3	15.6	18.8	18.8	18.8	8.3
精神障害者保健福祉手帳	190	10.0	43.7	11.1	21.1	13.7	17.9	10.0	18.4	24.7	14.2	14.7
発達障害の診断を受けている	29	6.9	48.3	13.8	20.7	17.2	6.9	27.6	27.6	44.8	10.3	13.8
自立支援医療（精神通院医療）を受けている	229	7.4	43.7	9.2	15.3	12.2	14.0	9.6	15.3	17.9	14.8	18.3
難病又は小児慢性特定疾病の認定を受けている	138	7.2	29.0	5.8	15.2	8.7	12.3	4.3	6.5	7.2	8.0	43.5
その他	15	13.3	20.0	0.0	33.3	13.3	20.0	0.0	6.7	26.7	0.0	33.3

問 28 あなたは、成年後見制度について知っていますか。また、利用したことはありますか。(○印は1つ)

「知っており、利用したことがある」の割合が 1.9%、「知っているが、利用したことはない」の割合が 61.1%、「知らない」の割合が 32.7%となっています。

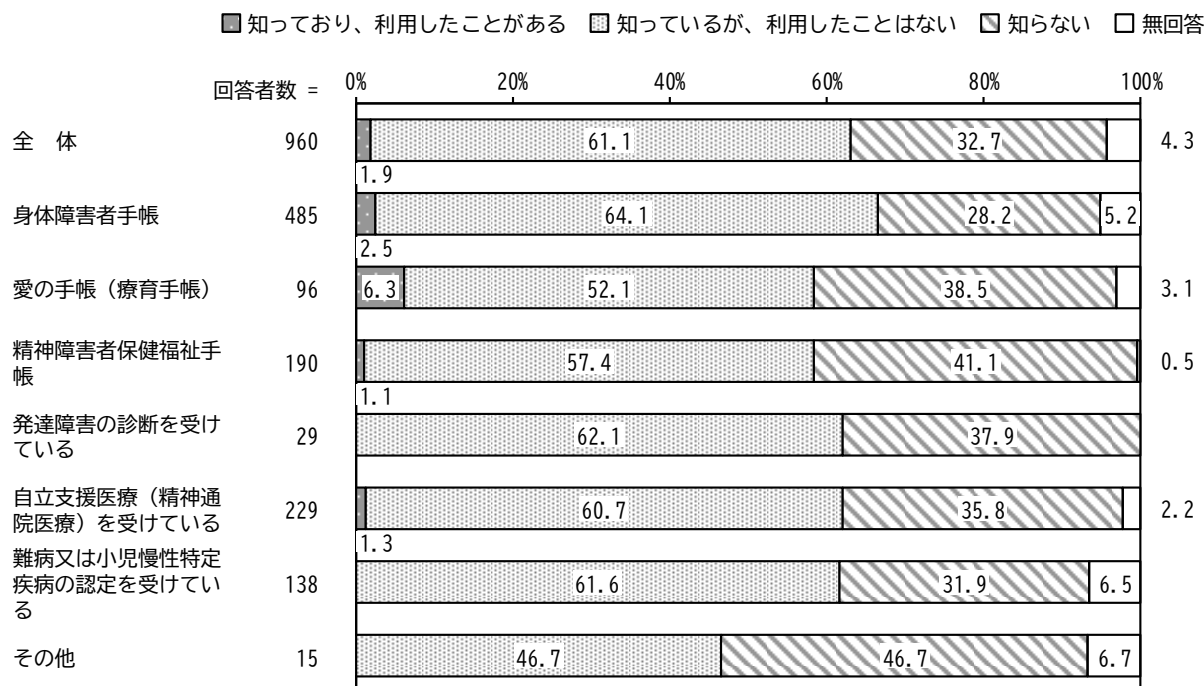
【年齢別】

年齢別にみると、年齢が上がるほど「知っているが、利用したことはない」の割合が高く、「知らない」の割合が低くなっています。



【手帳の種類・診断別】

手帳の種類・診断別にみると、愛の手帳（療育手帳）、精神障害者保健福祉手帳で「知らない」の割合が高く、愛の手帳（療育手帳）で「知っているが、利用したことはない」の割合が低くなっています。

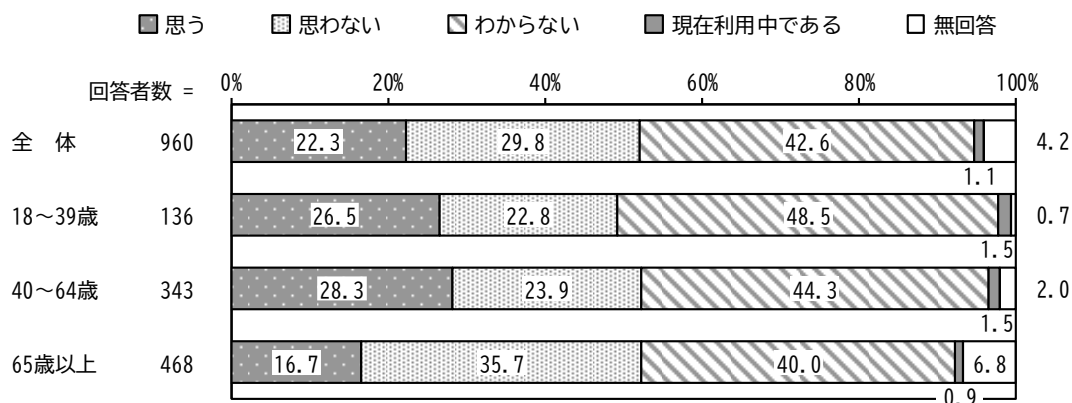


問 29 将来的にあなたご自身がいろいろな契約や手続きをする際にひとりで決めることに不安や心配のある場合、成年後見制度を利用したいと思いますか。(○印は1つ)

「思う」の割合が22.3%、「思わない」の割合が29.8%となっています。

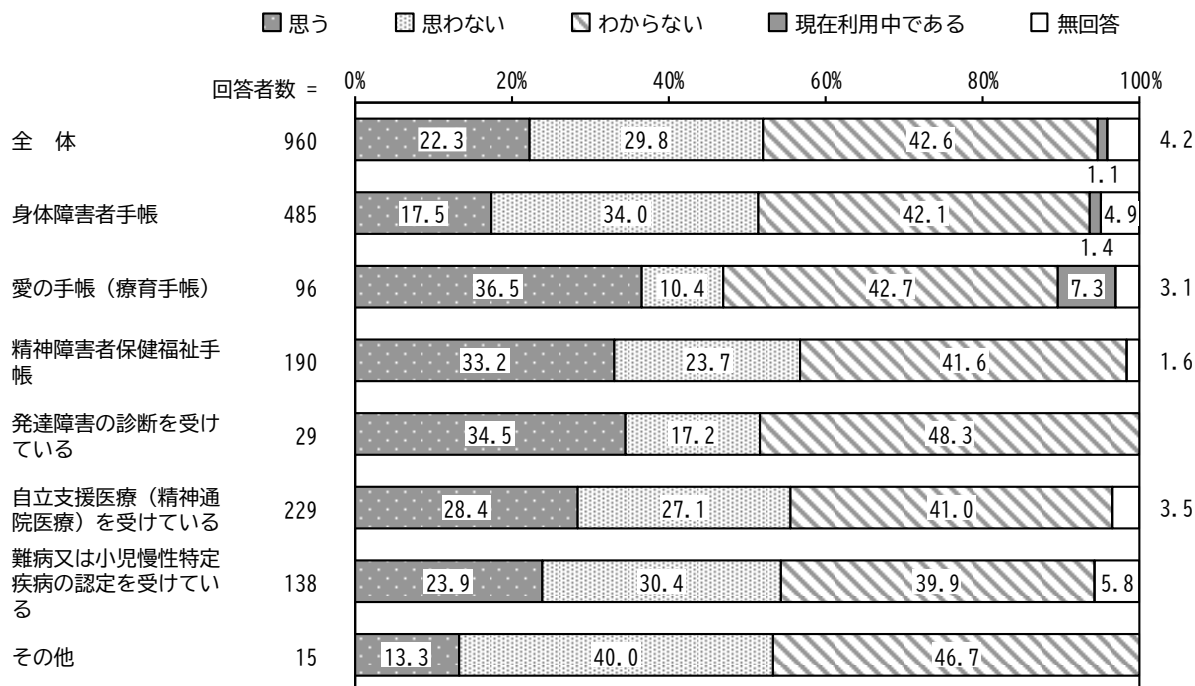
【年齢別】

年齢別にみると、年齢が上がるほど「思わない」の割合が高くなっています。



【手帳の種類・診断別】

手帳の種類・診断別にみると、愛の手帳（療育手帳）、発達障害の診断を受けているで「思う」の割合が高くなっています。

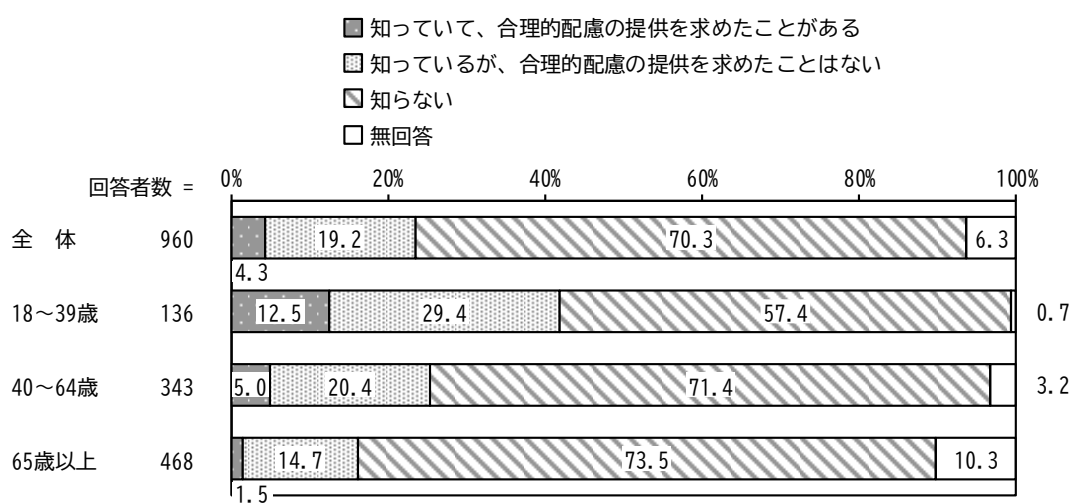


問 30 障害者差別解消法が改正され、令和6年から事業者等による障害のある方への「合理的配慮の提供」が義務化されました。「合理的配慮の提供」とは、障害のある方から社会の中にある障壁を取り除くための何らかの配慮を求める意思表示があったときに、負担が重すぎない範囲で対応することです。あなたは、合理的配慮の提供について知っていますか。(○印は1つ)

「知っていて、合理的配慮の提供を求めたことがある」の割合が 4.3%、「知っているが、合理的配慮の提供を求めたことはない」の割合が 19.2%、「知らない」の割合が 70.3%となっています。

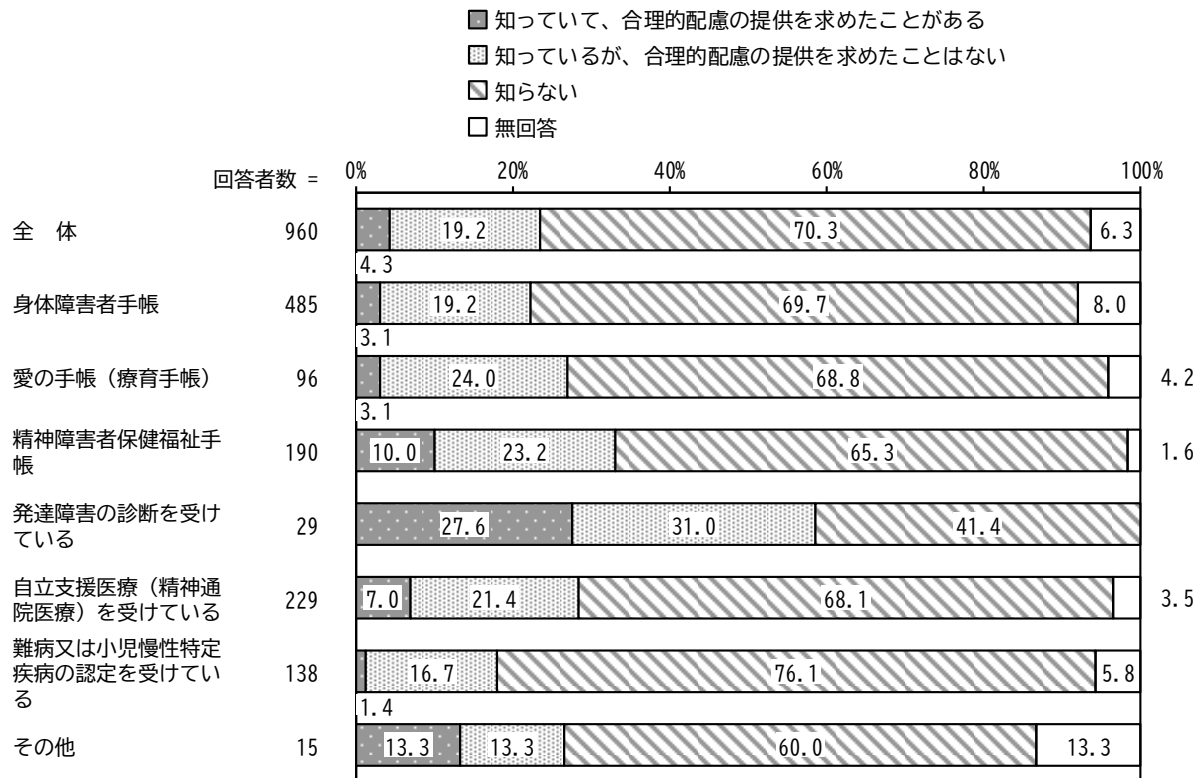
【年齢別】

年齢別にみると、年齢が下がるほど「知っていて、合理的配慮の提供を求めたことがある」「知っているが、合理的配慮の提供を求めたことはない」の割合が高く、「知らない」の割合が低くなっています。



【手帳の種類・診断別】

手帳の種類・診断別にみると、発達障害の診断を受けているで「知っていて、合理的配慮の提供を求めたことがある」「知っているが、合理的配慮の提供を求めたことはない」の割合が高くなっています。



問 31 あなたは、合理的配慮の提供がなされていないと感じた時、どのようなアクションを取りますか。(あてはまるものすべてに○印)

「その場で指摘して対応を求める」の割合が 15.4%、「事後に事業者に問い合わせで改善を求める」の割合が 17.4%、「行政窓口へ相談する」の割合が 32.3%となっています。

【年齢別】

年齢別にみると、年齢が上がるほど「行政窓口へ相談する」の割合が高く、「事後に事業者に問い合わせで改善を求める」の割合が低くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	その場で 指摘して 対応を 求める	事後に 事業者 に問 い合 わ せ て 改 善 を 求 める	行政 窓口 へ 相 談 す る	その他	何もしない	無回答
全 体	960	15.4	17.4	32.3	5.8	29.0	13.2
18～39歳	136	14.7	37.5	24.3	9.6	33.8	3.7
40～64歳	343	15.5	18.7	28.9	7.6	35.0	8.2
65歳以上	468	15.6	11.1	37.0	3.4	22.9	19.9

【手帳の種類・診断別】

手帳の種類・診断別にみると、発達障害の診断を受けているで「事後に事業者に問い合わせで改善を求める」、難病又は小児慢性特定疾病の認定を受けているで「行政窓口へ相談する」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	その場で 指摘して 対応を 求める	事後に 事業者 に問 い合 わ せ て 改 善 を 求 める	行政 窓口 へ 相 談 す る	その他	何もしない	無回答
全 体	960	15.4	17.4	32.3	5.8	29.0	13.2
身体障害者手帳	485	16.9	14.4	34.2	4.9	23.9	17.1
愛の手帳（療育手帳）	96	11.5	26.0	28.1	13.5	29.2	10.4
精神障害者保健福祉手帳	190	13.2	23.7	26.3	8.4	34.2	7.9
発達障害の診断を受けている	29	10.3	31.0	24.1	6.9	37.9	3.4
自立支援医療（精神通院医療）を受けている	229	15.7	21.0	28.8	7.4	36.2	6.6
難病又は小児慢性特定疾病の認定を受けている	138	15.9	16.7	37.7	5.1	27.5	13.0
その他	15	20.0	6.7	40.0	6.7	40.0	13.3

問 32 あなたは、障害への理解を進めていくためにどのようなことに力を入れるべきだと思いますか。（あてはまるものすべてに○印）

「学校や生涯学習での障害に関する教育や情報」、「地域や学校等で障害への理解を学ぶ機会を増やすこと」の割合が 39.7%と最も高く、次いで「障害者の一般就労の促進」の割合が 29.9%となっています。

【年齢別】

年齢別にみると、年齢が下がるほど「障害者作品展やイベントの開催」「障害に関する講演会や疑似体験会の開催」「学校や生涯学習での障害に関する教育や情報」「地域や学校等で障害への理解を学ぶ機会を増やすこと」「障害者の一般就労の促進」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数（件）	障害や障害者に関するパンフレットの発行	障害者作品展やイベントの開催	障害に関する講演会や疑似体験会の開催	学校や生涯学習での障害に関する教育や情報	地域や学校等で障害への理解を学ぶ機会を増やすこと	地域での交流の機会を増やして、地域の方とつながりを持つこと	障害者の一般就労の促進	その他	無回答
全 体	960	18.6	7.8	19.0	39.7	39.7	28.3	29.9	6.4	15.4
18～39歳	136	16.9	16.2	24.3	58.1	49.3	32.4	47.1	5.1	5.9
40～64歳	343	17.8	7.9	22.2	41.7	42.6	27.1	36.2	9.3	11.4
65歳以上	468	19.9	5.6	15.2	32.5	34.4	28.4	20.1	4.5	21.4

【手帳の種類・診断別】

手帳の種類・診断別にみると、愛の手帳（療育手帳）で「障害者作品展やイベントの開催」「地域での交流の機会を増やして、地域の方とつながりを持つこと」、発達障害の診断を受けているで「障害に関する講演会や疑似体験会の開催」「学校や生涯学習での障害に関する教育や情報」「地域や学校等で障害への理解を学ぶ機会を増やすこと」「障害者の一般就労の促進」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数（件）	障害や障害者に関するパンフレットの発行	障害者作品展やイベントの開催	障害に関する講演会や疑似体験会の開催	学校や生涯学習での障害に関する教育や情報	地域や学校等で障害への理解を学ぶ機会を増やすこと	地域での交流の機会を増やして、地域の方とつながりを持つこと	障害者の一般就労の促進	その他	無回答
全 体	960	18.6	7.8	19.0	39.7	39.7	28.3	29.9	6.4	15.4
身体障害者手帳	485	20.8	6.4	19.0	34.8	35.7	27.6	22.5	5.4	18.4
愛の手帳（療育手帳）	96	21.9	18.8	22.9	43.8	56.3	41.7	38.5	4.2	10.4
精神障害者保健福祉手帳	190	19.5	10.5	23.2	37.4	39.5	24.2	42.1	11.6	12.1
発達障害の診断を受けている	29	20.7	13.8	44.8	65.5	65.5	34.5	51.7	10.3	3.4
自立支援医療（精神通院医療）を受けている	229	17.9	10.5	21.4	46.3	47.6	28.8	34.9	10.0	10.5
難病又は小児慢性特定疾病の認定を受けている	138	16.7	3.6	17.4	47.8	43.5	29.7	29.0	3.6	17.4
その他	15	20.0	0.0	0.0	26.7	20.0	26.7	26.7	13.3	13.3

問 33 地域で生活するなかで、あなたが手助けしてほしいと思うことはありますか。(あてはまるものすべてに○印)

「災害や急病などの緊急時」の割合が 34.2%と最も高く、次いで「安否の声かけ」の割合が 18.9%、「掃除・洗たく」の割合が 14.2%となっています。

【年齢別】

年齢別にみると、年齢が下がるほど「趣味などの話し相手」「子育て・介護等の相談相手」「掃除・洗たく」「調理や食事の手伝い」「災害や急病などの緊急時」の割合が高く、「草むしりや植木の手入れ」の割合が低くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	安否の 声かけ	手趣味 などの 話し相	談相手 子育て・ 介護等の 相談相手	物ちよ つとした 買い物	ゴミ出 し	掃除・ 洗たく	草むし りや植 木の手 入れ	い調理 や食事 の手伝	緊急時 災害や 急病な どの	その他	特にな い	無回 答
全 体	960	18.9	11.0	5.4	11.8	11.0	14.2	11.6	11.0	34.2	4.0	35.2	6.7
18～39歳	136	19.1	19.9	14.0	14.0	14.7	18.4	8.8	19.1	39.7	6.6	31.6	2.9
40～64歳	343	19.8	11.7	6.1	10.5	8.7	16.0	9.9	10.8	35.6	5.2	35.9	4.7
65歳以上	468	18.2	7.9	2.6	12.0	11.5	11.5	13.5	9.2	31.8	2.4	35.7	9.2

【手帳の種類・診断別】

手帳の種類・診断別にみると、愛の手帳（療育手帳）で「安否の声かけ」「ちょっとした買い物」「掃除・洗たく」「調理や食事の手伝い」「災害や急病などの緊急時」、愛の手帳（療育手帳）、精神障害者保健福祉手帳で「趣味などの話し相手」、発達障害の診断を受けているで「子育て・介護等の相談相手」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	安否の 声かけ	手趣味 などの 話し相	談相手 子育て・ 介護等の 相談相手	物ちよ つとした 買い物	ゴミ出 し	掃除・ 洗たく	草むし りや植 木の手 入れ	い調理 や食事 の手伝	緊急時 災害や 急病な どの	その他	特にな い	無回 答
全 体	960	18.9	11.0	5.4	11.8	11.0	14.2	11.6	11.0	34.2	4.0	35.2	6.7
身体障害者手帳	485	19.4	8.0	3.5	10.3	11.8	13.8	14.2	9.3	35.9	4.1	34.4	7.6
愛の手帳（療育手帳）	96	27.1	18.8	5.2	17.7	9.4	24.0	7.3	24.0	50.0	6.3	17.7	9.4
精神障害者保健福祉手帳	190	20.0	19.5	10.0	16.3	15.3	20.5	10.0	18.9	38.9	5.8	22.1	6.8
発達障害の診断を受けている	29	6.9	13.8	20.7	6.9	13.8	17.2	10.3	10.3	34.5	6.9	37.9	0.0
自立支援医療（精神通院医療）を受けている	229	18.3	15.7	8.7	13.1	10.9	16.6	7.4	12.7	35.4	5.2	34.1	5.2
難病又は小児慢性特定疾病の認定を受けている	138	17.4	4.3	6.5	13.0	11.6	8.7	12.3	7.2	30.4	2.2	46.4	5.1
その他	15	33.3	6.7	0.0	6.7	0.0	13.3	0.0	6.7	26.7	0.0	40.0	13.3

社会参加について

問 34 これまでに余暇活動、文化芸術・スポーツ活動など、参加したことのあるものはありますか。(あてはまるものすべてに○)

「コンサートや映画、スポーツなどの鑑賞・見学」の割合が 37.3%と最も高く、次いで「旅行」の割合が 32.5%、「学習や趣味の活動」の割合が 18.4%となっています。

【年齢別】

年齢別にみると、年齢が下がるほど「コンサートや映画、スポーツなどの鑑賞・見学」「スポーツ活動」「旅行」「学習や趣味の活動」「ボランティアなどの社会貢献活動」「障害者団体などの活動」「パソコンを使った活動」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	コンサートや映画、ス ポーツなどの鑑賞・見学	ス ポ ー ツ 活 動	旅 行	学 習 や 趣 味 の 活 動	ボ ラ ン テ ィ ア な ど の 社 会 貢 献 活 動	地 域 で の 交 流 、 自 治 会 な ど の 活 動	障 害 者 団 体 な ど の 活 動	パ ソ コ ン を 使 っ た 活 動	そ の 他	特 に な い	無 回 答
全 体	960	37.3	13.9	32.5	18.4	9.2	10.4	6.3	7.5	1.4	40.1	4.6
18～39歳	136	58.8	23.5	58.8	33.8	16.9	14.0	16.2	15.4	0.0	18.4	0.7
40～64歳	343	42.9	14.0	38.8	18.4	9.0	6.1	7.3	9.3	1.2	39.1	3.8
65歳以上	468	26.5	10.7	20.3	14.1	6.6	12.6	2.8	3.6	1.9	47.6	6.2

【手帳の種類・診断別】

手帳の種類・診断別にみると、発達障害の診断を受けているで「コンサートや映画、スポーツなどの鑑賞・見学」「スポーツ活動」「旅行」「学習や趣味の活動」「ボランティアなどの社会貢献活動」「地域での交流、自治会などの活動」、愛の手帳（療育手帳）で「障害者団体などの活動」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	コンサートや映画、ス ポーツなどの鑑賞・見学	ス ポ ー ツ 活 動	旅 行	学 習 や 趣 味 の 活 動	ボ ラ ン テ ィ ア な ど の 社 会 貢 献 活 動	地 域 で の 交 流 、 自 治 会 な ど の 活 動	障 害 者 団 体 な ど の 活 動	パ ソ コ ン を 使 っ た 活 動	そ の 他	特 に な い	無 回 答
全 体	960	37.3	13.9	32.5	18.4	9.2	10.4	6.3	7.5	1.4	40.1	4.6
身体障害者手帳	485	29.7	10.9	26.0	14.4	6.6	11.5	4.5	6.4	1.0	44.9	6.0
愛の手帳（療育手帳）	96	46.9	17.7	50.0	11.5	11.5	14.6	33.3	2.1	1.0	21.9	6.3
精神障害者保健福祉手帳	190	46.3	17.4	37.9	31.6	15.8	9.5	9.5	13.7	2.1	31.1	3.7
発達障害の診断を受けている	29	65.5	41.4	72.4	58.6	31.0	27.6	6.9	17.2	0.0	13.8	0.0
自立支援医療（精神通院医療）を受けている	229	46.3	20.1	37.1	29.3	13.5	12.7	6.1	10.5	1.3	32.3	3.5
難病又は小児慢性特定疾病の認定を受けている	138	37.7	12.3	35.5	13.8	8.0	6.5	0.7	5.8	1.4	44.9	4.3
その他	15	40.0	0.0	33.3	26.7	13.3	0.0	0.0	13.3	0.0	46.7	6.7

問 35 今後参加したい余暇活動、文化芸術・スポーツ活動はありますか。(あてはまるものすべてに○)

「コンサートや映画、スポーツなどの鑑賞・見学」の割合が 33.4%と最も高く、次いで「旅行」の割合が 26.5%、「学習や趣味の活動」の割合が 21.0%となっています。

【年齢別】

年齢別にみると、年齢が下がるほど「コンサートや映画、スポーツなどの鑑賞・見学」「スポーツ活動」「旅行」「学習や趣味の活動」「ボランティアなどの社会貢献活動」「地域での交流、自治会などの活動」「障害者団体などの活動」「パソコンを使った活動」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	コンサートや映画、スポーツなどの鑑賞・見学	スポーツ活動	旅行	学習や趣味の活動	ボランティアなどの社会貢献活動	地域での交流、自治会などの活動	障害者団体などの活動	パソコンを使った活動	その他	特にない	無回答
全 体	960	33.4	10.8	26.5	21.0	7.6	9.1	5.4	9.4	1.8	38.9	6.1
18～39歳	136	48.5	16.2	39.7	35.3	14.0	14.7	10.3	16.9	3.7	22.1	0.0
40～64歳	343	38.8	14.0	34.7	21.0	9.0	8.5	7.3	11.7	2.0	35.9	3.8
65歳以上	468	25.0	6.4	16.5	16.2	4.7	7.7	2.8	5.3	1.1	46.2	9.6

【手帳の種類・診断別】

手帳の種類・診断別にみると、発達障害の診断を受けているで「コンサートや映画、スポーツなどの鑑賞・見学」「スポーツ活動」「学習や趣味の活動」「ボランティアなどの社会貢献活動」「地域での交流、自治会などの活動」「パソコンを使った活動」、愛の手帳（療育手帳）、発達障害の診断を受けているで「旅行」、愛の手帳（療育手帳）で「障害者団体などの活動」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	コンサートや映画、スポーツなどの鑑賞・見学	スポーツ活動	旅行	学習や趣味の活動	ボランティアなどの社会貢献活動	地域での交流、自治会などの活動	障害者団体などの活動	パソコンを使った活動	その他	特にない	無回答
全 体	960	33.4	10.8	26.5	21.0	7.6	9.1	5.4	9.4	1.8	38.9	6.1
身体障害者手帳	485	27.4	7.2	21.4	15.7	4.7	7.6	4.3	6.8	1.6	44.1	8.5
愛の手帳（療育手帳）	96	44.8	15.6	42.7	13.5	9.4	13.5	25.0	11.5	5.2	24.0	4.2
精神障害者保健福祉手帳	190	38.4	13.7	34.2	33.2	13.7	12.6	6.8	13.7	1.6	30.0	4.7
発達障害の診断を受けている	29	51.7	31.0	44.8	48.3	27.6	27.6	17.2	27.6	6.9	17.2	0.0
自立支援医療（精神通院医療）を受けている	229	41.9	17.9	34.5	30.6	13.5	14.0	6.1	13.5	3.1	28.8	3.5
難病又は小児慢性特定疾病の認定を受けている	138	37.0	9.4	25.4	22.5	5.8	8.0	1.4	9.4	0.7	40.6	4.3
その他	15	20.0	13.3	13.3	13.3	0.0	6.7	6.7	6.7	0.0	46.7	13.3

問 36 あなたが余暇活動、文化芸術・スポーツ活動に参加するためには、どのような条件が必要だと思いますか。(○印は3つまで)

「身近なところで活動できる」の割合が 24.0%と最も高く、次いで「友人や仲間がいる」の割合が 20.6%、「経済的な負担が少ない」の割合が 20.0%となっています。

【年齢別】

年齢別にみると、年齢が下がるほど「活動情報の提供がある」「友人や仲間がいる」「経済的な負担が少ない」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	活動情報の提供がある	友人や仲間がいる	身近なところで活動できる	外出手段が確保されている	介助者がいる	適切な指導者やリーダーがいる	障害に配慮した施設や設備がある	経済的な負担が少ない
全 体	960	16.6	20.6	24.0	11.3	10.1	6.1	10.0	20.0
18～39歳	136	23.5	33.8	25.7	11.8	15.4	9.6	9.6	28.7
40～64歳	343	17.8	25.1	24.5	10.8	6.1	5.0	12.0	26.2
65歳以上	468	13.7	13.7	23.3	11.8	11.8	6.0	9.0	12.8

区分	家族や周囲の方の理解	心身の健康状態の維持・向上	いろいろな方との出会う機会がある	障害のある方も一緒にできる	施設の予約が取りやすい	手話などによるコミュニケーションの支援	その他	特にない	無回答
全 体	7.7	15.1	5.0	5.8	2.7	0.4	1.9	22.3	12.3
18～39歳	3.7	16.9	8.8	8.8	5.9	0.0	4.4	10.3	10.3
40～64歳	9.6	14.0	5.0	6.1	2.3	0.9	1.5	21.9	9.0
65歳以上	7.5	15.2	3.6	4.7	2.1	0.2	1.5	26.1	15.0

【手帳の種類・診断別】

手帳の種類・診断別にみると、発達障害の診断を受けているで「友人や仲間がいる」「経済的な負担が少ない」「心身の健康状態の維持・向上」「障害のある方もない方も一緒にできる」、愛の手帳（療育手帳）で「介助者がいる」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	活動情報の提供がある	友人や仲間がいる	身近なところで活動できる	外出手段が確保されている	介助者がいる	適切な指導者やリーダーがいる	障害に配慮した施設や設備がある	経済的な負担が少ない
全 体	960	16.6	20.6	24.0	11.3	10.1	6.1	10.0	20.0
身体障害者手帳	485	14.4	16.9	23.9	12.8	13.0	5.2	12.6	13.0
愛の手帳（療育手帳）	96	13.5	19.8	15.6	12.5	29.2	9.4	16.7	13.5
精神障害者保健福祉手帳	190	18.4	25.8	19.5	10.0	4.7	6.8	8.4	32.1
発達障害の診断を受けている	29	24.1	37.9	10.3	6.9	6.9	10.3	13.8	37.9
自立支援医療（精神通院医療）を受けている	229	21.0	25.3	25.8	7.0	3.9	7.9	7.9	34.1
難病又は小児慢性特定疾病の認定を受けている	138	18.8	21.7	30.4	15.9	12.3	5.1	8.7	24.6
その他	15	6.7	40.0	33.3	6.7	6.7	0.0	0.0	13.3

区分	家族や周囲の方の理解	心身の健康状態の維持・向上	いろいろな方との出会いの場・機会がある	障害のある方もない方も一緒にできる	施設の予約が取りやすい	手話などによるコミュニケーションの支援	その他	特にない	無回答
全 体	7.7	15.1	5.0	5.8	2.7	0.4	1.9	22.3	12.3
身体障害者手帳	7.6	13.6	4.3	5.6	2.9	0.6	1.9	23.9	13.6
愛の手帳（療育手帳）	12.5	7.3	1.0	11.5	4.2	0.0	3.1	15.6	20.8
精神障害者保健福祉手帳	7.4	17.9	6.8	7.9	3.2	0.0	2.1	16.3	12.1
発達障害の診断を受けている	3.4	27.6	13.8	17.2	10.3	0.0	3.4	3.4	6.9
自立支援医療（精神通院医療）を受けている	7.4	20.5	8.3	7.0	4.4	0.0	2.2	15.7	8.7
難病又は小児慢性特定疾病の認定を受けている	7.2	18.8	5.1	3.6	0.7	0.7	0.0	23.2	7.2
その他	13.3	26.7	13.3	6.7	0.0	0.0	6.7	26.7	6.7

障害福祉サービスなどについて

問 37 あなたは普段、次のような障害福祉サービスを利用していますか。また、今後利用したいと思いますか。(それぞれに○印は1つ)

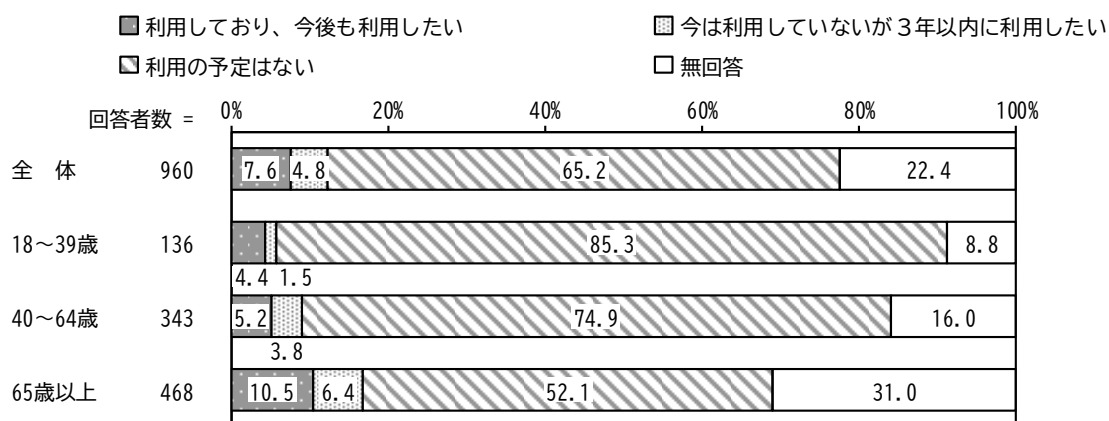
相談系サービスの『①計画相談支援』で「利用しており、今後も利用したい」が、その他の『⑥補装具費（車いす・補聴器等）の給付』で「今は利用していないが3年以内に利用したい」が、その他の『①意思疎通支援事業（主に聴覚障害者への手話通訳の派遣）』で「利用の予定はない」が高くなっています。

訪問系サービス

①居宅介護（ホームヘルプ）

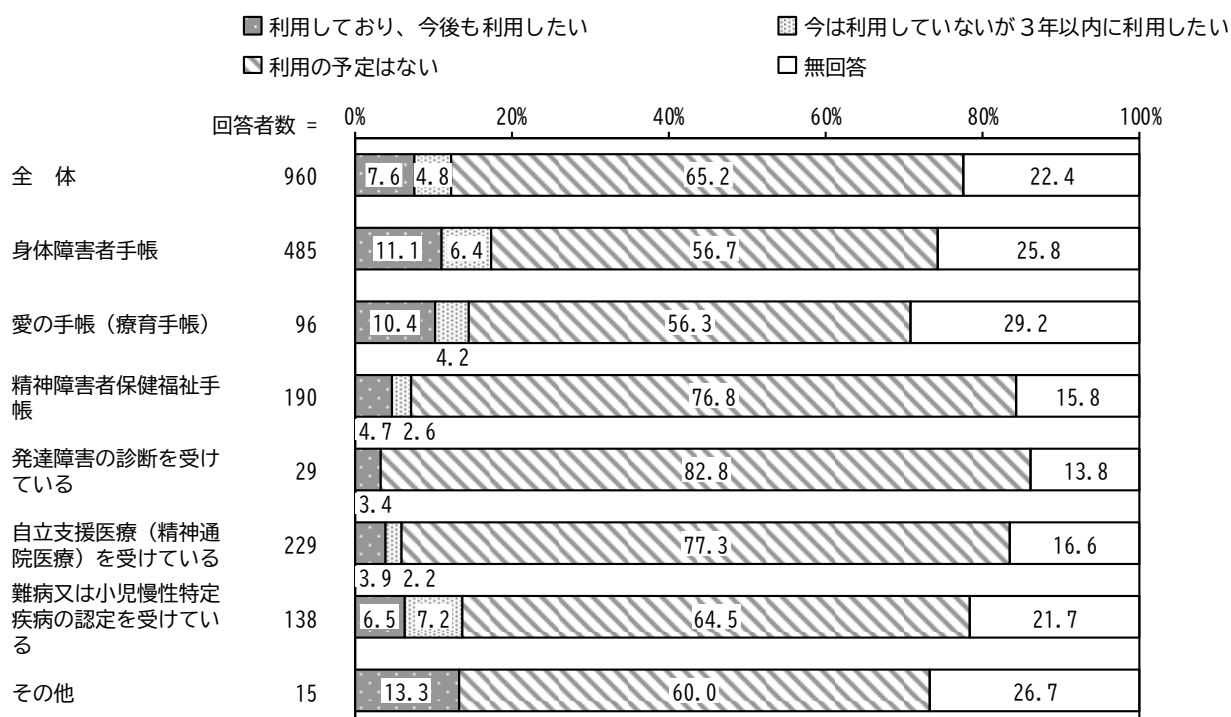
【年齢別】

年齢別にみると、年齢が上がるほど「利用しており、今後も利用したい」の割合が高くなっています。また、18～39歳で「利用の予定はない」の割合が高くなっています。



【手帳の種類・診断別】

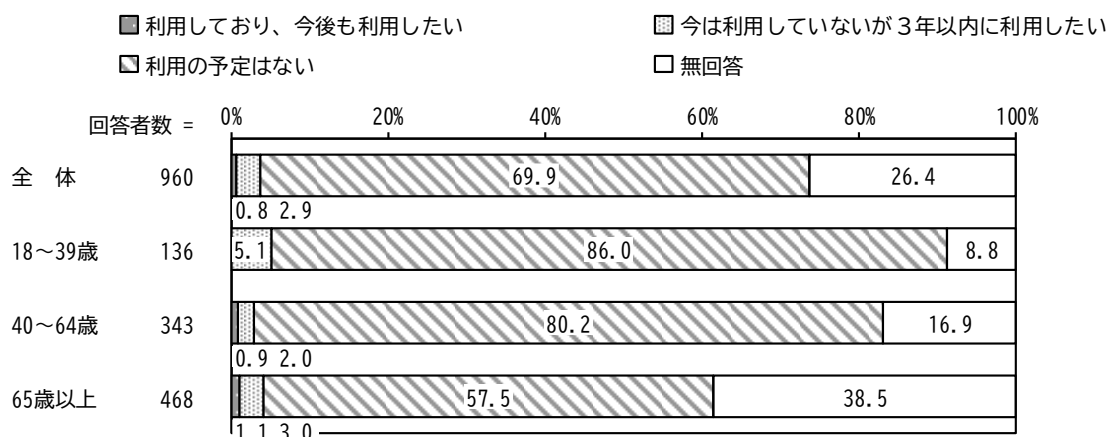
手帳の種類・診断別にみると、発達障害の診断を受けているで「利用の予定はない」の割合が高くなっています。



②重度訪問介護

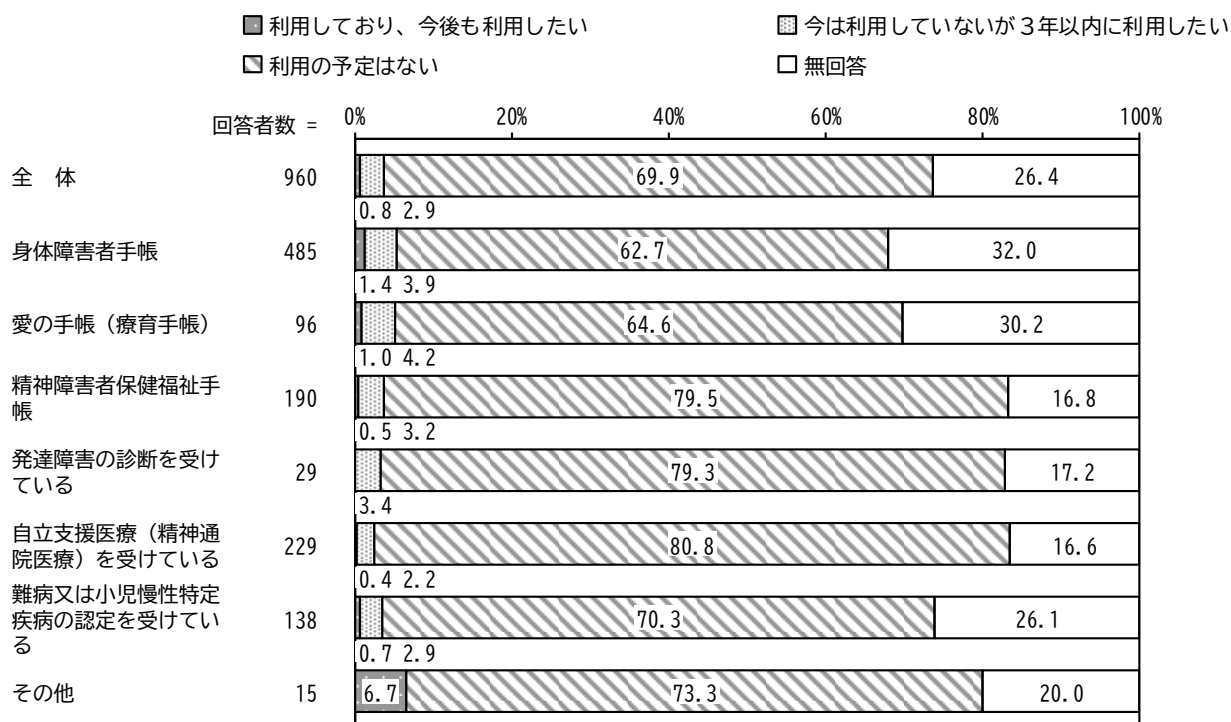
【年齢別】

年齢別にみると、年齢が下がるほど「利用の予定はない」の割合が高くなっています。



【手帳の種類・診断別】

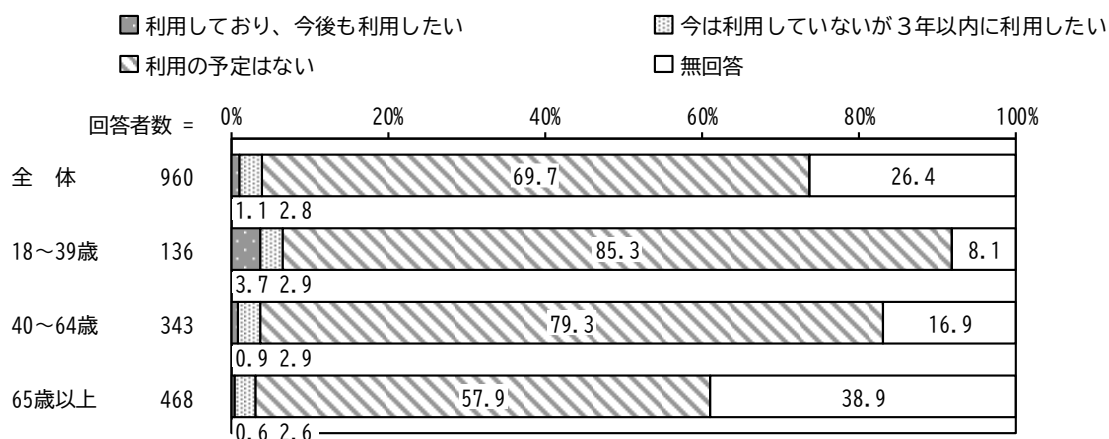
手帳の種類・診断別にみると、精神障害者保健福祉手帳、発達障害の診断を受けている、自立支援医療（精神通院医療）を受けているで「利用の予定はない」の割合が高くなっています。



③同行援護

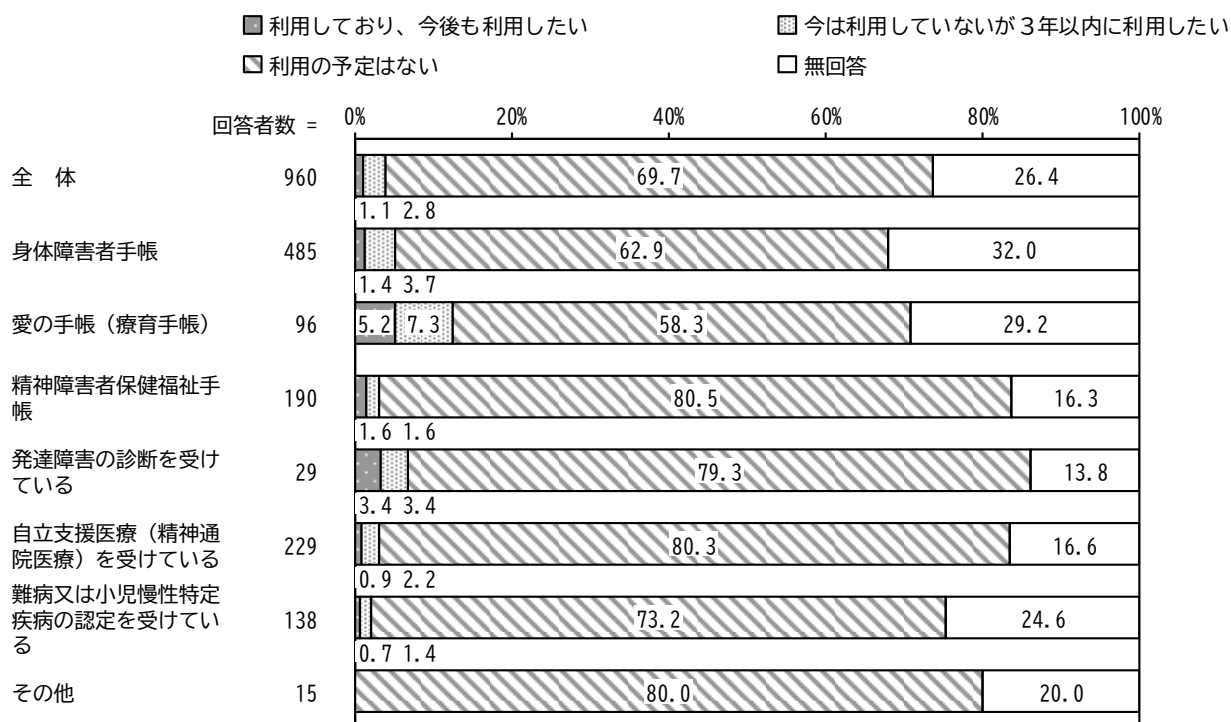
【年齢別】

年齢別にみると、年齢が下がるほど「利用の予定はない」の割合が高くなっています。



【手帳の種類・診断別】

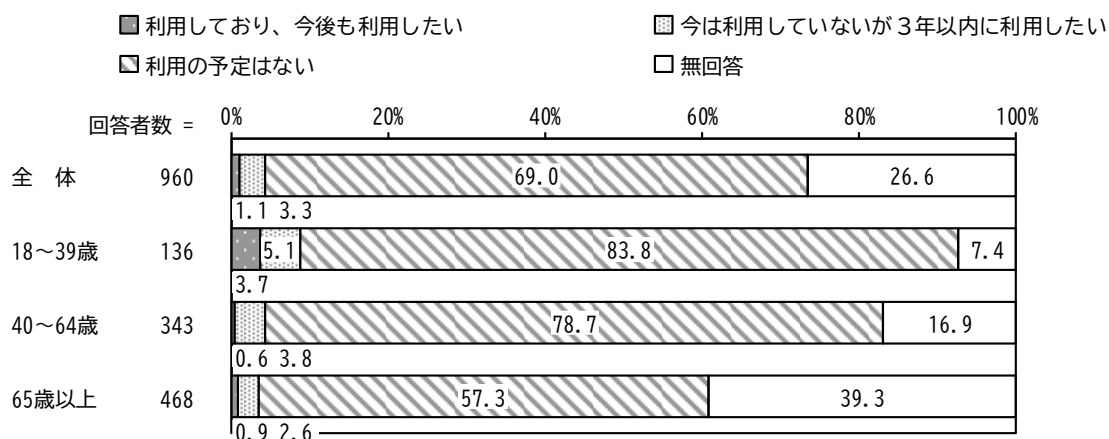
手帳の種類・診断別にみると、精神障害者保健福祉手帳、発達障害の診断を受けている、自立支援医療（精神通院医療）を受けているで「利用の予定はない」の割合が高くなっています。



④行動援護

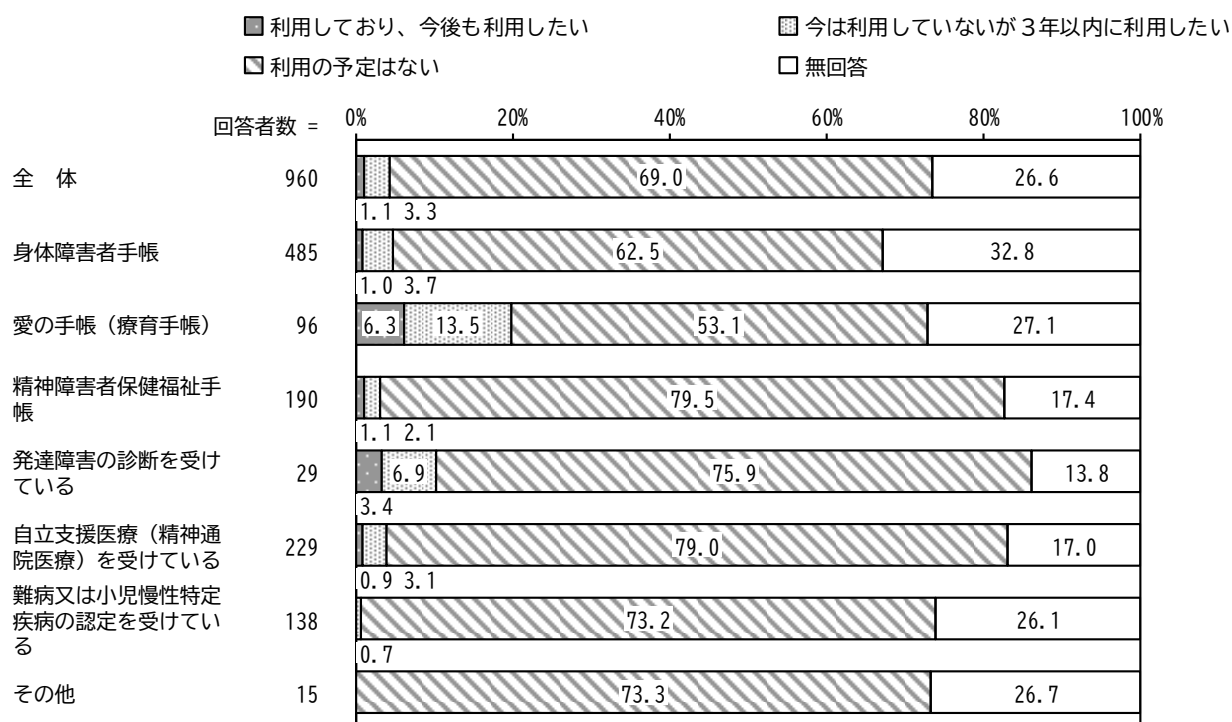
【年齢別】

年齢別にみると、年齢が下がるほど「利用の予定はない」の割合が高くなっています。



【手帳の種類・診断別】

手帳の種類・診断別にみると、愛の手帳（療育手帳）で「今は利用していないが3年以内に利用したい」、精神障害者保健福祉手帳、自立支援医療（精神通院医療）を受けているで「利用の予定はない」の割合が高くなっています。

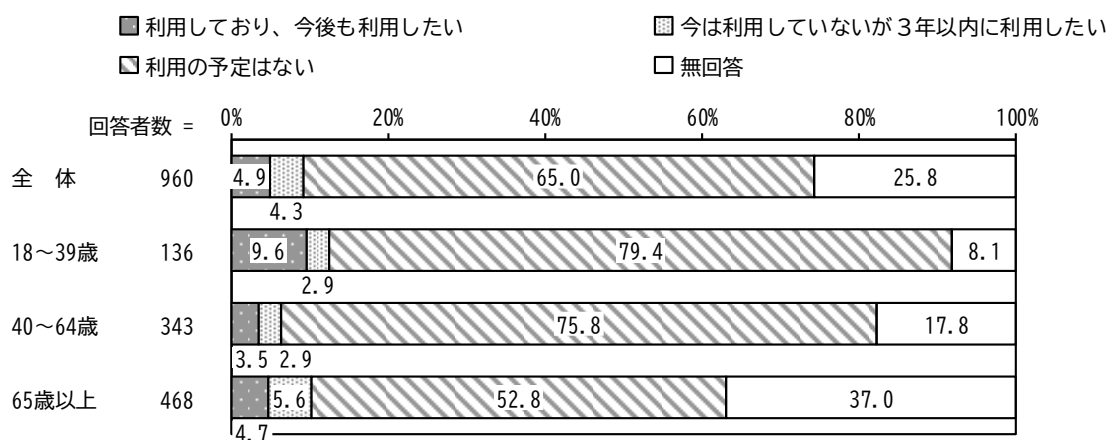


日中活動系サービス

①生活介護

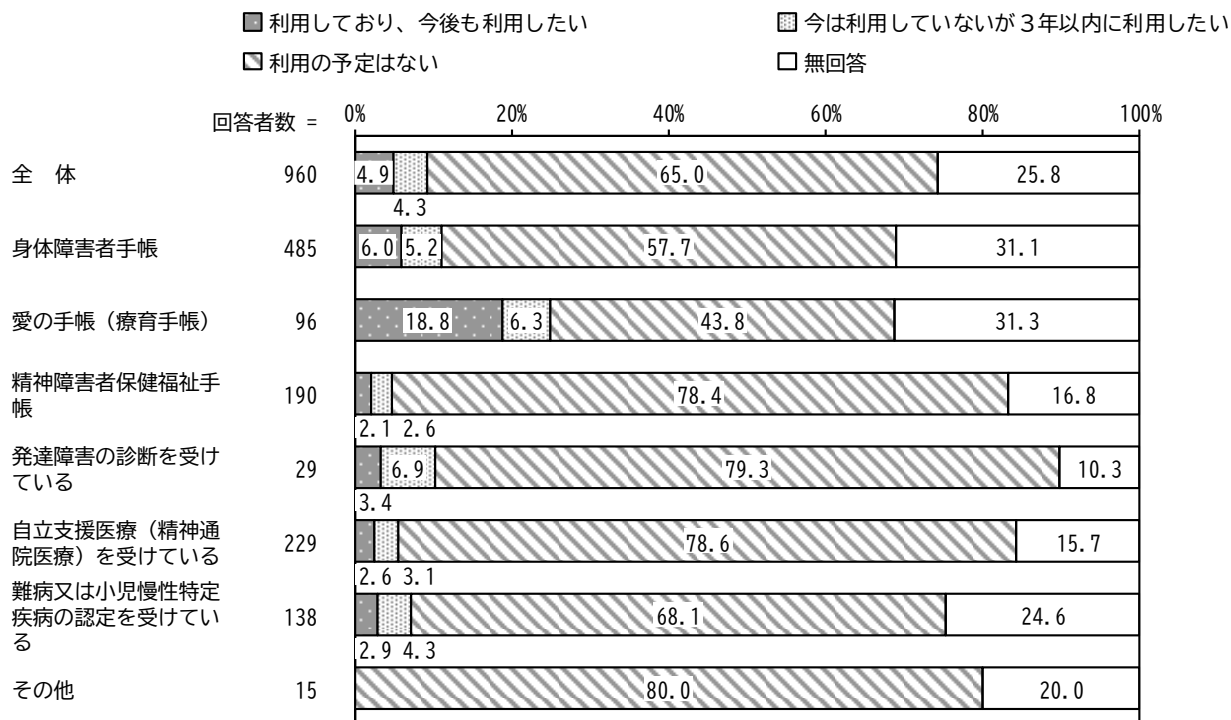
【年齢別】

年齢別にみると、年齢が下がるほど「利用の予定はない」の割合が高くなっています。



【手帳の種類・診断別】

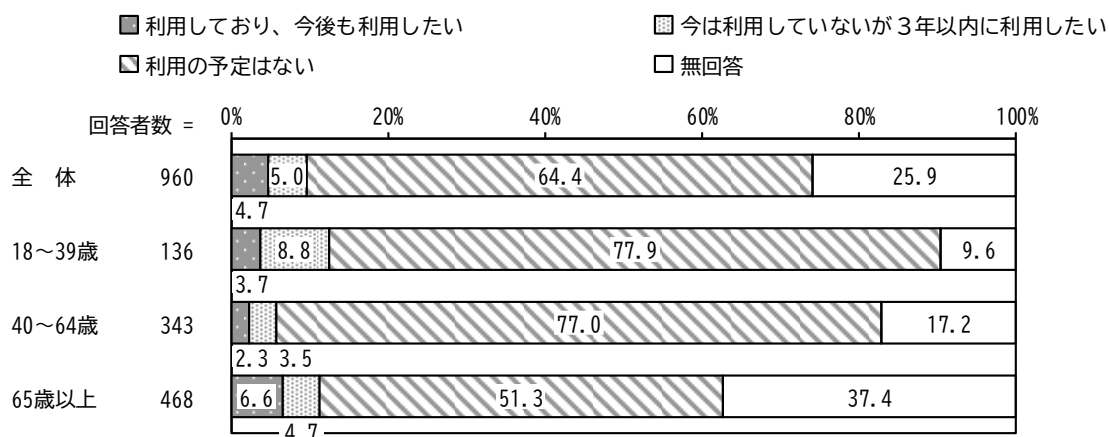
手帳の種類・診断別にみると、愛の手帳（療育手帳）で「利用しており、今後も利用したい」、精神障害者保健福祉手帳、発達障害の診断を受けている、自立支援医療（精神通院医療）を受けているで「利用の予定はない」の割合が高くなっています。



②自立訓練（機能訓練・生活訓練）

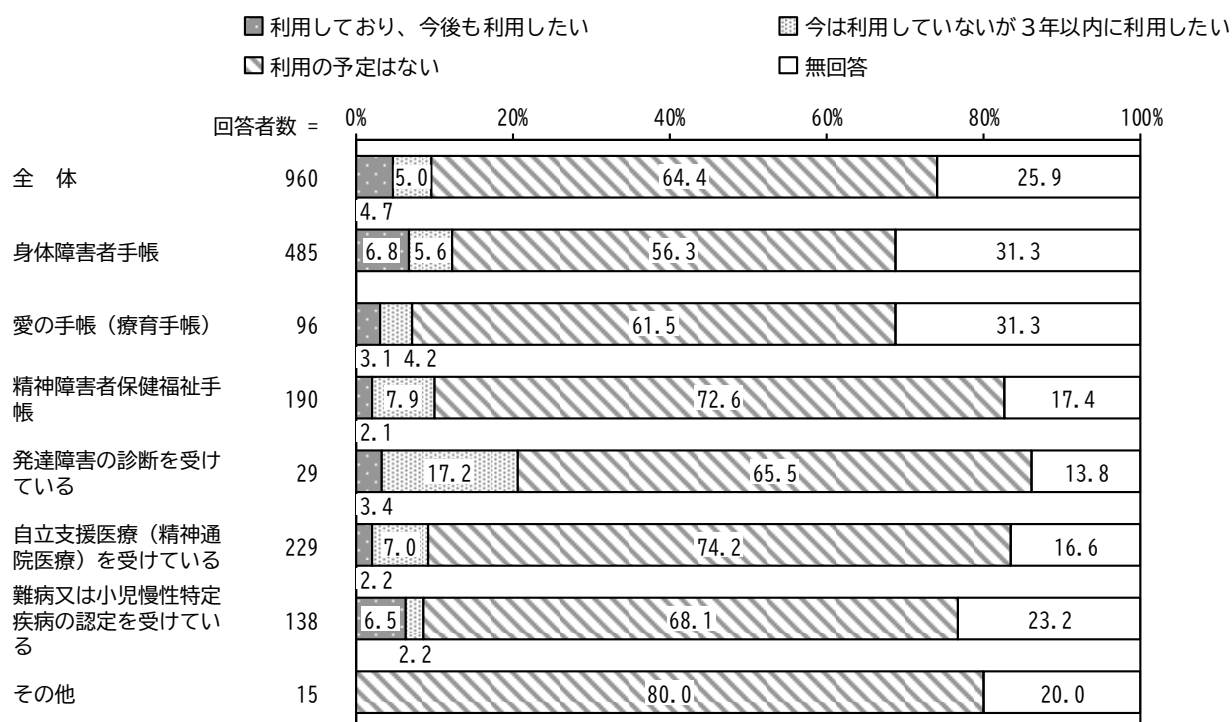
【年齢別】

年齢別にみると、年齢が下がるほど「利用の予定はない」の割合が高くなっています。



【手帳の種類・診断別】

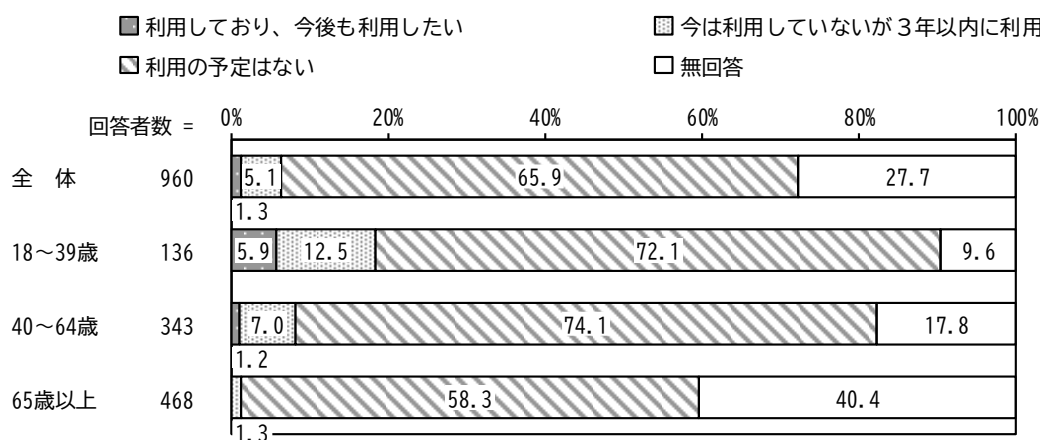
手帳の種類・診断別にみると、発達障害の診断を受けているで「今は利用していないが3年以内に利用したい」、精神障害者保健福祉手帳、自立支援医療（精神通院医療）を受けているで「利用の予定はない」の割合が高くなっています。



③就労移行支援

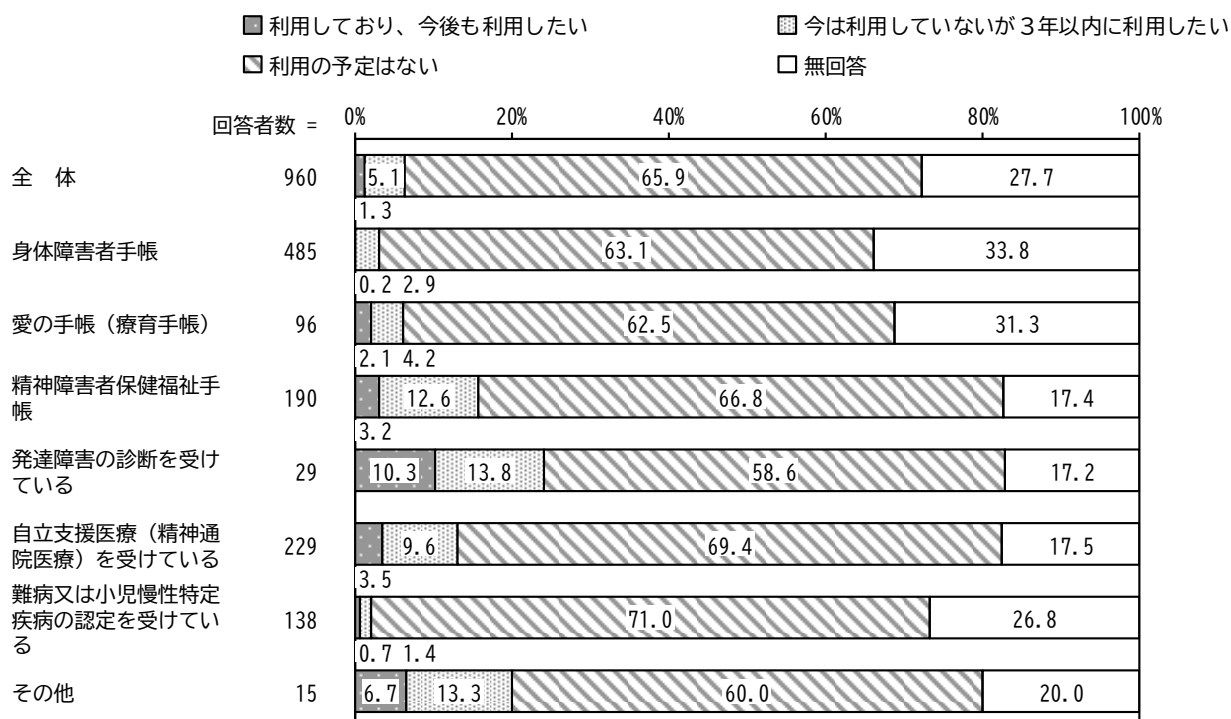
【年齢別】

年齢別にみると、年齢が下がるほど「今は利用していないが3年以内に利用したい」の割合が高くなっています。



【手帳の種類・診断別】

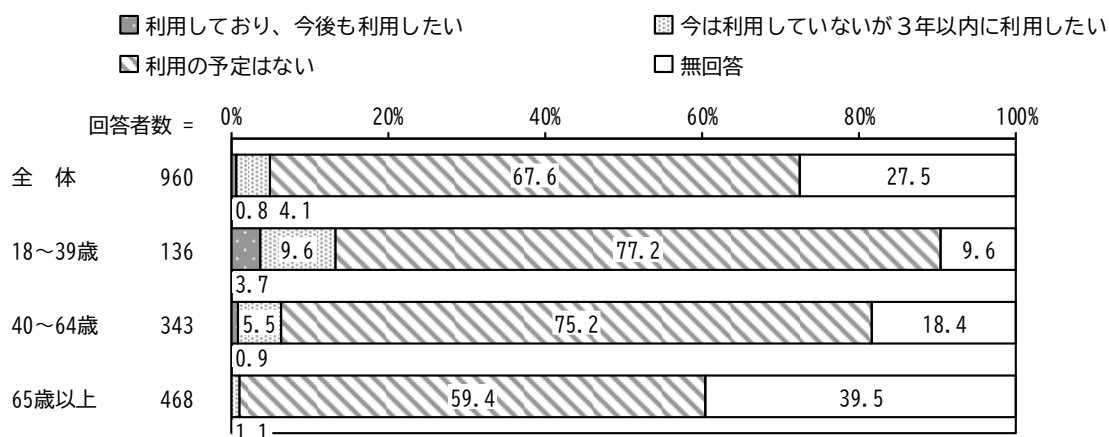
手帳の種類・診断別にみると、発達障害の診断を受けているで「利用しており、今後も利用したい」、精神障害者保健福祉手帳、発達障害の診断を受けているで「今は利用していないが3年以内に利用したい」、難病又は小児慢性特定疾病の認定を受けているで「利用の予定はない」の割合が高くなっています。



④就労継続支援（A型）

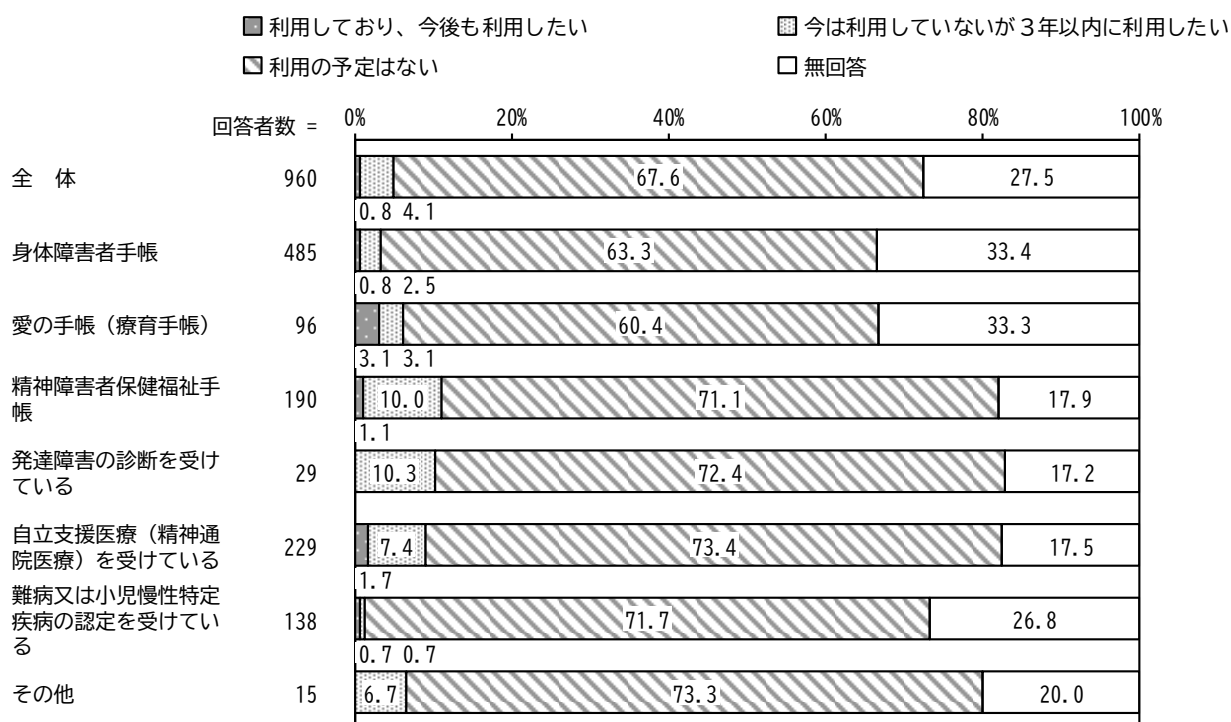
【年齢別】

年齢別にみると、年齢が下がるほど「利用の予定はない」の割合が高くなっています。



【手帳の種類・診断別】

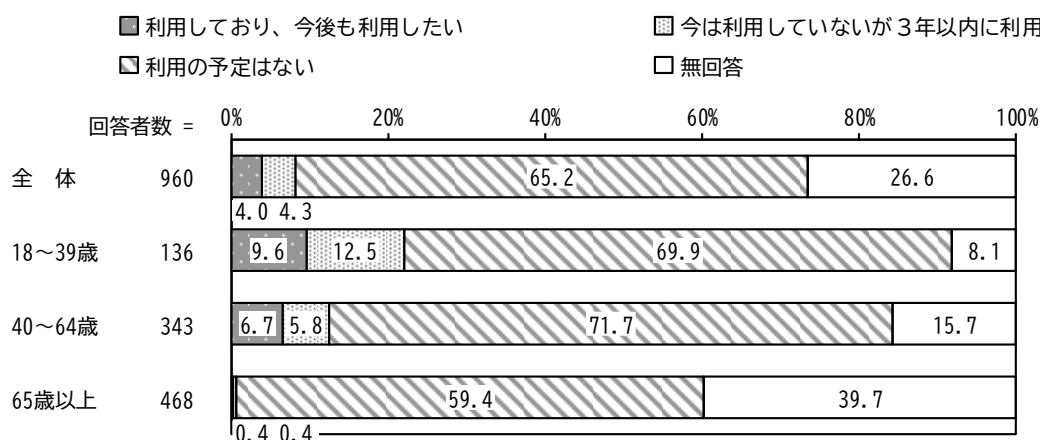
手帳の種類・診断別にみると、精神障害者保健福祉手帳、発達障害の診断を受けているで「今は利用していないが3年以内に利用したい」、自立支援医療（精神通院医療）を受けているで「利用の予定はない」の割合が高くなっています。



⑤就労継続支援（B型）

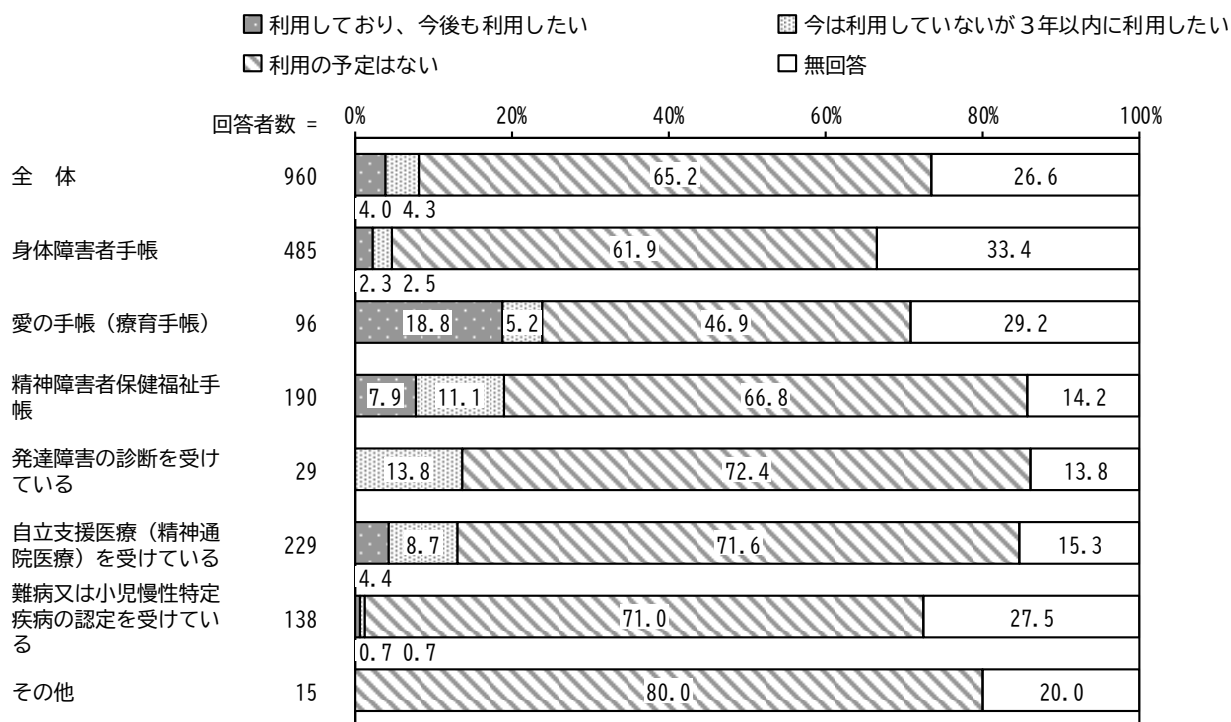
【年齢別】

年齢別にみると、年齢が下がるほど「今は利用していないが3年以内に利用したい」の割合が高くなっています。



【手帳の種類・診断別】

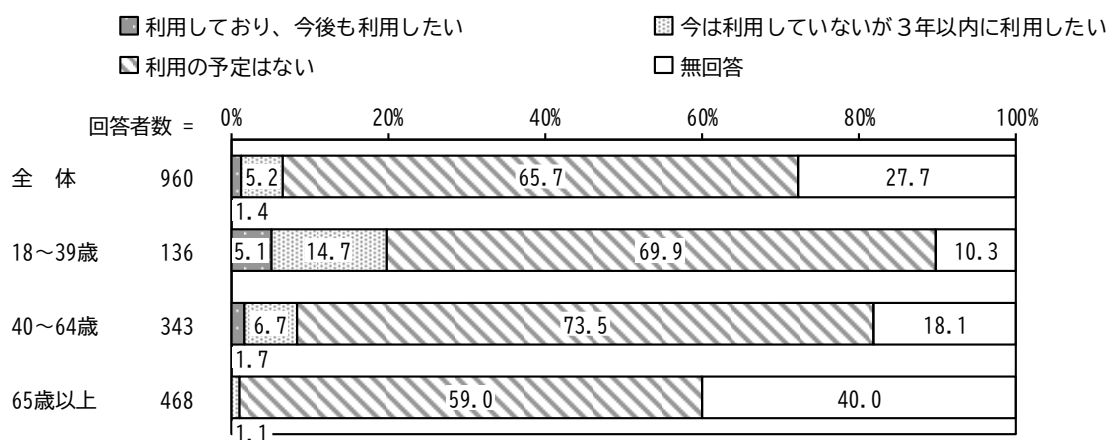
手帳の種類・診断別にみると、愛の手帳（療育手帳）で「利用しており、今後も利用したい」の割合が高く、「利用の予定はない」の割合が低くなっています。また、発達障害の診断を受けているで「今は利用していないが3年以内に利用したい」の割合が高くなっています。



⑥就労定着支援

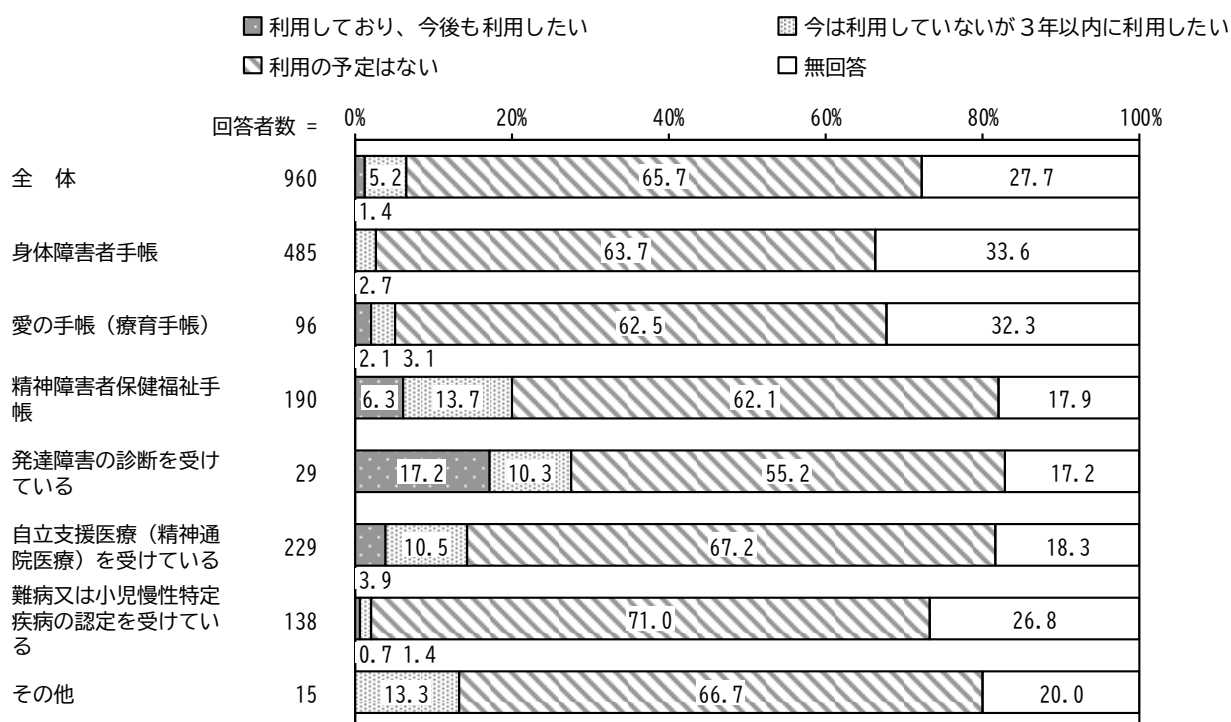
【年齢別】

年齢別にみると、年齢が下がるほど「今は利用していないが3年以内に利用したい」の割合が高くなっています。



【手帳の種類・診断別】

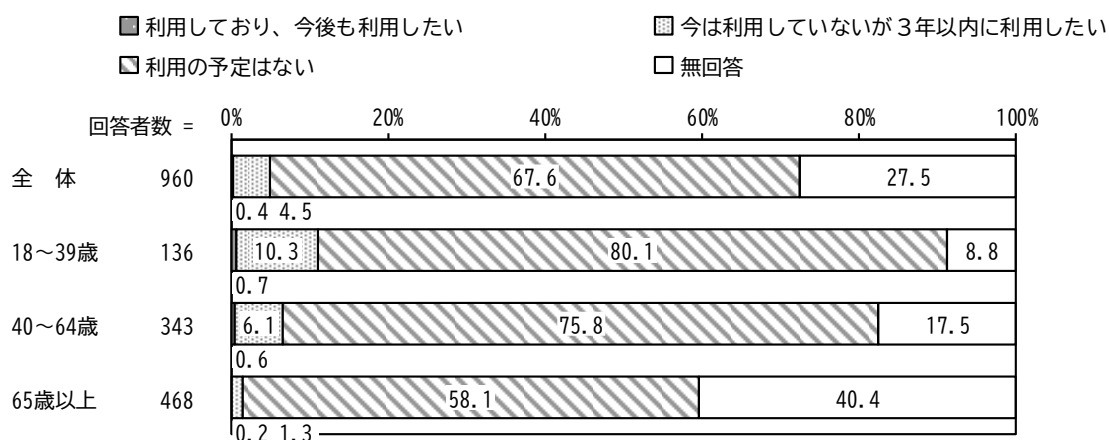
手帳の種類・診断別にみると、発達障害の診断を受けているで「利用しており、今後も利用したい」の割合が高く、「利用の予定はない」の割合が低くなっています。



⑦就労選択支援

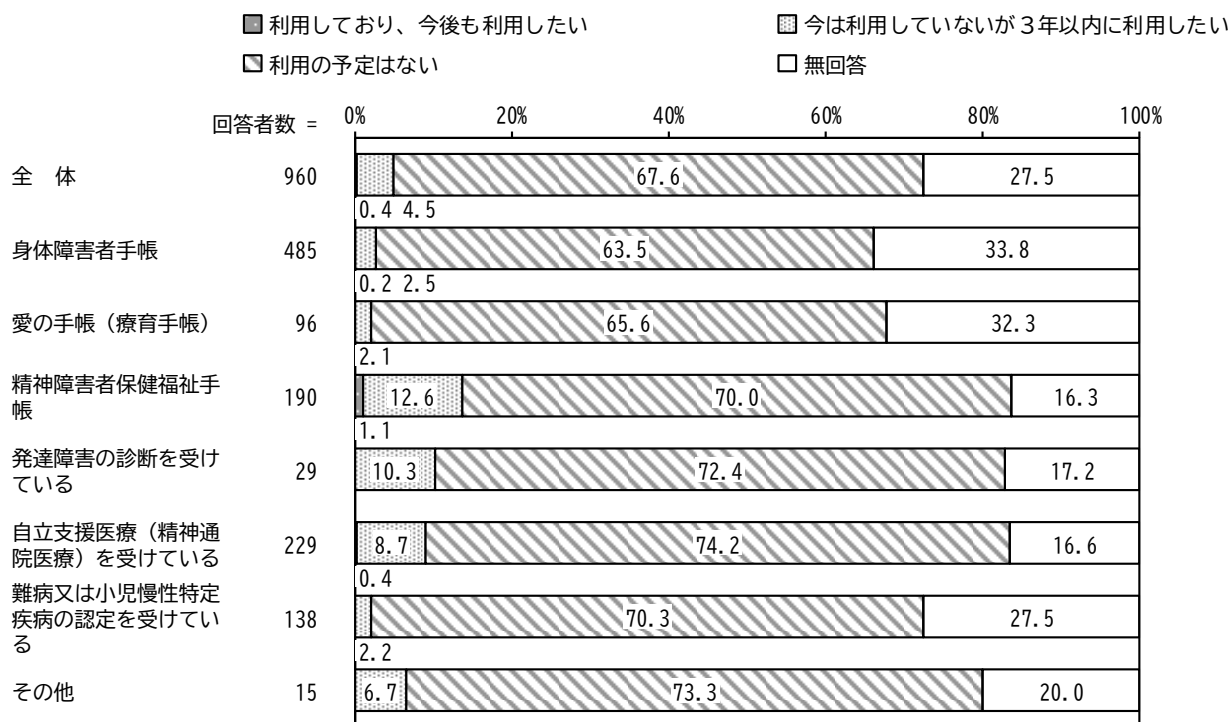
【年齢別】

年齢別にみると、年齢が下がるほど「今は利用していないが3年以内に利用したい」「利用の予定はない」の割合が高くなっています。



【手帳の種類・診断別】

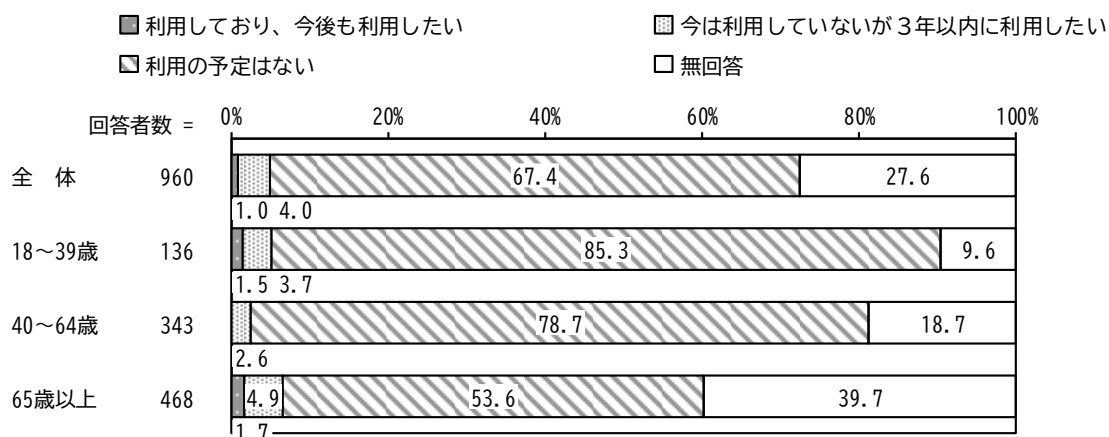
手帳の種類・診断別にみると、精神障害者保健福祉手帳、発達障害の診断を受けているで「今は利用していないが3年以内に利用したい」、自立支援医療（精神通院医療）を受けているで「利用の予定はない」の割合が高くなっています。



⑧療養介護

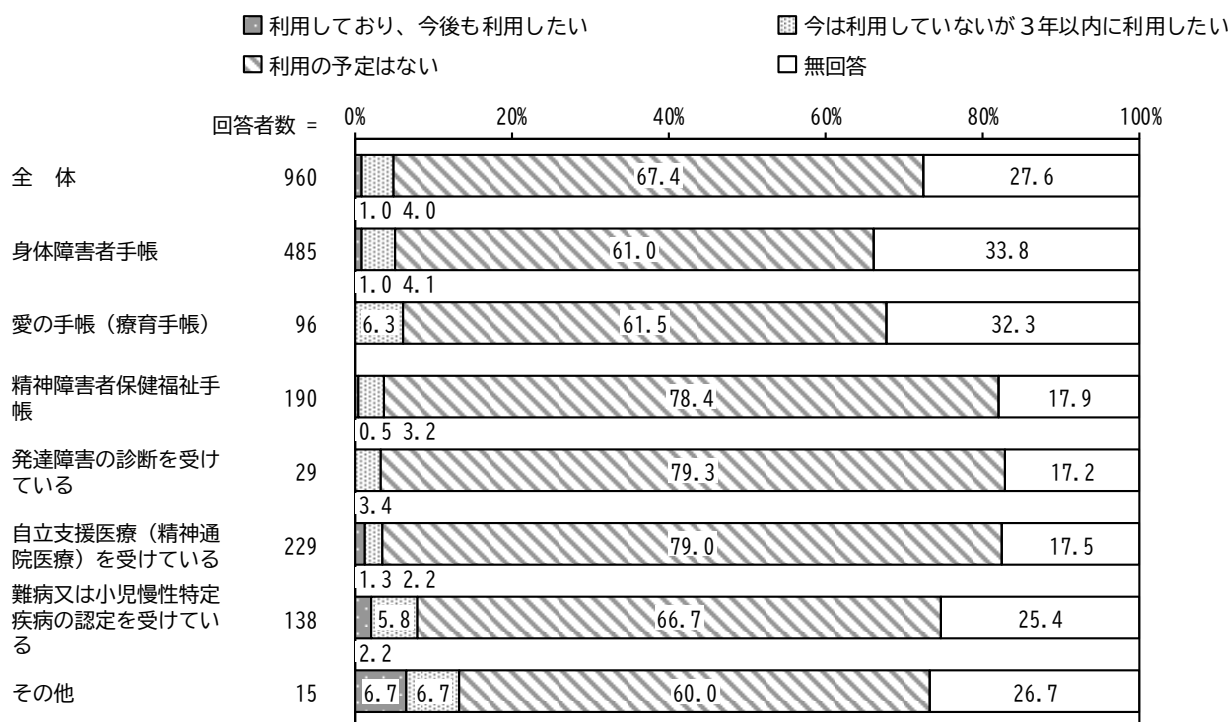
【年齢別】

年齢別にみると、年齢が下がるほど「利用の予定はない」の割合が高くなっています。



【手帳の種類・診断別】

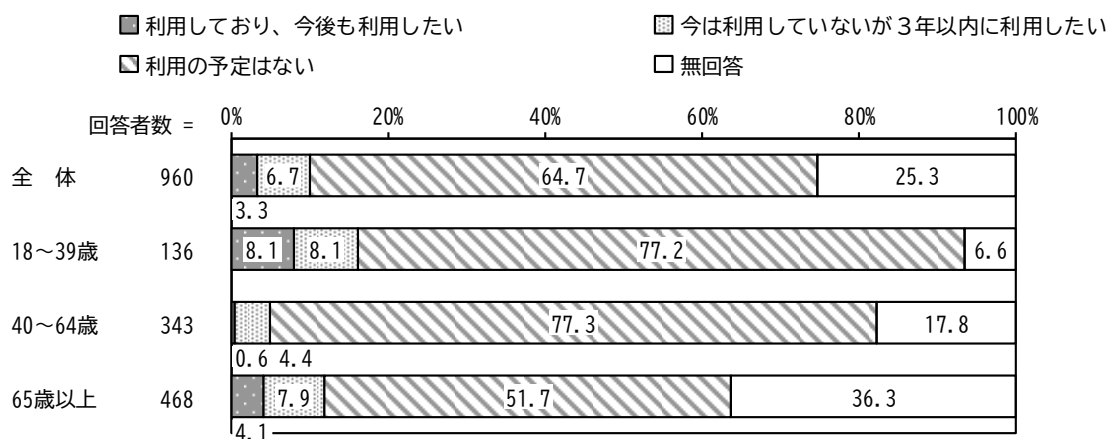
手帳の種類・診断別にみると、精神障害者保健福祉手帳、発達障害の診断を受けている、自立支援医療（精神通院医療）を受けているで「利用の予定はない」の割合が高くなっています。



⑨短期入所（ショートステイ）

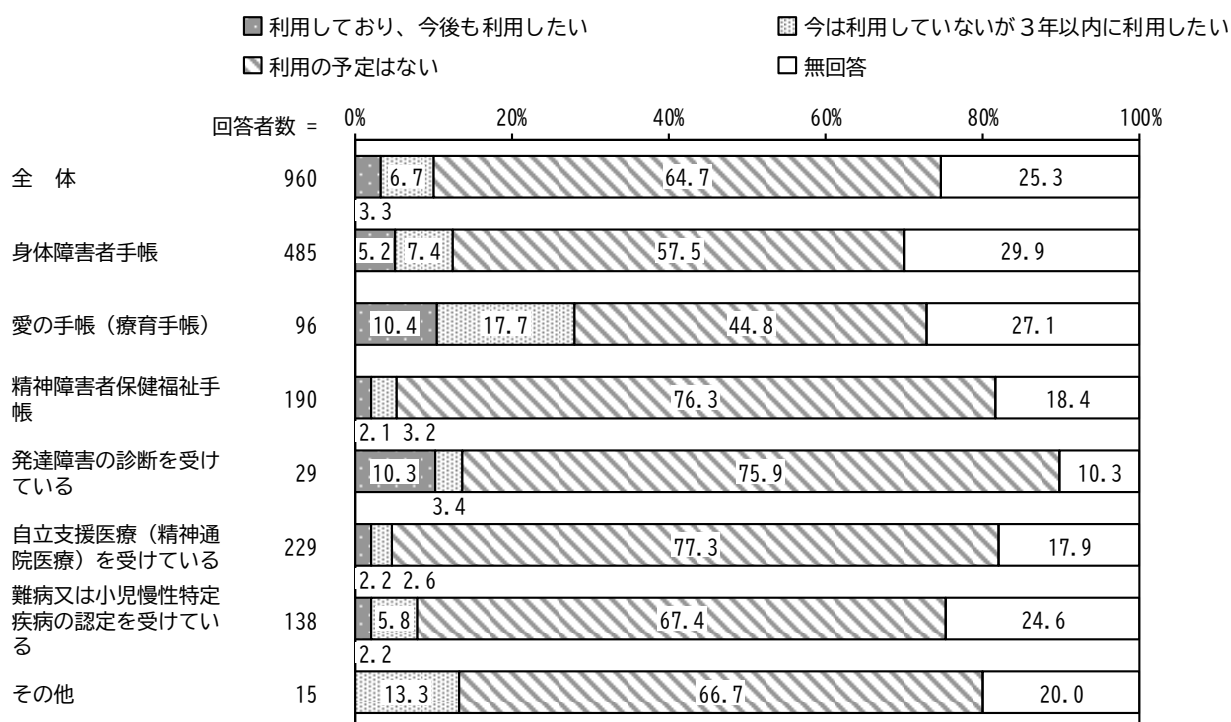
【年齢別】

年齢別にみると、18～39 歳、40～64 歳で「利用の予定はない」の割合が高くなっています。



【手帳の種類・診断別】

手帳の種類・診断別にみると、愛の手帳（療育手帳）で「今は利用していないが3年以内に利用したい」、精神障害者保健福祉手帳、発達障害の診断を受けている、自立支援医療（精神通院医療）を受けているで「利用の予定はない」の割合が高くなっています。

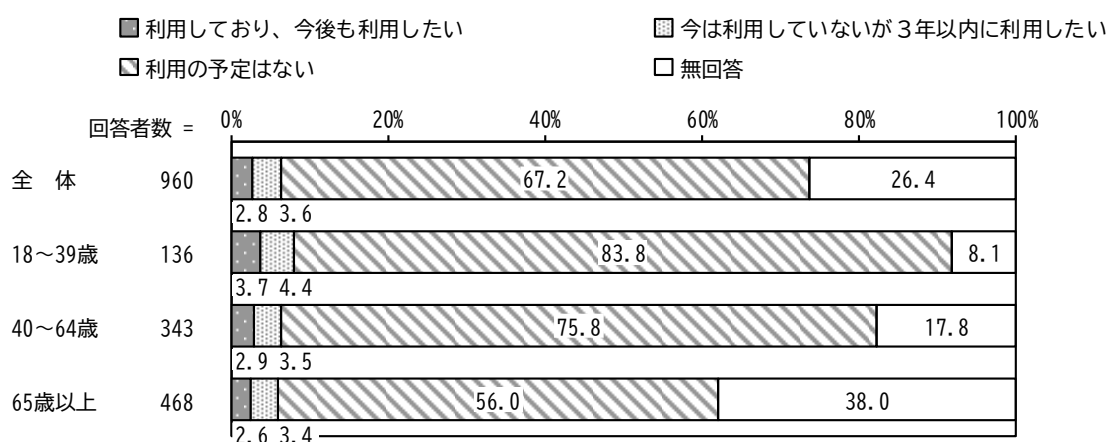


居住系サービス

①自立生活援助

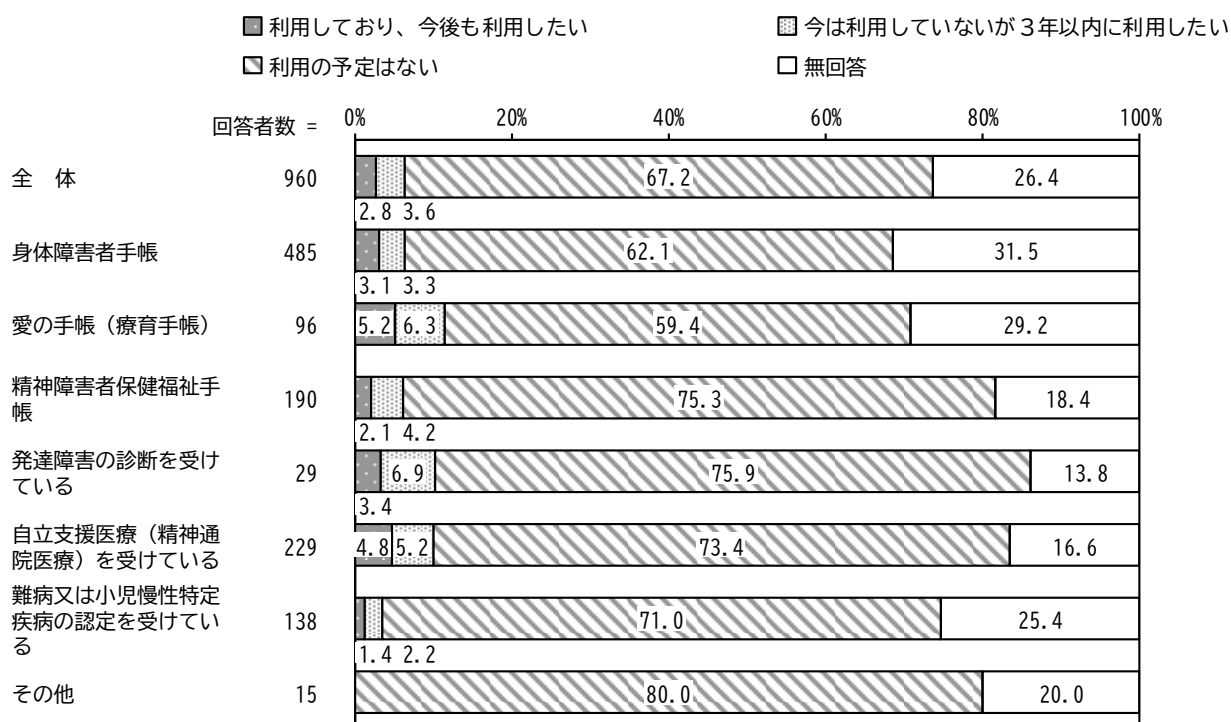
【年齢別】

年齢別にみると、年齢が下がるほど「利用の予定はない」の割合が高くなっています。



【手帳の種類・診断別】

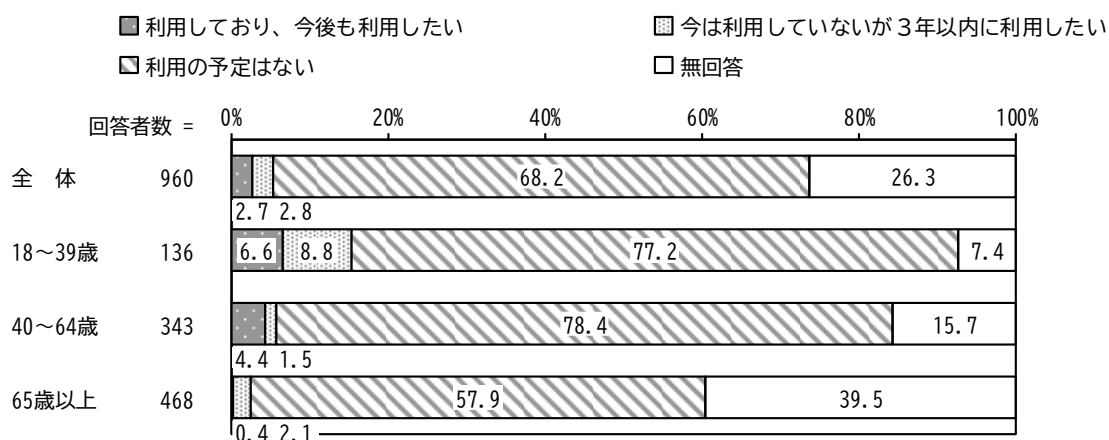
手帳の種類・診断別にみると、精神障害者保健福祉手帳、発達障害の診断を受けている、自立支援医療（精神通院医療）を受けているで「利用の予定はない」の割合が高くなっています。



②共同生活援助（グループホーム）

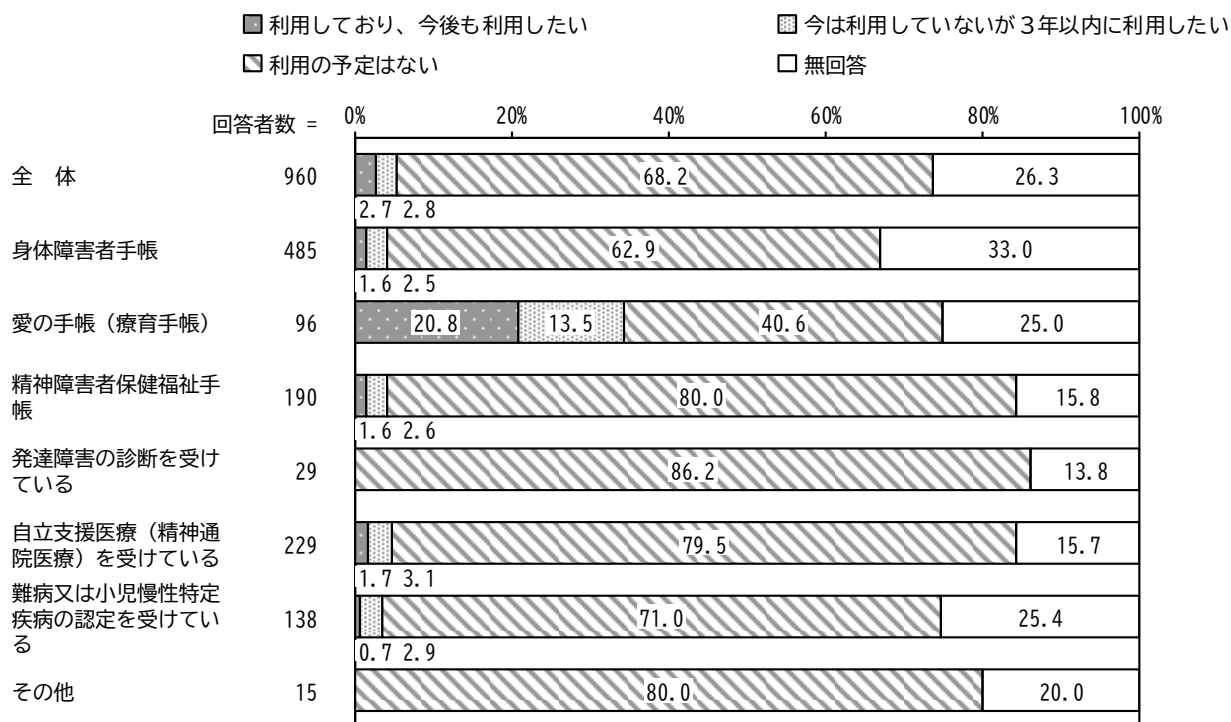
【年齢別】

年齢別にみると、18～39歳で「今は利用していないが3年以内に利用したい」、18～39歳、40～64歳で「利用の予定はない」の割合が高くなっています。



【手帳の種類・診断別】

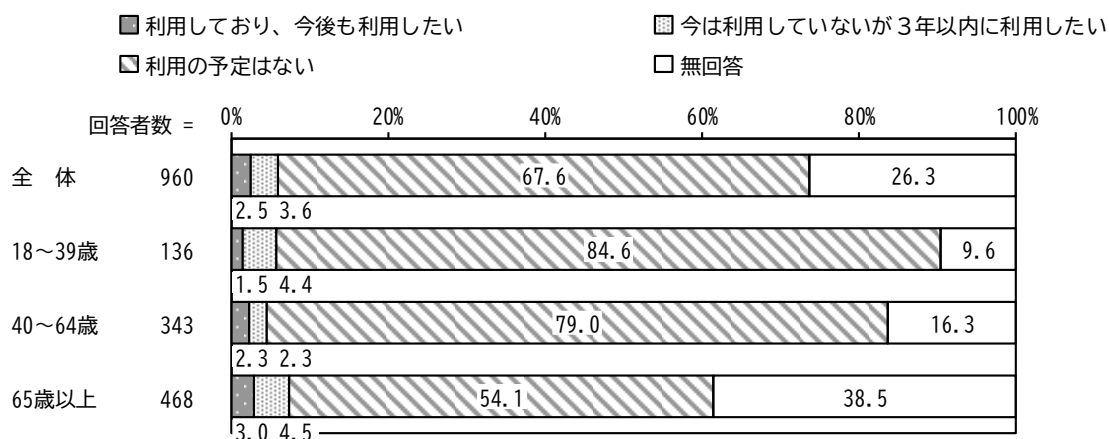
手帳の種類・診断別にみると、愛の手帳（療育手帳）で「利用しており、今後も利用したい」「今は利用していないが3年以内に利用したい」、発達障害の診断を受けているで「利用の予定はない」の割合が高くなっています。



③施設入所支援

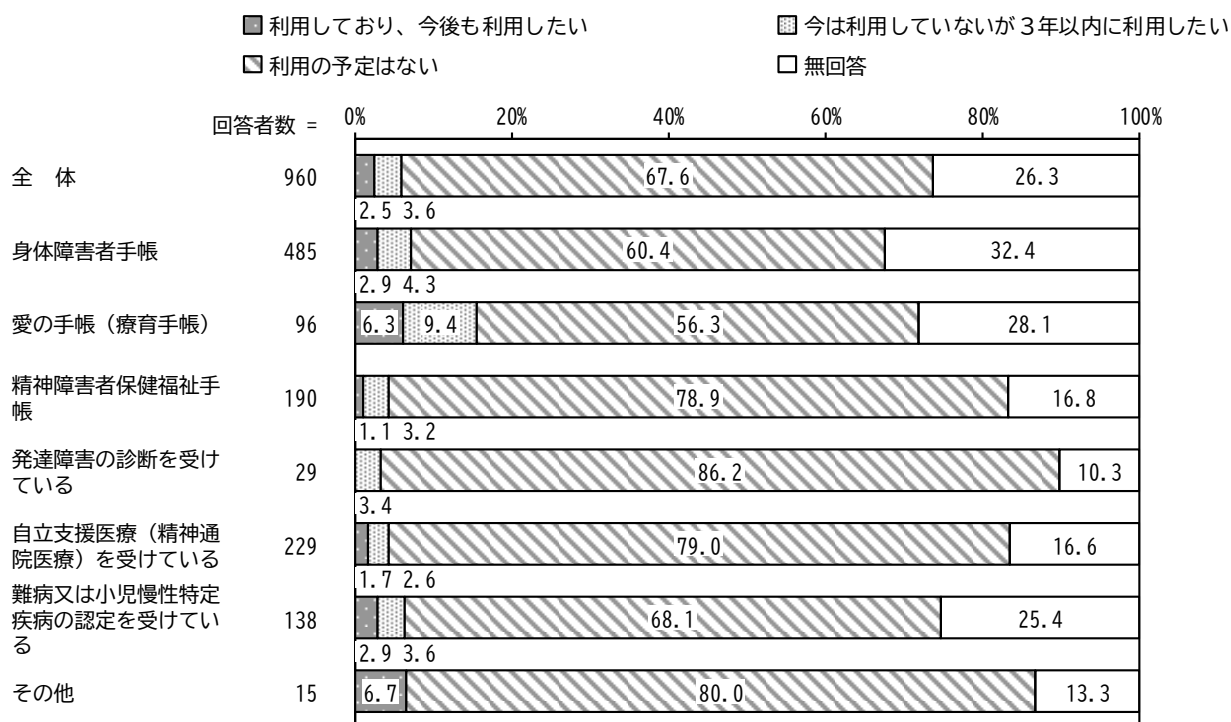
【年齢別】

年齢別にみると、年齢が下がるほど「利用の予定はない」の割合が高くなっています。



【手帳の種類・診断別】

手帳の種類・診断別にみると、愛の手帳（療育手帳）で「今は利用していないが3年以内に利用したい」、発達障害の診断を受けているで「利用の予定はない」の割合が高くなっています。

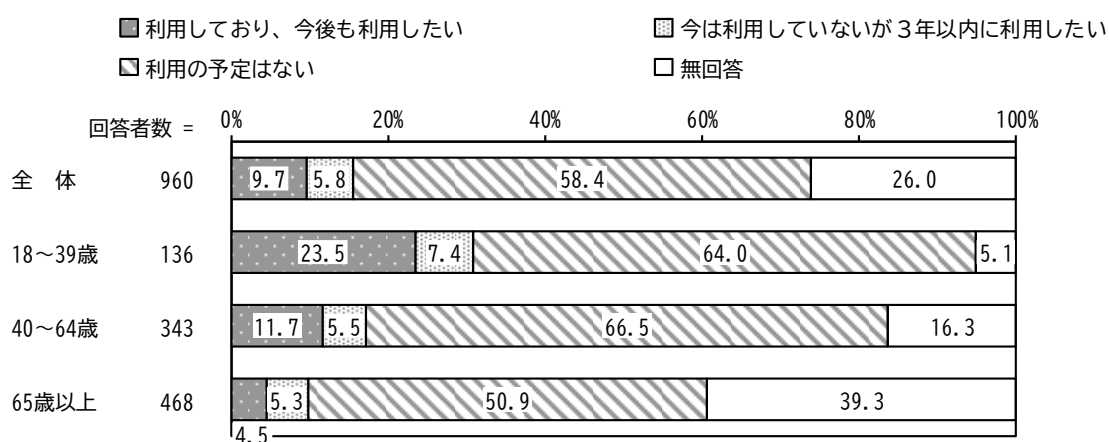


相談系サービス

①計画相談支援

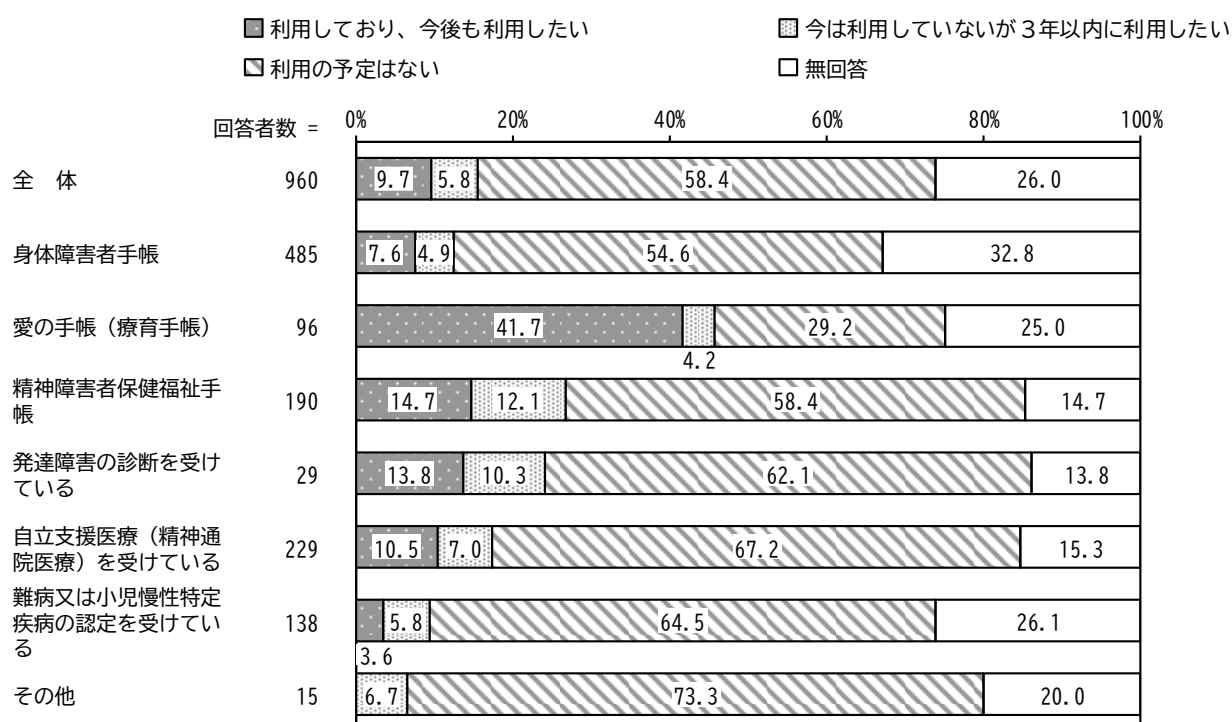
【年齢別】

年齢別にみると、年齢が下がるほど「利用しており、今後も利用したい」の割合が高くなっています。



【手帳の種類・診断別】

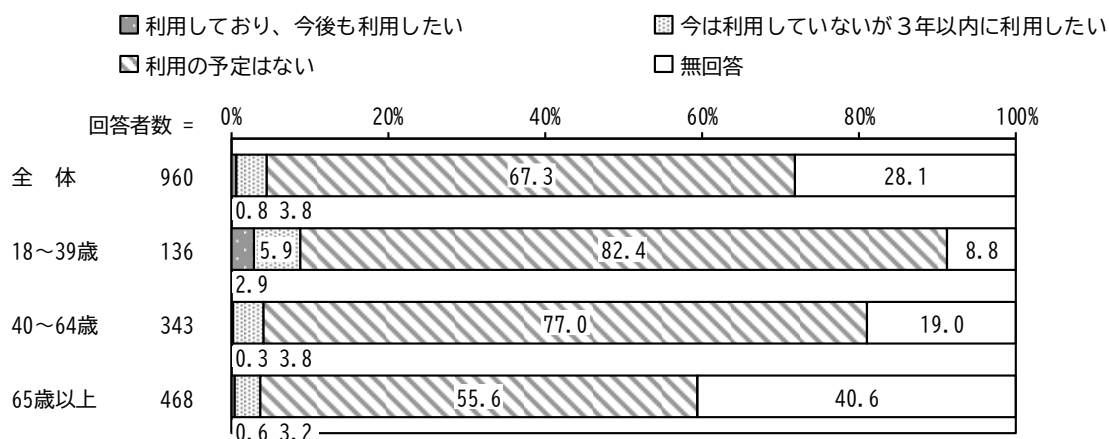
手帳の種類・診断別にみると、愛の手帳（療育手帳）で「利用しており、今後も利用したい」の割合が高く、「利用の予定はない」の割合が低くなっています。



②地域移行支援

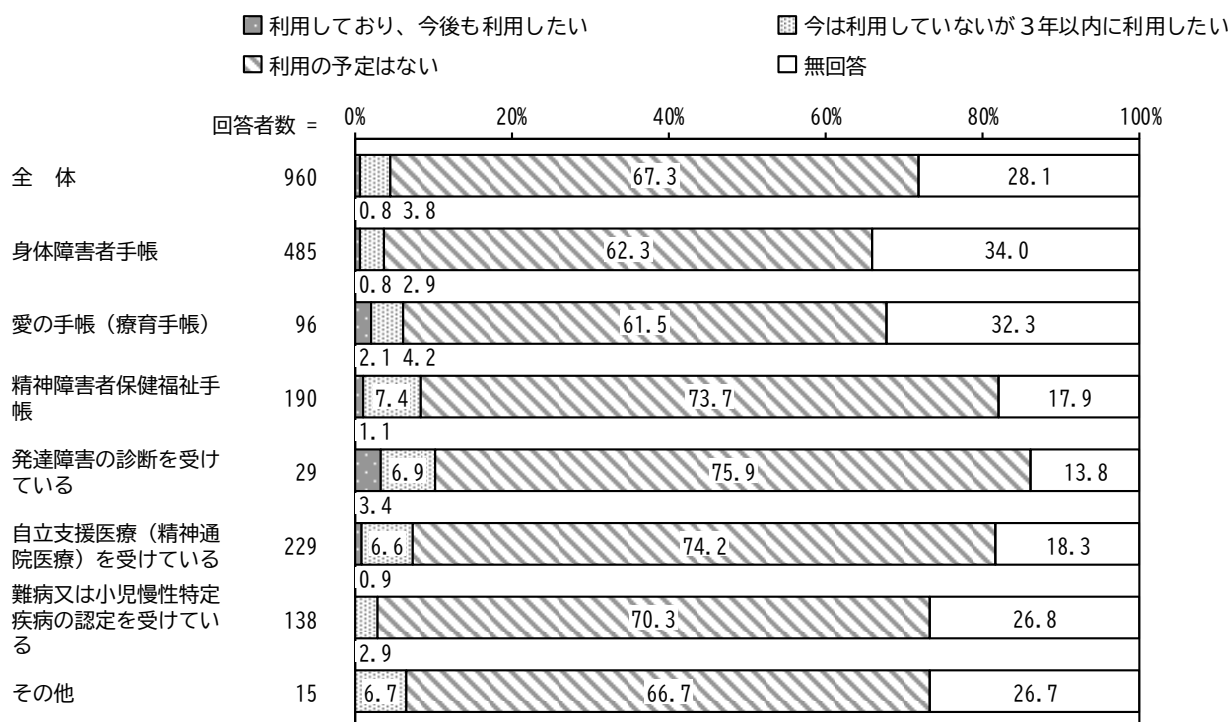
【年齢別】

年齢別にみると、年齢が下がるほど「利用の予定はない」の割合が高くなっています。



【手帳の種類・診断別】

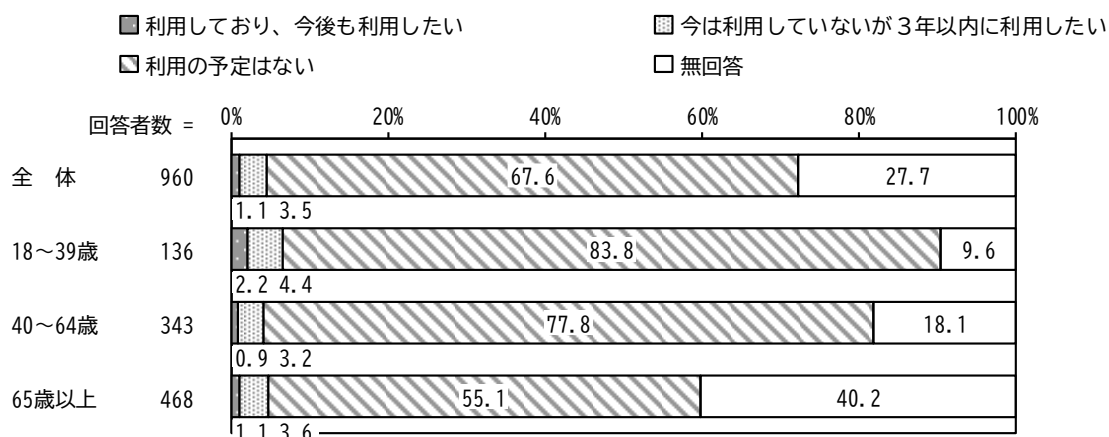
手帳の種類・診断別にみると、精神障害者保健福祉手帳、発達障害の診断を受けている、自立支援医療（精神通院医療）を受けているで「利用の予定はない」の割合が高くなっています。



③地域定着支援

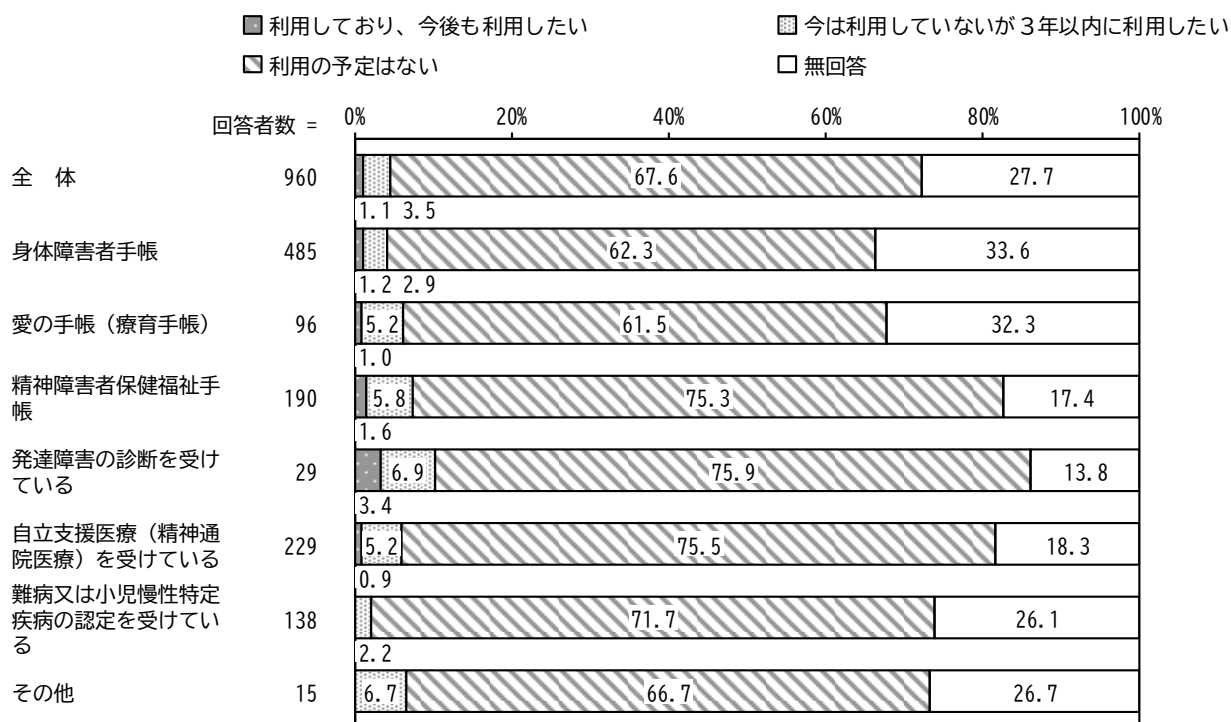
【年齢別】

年齢別にみると、年齢が下がるほど「利用の予定はない」の割合が高くなっています。



【手帳の種類・診断別】

手帳の種類・診断別にみると、精神障害者保健福祉手帳、発達障害の診断を受けている、自立支援医療（精神通院医療）を受けているで「利用の予定はない」の割合が高くなっています。

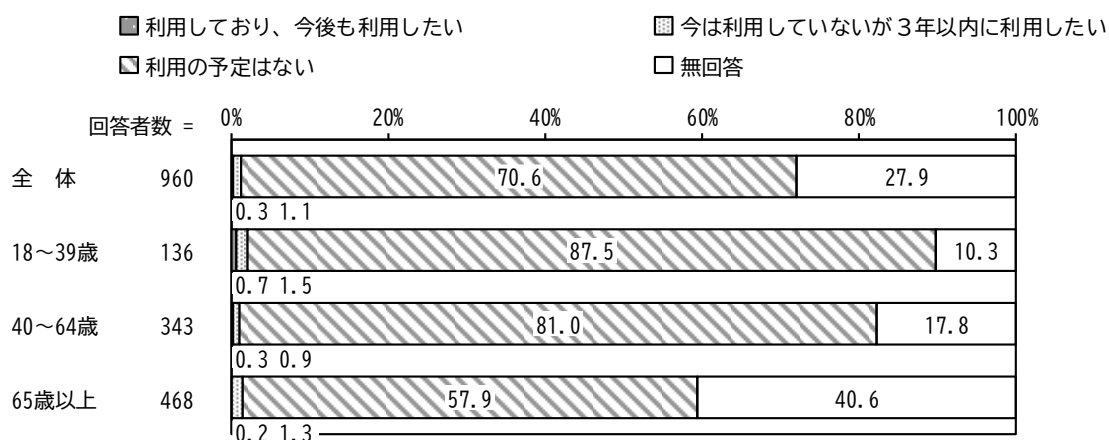


その他

①意思疎通支援事業（主に聴覚障害者への手話通訳の派遣）

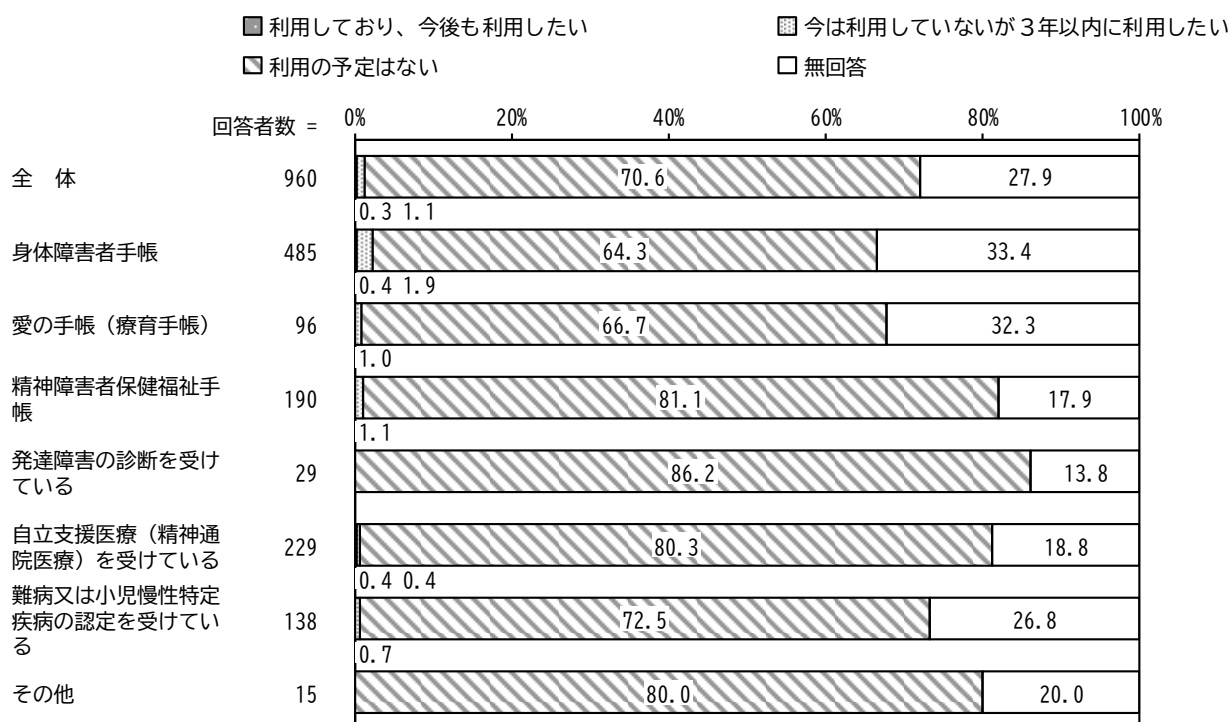
【年齢別】

年齢別にみると、年齢が下がるほど「利用の予定はない」の割合が高くなっています。



【手帳の種類・診断別】

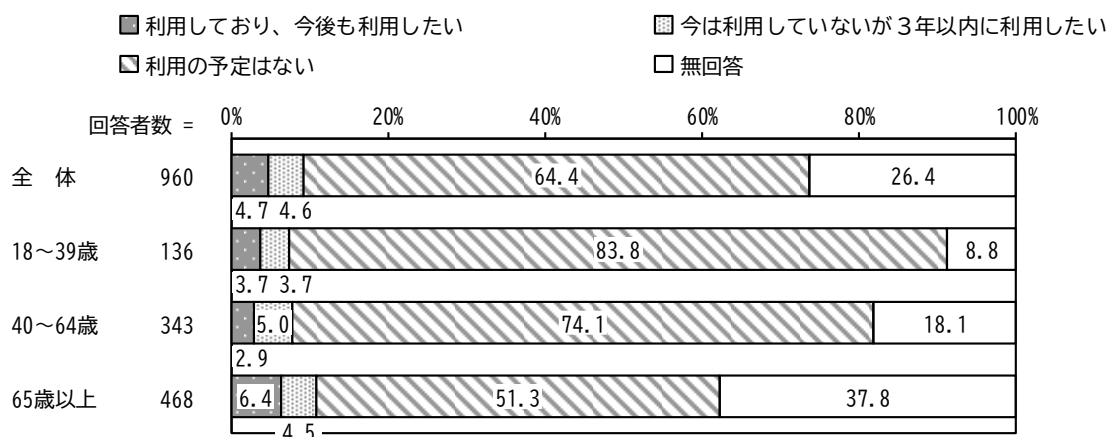
手帳の種類・診断別にみると、発達障害の診断を受けているで「利用の予定はない」の割合が高くなっています。



②日常生活用具給付等事業

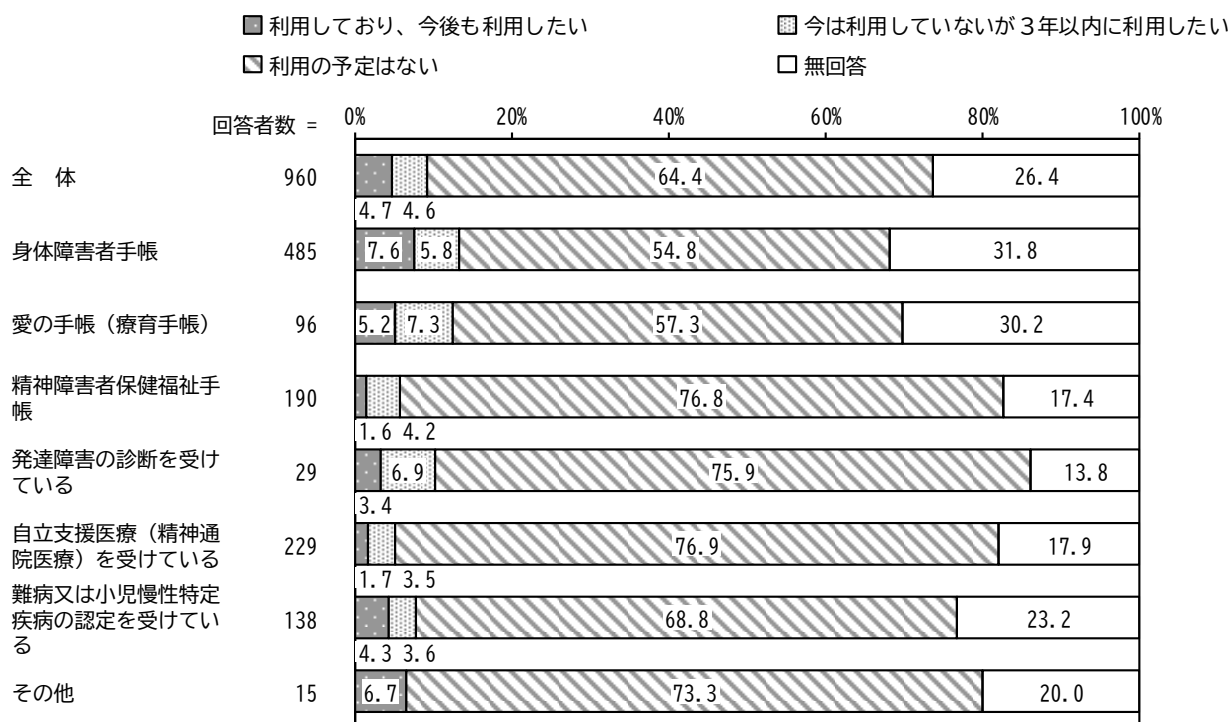
【年齢別】

年齢別にみると、年齢が下がるほど「利用の予定はない」の割合が高くなっています。



【手帳の種類・診断別】

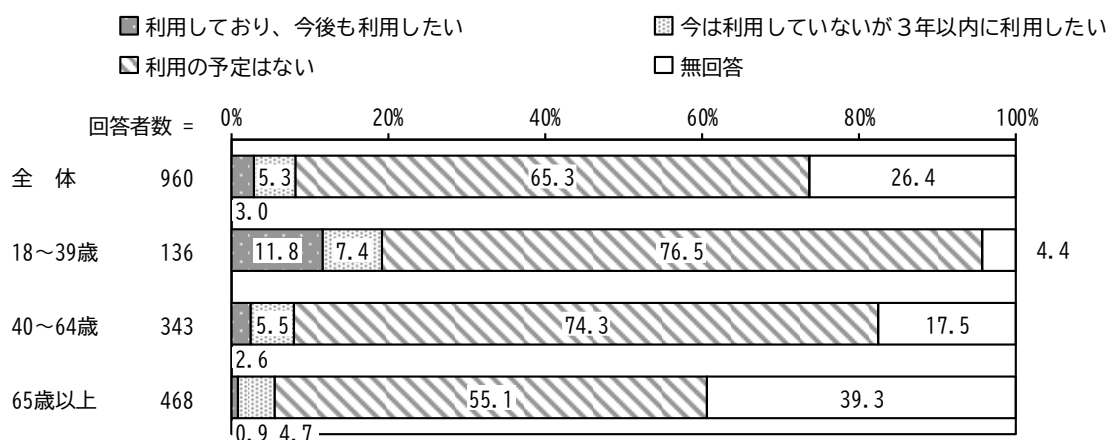
手帳の種類・診断別にみると、精神障害者保健福祉手帳、発達障害の診断を受けている、自立支援医療（精神通院医療）を受けているで「利用の予定はない」の割合が高くなっています。



③移動支援事業（外出時のガイドヘルプ）

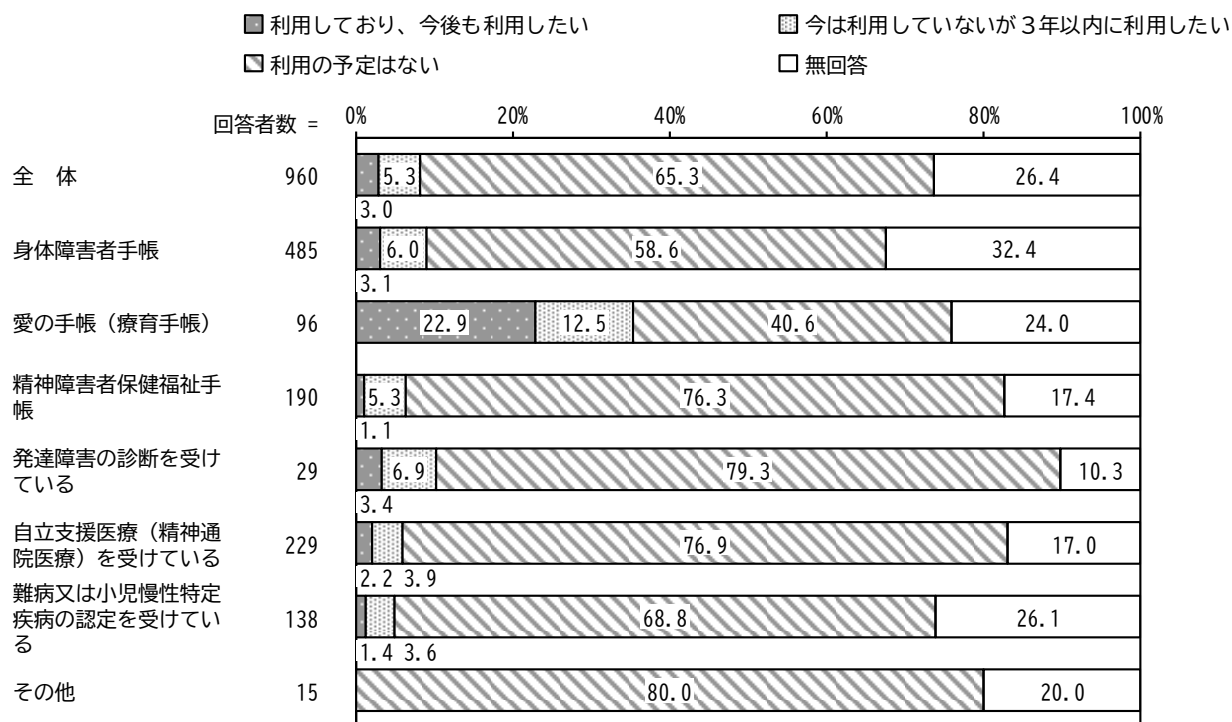
【年齢別】

年齢別にみると、年齢が下がるほど「利用しており、今後も利用したい」「利用の予定はない」の割合が高くなっています。



【手帳の種類・診断別】

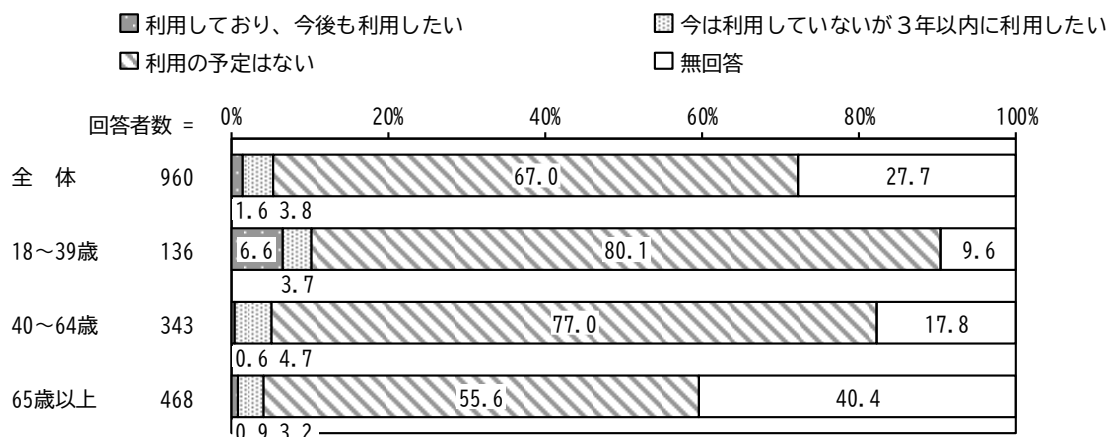
手帳の種類・診断別にみると、愛の手帳（療育手帳）で「利用しており、今後も利用したい」、精神障害者保健福祉手帳、発達障害の診断を受けている、自立支援医療（精神通院医療）を受けているで「利用の予定はない」の割合が高くなっています。



④日中一時支援事業（緊急一時保護）

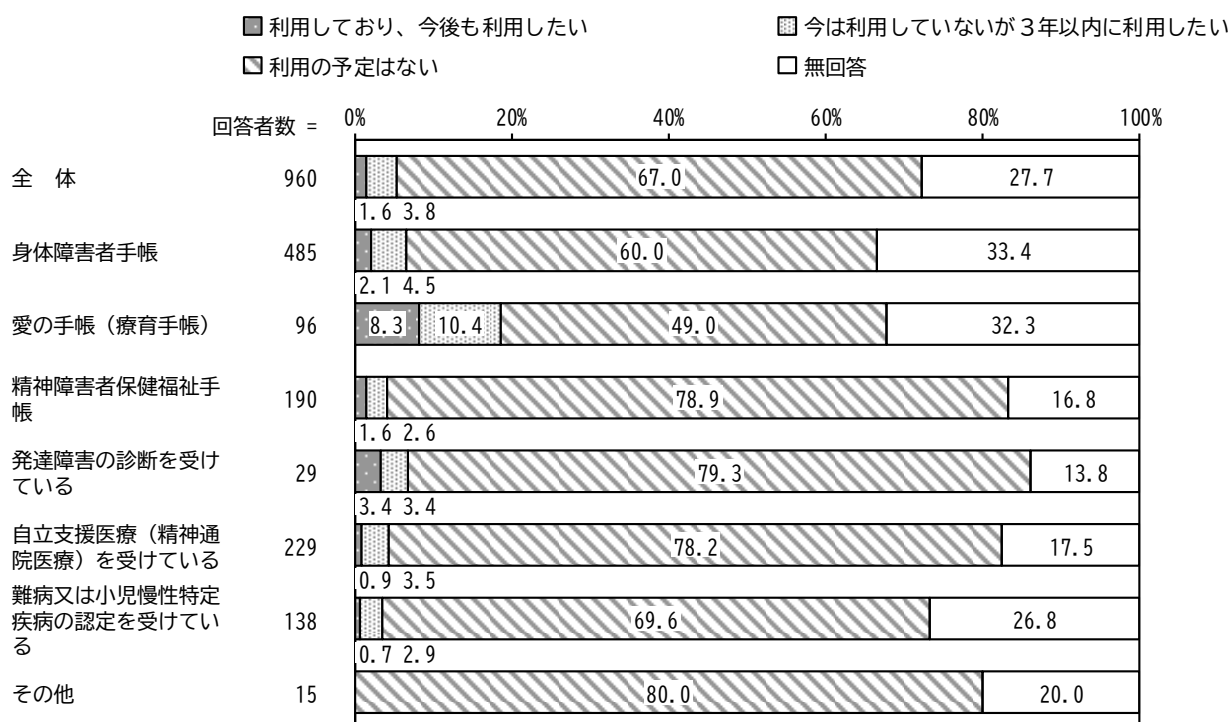
【年齢別】

年齢別にみると、年齢が下がるほど「利用の予定はない」の割合が高くなっています。



【手帳の種類・診断別】

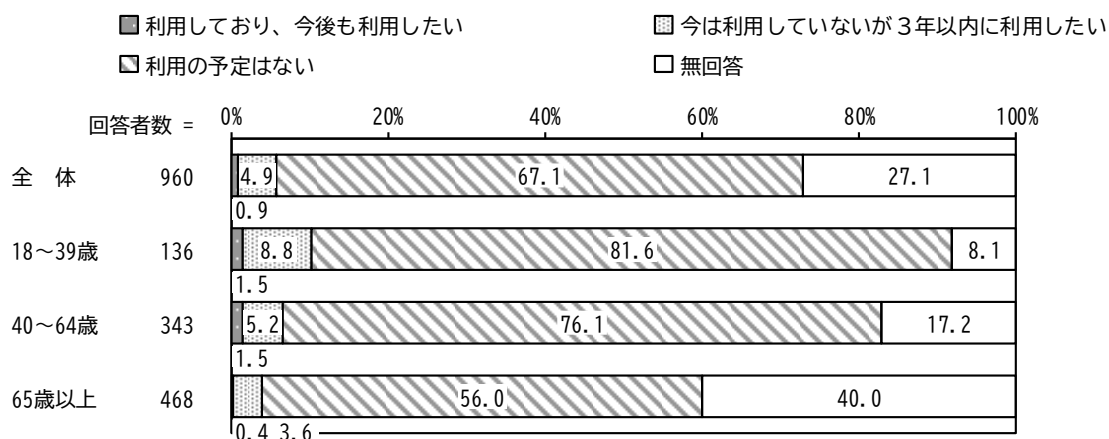
手帳の種類・診断別にみると、愛の手帳（療育手帳）で「利用しており、今後も利用したい」「今は利用していないが3年以内に利用したい」、精神障害者保健福祉手帳、発達障害の診断を受けている、自立支援医療（精神通院医療）を受けているで「利用の予定はない」の割合が高くなっています。



⑤成年後見制度

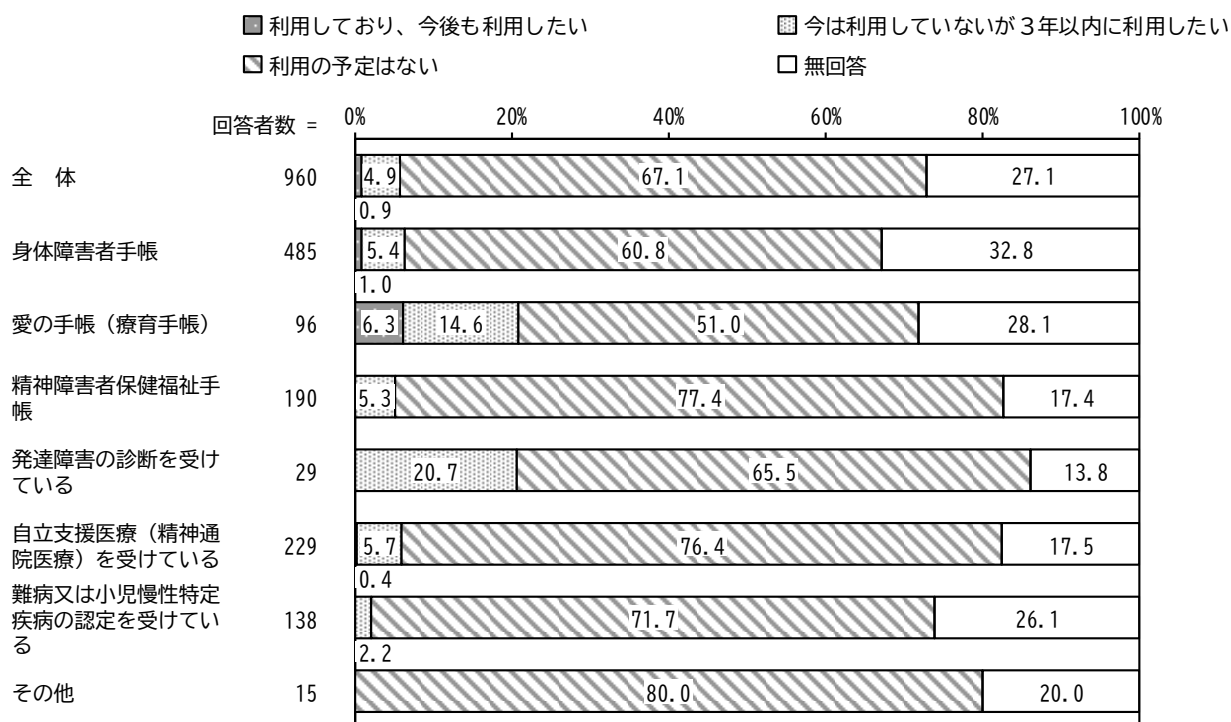
【年齢別】

年齢別にみると、年齢が下がるほど「利用の予定はない」の割合が高くなっています。



【手帳の種類・診断別】

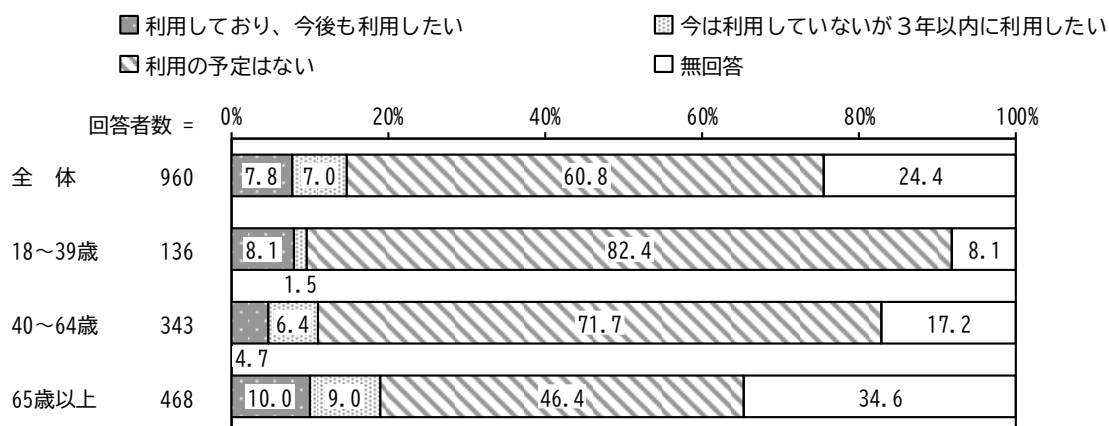
手帳の種類・診断別にみると、発達障害の診断を受けているで「今は利用していないが3年以内に利用したい」、精神障害者保健福祉手帳で「利用の予定はない」の割合が高くなっています。



⑥補装具費（車いす・補聴器等）の給付

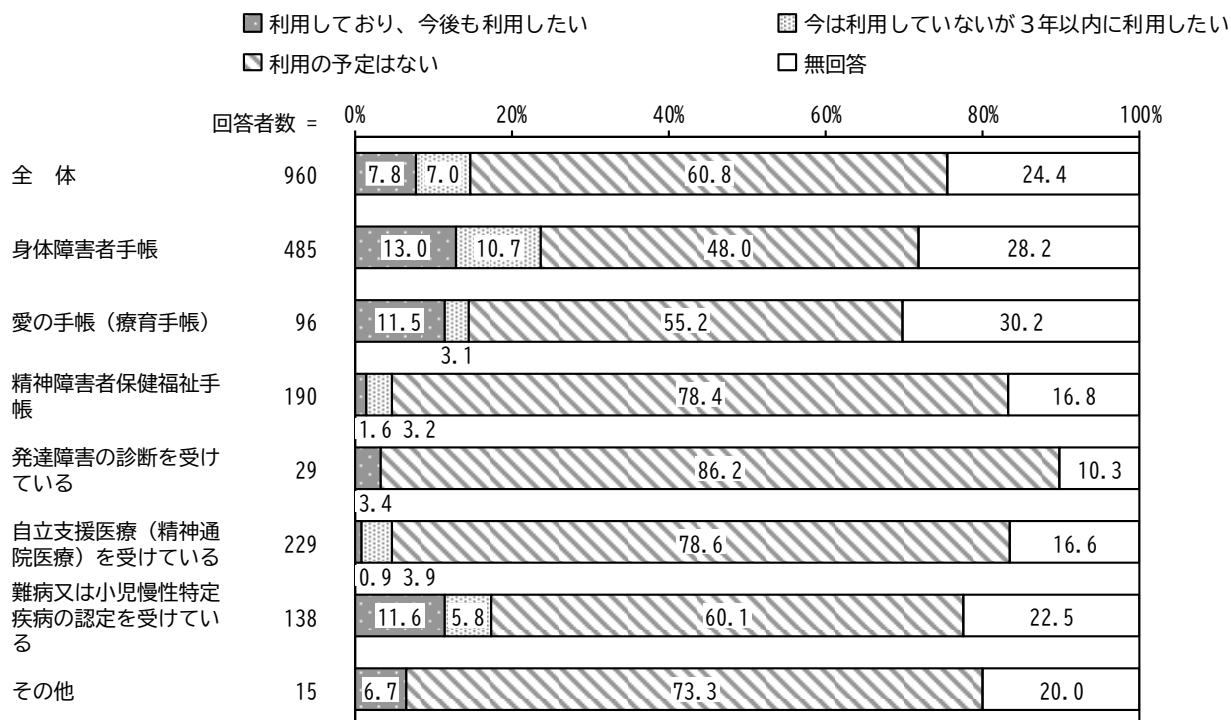
【年齢別】

年齢別にみると、18～39歳で「利用の予定はない」の割合が高くなっています。



【手帳の種類・診断別】

手帳の種類・診断別にみると、身体障害者手帳で「利用しており、今後も利用したい」、発達障害の診断を受けているで「利用の予定はない」の割合が高くなっています。



問 38 あなたは、普段の障害福祉サービスの利用に関して困っていることがありますか。（あてはまるものすべてに○印）

「制度がわかりにくい」の割合が 29.0%と最も高く、次いで「市役所での手続きが大変」の割合が 14.5%となっています。

【年齢別】

年齢別にみると、年齢が下がるほど「制度がわかりにくい」「利用できる日数が限られ利用回数が少ない」「事業所との日時などの調整が大変」「経済的負担が大きい」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数（件）	制度がわかりにくい	利用できない 利用したいサービスを	利用できる日数が限られ 利用回数が少ない	困っている サービスの質について	他の利用者との関係が大変	市役所での手続きが大変	事業所との日時などの調整が大変	事業所への移動が大変	経済的負担が大きい	利用したい内容のサービスがない	その他	特に困っていることは ない	無回答
全 体	960	29.0	4.4	4.4	2.9	3.5	14.5	4.1	3.9	9.7	7.1	3.9	41.7	11.7
18～39歳	136	39.0	8.1	11.0	8.8	8.1	15.4	11.0	9.6	14.7	15.4	5.9	34.6	2.9
40～64歳	343	32.4	5.5	5.2	3.8	4.7	17.8	3.8	3.8	10.8	5.0	4.4	43.4	6.7
65歳以上	468	23.9	2.6	1.9	0.4	1.5	11.8	2.1	2.4	7.5	6.2	2.8	42.5	17.7

【手帳の種類・診断別】

手帳の種類・診断別にみると、発達障害の診断を受けているで「制度がわかりにくい」「サービスの質について困っている」「他の利用者との関係が大変」「利用したい内容のサービスがない」、愛の手帳（療育手帳）で「利用できる日数が限られ利用回数が少ない」、精神障害者保健福祉手帳で「市役所での手続きが大変」の割合が高くなっています。

単位：％

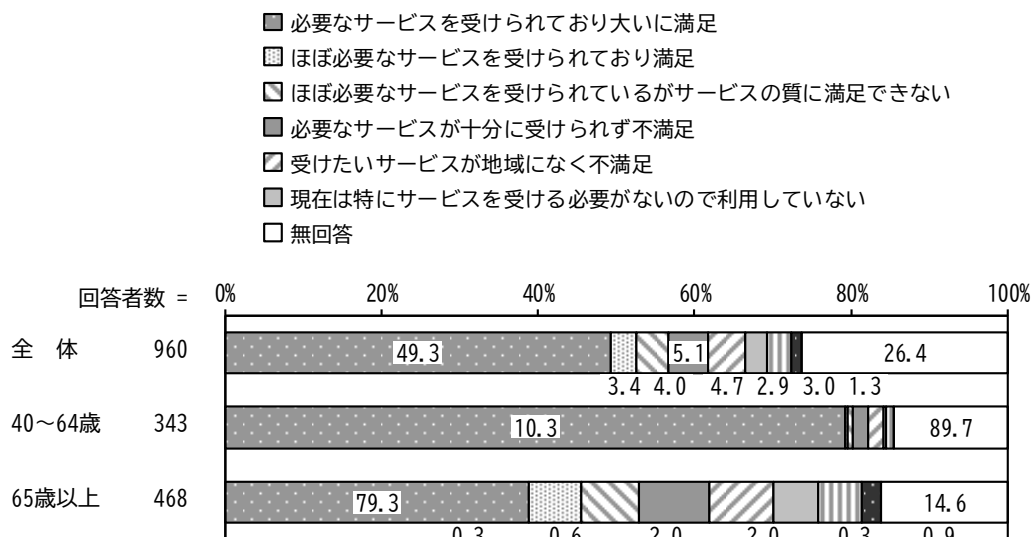
区分	回答者数（件）	制度がわかりにくい	利用できない 利用したいサービスを	利用できる日数が限られ 利用回数が少ない	困っている サービスの質について	他の利用者との関係が大変	市役所での手続きが大変	事業所との日時などの調整が大変	事業所への移動が大変	経済的負担が大きい	利用したい内容のサービスがない	その他	特に困っていることは ない	無回答
全 体	960	29.0	4.4	4.4	2.9	3.5	14.5	4.1	3.9	9.7	7.1	3.9	41.7	11.7
身体障害者手帳	485	25.8	2.5	3.7	0.4	1.6	12.2	2.9	3.3	8.5	6.0	3.1	44.3	13.8
愛の手帳（療育手帳）	96	30.2	10.4	17.7	6.3	5.2	11.5	11.5	6.3	13.5	12.5	6.3	30.2	10.4
精神障害者保健福祉手帳	190	43.2	8.4	6.8	8.4	10.5	27.4	7.4	9.5	17.4	10.5	6.8	26.3	5.3
発達障害の診断を受けている	29	51.7	10.3	13.8	17.2	20.7	24.1	13.8	10.3	17.2	20.7	10.3	17.2	3.4
自立支援医療（精神通院医療）を受けている	229	36.7	5.7	5.7	5.7	5.7	19.7	5.7	5.2	15.3	8.7	6.6	34.1	7.0
難病又は小児慢性特定疾病の認定を受けている	138	31.9	2.2	1.4	0.7	2.9	13.0	3.6	2.9	10.1	5.1	1.4	47.8	10.9
その他	15	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	20.0	6.7	0.0	33.3	13.3

問 39 あなたは、普段受けている障害福祉サービスに、満足していますか。(○印は1つ)

「現在は特にサービスを受ける必要がないので利用していない」の割合が 42.6%と最も高く、次いで「ほぼ必要なサービスを受けられており満足」の割合が 24.8%となっています。

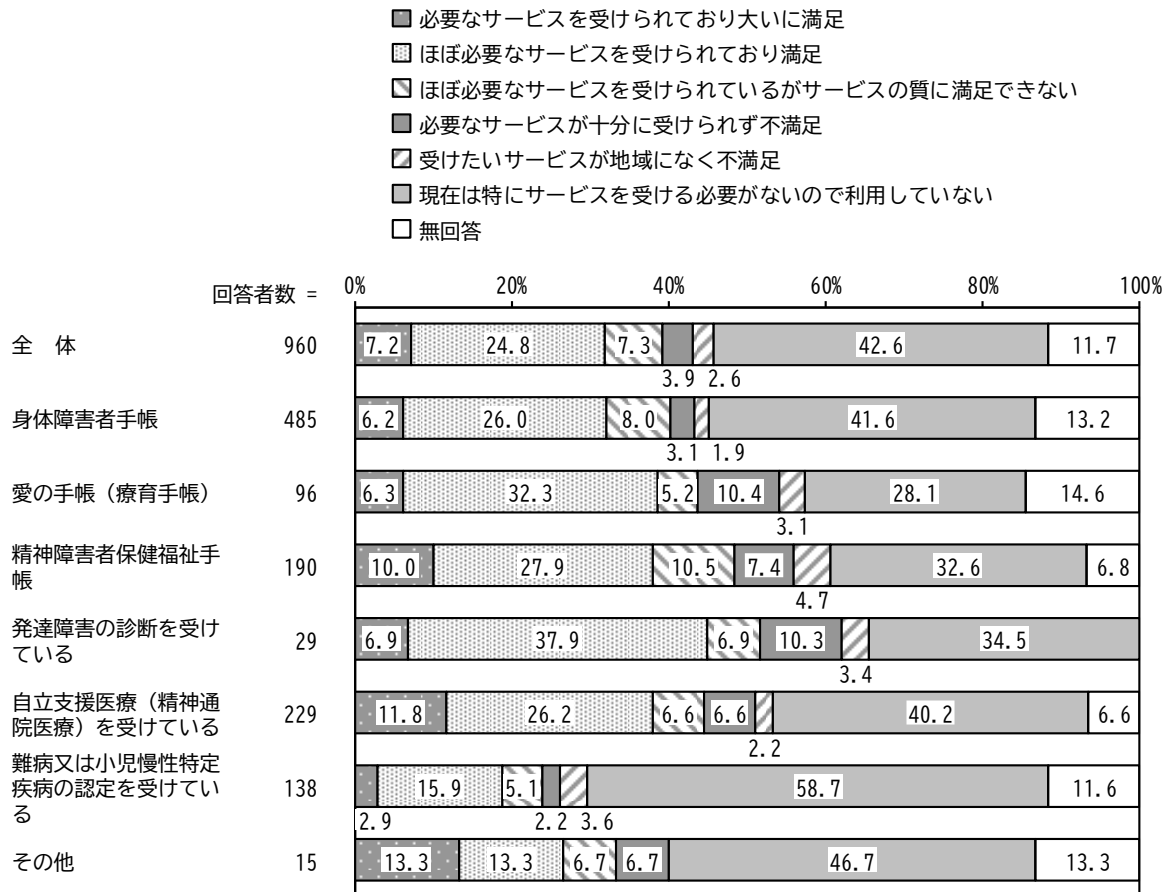
【年齢別】

年齢別にみると、18～39 歳で「ほぼ必要なサービスを受けられており満足」が、40～64 歳で「現在は特にサービスを受ける必要がないので利用していない」の割合が高くなっています。また、年齢が下がるほど「必要なサービスが十分に受けられず不満足」の割合が高くなっています。



【手帳の種類・診断別】

手帳の種類・診断別にみると、発達障害の診断を受けているで「ほぼ必要なサービスを受けられており満足」、愛の手帳（療育手帳）、発達障害の診断を受けているで「必要なサービスが十分に受けられず不満足」、難病又は小児慢性特定疾病の認定を受けているで「現在は特にサービスを受ける必要がないので利用していない」の割合が高くなっています。



問 39 で「必要なサービスが十分に受けられず不満足」か「受きたいサービスが地域になく不満足」に○をつけた方にお聞きします。

問 39－1 地域の中で、障害者に関するサービスのうち何が不足していると思いますか。

全体で 47 件の意見がありました。

No	内容	件数
1	個別状況に対応したサービス	12 件
2	移動	8 件
3	余暇・健康活動	8 件
4	制度上の問題	6 件
5	理解	4 件
6	就労	4 件
7	経済的支援	3 件
8	情報	2 件
9	その他	2 件

余暇・健康活動

くるぶーが、柳泉園風呂、プールに行きたいが行かないこと
友人や仲間とすごす場
施設入所者に対する、週末余暇外出のための支援サービス
母が一人で担っているが、健康不安、片親にて、本人（30 代）外出余暇の希望を支援してくれるサービスがない
基本、施設入所は人手不足のためムリ
プール
市内でお風呂サービスがない。他市は無料でやっている
健康を回復するサービス

住まい

該当の意見はありませんでした。

就労

就労施設
作業内容
就労支援や、ショートステイがなかなか使えないので、利用できる施設が増えてほしい
雇用

療育・障害児サービス

該当の意見はありませんでした。

理解

人間的に寄りそうのでなく、ビジネスライクで接する者が多い
心
サービス提供者との意思そつう
重度アレルギーの利用者のためのグループホームがない

情報がない

内容がわかりにくい。
情報

移動

バスの完全無料化
道路に段差が多すぎて危険、狭い。車イス、杖では通りたくない
私個人の移動がすぐに出来ない
通院手段
ガイドヘルパーの不足
公共交通機関が、1人では、出来ない。他の人がいると気になる
交通機関の改善が生活を楽しくしてくれると
移動支援の時間をもう少し長くとれるようにしてほしい

経済的支援

経済的支援
日常生活用具等給付事業の支給金額が不足している
経済を助けてくれる物がなく困っている

制度上の問題

グレーゾーンの人など制度の狭間にいる方への支援など
65才以上の為介護認定がとれなければ受けられるサービスはない
介護施設が東久留米市外のため、手続きが複雑なこと
複合的（精神・身体）障害に関する（私の現在の症状）サポートをお願いする要項がないです
家族が居ると家事サービスが受けられない
くるぶーは年齢や妊婦さんに限られていて 私は利用できない所、障害者は年齢に関係なく乗れるようにしてくれたら助かる

個別状況に対応したサービス

足の爪切り
サービスが不足しているのではなく、自分が受ける時間が作れない
私は記しておくことができず、スマホの操作を覚えられない。ペイペイとか全然意味がわからない
場所と時間の問題
既婚者の生活介護
きん急連絡先がない
老いるごとに障害がひどくなっているようで、十分に相談ができない
人員不足により受けられず
自立訓練の施設
支援員が不足している
デイケアが欲しい。多摩済生病院にはありました
障害者が希望する曜日だけヘルプして頂く様な自由な選択

その他

車いす修理に対して対応が遅いし返答もない
自治体の協力が不足、市の職員が役に立たない

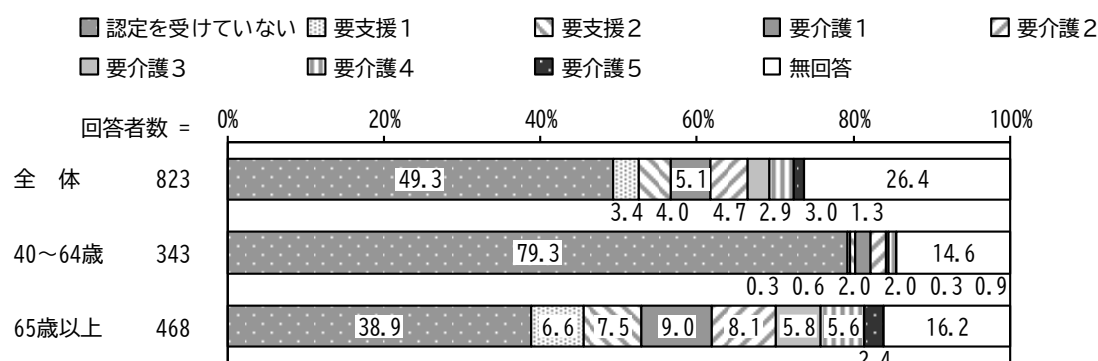
40 歳以上の方にお聞きします。

問 40 介護保険による認定を受けていますか。要介護・要支援認定を受けている方はあてはまる要介護度に○をつけてください。(○印は1つ)

「認定を受けていない」の割合が 49.3%と最も高くなっています。

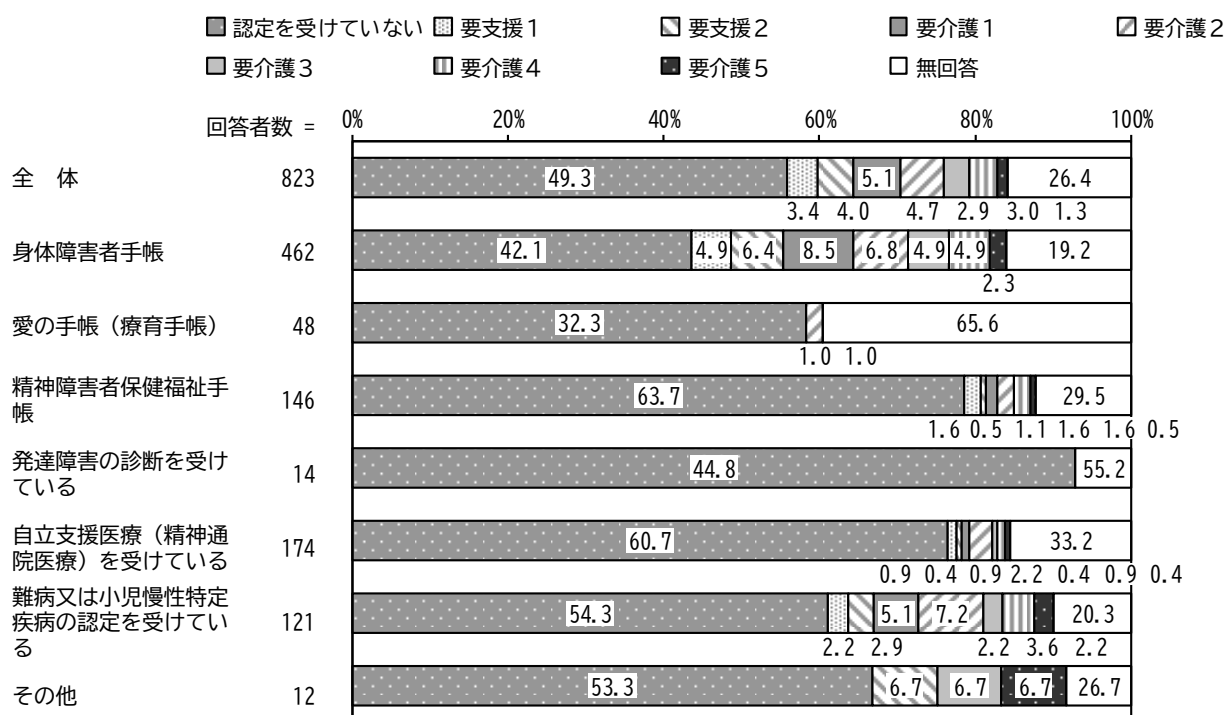
【年齢別】

年齢別にみると、40～64 歳で「認定を受けていない」の割合が高くなっています。



【手帳の種類・診断別】

手帳の種類・診断別にみると、精神障害者保健福祉手帳、自立支援医療（精神通院医療）を受けているで「認定を受けていない」の割合が高くなっています。



40 歳以上の方にお聞きします。

問 40-1 介護保険のサービスを受けるにあたり、不安に思うことはありますか。(あてはまるものすべてに○印)

「利用者負担が増えること」の割合が 27.1%と最も高くなっています。

【年齢別】

年齢別にみると、40～64 歳で「利用者負担が増えること」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	利用者負担が増えること	利用時間が少なくなるこ と	これまで利用していた事 業所が使えなくなるこ と	これまで利用していた障 害福祉の類似サービスよ りも質が下がること	その他	特 に ない	無 回 答
全 体	823	31.2	6.8	5.3	6.4	3.3	43.3	19.2
18～39歳	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
40～64歳	343	32.9	7.0	6.4	7.3	3.5	46.1	14.6
65歳以上	468	30.3	6.8	4.7	6.0	3.2	41.5	21.8

【手帳の種類・診断別】

手帳の種類・診断別にみると、発達障害の診断を受けているで「これまで利用していた事業所が使えなくなるこ」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	利用者負担が増えること	利用時間が少なくなるこ と	これまで利用していた事 業所が使えなくなるこ と	これまで利用していた障 害福祉の類似サービスよ りも質が下がること	その他	特 に ない	無 回 答
全 体	823	31.2	6.8	5.3	6.4	3.3	43.3	19.2
身体障害者手帳	462	29.7	7.6	5.4	7.1	2.8	42.4	21.4
愛の手帳（療育手帳）	48	25.0	8.3	12.5	12.5	4.2	31.3	37.5
精神障害者保健福祉手帳	146	39.0	6.2	8.9	6.2	8.9	39.0	10.3
発達障害の診断を受けている	14	42.9	14.3	21.4	14.3	7.1	42.9	7.1
自立支援医療（精神通院医療）を受けている	174	32.8	5.2	5.2	5.7	5.2	47.7	13.8
難病又は小児慢性特定疾病の認定を受けている	121	34.7	5.0	3.3	6.6	0.0	52.1	11.6
その他	12	50.0	8.3	0.0	0.0	0.0	41.7	8.3

雇用・就労について

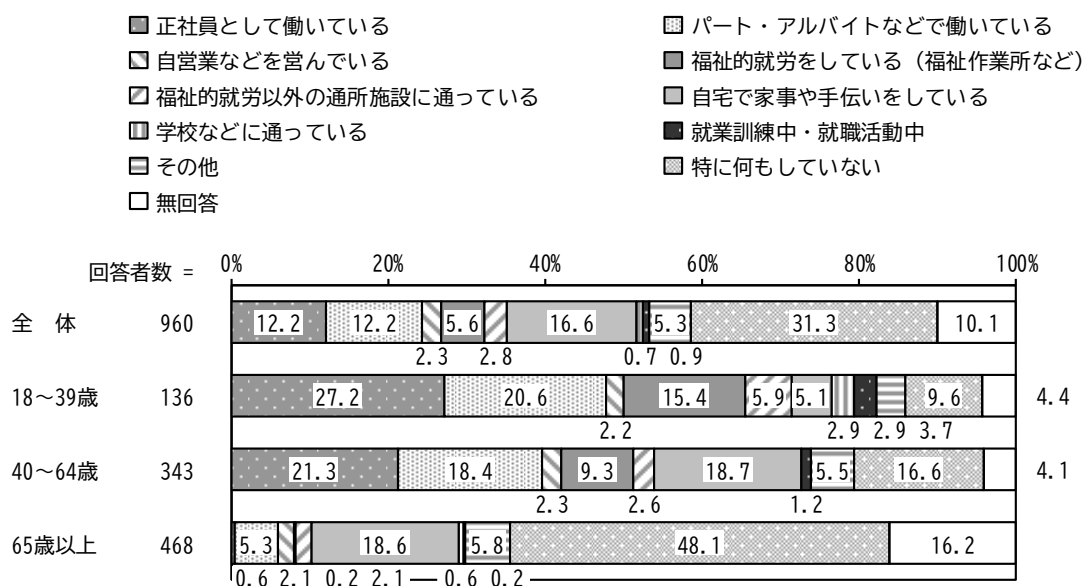
あなた（あて名のご本人）が18歳以上の場合のみお答えください。

問 41 あなたは普段、平日の日中をどのように過ごしていますか。（○印は1つ）

「自宅で家事や手伝いをしている」の割合が16.6%と最も高く、次いで「正社員として働いている」、「パート・アルバイトなどで働いている」の割合が12.2%となっています。

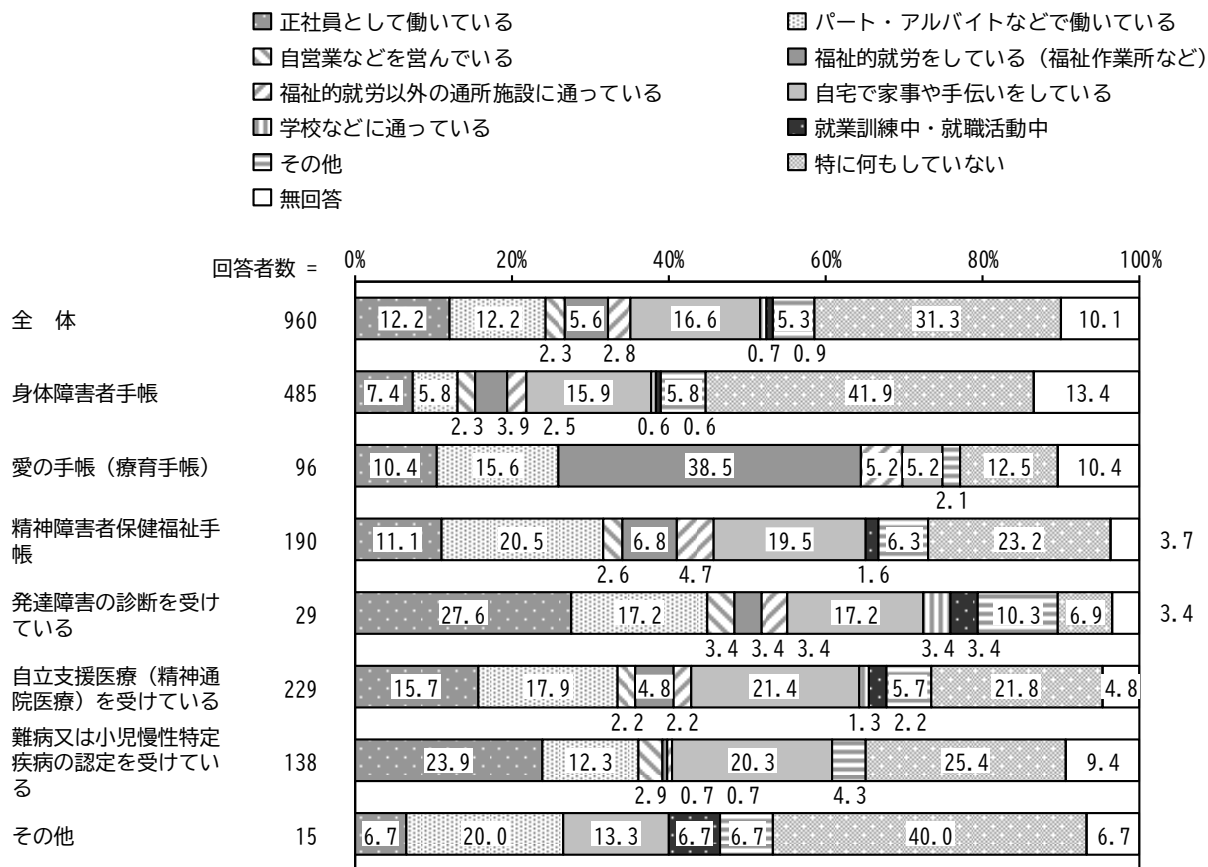
【年齢別】

年齢別にみると、年齢が下がるほど「正社員として働いている」「パート・アルバイトなどで働いている」「福祉的就労をしている（福祉作業所など）」の割合が高くなっています。また、40～64歳で「自宅で家事や手伝いをしている」の割合が高くなっています。



【手帳の種類・診断別】

手帳の種類・診断別にみると、発達障害の診断を受けているで「正社員として働いている」、精神障害者保健福祉手帳、自立支援医療（精神通院医療）を受けているで「パート・アルバイトなどで働いている」、愛の手帳（療育手帳）で「福祉的就労をしている（福祉作業所など）」の割合が高くなっています。



問 41 で「正社員として働いている」～「福祉的就労をしている（福祉作業所など）」に○をつけた方にお聞きます。

問 41－1 あなたが仕事をする上で困っていることはなんですか。（あてはまるものすべてに○印）

「給与・工賃などの収入が少ない」の割合が 32.3%と最も高く、次いで「精神的な負担が大きい」の割合が 20.0%、「通勤が大変」の割合が 19.0%となっています。

【年齢別】

年齢別にみると、年齢が下がるほど「給与・工賃などの収入が少ない」「通勤が大変」「精神的な負担が大きい」「職場の人間関係」「仕事が自分には合わない」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数（件）	給与・工賃などの収入が少ない	通勤が大変	身体的な負担が大きい	精神的な負担が大きい	障害に対する職場の理解が不足している	職場の人間関係	仕事が自分には合わない	その他	特に困っていることはない	無回答
全 体	310	32.3	19.0	14.5	20.0	6.8	15.2	5.2	4.2	30.0	3.9
18～39歳	89	42.7	22.5	11.2	25.8	7.9	23.6	10.1	6.7	23.6	2.2
40～64歳	176	31.3	18.8	17.0	21.6	7.4	14.2	4.0	3.4	27.8	3.4
65歳以上	39	15.4	12.8	10.3	2.6	2.6	2.6	0.0	2.6	51.3	10.3

【手帳の種類・診断別】

手帳の種類・診断別にみると、愛の手帳（療育手帳）で「給与・工賃などの収入が少ない」、難病又は小児慢性特定疾病の認定を受けているで「身体的な負担が大きい」、発達障害の診断を受けているで「精神的な負担が大きい」「障害に対する職場の理解が不足している」、精神障害者保健福祉手帳で「職場の人間関係」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数（件）	給与・工賃などの収入が少ない	通勤が大変	身体的な負担が大きい	精神的な負担が大きい	障害に対する職場の理解が不足している	職場の人間関係	仕事が自分には合わない	その他	特に困っていることはない	無回答
全 体	310	32.3	19.0	14.5	20.0	6.8	15.2	5.2	4.2	30.0	3.9
身体障害者手帳	94	23.4	23.4	11.7	8.5	3.2	9.6	1.1	7.4	38.3	6.4
愛の手帳（療育手帳）	62	48.4	19.4	4.8	6.5	3.2	12.9	1.6	6.5	24.2	4.8
精神障害者保健福祉手帳	78	39.7	21.8	17.9	35.9	17.9	25.6	11.5	5.1	15.4	1.3
発達障害の診断を受けている	15	33.3	13.3	6.7	46.7	26.7	13.3	6.7	6.7	6.7	0.0
自立支援医療（精神通院医療）を受けている	93	36.6	21.5	19.4	37.6	10.8	21.5	10.8	2.2	22.6	0.0
難病又は小児慢性特定疾病の認定を受けている	55	23.6	14.5	25.5	23.6	5.5	12.7	1.8	1.8	32.7	1.8
その他	4	25.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	25.0	0.0

問 41 で「福祉的就労をしている（福祉作業所など）」、「福祉的就労以外の通所施設に通っている」に○をつけた方にお聞きします。

問 41－2 日中活動終了後、どのように過ごしていますか。また、どのように過ごしたいですか。自由にご記入ください。

全体で 61 件の意見がありました。

No	内容	件数
1	余暇活動・休息	24 件
1	自宅で過ごす	18 件
4	家事等をして過ごす	7 件
5	グループホームで過ごす	7 件
6	その他	5 件

余暇活動・休息

ゆっくりしたい
何も出来ない。休みたい
寝る（同内容ほか 1 件）
疲れるので横になる
活動終了後に仮眠をとっています。休憩がとれる場所で静かにすごしたいです
会社の休める場所にとどまるなどして元気が戻るのを待つ、独りで静かにしたい
ゆっくりと過ごしたい
家で TV を見たりして、翌日の仕事のためにゆっくり休む
仕事の事を考えない様にゆっくりしている
セルフケアのため、音楽を聴いてる。
休みの日は、きぶんでんかんをでかけるようにしたい
ほぼ部屋の中で TV を見て居る
気軽に行ける場所で気にしないで話せる人とがいるといい
自宅で楽器練習を行っている
買い物、自宅で過ごす。行きたい所にアクティブに行けるようになりたい、趣味活動もしたい
動画を見たり、配信をしたりして過ごしています
（月）居宅介護サービス、（木）青年余暇活動施設、隔週（火）ダンスサークル、月 2 回映像体験、月 1 回祖父宅訪問、年 3 回家族旅行それ以外は自宅
スポーツ観戦
夜仕事が終われば食事に帰宅、余暇を楽しむ。朝仕事が終われば食事や散歩を楽しむ
自宅で過ごすことが多いが、親と散歩したり、外食したり、イベントがあると、一緒に行ったりしている
無料でのコンサートをさがして行っている。月 1 回くらい行く。よく歩くことを毎日している
デイサービスから帰ってからは家でテレビを観て過ごしている
なるべく外に出て町を歩くようにしています

自宅で過ごす

家でテレビを見ています
家にいたい（同内容ほか1件）
家で体をやすめる
家
家で家族と過ごしている。車椅子とベッド間の移動は家族が、食事は家族と共に摂る。訪問リハビリと訪問看護を受けている。自室のテレビを見る
週3回午前中の通所リハビリでお世話になっています1人では活動出来ないし介助者が高齢者なのでほとんど家に居るより方法はない
自宅で過ごしている
自宅でゆっくりする
自宅でノンビリと過ごす（同内容ほか1件）
自宅にまっすぐ帰っています自宅
自宅
自宅で体を休めて、ゆっくり過ごしている。たまに長時間街歩きをしたりしたい
1秒でも早く自宅に帰りたいので直帰している。自宅で1人になる時間を作ってほとんどスマホを利用して過ごしている。今後なるべく1人になりたい
なるべく自宅で過ごしたい
自宅に帰る。人と関わるのがいやですが、年金だけだと生活ができないので、月に5～10日くらい働いているが、それ以外は、1日中家に居る
週4日間、パートで働いています。帰宅後、自宅での仕事をしています

家事等をして過ごす

子どものおむかえ、家事、育児
少しの買い物を含む家事手伝い
家事、家のこと
難聴ですが補聴器利用して98才の主人と生活しています。歩行器を使って買物もしていますが時々冷凍の弁当で食事しています
娘が仕事から帰宅するまで、孫の世話
子どものおむかえ、家事、育児
少しの買い物を含む家事手伝い。気軽に行ける場所で気にしないで話せる人とがいるといい

グループホームで過ごす

グループホームで過ごしたい
グループホームでテレビを観たり、ゲームをしたりして過ごしている
グループホームに戻りいつものルーティンワークをこなしている
所沢のグループホーム（ソーシャル、インクル荒幡）と言う所に入所しています。そこに居て（月～土）までしあわせの里と言う所からバスでおくり迎えしてくれてます（朝～夕方まで）
グループホームで過ごしたり、ガイドヘルパーさんとプールに行ったりしている
仕事が早く終わるので、グループホームに戻ってからや、休みの日はテレビかユーチューブばかり見ている支援を受けて、カラオケやカフェに行きたい
グループホームに帰り、居室で過ごしたり、仲間と過ごしたりしている

その他

特になし
自由に生活したい
今は仕事をしていない
もう少し工賃を上げてもらいたい
週4日9時から16時15分まで授産所で仕事をしている

問 41 で「福祉的就労以外の通所施設に通っている」、「自宅で家事や手伝いをしている」、「その他」に○をつけた方にお聞きします。

問 41－3 あなたが就労していない理由はなんですか。(あてはまるものすべてに○印)

「高齢だから」の割合が 44.7%と最も高く、次いで「障害や病気が重いから」の割合が 27.0%、「働くための知識や能力に自信がないから」、「通勤が困難だから」の割合が 12.7%となっています。

【年齢別】

年齢別にみると、年齢が下がるほど「自分に合った仕事が見つからないから」「働くための知識や能力に自信がないから」の割合が高く、「高齢だから」の割合が低くなっています。また、40～64 歳で「障害や病気が重いから」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	障害や病気が重いから	高齢だから	自分に合った仕事が見つからないから	希望に合った求人が見つからないから	働くための知識や能力に自信がないから	職場の障害理解に不安があるから	通勤が困難だから	仕事以外のことをしたいから	その他	わからない	無回答
全 体	237	27.0	44.7	9.7	11.0	12.7	7.2	12.7	3.4	15.6	3.4	10.5
18～39歳	20	30.0	0.0	30.0	15.0	30.0	10.0	10.0	5.0	15.0	5.0	15.0
40～64歳	92	39.1	14.1	15.2	17.4	20.7	14.1	21.7	4.3	27.2	6.5	7.6
65歳以上	124	17.7	74.2	2.4	5.6	4.0	1.6	6.5	2.4	7.3	0.8	12.1

【手帳の種類・診断別】

手帳の種類・診断別にみると、愛の手帳（療育手帳）で「障害や病気が重いから」「働くための知識や能力に自信がないから」「職場の障害理解に不安があるから」、身体障害者手帳で「高齢だから」、精神障害者保健福祉手帳で「自分に合った仕事が見つからないから」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	障害や病気が重いから	高齢だから	自分に合った仕事が見つからないから	希望に合った求人が見つからないから	働くための知識や能力に自信がないから	職場の障害理解に不安があるから	通勤が困難だから	仕事以外のことをしたいから	その他	わからない	無回答
全 体	237	27.0	44.7	9.7	11.0	12.7	7.2	12.7	3.4	15.6	3.4	10.5
身体障害者手帳	117	23.9	59.8	3.4	5.1	7.7	6.0	11.1	3.4	10.3	3.4	12.0
愛の手帳（療育手帳）	12	50.0	0.0	16.7	16.7	33.3	25.0	16.7	8.3	16.7	8.3	16.7
精神障害者保健福祉手帳	58	41.4	15.5	22.4	17.2	24.1	12.1	17.2	5.2	20.7	6.9	8.6
発達障害の診断を受けている	9	44.4	0.0	44.4	22.2	55.6	33.3	33.3	22.2	33.3	0.0	22.2
自立支援医療（精神通院医療）を受けている	67	34.3	26.9	16.4	16.4	16.4	10.4	16.4	3.0	31.3	1.5	9.0
難病又は小児慢性特定疾病の認定を受けている	35	31.4	54.3	2.9	8.6	8.6	2.9	17.1	5.7	5.7	2.9	2.9
その他	3	0.0	66.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0

全ての方にお聞きします

問 42 あなたは、就労していくためには、どのような支援が必要だと思いますか。（あてはまるものすべてに○印）

「障害や病気などに応じた柔軟な勤務体制」の割合が 34.7%と最も高く、次いで「仕事探しから就労までの総合的な相談支援」の割合が 34.5%、「障害の特性にあった職業・雇用の拡大」の割合が 30.1%となっています。

【年齢別】

年齢別にみると、年齢が下がるほど「仕事探しから就労までの総合的な相談支援」「働くための知識や能力を身につけるための訓練」「職場を理解するための就労体験」「障害の特性にあった職業・雇用の拡大」「障害に対する理解を深めるための職場への働きかけ」「職場のバリアフリー化」「障害や病気などに応じた柔軟な勤務体制」「ジョブコーチや介助者が職場に定着し、支援を受けられる環境」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	仕事探しから就労までの総合的な相談支援	働くための知識や能力を身につけるための訓練	職場を理解するための就労体験	障害の特性にあった職業・雇用の拡大	障害に対する理解を深めるための職場への働きかけ	職場のバリアフリー化	障害や病気などに応じた柔軟な勤務体制	ジョブコーチや介助者が職場に定着し、支援を受けられる環境	その他	無回答
全 体	960	34.5	22.1	12.7	30.1	21.3	12.1	34.7	10.8	11.5	27.5
18～39歳	136	58.8	36.8	25.0	51.5	33.1	14.7	55.1	22.1	13.2	4.4
40～64歳	343	39.7	26.5	17.5	35.6	28.0	13.1	43.4	11.4	10.2	16.0
65歳以上	468	23.9	14.3	5.6	19.9	12.4	10.5	22.4	7.3	11.8	42.7

【手帳の種類・診断別】

手帳の種類・診断別にみると、発達障害の診断を受けているで「仕事探しから就労までの総合的な相談支援」「働くための知識や能力を身につけるための訓練」「職場を理解するための就労体験」「障害の特性にあった職業・雇用の拡大」「障害に対する理解を深めるための職場への働きかけ」「障害や病気などに応じた柔軟な勤務体制」、愛の手帳（療育手帳）、発達障害の診断を受けているで「ジョブコーチや介助者が職場に定着し、支援を受けられる環境」の割合が高くなっています。

単位：％

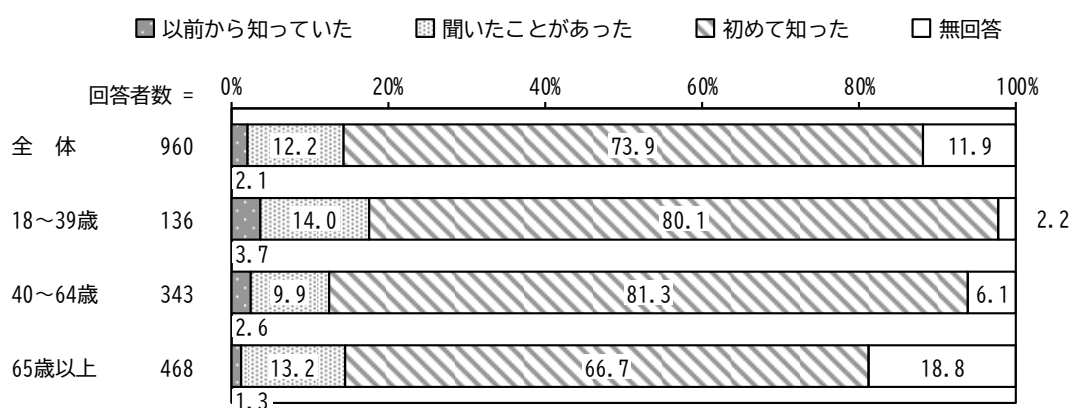
区分	回答者数（件）	仕事探しから就労までの総合的な相談支援	働くための知識や能力を身につけるための訓練	職場を理解するための就労体験	障害の特性にあった職業・雇用の拡大	障害に対する理解を深めるための職場への働きかけ	職場のバリアフリー化	障害や病気などに応じた柔軟な勤務体制	ジョブコーチや介助者が職場に定着し、支援を受けられる環境	その他	無回答
全 体	960	34.5	22.1	12.7	30.1	21.3	12.1	34.7	10.8	11.5	27.5
身体障害者手帳	485	25.6	14.8	6.2	24.7	16.5	13.8	28.0	7.6	13.2	35.7
愛の手帳（療育手帳）	96	42.7	28.1	26.0	47.9	33.3	14.6	35.4	28.1	13.5	14.6
精神障害者保健福祉手帳	190	46.8	33.7	22.1	44.7	31.6	9.5	50.0	17.4	12.1	15.3
発達障害の診断を受けている	29	65.5	58.6	37.9	62.1	55.2	10.3	72.4	31.0	17.2	0.0
自立支援医療（精神通院医療）を受けている	229	45.4	32.8	23.6	38.4	28.8	11.8	50.7	18.3	10.5	11.8
難病又は小児慢性特定疾病の認定を受けている	138	34.1	18.1	6.5	26.8	18.1	10.1	32.6	3.6	8.7	31.2
その他	15	46.7	6.7	6.7	20.0	6.7	6.7	0.0	26.7	6.7	33.3

問 43 令和7年10月1日から、障害者本人が就労先及び働き方についてより良い選択ができるよう、就労アセスメント（就労系サービスの利用意向がある障害者との協同による、就労ニーズの把握や能力・適正の評価及び就労開始後の配慮事項等の整理）の手法を活用して、本人の希望、就労能力、適性等に合った選択を支援する「就労選択支援」が創設されました。あなたは、「就労選択支援」について知っていますか。（○印は1つ）

「以前から知っていた」の割合が2.1%、「聞いたことがあった」の割合が12.2%、「初めて知った」の割合が73.9%となっています。

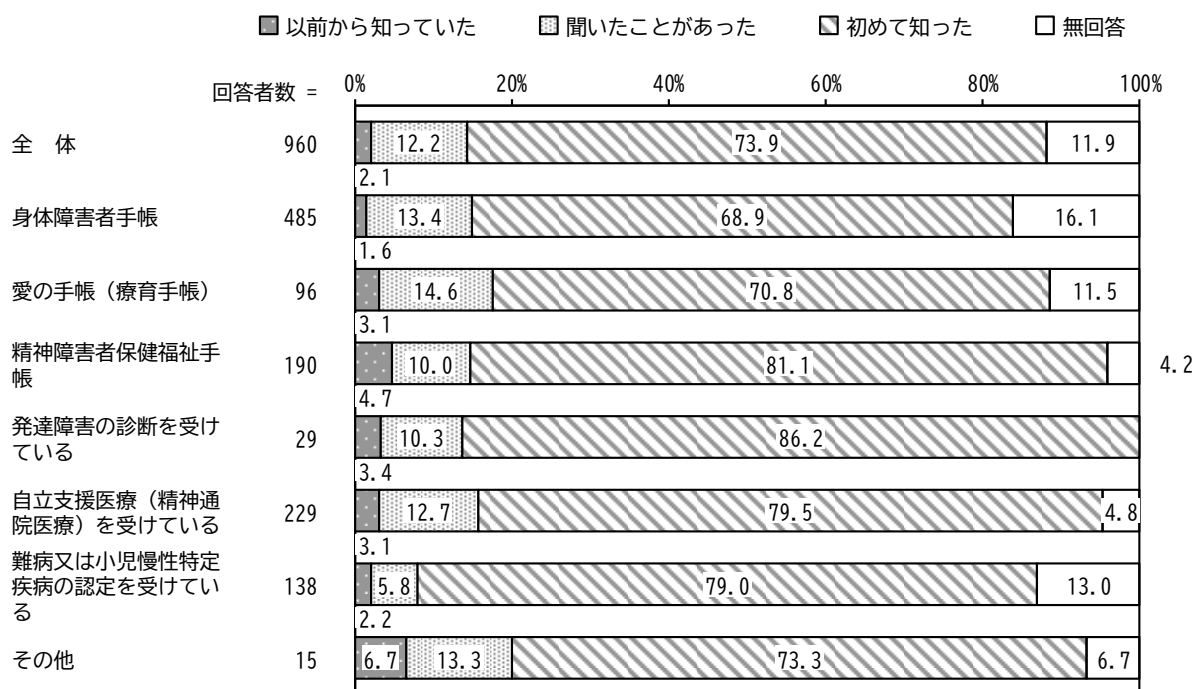
【年齢別】

年齢別にみると、18～39歳、40～64歳で「初めて知った」の割合が高くなっています。



【手帳の種類・診断別】

手帳の種類・診断別にみると、発達障害の診断を受けているで「初めて知った」の割合が高くなっています。

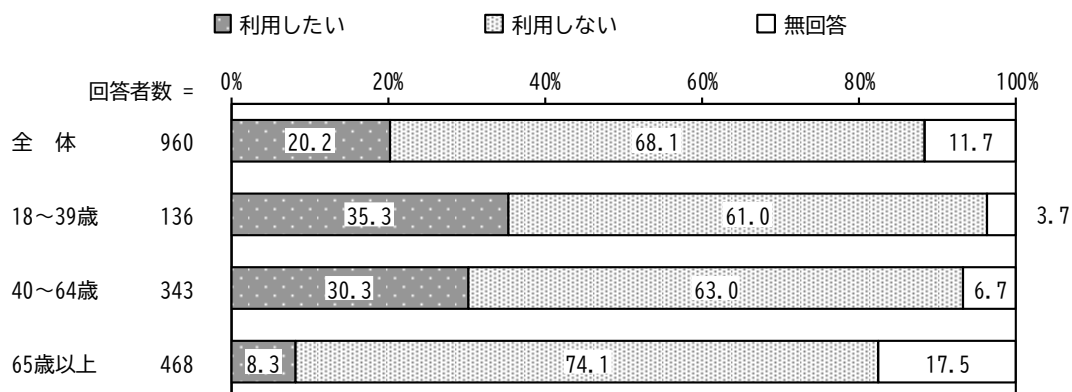


問 44 あなたは今後、就労選択支援を利用したいと思いますか。(○印は1つ)

「利用したい」の割合が 20.2%、「利用しない」の割合が 68.1%となっています。

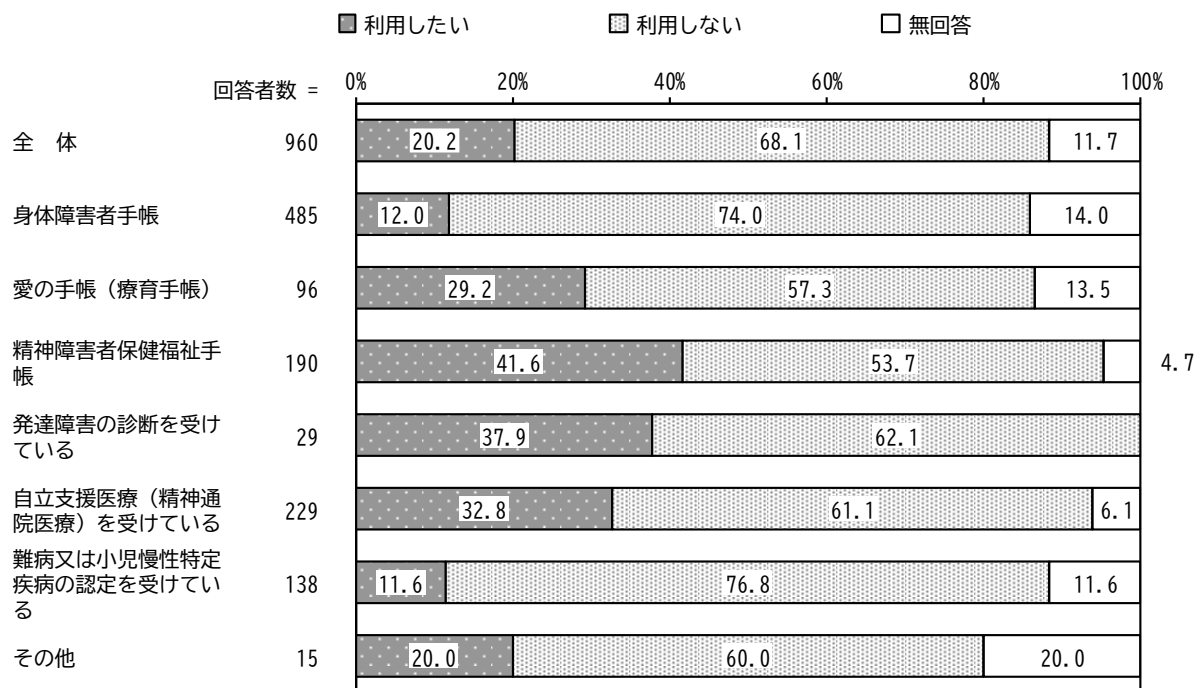
【年齢別】

年齢別にみると、年齢が上がるほど「利用しない」の割合が高くなっています。



【手帳の種類・診断別】

手帳の種類・診断別にみると、精神障害者保健福祉手帳で「利用したい」の割合が高くなっています。



東久留米市の障害福祉施策について

問 45 福祉に関する情報は、主にどこから得ていますか。(○印は3つまで)

「市や社会福祉協議会等の広報紙」の割合が 46.5%と最も高く、次いで「インターネット」の割合が 17.6%、「市や都の窓口」の割合が 15.6%となっています。

【年齢別】

年齢別にみると、年齢が上がるほど「市や社会福祉協議会等の広報紙」「テレビやラジオ」「新聞・雑誌」の割合が高く、「インターネット」の割合が低くなっています。また、18～39 歳で「家族・親戚」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	市や社会福祉協議 会等の広報紙	声の広報	テレビやラジオ	新聞・雑誌	インターネット	障害者団体	民生委員・児童委 員、身体・知的障害 者相談員	ホームヘルパー
全 体	960	46.5	1.1	8.6	8.1	17.6	1.6	2.0	3.1
18～39歳	136	36.8	0.7	5.1	2.2	33.8	3.7	1.5	0.0
40～64歳	343	43.4	0.9	7.0	4.1	25.1	2.6	1.7	1.7
65歳以上	468	51.5	1.3	10.9	12.8	7.5	0.2	2.4	5.1

区分	家族・親戚	友人・知人	医療機関	市や都の窓口	障害者の福祉施設	その他	情報は得られてい ない	無回答
全 体	10.4	6.9	15.0	15.6	6.7	2.9	11.0	9.0
18～39歳	21.3	10.3	20.6	17.6	14.0	4.4	9.6	2.2
40～64歳	8.5	5.5	18.1	14.3	8.5	2.3	14.6	5.5
65歳以上	9.0	6.8	11.1	15.8	3.4	3.0	8.8	13.5

【手帳の種類・診断別】

手帳の種類・診断別にみると、発達障害の診断を受けているで「インターネット」「家族・親戚」「友人・知人」「医療機関」、愛の手帳（療育手帳）で「障害者の福祉施設」の割合が、身体障害者手帳で「市や社会福祉協議会等の広報紙」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	市や社会福祉協議会等の 広報紙	声の広報	テレビやラジオ	新聞・雑誌	インターネット	障害者団体	民生委員・児童委員、身 体・知的障害者相談員	ホームヘルパー
全 体	960	46.5	1.1	8.6	8.1	17.6	1.6	2.0	3.1
身体障害者手帳	485	51.8	1.4	10.5	11.3	11.8	0.8	2.3	5.2
愛の手帳（療育手帳）	96	39.6	0.0	3.1	0.0	7.3	10.4	5.2	1.0
精神障害者保健福祉手帳	190	40.5	0.5	7.9	5.3	31.1	1.1	1.6	1.6
発達障害の診断を受けている	29	37.9	0.0	0.0	0.0	51.7	0.0	0.0	0.0
自立支援医療（精神通院医療）を受けている	229	41.9	1.3	8.7	5.2	31.0	1.7	1.3	2.2
難病又は小児慢性特定疾病の認定を受けている	138	43.5	0.7	8.0	6.5	16.7	0.0	1.4	1.4
その他	15	26.7	0.0	0.0	6.7	13.3	0.0	20.0	0.0

区分	家族・親戚	友人・知人	医療機関	市や都の窓口	障害者の福祉施設	その他	情報は得られていない	無回答
全 体	10.4	6.9	15.0	15.6	6.7	2.9	11.0	9.0
身体障害者手帳	9.9	6.4	11.1	16.3	6.2	3.5	9.3	9.9
愛の手帳（療育手帳）	14.6	8.3	5.2	19.8	30.2	1.0	10.4	8.3
精神障害者保健福祉手帳	11.1	9.5	24.2	18.9	7.9	4.2	9.5	4.7
発達障害の診断を受けている	20.7	20.7	27.6	13.8	10.3	6.9	10.3	6.9
自立支援医療（精神通院医療）を受けている	11.4	7.9	24.9	14.0	5.2	3.9	10.0	6.6
難病又は小児慢性特定疾病の認定を受けている	8.7	6.5	17.4	15.2	1.4	1.4	15.9	10.1
その他	0.0	0.0	6.7	33.3	0.0	6.7	13.3	20.0

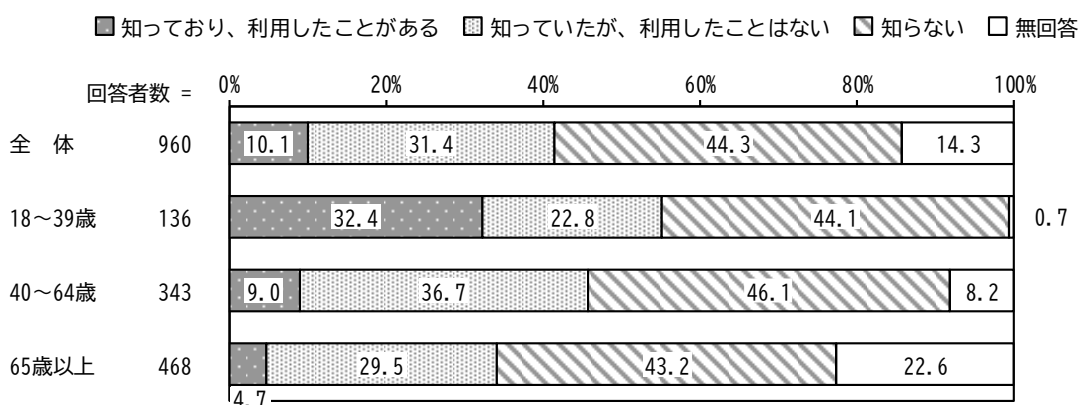
問 46 次の障害者（児）に関する市の相談窓口を知っていますか。また、それらを利用したことはありますか。（①～⑦までそれぞれに○印は1つ）

『④市役所内ワークコーナー（ハローワーク窓口）』で「知っており、利用したことがある」が、『⑥社会福祉協議会』で「知っていたが、利用したことはない」が、『⑤障害者虐待防止センター（市障害福祉課）』で「知らない」が高くなっています。

①さいわい福祉センター

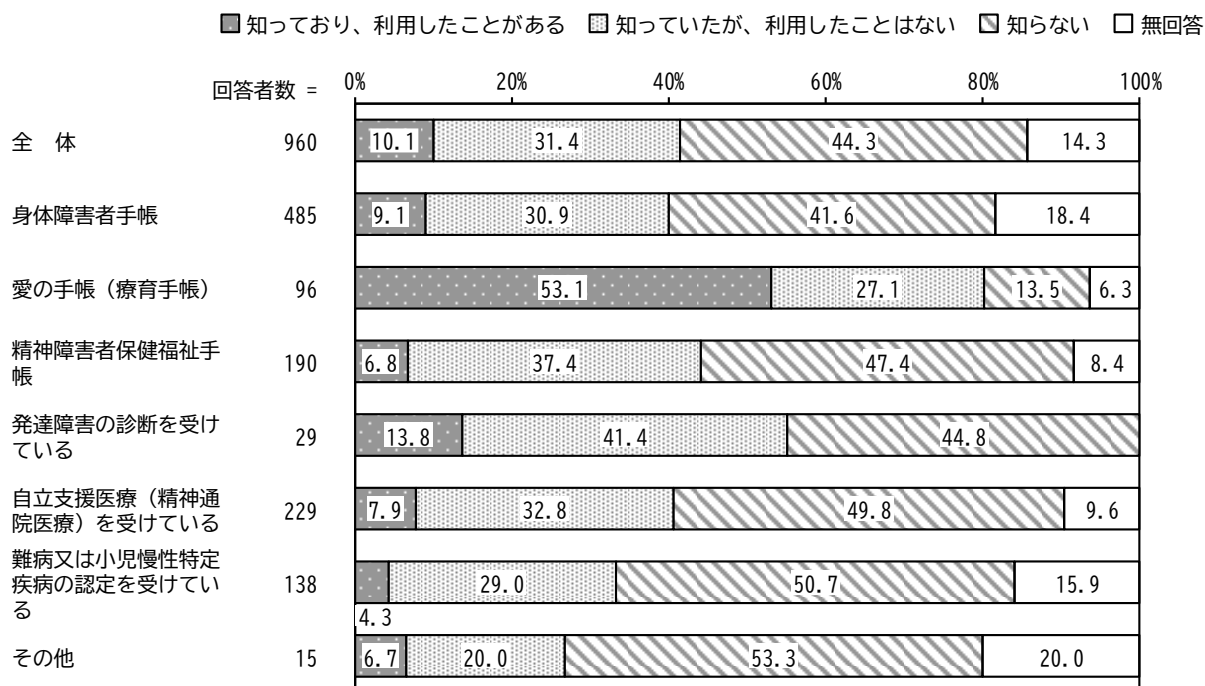
【年齢別】

年齢別にみると、年齢が下がるほど「知っており、利用したことがある」の割合が高くなっています。



【手帳の種類・診断別】

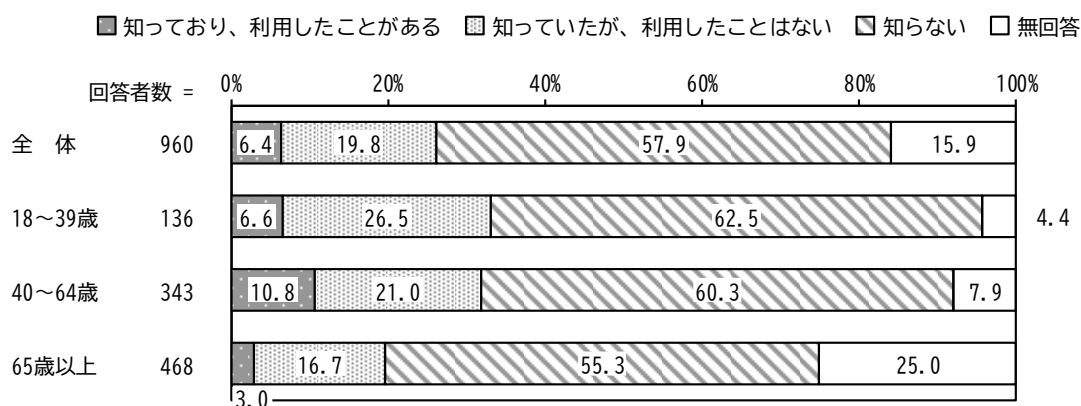
手帳の種類・診断別にみると、愛の手帳（療育手帳）で「知っており、利用したことがある」、発達障害の診断を受けているで「知っていたが、利用したことはない」の割合が高くなっています。



②地域生活支援センターめるくまーる

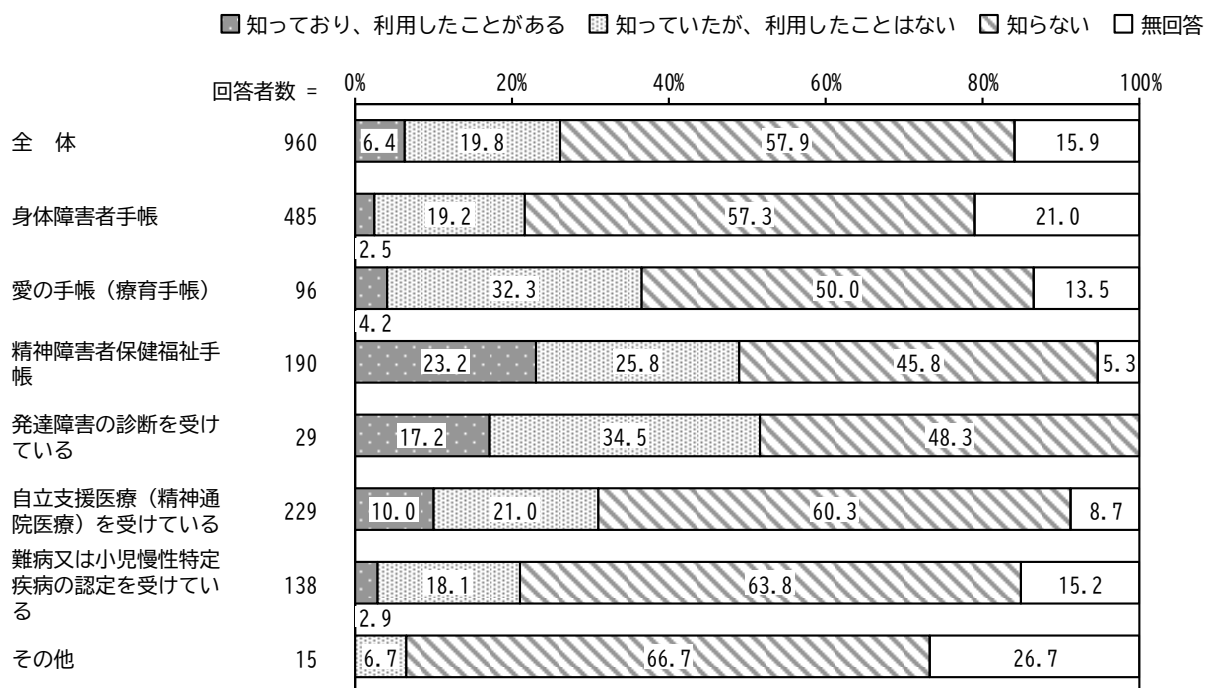
【年齢別】

年齢別にみると、年齢が下がるほど「知っていたが、利用したことはない」「知らない」の割合が高くなっています。



【手帳の種類・診断別】

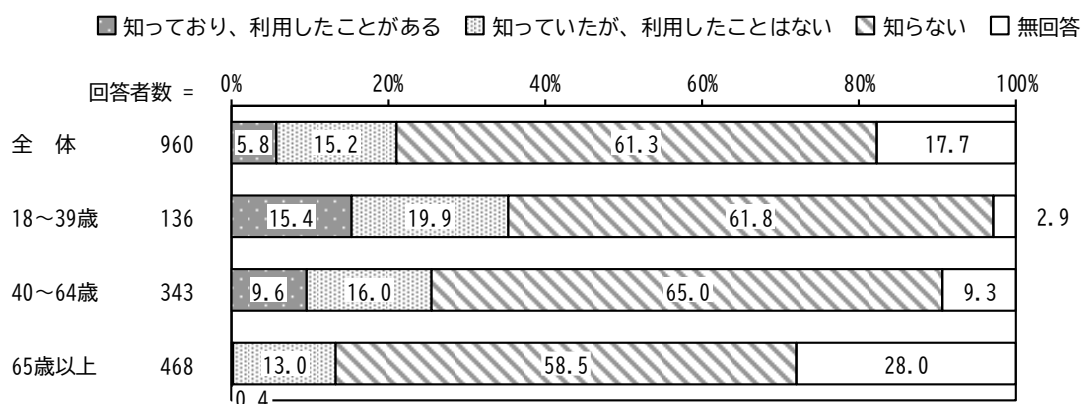
手帳の種類・診断別にみると、精神障害者保健福祉手帳で「知っており、利用したことがある」、愛の手帳（療育手帳）、発達障害の診断を受けているで「知っていたが、利用したことはない」の割合が高くなっています。



③障害者就労支援室「さいわい」「あおぞら」

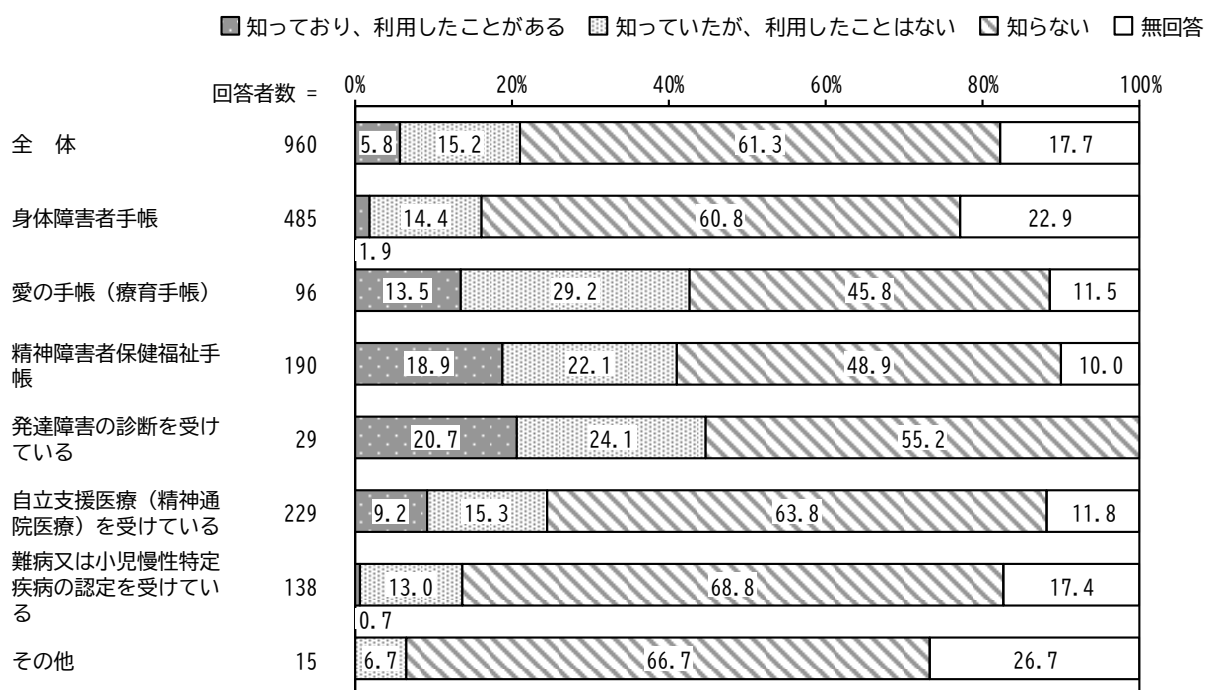
【年齢別】

年齢別にみると、年齢が下がるほど「知っており、利用したことがある」「知っていたが、利用したことはない」の割合が高くなっています。



【手帳の種類・診断別】

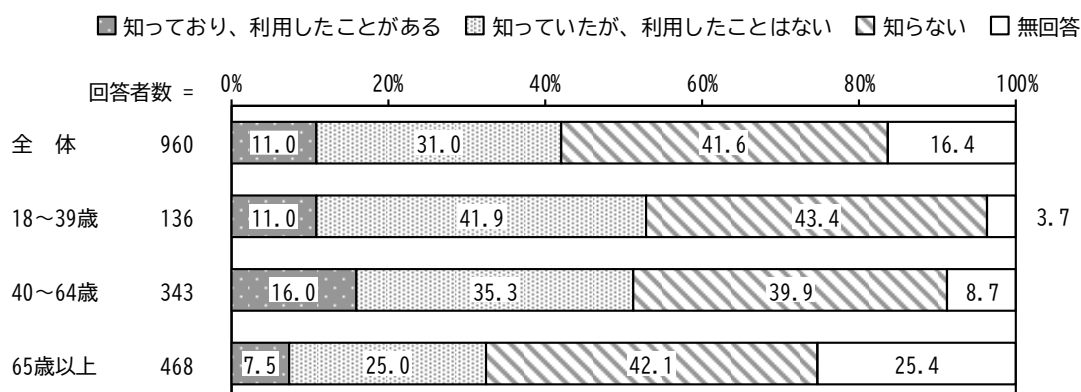
手帳の種類・診断別にみると、精神障害者保健福祉手帳、発達障害の診断を受けているで「知っており、利用したことがある」、愛の手帳（療育手帳）で「知っていたが、利用したことはない」の割合が高くなっています。



④市役所内ワークコーナー（ハローワーク窓口）

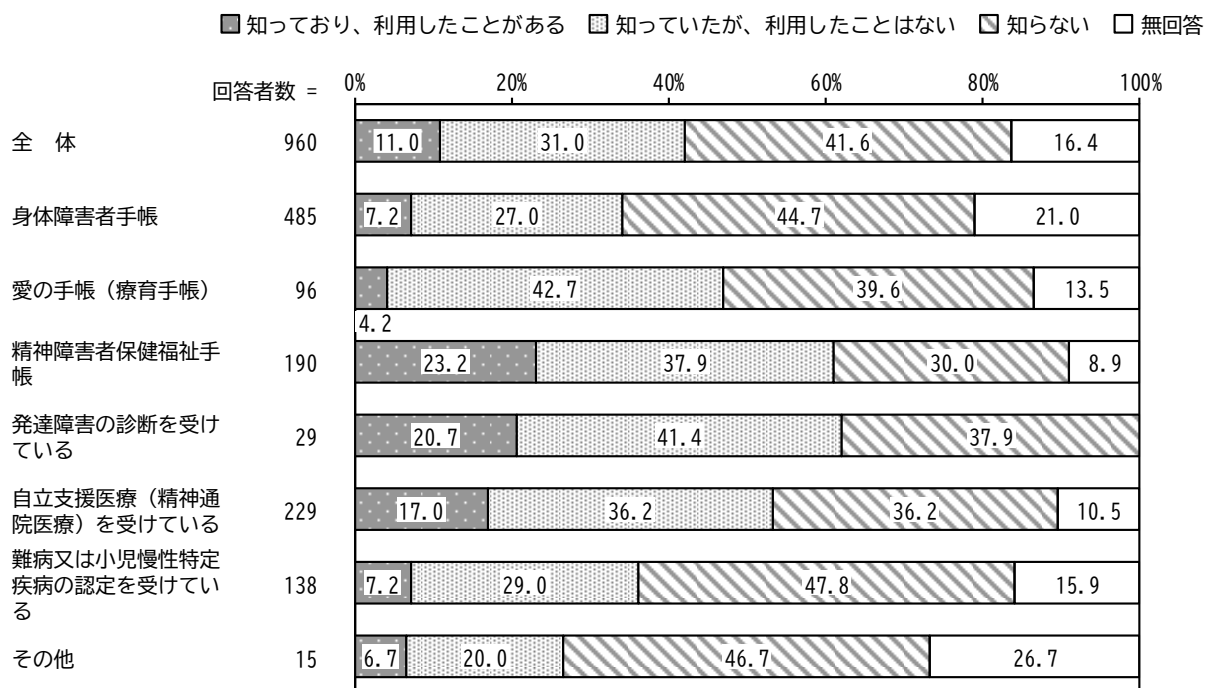
【年齢別】

年齢別にみると、年齢が下がるほど「知っていたが、利用したことはない」の割合が高くなっています。



【手帳の種類・診断別】

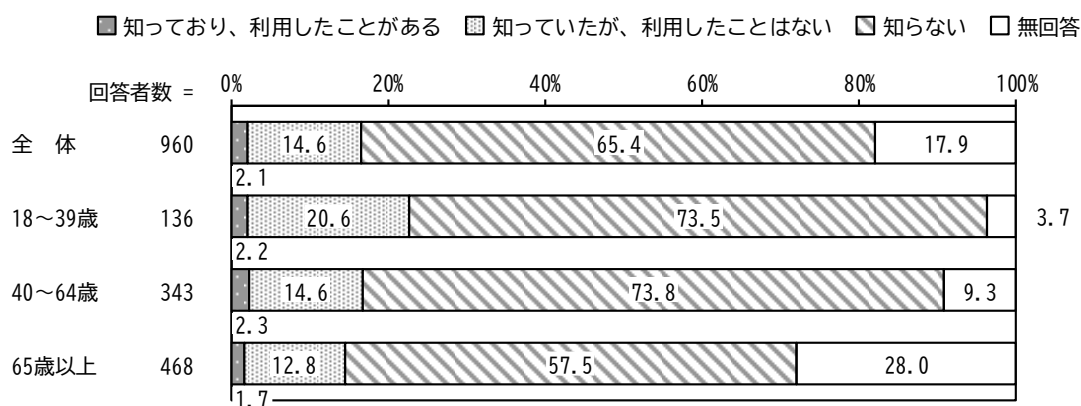
手帳の種類・診断別にみると、精神障害者保健福祉手帳で「知っており、利用したことがある」、愛の手帳（療育手帳）、発達障害の診断を受けているで「知っていたが、利用したことはない」の割合が高くなっています。



⑤障害者虐待防止センター（市障害福祉課）

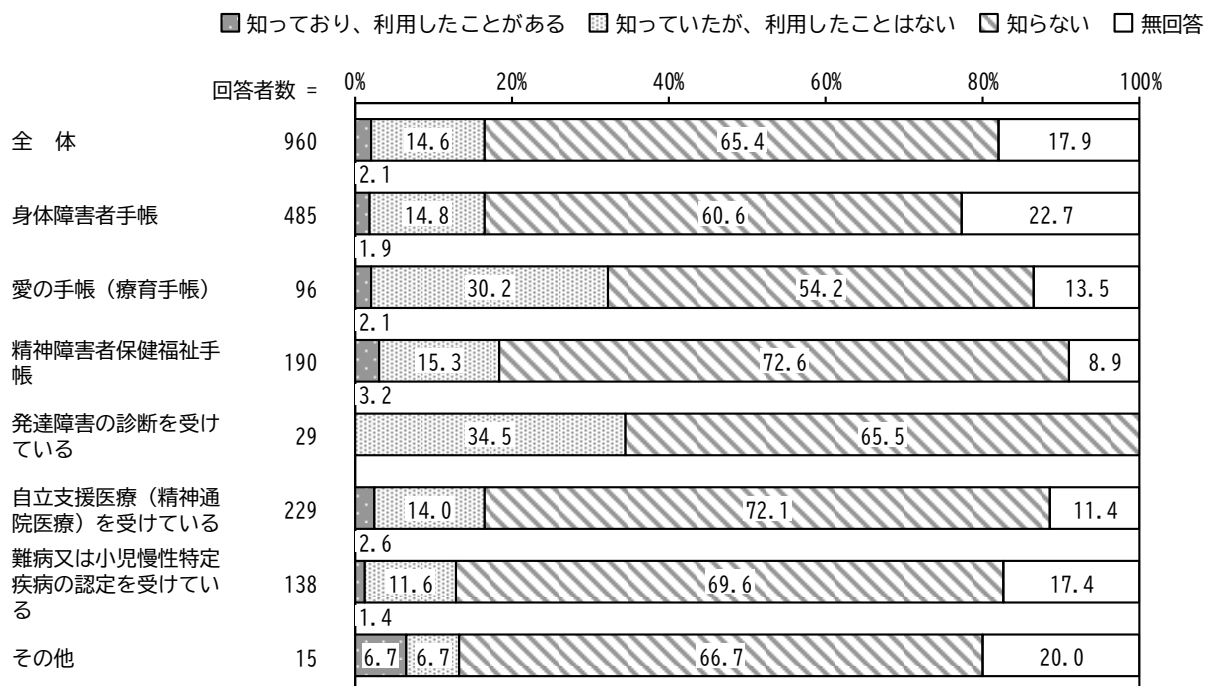
【年齢別】

年齢別にみると、年齢が下がるほど「知っていたが、利用したことはない」の割合が高くなっています。



【手帳の種類・診断別】

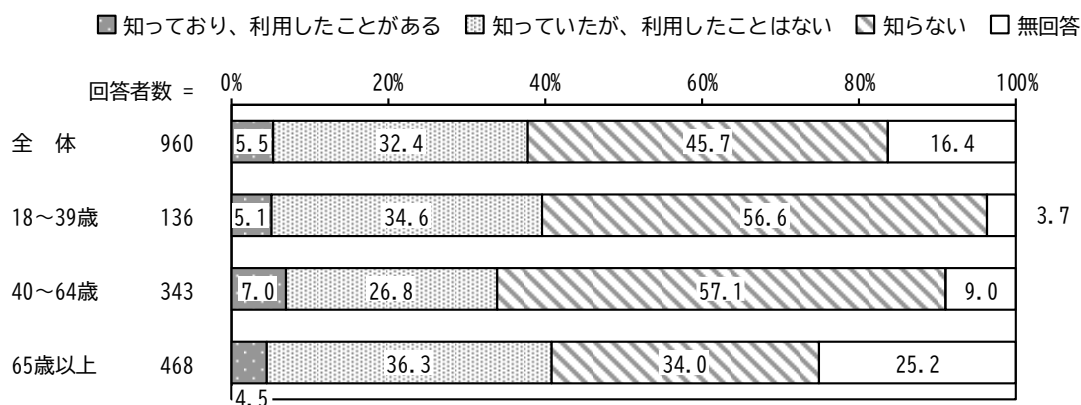
手帳の種類・診断別にみると、発達障害の診断を受けているで「知っていたが、利用したことはない」の割合が高く、愛の手帳（療育手帳）で「知らない」の割合が低くなっています。



⑥社会福祉協議会

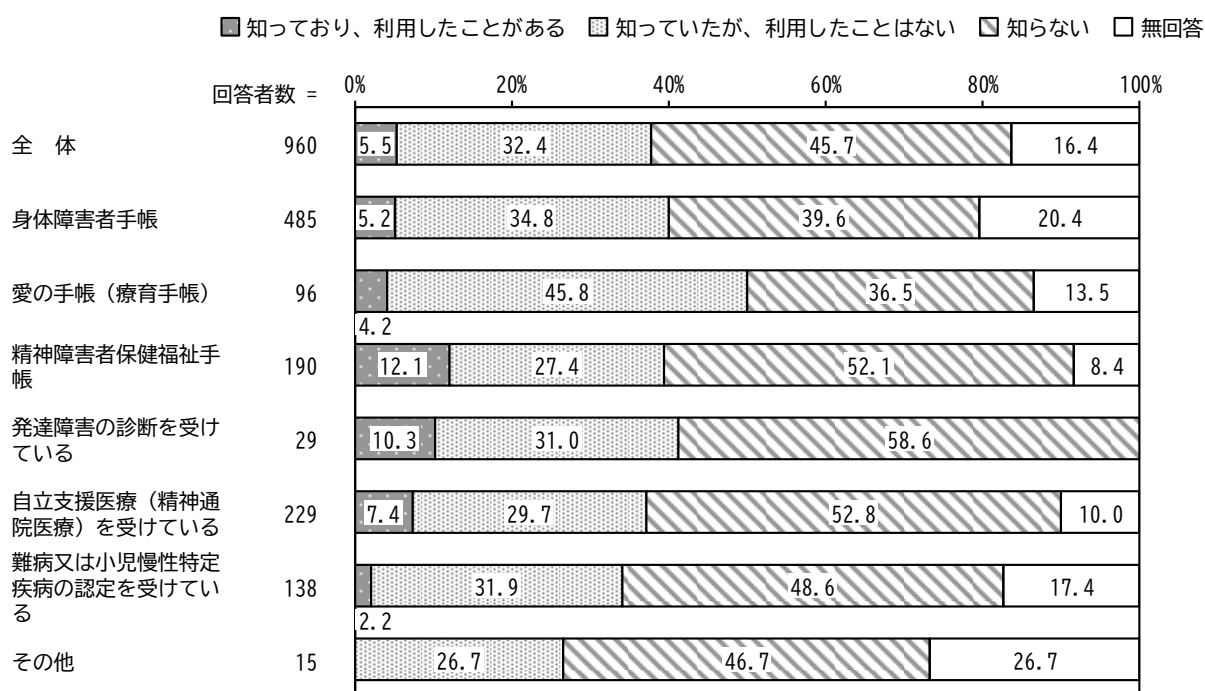
【年齢別】

年齢別にみると、18～39歳、40～64歳で「知らない」の割合が高くなっています。



【手帳の種類・診断別】

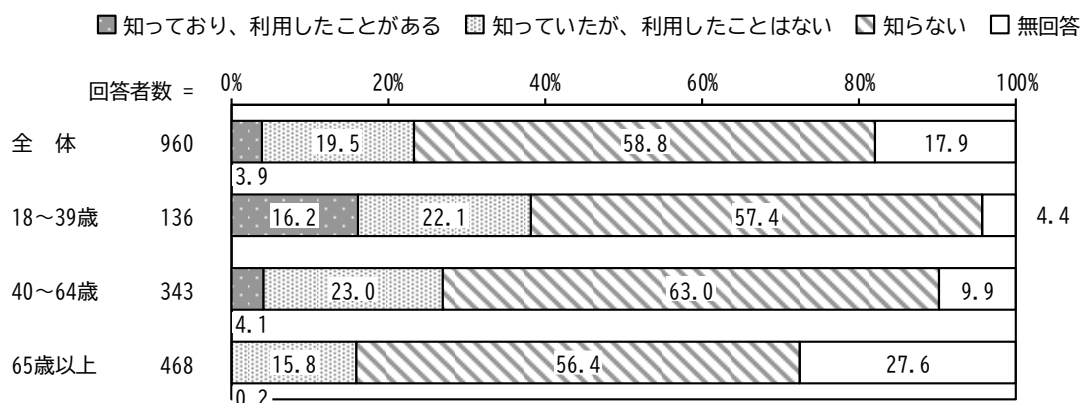
手帳の種類・診断別にみると、愛の手帳（療育手帳）で「知っていたが、利用したことはない」、発達障害の診断を受けているで「知らない」の割合が高くなっています。



⑦児童発達支援センターわかさ学園（児童）

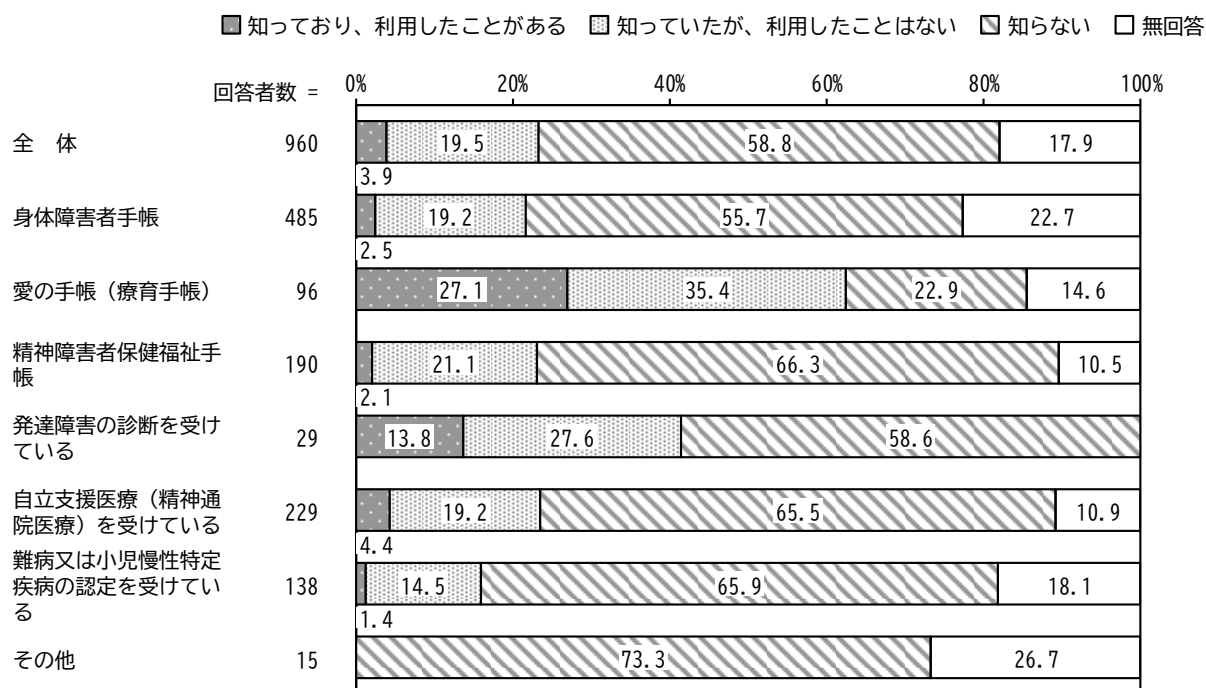
【年齢別】

年齢別にみると、年齢が下がるほど「知っており、利用したことがある」の割合が高くなっています。



【手帳の種類・診断別】

手帳の種類・診断別にみると、愛の手帳（療育手帳）で「知っており、利用したことがある」「知っていたが、利用したことはない」の割合が高くなっています。



問 47 あなたは、悩み事などを相談するときに、困り事や心配事がありますか。(あてはまるものすべてに○印)

「どこに問い合わせたらよいかわからない」の割合が 29.8%と最も高く、次いで「身近な場に相談するところがない」の割合が 12.8%となっています。

【年齢別】

年齢別にみると、年齢が下がるほど「どこに問い合わせたらよいかわからない」「身近な場に相談するところがない」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	どこに問い合わせたら よいかわからない	身近な場に相談する ところがない	電話やFAXを使っ て情報収集や相談を することができない	インターネットを使 って情報収集や相談 をすることができない	点字版や音声コード 、録音テープなどによ る情報提供が少ない	相談先で、周りの方 に相談内容が聞こえ てしまう	その他	家族や知人に相談 したり、情報を得ら れるのに特に困っ ていない	無回答
全 体	960	29.8	12.8	4.7	7.9	0.9	3.5	5.3	44.6	13.2
18～39歳	136	39.7	20.6	8.8	9.6	0.7	5.1	8.1	38.2	6.6
40～64歳	343	34.4	16.0	2.3	5.2	0.6	5.0	6.4	43.4	8.5
65歳以上	468	23.7	7.7	5.3	9.4	1.3	1.9	3.8	47.6	18.6

【手帳の種類・診断別】

手帳の種類・診断別にみると、精神障害者保健福祉手帳、発達障害の診断を受けているで「どこに問い合わせたらよいかわからない」、発達障害の診断を受けているで「身近な場に相談するところがない」「相談先で、周りの方に相談内容が聞こえてしまう」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数（件）	どこに問い合わせたら よいかわからない	身近な場に相談する ところがない	電話やFAXを使っ て情報収集や相談を することができない	インターネットを使 って情報収集や相談 をすることができない	点字版や音声コード 、録音テープなどに よる情報提供が少な い	相談先で、周りの方 に相談内容が聞こえ てしまう	その他	家族や知人に相談 したり、情報を得ら れるのに特に困っ ていない	無回答
全 体	960	29.8	12.8	4.7	7.9	0.9	3.5	5.3	44.6	13.2
身体障害者手帳	485	24.3	8.9	6.2	8.5	1.4	2.5	4.5	47.4	17.3
愛の手帳（療育手帳）	96	29.2	11.5	8.3	9.4	0.0	4.2	6.3	44.8	12.5
精神障害者保健福祉手帳	190	42.6	23.7	4.2	8.4	0.5	7.9	10.5	32.1	5.3
発達障害の診断を受けている	29	41.4	34.5	0.0	3.4	0.0	13.8	6.9	37.9	3.4
自立支援医療（精神通院医療）を受けている	229	39.3	21.0	3.5	6.6	0.4	6.1	7.9	38.4	7.0
難病又は小児慢性特定疾病の認定を受けている	138	30.4	12.3	1.4	5.1	0.0	5.1	1.4	51.4	9.4
その他	15	26.7	0.0	0.0	0.0	0.0	6.7	6.7	33.3	33.3

問 48 今後、市行政で重点的に取り組むべきと思う施策は何ですか。(○印は3つまで)

「災害時の支援」の割合が 25.4%と最も高く、次いで「障害者の就労支援の充実」の割合が 21.6%、「在宅でも医療を受けられる体制づくり」の割合が 20.0%となっています。

【年齢別】

年齢別にみると、年齢が下がるほど「教育と福祉の連携を強めること」「成人期の余暇活動のための居場所づくり」「障害者の就労支援の充実」「グループホームの施設整備」の割合が高く、「在宅でも医療を受けられる体制づくり」「バリアフリーのまちづくり」「災害時の支援」の割合が低くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	児童の発達相談を 切れ目なく受けら れる体制づくり	特別支援教育のい つその充実	教育と福祉の連携 を強めること	障害児の放課後や 余暇活動の充実	成人期の余暇活動 のための居場所づ くり	障害者(児)への虐 待の予防・権利擁護	障害者の就労支援 の充実	障害児保育の充実 等による親の就労 支援	就労系事業所の定 員の拡大	重度の障害者(児) の日中活動の充実 と場所の確保
全 体	960	8.6	5.4	11.5	3.4	7.4	6.0	21.6	2.9	4.0	2.2
18～39歳	136	11.8	5.9	19.1	6.6	22.1	8.8	33.8	3.7	7.4	4.4
40～64歳	343	7.9	6.1	11.4	3.5	7.9	7.6	25.9	2.9	5.8	1.7
65歳以上	468	8.3	4.7	9.0	2.6	2.8	4.1	15.0	2.8	1.7	1.7

区分	在宅でも医療を受 けられる体制づく り	グループホームの 施設整備	バリアフリーのま ちづくり	障害特性に応じた 情報提供	相談支援体制の強 化	障害者(児)への理 解を深めるための 講習やイベント	研修等による支援 者やボランティア の育成	災害時の支援	その他	無回答
全 体	20.0	10.4	16.1	12.4	12.8	2.4	4.8	25.4	4.5	20.2
18～39歳	11.8	17.6	9.6	14.0	14.7	5.1	5.1	15.4	7.4	10.3
40～64歳	14.3	10.5	15.5	14.3	12.0	2.3	3.8	25.7	5.8	16.6
65歳以上	26.3	8.1	18.6	10.0	12.8	1.7	5.6	28.2	2.6	25.9

【手帳の種類・診断別】

手帳の種類・診断別にみると、愛の手帳（療育手帳）で「成人期の余暇活動のための居場所づくり」「グループホームの施設整備」、精神障害者保健福祉手帳で「障害者の就労支援の充実」、発達障害の診断を受けているで「障害特性に応じた情報提供」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数（件）	児童の発達相談を切れ目なく受けられる体制づくり	特別支援教育のいっそうの充実	教育と福祉の連携を強めること	障害児の放課後や余暇活動の充実	成人期の余暇活動のための居場所づくり	障害者（児）への虐待の予防・権利擁護	障害者の就労支援の充実	障害児保育の充実等による親の就労支援	就労系事業所の定員の拡大	重度の障害者（児）の日常活動の充実と場所の確保
全 体	960	8.6	5.4	11.5	3.4	7.4	6.0	21.6	2.9	4.0	2.2
身体障害者手帳	485	7.6	4.3	8.9	3.5	4.7	4.1	17.3	2.3	2.9	2.1
愛の手帳（療育手帳）	96	7.3	5.2	8.3	4.2	26.0	4.2	21.9	0.0	4.2	5.2
精神障害者保健福祉手帳	190	6.3	6.3	12.1	3.7	6.8	6.8	36.3	4.7	6.8	1.6
発達障害の診断を受けている	29	13.8	13.8	3.4	6.9	10.3	13.8	31.0	10.3	3.4	0.0
自立支援医療（精神通院医療）を受けている	229	10.5	8.7	16.6	3.9	8.7	9.2	27.1	3.1	3.9	1.7
難病又は小児慢性特定疾病の認定を受けている	138	10.9	5.1	11.6	2.2	7.2	7.2	16.7	5.8	5.1	2.2
その他	15	6.7	6.7	6.7	0.0	6.7	13.3	20.0	0.0	6.7	0.0

区分	在宅でも医療を受けられる体制づくり	グループホームの施設整備	バリアフリーのまちづくり	障害特性に応じた情報提供	相談支援体制の強化	障害者（児）への理解を深めるための講習やイベント	研修等による支援者やボランティアの育成	災害時の支援	その他	無回答
全 体	20.0	10.4	16.1	12.4	12.8	2.4	4.8	25.4	4.5	20.2
身体障害者手帳	24.9	9.3	21.4	12.0	12.4	1.9	3.7	28.7	3.1	22.7
愛の手帳（療育手帳）	9.4	40.6	8.3	13.5	8.3	1.0	6.3	21.9	6.3	20.8
精神障害者保健福祉手帳	11.1	5.8	7.9	15.8	12.6	5.8	2.1	19.5	8.4	16.8
発達障害の診断を受けている	3.4	3.4	0.0	24.1	17.2	6.9	0.0	13.8	24.1	20.7
自立支援医療（精神通院医療）を受けている	16.2	6.6	7.4	13.1	13.1	3.9	5.2	19.7	8.7	15.7
難病又は小児慢性特定疾病の認定を受けている	28.3	10.1	21.0	7.2	15.2	1.4	8.7	30.4	2.9	15.2
その他	6.7	6.7	13.3	0.0	13.3	0.0	0.0	13.3	6.7	46.7

東久留米市の障害福祉施策について、ご意見やご要望などがありましたら、自由にご記入ください。

全体で 141 件の意見がありました。

No	内容	件数
1	サービス基盤に関すること	27 件
2	経済的支援に関すること	26 件
3	相談支援に関すること	19 件
4	市政全般に関すること	16 件
5	アンケートに関すること	14 件
6	移動支援に関すること	8 件
7	情報提供に関すること	6 件
8	地域で暮らすためのバリアフリー化に関すること	6 件
9	就労に関すること	6 件
10	生きがいづくりに関すること	2 件
11	障害児への療育、特別支援教育に関すること	2 件
12	その他	9 件

相談支援に関すること

現在は、親（父）が介護しているので、あまり心配はないと思うが、父が病気になったり、死亡したらどうしていいかわからない。父も 76 才で高齢者なので、将来が不安である
どこかの作業所に入所したいが、どの様にすれば入所できるかわからない
成年後見制度は、どの様にするのか
必ずしも、家族、家庭で、支えあえるわけではなく、いろいろな事状があります。それらに対応して頂きたいです
人に自分の言いたい事が伝わらない。どう伝えるかわからない。今からスマホで何でもしないとイケない。私にはついていけない
高齢者のため、当アンケートのお役に立てない解答で申しわけありません。パーキンソン病に伴う認知症が進行して、家族としては、不安でいっぱいですが、そのような心配事を聞いていただける機関をお教えいただけると助かります。以前地域包括センターに相談したことがありますが、具体的な内容にしかお答えできませんとお断りされたので
あまり遠くに行けない為、最寄りに相談する施設があってほしいです
色々な事がむずかしすぎて、何をどうしていいかわからない
きびしい時に助けてもらえる制度がなくて、とてもくるしです。又、日本なのに日本人にはやさしくなく様にしか思えませんでした
障害者に対して、病状、みまわり、など相談出来る体制があれば
今は、夫の理解があり自分で出来ない事（買い物や洗たく、ゴミ出し等）が何とかなっていますが 1 人になってしまった時、どうしたら良いか分からなくなりそうで怖いです
高齢で足の障害がある。色々なサービスを受け様と思っても、近所に協力者がいないと受けられない
家族は離れた所に居住。知人等は、高齢になり頼めない。どうしたら
現在夫以外に頼れる人があらず、今後夫が先立つようなら一人で生きて行けないので自分も死ぬつもりです。買物依存症で借金も多く整理できていない。又その荷物も家中に散乱しており片付けられず放置したまま心身障害者福祉手当等申請も考えたが、社会保険では通らないことが多いと言われて断念。考えてもわからない

い。疲れるので病気になってからは深くあれこれ思い悩まないようにあえてしているが今後どうすればいいのか不安は続く
定年後の生活が心配です。うまく就労できても、ストレスがあったり、仕事上の事を聞いてもらえる場所があれば良い
障害者が、簡単に困り事を相談できる場所がもっとほしい
高齢でも元気な人はケアマネジャーがいないので高齢者が相談できる窓口や対応する人が必要だと思う
今後については親の高齢もあり、不安だらけです。福祉課にご相談することも今後増えていくと思います。よろしくお願いいたします
親の死後、安心して暮らしていける場所（施設）の充実と具体的に相談が進められる行政

サービス基盤に関すること

私の母が認知症で施設にお世話になったのですが、体中にまっ黒なアザがありました。障害者施設の職員の方が、やさしい人であることを、切に願うだけです
現在、一人親、30代の知的障害、行動障害のある子を入所施設でみてもらい、週末に自宅に帰り、余暇を母が担っています
母一人となり、高齢、健康問題をかかえて、親亡き後、親が倒れた後の子供の余暇を支援してくれるサービスが使えません。制度も人もいない状態です
施設では、園の中に入れっぱなし、人が足りません
入所後も親が担えなくなった後、週末余暇、公園や散歩に外出できるような支援サービスが利用できる制度や、施設の余暇充足をはかるとりくみをぜひともお願いしたいです。施設の中に入れっぱなしは可哀想です
障がい者の親が高齢になると、グループホームなどの施設に子供を預かってもらうしかない。だが、老人ホームと同様に、施設の質に差があることに不安を感じている保護者がたくさんいる。(数も少ない) 障がいの特性を正しく理解して対応することはとても大変なことなので、支援者の研修や育成に力を入れてくださることを望みます
現在、スポーツ、ヨガ等センター体育館等を少額で利用させていただき予防につとめております。御指導いただいている先生方には感謝しております。この様に多くの障害者福祉施策が有るのを知りませんでした。これからお世話になる事で知るのだと思いました。お世話にならない様頑張ります
今のグループホームの制度では、お昼を作ってもらえず、お弁当もつくってもらえず、重度のアレルギーの娘は入れません
それならば、在宅で、アレルギーに理解のあるヘルパーさん等の派遣をお願いしたいと思います
重度のアレルギーで、農薬、化学肥料のものが食べられません
オーガニックもほとんどだめで、肥料も使わない自然栽培のしか受けつけません。そういったアレルギーへの理解や、マクロビオティック等の食事に詳しいヘルパーさんがほしいです
障害については軽症な為特に重大な障害はないが、年齢を重ねるにつれ身体的に処々動けなくなっている。介護福祉の手厚い施策をお願いしたいと思います
私は 45 分の介護を受けております。一人で暮しておりますのでせめて1時間にしていただけませんか会話も元気が出ますので
体力が落ちてくるので自立訓練の機会を増やしてほしい、いろいろ世話になり有りがとうございます
現在はGホームを利用中です。明るい笑顔で、過ごしています
障害者が在宅で生活できるような、支援体制の強化をできるようお願いしたい
学校に通っている時は、放課後デイサービス等のサービスが充実していたが、卒業後はなくなってしまう。卒業後の居場所を作るために、卒業後のデイサービスのようなサービスをつくってほしい
いつもお世話になっております。息子がB型作業に通いながら、グループホームで生活をしています。多くの支援を受けて、働く喜びを感じながら充実した生活を送っており、今は満足しています。しかし、助けてくれるスタッフさんの高齢化や人員不足、親なき後の経済的な問題など、先を考えると不安ばかりです。愛の手帳を持っている人の医療費の無料化は絶対必要です。継続してOTやPTを受けることで、生活の質がかなりよくなります。親亡き後も安心して医療サービスを受けられるよう、市としても尽力して下さい。グループホームの設置スタッフの確保、就労する障害者の余暇活動についてもよろしくお願い致します

わが家は、53 年東久留米市に住んでいます。落合川、黒目川、そして冬には富士山の見えるこの町が大好きです。年をとったら東久留米市を離れて暮らす、ではなくずーとこの街に居られる。そのような入所施設ができれば、本当に親子して嬉しいです。是非お願いしたいと思います。宜しくお願いします
市内の生活介護定員がいっぱいで、市外に通う事になる
生活介護の福祉施設を増やしてほしい
グループホームを増やしてほしい。特に強度行動障害の方を受けいれてくれるグループホームが必要です
施設の増加（老人ホームの安い入居を特に希望）
公共の施設やヘルプをもっと手軽に利用したい。将来は生活保護など、必要な人に必要な特うけやすい様にして。ケアマネさんを増やしケアマネさん自身の負担もへらして、より細かなサービスを受けたい。ケアマネさんの知らないのも多いので、その為の指導、勉強も希望スル
ケースワーカーさんによって対応の質や親切さに差がありすぎます
手帳、自立支援は本当に助かっています。ありがとうございます。これからも、福祉 よろしくお願い致します
現在は家で生活に支障は無いが、将来的に在宅で医療を受けられたり、コミュニティバスなどで出かけられる様になってほしい

経済的支援に関すること

タクシー代を（年2回・2万円以内）いただけるのは、大変ありがたいのですが、先払いではなくタクシー券で支給いただける方が助かります。手持ちが少ない時タクシーを我慢して、バスを乗りついで病院等に行くことがあります。ご検討おねがいいたします
社会の迷惑にならないためにも、無条件のベーシックインカムを導入を希望。システムだと働けなくなったら、すぐにでも死んでほしいと言われているような気がします
日常生活用具給付等事業の支給額について、実態を調べて頂きたい。不足しているとの現状があります
“子そだて”は力を入れているみたいだけど“高齢者”にも手あつい支援をしてほしい。我々年金受給者はいろいろ高くなり（健康保険など）手もとにのこる年金は少なくなっている気がする
障害年金2級を受給しているが、ほぼ金額に満足している。しかし乍（なが）ら、物価高騰で、段々、金銭的に厳しくなっています。主人と息子（大学生→2年生）がいるので日々の生活が楽しいです。又、私の貯金が昨年から増えないので、節約も大変厳しいと感じています
2018年に実家の土地を売却し、その譲渡所得があったため、身体障害手帳・毎月4000円が支給打切りになったままです。もう大分年月が過ぎているので、そろそろ復活させて下さい。物価値上げで生活が困っておりますので
今の生活保護だけの収入だと、お金が足りない。年金も受給しているが、その分生活保護費から引かれるのは意味がわからない。年金を受給している意味がない
親ですが精神障害2級に手当をお願いしたい。他の障害で2級はほとんど手当てがあると思いますが精神2級にはなぜないのか…と思います
この先も自立支援医療がなくなることを願います
東京都の助成金を市の都合で支給停止にするのはやめて欲しい。生活する為の資金は少しでも多い方が良いので、お願いします
障害者のいる家族には特に高齢者が施設に入所するとお金がかかる 負担が大きく年金生活している人には大変きびしい生活になります
福祉課のご支援有難うございます。ペースメーカー保持者で難聴者です高齢者になり腰から足先へとケイレを起きて急に動けなくなることが多くなりケガして入院か施設にお世話にならなければならなくなった時98歳の主人も施設に入ることになったら年金では費用が足りなくなるのじゃないかと心配です。
どちらかというと高齢者や障害者への支援はきちんとしているか障害児に対しての手当や支援が少ないと思う
日常生活用具給付事業でストマケア用品を購入しています。率直に申し上げます。東久留米市の給付額は厚生労働省の基準そのまま、低すぎます。都内他の自治体は12000円ほどとなっています。住む場所が違っててもケア用品にかかる費用は変わりません個人差もあります。体系に合わせてパウチを選ぶので10枚4000円の商品でOKな人もいれば私のように8000円超のパウチは必要な人もいます。武蔵野赤十字病院のストマ外来では「中二日くらいでパウチを交換して」と指導されましたが、その頻度では給付額を軽く超えてしま

いパウチがダメになる限界まで入浴を制限せざるをえないのが日常です。ストマケア用品は全てナフサ由来であり、原料高からの値上げが予想されます。給付額を増やしてください
賃貸に住んでいますが、昨今の物価高などで、年金だけでは普通に生活するのが困難、住宅保護で4ヶ月に1度支払いされる額では、とうてい生活できません。もう少し額を上げて欲しい。70代で仕事を続けるのは、身体面でも無理がくると思う。なるべく人と関わるのがいやなのですが、生活の為にアルバイトしていますが、いつまで続けられるのか不安。不安障害もあるので、自宅から電車に乗って病院に行ったり、買い物するのが、困難な時もあるが、病院で処方された薬で頑張るしかない
呼吸機能障害、脳梗塞の為、一人では立ったり、座ったり、歩いたりする事が出来ません。ほとんどがベット上の為、おしめを使用しています。介護の為仕事が出来ません。現在は国民年金を受けていますが、介護費用とおしめ代が経済的に大変です。おしめ代の費用をひきあげてくれると大変たすかるのですが（テープ式だけではなくパットも、範囲にして頂けるとありがたいです。たくさん使用します）
いろいろとサービスを受けています。ありがとうございます
本人、家族の希望で家で暮らしたいと思います。介護者が88才の高齢のため、いつまでがんばれるか不安です
もちろんお金はありません。1日1日が勝負の毎日です
特養に入所したので手当がなくなる。経済的に苦しくなった
とりあえず金はなんぼあっても困らるので、金は用意して
補聴器やコルセット、風呂場、室内での補助用具をもっと安くしてほしい（現在の用具は高すぎる）
通院につきそう、ヘルパーなどの代金にも、介護保険適用で負担を軽くしてほしい。病院内で介護保険が使えないのは、おかしい
訪問リハビリ、非常時のナース登録なども公費で営業、安く掛けられたらもっと必要な利用を助けられるともうが
介護・用具などの安価を希望
通院のつきそいにも介護保険のてき用を（もっと安くしてほしい）

障害児への療育、特別支援教育に関すること

特別支援学校の教職員の現場の声も聞いて。どのくらい大変か？どういう支援が必要か？は市役所の人らも実際に介護（助）の仕事をやってみたらええと思うで。ヒヤリングだけやと分からんやろ
--

地域で暮らすためのバリアフリー化に関すること

ベンチ、を街中に増やして欲しい
医療施設に向かう時 駅を利用しますが、エレベーターはいつも混んでて、エスカレーターを昇降の2つがあれば助かります。因みに見たては、障害がないように見えるので、エレベーターを利用するには気が引けるので、降りるエスカレーターを早く設置していただきたいと思います
歩道の段差・車イスを押してわかるのですが歩行者用の道の傾斜 エレベーターの大きさ
街のバリアフリーをふやす
近所の歩道はとても狭く、雨の日傘をさしている時は、すれちがいなく、いつも車道におりている
この町はバリアフリーがちゃんとしているなあって感じていて、良いことだと思います

就労に関すること

自立してほしいと言われても工賃が安すぎてそれだけでは生活ができません。働く量にもよるのだろうけど少しでも最低賃金がいただける様にがんばります
東久留米市役所では、障がい者雇用（特に会計年度）が導入されていないのが残念です。武蔵野市等ではR2年から実施している。東久留米市内での雇用が少なすぎてこまっている
40代より脳出血の後遺症で左手足のマヒ、しびれで職探しは特別な障害者の就労大会により2年前迄の大手スーパー内での職を得られました。但、70才になったシルバー世代での就労相談を市役所で話したところ、

働きたいの?!と云う感じで冗談扱いされた感じでした。年金だけでは家電がこわれた時購入困難な為、何とか自力で月々少しずつ手持ちに残したい思いからです
他の街を見てるとドライバーが減ったり外国人に運転させようとしてるので、今からドライバーの賃金上げて若い人雇った方がええで。送迎バスとか。待遇も良くしてね
介助・介護の仕事もめっちゃ賃金上げたら人来るで。間違っても補助金目当てで外国人雇うなよ。アイツら日本語読めん上に仕事増やすから。何なら治安悪くするで。※全ての外国人全員悪人・犯罪者でない事は分かってますよ。
息子は、調理師の資格をとりましたが、使って働く場所がありません。地域で仕事をさせて頂ける、飲食店があれば良いと思いますし、ジョブコーチ的な方がいて下さると安心です

生きがいづくりに関すること

今のところ障害が重症ではないので美術館やコンサートとか無料で鑑賞できる時はうれしくたのしみのひとつです
成人の余暇を楽しめる活動する場やイベントが増えると良いと思います

移動支援に関すること

杖を使用しているのでクルブーの乗りおりが大変です
障害のある人は特に、学園町は、市役所が遠くて、交通手段が乏しく、非常に不便。ミニバスを早く通してほしい
我々老人は、車の免許を返納し、自転車にも乗るなど言われている（介護保険から）ので、とにかく「足」がない。デマンドバスは使い勝手が悪い。「満杯です。」と言われることが多い。など。是非巡回型のバスにしてほしい
通院にかかるタクシー代の援助は1万円×年に2回だが、それだと全く足りない。片道1回分にしかない。通院が多いとかなり困っている。もう少し額を増やして欲しい
「福祉タクシー」への要望 上期（4～9月）及び下期（10～3月）を合計して、年間2万円を支給してほしい。例えば、上期8千円の時は、残り2千円を下期に加えて下期は1万2千円とする。下期は年末年始でタクシーを使う機会が多く、下期だけで1万2千円～1万5千円ぐらいになるケースが多々ありますので
現在、市外のグループホームを利用しているが、たまに帰省の時は移動支援や行動援護を使いたい
介護タクシーの量をふやしてほしい
自宅からバス停まで歩行することも難しいです。近くの場所に行くにもタクシー利用が常です。増々高額になり、補助があると助かります。囲りの方の様な、地域内を運航するコミュニティーバスがあればどれ程有難いかと、よく話しています。難題あると思いますが、是非希望するところです

情報提供に関すること

高齢で身寄りのない独居の方への支援をもっとお願いしたいと思っています。そういう方は市の支援等について情報が入って来ない等で障害がある、ないにかかわらず支援を知らない方有料だから結構ですと勘違いして利用できない方…随分いると思います。市はそんな方を把握していますか？是非ともそんな方へまず支援が届くようにしてあげて欲しいです
(心臓機能障害、腰部せきちゅう管狭窄症 要支援2 令和7/4/1～令和8/3/31)今現在日常的な生活は、食料品他、通院は主人の車でしてもらっています。又ゴミ出し、洗濯物は2階の干し場まで運んでもらっていますが食事の仕度など長時間立っているとだんだん大変になってきています。(主人も腰が悪く、障害者手帳持っています。車の免許は4月から3年の更新になりました)私は自宅での生活をもう少し何とかがんばるつもりです。もし施設に入所するようになってきた時、東久留米市は年金だけでは無理と聞いていますので、入所の条件、場所等の案内の情報があると便利かと思います
ケアマネジャーからの情報が少ない。もっと、福祉、障害者への行政サービス情報を適切に教えてほしい 今までも自力で調べ、やって来た。ケアマネが、事務的で、機能していない。もっと勉強してほしい、おしゃべりだけで帰ってしまう
私は87才要支援2です。あまりくわしくなにも知りません支援2はなりにをどこまでしていただけるのかわかりませんどんな事までしてくれるのかわかりません良いお知らせを行っています

現在、生活保護を受け乍ら、妻の介護を訪問介護（週3回）受けていますが年齢も夫（81才）妻（84才）どちらが先に逝った時の対処が定かではありません。最悪の時を想定した時に市の対処、指導がありません。高齢化社会に対し、市の方向性を明らかに願いたいと念じています。介護人（夫、81才）より
母親です。親亡きあと、どうなるんだろう？全て行政でとは思いませんがどうすれば良いのか情報がほしいです

市政全般に関すること

市行政はもっと色々な場を通じて、市民への認識に取り組むべきだと思います。よろしくお願い致します
自立支援の更新作業が年に1度はとても大変です。2年に1度かそれ以上にして頂きたいです。小山に住んでいます。市の運営するプールを近所（自転車10分以内）に作ってほしいです
市の障害福祉対策は、未だ未だ不十分で、未成熟と観ている。今後一層の充実と発展を要望します
出来れば個人を個人として見て話しを聞いていただけると幸いです
以前タクシー代の申請をした時、期日になっても振込がなく福祉課に行った所、レシートにミスがあった。その時担当の人が「家に何回も電話したんですよ」と言った。きちんとFAXと書いていたし家族は全員、聴障で呼び出し音すら聞こえないと伝えたが、文句言われただけだった。「福祉～」の申請の時、その人がどんな障害なのか調べないのかなあ？と思った。こちらにミスがあったら職員に怒られるのは理不尽だと思う
水際対策をやめてほしい。もう少し人間扱いをしてほしい。何度も精神的負担と金銭的負担をかけてくるのをやめてほしい
今回、障害者手帳の申請を行った際、発行まで3ヶ月以上かかった。もう少し早く発行される事を望む
役所に対して、土日祝も通常通りにやってほしい。市役所でのたらいまわしや、分らない（担当不在）などで時間を取られるのでイライラする
障害福祉の施策については満足していますが、横のつながりがあるのかということはきぐしています。二年前、障害者年金の申請（継続としての切り替え）書類を年金課に提出した際に、昼休み中なので受け取れないし、第一こちらでは受け取ることは出来ない（←これは間違っていますので）と当番の方に言われて、出直したことがあります。担当でないと全くわからないのかと絶望したことがあります。親が代理で出していて（何回も）突き返されたのは初めてでとてもびっくりしました。昼休み中に出した私もよくないのかとも思いますが改善を希望します（年金課に）
書類等、配布が遅い気がしています。ガソリン税免除申請用紙年4回分昨年末に申請した車いす修理が半年近くとどここうっている
職員を教育してほしい。こんなアンケートで何がわかるのか、よく考えてほしい
みなさんが親切にいやな顔もしないで書類提出を手使ってくれることに感謝していますありがとうございます
障害福祉課にはいつもお世話になっております。ありがとうございます。これからもお世話になると思いますのでよろしくお願いいたします
ちょっと話がちがうかもしれませんが、去年の難病医療費受給の限度額が今までの4倍に上ってしまいました。二つあった病名も一つ減ってしまったにもかかわらず東京都に電話してもいつも話中でつながりません。どうすればいいのでしょうか一年間は仕方ないと思いますが、次年度も同じような事になったら困ります
“障害者”という文字を今も使用していることにおどろいています。アンケートの前にそのことから考えていただけたら幸いです
これは市役所に相談してもしょうがないのですが西武バスの運転手さん（人によりますが）が障害者手帳を提示して「お願いします」と言っても見てくれなかったり不機嫌そうに対応されて怖いです

アンケートに関すること

この度は私共障害者の為に、障害者施策に関するアンケート調査をして頂きありがとうございます。ご質問の種類にもびっくりしましたが知なったことを学びました。これからも、どうぞ宜しくお願い致します。ありがとうございました
アンケート内容がむずかしい。本人、介助者に大きな負担増
返信用封筒が小さい。精神科に通っていて自立支援を受けているだけなのに障害者扱いされるのは気分が悪い。アンケート対象を手帳所持者に絞るべきだ。
アンケートの量が多すぎる

回答してる途中から本人と介護者の区別がわからなくなり、返答が食い違ってるかもしれません
これは1人で暮らしてるアンケートなのですか？介護施設に入所しているので、書きようがないです。年齢が年なので今生きるか死のせとぎわなのです。年令をかくにんして出してください（このアンケート）
障害者が安心して生活できるサービスなど充実してほしいが、正直このようなアンケートに答えるのも負担になると思います。項目が多かったり、こまかすぎたりわかりづらい印象です。でもこのアンケートが必要なのも理解しますが
理解できませんでした
できるだけ頑張って記入しました
このアンケート用紙の返信用の封筒が小さい
私にとってこのアンケートは負担でした
平成 21 年（72 才）の時、身体障害 1 級と認定されましたが、80 才まで勤務しましたが障害発生せず、又退職後 9 年を過ぎていますが特に障害発生せず過してまいりました。今回アンケート調査に深入り出来ず申し訳ありません
年齢により福祉サービスに対する要望が異なるのでアンケートは 若者と高齢者は分けた方が答えやすいと思う
今回のアンケートに関しては、様々な障害者に対してのもので、量も多く、わかりにくい文章もいくつかあり、迷いました。それぞれの状態により、「問」に進めるものを増やしていただけると助かります

その他

お世話になっております。有難うございます
3 級と 4 級が同じな訳は？足の爪切りは？
情報をあつめていないので意見がわからない
あきらめず あせらず あわてず 笑顔で対応しましょう
毎夜 8：30～翌朝 7 時頃まで、機械音が続いて、もう半年（6 ヶ月以上）になるのに、止められないでいる。警察を何度か、呼んだことがあるのに…。小平の公社・公団は止められないでいる。キチント仕事をしてほしい。公務員という地位にあぐらをかいている、としか思えない。異状すぎると思いませんか
毎日有りがとう御座います。頑張ってください。宜しく御願い致します
自分のことは自分でやり、人様にめいわくをかけないように日々少しでも楽しくすごしていこうと思っています
いつもお世話になっております。地域でくらす事が大切だと思い今は親と兄弟と同居して作業所に通っています。本当は一人暮らしや、グループホームに行きたいのかなーとおもいつつ、一番本人にとって良いことは何だろうと思います。幸せに心ゆたかにくらししてほしいと願うばかりです
心房細動によるペースメーカー使用関節リウマチによる両上肢、下肢機能障害で車椅子(介護)使用特に困るのは病院等外出時におむつ(ホープレ型)交換する場所ベッドがない

Ⅲ 児童調査結果

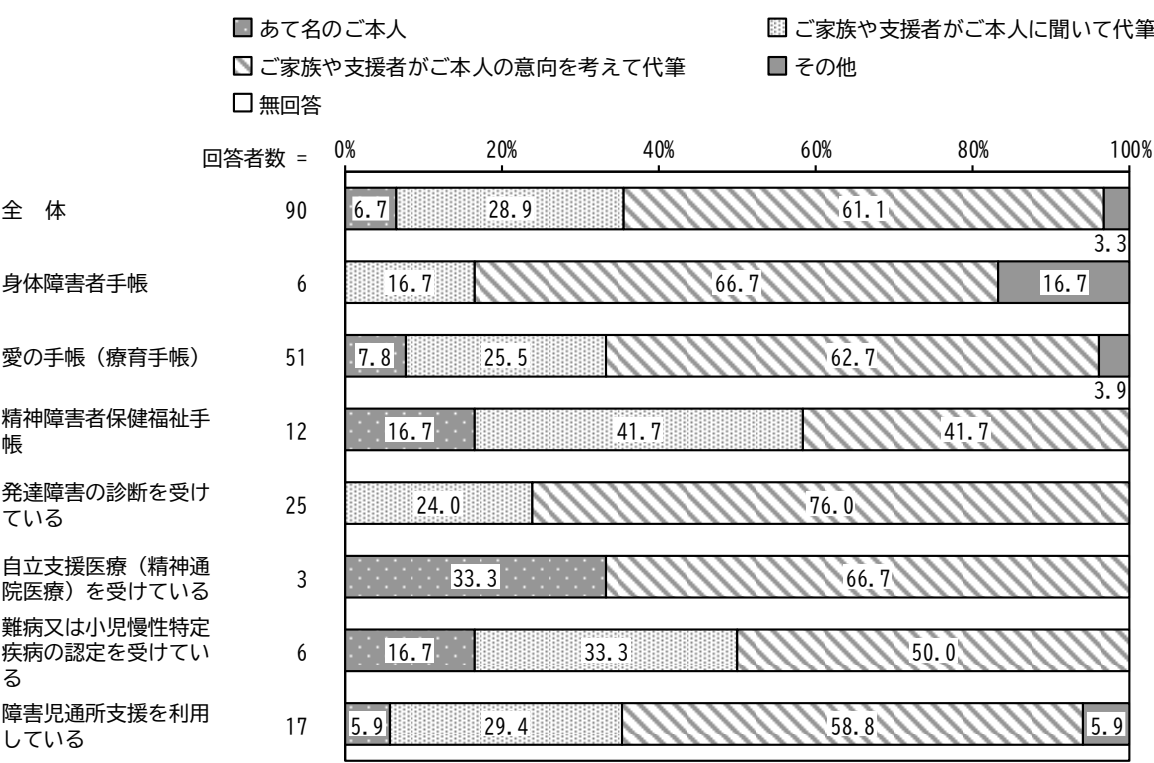
あなた（あて名のご本人）自身について

問1 この調査票にご回答いただくのは、どなたですか。（○印は1つ）

「あて名のご本人」の割合が 6.7%、「ご家族や支援者がご本人に聞いて代筆」の割合が 28.9%、「ご家族や支援者がご本人の意向を考えて代筆」の割合が 61.1%となっています。

【手帳の種類・診断別】

手帳の種類・診断別にみると、精神障害者保健福祉手帳で「あて名のご本人」「ご家族や支援者がご本人に聞いて代筆」、発達障害の診断を受けているで「ご家族や支援者がご本人の意向を考えて代筆」の割合が高くなっています。

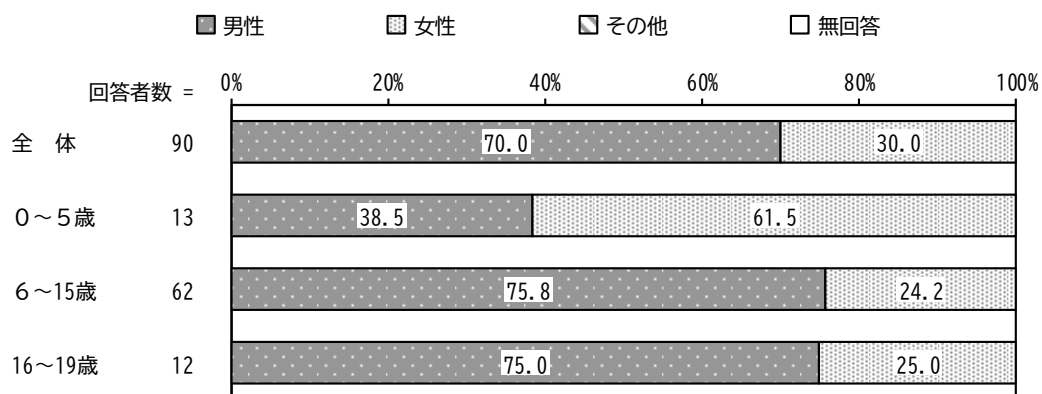


問2 あなたの性別は、次のうちどれですか。(○印は1つ)

「男性」の割合が70.0%、「女性」の割合が30.0%となっています。

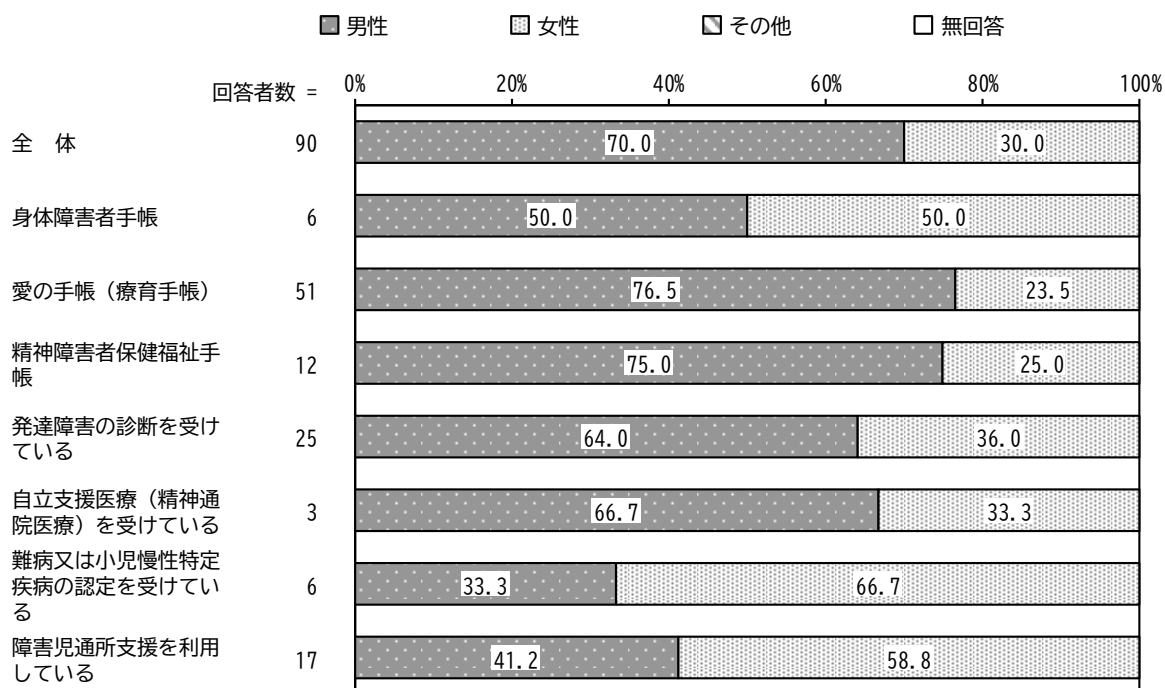
【年齢別】

年齢別にみると、0～5歳で「女性」の割合が高くなっています。



【手帳の種類・診断別】

手帳の種類・診断別にみると、障害児通所支援を利用しているで「女性」の割合が高くなっています。

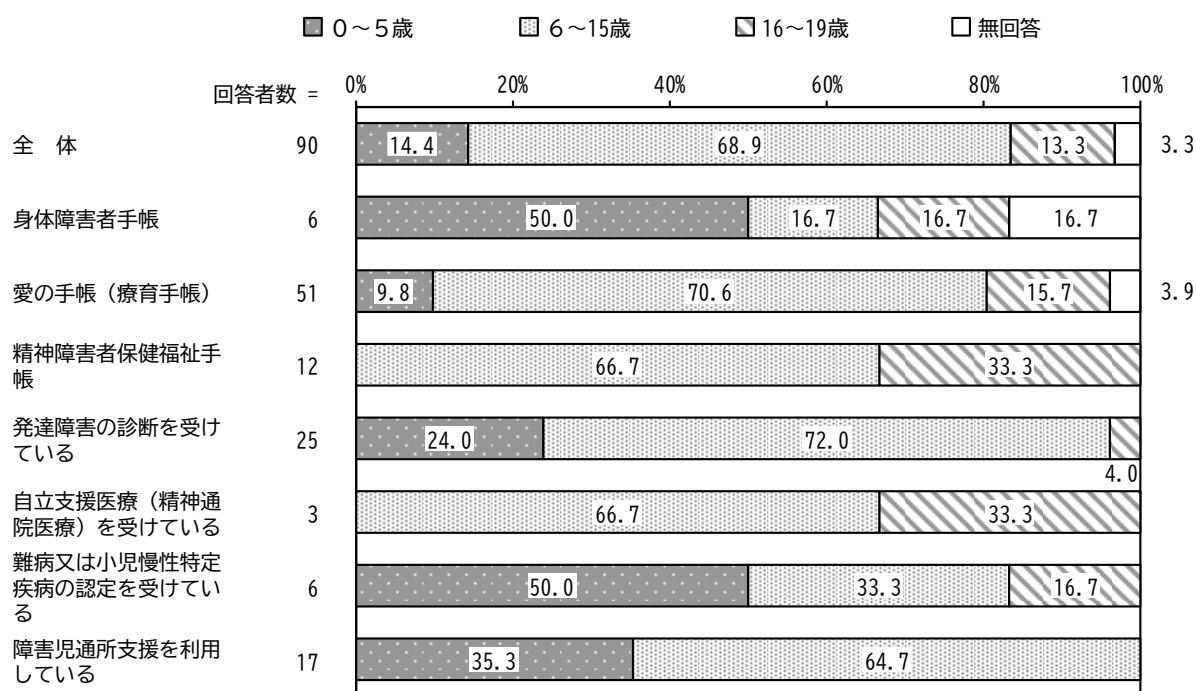


問3 あなたの年齢（令和8年4月1日現在）をお答えください。

「0～5歳」の割合が14.4%、「6～15歳」の割合が68.9%、「16～19歳」の割合が13.3%となっています。

【手帳の種類・診断別】

手帳の種類・診断別にみると、障害児通所支援を利用しているで「0～5歳」、精神障害者保健福祉手帳で「16～19歳」の割合が高くなっています。

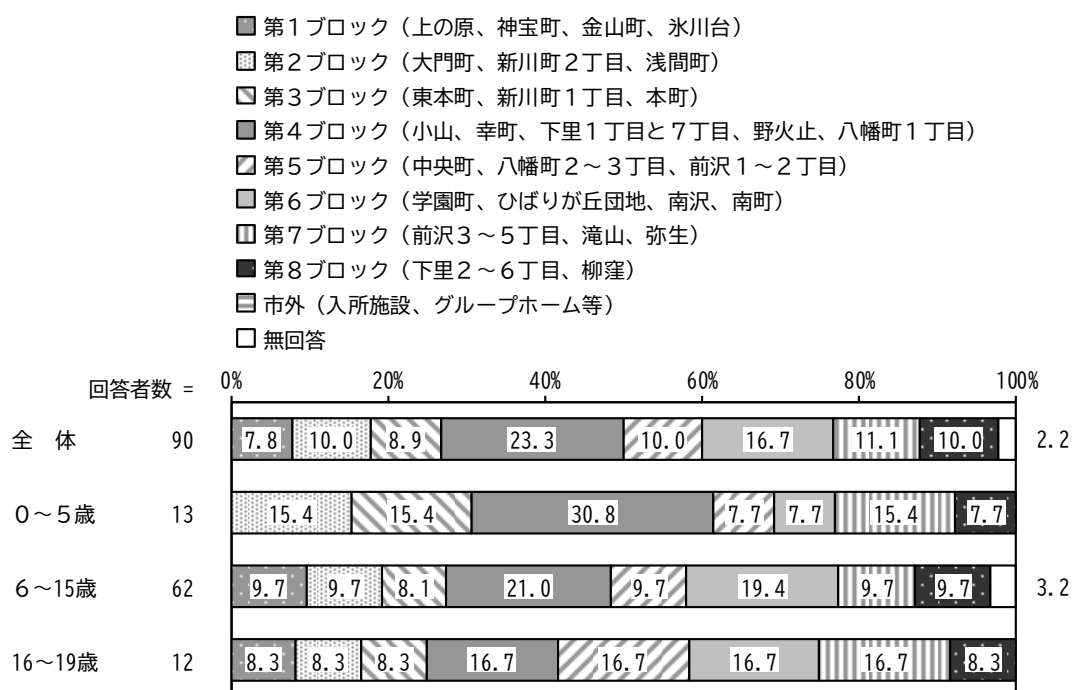


問4 あなたのお住まいをお聞きます。(○印は1つ)

「第4ブロック（小山、幸町、下里1丁目と7丁目、野火止、八幡町1丁目）」の割合が23.3%と最も高く、次いで「第6ブロック（学園町、ひばりが丘団地、南沢、南町）」の割合が16.7%、「第7ブロック（前沢3～5丁目、滝山、弥生）」の割合が11.1%となっています。

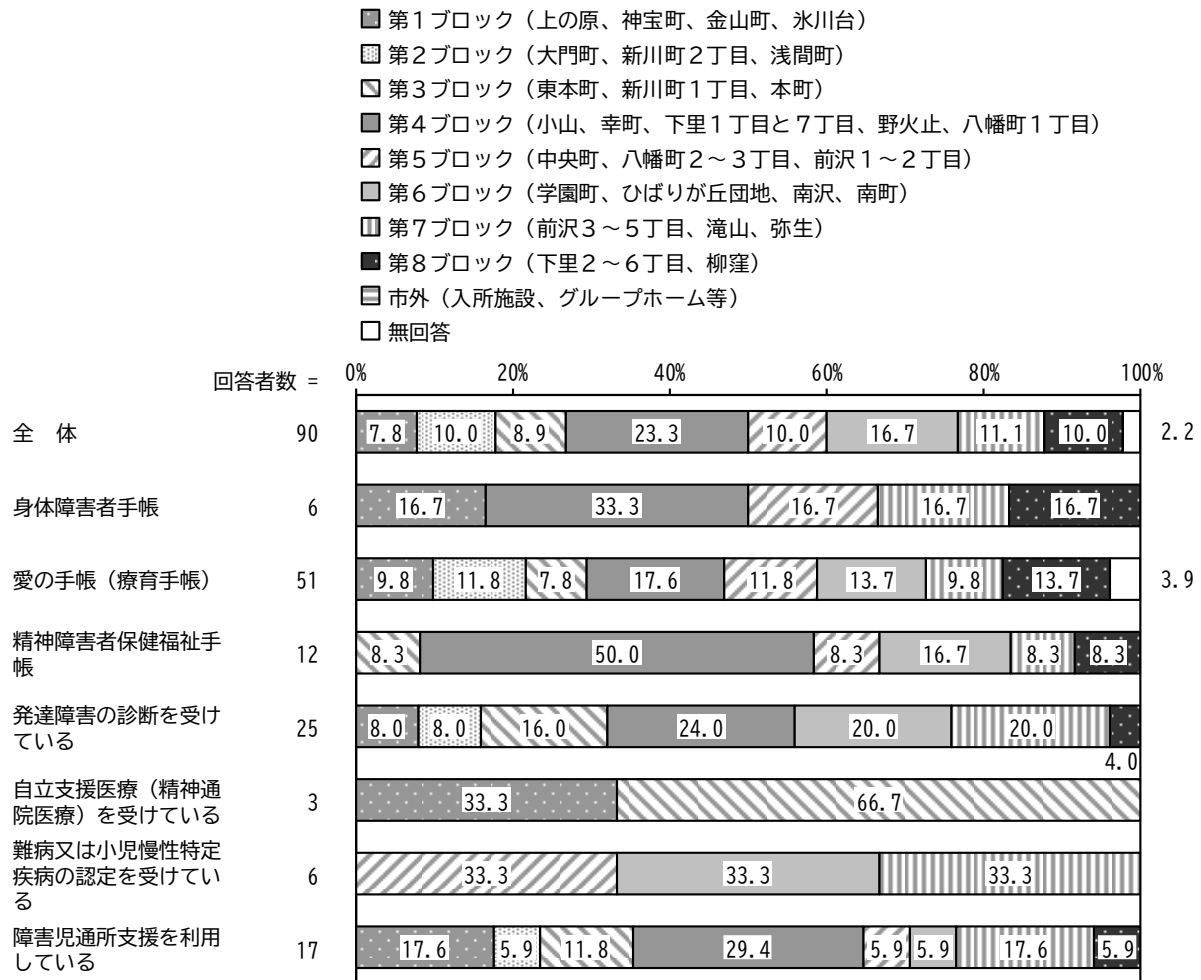
【年齢別】

年齢別にみると、0～5歳で「第2ブロック（大門町、新川町2丁目、浅間町）」「第3ブロック（東本町、新川町1丁目、本町）」「第4ブロック（小山、幸町、下里1丁目と7丁目、野火止、八幡町1丁目）」、16～19歳で「第5ブロック（中央町、八幡町2～3丁目、前沢1～2丁目）」「第7ブロック（前沢3～5丁目、滝山、弥生）」の割合が高くなっています。



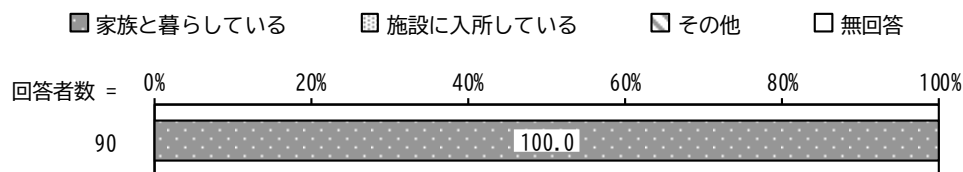
【手帳の種類・診断別】

手帳の種類・診断別にみると、障害児通所支援を利用しているで「第1ブロック（上の原、神宝町、金山町、氷川台）」、発達障害の診断を受けているで「第3ブロック（東本町、新川町1丁目、本町）」、精神障害者保健福祉手帳で「第4ブロック（小山、幸町、下里1丁目と7丁目、野火止、八幡町1丁目）」、発達障害の診断を受けている、障害児通所支援を利用しているで「第7ブロック（前沢3～5丁目、滝山、弥生）」の割合が高くなっています。



問5 あなたはどのような暮らし方をしていますか。(○印は1つ)

「家族と暮らしている」の割合が 100.0%となっています。



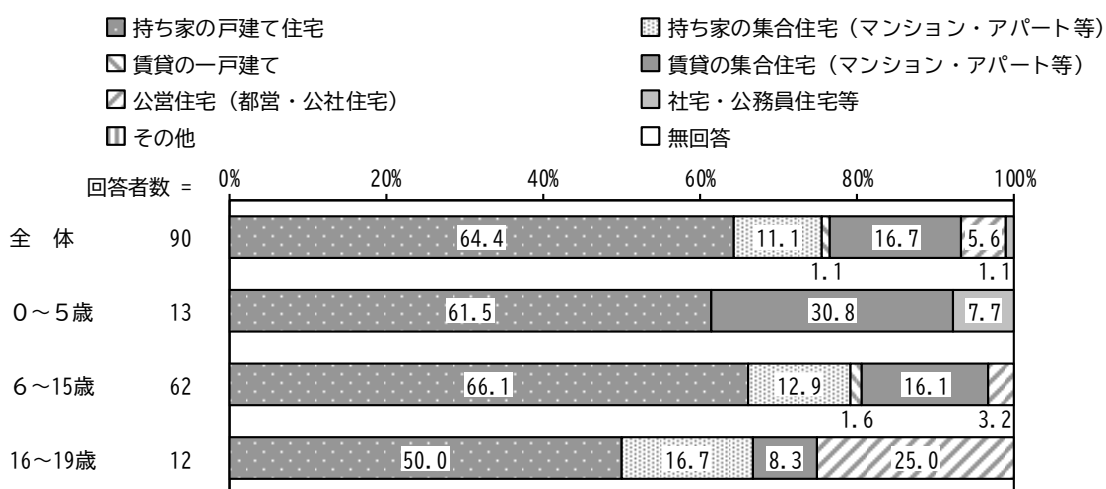
問5で「家族と暮らしている」に○をつけた方にお聞きます。

問5－1 あなたのお住まいの種類はどれですか。(○印は1つ)

「持ち家の戸建て住宅」の割合が 64.4%と最も高く、次いで「賃貸の集合住宅（マンション・アパート等）」の割合が 16.7%、「持ち家の集合住宅（マンション・アパート等）」の割合が 11.1%となっています。

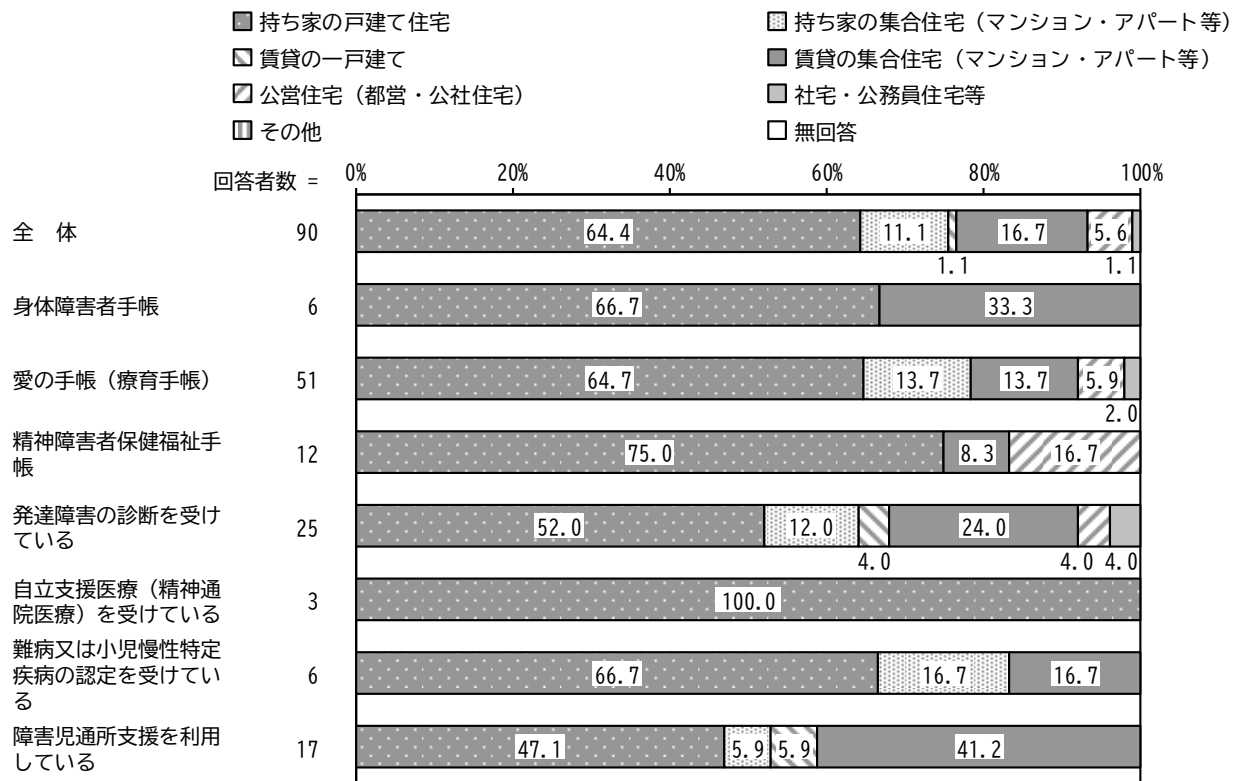
【年齢別】

年齢別にみると、年齢が上がるほど「持ち家の集合住宅（マンション・アパート等）」「公営住宅（都営・公社住宅）」の割合が高く、「賃貸の集合住宅（マンション・アパート等）」の割合が低くなっています。



【手帳の種類・診断別】

手帳の種類・診断別にみると、精神障害者保健福祉手帳で「持ち家の戸建て住宅」「公営住宅（都営・公社住宅）」、障害児通所支援を利用しているで「賃貸の集合住宅（マンション・アパート等）」の割合が高くなっています。



あなたの障害の状況について

問6 あなたの持っている手帳の種類と等級、診断の有無をお聞きます。あてはまる手帳の番号と、カッコ内の等級（度数）に○印をつけてください。（あてはまるものすべてに○印）

「愛の手帳（療育手帳）」の割合が56.7%と最も高く、次いで「発達障害の診断を受けている」の割合が27.8%、「障害児通所支援を利用している」の割合が18.9%となっています。

【年齢別】

年齢別にみると、年齢が上がるほど「愛の手帳（療育手帳）」「精神障害者保健福祉手帳」の割合が高く、「発達障害の診断を受けている」の割合が低くなっています。

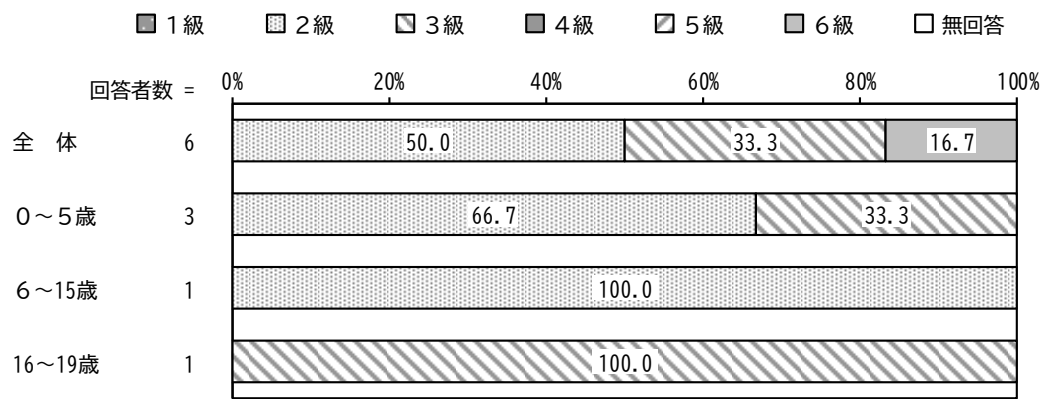
単位：％

区分	回答者数（件）	身体障害者手帳	愛の手帳（療育手帳）	精神障害者保健福祉手帳	発達障害の診断を受けている	自立支援医療（精神通院医療）を受けている	難病又は小児慢性特定疾病の認定を受けている	障害児通所支援を利用している	無回答
全 体	90	6.7	56.7	13.3	27.8	3.3	6.7	18.9	2.2
0～5歳	13	23.1	38.5	0.0	46.2	0.0	23.1	46.2	0.0
6～15歳	62	1.6	58.1	12.9	29.0	3.2	3.2	17.7	3.2
16～19歳	12	8.3	66.7	33.3	8.3	8.3	8.3	0.0	0.0

身体障害者手帳の等級

「2級」が3件、「3級」が2件、「6級」が1件となっています。

【年齢別】

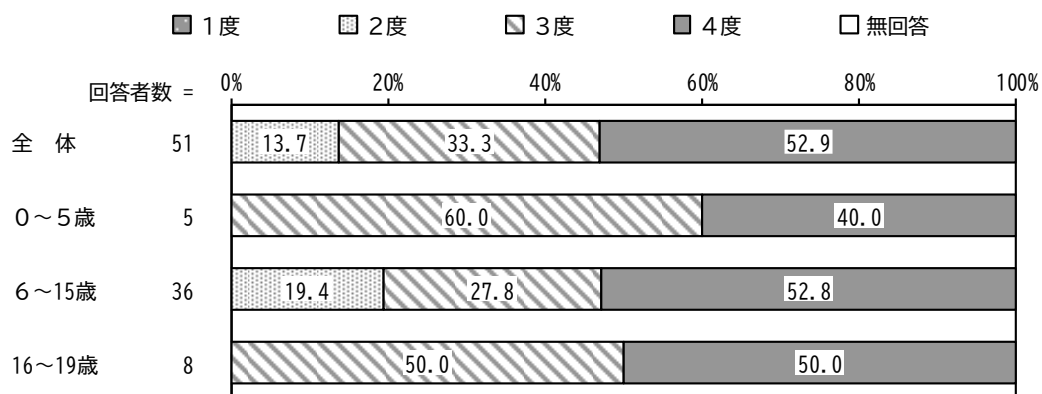


愛の手帳（療育手帳）の程度

「4度」の割合が 52.9%と最も高く、次いで「3度」の割合が 33.3%、「2度」の割合が 13.7%となっています。

【年齢別】

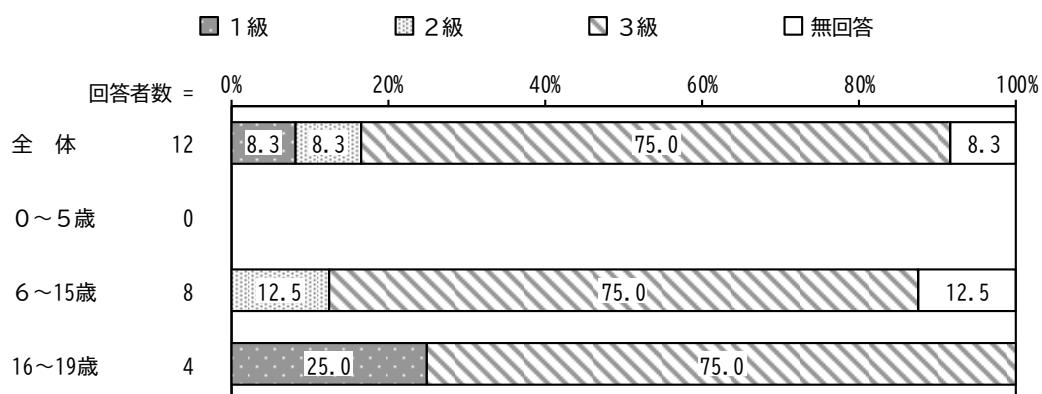
6～15歳で「4度」の割合が 52.8%と最も高く、次いで「3度」の割合が 27.8%となっています。



精神障害者保健福祉手帳の等級

「1級」、「2級」の割合が 8.3%、「3級」の割合が 75.0%となっています。

【年齢別】



問6で「身体障害者手帳」に○をつけた方にお聞きします。

問6－1 障害の種類は次のうちどれですか。(あてはまるものすべてに○印)

「肢体不自由（上肢機能障害・下肢機能障害・体幹機能障害）」、「内部障害（心臓機能障害、腎臓機能障害、呼吸器機能障害、膀胱・直腸機能障害、小腸機能障害、免疫機能障害、肝臓機能障害）」が4件、「音声・言語・そしゃく機能障害」が2件となっています。

【年齢別】

単位：％

区分	回答者数 (件)	肢体不自由 (上肢機能障害・ 下肢機能障害・ 体幹機能障害)	音声・言語・そしゃく機能 障害	視覚障害	聴覚・平衡機能障害	内部障害(心臓機能障害、 腎臓機能障害、呼吸器機 能障害、膀胱・直腸機能障 害、小腸機能障害、免疫機 能障害、肝臓機能障害)	無回答
全 体	6	66.7	33.3	0.0	16.7	66.7	0.0
0～5歳	3	66.7	66.7	0.0	33.3	66.7	0.0
6～15歳	1	100.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
16～19歳	1	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0

【手帳の種類・診断別】

単位：％

区分	回答者数 (件)	肢体不自由 (上肢機能障害・ 下肢機能障害・ 体幹機能障害)	音声・言語・そしゃく機能 障害	視覚障害	聴覚・平衡機能障害	内部障害(心臓機能障害、 腎臓機能障害、呼吸器機 能障害、膀胱・直腸機能障 害、小腸機能障害、免疫機 能障害、肝臓機能障害)	無回答
全 体	6	66.7	33.3	0.0	16.7	66.7	0.0
身体障害者手帳	6	66.7	33.3	0.0	16.7	66.7	0.0
愛の手帳（療育手帳）	1	100.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
精神障害者保健福祉手帳	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
発達障害の診断を受けている	1	100.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
自立支援医療（精神通院医療）を受けている	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
難病又は小児慢性特定疾病の認定を受けている	2	100.0	50.0	0.0	0.0	50.0	0.0
障害児通所支援を利用している	2	50.0	50.0	0.0	50.0	100.0	0.0

問7 あなたが社会生活上で課題となる行動・疾病はありますか。(あてはまるものすべてに○印)

「一つの行動に集中して他が目に入らない」の割合が26.7%と最も高く、次いで「多動」の割合が24.4%、「パニック」の割合が18.9%となっています。

【年齢別】

年齢別にみると、年齢が下がるほど「偏食」「自分でトイレに行けない」の割合が高く、「睡眠障害」の割合が低くなっています。また6～15歳で「大声・奇声」「多動」「飛び出し等突発的な行為」、16～19歳で「てんかん」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	自傷	他傷	破壊行動	行動停止	大声・奇声	多動	反復行動	異食	偏食	摂食障害 (過食・拒食)	睡眠障害
全 体	90	6.7	5.6	3.3	2.2	11.1	24.4	5.6	3.3	17.8	2.2	14.4
0～5歳	13	7.7	0.0	0.0	0.0	7.7	23.1	0.0	0.0	30.8	7.7	7.7
6～15歳	62	8.1	8.1	4.8	3.2	14.5	30.6	8.1	4.8	17.7	0.0	16.1
16～19歳	12	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	8.3	8.3	16.7

区分	昼夜逆転	パニック	一つ の行動に集中 して他が目に入 らない	自分で トイレに行 けない	排せつ物を触 つてしまう	飛び出し等突 発的な行為	不法等不適切 な行為	てんかん	その他	特 に ない	無 回 答
全 体	2.2	18.9	26.7	12.2	1.1	14.4	3.3	6.7	15.6	30.0	1.1
0～5歳	0.0	15.4	0.0	30.8	0.0	0.0	0.0	0.0	30.8	38.5	0.0
6～15歳	3.2	21.0	32.3	9.7	1.6	21.0	3.2	4.8	14.5	24.2	1.6
16～19歳	0.0	16.7	25.0	8.3	0.0	0.0	8.3	25.0	8.3	41.7	0.0

【手帳の種類・診断別】

手帳の種類・診断別にみると、精神障害者保健福祉手帳で「多動」「睡眠障害」、発達障害の診断を受けているで「偏食」、精神障害者保健福祉手帳、発達障害の診断を受けているで「パニック」、障害児通所支援を利用しているで「一つの行動に集中して他が目に入らない」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	自傷	他傷	破壊行動	行動停止	大声・奇声	多動	反復行動	異食	偏食	摂食障害 (過食・拒食)	睡眠障害
全 体	90	6.7	5.6	3.3	2.2	11.1	24.4	5.6	3.3	17.8	2.2	14.4
身体障害者手帳	6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7	0.0	0.0	16.7	16.7	0.0
愛の手帳（療育手帳）	51	9.8	9.8	5.9	3.9	19.6	25.5	7.8	5.9	25.5	2.0	17.6
精神障害者保健福祉手帳	12	8.3	0.0	8.3	0.0	8.3	50.0	8.3	0.0	16.7	0.0	25.0
発達障害の診断を受けている	25	16.0	8.0	4.0	0.0	12.0	36.0	4.0	8.0	32.0	0.0	24.0
自立支援医療（精神通院医療）を受けている	3	0.0	33.3	0.0	0.0	33.3	66.7	0.0	33.3	33.3	0.0	66.7
難病又は小児慢性特定疾病の認定を受けている	6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7	0.0	0.0	16.7	0.0	0.0
障害児通所支援を利用している	17	0.0	5.9	0.0	5.9	11.8	35.3	0.0	5.9	17.6	5.9	11.8

区分	昼夜逆転	パニック	一つの行動に集中して他が目に入らない	自分でトイレに行けない	排せつ物を触ってしまう	飛び出し等突発的な行為	不法等不適切な行為	てんかん	その他	特にない	無回答
全 体	2.2	18.9	26.7	12.2	1.1	14.4	3.3	6.7	15.6	30.0	1.1
身体障害者手帳	0.0	0.0	16.7	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	33.3	0.0
愛の手帳（療育手帳）	2.0	23.5	31.4	19.6	2.0	19.6	5.9	9.8	7.8	25.5	2.0
精神障害者保健福祉手帳	0.0	33.3	16.7	0.0	0.0	16.7	8.3	8.3	8.3	16.7	0.0
発達障害の診断を受けている	4.0	32.0	32.0	12.0	0.0	16.0	4.0	0.0	16.0	16.0	0.0
自立支援医療（精神通院医療）を受けている	0.0	33.3	33.3	33.3	0.0	66.7	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0
難病又は小児慢性特定疾病の認定を受けている	0.0	0.0	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7	0.0	66.7	0.0
障害児通所支援を利用している	0.0	23.5	41.2	11.8	0.0	11.8	0.0	5.9	29.4	17.6	0.0

問8 あなたが社会生活上で課題となる行動・疾病の中で、特に配慮が必要と覚えることはありますか。(あてはまるものすべてに○印)

「パニック」の割合が17.8%と最も高く、次いで「一つの行動に集中して他が目に入らない」の割合が16.7%、「多動」「飛び出し等突発的な行為」の割合が14.4%となっています。

【年齢別】

年齢別にみると、年齢が上がるほど「睡眠障害」「一つの行動に集中して他が目に入らない」の割合が高くなっています。また、0～5歳で「偏食」「自分でトイレに行けない」、6～15歳で「飛び出し等の突発的な行為」、16～19歳で「てんかん」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	自傷	他傷	破壊行動	行動停止	大声・奇声	多動	反復行動	異食	偏食	摂食障害 (過食・拒食)	睡眠障害
全 体	90	4.4	5.6	3.3	2.2	5.6	14.4	2.2	2.2	8.9	2.2	10.0
0～5歳	13	7.7	0.0	0.0	7.7	7.7	15.4	0.0	0.0	15.4	7.7	0.0
6～15歳	62	4.8	8.1	4.8	1.6	6.5	17.7	3.2	3.2	8.1	0.0	11.3
16～19歳	12	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	8.3	8.3	16.7

区分	昼夜逆転	パニック	一つ の行動に集中 して他が目に入 らない	自分で トイレに行 けない	排せつ物を触 つてしまう	飛び出し等突 発的な行為	不法等不適切 な行為	てんかん	その他	特 に な い	無 回 答
全 体	3.3	17.8	16.7	8.9	0.0	14.4	4.4	6.7	14.4	32.2	1.1
0～5歳	0.0	15.4	0.0	23.1	0.0	0.0	0.0	0.0	38.5	30.8	0.0
6～15歳	4.8	19.4	17.7	6.5	0.0	21.0	4.8	4.8	11.3	29.0	1.6
16～19歳	0.0	16.7	33.3	8.3	0.0	0.0	8.3	25.0	8.3	33.3	0.0

【手帳の種類・診断別】

手帳の種類・診断別にみると、発達障害の診断を受けているで「多動」「偏食」「一つの行動に集中して他が目に入らない」、精神障害者保健福祉手帳、発達障害の診断を受けているで「パニック」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	自傷	他傷	破壊行動	行動停止	大声・奇声	多動	反復行動	異食	偏食	摂食障害 (過食・拒食)	睡眠障害
全 体	90	4.4	5.6	3.3	2.2	5.6	14.4	2.2	2.2	8.9	2.2	10.0
身体障害者手帳	6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7	0.0	0.0	0.0	16.7	0.0
愛の手帳（療育手帳）	51	5.9	9.8	5.9	3.9	9.8	11.8	2.0	3.9	13.7	2.0	11.8
精神障害者保健福祉手帳	12	8.3	0.0	8.3	0.0	8.3	25.0	0.0	0.0	8.3	0.0	16.7
発達障害の診断を受けている	25	12.0	8.0	4.0	4.0	8.0	32.0	4.0	8.0	24.0	0.0	16.0
自立支援医療（精神通院医療）を受けている	3	0.0	33.3	0.0	0.0	33.3	33.3	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0
難病又は小児慢性特定疾病の認定を受けている	6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
障害児通所支援を利用している	17	0.0	5.9	0.0	11.8	11.8	23.5	0.0	5.9	5.9	5.9	0.0

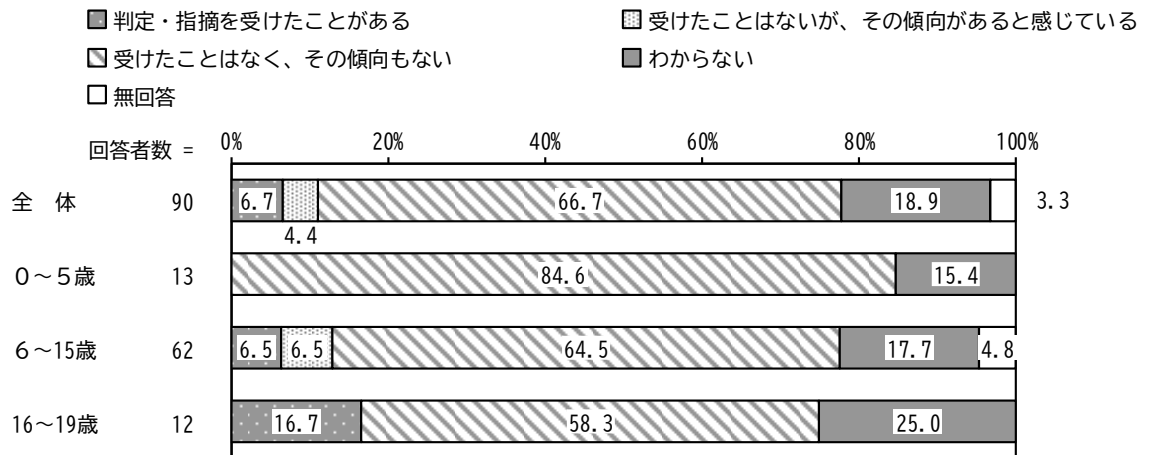
区分	昼夜逆転	パニック	一つの行動に集中して他が目に入らない	自分でトイレに行けない	排せつ物を触ってしまう	飛び出し等突発的な行為	不法等不適切な行為	てんかん	その他	特にない	無回答
全 体	3.3	17.8	16.7	8.9	0.0	14.4	4.4	6.7	14.4	32.2	1.1
身体障害者手帳	0.0	0.0	0.0	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	33.3	0.0
愛の手帳（療育手帳）	2.0	21.6	15.7	13.7	0.0	19.6	7.8	9.8	5.9	31.4	2.0
精神障害者保健福祉手帳	8.3	33.3	16.7	0.0	0.0	16.7	8.3	8.3	8.3	8.3	0.0
発達障害の診断を受けている	4.0	32.0	28.0	12.0	0.0	20.0	4.0	0.0	12.0	16.0	0.0
自立支援医療（精神通院医療）を受けている	0.0	33.3	33.3	33.3	0.0	66.7	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0
難病又は小児慢性特定疾病の認定を受けている	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7	33.3	33.3	0.0
障害児通所支援を利用している	0.0	23.5	23.5	11.8	0.0	11.8	0.0	5.9	23.5	23.5	0.0

問9 これまでに、専門機関等から「強度行動障害（あるいはそれに相当する状態）」との判定や指摘を受けたことがありますか。（○印は1つ）

「判定・指摘を受けたことがある」の割合が6.7%、「受けたことはないが、その傾向があると感じている」の割合が4.4%、「受けたことはなく、その傾向もない」の割合が66.7%となっています。

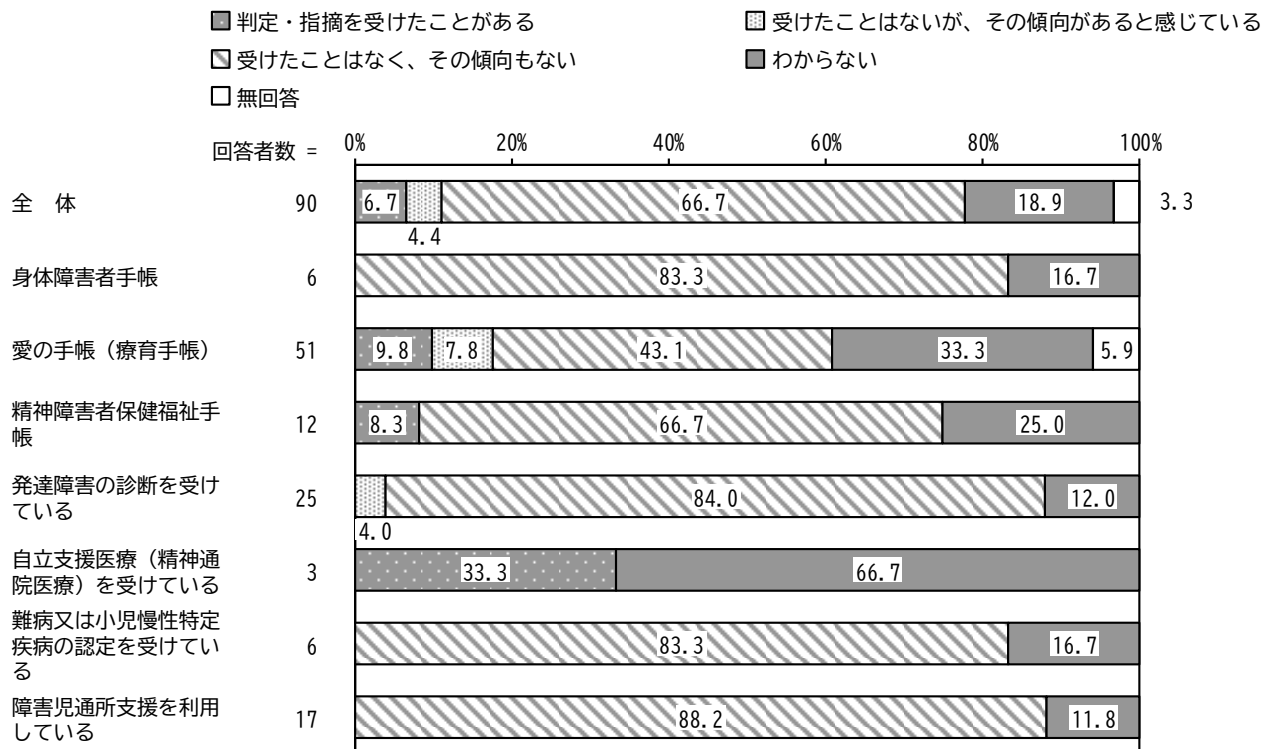
【年齢別】

年齢別にみると、年齢が上がるほど「判定・指摘を受けたことがある」の割合が高くなっています。



【手帳の種類・診断別】

手帳の種類・診断別にみると、障害児通所支援を利用しているで「受けたことはなく、その傾向もない」の割合が高くなっています。

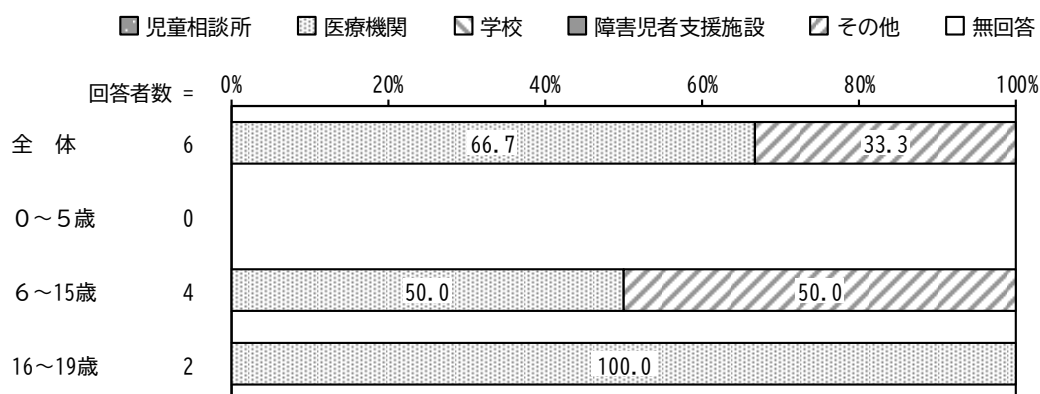


問9で「判定・指摘を受けたことがある」に○をつけた方にお聞きします。

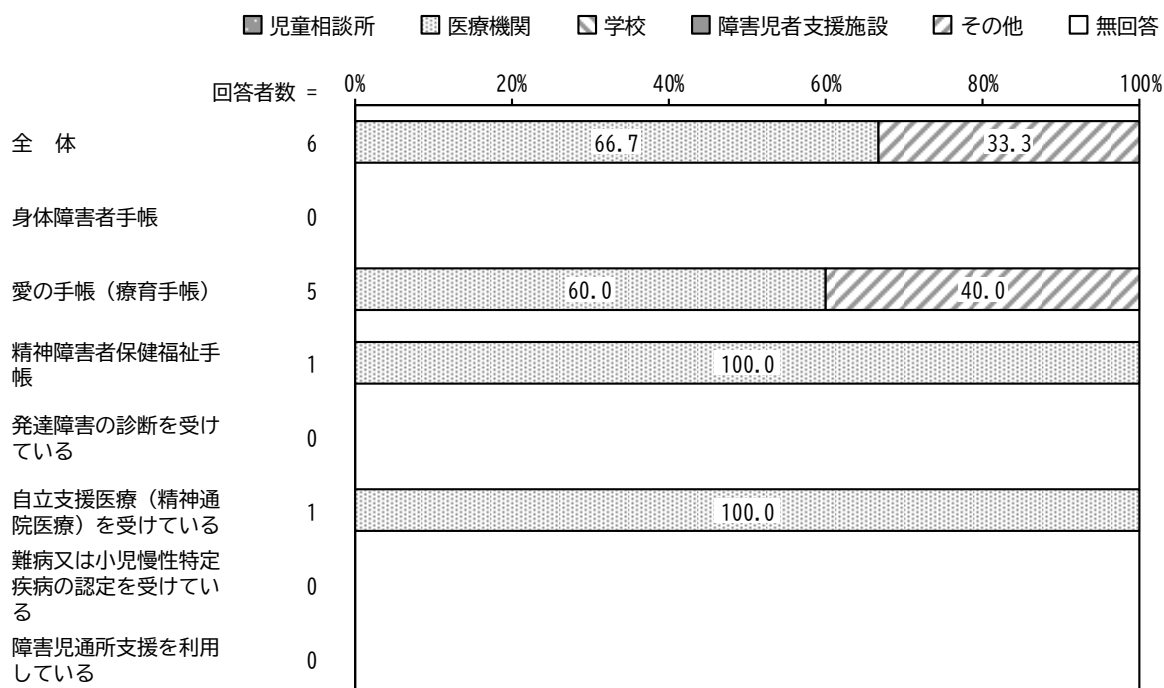
問9－1 具体的にどこで判定・指摘を受けましたか。(○印は1つ)

「医療機関」が4件となっています。

【年齢別】



【手帳の種類・診断別】



問9で「判定・指摘を受けたことがある」に○をつけた方の、ご家族・介助者の方にお聞きます。

問9-2 介助者が困っていることは何ですか。(あてはまるものすべてに○印)

「本人の意思をどう尊重しつつ支援体制を作るかが大きな課題」が4件、「予測できない状況でパニックや強い行動が出やすい」「介助者は常に安全確保を考え続ける必要がある」「試行錯誤が続き、支援者も疲弊しやすい」「行動の背景にある感覚特性やコミュニケーションの困難が理解されにくい」が3件となっています。

【年齢別】

単位：％

区分	回答者数 (件)	介助者が「何を求めているのか」を読み取る負担が大きい	予測できない状況でパニックや強い行動が出やすい	診察や検査が難航し、必要な医療が受けられないこともある	介助者が常に緊張し、外出自体が負担になる	介助者は常に安全確保を考え続ける必要がある	相談できる相手が少なく、精神的に追い詰められやすい	行動の背景理解や対応方針が統一されず、混乱が起きる	試行錯誤が続き、支援者も疲弊しやすい	本人の意思をどう尊重しつつ支援体制を作るかが大きな課題	行動の背景にある感覚特性やコミュニケーションの困難が理解されにくい	その他	無回答
全 体	6	33.3	50.0	33.3	16.7	50.0	16.7	0.0	50.0	66.7	50.0	0.0	16.7
0～5歳	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
6～15歳	4	50.0	75.0	50.0	25.0	75.0	25.0	0.0	50.0	75.0	75.0	0.0	0.0
16～19歳	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	50.0

【手帳の種類・診断別】

単位：％

区分	回答者数（件）	介助者が「何を求めているのか」を読み取る負担が大きい	予測できない状況でパニックや強い行動が出やすい	診察や検査が難航し、必要な医療が受けられないこともある	介助者が常に緊張し、外出自体が負担になる	介助者は常に安全確保を考え続ける必要がある	相談できる相手が少なく、精神的に追い詰められやすい	行動の背景理解や対応方針が統一されず、混乱が起きる	試行錯誤が続く、支援者も疲弊しやすい	本人の意思をどう尊重しつつ支援体制を作るかが大きな課題	行動の背景にある感覚特性やコミュニケーションの困難が理解されにくい	その他	無回答
全 体	6	33.3	50.0	33.3	16.7	50.0	16.7	0.0	50.0	66.7	50.0	0.0	16.7
身体障害者手帳	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
愛の手帳（療育手帳）	5	40.0	60.0	40.0	20.0	60.0	20.0	0.0	60.0	80.0	60.0	0.0	0.0
精神障害者保健福祉手帳	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
発達障害の診断を受けている	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
自立支援医療（精神通院医療）を受けている	1	100.0	100.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0
難病又は小児慢性特定疾病の認定を受けている	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
障害児通所支援を利用している	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

問9で「判定・指摘を受けたことがある」に○をつけた方にお聞きします。

問9－3 どのような支援が必要ですか。(あてはまるものすべてに○印)

「見通しを持てる生活づくり」「安心できる方・場所の確保」が5件、「本人が選べる場面を増やす」「本人のペースを尊重する」が4件となっています。

【年齢別】

単位：％

区分	回答者数 (件)	わかりやすいコミュニケーション手段の提供	見通しを持てる生活づくり	感覚刺激への配慮	本人が選べる場面を増やす	成功体験を積み重ねる機会づくり	身体の不調を早期に気づける仕組み	安心できる方・場所の確保	興味や得意を活かした活動の提供	行動が起きる前のサインに合わせた支援	本人のペースを尊重する	その他	無回答
全 体	6	50.0	83.3	50.0	66.7	33.3	50.0	83.3	50.0	16.7	66.7	0.0	0.0
0～5歳	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
6～15歳	4	75.0	100.0	50.0	50.0	25.0	50.0	100.0	50.0	25.0	75.0	0.0	0.0
16～19歳	2	0.0	50.0	50.0	100.0	50.0	50.0	50.0	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0

【手帳の種類・診断別】

単位：％

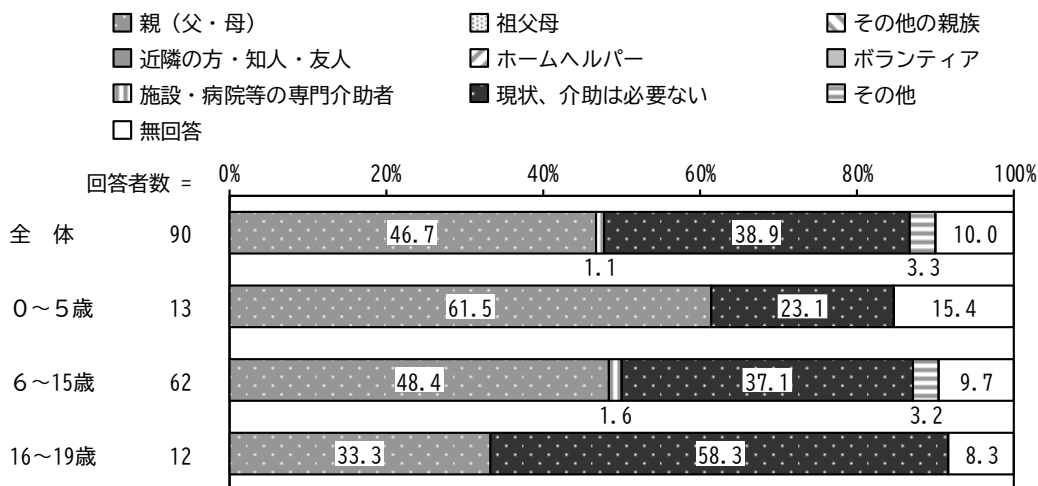
区分	回答者数 (件)	わかりやすいコミュニケーション手段の提供	見通しを持てる生活づくり	感覚刺激への配慮	本人が選べる場面を増やす	成功体験を積み重ねる機会づくり	身体の不調を早期に気づける仕組み	安心できる方・場所の確保	興味や得意を活かした活動の提供	行動が起きる前のサインに合わせた支援	本人のペースを尊重する	その他	無回答
全 体	6	50.0	83.3	50.0	66.7	33.3	50.0	83.3	50.0	16.7	66.7	0.0	0.0
身体障害者手帳	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
愛の手帳（療育手帳）	5	60.0	100.0	60.0	60.0	40.0	60.0	100.0	60.0	20.0	80.0	0.0	0.0
精神障害者保健福祉手帳	1	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
発達障害の診断を受けている	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
自立支援医療（精神通院医療）を受けている	1	100.0	100.0	100.0	0.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
難病又は小児慢性特定疾病の認定を受けている	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
障害児通所支援を利用している	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

問10 あなたは普段の生活で介助を必要としていますか。介助が必要な方は、主な介助者の方をお答えください。(○印は1つ)

「親（父・母）」の割合が46.7%と最も高く、次いで「現状、介助は必要ない」の割合が38.9%となっています。

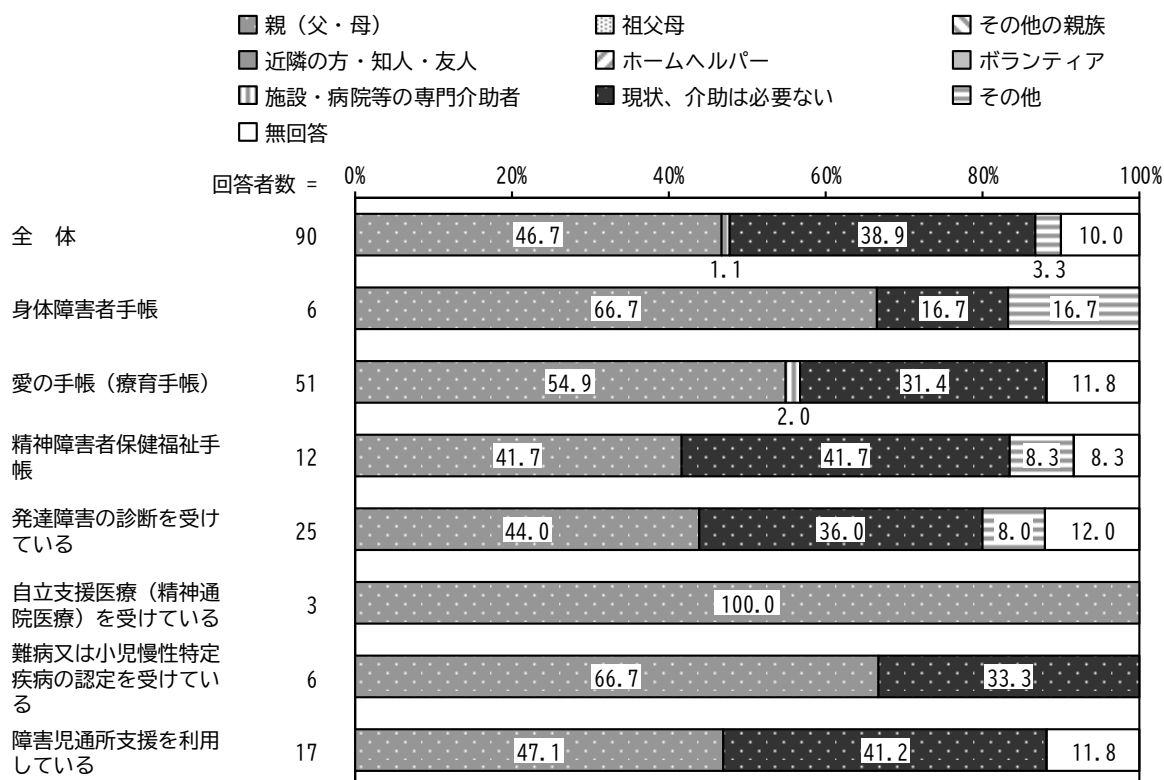
【年齢別】

年齢別にみると、年齢が上がるほど「現状、介助は必要ない」の割合が高く、「親（父・母）」の割合が低くなっています。



【手帳の種類・診断別】

手帳の種類・診断別にみると、愛の手帳（療育手帳）で「親（父・母）」の割合が高く、「現状、介助は必要ない」の割合が低くなっています。



普段から、家族・親族の方が介助している方にお聞きします。

問 11 現在、主な介助者の方が困っていることは何ですか。(あてはまるものすべてに○印)

「精神的な負担が大きい」の割合が 38.1%と最も高く、次いで「代わりの介助を頼める方がいない」の割合が 33.3%、「経済的な負担が大きい」の割合が 28.6%となっています。

【年齢別】

単位：％

区分	回答者数 (件)	代わりの介助を頼 める方がいない	休養や息抜きの時 間がない	長期の旅行や外出 ができない	仕事に出られない	介助者自身の健康 に不安がある	身体的な負担が大 きい	精神的な負担が大 きい	経済的な負担が大 きい	その他	特 に ない	無 回 答
全 体	42	33.3	26.2	19.0	19.0	19.0	11.9	38.1	28.6	11.9	23.8	0.0
0～5歳	8	37.5	50.0	0.0	0.0	12.5	12.5	12.5	25.0	12.5	37.5	0.0
6～15歳	30	36.7	20.0	16.7	26.7	20.0	13.3	40.0	30.0	13.3	20.0	0.0
16～19歳	4	0.0	25.0	75.0	0.0	25.0	0.0	75.0	25.0	0.0	25.0	0.0

【手帳の種類・診断別】

手帳の種類・診断別にみると、愛の手帳（療育手帳）で「代わりの介助を頼める方がいない」「休養や息抜きの時間がない」「長期の旅行や外出ができない」の割合が高く、発達障害の診断を受けているで「介助者自身の健康に不安がある」「身体的な負担が大きい」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	代わりの介助を頼 める方がいない	休養や息抜きの時 間がない	長期の旅行や外出 ができない	仕事に出られない	介助者自身の健康 に不安がある	身体的な負担が大 きい	精神的な負担が大 きい	経済的な負担が大 きい	その他	特 に ない	無 回 答
全 体	42	33.3	26.2	19.0	19.0	19.0	11.9	38.1	28.6	11.9	23.8	0.0
身体障害者手帳	4	75.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0
愛の手帳（療育手帳）	28	42.9	35.7	28.6	25.0	25.0	14.3	50.0	35.7	7.1	14.3	0.0
精神障害者保健福祉手 帳	5	20.0	20.0	40.0	20.0	20.0	40.0	60.0	40.0	40.0	20.0	0.0
発達障害の診断を受け ている	11	36.4	27.3	9.1	27.3	36.4	27.3	45.5	36.4	18.2	18.2	0.0
自立支援医療（精神通 院医療）を受けている	3	66.7	0.0	33.3	33.3	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
難病又は小児慢性特定 疾病の認定を受けてい る	4	25.0	25.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0
障害児通所支援を利用 している	8	50.0	37.5	12.5	25.0	0.0	0.0	25.0	12.5	0.0	25.0	0.0

普段から、家族・親族の方が介助している方にお聞きします。

問12 今後、介助や支援にあたって課題になると考えられることは何ですか。(あてはまるものすべてに○印)

「代替りの介助を頼める方がいない」の割合が42.9%と最も高く、次いで「経済的な負担が大きい」「本人の権利擁護に関する問題」の割合が35.7%となっています。

【年齢別】

単位：％

区分	回答者数(件)	代替りの介助を頼める方がいない	休養や息抜きの間がない	長期の旅行や外出ができない	仕事に出られない	介助者自身の健康に不安がある	身体的な負担が大きい	精神的な負担が大きい	経済的な負担が大きい	本人の住まいの確保	本人の権利擁護に関する問題	その他	特にない	無回答
全 体	42	42.9	21.4	11.9	16.7	23.8	16.7	26.2	35.7	31.0	35.7	11.9	19.0	0.0
0～5歳	8	37.5	37.5	0.0	12.5	25.0	25.0	12.5	37.5	12.5	25.0	12.5	37.5	0.0
6～15歳	30	46.7	16.7	13.3	20.0	20.0	16.7	26.7	33.3	33.3	36.7	13.3	16.7	0.0
16～19歳	4	25.0	25.0	25.0	0.0	50.0	0.0	50.0	50.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0

【手帳の種類・診断別】

手帳の種類・診断別にみると、愛の手帳（療育手帳）で「代替りの介助を頼める方がいない」「長期の旅行や外出ができない」「精神的な負担が大きい」「経済的な負担が大きい」「本人の住まいの確保」「本人の権利擁護に関する問題」の割合が高く、発達障害の診断を受けているで「介助者自身の健康に不安がある」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	代替りの介助を頼める方がいない	休養や息抜きの間がない	長期の旅行や外出ができない	仕事に出られない	介助者自身の健康に不安がある	身体的な負担が大きい	精神的な負担が大きい	経済的な負担が大きい	本人の住まいの確保	本人の権利擁護に関する問題	その他	特にない	無回答
全 体	42	42.9	21.4	11.9	16.7	23.8	16.7	26.2	35.7	31.0	35.7	11.9	19.0	0.0
身体障害者手帳	4	75.0	50.0	0.0	25.0	25.0	25.0	0.0	50.0	0.0	50.0	0.0	25.0	0.0
愛の手帳（療育手帳）	28	57.1	28.6	17.9	17.9	28.6	21.4	39.3	42.9	46.4	46.4	7.1	3.6	0.0
精神障害者保健福祉手帳	5	20.0	20.0	0.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	0.0
発達障害の診断を受けている	11	36.4	27.3	9.1	18.2	36.4	18.2	27.3	36.4	18.2	9.1	9.1	27.3	0.0
自立支援医療（精神通院医療）を受けている	3	66.7	0.0	0.0	33.3	0.0	33.3	66.7	0.0	66.7	100.0	0.0	0.0	0.0
難病又は小児慢性特定疾病の認定を受けている	4	25.0	25.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0
障害児通所支援を利用している	8	50.0	37.5	12.5	37.5	12.5	25.0	12.5	12.5	12.5	25.0	12.5	25.0	0.0

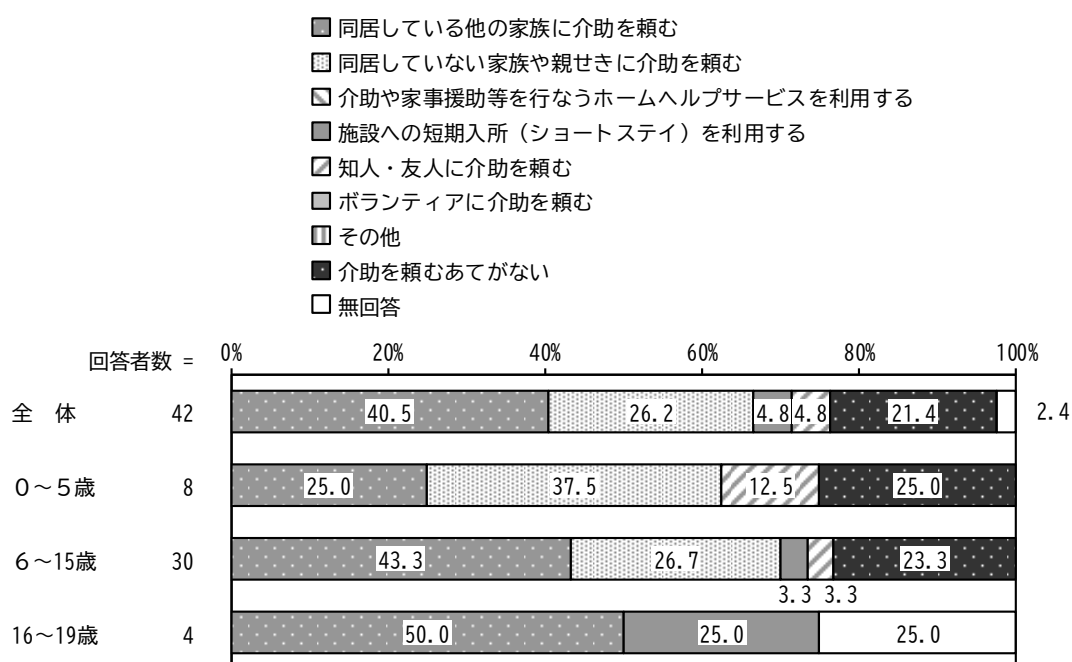
普段から、家族・親族の方が介助している方にお聞きします。

問 13 普段介助している方が一時的に介助できなくなったとき、あなたはどのようにしますか。(1つに○印)

「同居している他の家族に介助を頼む」の割合が 40.5%と最も高く、次いで「同居していない家族や親せきに介助を頼む」の割合が 26.2%、「介助を頼むあてがない」の割合が 21.4%となっています。

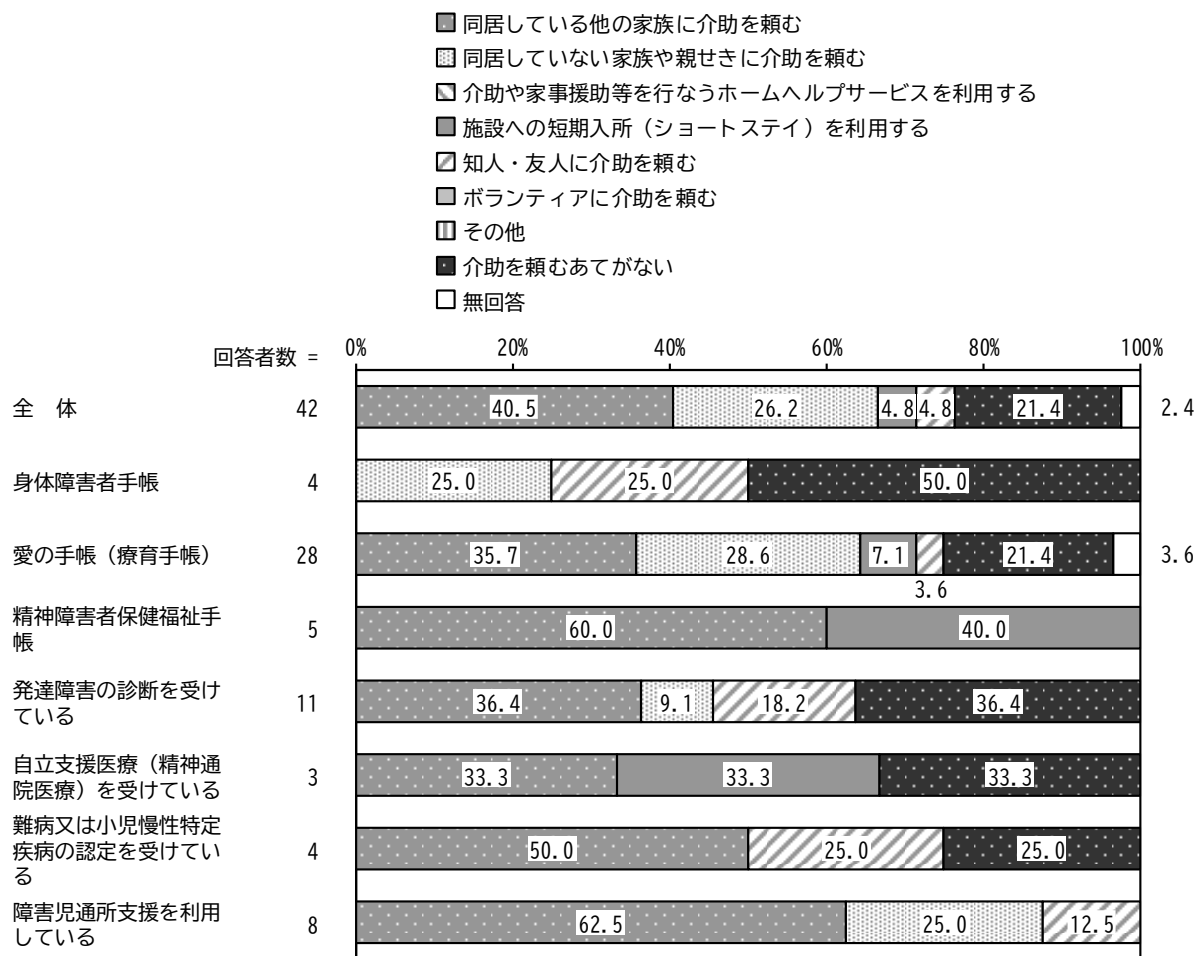
【年齢別】

6～15歳で「同居している他の家族に介助を頼む」の割合が 43.3%と最も高く、次いで「同居していない家族や親せきに介助を頼む」の割合が 26.7%、「介助を頼むあてがない」の割合が 23.3%となっています。



【手帳の種類・診断別】

手帳の種類・診断別にみると、愛の手帳（療育手帳）で「同居していない家族や親せきに介助を頼む」「施設への短期入所（ショートステイ）を利用する」の割合が高く、発達障害の診断を受けている「知人・友人に介助を頼む」「介助を頼むあてがない」の割合が高くなっています。



問 14 あなたは、医療的な支援（医療的ケア）を受けていますか。（あてはまるものすべてに○印）

「受けていない」の割合が 81.1%と最も高くなっています。

【年齢別】

年齢別にみると、年齢が上がるほど「受けていない」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	受けていない	経管栄養（留置チューブ・胃ろう・腸ろう）	吸引（口鼻腔内・エアウェイ内・気管内）	酸素管理	エアウェイの管理	導尿	気管切開部の衛生管理
全 体	90	81.1	2.2	2.2	2.2	0.0	2.2	0.0
0～5歳	13	53.8	15.4	15.4	7.7	0.0	7.7	0.0
6～15歳	62	85.5	0.0	0.0	1.6	0.0	1.6	0.0
16～19歳	12	91.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

区分	胃ろう・腸ろう部の衛生管理	ストマ（人工肛門・人工膀胱）の管理	中心静脈栄養	人工透析	定時の薬液吸入	人工呼吸器の作動状況の確認及び緊急時の連絡等	その他	無回答
全 体	1.1	0.0	0.0	0.0	2.2	1.1	1.1	10.0
0～5歳	7.7	0.0	0.0	0.0	7.7	7.7	0.0	15.4
6～15歳	0.0	0.0	0.0	0.0	1.6	0.0	1.6	8.1
16～19歳	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	8.3

【手帳の種類・診断別】

手帳の種類・診断別にみると、10件以上の項目で大きな差はみられません。

単位：％

区分	回答者数 (件)	受けていない	経管栄養（留置チューブ・胃ろう・腸ろう）	吸引（口鼻腔内・エアウェイ内・気管内）	酸素管理	エアウェイの管理	導尿	気管切開部の衛生管理
全 体	90	81.1	2.2	2.2	2.2	0.0	2.2	0.0
身体障害者手帳	6	16.7	33.3	33.3	16.7	0.0	33.3	0.0
愛の手帳（療育手帳）	51	82.4	0.0	0.0	2.0	0.0	2.0	0.0
精神障害者保健福祉手帳	12	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
発達障害の診断を受けている	25	72.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.0	0.0
自立支援医療（精神通院医療）を受けている	3	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
難病又は小児慢性特定疾病の認定を受けている	6	33.3	16.7	16.7	0.0	0.0	16.7	0.0
障害児通所支援を利用している	17	82.4	5.9	5.9	5.9	0.0	5.9	0.0

区分	胃ろう・腸ろう部の衛生管理	ストマ（人工肛門・人工膀胱）の管理	中心静脈栄養	人工透析	定時の薬液吸入	人工呼吸器の作動状況の確認及び緊急時の連絡等	その他	無回答
全 体	1.1	0.0	0.0	0.0	2.2	1.1	1.1	10.0
身体障害者手帳	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7	0.0	16.7
愛の手帳（療育手帳）	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	11.8
精神障害者保健福祉手帳	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
発達障害の診断を受けている	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.0	20.0
自立支援医療（精神通院医療）を受けている	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
難病又は小児慢性特定疾病の認定を受けている	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0
障害児通所支援を利用している	5.9	0.0	0.0	0.0	0.0	5.9	0.0	5.9

問 14 で何らかの医療的ケアを受けている方にお聞きします。

問 14－1 あなたは、医療的ケアに関して、困っていることや不安に思うことはありますか。(あてはまるものすべてに○印)

「いつ症状が急変するか怖い」「体調が変化した際、医療機関を受診すべきか判断に迷う」が2件となっています。

【年齢別】

単位：％

区分	回答者数(件)	いつ症状が急変するか怖い	体調が変化した際、医療機関を受診すべきか判断に迷う	日常的なケアや症状への対応が難しい	医療者の対応に不安がある	医療用物品の調達・管理が難しい	主たる介護者が、ケアによる身体的な負担が大きい	主たる介護者が、ケアにより自分の時間を持てない	経済的な負担が大きい	時間的制約により働きたくても働くことができない	医療的ケアが必要な方がいる家族同士のつながりがない	特筆したい内容・その他	無回答
全 体	8	25.0	25.0	12.5	0.0	12.5	12.5	12.5	0.0	12.5	0.0	12.5	12.5
0～5歳	4	50.0	50.0	25.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
6～15歳	4	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	25.0	0.0	0.0	25.0	0.0	25.0	25.0
16～19歳	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

【手帳の種類・診断別】

単位：％

区分	回答者数（件）	いつ症状が急変するか怖い	体調が変化した際、医療機関を受診すべきか判断に迷う	日常的なケアや症状への対応が難しい	医療者の対応に不安がある	医療用物品の調達・管理が難しい	主たる介護者が、ケアによる身体的な負担が大きい	主たる介護者が、ケアにより自分の時間を持ってない	経済的な負担が大きい	時間的制約により働きたくても働くことができない	医療的ケアが必要な方がいる家族同士のつながりがない	特筆したい内容・その他	無回答
全 体	8	25.0	25.0	12.5	0.0	12.5	12.5	12.5	0.0	12.5	0.0	12.5	12.5
身体障害者手帳	4	25.0	50.0	25.0	0.0	0.0	25.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
愛の手帳（療育手帳）	3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	33.3	0.0	33.3	33.3
精神障害者保健福祉手帳	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
発達障害の診断を受けている	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0
自立支援医療（精神通院医療）を受けている	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
難病又は小児慢性特定疾病の認定を受けている	4	25.0	25.0	0.0	0.0	25.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
障害児通所支援を利用している	2	50.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

日常生活について

問 15 あなたには、日常生活で困っていることはありますか。(あてはまるものすべてに○印)

「日常会話・コミュニケーションのこと」の割合が 57.8%と最も高く、次いで「進学・学校生活のこと」の割合が 41.1%、「友人関係、近所づきあい」、「外出・買い物など」の割合が 28.9%となっています。

【年齢別】

年齢別にみると、年齢が下がるほど「住宅・生活の場所のこと」「身体・健康のこと」の割合が高く、「結婚、性、恋愛などに関すること」の割合が低くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	治療・訓練のこと	日常会話・コミュニケーションのこと	友人関係、近所づきあい	外出・買い物など	保健・医療サービスに関すること	住宅・生活の場所のこと	福祉サービスに関すること	進学・学校生活のこと
全 体	90	5.6	57.8	28.9	28.9	12.2	10.0	15.6	41.1
0～5歳	13	7.7	61.5	7.7	23.1	23.1	15.4	15.4	30.8
6～15歳	62	4.8	62.9	35.5	32.3	9.7	9.7	17.7	50.0
16～19歳	12	8.3	33.3	16.7	25.0	16.7	8.3	8.3	16.7

区分	交通機関の利用に関すること	身体・健康のこと	結婚、性、恋愛などに関すること	親や介助者の高齢化のこと	相談できる方がいない(限られている)	その他	特にない	無回答
全 体	21.1	18.9	12.2	12.2	11.1	2.2	20.0	0.0
0～5歳	23.1	30.8	7.7	23.1	15.4	7.7	23.1	0.0
6～15歳	21.0	17.7	11.3	9.7	8.1	1.6	16.1	0.0
16～19歳	25.0	16.7	16.7	16.7	25.0	0.0	25.0	0.0

【手帳の種類・診断別】

手帳の種類・診断別にみると、発達障害の診断を受けているで「日常会話・コミュニケーションのこと」「進学・学校生活のこと」、愛の手帳（療育手帳）で「外出・買い物など」、精神障害者保健福祉手帳で「交通機関の利用に関すること」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	治療・訓練のこと	日常会話・コミュニケーションのこと	友人関係、近所づきあい	外出・買い物など	保健・医療サービスに関すること	住宅・生活の場所のこと	福祉サービスに関すること	進学・学校生活のこと
全 体	90	5.6	57.8	28.9	28.9	12.2	10.0	15.6	41.1
身体障害者手帳	6	33.3	33.3	0.0	0.0	16.7	16.7	33.3	50.0
愛の手帳（療育手帳）	51	5.9	72.5	29.4	41.2	19.6	13.7	19.6	37.3
精神障害者保健福祉手帳	12	8.3	41.7	25.0	33.3	16.7	8.3	16.7	50.0
発達障害の診断を受けている	25	8.0	76.0	36.0	24.0	8.0	4.0	8.0	60.0
自立支援医療（精神通院医療）を受けている	3	33.3	100.0	33.3	66.7	33.3	0.0	0.0	33.3
難病又は小児慢性特定疾病の認定を受けている	6	0.0	33.3	16.7	16.7	0.0	0.0	16.7	33.3
障害児通所支援を利用している	17	5.9	52.9	29.4	23.5	11.8	11.8	11.8	47.1

区分	交通機関の利用に関すること	身体・健康のこと	結婚、性、恋愛などに関すること	親や介助者の高齢化のこと	相談できる方がいない（限られている）	その他	特にない	無回答
全 体	21.1	18.9	12.2	12.2	11.1	2.2	20.0	0.0
身体障害者手帳	16.7	66.7	16.7	16.7	16.7	0.0	16.7	0.0
愛の手帳（療育手帳）	27.5	19.6	19.6	17.6	17.6	2.0	15.7	0.0
精神障害者保健福祉手帳	33.3	16.7	0.0	16.7	8.3	0.0	25.0	0.0
発達障害の診断を受けている	8.0	12.0	0.0	8.0	4.0	0.0	4.0	0.0
自立支援医療（精神通院医療）を受けている	66.7	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0
難病又は小児慢性特定疾病の認定を受けている	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0
障害児通所支援を利用している	11.8	11.8	5.9	5.9	0.0	5.9	17.6	0.0

問 16 あなたは、日常生活で困った時に、誰に（どこに）相談・確認しますか。（あてはまるものすべてに○印）

「家族・親戚」の割合が 83.3%と最も高く、次いで「保育園、幼稚園、学校の先生」の割合が 43.3%、「福祉施設の職員」の割合が 21.1%となっています。

【年齢別】

年齢別にみると、年齢が下がるほど「福祉施設の職員」「公的機関（市役所、保健所、児童相談所など）」「同じ悩みや障害を持つ子の保護者」の割合が高く、「友人・知人」「相談支援事業所」の割合が低くなっています。

単位：％

区分	回答者数（件）	家族・親戚	友人・知人	先生 保育園、幼稚園、学校の	医療関係者	福祉施設の職員	公的機関（市役所、保健所、児童相談所など）	民生委員・児童委員	同じ悩みや障害を持つ子の保護者	相談支援事業所	インターネット、SNS	その他	相談しない	無回答
全 体	90	83.3	15.6	43.3	16.7	21.1	6.7	0.0	8.9	10.0	8.9	4.4	6.7	0.0
0～5歳	13	76.9	7.7	38.5	15.4	30.8	15.4	0.0	15.4	0.0	15.4	15.4	0.0	0.0
6～15歳	62	87.1	12.9	46.8	17.7	19.4	6.5	0.0	8.1	6.5	3.2	3.2	4.8	0.0
16～19歳	12	83.3	33.3	33.3	16.7	8.3	0.0	0.0	0.0	25.0	25.0	0.0	16.7	0.0

【手帳の種類・診断別】

手帳の種類・診断別にみると、発達障害の診断を受けているで「保育園、幼稚園、学校の先生」「福祉施設の職員」、精神障害者保健福祉手帳で「医療関係者」、障害児通所支援を利用しているで「同じ悩みや障害を持つ子の保護者」の割合が高くなっています。

単位：％

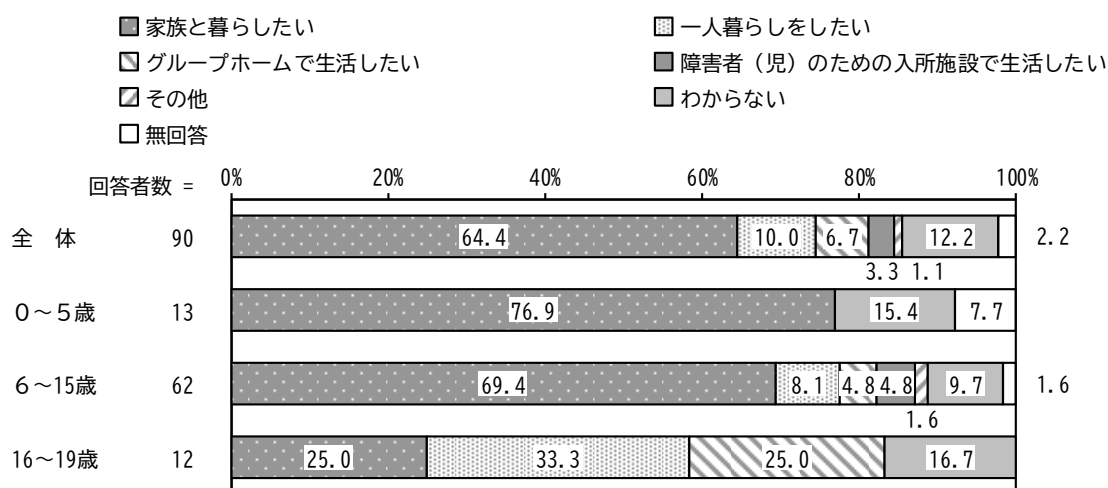
区分	回答者数 (件)	家族・親戚	友人・知人	先生 保育園、幼稚園、学校の	医療関係者	福祉施設の職員	公的機関(市役所、保健 所、児童相談所など)	民生委員・児童委員	同じ悩みや障害を持つ 子の保護者	相談支援事業所	インターネット、SNS	その他	相談しない	無回答
全 体	90	83.3	15.6	43.3	16.7	21.1	6.7	0.0	8.9	10.0	8.9	4.4	6.7	0.0
身体障害者手帳	6	66.7	16.7	0.0	16.7	33.3	16.7	0.0	16.7	0.0	50.0	0.0	16.7	0.0
愛の手帳(療育手帳)	51	82.4	17.6	45.1	17.6	29.4	9.8	0.0	11.8	13.7	7.8	3.9	5.9	0.0
精神障害者保健福祉手帳	12	100.0	25.0	41.7	33.3	0.0	0.0	0.0	8.3	8.3	16.7	0.0	0.0	0.0
発達障害の診断を受けている	25	80.0	8.0	60.0	16.0	32.0	4.0	0.0	8.0	4.0	8.0	0.0	8.0	0.0
自立支援医療(精神通院医療)を受けている	3	66.7	0.0	0.0	33.3	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0
難病又は小児慢性特定疾病の認定を受けている	6	66.7	0.0	33.3	16.7	16.7	0.0	0.0	33.3	0.0	16.7	0.0	16.7	0.0
障害児通所支援を利用している	17	76.5	5.9	41.2	17.6	23.5	11.8	0.0	23.5	5.9	11.8	17.6	5.9	0.0

問 17 あなたは今後、どのような生活の場で暮らしたいと思いますか。(○印は1つ)

「家族と暮らしたい」の割合が64.4%と最も高く、次いで「一人暮らしをしたい」の割合が10.0%となっています。

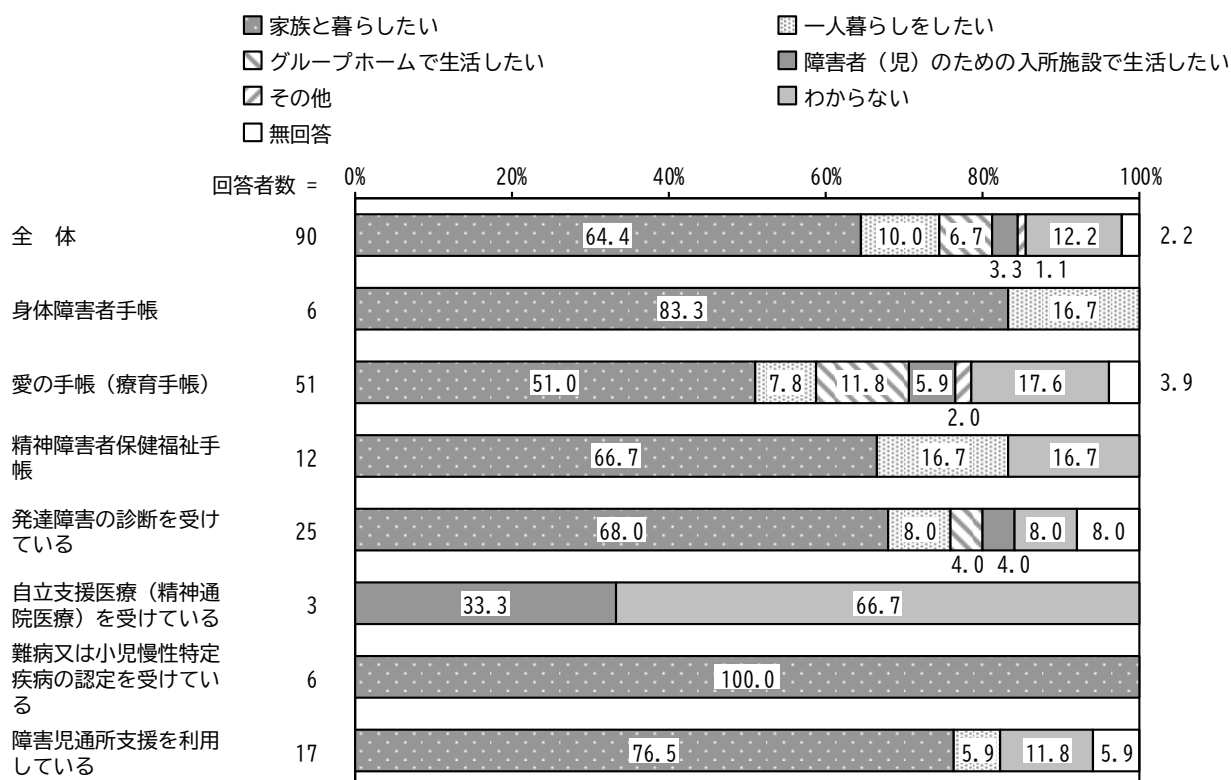
【年齢別】

年齢別にみると、年齢が上がるほど「一人暮らしをしたい」「グループホームで生活したい」の割合が高く、「家族と暮らしたい」の割合が低くなっています。



【手帳の種類・診断別】

手帳の種類・診断別にみると、障害児通所支援を利用しているで「家族と暮らしたい」、精神障害者保健福祉手帳で「一人暮らしをしたい」、愛の手帳（療育手帳）で「グループホームで生活したい」の割合が高くなっています。

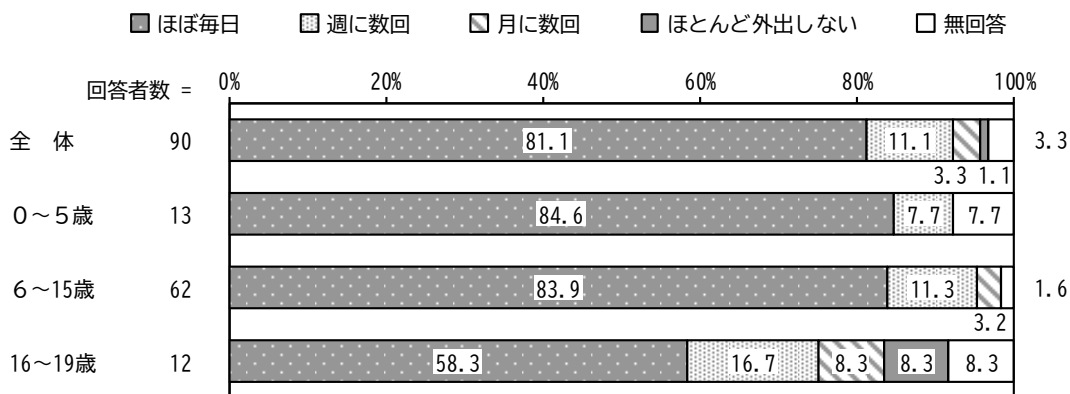


問 18 あなたは、普段どれくらい外出しますか。(○印は1つ)

「ほぼ毎日」の割合が81.1%と最も高く、次いで「週に数回」の割合が11.1%となっています。

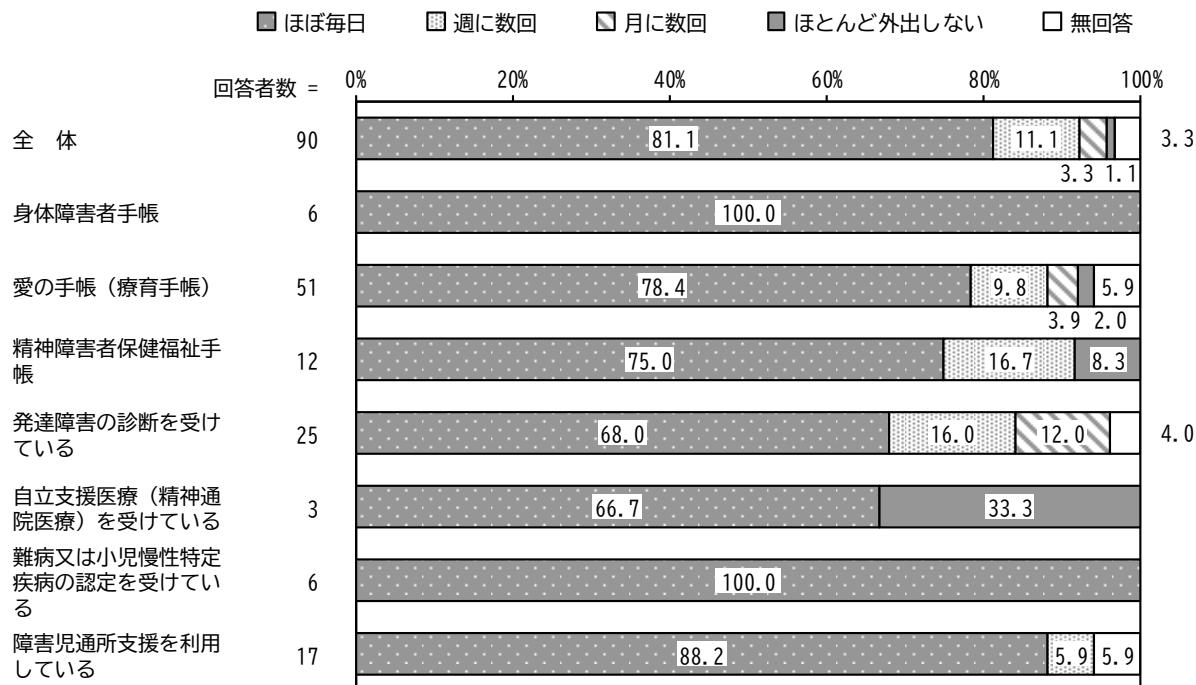
【年齢別】

年齢別にみると、年齢が上がるほど「週に数回」の割合が高く、「ほぼ毎日」の割合が低くなっています。



【手帳の種類・診断別】

手帳の種類・診断別にみると、障害児通所支援を利用しているで「ほぼ毎日」、精神障害者保健福祉手帳で「週に数回」「ほとんど外出しない」、発達障害の診断を受けているで「月に数回」の割合が高くなっています。



問 19 普段外出するときに、困ることは何ですか。（あてはまるものすべてに○印）

「困った時にどうすればよいか心配」の割合が 32.2%と最も高く、次いで「切符の買い方や乗換えがわかりにくい」の割合が 21.1%、「バスや電車などの乗り降りが難しい」の割合が 14.4%となっています。

【年齢別】

年齢別にみると、年齢が下がるほど「バスや電車などの乗り降りが難しい」「道路や駅に階段や段差が多い」の割合が高く、「切符の買い方や乗換えがわかりにくい」の割合が低くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	バスや電車などの 公共交通機関が少 ない、またはない	バスや電車などの 乗り降りが難しい	道路や駅に階段や 段差が多い	切符の買い方や乗 換えがわかりにく い	トイレやエレベ ーターなどの建物 の設備が不便	介助者が確保でき ない	交通費（運賃など） にお金がかかる	ヘルパーの利用料 などにお金がかか る
全 体	90	5.6	14.4	3.3	21.1	5.6	7.8	7.8	4.4
0～5歳	13	0.0	23.1	15.4	7.7	15.4	0.0	0.0	0.0
6～15歳	62	6.5	14.5	1.6	24.2	3.2	9.7	8.1	4.8
16～19歳	12	0.0	8.3	0.0	25.0	8.3	8.3	8.3	8.3

区分	周囲の目が気にな る	周囲の方からの配 慮・手助けがない	発作など突然の体 調不良が心配	困った時にどうす ればよいか心配	休憩できる場所が 少ない	その他	特 に ない	無 回 答
全 体	8.9	7.8	4.4	32.2	10.0	5.6	38.9	3.3
0～5歳	7.7	0.0	0.0	15.4	23.1	15.4	38.5	7.7
6～15歳	11.3	11.3	4.8	35.5	4.8	4.8	40.3	1.6
16～19歳	0.0	0.0	8.3	33.3	25.0	0.0	33.3	8.3

【手帳の種類・診断別】

手帳の種類・診断別にみると、愛の手帳（療育手帳）で「バスや電車などの乗り降りが難しい」「介助者が確保できない」、精神障害者保健福祉手帳で「交通費（運賃など）にお金がかかる」、愛の手帳（療育手帳）、精神障害者保健福祉手帳、発達障害の診断を受けているで「困った時にどうすればよい心配」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数（件）	バスや電車などの公共交通機関が少ない、またはない	バスや電車などの乗り降りが難しい	道路や駅に階段や段差が多い	切符の買い方や乗換えがわかりにくい	トイレやエレベーターなどの建物の設備が不便	介助者が確保できない	交通費（運賃など）にお金がかかる	ヘルパーの利用料などにお金がかかる
全 体	90	5.6	14.4	3.3	21.1	5.6	7.8	7.8	4.4
身体障害者手帳	6	0.0	16.7	16.7	0.0	16.7	0.0	0.0	0.0
愛の手帳（療育手帳）	51	9.8	19.6	3.9	25.5	7.8	13.7	9.8	7.8
精神障害者保健福祉手帳	12	0.0	8.3	0.0	16.7	0.0	8.3	16.7	0.0
発達障害の診断を受けている	25	0.0	12.0	4.0	16.0	8.0	4.0	4.0	4.0
自立支援医療（精神通院医療）を受けている	3	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0
難病又は小児慢性特定疾病の認定を受けている	6	0.0	0.0	0.0	33.3	33.3	0.0	0.0	0.0
障害児通所支援を利用している	17	0.0	11.8	5.9	23.5	5.9	0.0	5.9	0.0

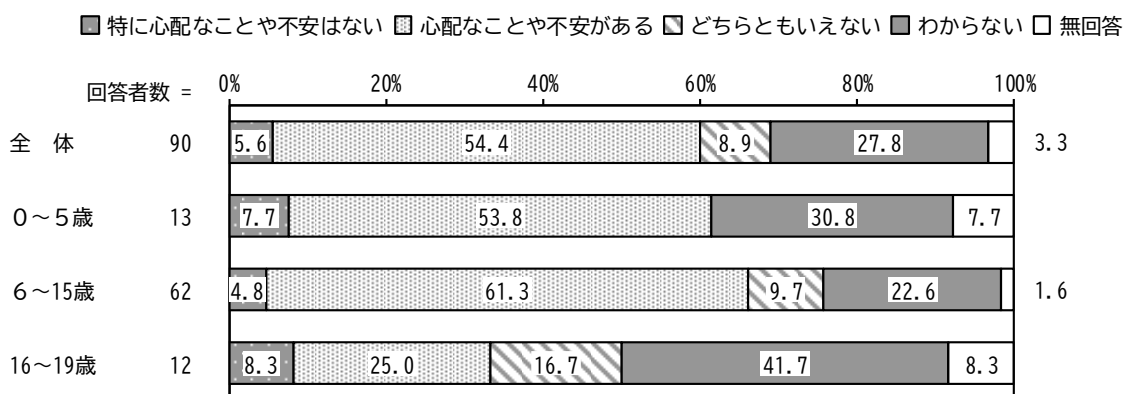
区分	周囲の目が気になる	周囲の方からの配慮・手助けがない	発作など突然の体調不良が心配	困った時にどうすればよい心配	休憩できる場所が少ない	その他	特にない	無回答
全 体	8.9	7.8	4.4	32.2	10.0	5.6	38.9	3.3
身体障害者手帳	0.0	0.0	16.7	16.7	0.0	0.0	33.3	0.0
愛の手帳（療育手帳）	13.7	9.8	5.9	41.2	13.7	5.9	21.6	5.9
精神障害者保健福祉手帳	0.0	8.3	0.0	41.7	8.3	0.0	41.7	0.0
発達障害の診断を受けている	4.0	12.0	0.0	40.0	8.0	0.0	48.0	4.0
自立支援医療（精神通院医療）を受けている	33.3	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0
難病又は小児慢性特定疾病の認定を受けている	0.0	16.7	0.0	33.3	0.0	0.0	33.3	0.0
障害児通所支援を利用している	11.8	5.9	0.0	23.5	5.9	11.8	41.2	5.9

問 20 あなたや家族、介助してくれる方は、あなたの”親が亡くなった後”や、将来の生活について、心配なことや不安がありますか。(○印は1つ)

「特に心配なことや不安はない」の割合が 5.6%、「心配なことや不安がある」の割合が 54.4%、「どちらともいえない」の割合が 8.9%となっています。

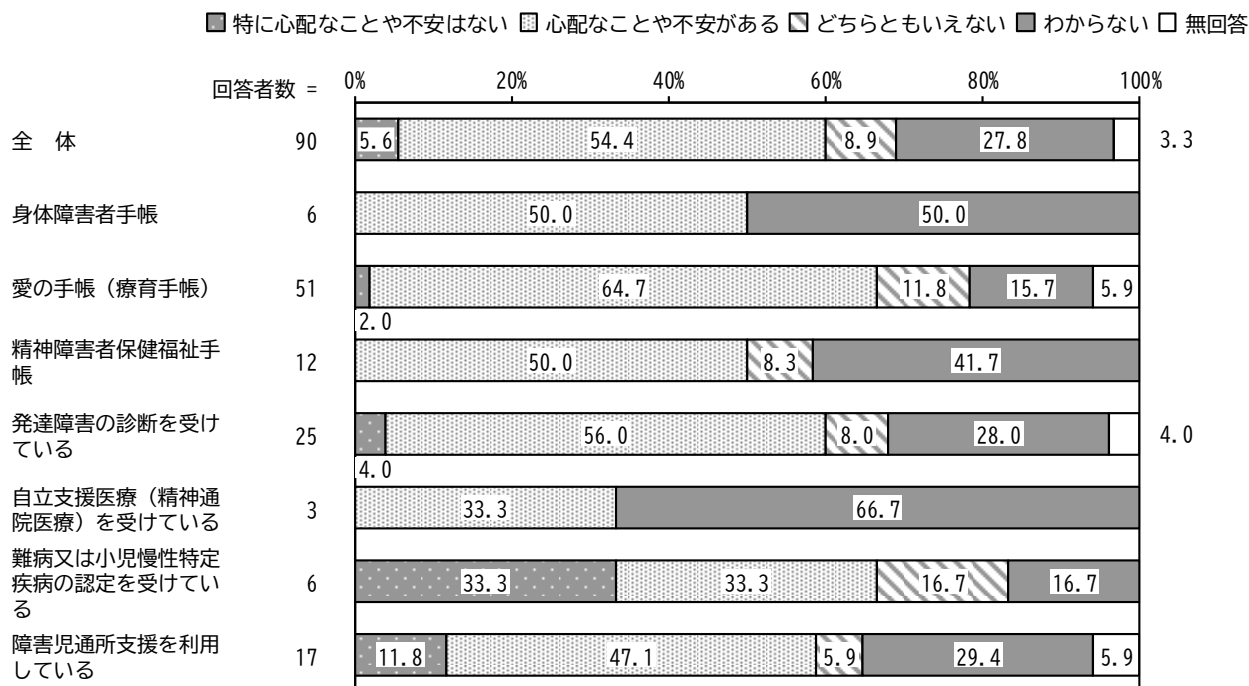
【年齢別】

年齢別にみると、0～5歳、6～15歳で「心配なことや不安がある」の割合が高くなっています。



【手帳の種類・診断別】

手帳の種類・診断別にみると、障害児通所支援を利用しているで「特に心配なことや不安はない」、愛の手帳（療育手帳）で「心配なことや不安がある」の割合が高くなっています。



問 21 あなたや家族は、「親が亡くなった後」の生活に関するつぎのことについて、心配や不安を感じていますか。(あてはまるものすべてに○印)

「お金の管理や支援」の割合が 66.7%と最も高く、次いで「生活に必要な収入」の割合が 61.1%、「日常的な意思決定や支援」「相談できる方や機関」の割合が 50.0%となっています。

【年齢別】

年齢別にみると、年齢が上がるほど「緊急時の支援」の割合が高く、「日常的な介助や家事の援助」の割合が低くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	住む場所	日常的な 介助や家 事の援助	日常的な 意思決定 や支援	相談できる 方や機関	医療機関の 受診	生活に必要 な収入	お金の管理 や支援	日中を過 ごす場	休みの日 の過ごし 方	緊急時の 支援	その他	無回答
全 体	90	47.8	37.8	50.0	50.0	38.9	61.1	66.7	27.8	26.7	44.4	5.6	12.2
0～5歳	13	46.2	46.2	38.5	46.2	38.5	46.2	53.8	23.1	23.1	38.5	7.7	30.8
6～15歳	62	48.4	38.7	54.8	53.2	37.1	67.7	72.6	30.6	27.4	45.2	6.5	6.5
16～19歳	12	41.7	33.3	41.7	41.7	50.0	41.7	58.3	25.0	25.0	50.0	0.0	25.0

【手帳の種類・診断別】

手帳の種類・診断別にみると、愛の手帳（療育手帳）で「住む場所」「日常的な介助や家事の援助」「日中を過ごす場」「休みの日の過ごし方」、精神障害者保健福祉手帳で「医療機関の受診」「緊急時の支援」、愛の手帳（療育手帳）、精神障害者保健福祉手帳で「生活に必要な収入」「お金の管理や支援」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	住む場所	日常的な 介助や家 事の援助	日常的な 意思決定 や支援	相談できる 方や機関	医療機関の 受診	生活に必要 な収入	お金の管理 や支援	日中を過 ごす場	休みの日 の過ごし 方	緊急時の 支援	その他	無回答
全 体	90	47.8	37.8	50.0	50.0	38.9	61.1	66.7	27.8	26.7	44.4	5.6	12.2
身体障害者手帳	6	16.7	66.7	33.3	50.0	66.7	33.3	33.3	0.0	0.0	66.7	0.0	0.0
愛の手帳（療育手帳）	51	64.7	54.9	58.8	58.8	45.1	74.5	82.4	45.1	43.1	54.9	2.0	5.9
精神障害者保健福祉手帳	12	50.0	25.0	58.3	41.7	58.3	75.0	83.3	16.7	16.7	58.3	0.0	8.3
発達障害の診断を受けている	25	48.0	32.0	48.0	40.0	32.0	64.0	72.0	16.0	16.0	32.0	8.0	8.0
自立支援医療（精神通院医療）を受けている	3	66.7	100.0	33.3	66.7	66.7	66.7	100.0	33.3	33.3	66.7	0.0	0.0
難病又は小児慢性特定疾病の認定を受けている	6	16.7	33.3	0.0	33.3	16.7	50.0	33.3	0.0	0.0	16.7	0.0	33.3
障害児通所支援を利用している	17	17.6	29.4	35.3	35.3	17.6	52.9	41.2	5.9	5.9	23.5	11.8	29.4

問 22 あなたや家族は、「親が亡くなった後」への準備をするうえで、困ることがありますか。(あてはまるものすべてに○印)

「考えるとさらに不安になる」の割合が 42.2%と最も高く、次いで「何をすればよいかわからない」の割合が 41.1%、「情報が得にくい」「相談やいっしょに考える方がいない」の割合が 33.3%となっています。

【年齢別】

年齢別にみると、年齢が上がるほど「情報が得にくい」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	情報が得にくい	相談やいっしょに 考える方がいない	準備をする時間的 な余裕がない	考えるとさらに不 安になる	準備をするために 費用がかかる	その他	何をすればよいか がわからない	無回答
全 体	90	33.3	33.3	7.8	42.2	16.7	5.6	41.1	11.1
0～5歳	13	30.8	7.7	7.7	23.1	7.7	0.0	46.2	30.8
6～15歳	62	32.3	37.1	8.1	46.8	19.4	8.1	38.7	6.5
16～19歳	12	41.7	33.3	8.3	41.7	16.7	0.0	58.3	16.7

【手帳の種類・診断別】

手帳の種類・診断別にみると、愛の手帳（療育手帳）で「情報が得にくい」「考えるとさらに不安になる」「準備をするために費用がかかる」、精神障害者保健福祉手帳で「相談やいっしょに考える方がいない」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	情報が得にくい	相談やいっしょに 考える方がいない	準備をする時間的 な余裕がない	考えるとさらに不 安になる	準備をするために 費用がかかる	その他	何をすればよいか がわからない	無回答
全 体	90	33.3	33.3	7.8	42.2	16.7	5.6	41.1	11.1
身体障害者手帳	6	33.3	33.3	0.0	16.7	0.0	0.0	66.7	0.0
愛の手帳（療育手帳）	51	39.2	37.3	11.8	54.9	25.5	3.9	47.1	5.9
精神障害者保健福祉手帳	12	25.0	41.7	8.3	41.7	16.7	0.0	41.7	0.0
発達障害の診断を受けている	25	24.0	28.0	8.0	36.0	12.0	4.0	48.0	8.0
自立支援医療（精神通院医療）を受けている	3	33.3	33.3	0.0	33.3	33.3	0.0	66.7	0.0
難病又は小児慢性特定疾病の認定を受けている	6	33.3	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	33.3	33.3
障害児通所支援を利用している	17	23.5	11.8	0.0	29.4	5.9	11.8	29.4	29.4

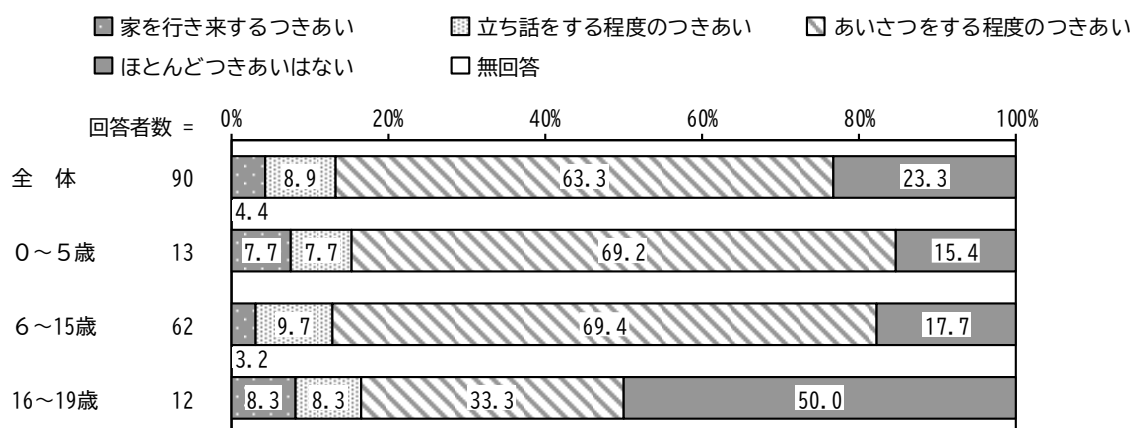
地域での生活について

問 23 あなたは、普段、近所の方とどの程度おつきあいをしていますか。(○印は1つ)

「あいさつをする程度のつきあい」の割合が 63.3%と最も高く、次いで「ほとんどつきあいはない」の割合が 23.3%となっています。

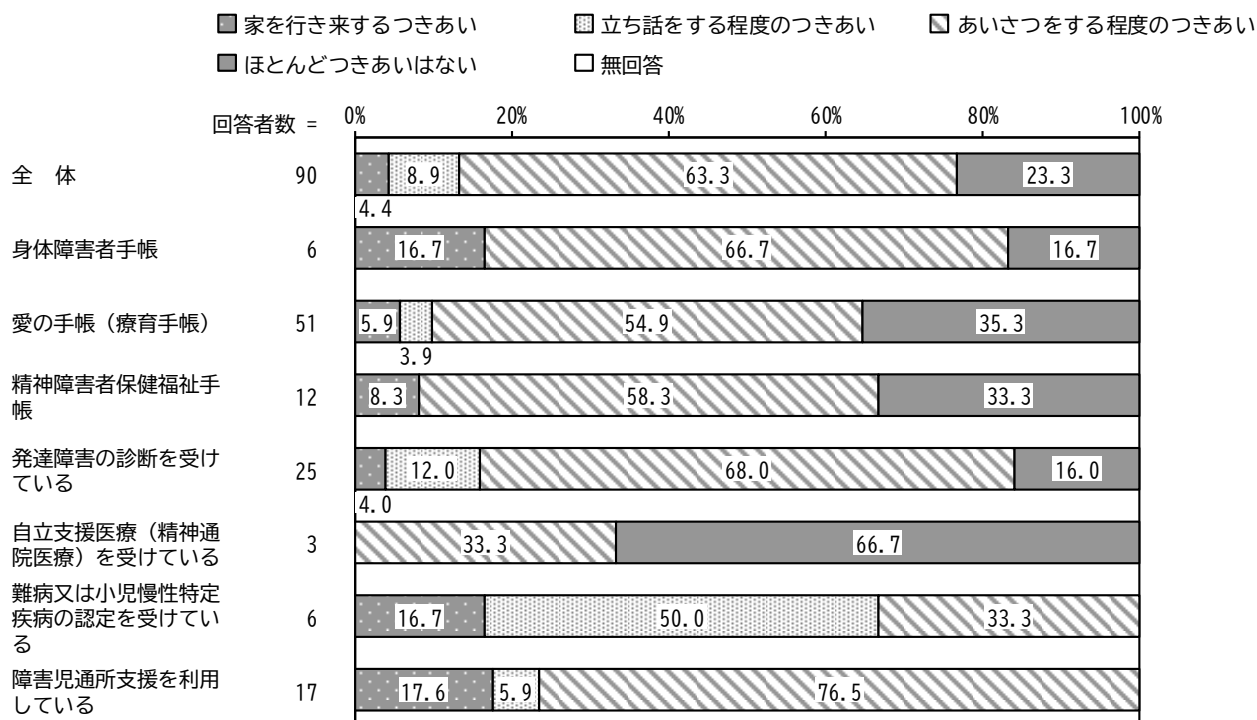
【年齢別】

年齢別にみると、年齢が上がるほど「ほとんどつきあいはない」の割合が高くなっています。



【手帳の種類・診断別】

手帳の種類・診断別にみると、障害児通所支援を利用しているで「家を行き来するつきあい」「あいさつをする程度のつきあい」、愛の手帳（療育手帳）、精神障害者保健福祉手帳で「ほとんどつきあいはない」の割合が高くなっています。

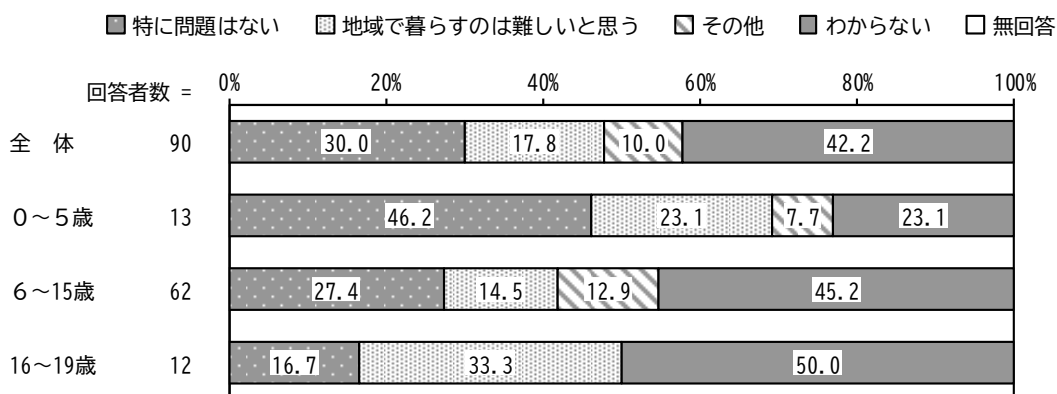


問 24 障害者が入所施設で生活するのではなく、今後、住み慣れた地域で暮らしていくことについてどう思いますか。(○印は1つ)

「特に問題はない」の割合が 30.0%、「地域で暮らすのは難しいと思う」の割合が 17.8%となっています。

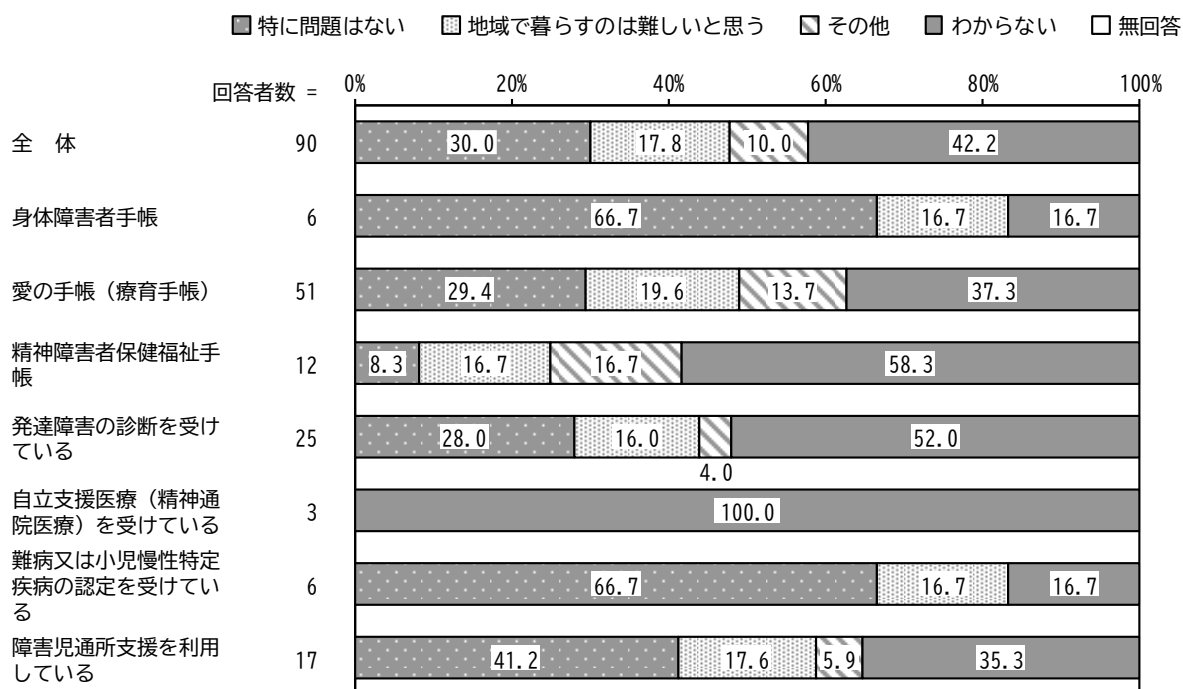
【年齢別】

年齢別にみると、年齢が下がるほど「特に問題はない」の割合が高くなっています。



【手帳の種類・診断別】

手帳の種類・診断別にみると、障害児通所支援を利用しているで「特に問題はない」の割合が高くなっています。



問 25 あなたは、障害児が地域で生活していくためには何が必要だと思いますか。(特に必要と思われるもの3つまで○印)

「日中の活動・訓練場所や作業所の充実」の割合が 37.8%と最も高く、次いで「地域生活やサービス利用に関する相談支援」の割合が 34.4%、「地域の方たちの障害に対する理解」の割合が 28.9%となっています。

【年齢別】

年齢別にみると、年齢が上がるほど「障害者のための住宅の確保」「地域の方たちの障害に対する理解」の割合が高く、「日中の活動・訓練場所や作業所の充実」「利用しやすい医療機関」の割合が低くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	地域生活やサービス利用に関する相談支援	訪問系サービスの充実	日中の活動・訓練場所や作業所の充実	グループホームの拡充	手話などによるコミュニケーションの支援	失語症によりコミュニケーションが難しい方への意思疎通支援	障害者のための住宅の確保
全 体	90	34.4	12.2	37.8	22.2	2.2	5.6	22.2
0～5歳	13	46.2	30.8	38.5	0.0	7.7	7.7	7.7
6～15歳	62	30.6	8.1	37.1	25.8	0.0	6.5	24.2
16～19歳	12	41.7	16.7	33.3	16.7	8.3	0.0	33.3

区分	利用しやすい医療機関	一般就労するための支援	交通機関や施設などのバリアフリー化	地域の方たちの障害に対する理解	その他	特に困っていることはない	無回答
全 体	18.9	24.4	4.4	28.9	5.6	6.7	7.8
0～5歳	23.1	7.7	0.0	23.1	15.4	7.7	0.0
6～15歳	21.0	29.0	6.5	27.4	4.8	4.8	9.7
16～19歳	8.3	25.0	0.0	41.7	0.0	8.3	8.3

【手帳の種類・診断別】

手帳の種類・診断別にみると、精神障害者保健福祉手帳で「日中の活動・訓練場所や作業所の充実」「一般就労するための支援」「地域の方たちの障害に対する理解」、愛の手帳（療育手帳）で「グループホームの拡充」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数（件）	地域生活やサービス利用に関する相談支援	訪問系サービスの充実	日中の活動・訓練場所や作業所の充実	グループホームの拡充	手話などによるコミュニケーションの支援	失語症によりコミュニケーションが難しい方への意思疎通支援	障害者のための住宅の確保
全 体	90	34.4	12.2	37.8	22.2	2.2	5.6	22.2
身体障害者手帳	6	50.0	50.0	33.3	0.0	16.7	16.7	16.7
愛の手帳（療育手帳）	51	29.4	5.9	45.1	37.3	0.0	7.8	27.5
精神障害者保健福祉手帳	12	25.0	8.3	58.3	8.3	8.3	0.0	16.7
発達障害の診断を受けている	25	44.0	8.0	32.0	16.0	0.0	4.0	12.0
自立支援医療（精神通院医療）を受けている	3	33.3	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	33.3
難病又は小児慢性特定疾病の認定を受けている	6	50.0	33.3	33.3	0.0	0.0	16.7	0.0
障害児通所支援を利用している	17	41.2	17.6	35.3	5.9	5.9	0.0	17.6

区分	利用しやすい医療機関	援一般就労するための支援	交通機関や施設などのバリアフリー化	地域の方たちの障害に対する理解	その他	特に困っていることはない	無回答
全 体	18.9	24.4	4.4	28.9	5.6	6.7	7.8
身体障害者手帳	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7	0.0
愛の手帳（療育手帳）	11.8	17.6	5.9	21.6	5.9	3.9	13.7
精神障害者保健福祉手帳	16.7	50.0	0.0	50.0	16.7	8.3	0.0
発達障害の診断を受けている	24.0	32.0	0.0	32.0	8.0	4.0	4.0
自立支援医療（精神通院医療）を受けている	33.3	33.3	0.0	33.3	0.0	0.0	33.3
難病又は小児慢性特定疾病の認定を受けている	33.3	16.7	16.7	16.7	0.0	0.0	0.0
障害児通所支援を利用している	23.5	23.5	0.0	35.3	0.0	5.9	5.9

問 26 あなたは、相手とコミュニケーションをする時や必要な情報を利用する時に、特に困るのはどのような場合ですか。(あてはまるものすべてに○印)

「初めて行くところに出かける時」の割合が 57.8%と最も高く、次いで「病院にかかった時」の割合が 40.0%、「銀行を利用する時」の割合が 36.7%となっています。

【年齢別】

年齢別にみると、年齢が下がるほど「銀行を利用する時」「買い物をする時」「スポーツやレクリエーションに参加する時」「仕事をする時」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	飲食店を利用する時	初めて行くところに出 かける時	銀行を利用する時	病院にかかった時	旅行をする時	買い物をする時	スポーツやレクリエー ションに参加する時	住まいを探す時	仕事をする時	その他	無回答
全 体	90	31.1	57.8	36.7	40.0	33.3	35.6	27.8	32.2	35.6	11.1	13.3
0～5歳	13	38.5	46.2	38.5	38.5	38.5	38.5	38.5	30.8	38.5	23.1	30.8
6～15歳	62	27.4	64.5	37.1	41.9	29.0	33.9	27.4	32.3	35.5	9.7	8.1
16～19歳	12	41.7	41.7	33.3	25.0	41.7	33.3	25.0	33.3	33.3	8.3	16.7

【手帳の種類・診断別】

手帳の種類・診断別にみると、愛の手帳（療育手帳）で「飲食店を利用する時」「病院にかかった時」「買い物をする時」「スポーツやレクリエーションに参加する時」「住まいを探す時」、精神障害者保健福祉手帳で「初めて行くところに出かける時」「銀行を利用する時」「旅行をする時」「仕事をする時」の割合が高くなっています。

単位：％

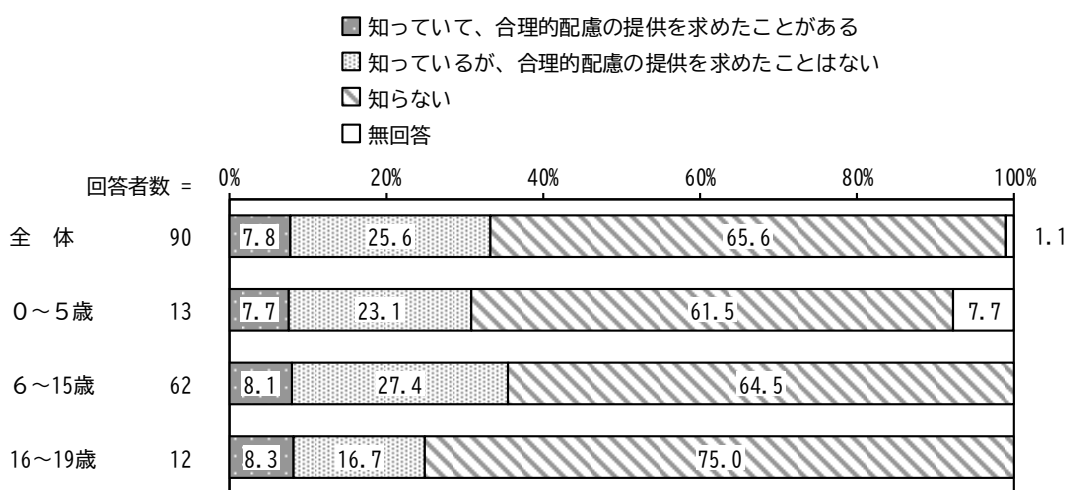
区分	回答者数 (件)	飲食店を利用する時	初めて行くところに出 かける時	銀行を利用する時	病院にかかった時	旅行をする時	買い物をする時	スポーツやレクリエー ションに参加する時	住まいを探す時	仕事をする時	その他	無回答
全 体	90	31.1	57.8	36.7	40.0	33.3	35.6	27.8	32.2	35.6	11.1	13.3
身体障害者手帳	6	16.7	33.3	16.7	33.3	16.7	16.7	33.3	16.7	16.7	16.7	16.7
愛の手帳（療育手帳）	51	52.9	68.6	52.9	56.9	47.1	58.8	41.2	47.1	45.1	5.9	3.9
精神障害者保健福祉手帳	12	33.3	91.7	66.7	41.7	66.7	25.0	25.0	41.7	58.3	0.0	8.3
発達障害の診断を受けている	25	32.0	60.0	36.0	40.0	40.0	32.0	32.0	28.0	44.0	24.0	8.0
自立支援医療（精神通 院医療）を受けている	3	66.7	100.0	66.7	33.3	66.7	66.7	33.3	33.3	33.3	0.0	0.0
難病又は小児慢性特定 疾病の認定を受けている	6	16.7	66.7	16.7	16.7	16.7	33.3	16.7	16.7	16.7	0.0	33.3
障害児通所支援を利用 している	17	17.6	47.1	23.5	23.5	29.4	23.5	23.5	23.5	35.3	17.6	23.5

問 27 障害者差別解消法が改正され、令和6年から事業者等による障害のある方への「合理的配慮の提供」が義務化されました。「合理的配慮の提供」とは、障害のある方から社会の中にある障壁を取り除くための何らかの配慮を求める意思表示があったときに、負担が重すぎない範囲で対応することです。あなたは、合理的配慮の提供について知っていますか。(○印は1つ)

「知っていて、合理的配慮の提供を求めたことがある」の割合が 7.8%、「知っているが、合理的配慮の提供を求めたことはない」の割合が 25.6%、「知らない」の割合が 65.6%となっています。

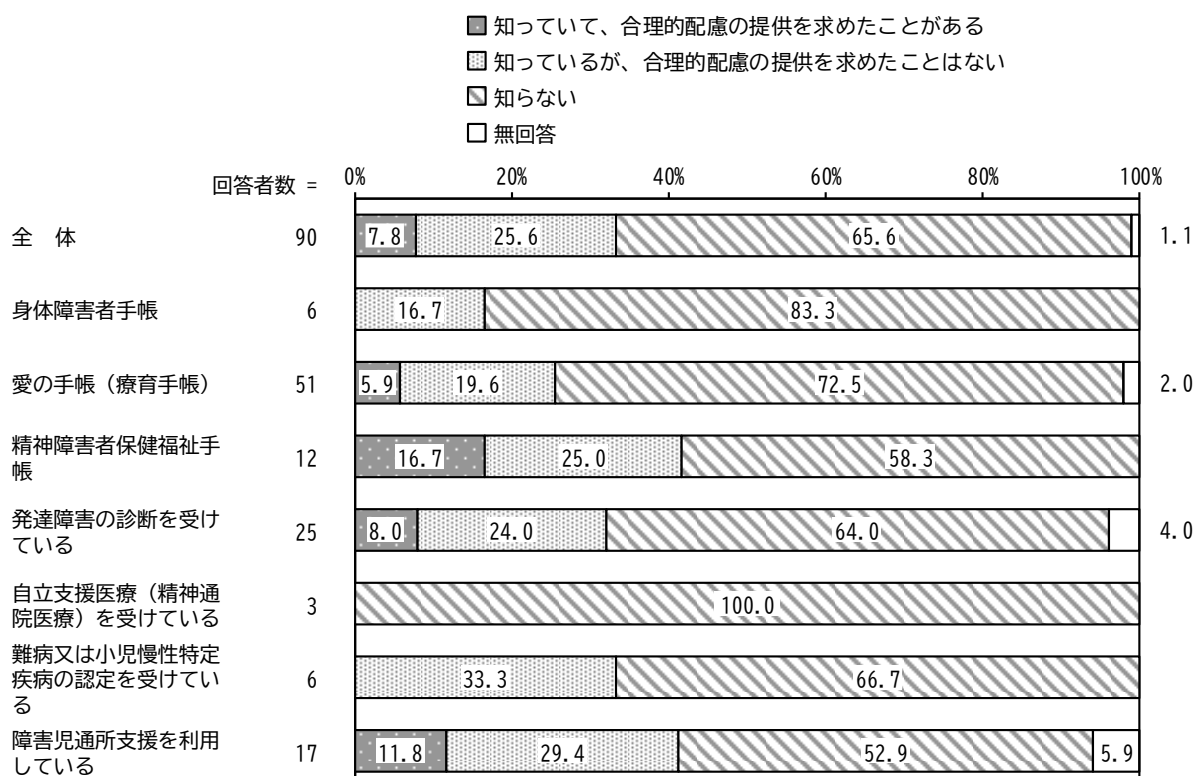
【年齢別】

年齢別にみると、年齢が上がるほど「知らない」の割合が高くなっています。



【手帳の種類・診断別】

手帳の種類・診断別にみると、精神障害者保健福祉手帳で「知っていて、合理的配慮の提供を求めたことがある」、愛の手帳（療育手帳）で「知らない」の割合が高くなっています。



問 28 あなたは、合理的配慮の提供がなされていないと感じた時、どのようなアクションを取りますか。(あてはまるものすべてに○印)

「その場で指摘して対応を求める」の割合が 6.7%、「事後に事業者に問い合わせで改善を求める」の割合が 22.2%、「行政窓口へ相談する」の割合が 18.9%となっています。

【年齢別】

年齢別にみると、年齢が上がるほど「事後に事業者に問い合わせで改善を求める」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	その場で指摘して 対応を求める	事後に事業者に問 い合わせて改善を 求める	行政窓口へ相談す る	その他	何もしない	無回答
全 体	90	6.7	22.2	18.9	10.0	47.8	6.7
0～5歳	13	15.4	15.4	38.5	7.7	23.1	23.1
6～15歳	62	3.2	22.6	12.9	12.9	53.2	3.2
16～19歳	12	16.7	25.0	16.7	0.0	50.0	8.3

【手帳の種類・診断別】

手帳の種類・診断別にみると、精神障害者保健福祉手帳で「その場で指摘して対応を求める」、障害児通所支援を利用しているで「事後に事業者に問い合わせで改善を求める」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	その場で指摘して 対応を求める	事後に事業者に問 い合わせて改善を 求める	行政窓口へ相談す る	その他	何もしない	無回答
全 体	90	6.7	22.2	18.9	10.0	47.8	6.7
身体障害者手帳	6	16.7	33.3	66.7	0.0	33.3	0.0
愛の手帳（療育手帳）	51	3.9	23.5	19.6	9.8	51.0	3.9
精神障害者保健福祉手帳	12	16.7	16.7	8.3	0.0	75.0	0.0
発達障害の診断を受けている	25	4.0	16.0	16.0	12.0	48.0	12.0
自立支援医療（精神通院医療）を受けている	3	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
難病又は小児慢性特定疾病の認定を受けている	6	16.7	50.0	33.3	0.0	0.0	16.7
障害児通所支援を利用している	17	5.9	29.4	17.6	17.6	35.3	17.6

問 29 あなたは、障害への理解を進めていくためにどのようなことに力を入れるべきだと思いますか。（あてはまるものすべてに○印）

「地域や学校等で障害への理解を学ぶ機会を増やすこと」の割合が 74.4%と最も高く、次いで「学校や生涯学習での障害に関する教育や情報」の割合が 70.0%、「障害者の一般就労の促進」の割合が 50.0%となっています。

【年齢別】

年齢別にみると、年齢が上がるほど「障害や障害者に関するパンフレットの発行」「障害者作品展やイベントの開催」「障害に関する講演会や疑似体験会の開催」の割合が高く、「地域や学校等で障害への理解を学ぶ機会を増やすこと」の割合が低くなっています。

単位：％

区分	回答者数（件）	障害や障害者に関するパンフレットの発行	障害者作品展やイベントの開催	障害に関する講演会や疑似体験会の開催	学校や生涯学習での障害に関する教育や情報	地域や学校等で障害への理解を学ぶ機会を増やすこと	地域での交流の機会を増やして、地域の方とつながりを持つこと	障害者の一般就労の促進	その他	無回答
全 体	90	12.2	10.0	17.8	70.0	74.4	40.0	50.0	1.1	3.3
0～5歳	13	7.7	0.0	7.7	69.2	84.6	30.8	38.5	0.0	0.0
6～15歳	62	8.1	9.7	16.1	71.0	74.2	41.9	53.2	0.0	4.8
16～19歳	12	33.3	16.7	33.3	58.3	66.7	41.7	33.3	8.3	0.0

【手帳の種類・診断別】

手帳の種類・診断別にみると、精神障害者保健福祉手帳で「障害者作品展やイベントの開催」「学校や生涯学習での障害に関する教育や情報」、愛の手帳（療育手帳）で「障害に関する講演会や疑似体験会の開催」「地域での交流の機会を増やして、地域の方とつながりを持つこと」、愛の手帳（療育手帳）、障害児通所支援を利用しているで「障害者の一般就労の促進」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数（件）	障害や障害者に関するパンフレットの発行	障害者作品展やイベントの開催	障害に関する講演会や疑似体験会の開催	学校や生涯学習での障害に関する教育や情報	地域や学校等で障害への理解を学ぶ機会を増やすこと	地域での交流の機会を増やして、地域の方とつながりを持つこと	障害者の一般就労の促進	その他	無回答
全 体	90	12.2	10.0	17.8	70.0	74.4	40.0	50.0	1.1	3.3
身体障害者手帳	6	0.0	0.0	0.0	66.7	66.7	50.0	66.7	0.0	0.0
愛の手帳（療育手帳）	51	15.7	11.8	25.5	74.5	76.5	47.1	56.9	0.0	3.9
精神障害者保健福祉手帳	12	8.3	16.7	16.7	83.3	75.0	41.7	41.7	8.3	0.0
発達障害の診断を受けている	25	12.0	0.0	16.0	72.0	76.0	24.0	44.0	0.0	0.0
自立支援医療（精神通院医療）を受けている	3	0.0	0.0	66.7	0.0	33.3	66.7	66.7	0.0	0.0
難病又は小児慢性特定疾病の認定を受けている	6	0.0	0.0	0.0	50.0	83.3	33.3	33.3	0.0	0.0
障害児通所支援を利用している	17	11.8	5.9	11.8	76.5	64.7	35.3	58.8	0.0	0.0

障害福祉サービスなどについて

問 30 あなたは普段、次のような障害福祉サービスを利用していますか。また、今後利用したいと思いますか。（それぞれに○印は1つ）

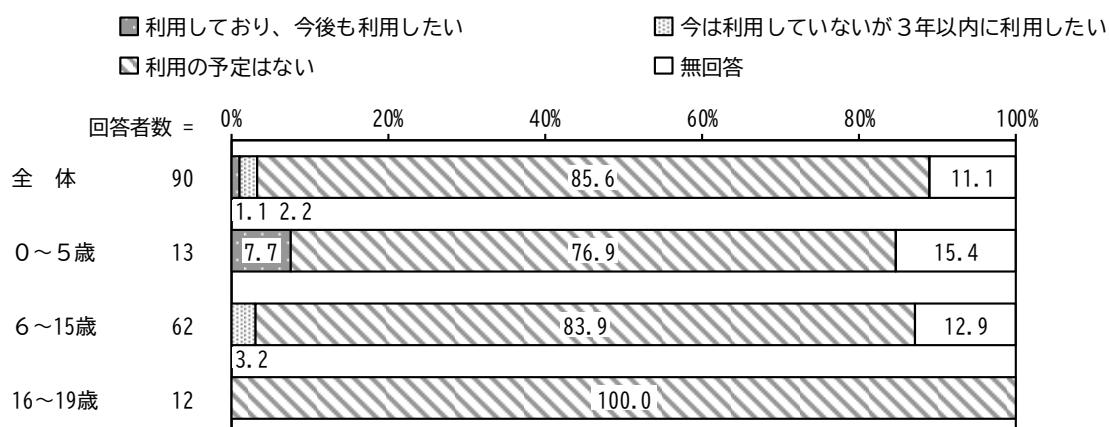
日中活動系サービスの『③放課後等デイサービス（医療型含む）』で「利用しており、今後も利用したい」が、その他の『③移動支援事業（外出時のガイドヘルプ）』で「今は利用していないが3年以内に利用したい」が、その他の『①意思疎通支援事業（主に聴覚障害者への手話通訳の派遣）』で「利用の予定はない」が高くなっています。

訪問系サービス

①居宅介護（ホームヘルプ）

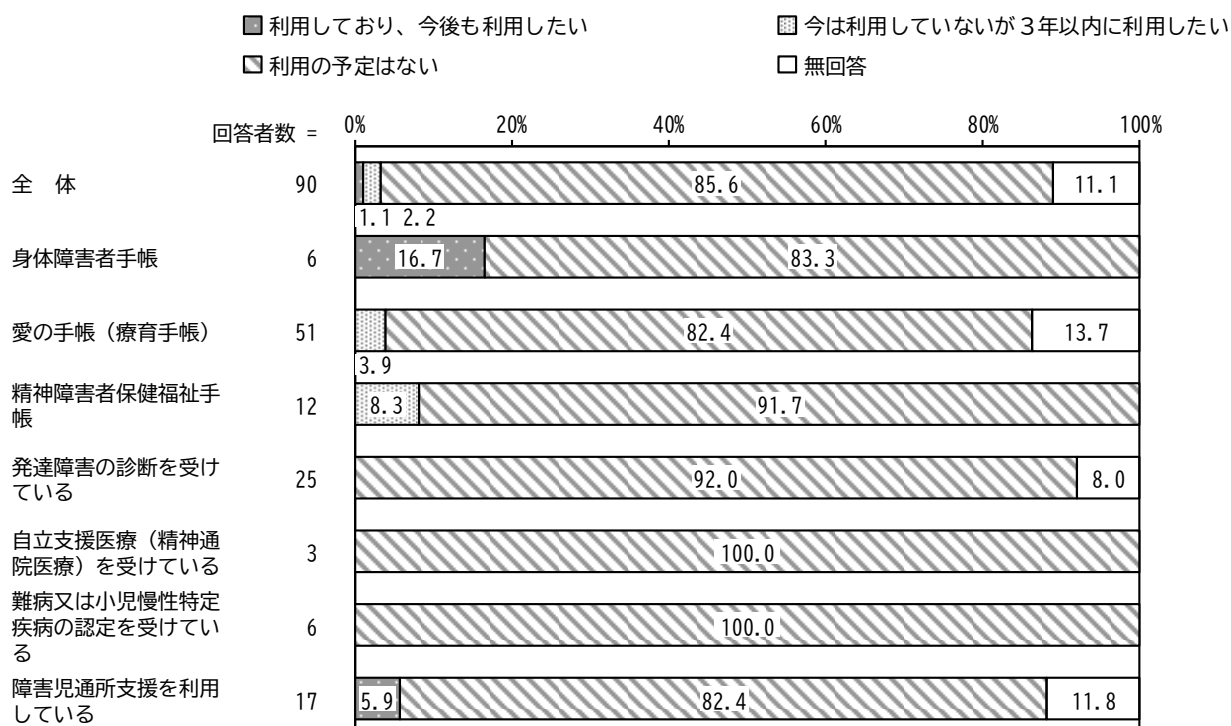
【年齢別】

年齢別にみると、年齢が上がるほど「利用の予定はない」の割合が高くなっています。



【手帳の種類・診断別】

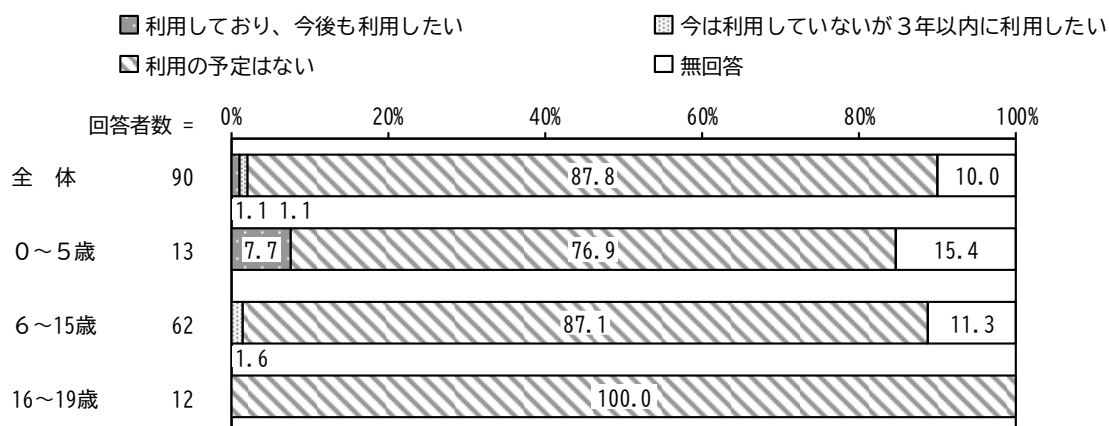
手帳の種類・診断別にみると、精神障害者保健福祉手帳で「今は利用していないが3年以内に利用したい」、精神障害者保健福祉手帳、発達障害の診断を受けているで「利用の予定はない」の割合が高くなっています。



②重度訪問介護

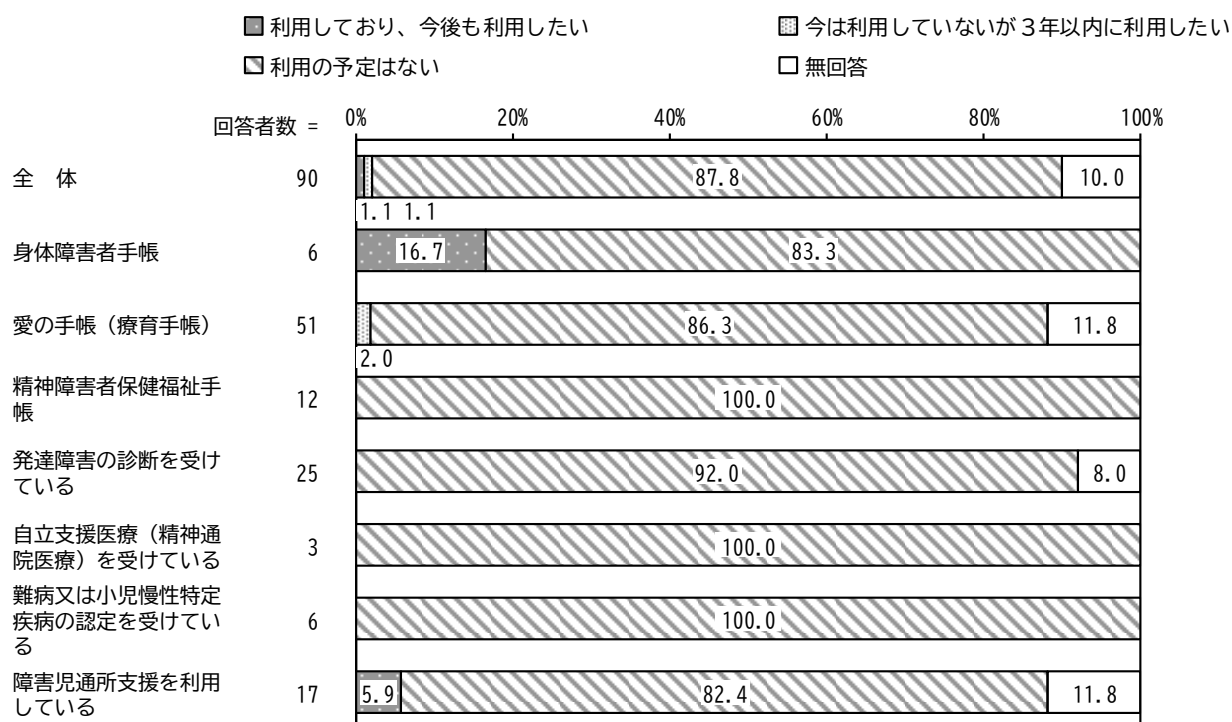
【年齢別】

年齢別にみると、年齢が上がるほど「利用の予定はない」の割合が高くなっています。



【手帳の種類・診断別】

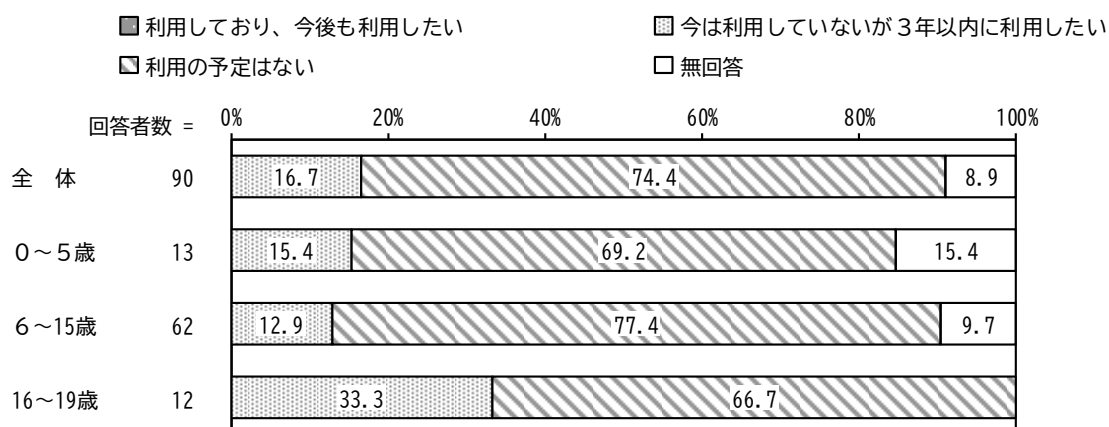
手帳の種類・診断別にみると、10件以上の項目で大きな差はみられません。



③同行援護

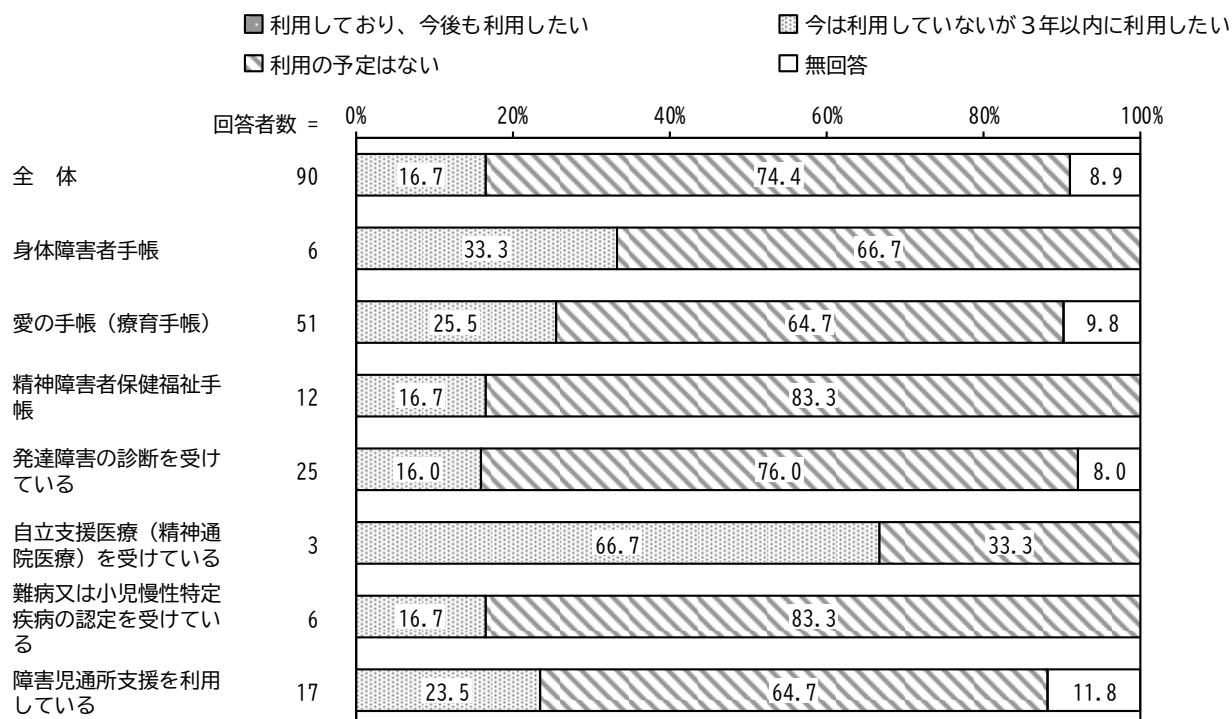
【年齢別】

年齢別にみると、16～19 歳で「今は利用していないが3年以内に利用したい」の割合が高くなっています。



【手帳の種類・診断別】

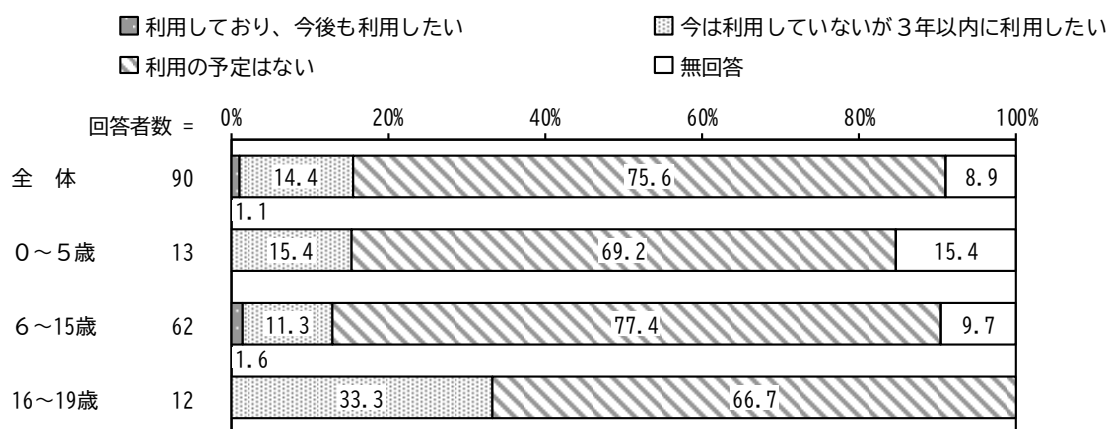
手帳の種類・診断別にみると、愛の手帳（療育手帳）、障害児通所支援を利用しているで「今は利用していないが3年以内に利用したい」、精神障害者保健福祉手帳で「利用の予定はない」の割合が高くなっています。



④行動援護

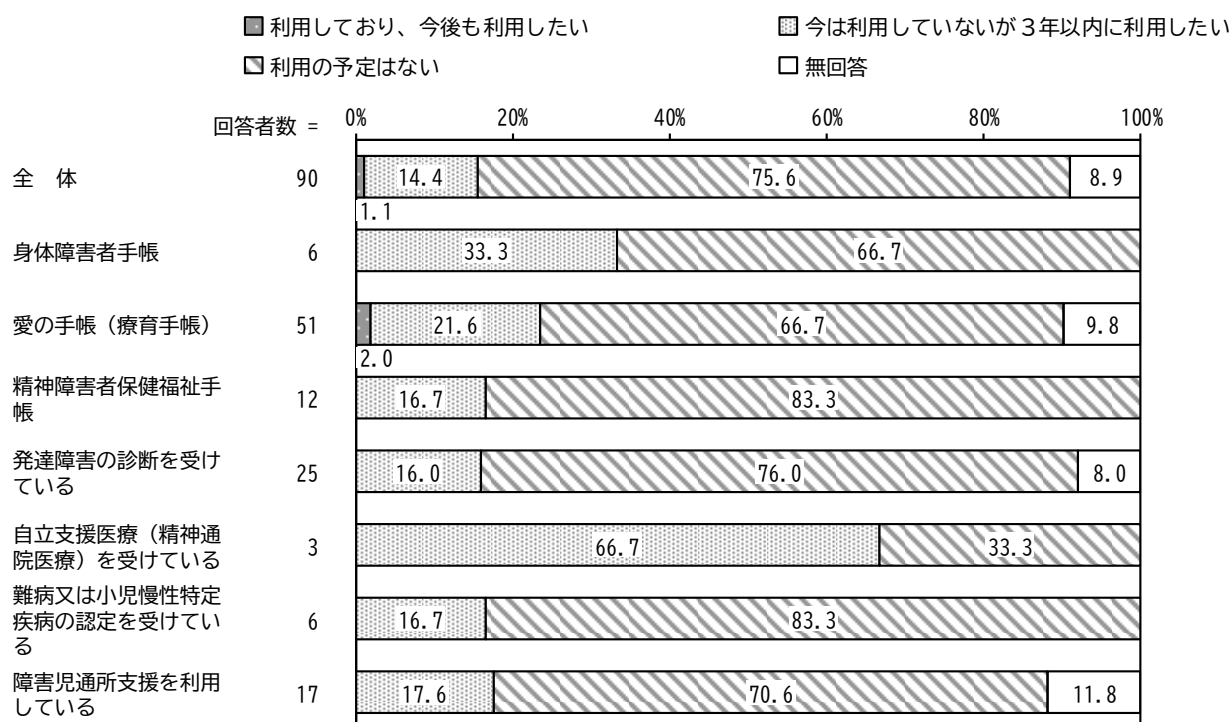
【年齢別】

年齢別にみると、16～19 歳で「今は利用していないが3年以内に利用したい」の割合が高くなっています。



【手帳の種類・診断別】

手帳の種類・診断別にみると、愛の手帳（療育手帳）で「今は利用していないが3年以内に利用したい」、精神障害者保健福祉手帳で「利用の予定はない」の割合が高くなっています。

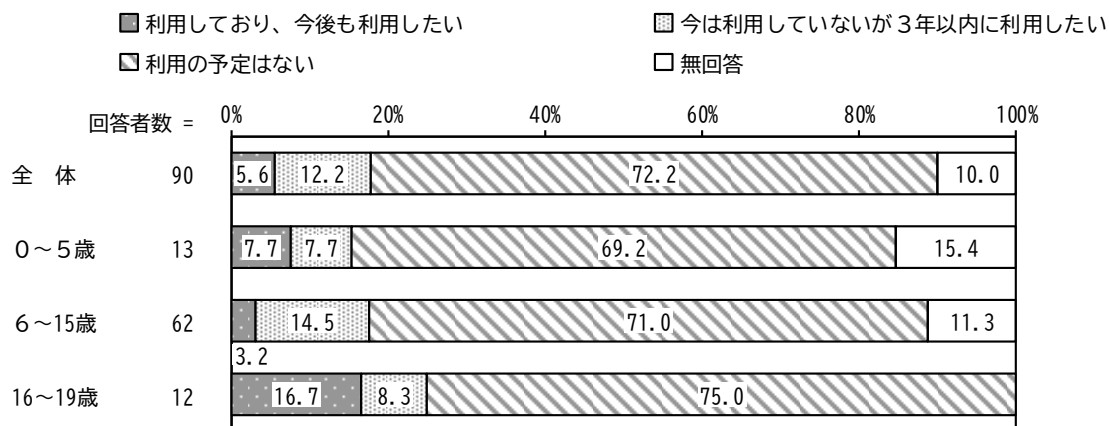


日中活動系サービス

①短期入所（ショートステイ）

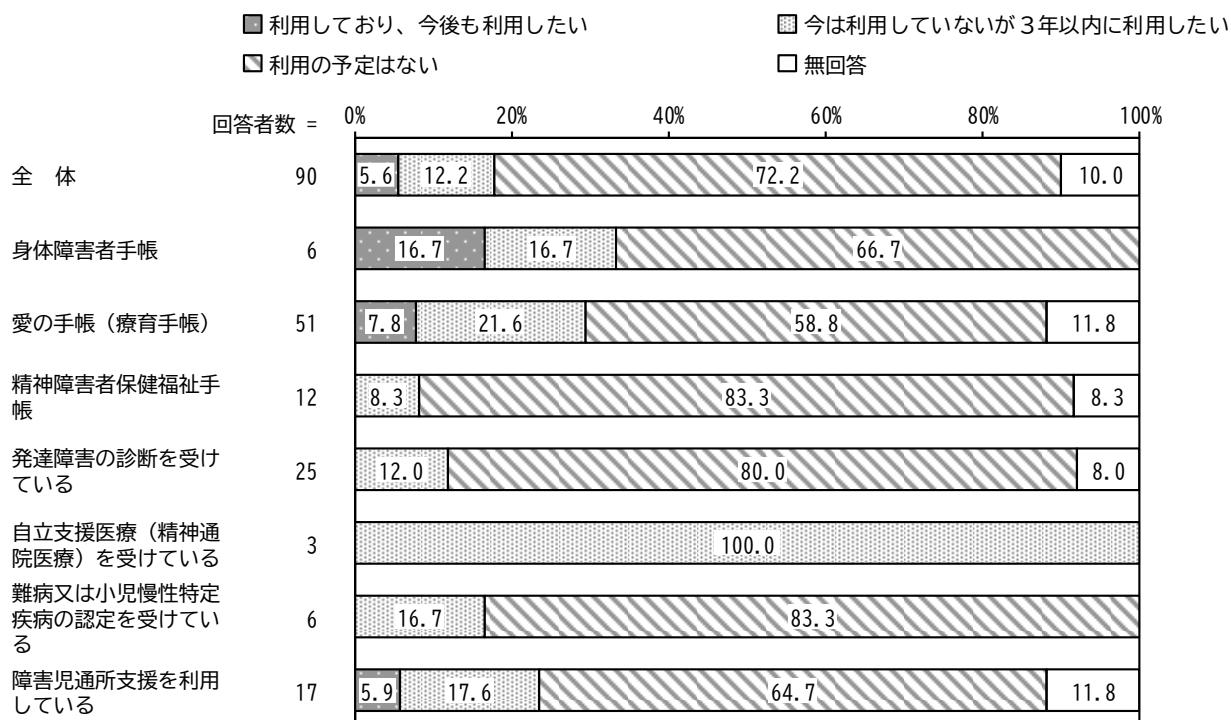
【年齢別】

年齢別にみると、年齢が上がるほど「利用の予定はない」の割合が高くなっています。



【手帳の種類・診断別】

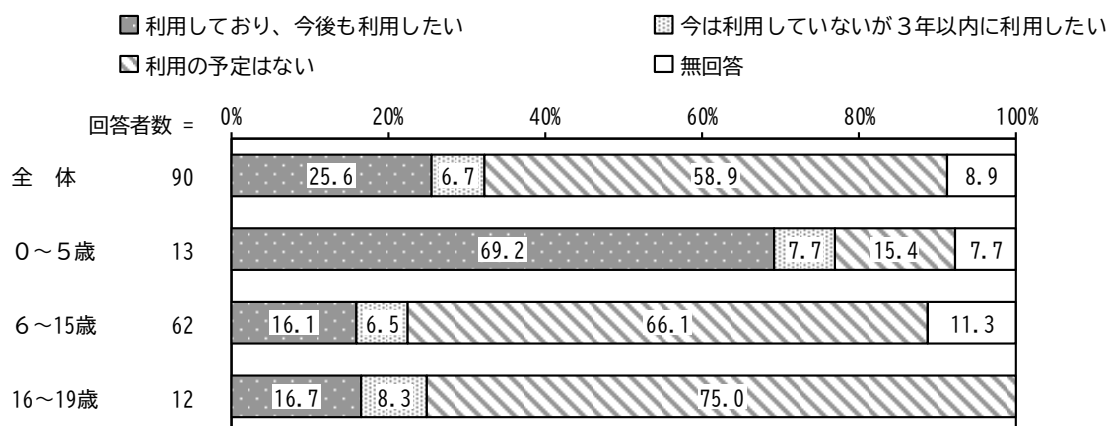
手帳の種類・診断別にみると、愛の手帳（療育手帳）で「今は利用していないが3年以内に利用したい」、精神障害者保健福祉手帳で「利用の予定はない」の割合が高くなっています。



②児童発達支援（医療型含む）

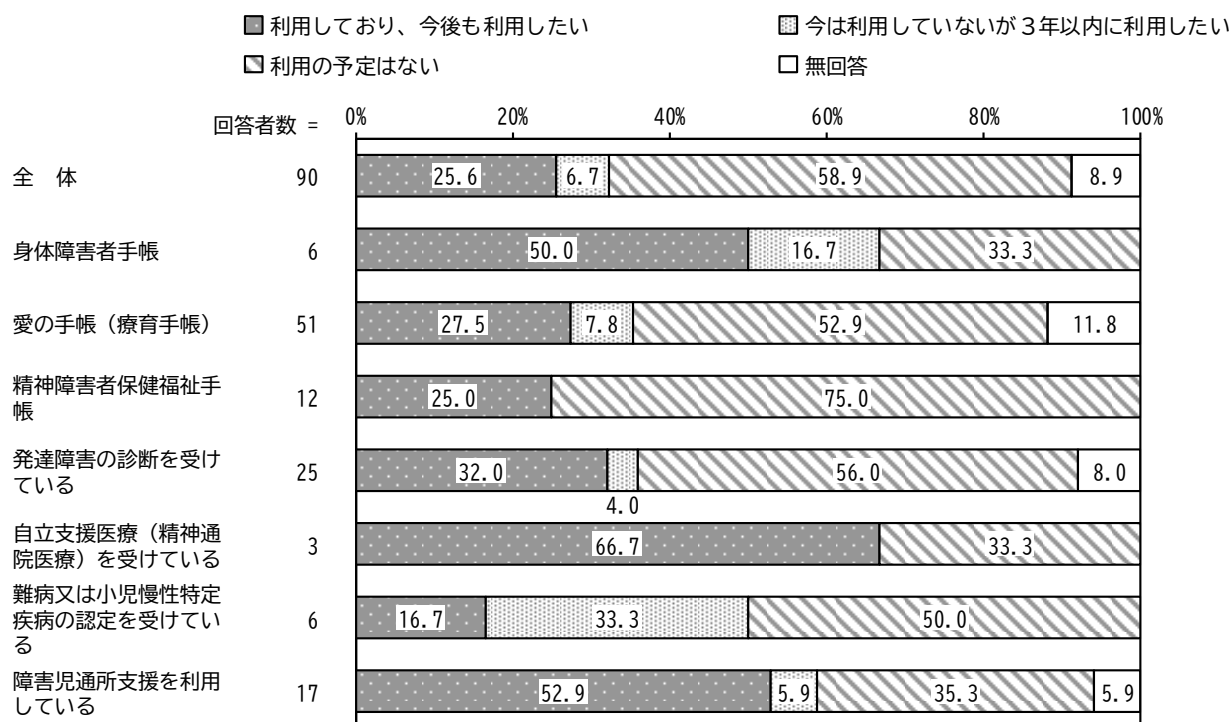
【年齢別】

年齢別にみると、0～5歳で「利用しており、今後も利用したい」の割合が高くなっています。



【手帳の種類・診断別】

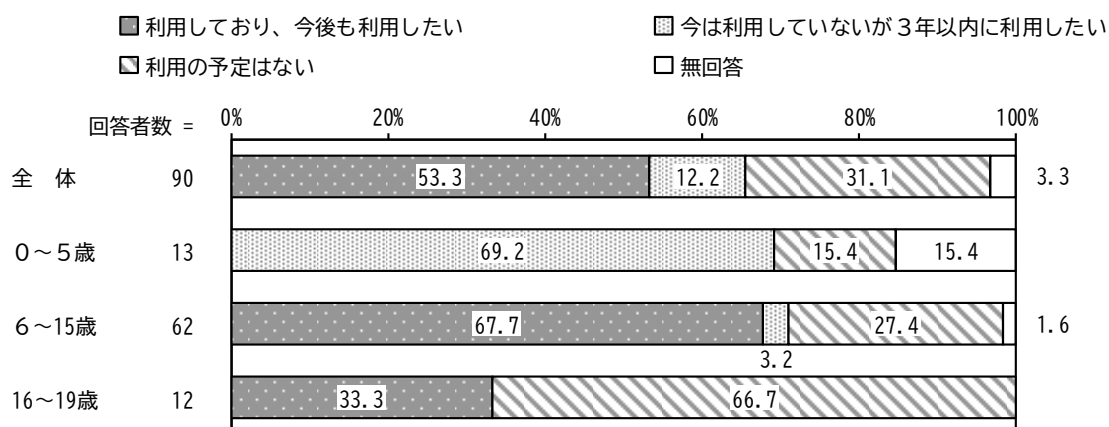
手帳の種類・診断別にみると、障害児通所支援を利用しているで「利用しており、今後も利用したい」、精神障害者保健福祉手帳で「利用の予定はない」の割合が高くなっています。



③放課後等デイサービス（医療型含む）

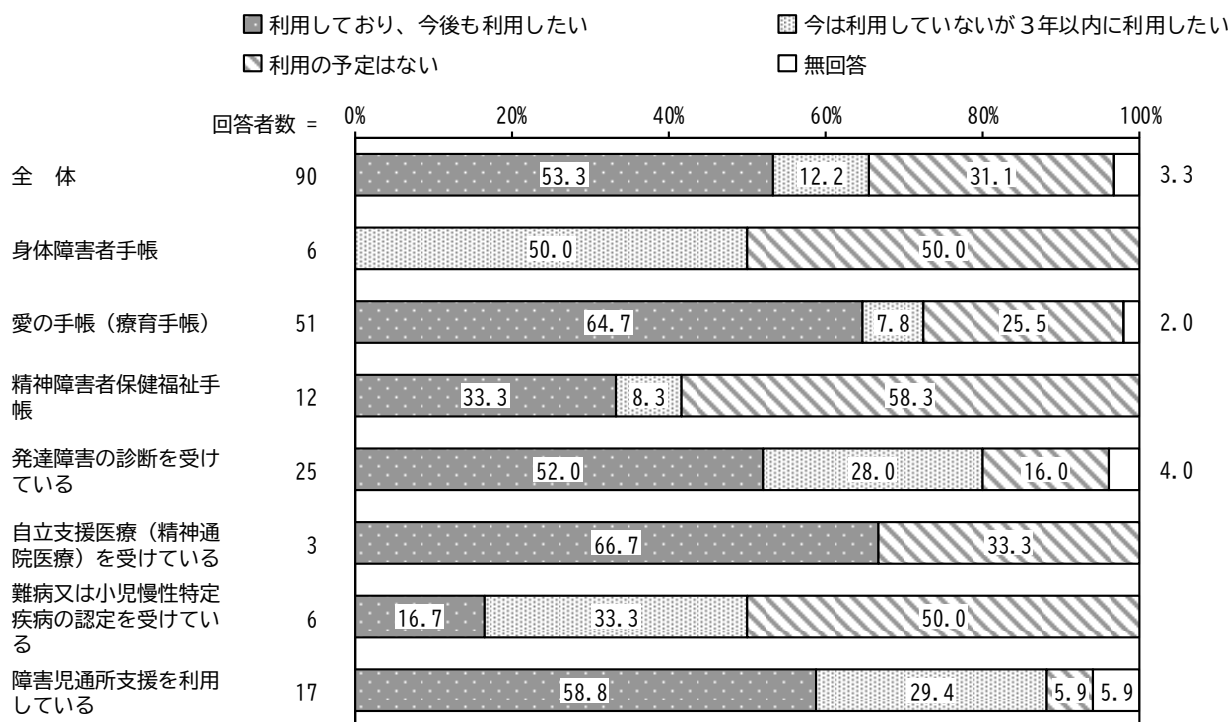
【年齢別】

年齢別にみると、6～15歳で「利用しており、今後も利用したい」、0～5歳で「今は利用していないが3年以内に利用したい」の割合が高くなっています。



【手帳の種類・診断別】

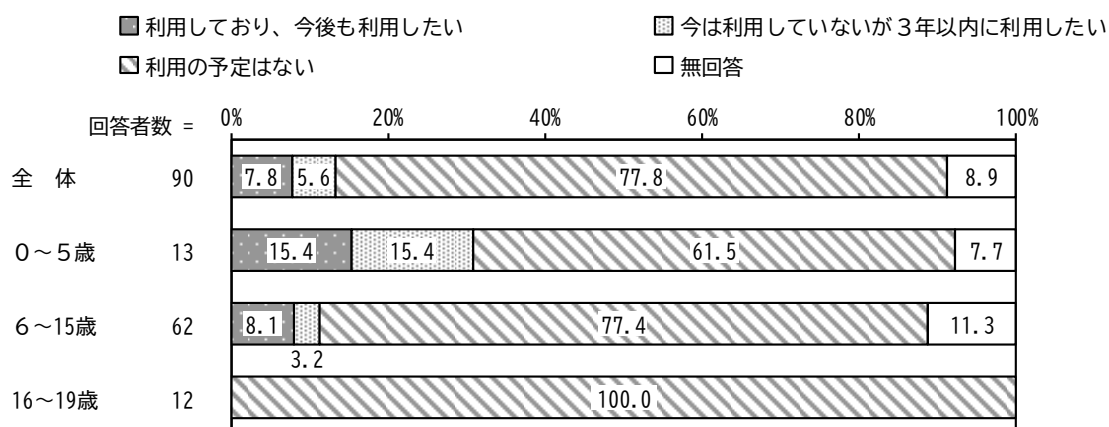
手帳の種類・診断別にみると、愛の手帳（療育手帳）で「利用しており、今後も利用したい」、発達障害の診断を受けている、障害児通所支援を利用しているで「今は利用していないが3年以内に利用したい」、精神障害者保健福祉手帳で「利用の予定はない」の割合が高くなっています。



④保育所等訪問支援

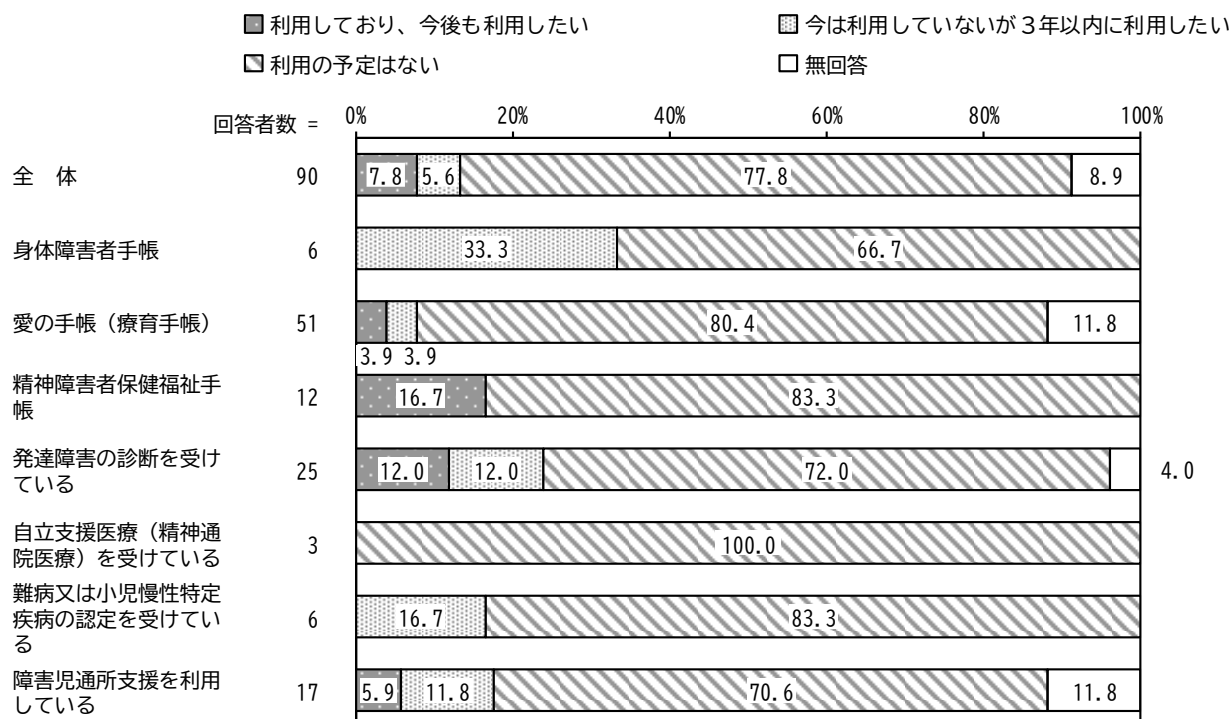
【年齢別】

年齢別にみると、0～5歳で「利用しており、今後も利用したい」「今は利用していないが3年以内に利用したい」、16～19歳で「利用の予定はない」の割合が高くなっています。



【手帳の種類・診断別】

手帳の種類・診断別にみると、精神障害者保健福祉手帳で「利用しており、今後も利用したい」「利用の予定はない」、発達障害の診断を受けている、障害児通所支援を利用しているで「今は利用していないが3年以内に利用したい」の割合が高くなっています。

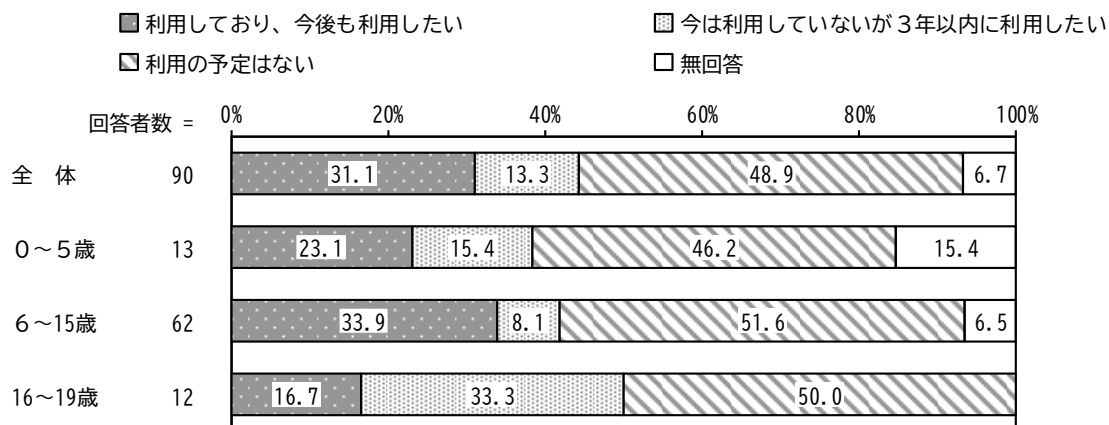


相談系サービス

①障害児相談支援

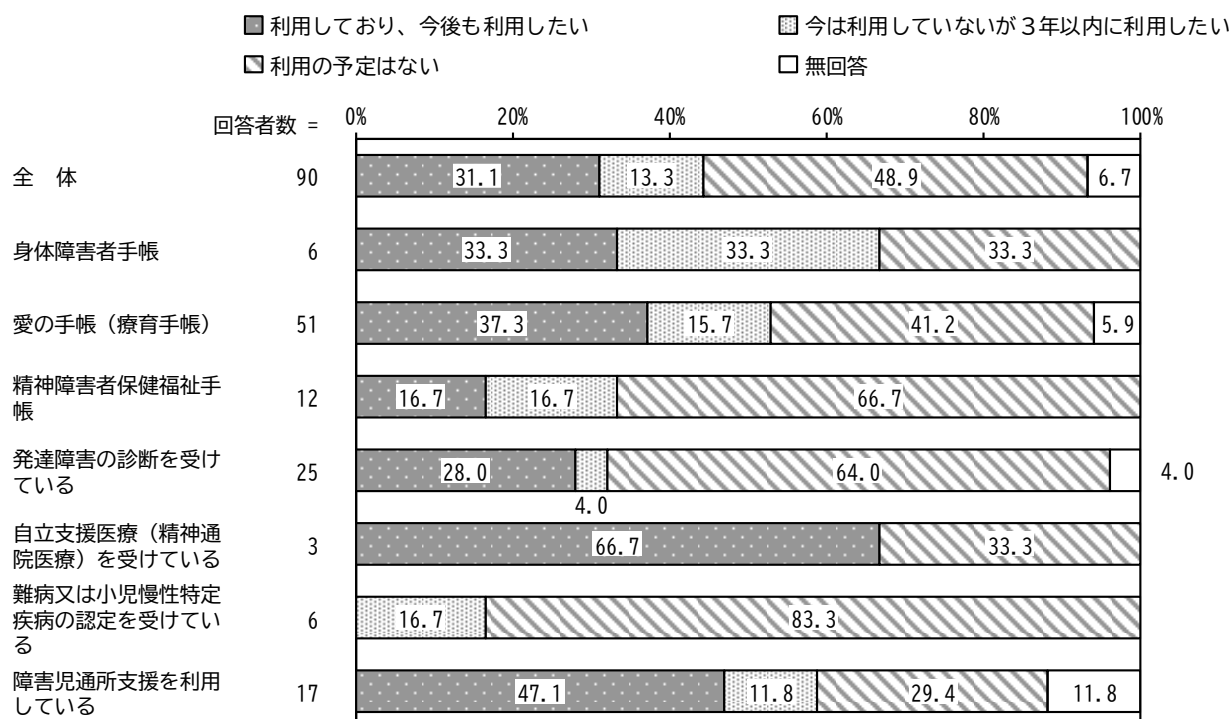
【年齢別】

年齢別にみると、6～15歳で「利用しており、今後も利用したい」、16～19歳で「今は利用していないが3年以内に利用したい」の割合が高くなっています。



【手帳の種類・診断別】

手帳の種類・診断別にみると、障害児通所支援を利用しているで「利用しており、今後も利用したい」、精神障害者保健福祉手帳、発達障害の診断を受けているで「利用の予定はない」の割合が高くなっています。

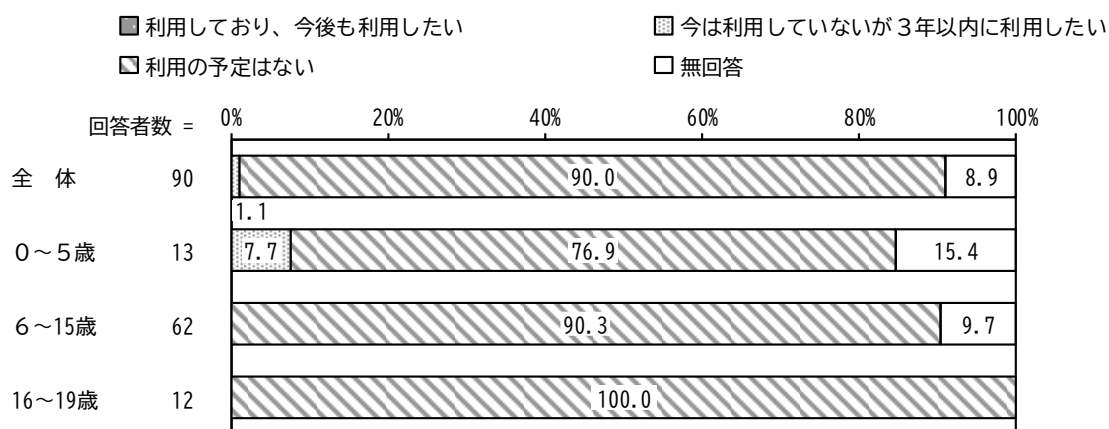


その他

①意思疎通支援事業（主に聴覚障害者への手話通訳の派遣）

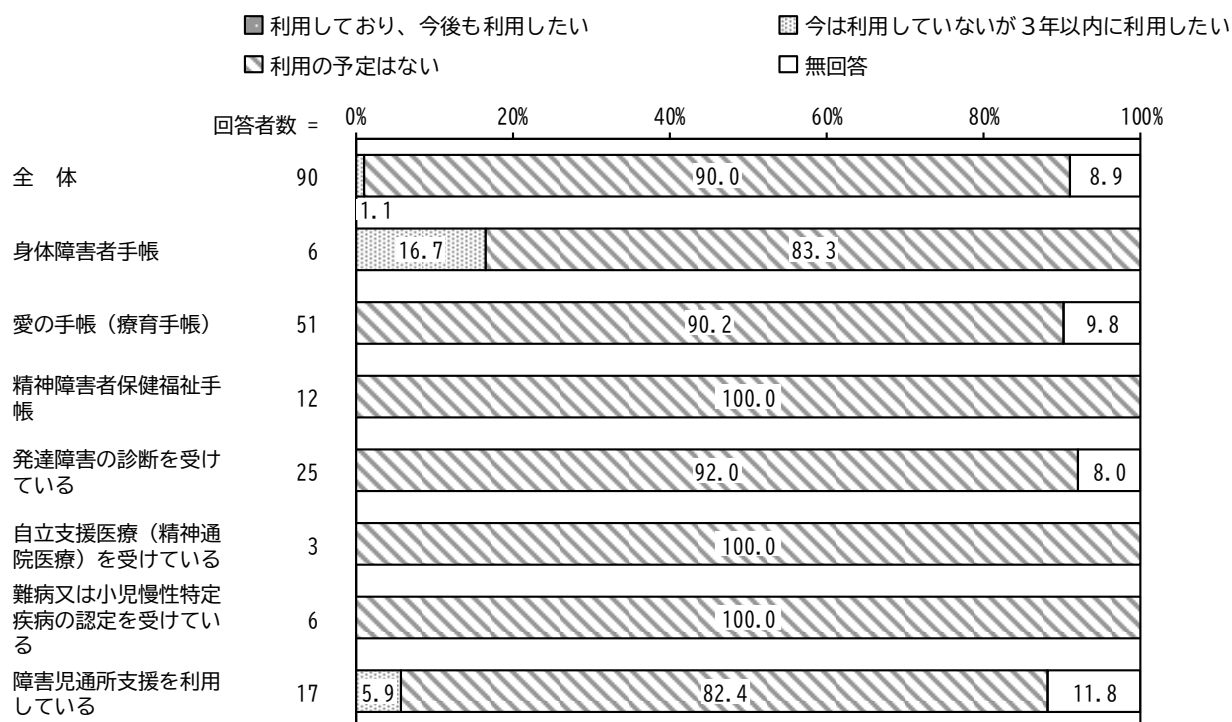
【年齢別】

年齢別にみると、年齢が上がるほど「利用の予定はない」の割合が高くなっています。



【手帳の種類・診断別】

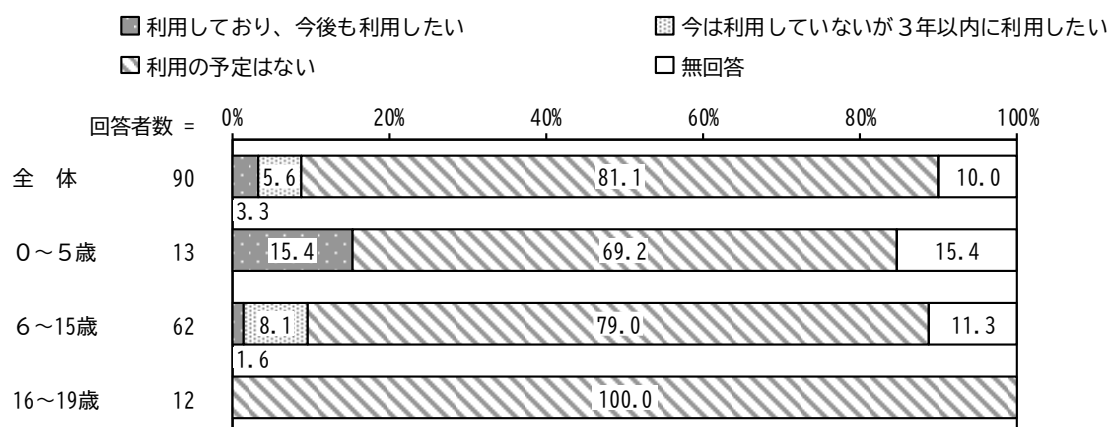
手帳の種類・診断別にみると、10件以上の項目で大きな差はみられません。



②日常生活用具給付等事業

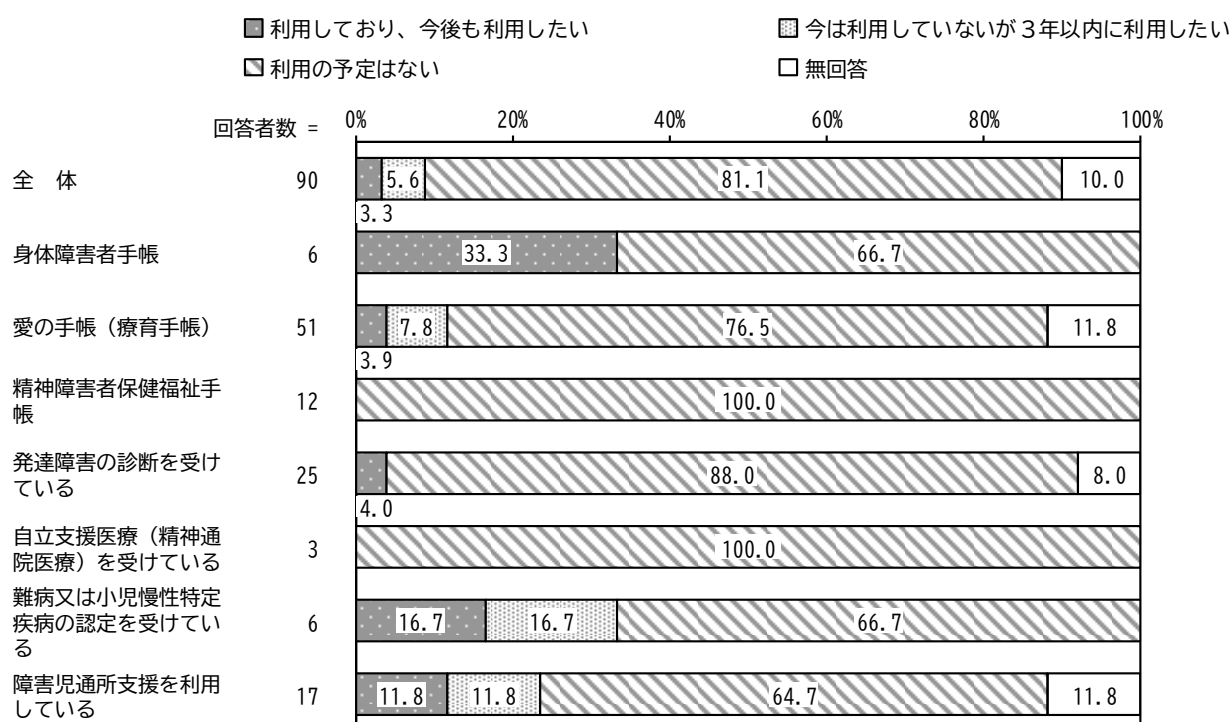
【年齢別】

年齢別にみると、年齢が上がるほど「利用の予定はない」の割合が高く、「利用しており、今後も利用したい」の割合が低くなっています。



【手帳の種類・診断別】

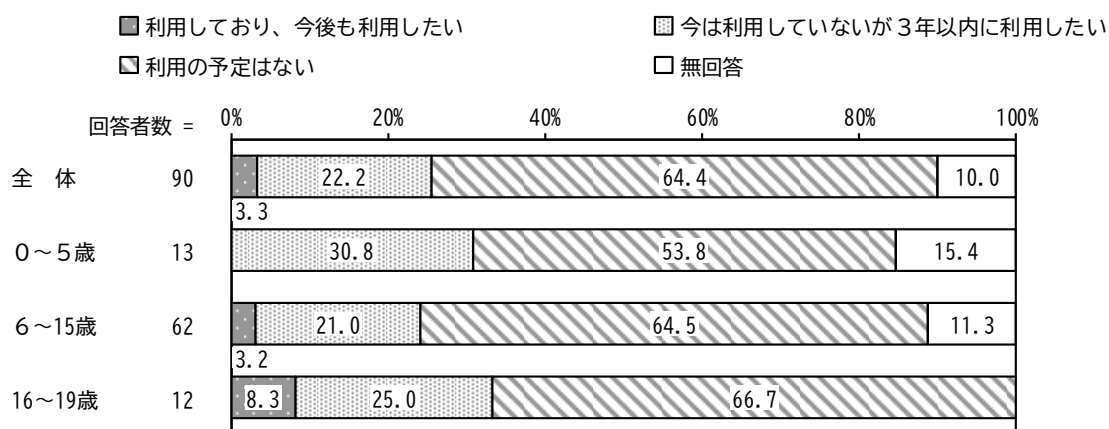
手帳の種類・診断別にみると、障害児通所支援を利用しているで「利用しており、今後も利用したい」「今は利用していないが3年以内に利用したい」の割合が高くなっています。



③移動支援事業（外出時のガイドヘルプ）

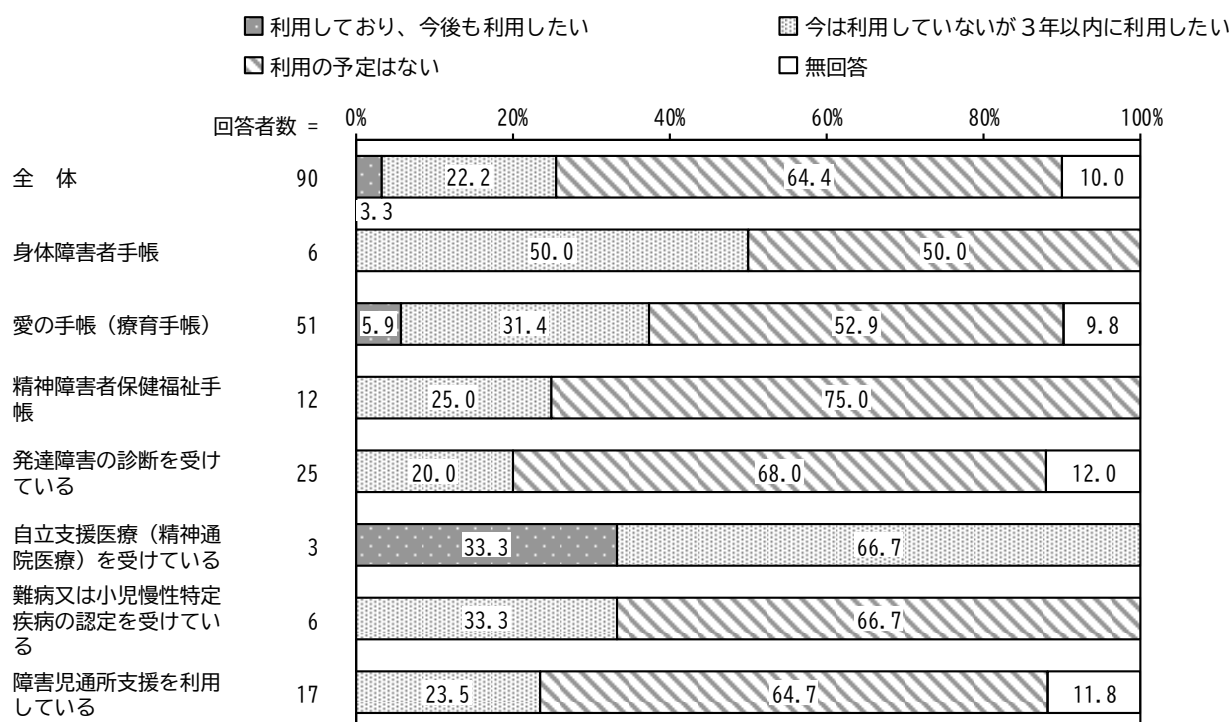
【年齢別】

年齢別にみると、16～19歳で「利用しており、今後も利用したい」、0～5歳で「今は利用していないが3年以内に利用したい」の割合が高くなっています。



【手帳の種類・診断別】

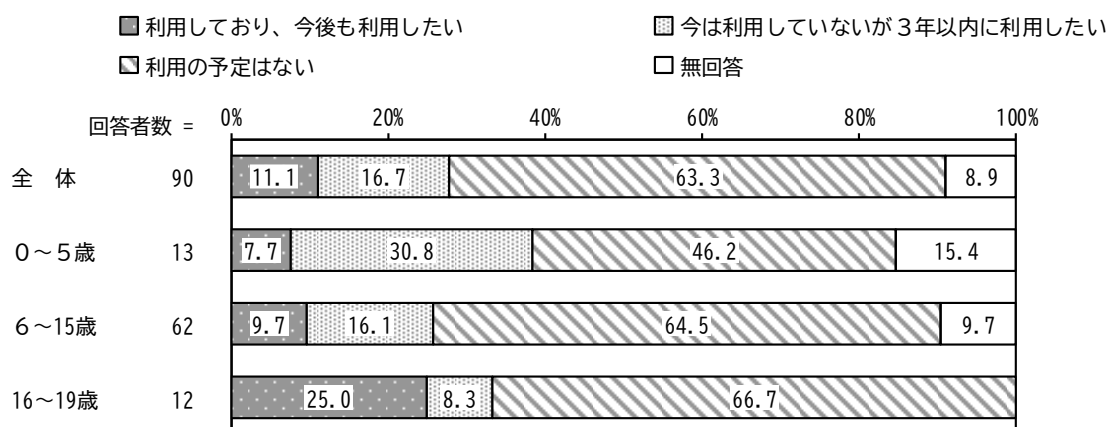
手帳の種類・診断別にみると、愛の手帳（療育手帳）で「今は利用していないが3年以内に利用したい」、精神障害者保健福祉手帳で「利用の予定はない」の割合が高くなっています。



④日中一時支援事業（緊急一時保護）

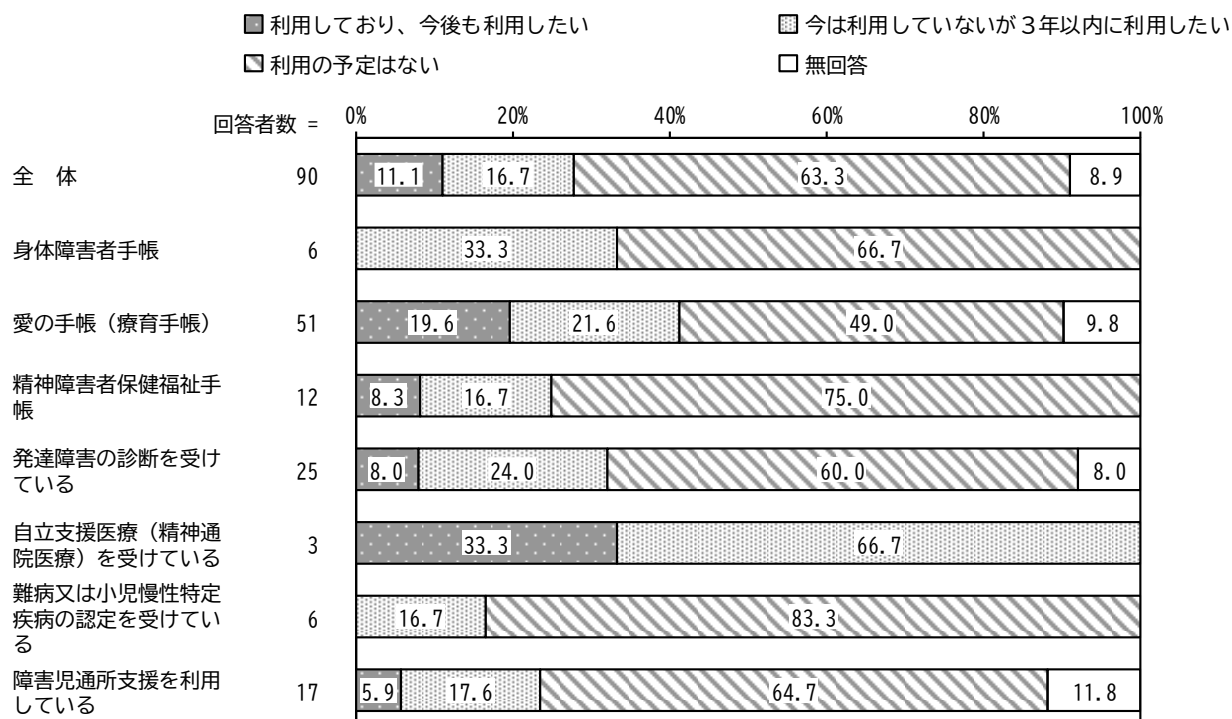
【年齢別】

年齢別にみると、年齢が上がるほど「利用しており、今後も利用したい」「利用の予定はない」の割合が高く、「今は利用していないが3年以内に利用したい」の割合が低くなっています。



【手帳の種類・診断別】

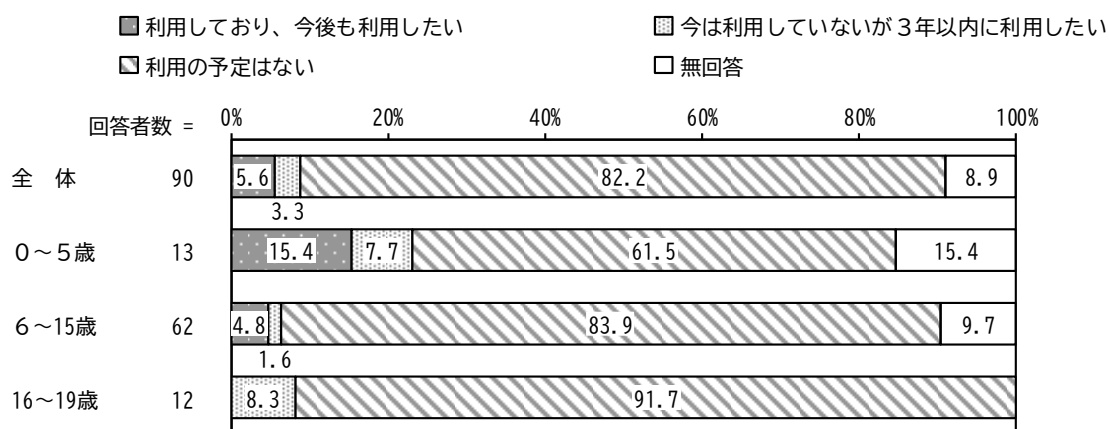
手帳の種類・診断別にみると、愛の手帳（療育手帳）で「利用しており、今後も利用したい」、発達障害の診断を受けているで「今は利用していないが3年以内に利用したい」、精神障害者保健福祉手帳で「利用の予定はない」の割合が高くなっています。



⑤補装具費（車いす・補聴器等）の給付

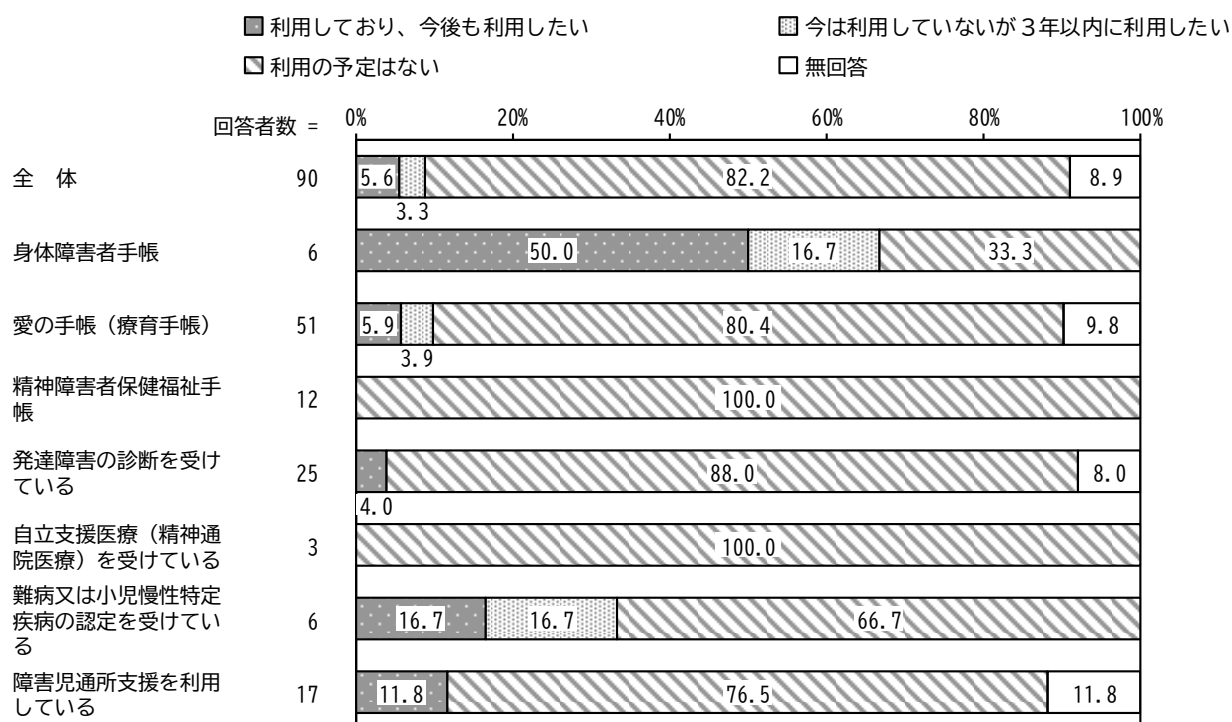
【年齢別】

年齢別にみると、年齢が上がるほど「利用の予定はない」の割合が高く、「利用しており、今後も利用したい」の割合が低くなっています。



【手帳の種類・診断別】

手帳の種類・診断別にみると、障害児通所支援を利用しているで「利用しており、今後も利用したい」の割合が高くなっています。



問 31 あなたは、普段の障害福祉サービスの利用に関して困っていることがありますか。（あてはまるものすべてに○印）

「制度がわかりにくい」の割合が 48.9%と最も高く、次いで「市役所での手続きが大変」の割合が 32.2%、「利用したいサービスを利用できない」の割合が 20.0%となっています。

【年齢別】

年齢別にみると、0～5歳で「事業所への移動が大変」「利用できる日数が限られ利用回数が少ない」が、6～15歳で「事業所への移動が大変」の割合が高くなっています。また、年齢が下がるほど「利用したいサービスを利用できない」「市役所での手続きが大変」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数（件）	制度がわかりにくい	利用したいサービスを利用できない	利用できる日数が限られ利用回数が少ない	サービスの質について困っている	他の利用者との関係が大変	市役所での手続きが大変	事業所との日時などの調整が大変	事業所への移動が大変	経済的負担が大きい	利用したい内容のサービスがない	その他	特に困っていることはない	無回答
全 体	90	48.9	20.0	16.7	3.3	4.4	32.2	17.8	11.1	13.3	7.8	14.4	24.4	3.3
0～5歳	13	38.5	23.1	0.0	0.0	7.7	38.5	23.1	23.1	7.7	7.7	15.4	23.1	7.7
6～15歳	62	54.8	22.6	19.4	3.2	3.2	30.6	16.1	9.7	16.1	8.1	17.7	17.7	3.2
16～19歳	12	33.3	8.3	8.3	0.0	8.3	25.0	16.7	0.0	8.3	8.3	0.0	58.3	0.0

【手帳の種類・診断別】

手帳の種類・診断別にみると、精神障害者保健福祉手帳で「制度がわかりにくい」「サービスの質について困っている」「事業所との日時などの調整が大変」、愛の手帳（療育手帳）、発達障害の診断を受けているで「利用したいサービスを利用できない」、愛の手帳（療育手帳）で「利用できる日数が限られ利用回数が少ない」、精神障害者保健福祉手帳、発達障害の診断を受けている、障害児通所支援を利用しているで「市役所での手続きが大変」、発達障害の診断を受けているで「事業所への移動が大変」の割合が高くなっています。

単位：％

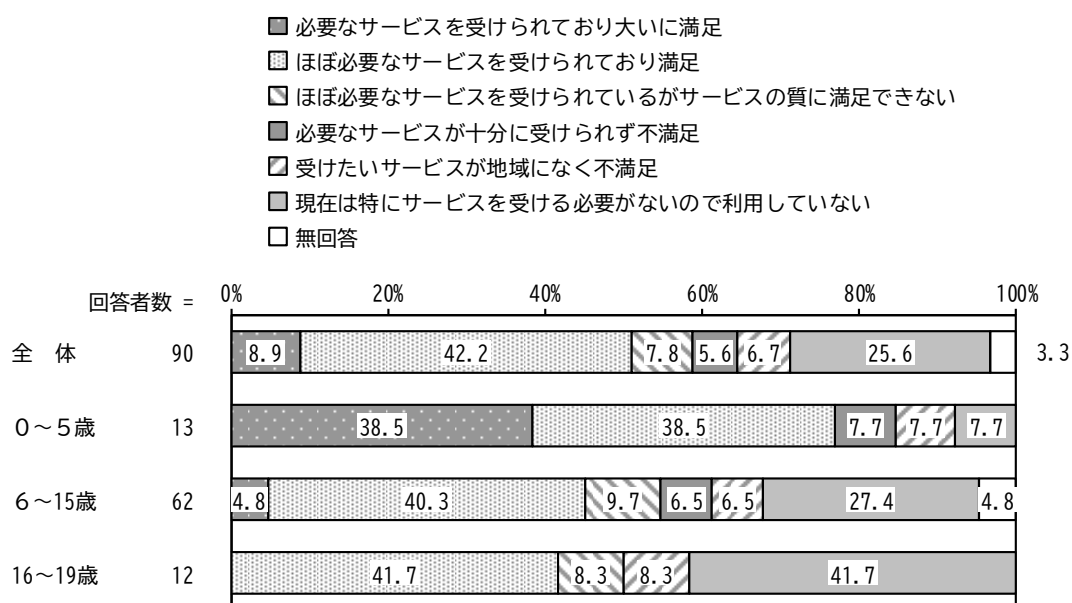
区分	回答者数 (件)	制度がわかりにくい	利用したいサービスを利用できない	利用できる日数が限られ利用回数が少ない	困っているサービスの質について	他の利用者との関係が大変	市役所での手続きが大変	事業所との日時などの調整が大変	事業所への移動が大変	経済的負担が大きい	利用したい内容のサービスがない	その他	特に困っていることはない	無回答
全 体	90	48.9	20.0	16.7	3.3	4.4	32.2	17.8	11.1	13.3	7.8	14.4	24.4	3.3
身体障害者手帳	6	50.0	16.7	0.0	0.0	0.0	16.7	16.7	0.0	0.0	0.0	16.7	33.3	0.0
愛の手帳（療育手帳）	51	49.0	27.5	23.5	3.9	5.9	29.4	21.6	11.8	15.7	9.8	17.6	17.6	5.9
精神障害者保健福祉手帳	12	75.0	16.7	16.7	8.3	0.0	41.7	25.0	16.7	16.7	8.3	16.7	16.7	0.0
発達障害の診断を受けている	25	44.0	28.0	12.0	4.0	4.0	40.0	16.0	20.0	8.0	8.0	8.0	28.0	4.0
自立支援医療（精神通院医療）を受けている	3	100.0	33.3	33.3	0.0	0.0	33.3	33.3	33.3	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0
難病又は小児慢性特定疾病の認定を受けている	6	50.0	0.0	16.7	0.0	0.0	33.3	33.3	0.0	16.7	0.0	16.7	33.3	0.0
障害児通所支援を利用している	17	52.9	17.6	11.8	0.0	5.9	41.2	11.8	11.8	17.6	0.0	17.6	23.5	5.9

問 32 あなたは、普段受けている障害福祉サービスに、満足していますか。(○印は1つ)

「ほぼ必要なサービスを受けられており満足」の割合が 42.2%と最も高く、次いで「現在は特にサービスを受ける必要がないので利用していない」の割合が 25.6%となっています。

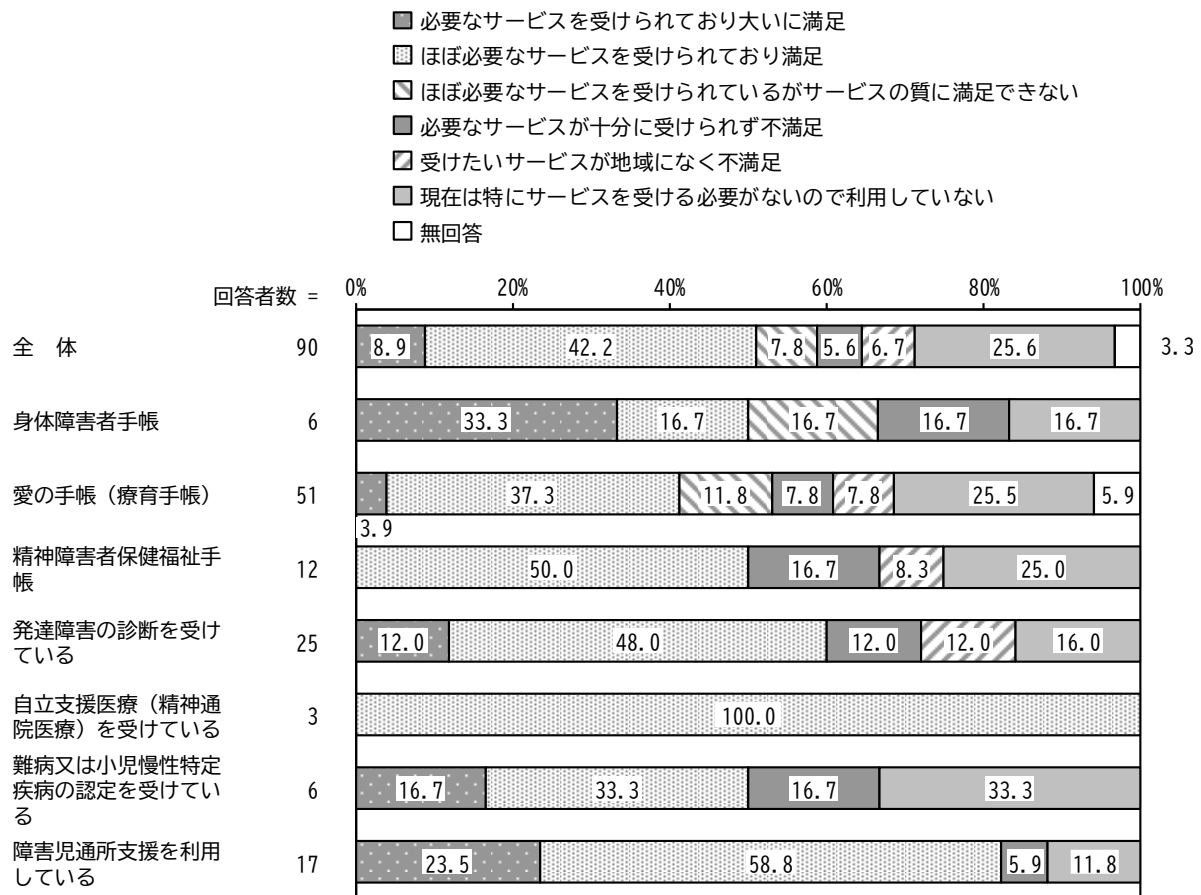
【年齢別】

年齢別にみると、0～5歳で「必要なサービスを受けられており大いに満足」の割合が高くなっています。



【手帳の種類・診断別】

手帳の種類・診断別にみると、障害児通所支援を利用しているで「必要なサービスを受けられており大いに満足」「ほぼ必要なサービスを受けられており満足」、精神障害者保健福祉手帳で「必要なサービスが十分に受けられず不満」の割合が高くなっています。



問 32 で「必要なサービスが十分に受けられず不満足」か「受けたサービスが地域になく不満足」に○をつけた方にお聞きします。

問 32-1 地域の中で、障害者に関するサービスのうち何が不足していると思いますか。

全体で5件の意見がありました。

No	内容	件数
1	こどもの受け入れ体制(放課後デイサービスの利用等)	3件
2	移動支援	1件
3	グループホーム等の施設不足	1件

こどもの受け入れ体制(放課後デイサービスの利用等)

現在受けているサービスに満足しているが、医ケア児でもショートステイしてくれるところがないため休息が取れない
放デイ夏休み期間も保育園のように利用できる時間にしてほしい。10～、13～からなどフルタイムで仕事をしている中利用するのは困難。放デイ1ヶ所で平日5日間利用できたら子供にも負担がないと思うが、2～3ヶ所かけもちしなければならないので子どもにとっても負担が大きい
通級に通えない小学生を受け入れてくれる事業所がない(グレーと言われるような子)

移動支援

移動支援

グループホーム等の施設不足

グループホーム、施設等の不足により入所できずにいます。移動支援を利用希望しているが、そもそもの事業所が1ヶ所の上、電話しても利用不可能である。(人手不足とのこと。需要と供給がバランスとれてない。)体調悪くても親が本人に付添わなければならないのが現状である

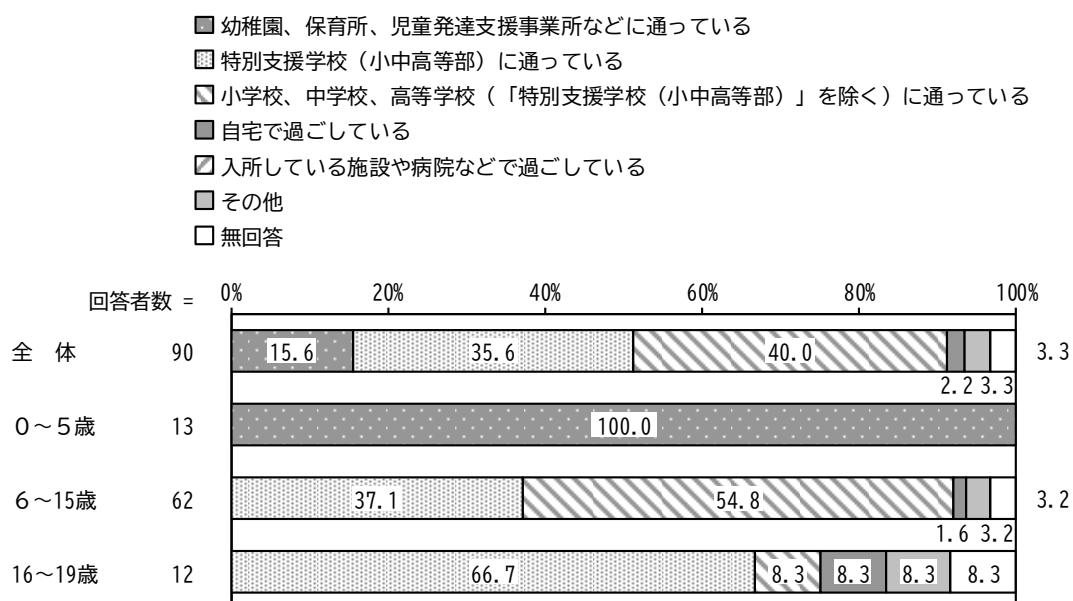
障害児福祉について

問 33 あなたは普段、平日の日中をどのように過ごしていますか。(○印は1つ)

「小学校、中学校、高等学校（「特別支援学校（小中高等部）」を除く）に通っている」の割合が 40.0%と最も高く、次いで「特別支援学校（小中高等部）に通っている」の割合が 35.6%、「幼稚園、保育所、児童発達支援事業所などに通っている」の割合が 15.6%となっています。

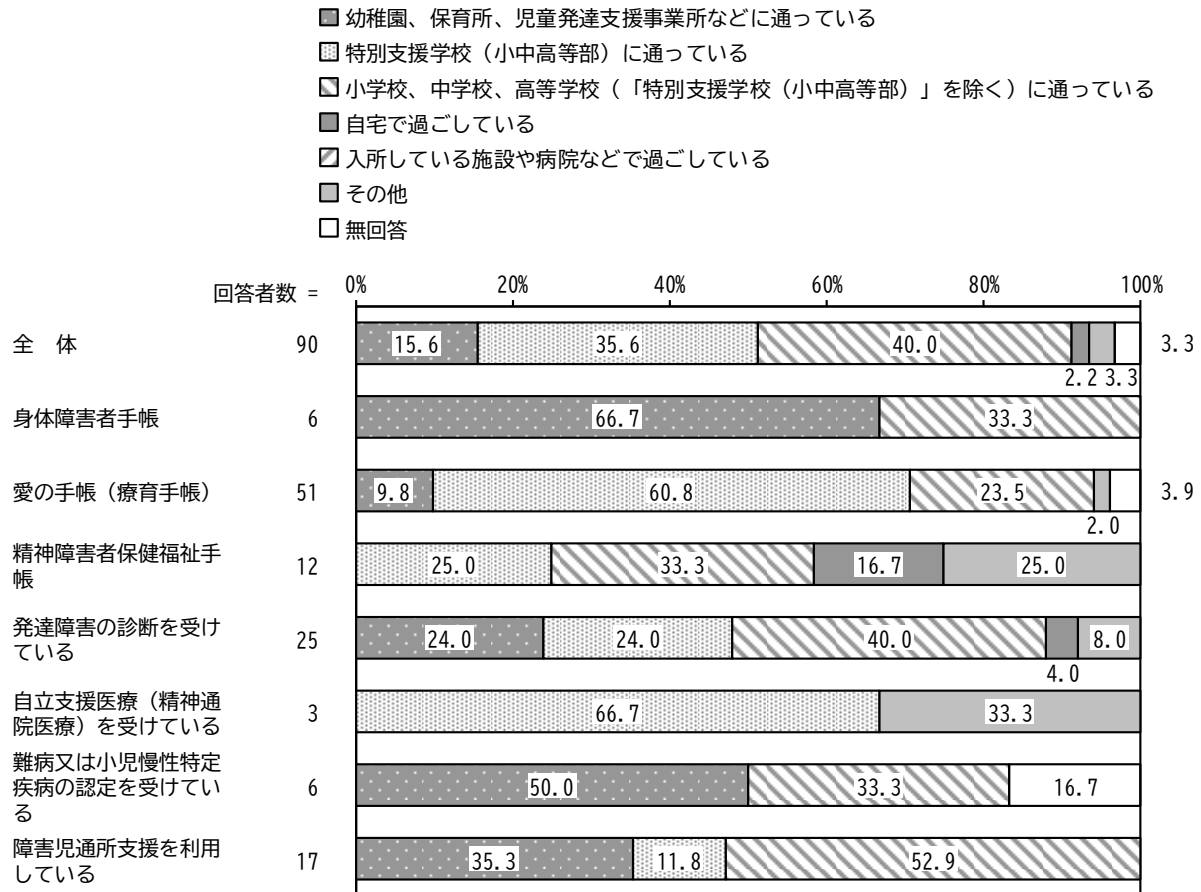
【年齢別】

年齢別にみると、年齢が上がるほど「特別支援学校（小中高等部）に通っている」の割合が高くなっています。また、6～15歳で「小学校、中学校、高等学校（「特別支援学校（小中高等部）」を除く）に通っている」の割合が高くなっています。



【手帳の種類・診断別】

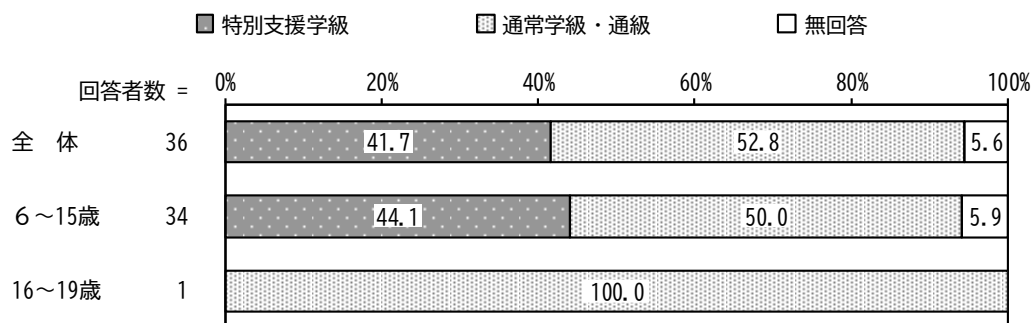
手帳の種類・診断別にみると、障害児通所支援を利用しているで「幼稚園、保育所、児童発達支援事業所などに通っている」「小学校、中学校、高等学校（「特別支援学校（小中高等部）」を除く）に通っている」、愛の手帳（療育手帳）で「特別支援学校（小中高等部）に通っている」、精神障害者保健福祉手帳で「自宅で過ごしている」の割合が高くなっています。



通っている小学校、中学校、高等学校

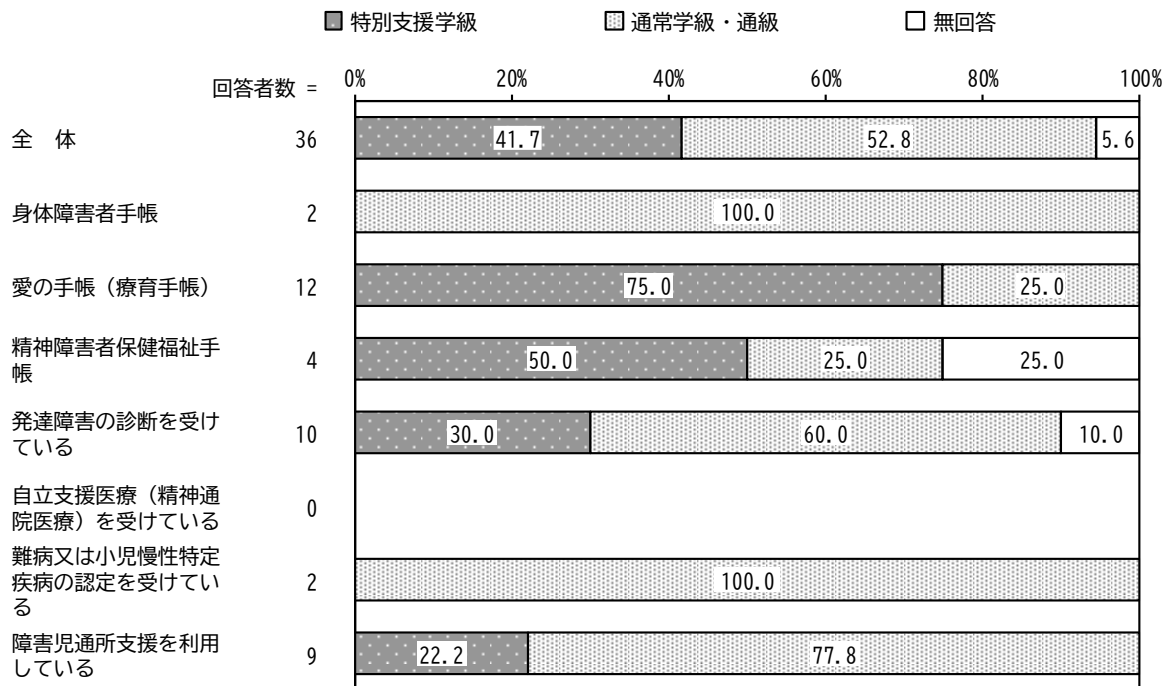
「特別支援学級」の割合が 41.7%、「通常学級・通級」の割合が 52.8%となっています。

【年齢別】



【手帳の種類・診断別】

手帳の種類・診断別にみると、愛の手帳（療育手帳）で「特別支援学級」の割合が高くなっています。



問 34 あなたの障害に気づいたきっかけは何でしたか。(あてはまるものすべてに○印)

「家族による気づき」の割合が 45.6%と最も高く、次いで「病院などの医療機関による受診・健診」の割合が 33.3%、「幼稚園、保育所の助言」の割合が 18.9%となっています。

【年齢別】

年齢別にみると、年齢が上がるほど「病院などの医療機関による受診・健診」「小学校で実施する就学時健康診断」の割合が高く、「児童発達支援センターわかさ学園の助言」「幼稚園、保育所の助言」の割合が低くなっています。また、6～15歳で「市が実施する健診」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	病院などの医療機関による受診・健診	市が実施する健診	小学校で実施する就学時健康診断	児童発達支援センターわかさ学園の助言	幼稚園、保育所の助言	学校の助言	家族による気づき	その他	無回答
全 体	90	33.3	16.7	4.4	12.2	18.9	4.4	45.6	6.7	4.4
0～5歳	13	23.1	7.7	0.0	23.1	30.8	0.0	38.5	23.1	0.0
6～15歳	62	32.3	22.6	3.2	11.3	17.7	6.5	46.8	3.2	3.2
16～19歳	12	41.7	0.0	16.7	8.3	8.3	0.0	41.7	8.3	16.7

【手帳の種類・診断別】

手帳の種類・診断別にみると、精神障害者保健福祉手帳で「小学校で実施する就学時健康診断」、発達障害の診断を受けているで「児童発達支援センターわかさ学園の助言」「幼稚園、保育所の助言」「家族による気づき」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	病院などの医療機関による受診・健診	市が実施する健診	小学校で実施する就学時健康診断	児童発達支援センターわかさ学園の助言	幼稚園、保育所の助言	学校の助言	家族による気づき	その他	無回答
全 体	90	33.3	16.7	4.4	12.2	18.9	4.4	45.6	6.7	4.4
身体障害者手帳	6	66.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7	33.3	0.0
愛の手帳（療育手帳）	51	31.4	19.6	3.9	15.7	13.7	2.0	49.0	7.8	5.9
精神障害者保健福祉手帳	12	25.0	16.7	16.7	0.0	25.0	0.0	58.3	0.0	0.0
発達障害の診断を受けている	25	20.0	12.0	0.0	24.0	36.0	0.0	64.0	0.0	0.0
自立支援医療（精神通院医療）を受けている	3	66.7	33.3	0.0	33.3	0.0	0.0	66.7	0.0	0.0
難病又は小児慢性特定疾病の認定を受けている	6	66.7	0.0	0.0	0.0	16.7	0.0	16.7	16.7	16.7
障害児通所支援を利用している	17	35.3	5.9	5.9	11.8	23.5	11.8	41.2	5.9	0.0

問 35 あなたは普段、放課後や夏休みなどの長期休暇では、主にどのような場所で過ごしていますか。(あてはまるものすべてに○印)

「自分の家」の割合が 74.4%と最も高く、次いで「放課後等デイサービス」の割合が 47.8%、「公園等」の割合が 13.3%となっています。

【年齢別】

年齢別にみると、年齢が下がるほど「児童館」「公園等」の割合が高く、「学校の部活動」の割合が低くなっています。また、6～15歳で「放課後等デイサービス」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	幼稚園、 保育所	学童クラブ	児童館	放課後等 デイサー ビス	公園等	学校の部活動	塾・習い事	地域のスポーツ クラブ	自分の家	友達の家	その他	無回答
全 体	90	6.7	8.9	5.6	47.8	13.3	7.8	11.1	2.2	74.4	6.7	8.9	3.3
0～5歳	13	38.5	0.0	23.1	0.0	23.1	0.0	0.0	0.0	69.2	7.7	7.7	0.0
6～15歳	62	0.0	11.3	3.2	61.3	12.9	6.5	16.1	1.6	75.8	4.8	9.7	3.2
16～19歳	12	0.0	0.0	0.0	33.3	8.3	25.0	0.0	0.0	75.0	8.3	8.3	8.3

【手帳の種類・診断別】

手帳の種類・診断別にみると、障害児通所支援を利用しているで「児童館」「公園等」「塾・習い事」「友達の家」、愛の手帳（療育手帳）で「放課後等デイサービス」、精神障害者保健福祉手帳で「学校の部活動」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	幼稚園、 保育所	学童クラブ	児童館	放課後等 デイサー ビス	公園等	学校の部活動	塾・習い事	地域のスポーツ クラブ	自分の家	友達の家	その他	無回答
全 体	90	6.7	8.9	5.6	47.8	13.3	7.8	11.1	2.2	74.4	6.7	8.9	3.3
身体障害者手帳	6	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7	0.0	0.0	83.3	33.3	0.0	0.0
愛の手帳（療育手帳）	51	2.0	9.8	3.9	58.8	13.7	7.8	7.8	3.9	68.6	5.9	15.7	3.9
精神障害者保健福祉手帳	12	0.0	0.0	0.0	33.3	8.3	16.7	8.3	0.0	100.0	0.0	16.7	0.0
発達障害の診断を受けている	25	8.0	8.0	8.0	48.0	12.0	0.0	4.0	0.0	76.0	4.0	8.0	0.0
自立支援医療（精神通院医療）を受けている	3	0.0	0.0	0.0	66.7	33.3	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	66.7	0.0
難病又は小児慢性特定疾病の認定を受けている	6	16.7	0.0	16.7	16.7	16.7	0.0	0.0	0.0	66.7	33.3	0.0	16.7
障害児通所支援を利用している	17	5.9	11.8	11.8	52.9	23.5	5.9	17.6	0.0	88.2	11.8	5.9	0.0

問 36 幼稚園、保育所、通所施設などに通ううえで重要と思われるものをお答えください。
(○印は3つまで)

「送迎など、通所・通学のサポート」の割合が 61.1%と最も高く、次いで「学習支援や介助など、園・学校生活のサポート」の割合が 43.3%、「生活訓練や職業訓練など、専門的な指導」の割合が 38.9%となっています。

【年齢別】

年齢別にみると、年齢が上がるほど「就学相談や進路相談を積極的に行う」の割合が高く、「投薬や喀痰吸引など、医療的なケア」の割合が低くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	送迎など、通所・通学のサポート	学習支援や介助など、園・学校生活のサポート	生活訓練や職業訓練など、専門的な指導	投薬や喀痰吸引など、医療的なケア	福祉サービス事業所など、外部の支援機関との連携	子ども同士の理解を深める交流機会を増やす	保育施設や学校施設のバリアフリー化	就学相談や進路相談を積極的に行う	通常の学級への受け入れを進める	放課後や夏休み等の一時預かりができる場所を増やす	その他	無回答
全 体	90	61.1	43.3	38.9	4.4	8.9	20.0	0.0	16.7	7.8	27.8	3.3	8.9
0～5歳	13	30.8	38.5	38.5	15.4	7.7	23.1	0.0	7.7	0.0	30.8	7.7	15.4
6～15歳	62	69.4	46.8	33.9	3.2	9.7	17.7	0.0	16.1	9.7	29.0	3.2	6.5
16～19歳	12	50.0	25.0	58.3	0.0	8.3	25.0	0.0	25.0	8.3	16.7	0.0	16.7

【手帳の種類・診断別】

手帳の種類・診断別にみると、愛の手帳（療育手帳）、精神障害者保健福祉手帳で「送迎など、通所・通学のサポート」、精神障害者保健福祉手帳で「学習支援や介助など、園・学校生活のサポート」「通常の学級への受け入れを進める」、発達障害の診断を受けているで「就学相談や進路相談を積極的に行う」、愛の手帳（療育手帳）で「放課後や夏休み等の一時預かりができる場所を増やす」の割合が高くなっています。

単位：％

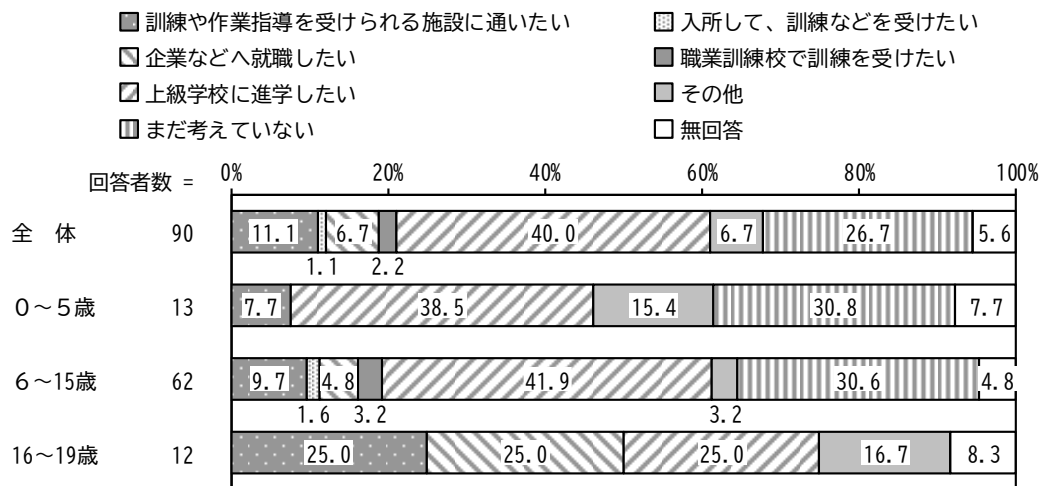
区分	回答者数（件）	送迎など、通所・通学のサポート	学習支援や介助など、園・学校生活のサポート	生活訓練や職業訓練など、専門的な指導	投薬や喀痰吸引など、医療的なケア	福祉サービス事業所など、外部の支援機関との連携	子ども同士の理解を深める交流機会を増やす	保育施設や学校施設のバリアフリー化	就学相談や進路相談を積極的に行う	通常の学級への受け入れを進める	放課後や夏休み等の一時預かりができる場所を増やす	その他	無回答
全 体	90	61.1	43.3	38.9	4.4	8.9	20.0	0.0	16.7	7.8	27.8	3.3	8.9
身体障害者手帳	6	50.0	50.0	33.3	50.0	0.0	50.0	0.0	16.7	0.0	33.3	0.0	0.0
愛の手帳（療育手帳）	51	68.6	27.5	41.2	2.0	11.8	19.6	0.0	13.7	5.9	33.3	3.9	9.8
精神障害者保健福祉手帳	12	66.7	66.7	41.7	0.0	8.3	16.7	0.0	8.3	16.7	8.3	0.0	8.3
発達障害の診断を受けている	25	52.0	48.0	36.0	0.0	8.0	24.0	0.0	28.0	8.0	24.0	4.0	4.0
自立支援医療（精神通院医療）を受けている	3	66.7	0.0	66.7	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	66.7	0.0	0.0
難病又は小児慢性特定疾病の認定を受けている	6	33.3	66.7	33.3	16.7	16.7	50.0	0.0	16.7	0.0	33.3	0.0	0.0
障害児通所支援を利用している	17	47.1	47.1	29.4	5.9	5.9	17.6	0.0	23.5	11.8	29.4	5.9	11.8

問 37 今の学校の卒業後について、希望する進路はどれですか。(○印は1つ)

「上級学校に進学したい」の割合が 40.0%と最も高く、次いで「訓練や作業指導を受けられる施設に通いたい」の割合が 11.1%となっています。

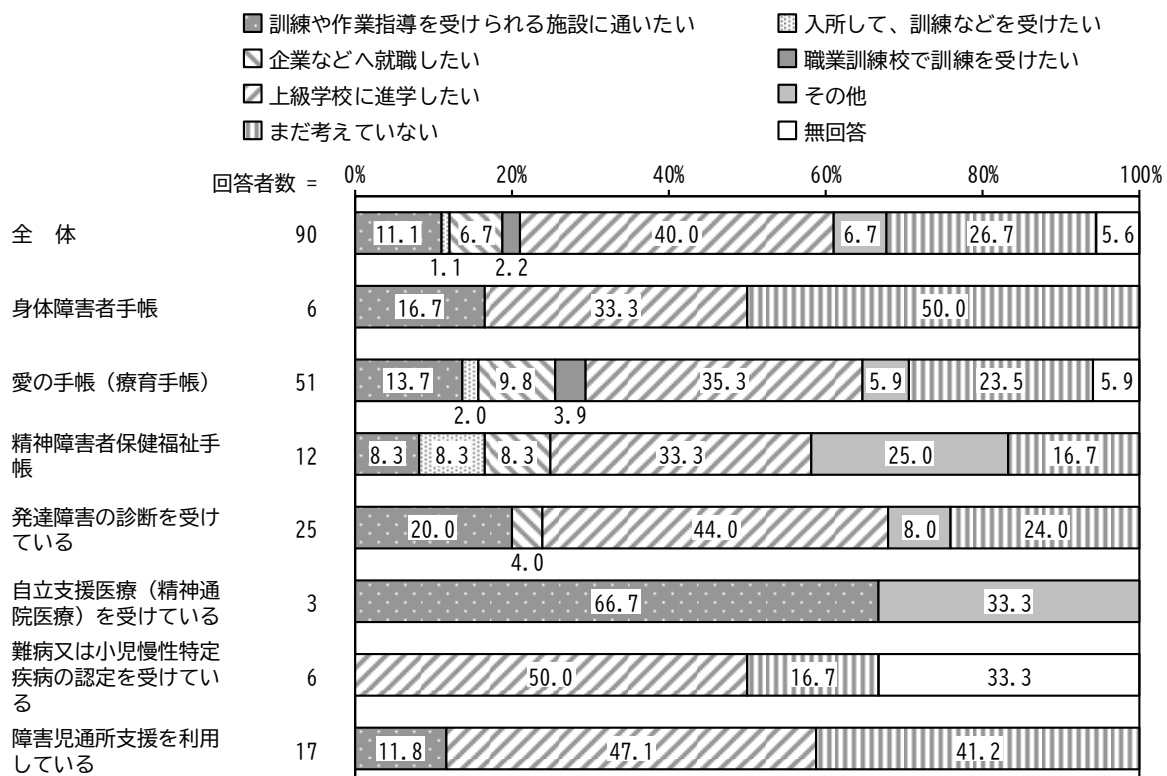
【年齢別】

年齢別にみると、0～5歳、6～15歳では「上級学校に進学したい」「まだ考えていない」の割合が、16～19歳では「訓練や作業指導を受けられる施設に通いたい」「企業などへ就職したい」の割合が高くなっています。



【手帳の種類・診断別】

手帳の種類・診断別にみると、発達障害の診断を受けているで「訓練や作業指導を受けられる施設に通いたい」、精神障害者保健福祉手帳で「入所して、訓練などを受けたい」、障害児通所支援を利用しているで「上級学校に進学したい」の割合が高くなっています。



保護者の方にお聞きします。

問 38 保護者の方は、あて名のご本人の現在または将来について、どのような不安や悩みがありますか。(○印は3つまで)

「学校での集団生活や人間関係」の割合が 35.6%と最も高く、次いで「本人の習熟度にあった学習指導」の割合が 31.1%、「適性に合った進路の相談支援」の割合が 26.7%となっています。

【年齢別】

年齢別にみると、年齢が上がるほど「適性に合った就職先の紹介」「就職に必要な技術等の訓練の機会」「就職に関する総合的な相談支援」「成人後の日中の通所先」「成人後の日中活動終了後の過ごし方」の割合が高く、「学校での集団生活や人間関係」「長期休暇時の子どもの過ごし方」の割合が低くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	本人の習熟度にあつた学習指導	学校での集団生活や人間関係	学校生活に関する相談	適性に合った進路の相談支援	進学等の環境変化に伴う本人の適応性	進学時における教員間での引継ぎ	教職員の障害に対する理解	教育・保育施設での医療的ケアの対応	長期休暇時の子どもの過ごし方
全 体	90	31.1	35.6	6.7	26.7	16.7	10.0	5.6	1.1	18.9
0～5歳	13	23.1	46.2	7.7	7.7	15.4	0.0	7.7	7.7	23.1
6～15歳	62	35.5	40.3	8.1	30.6	21.0	12.9	6.5	0.0	19.4
16～19歳	12	0.0	0.0	0.0	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7

区分	通学時の送迎	適性に合った就職先の紹介	就職に必要な技術等の訓練の機会	就職に関する総合的な相談支援	成人後の日中の通所先	成人後の日中活動終了後の過ごし方	その他	特にない	無回答
全 体	11.1	17.8	7.8	11.1	17.8	17.8	7.8	3.3	7.8
0～5歳	7.7	0.0	0.0	0.0	7.7	7.7	15.4	0.0	23.1
6～15歳	12.9	17.7	6.5	9.7	19.4	19.4	6.5	1.6	4.8
16～19歳	0.0	41.7	25.0	25.0	25.0	25.0	8.3	16.7	8.3

【手帳の種類・診断別】

手帳の種類・診断別にみると、障害児通所支援を利用しているで「本人の習熟度にあった学習指導」「学校生活に関する相談」「長期休暇時の子どもの過ごし方」、発達障害の診断を受けているで「学校での集団生活や人間関係」、精神障害者保健福祉手帳で「教職員の障害に対する理解」「適性に合った就職先の紹介」「就職に必要な技術等の訓練の機会」「就職に関する総合的な相談支援」、愛の手帳（療育手帳）で「成人後の日中の通所先」「成人後の日中活動終了後の過ごし方」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	本人の習熟度にあつた学習指導	学校での集団生活や人間関係	学校生活に関する相談	適性に合った進路の相談支援	進学等の環境変化に伴う本人の適応性	進学時における教員間での引継ぎ	教職員の障害に対する理解	医療的ケアの対応	教育・保育施設での療育的ケアの対応	長期休暇時の子どもの過ごし方
全 体	90	31.1	35.6	6.7	26.7	16.7	10.0	5.6	1.1	18.9	
身体障害者手帳	6	33.3	50.0	0.0	33.3	33.3	0.0	0.0	16.7	16.7	
愛の手帳（療育手帳）	51	19.6	21.6	2.0	21.6	13.7	7.8	0.0	0.0	27.5	
精神障害者保健福祉手帳	12	16.7	25.0	8.3	33.3	16.7	16.7	16.7	0.0	0.0	
発達障害の診断を受けている	25	44.0	64.0	8.0	36.0	12.0	4.0	4.0	0.0	28.0	
自立支援医療（精神通院医療）を受けている	3	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	66.7	
難病又は小児慢性特定疾病の認定を受けている	6	16.7	33.3	0.0	33.3	16.7	16.7	0.0	0.0	16.7	
障害児通所支援を利用している	17	47.1	52.9	17.6	29.4	17.6	17.6	11.8	5.9	29.4	

区分	通学時の送迎	適性に合った就職先の紹介	就職に必要な技術等の訓練の機会	就職に関する総合的な相談支援	成人後の日中の通所先	成人後の日中活動終了後の過ごし方	その他	特にない	無回答
全 体	11.1	17.8	7.8	11.1	17.8	17.8	7.8	3.3	7.8
身体障害者手帳	33.3	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7	0.0	0.0
愛の手帳（療育手帳）	11.8	23.5	9.8	13.7	31.4	31.4	11.8	0.0	9.8
精神障害者保健福祉手帳	8.3	33.3	25.0	25.0	16.7	16.7	0.0	8.3	0.0
発達障害の診断を受けている	8.0	12.0	4.0	12.0	8.0	4.0	4.0	0.0	8.0
自立支援医療（精神通院医療）を受けている	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	66.7	0.0	0.0	0.0
難病又は小児慢性特定疾病の認定を受けている	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	16.7
障害児通所支援を利用している	5.9	0.0	0.0	5.9	11.8	0.0	0.0	0.0	5.9

保護者の方にお聞きします。

問 39 保護者の方が、不安や悩みを相談する場として希望するものはどれですか。(○印は3つまで)

「児童発達支援センターわかさ学園」の割合が 50.0%と最も高く、次いで「ペアレントトレーニングやペアレントプログラム」「障害児通所支援事業所」の割合が 17.8%となっています。

【年齢別】

年齢別にみると、0～5歳で「障害児通所支援事業所」「児童発達支援センターわかさ学園」、16～19歳で「相談支援事業所」「さいわい福祉センター」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	ペアレントトレーニングやペアレントプログラム	ピアサポート活動	家族会への参加	こども家庭センター	障害児通所支援事業所	相談支援事業所	児童発達支援センターわかさ学園
全 体	90	17.8	5.6	11.1	8.9	17.8	13.3	50.0
0～5歳	13	15.4	0.0	7.7	7.7	30.8	7.7	69.2
6～15歳	62	21.0	6.5	11.3	9.7	14.5	9.7	51.6
16～19歳	12	8.3	8.3	8.3	0.0	16.7	33.3	25.0

区分	さいわい福祉センター	スクールソーシャルワーカー	教育相談室	その他	特にない	わからない	無回答
全 体	7.8	12.2	7.8	7.8	4.4	15.6	4.4
0～5歳	0.0	7.7	0.0	7.7	0.0	15.4	15.4
6～15歳	8.1	14.5	9.7	6.5	4.8	16.1	3.2
16～19歳	16.7	0.0	8.3	16.7	8.3	8.3	0.0

【手帳の種類・診断別】

手帳の種類・診断別にみると、発達障害の診断を受けているで「ペアレントトレーニングやペアレントプログラム」「ピアサポート活動」、障害児通所支援を利用しているで「障害児通所支援事業所」「児童発達支援センターわかさ学園」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	ペアレント トレーニング プログラム	ピアサポ ート活動	家族会へ の参加	こども家 庭センタ ー	障害児通 所支援事 業所	相談支援 事業所	児童発達 支援セン ターわか さ学園
全 体	90	17.8	5.6	11.1	8.9	17.8	13.3	50.0
身体障害者手帳	6	0.0	16.7	16.7	16.7	16.7	16.7	50.0
愛の手帳（療育手帳）	51	15.7	5.9	13.7	11.8	17.6	15.7	54.9
精神障害者保健福祉手帳	12	16.7	8.3	8.3	8.3	8.3	8.3	33.3
発達障害の診断を受けている	25	32.0	12.0	12.0	4.0	12.0	8.0	44.0
自立支援医療（精神通院医療）を受けている	3	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3
難病又は小児慢性特定疾病の認定を受けている	6	0.0	0.0	0.0	16.7	0.0	0.0	33.3
障害児通所支援を利用している	17	23.5	5.9	0.0	11.8	35.3	5.9	58.8

区分	さいわい 福祉セン ター	スクール ソーシャル ワーカー	教育相談 室	その他	特にな い	わから ない	無回 答
全 体	7.8	12.2	7.8	7.8	4.4	15.6	4.4
身体障害者手帳	0.0	16.7	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0
愛の手帳（療育手帳）	11.8	7.8	7.8	3.9	7.8	13.7	5.9
精神障害者保健福祉手帳	8.3	8.3	0.0	16.7	0.0	25.0	0.0
発達障害の診断を受けている	0.0	8.0	8.0	16.0	8.0	12.0	4.0
自立支援医療（精神通院医療）を受けている	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0
難病又は小児慢性特定疾病の認定を受けている	0.0	33.3	0.0	16.7	0.0	16.7	16.7
障害児通所支援を利用している	0.0	0.0	11.8	5.9	0.0	17.6	5.9

東久留米市の障害福祉施策について

問 40 福祉に関する情報は、主にどこから得ていますか。(○印は3つまで)

「インターネット」の割合が 33.3%と最も高く、次いで「市や社会福祉協議会等の広報紙」の割合が 30.0%、「友人・知人」の割合が 28.9%となっています。

【年齢別】

年齢別にみると、年齢が上がるほど「市や社会福祉協議会等の広報紙」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	市や社会福祉協議 会等の広報紙	声の広報	テレビやラジオ	新聞・雑誌	インターネット	障害者団体	民生委員・児童委 員、身体・知的障害 者相談員	ホームヘルパー
全 体	90	30.0	0.0	7.8	2.2	33.3	6.7	2.2	0.0
0～5歳	13	15.4	0.0	0.0	0.0	23.1	0.0	0.0	0.0
6～15歳	62	29.0	0.0	9.7	3.2	35.5	6.5	1.6	0.0
16～19歳	12	41.7	0.0	8.3	0.0	25.0	8.3	0.0	0.0

区分	家族・親戚	友人・知人	医療機関	市や都の窓口	障害者の福祉施設	情報は得られてい ない	その他	無回答
全 体	6.7	28.9	25.6	7.8	14.4	13.3	8.9	3.3
0～5歳	7.7	15.4	38.5	0.0	23.1	15.4	30.8	7.7
6～15歳	4.8	33.9	19.4	11.3	14.5	11.3	6.5	3.2
16～19歳	8.3	16.7	41.7	0.0	8.3	25.0	0.0	0.0

【手帳の種類・診断別】

手帳の種類・診断別にみると、精神障害者保健福祉手帳で「市や社会福祉協議会等の広報紙」「医療機関」「情報は得られていない」、愛の手帳（療育手帳）で「友人・知人」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	市や社会福祉協議会等の 広報紙	声の 広報	テレビやラジオ	新聞・雑誌	インターネット	障害者団体	民生委員・児童委員、身 体・知的障害者相談員	ホームヘルパー
全 体	90	30.0	0.0	7.8	2.2	33.3	6.7	2.2	0.0
身体障害者手帳	6	16.7	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0
愛の手帳（療育手帳）	51	25.5	0.0	11.8	3.9	31.4	11.8	3.9	0.0
精神障害者保健福祉手帳	12	41.7	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0
発達障害の診断を受けている	25	20.0	0.0	8.0	0.0	32.0	4.0	0.0	0.0
自立支援医療（精神通院医療）を受けている	3	33.3	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0
難病又は小児慢性特定疾病の認定を受けている	6	50.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0
障害児通所支援を利用している	17	17.6	0.0	0.0	0.0	23.5	0.0	0.0	0.0

区分	家族・親戚	友人・知人	医療機関	市や都の窓口	障害者の福祉施設	情報は得られていない	その他	無回答
全 体	6.7	28.9	25.6	7.8	14.4	13.3	8.9	3.3
身体障害者手帳	0.0	16.7	66.7	0.0	16.7	33.3	16.7	0.0
愛の手帳（療育手帳）	9.8	41.2	17.6	9.8	11.8	9.8	5.9	5.9
精神障害者保健福祉手帳	8.3	25.0	41.7	8.3	0.0	25.0	8.3	0.0
発達障害の診断を受けている	4.0	12.0	28.0	8.0	20.0	20.0	8.0	4.0
自立支援医療（精神通院医療）を受けている	33.3	66.7	33.3	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0
難病又は小児慢性特定疾病の認定を受けている	0.0	16.7	66.7	0.0	0.0	16.7	16.7	0.0
障害児通所支援を利用している	11.8	23.5	29.4	5.9	23.5	11.8	17.6	5.9

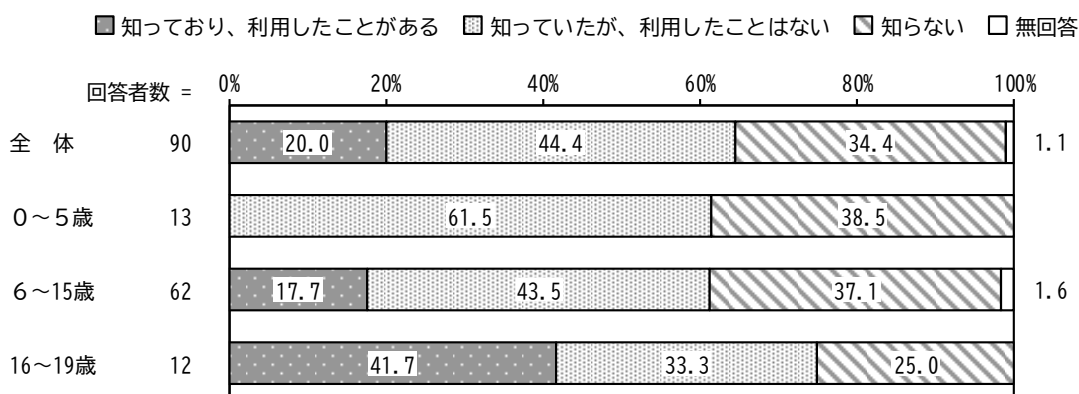
問 41 次の障害者（児）に関する市の相談窓口を知っていますか。また、それらを利用したことはありますか。（①～⑩までそれぞれに○印は1つ）

『⑦児童発達支援センターわかさ学園』で「知っており、利用したことがある」が、『①さいわい福祉センター』で「知っていたが、利用したことはない」が、『⑩当事者団体等によるピアカウンセリング等』で「知らない」が高くなっています。

①さいわい福祉センター

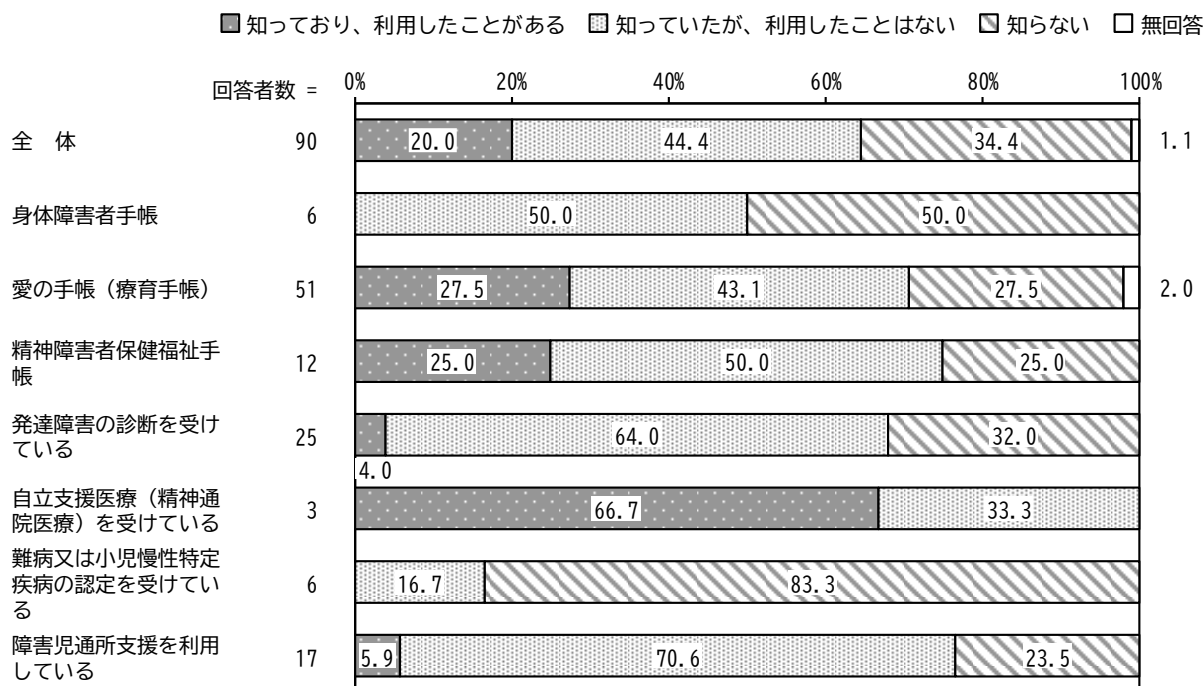
【年齢別】

年齢別にみると、年齢が上がるほど「知っており、利用したことがある」の割合が、年齢が下がるほど「知っていたが、利用したことはない」「知らない」の割合が高くなっています。



【手帳の種類・診断別】

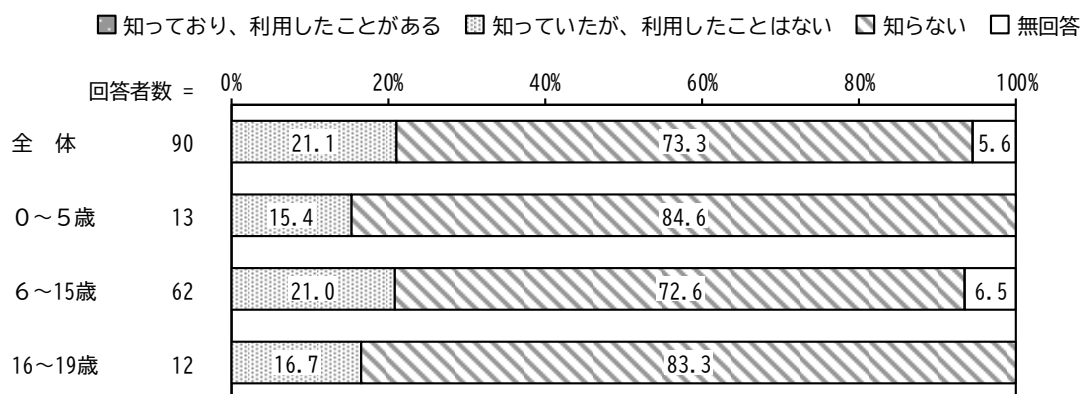
手帳の種類・診断別にみると、愛の手帳（療育手帳）、精神障害者保健福祉手帳で「知っており、利用したことがある」の割合が、障害児通所支援を利用しているで「知っていたが、利用したことはない」の割合が高くなっています。



②地域生活支援センターめるくまーる

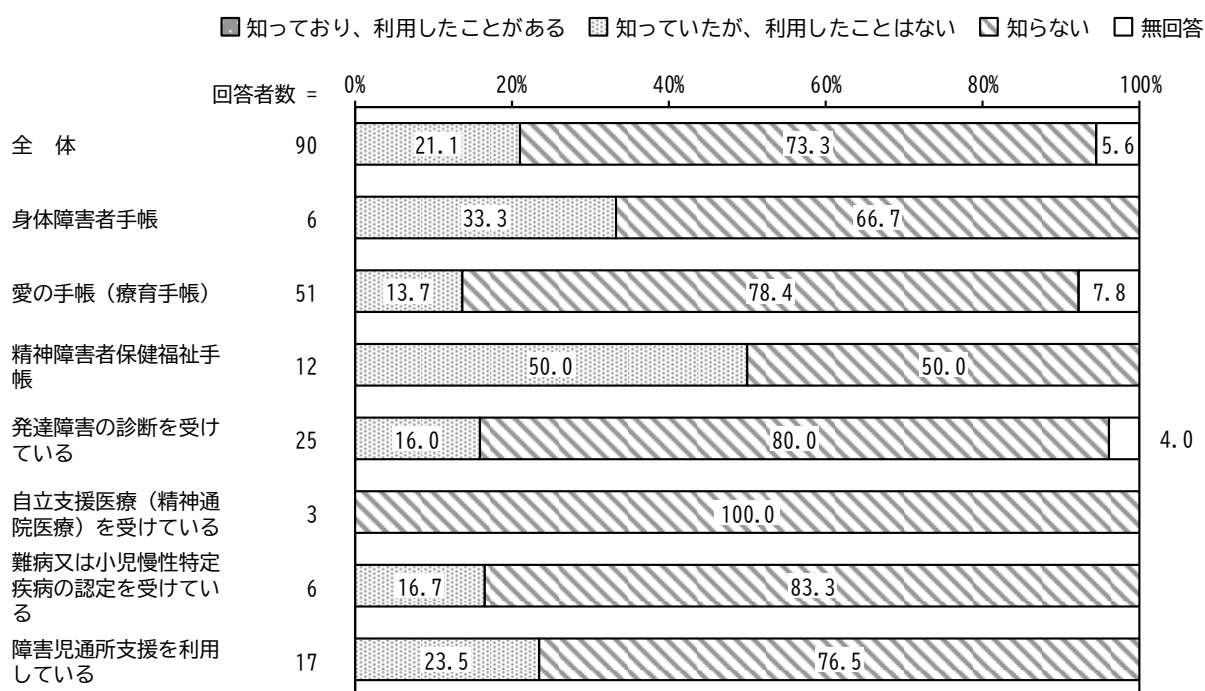
【年齢別】

年齢別にみると、0～5歳、16～19歳で「知らない」の割合が高くなっています。



【手帳の種類・診断別】

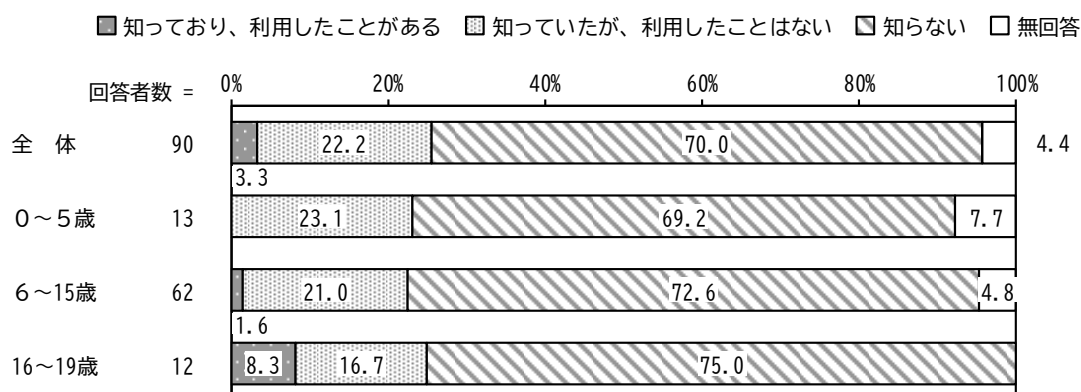
手帳の種類・診断別にみると、精神障害者保健福祉手帳で「知っていたが、利用したことはない」の割合が高くなっています。



③障害者就労支援室「さいわい」「あおぞら」

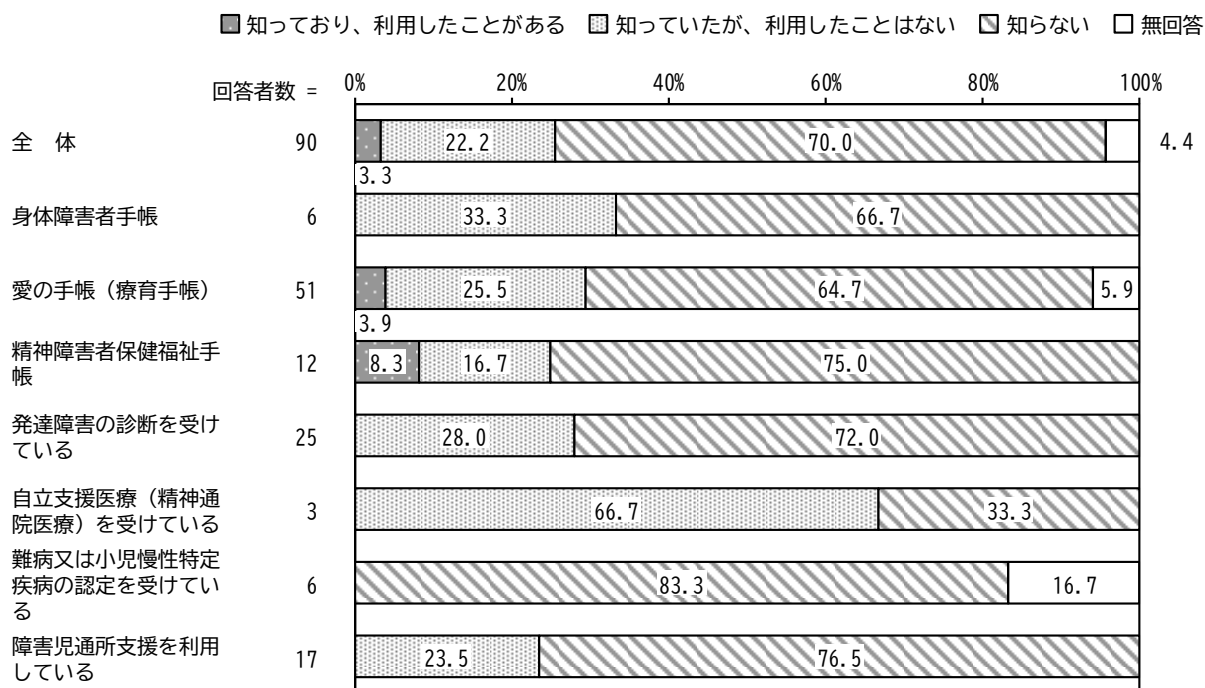
【年齢別】

年齢別にみると、16～19歳で「知っており、利用したことがある」「知らない」の割合が高くなっています。



【手帳の種類・診断別】

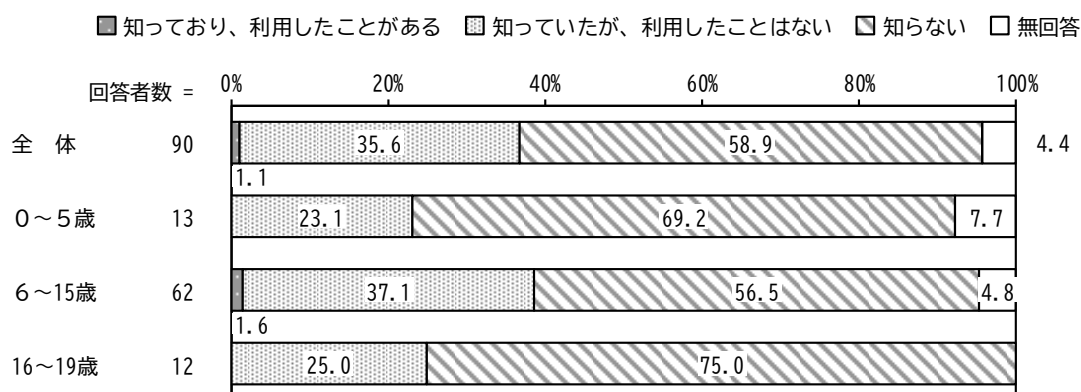
手帳の種類・診断別にみると、精神障害者保健福祉手帳で「知っており、利用したことがある」、発達障害の診断を受けているで「知っていたが、利用したことはない」、精神障害者保健福祉手帳、障害児通所支援を利用しているで「知らない」の割合が高くなっています。



④市役所内ワークコーナー（ハローワーク窓口）

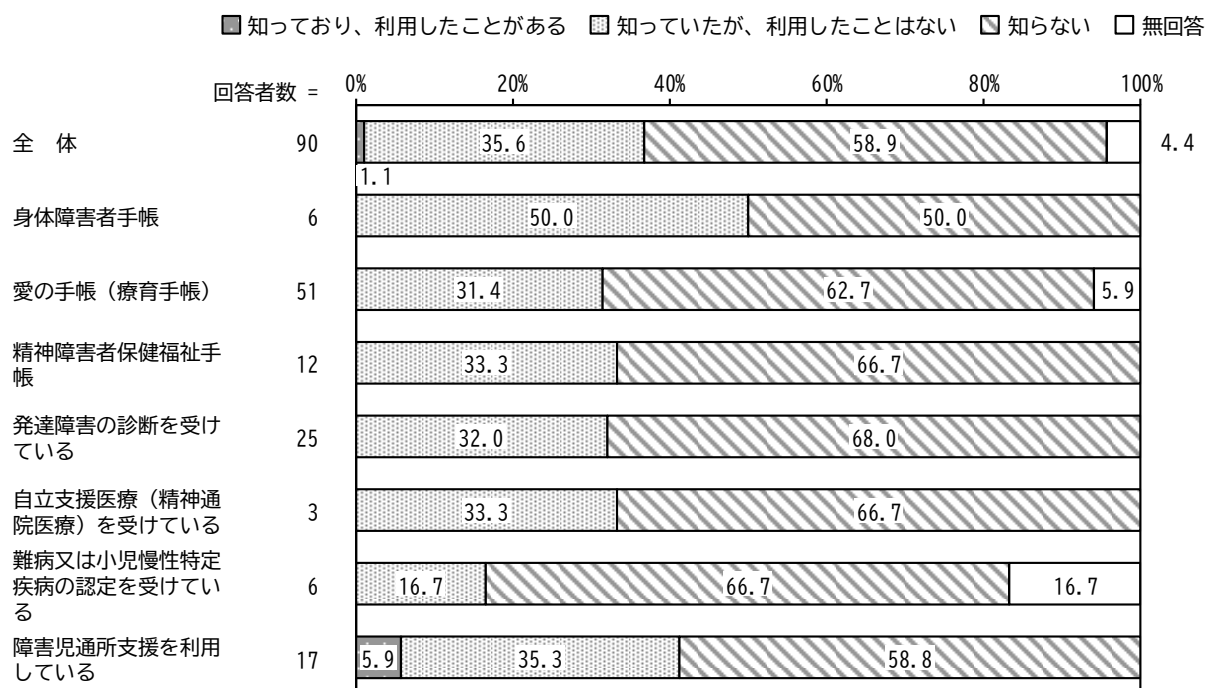
【年齢別】

年齢別にみると、6～15歳で「知っていたが、利用したことはない」の割合が、16～19歳で「知らない」の割合が高くなっています。



【手帳の種類・診断別】

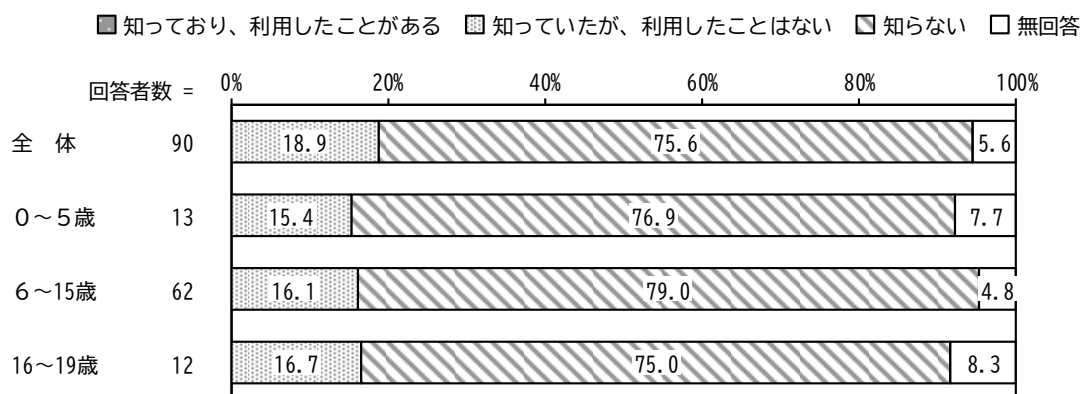
手帳の種類・診断別にみると、精神障害者保健福祉手帳、発達障害の診断を受けているで「知らない」の割合が高くなっています。



⑤障害者虐待防止センター（市障害福祉課）

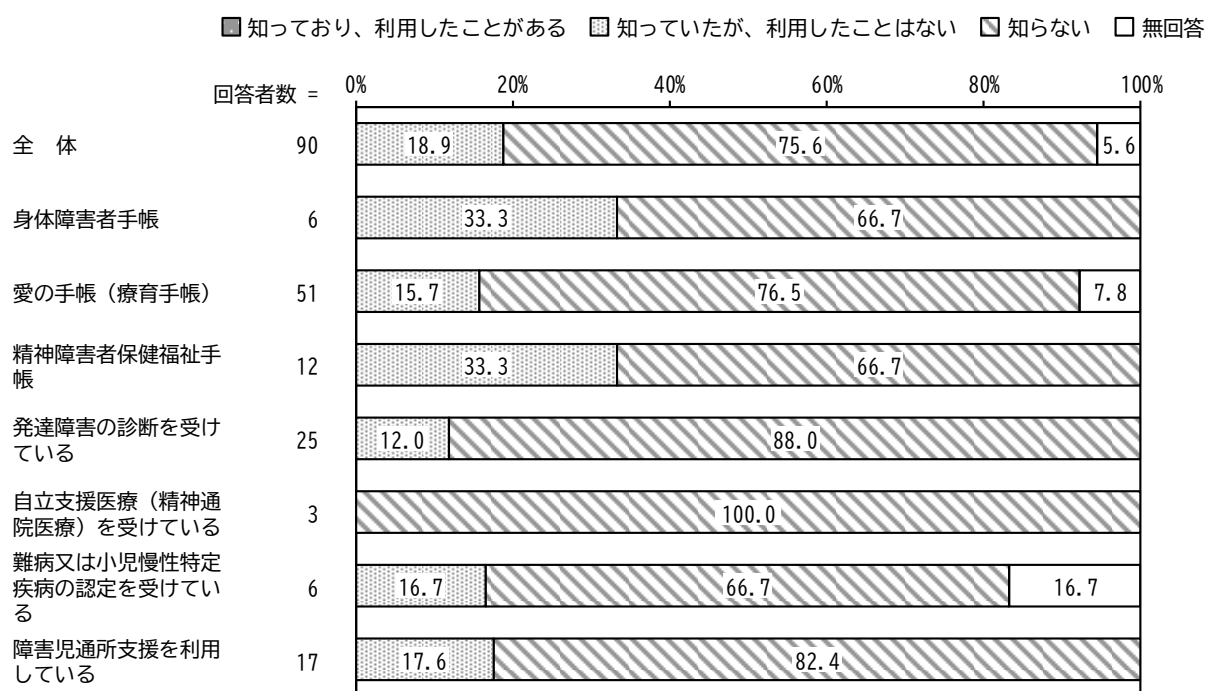
【年齢別】

年齢別にみると、大きな差はみられません。



【手帳の種類・診断別】

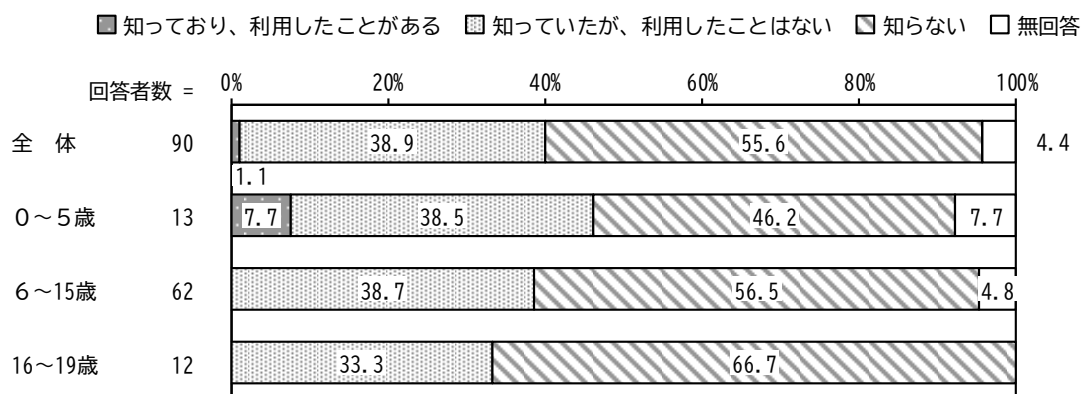
手帳の種類・診断別にみると、精神障害者保健福祉手帳で「知っていたが、利用したことはない」、発達障害の診断を受けているで「知らない」の割合が高くなっています。



⑥社会福祉協議会

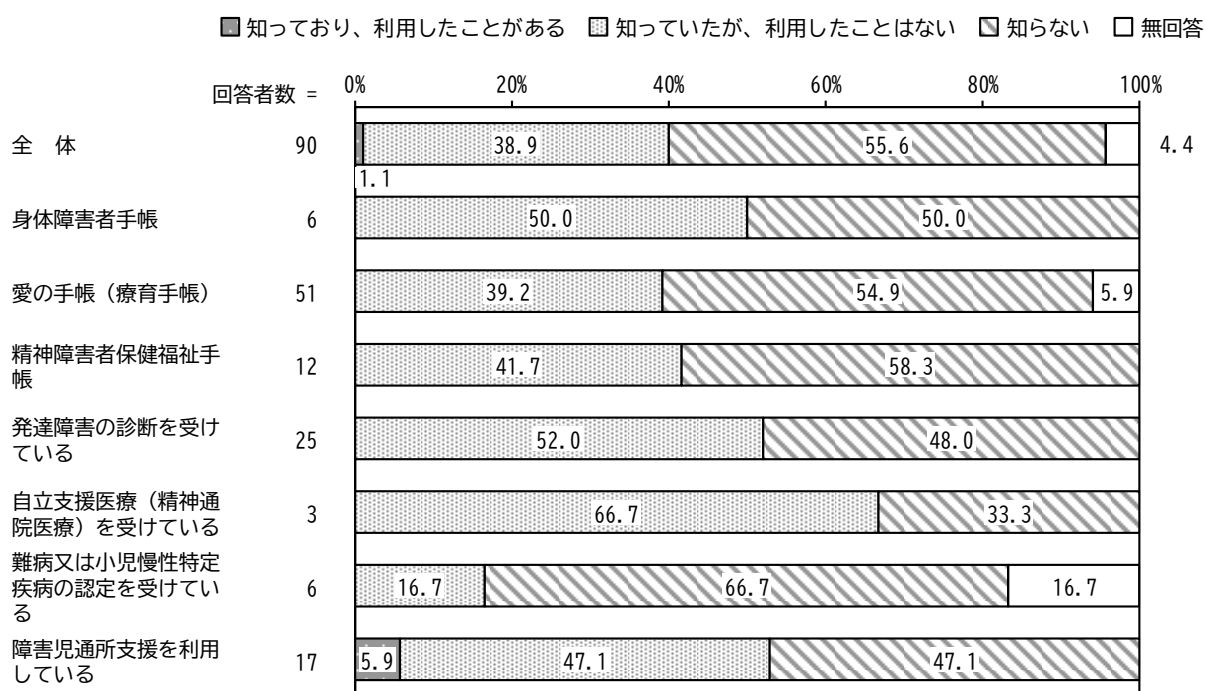
【年齢別】

年齢別にみると、年齢が上がるほど「知らない」の割合が高くなっています。



【手帳の種類・診断別】

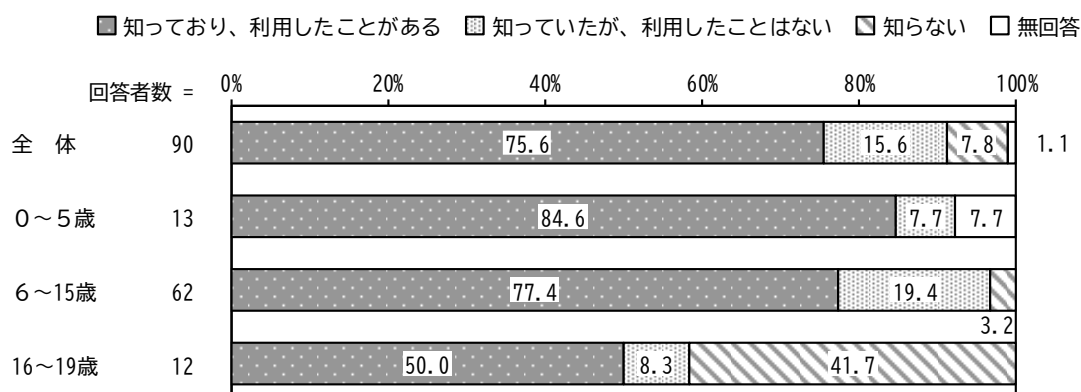
手帳の種類・診断別にみると、発達障害の診断を受けているで「知っていたが、利用したことはない」の割合が高くなっています。



⑦児童発達支援センターわかさ学園

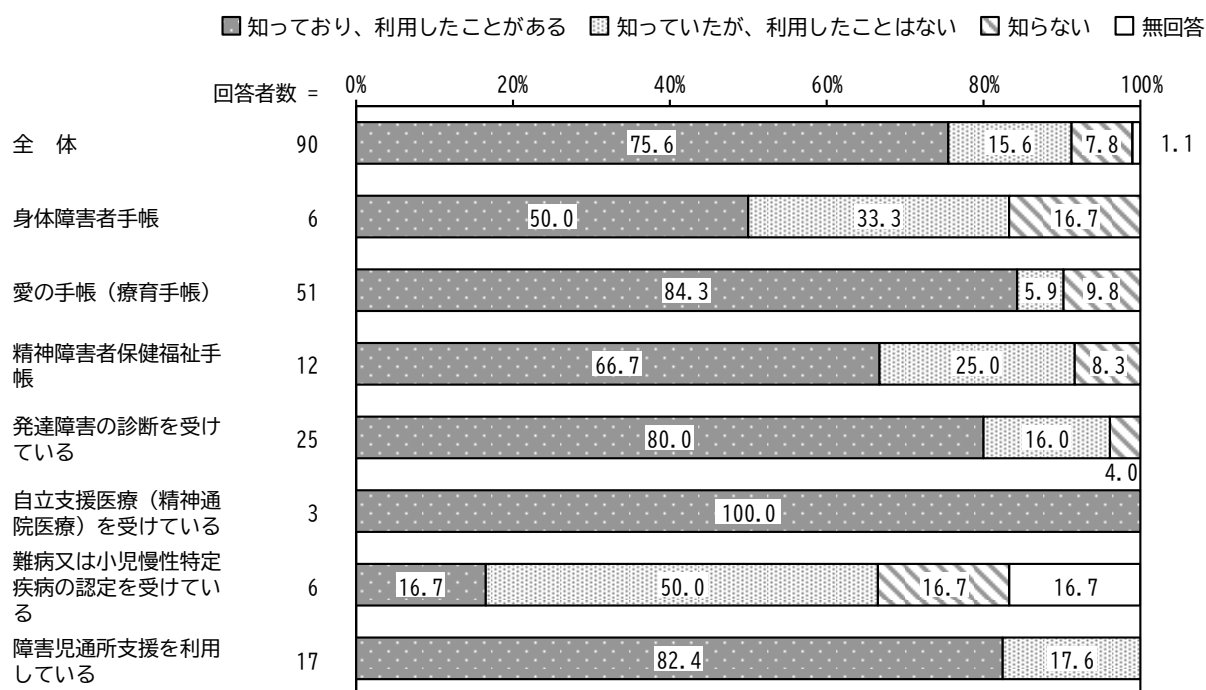
【年齢別】

年齢別にみると、年齢が上がるほど「知らない」の割合が高く、「知っており、利用したことがある」の割合が低くなっています。



【手帳の種類・診断別】

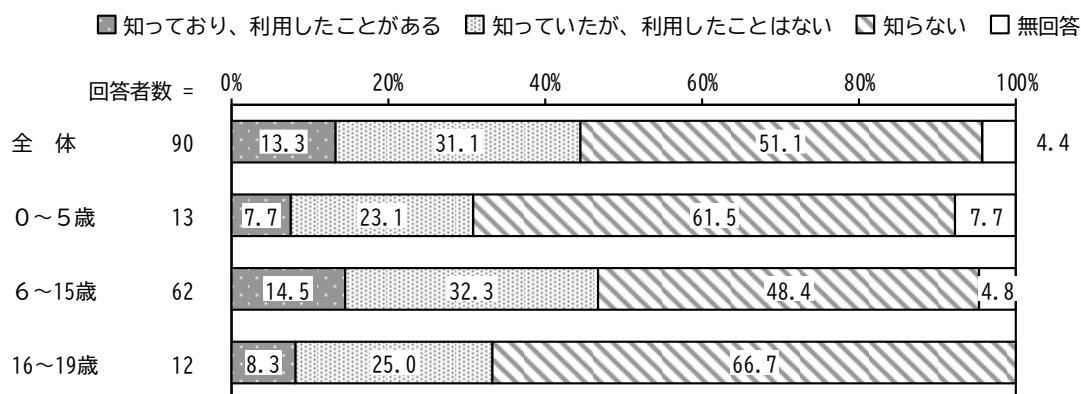
手帳の種類・診断別にみると、愛の手帳（療育手帳）、障害児通所支援を利用しているで「知っており、利用したことがある」、精神障害者保健福祉手帳で「知っていたが、利用したことはない」の割合が高くなっています。



⑧教育センター中央相談室（児童）

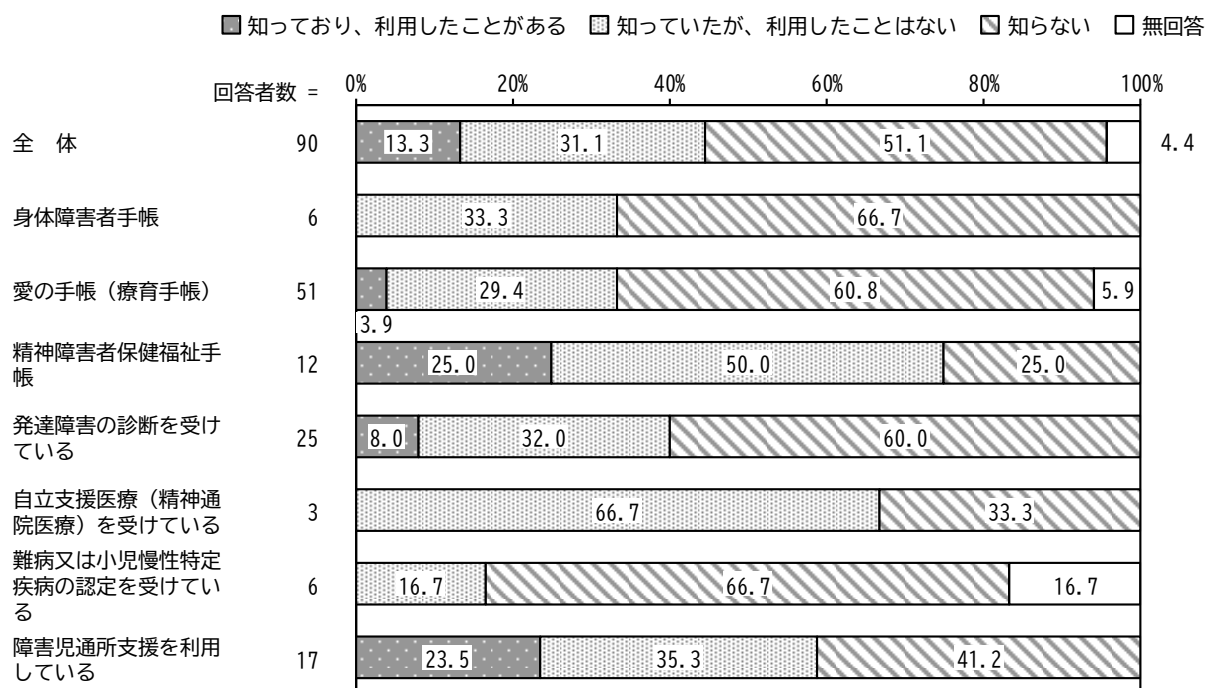
【年齢別】

年齢別にみると、16～19歳で「知らない」の割合が高くなっています。



【手帳の種類・診断別】

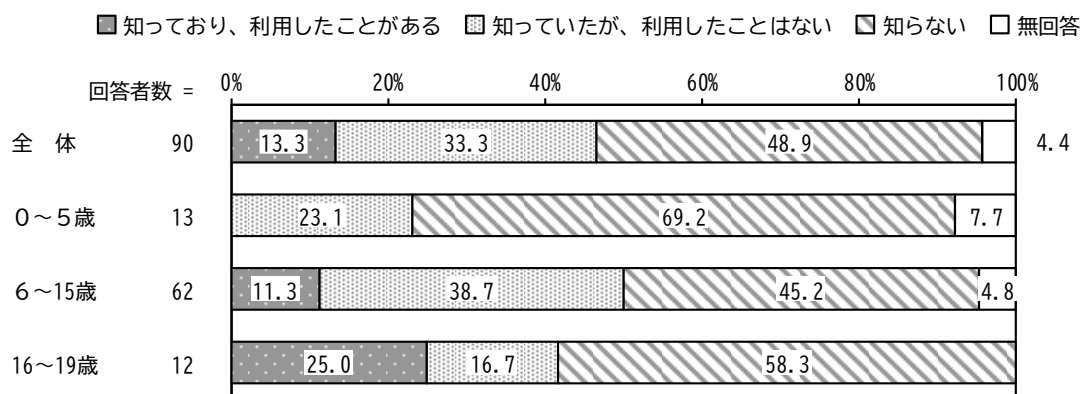
手帳の種類・診断別にみると、精神障害者保健福祉手帳、障害児通所支援を利用しているで「知っており、利用したことがある」、精神障害者保健福祉手帳で「知っていたが、利用したことはない」の割合が高くなっています。



⑨教育センター滝山相談室（児童）

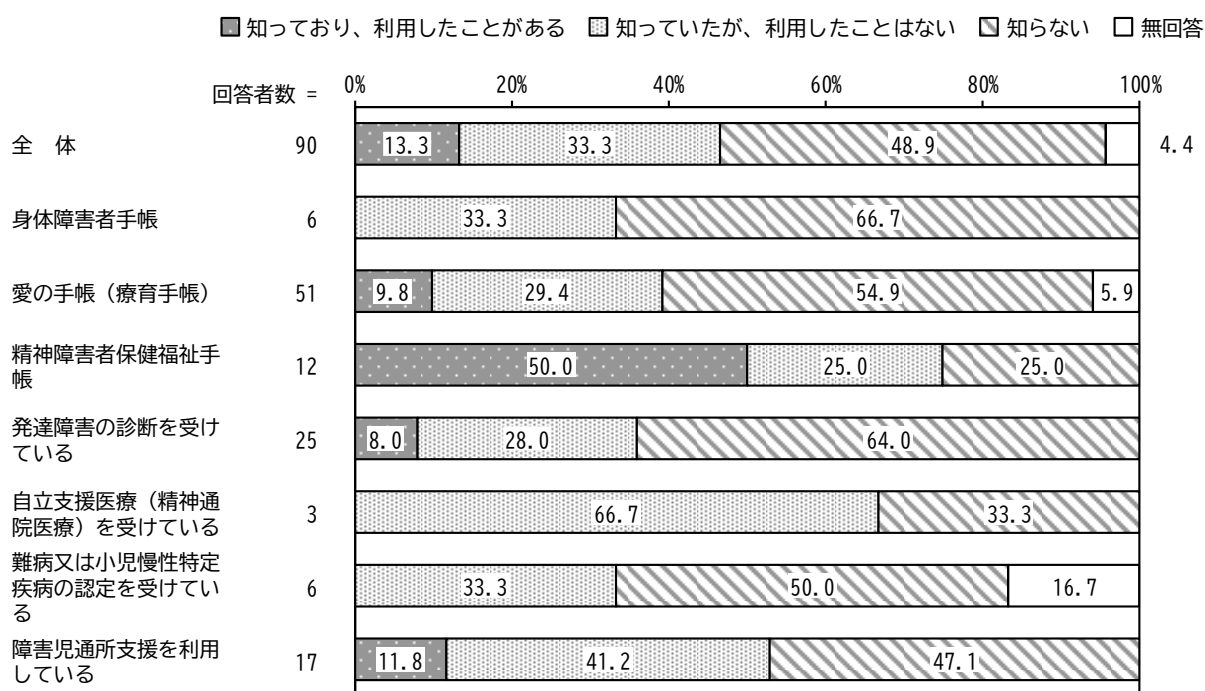
【年齢別】

年齢別にみると、年齢が上がるほど「知っており、利用したことがある」の割合が高くなっています。



【手帳の種類・診断別】

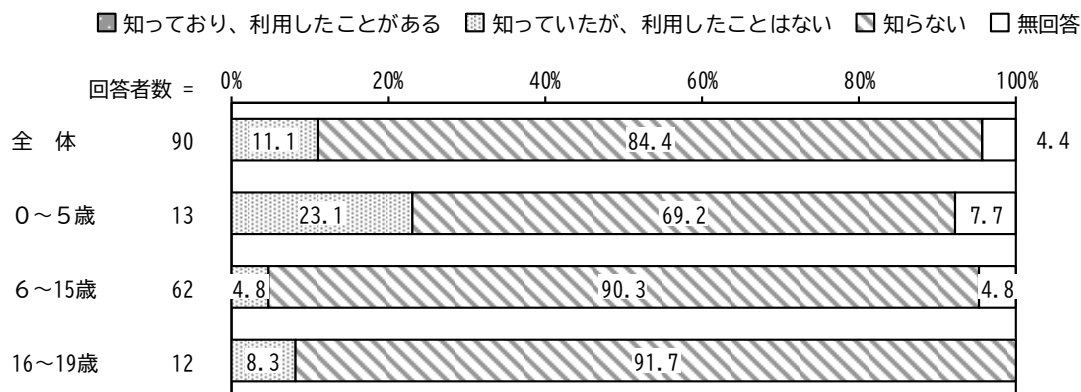
手帳の種類・診断別にみると、精神障害者保健福祉手帳で「知っており、利用したことがある」、発達障害の診断を受けているで「知らない」の割合が高くなっています。



⑩当事者団体等によるピアカウンセリング等

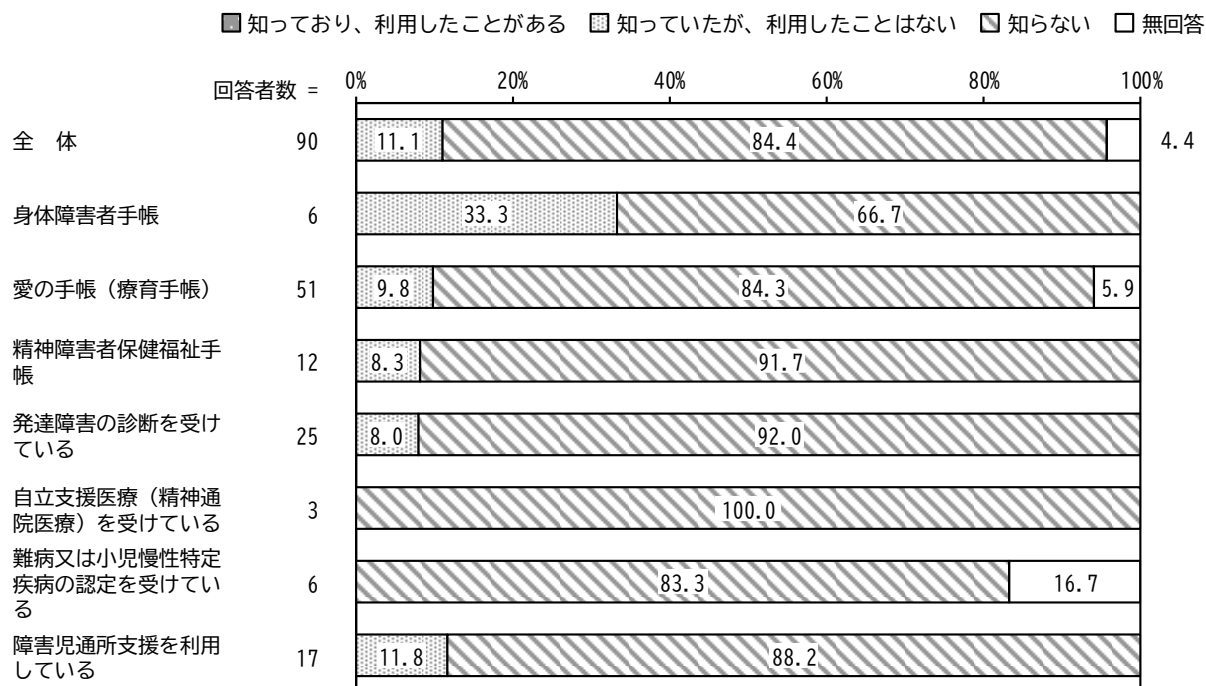
【年齢別】

年齢別にみると、年齢が上がるほど「知らない」の割合が高くなっています。



【手帳の種類・診断別】

手帳の種類・診断別では、大きな差は見られません。



問 42 あなたは、悩み事などを相談するときに、困ることはありますか。(あてはまるものすべてに○印)

「どこに問い合わせたらよいかわからない」の割合が 53.3%と最も高く、次いで「身近な場に相談するところがない」の割合が 16.7%となっています。

【年齢別】

年齢別にみると、16～19 歳で「相談先で、周りの方に相談内容が聞こえてしまう」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数（件）	どこに問い合わせたら よいかわからない	身近な場に相談する ところがない	電話やFAXを使っ て情報収集や相談を することができない	インターネットを使 って情報収集や相談 をすることができない	点字版や音声コード 、録音テープなどによ る情報提供が少ない	相談先で、周りの方 に相談内容が聞こえ てしまう	その他	家族や知人に相談 したり、情報を得ら れるのに特に困っ ていない	無回答
全 体	90	53.3	16.7	5.6	4.4	1.1	2.2	4.4	33.3	4.4
0～5歳	13	53.8	15.4	7.7	7.7	0.0	0.0	0.0	38.5	7.7
6～15歳	62	54.8	19.4	4.8	4.8	1.6	1.6	6.5	29.0	4.8
16～19歳	12	50.0	8.3	8.3	0.0	0.0	8.3	0.0	41.7	0.0

【手帳の種類・診断別】

手帳の種類・診断別にみると、発達障害の診断を受けているで「どこに問い合わせたらよいかわからない」「身近な場に相談するところがない」、精神障害者保健福祉手帳で「相談先で、周りの方に相談内容が聞こえてしまう」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数（件）	どこに問い合わせたら よいかわからない	身近な場に相談する ところがない	電話やFAXを使って 情報収集や相談を することができない	インターネットを使 って情報収集や相談 をすることができない	点字版や音声コード、 録音テープなどによ る情報提供が少ない	相談先で、周りの方 に相談内容が聞こえ てしまう	その他	家族や知人に相談 したり、情報を得ら れるのに特に困っ ていない	無回答
全 体	90	53.3	16.7	5.6	4.4	1.1	2.2	4.4	33.3	4.4
身体障害者手帳	6	66.7	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7	0.0
愛の手帳（療育手帳）	51	56.9	13.7	9.8	5.9	0.0	3.9	5.9	27.5	5.9
精神障害者保健福祉手帳	12	41.7	8.3	0.0	8.3	0.0	8.3	0.0	50.0	8.3
発達障害の診断を受けている	25	64.0	24.0	0.0	4.0	4.0	0.0	0.0	32.0	4.0
自立支援医療（精神通院医療）を受けている	3	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0
難病又は小児慢性特定疾病の認定を受けている	6	50.0	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0
障害児通所支援を利用している	17	52.9	17.6	0.0	0.0	0.0	0.0	5.9	23.5	11.8

問 43 今後、市行政で重点的に取り組むべきと思う施策は何ですか。(○印は3つまで)

「児童の発達相談を切れ目なく受けられる体制づくり」の割合が 38.9%と最も高く、次いで「特別支援教育のいっそうの充実」の割合が 28.9%、「障害者の就労支援の充実」の割合が 27.8%となっています。

【年齢別】

年齢別にみると、0～5歳で「障害児保育の充実等による親の就労支援」「災害や急病などの緊急時の支援」、16～19歳で「就労系事業所の定員の拡大」の割合が高くなっています。また、「年齢が下がるほど「特別支援教育のいっそうの充実」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	児童の発達相談を 切れ目なく受けら れる体制づくり	特別支援教育のい っそうの充実	教育と福祉の連携 を強めること	障害児の放課後や 余暇活動の充実	成人期の余暇活動 の場づくり	障害者(児)への虐 待の予防・権利擁護	障害者の就労支援 の充実	障害児保育の充実 等による親の就労 支援	就労系事業所の定 員の拡大	重度の障害者(児) の1日中活動の充実 と場所の確保
全 体	90	38.9	28.9	11.1	22.2	18.9	4.4	27.8	17.8	15.6	3.3
0～5歳	13	30.8	38.5	0.0	30.8	0.0	7.7	7.7	38.5	7.7	0.0
6～15歳	62	43.5	30.6	12.9	21.0	19.4	3.2	29.0	12.9	9.7	4.8
16～19歳	12	25.0	16.7	8.3	0.0	33.3	8.3	33.3	25.0	58.3	0.0

区分	在宅でも医療を受 けられる体制づく り	グループホームの 施設整備	バリアフリーのま ちづくり	障害特性に応じた 情報提供	相談支援体制の強 化	障害者(児)への理 解を深めるための 講習やイベント	障害者(児)による支 援者やボランティア の育成	災害や急病などの 緊急時の支援	その他	無回答
全 体	0.0	15.6	3.3	13.3	8.9	4.4	3.3	12.2	5.6	4.4
0～5歳	0.0	0.0	0.0	15.4	0.0	7.7	0.0	30.8	7.7	7.7
6～15歳	0.0	19.4	3.2	12.9	11.3	4.8	4.8	8.1	6.5	4.8
16～19歳	0.0	16.7	8.3	8.3	8.3	0.0	0.0	16.7	0.0	0.0

【手帳の種類・診断別】

手帳の種類・診断別にみると、精神障害者保健福祉手帳で「特別支援教育のいっそうの充実」「障害者の就労支援の充実」「研修等による支援者やボランティアの育成」、愛の手帳（療育手帳）で「成人期の余暇活動の場づくり」、障害児通所支援を利用しているで「障害児保育の充実等による親の就労支援」「相談支援体制の強化」、精神障害者保健福祉手帳、障害児通所支援を利用しているで「障害特性に応じた情報提供」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数（件）	児童の発達相談を切れ目なく受けられる体制づくり	特別支援教育のいっそうの充実	教育と福祉の連携を強めること	障害児の放課後や余暇活動の充実	成人期の余暇活動の場づくり	障害者（児）への虐待の予防・権利擁護	障害者の就労支援の充実	障害児保育の充実等による親の就労支援	就労系事業所の定員の拡大	重度の障害者（児）の就労活動の充実と場所の確保
全 体	90	38.9	28.9	11.1	22.2	18.9	4.4	27.8	17.8	15.6	3.3
身体障害者手帳	6	66.7	33.3	0.0	33.3	0.0	0.0	50.0	33.3	0.0	0.0
愛の手帳（療育手帳）	51	29.4	21.6	7.8	21.6	31.4	3.9	29.4	17.6	19.6	5.9
精神障害者保健福祉手帳	12	41.7	50.0	16.7	0.0	25.0	8.3	41.7	25.0	16.7	0.0
発達障害の診断を受けている	25	44.0	32.0	8.0	32.0	4.0	4.0	24.0	8.0	12.0	4.0
自立支援医療（精神通院医療）を受けている	3	33.3	0.0	0.0	0.0	66.7	0.0	33.3	0.0	33.3	33.3
難病又は小児慢性特定疾病の認定を受けている	6	33.3	16.7	0.0	16.7	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0
障害児通所支援を利用している	17	35.3	35.3	11.8	29.4	0.0	5.9	17.6	29.4	0.0	0.0

区分	在宅でも医療を受けられる体制づくり	グループホームの施設整備	ちづくりバリアフリーのまちづくり	障害特性に応じた情報提供	相談支援体制の強化	障害者（児）への理解を深めるための講習やイベント	研修等による支援者やボランティアの育成	災害や急病などの緊急時の支援	その他	無回答
全 体	0.0	15.6	3.3	13.3	8.9	4.4	3.3	12.2	5.6	4.4
身体障害者手帳	0.0	0.0	0.0	16.7	16.7	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0
愛の手帳（療育手帳）	0.0	25.5	3.9	11.8	3.9	2.0	3.9	11.8	5.9	3.9
精神障害者保健福祉手帳	0.0	8.3	8.3	25.0	8.3	0.0	16.7	0.0	8.3	0.0
発達障害の診断を受けている	0.0	8.0	0.0	16.0	12.0	4.0	4.0	12.0	16.0	4.0
自立支援医療（精神通院医療）を受けている	0.0	33.3	33.3	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
難病又は小児慢性特定疾病の認定を受けている	0.0	0.0	16.7	50.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	16.7
障害児通所支援を利用している	0.0	11.8	0.0	23.5	23.5	11.8	0.0	17.6	0.0	0.0

東久留米市の障害福祉施策について、ご意見やご要望などがありましたら、自由にご記入ください。

全体で 16 件の意見がありました。

No	内容	件数
1	学校教育・通学支援に関する意見・要望に関すること	6 件
2	放課後等デイサービス・預かり支援に関すること	2 件
3	福祉サービスの拡充・相談体制に関すること	2 件
4	経済的支援・手当に関すること	2 件
5	就労支援に関する	1 件
6	将来（親亡き後）への不安に関すること	1 件
7	施設・サービスへの感謝に関すること	1 件
7	その他	1 件

学校教育・通学支援に関する意見・要望に関すること

中学校にも情緒支援級を作ってください。小学校の情緒級に通っている子の行き場がありません 小学校の支援級をふやしてほしいです。私が住む地域からは全てが遠すぎます。一番近いところで大人の足で 30 分以上です。子どもの足だと何時間かかるのでしょうか。そもそも支援級の知的級が 2 年生までで情緒級が 4 年生までっておかしいと思います。情緒の子も衝動性があり危ないのはわかりますが知的がある子も同じですし、子によっては自力で通学できません。そこに差があることと逆なんじゃないかって部分に矛盾を感じています。たぶんみんなそうだと思います 現在、次女が小学校（支援学級）に通っている。中学生に進学する際、市内のすべての学校に特別支援学級が設置されているわけではない現状を懸念しております。このままでは、長女とは別の（支援学級がある）中学校を選択せざるを得ず、姉妹で異なる学校に通うことになってしまいます。どの中学校に進学しても必要な支援が受けられるよう、市内、すべての小中学校において特別支援学級を設置・存続していただきたいです スクールバスを利用しています。来年度から利用できなくなるとのこと、大変不便になると思い、困っています。2 年生も継続利用できないのでしょうか。どうかおねがいします 東久留米の中学校の知的ではなく情緒組の新設を御検討お願いします。東久留米にはないので隣の市、西東京と清瀬に市役所にそちらの学校への転入方法をお聞きした時は、慣れた様子で対応された時は、本当になぜ東久留米にはないので悲しくてたまりませんでした。「ああ、東久留米ですね」と案内されたときにはそれらの市役所の方達と苦笑いでした。東京都から予算縮小の打診があったのは理解できますが、他の市ができている事を東久留米市で議題にもあがらないのは、何故でしょうか、それらの事に納得できる回答がないのが少しずつ支援に通う親たちの間で不安が大きくなっている状態です。年々支援級へ通う児童が増えています。今一度御検討をどうぞよろしくお願いいたします ①周囲の方の理解②通級に通いやすくしてほしい。③学校の先生にも「(知能) 足りないとおもいますけど」と言われたり親の精神面が“一緒に支えていってほしい”人からの言葉で不安定になることがあります。④低学年のうちの IQ で判断するのはとても危険に思います。知り合いの子が IQ69 から一年後 80 以上に上がり通級に通えたと言っていました、その通えなかった一年の方が大切だと思います
--

放課後等デイサービス・預かり支援に関すること

成人後にどのような支援がうけられるのかの情報が少ないのでそのような機会が多く欲しい。放デイの数は増えたが、入るタイミングにより週に何日利用できるできないが大きく差があるので、平均的に皆が利用できるような（何日まで（週））仕組みが必要。先に入った人が多く使っていて後から利用希望しても空きがない

障がいの親も仕事を続けられるように放デイの時間の短さをどうにかしてほしいです。夏季休暇中 10 時～、13 時～利用できるまでの時間をどのようにすれば良いのか、日時一時のサービスもあると聞いたが限度もあると聞き、保育園みたいに 7～19 時/18：30 くらいで預かってもらえる場所を作してほしいです。よろしくお願いします

福祉サービスの拡充・相談体制に関すること

福祉アンケートは、そのような方が家族にいないと。興味すらないと思う。妻が亡くなった時、息子は小学生。仕事がある為、デイサービスを利用していた。私の帰宅が遅くなる事があったり、土日仕事もあり、家をあける事が多々あった。利用する曜日、施設を増やせないか相談したがムリだった。その様な時は、子供を 1 人で家に留守番させるのが正解なのかわからない。私以外にもこまっている方はたくさんいると思う。今は子供が大きくなっているの、ある程度は解決できる。しかし人はいつ亡くなるかわからない。その時、人は絶望しかない。相談する事ができる所が市役所の福祉課なのか、どこなのかわからなかった。所詮は他人事と思っている方はほとんど。自分がその立場にならないと分からない事ばかりだと思いますよ。その様な方を一人でも助けてあげて下さい。本当に助けてもらいたいと思っている方は目の前にいます。しかしそのような方ほど我慢していますよ。「老害ばかり、自分の保身に走る世の中」この国の未来を考えている人は、一体どこにいるのか聞きたい。私は今後海外に居住します。未来のない国で最後はおくりたくない。「東久留米市が住みやすい市になる事を願っています」

放デイや習い事が長続きしないことがあったので、障害児の特性に配慮した余暇支援の場づくりに力を入れて頂きたいです。どうしても家で過ごす時間が長くなるので親の負担軽減のためご検討の程、よろしくお願い致します。子供が支援級在籍中に環境が合わなくなった際に相談先が見つからず困りました。適切な判断のできる専門スタッフの配置をお願い致します。また、本人は辛い思いをしながら短時間登校を続けていたので、年度途中の特支への転学を認めて頂きたいです。主な支援者である母親が体調不良で入院することとなった際、移動支援サービスによる本人の送迎先をさがしましたが、どの事業所も人手不足などの理由で断られました。利用者に優しい福祉サービス、質の向上を願います

経済的支援・手当に関すること

他市に比べて使える補助金等が少ないと感じる。外国人への援助ばかりでなく障害児（者）に対して健常者と同等の生活がおくれるような支援を期待している

障害福祉課の方にはたいへんお世話になっております。たすかります。市の施策とは異なることかも知れませんが放課後デイなどの利用上限額の高い方への切り替えの収入額が低すぎると思う点（ちょうどボーダーの人とはとてもきついと思います）と、福祉手当が所得の如何でもらえないという点については不満を持っています。所得のことで障害の有無は全く関係のないことなので

就労支援に関すること

就労継続支援の場が少なすぎると感じています。障害者雇用について、勤務形態が 20 時間以上の勤務が基本となるとありますが、この時間設定は誰が決めたものなのか、本当に障害者の立場で考えられているのか疑問しかありません。週 20 時間以上働くことができないから困っているのです。法律での法廷労働時間の半分とは安易に考えられていると感じます。新しいルールとして、超短時間勤務でも障害者雇用の対象（0.5 人分としてカウント）とありますが、1 人分としてカウントしてほしいと切に願います

将来（親亡き後）への不安に関すること

自分が死んだ後子供が一人で生きていけるかどうか、がとても心配です。親がいなくなったあとのことがしんばいです

施設・サービスへの感謝に関すること

周りの方も言っていますが、東久留米市はわかくさ学園やさいわい福祉センター等障害者に対するしせつがあり、とても助かりました。障害者が住みやすい町だなと思います。これからもよろしくお願いいたします

その他

質問の内容が1人では分かりづらく、親に聞いてようやく答えられました

IV 市民調査結果

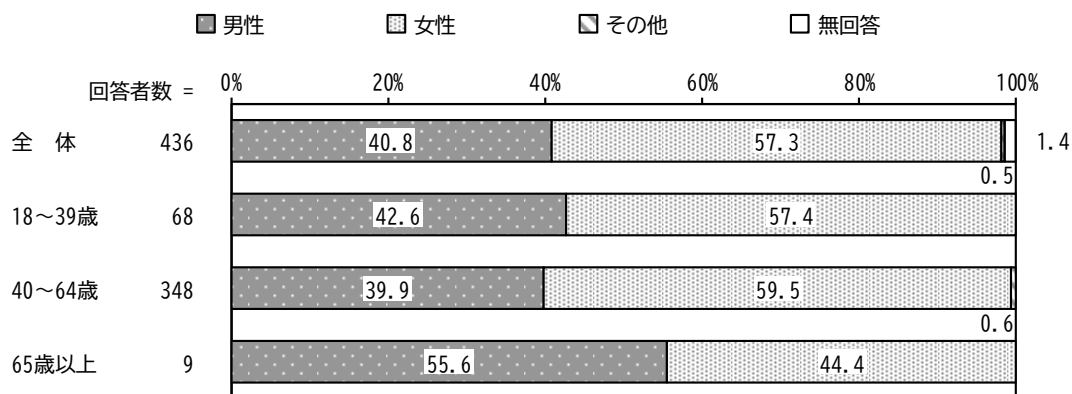
あなたご自身について

問1 あなたの性別は、次のうちどれですか。(○印は1つ)

「男性」の割合が40.8%、「女性」の割合が57.3%となっています。

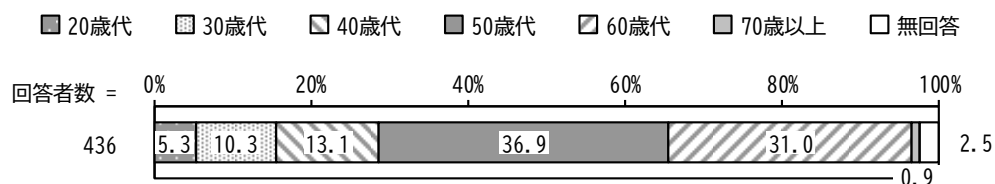
【年齢別】

年齢別にみると、10件以上の項目で大きな差はみられません。



問2 あなたの年齢（令和8年4月1日現在）をお答えください。(数字を記入)

「50 歳代」の割合が36.9%と最も高く、次いで「60 歳代」の割合が31.0%、「40 歳代」の割合が13.1%となっています。

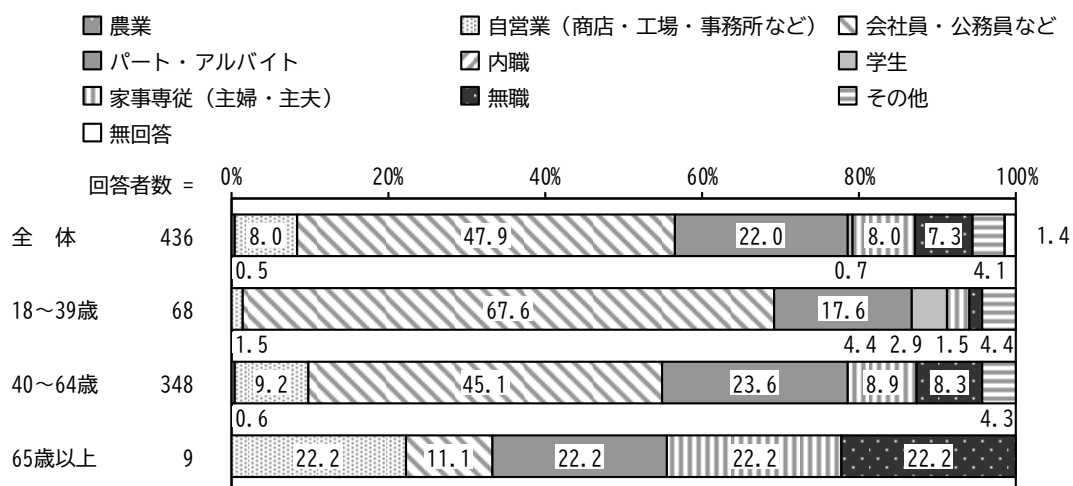


問3 あなたの職業についてお答えください。(○印は1つ)

「会社員・公務員など」の割合が47.9%と最も高く、次いで「パート・アルバイト」の割合が22.0%となっています。

【年齢別】

年齢別にみると、年齢が上がるほど「自営業（商店・工場・事務所など）」「家事専従（主婦・主夫）」「無職」の割合が高く、「会社員・公務員など」の割合が低くなっています。

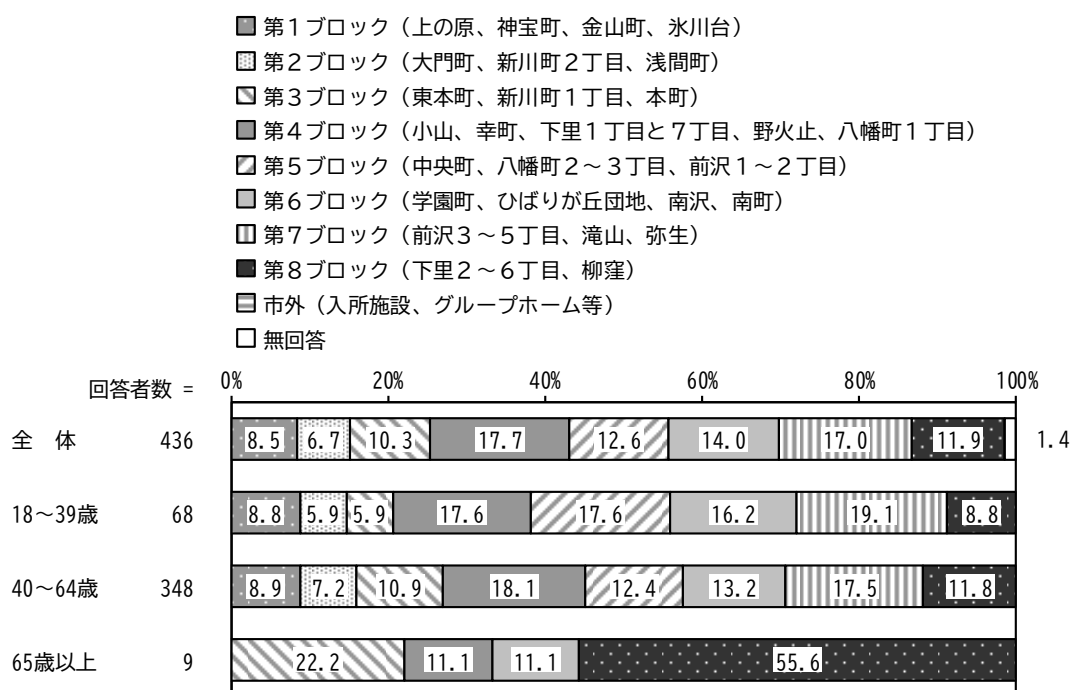


問4 あなたのお住まいをお聞きます。(○印は1つ)

「第4ブロック（小山、幸町、下里1丁目と7丁目、野火止、八幡町1丁目）」の割合が17.7%と最も高く、次いで「第7ブロック（前沢3～5丁目、滝山、弥生）」の割合が17.0%、「第6ブロック（学園町、ひばりが丘団地、南沢、南町）」の割合が14.0%となっています。

【年齢別】

年齢別にみると、年齢が下がるほど「第5ブロック（中央町、八幡町2～3丁目、前沢1～2丁目）」「第6ブロック（学園町、ひばりが丘団地、南沢、南町）」「第7ブロック（前沢3～5丁目、滝山、弥生）」の割合が高く、「第3ブロック（東本町、新川町1丁目、本町）」「第8ブロック（下里2～6丁目、柳窪）」の割合が低くなっています。



問5 あなたは、誰と一緒に生活していますか。(あてはまるものすべてに○印)

「配偶者（妻・夫）」の割合が56.2%と最も高く、次いで「子ども」の割合が33.0%、「母」の割合が23.4%となっています。

【年齢別】

年齢別にみると、年齢が下がるほど「父」「母」「祖父母」「兄弟・姉妹」の割合が高く、「子ども」の割合が低くなっています。また、40歳～64歳で「配偶者（妻・夫）」の割合が高くなっています。

単位：％

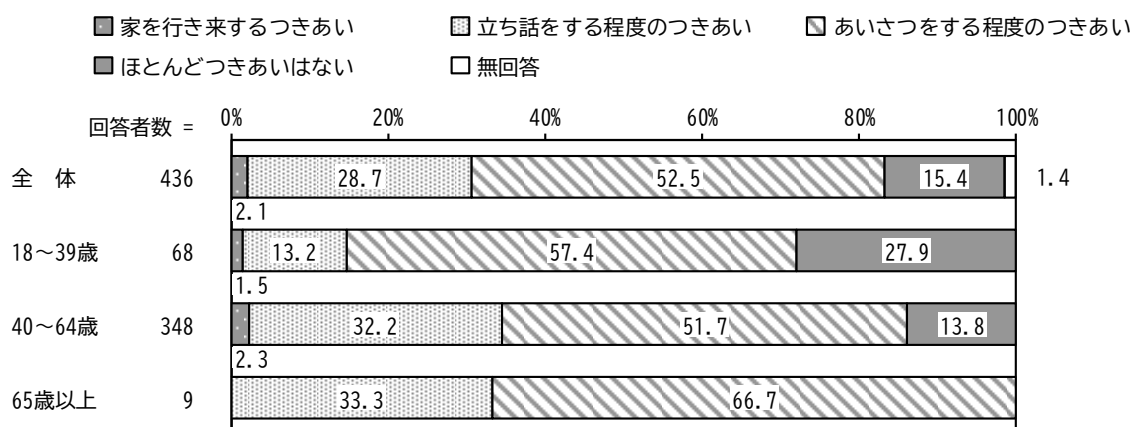
区分	回答者数 (件)	配偶者 (妻・夫)	子ども	子どもの 配偶者	父	母	祖父母	兄弟・ 姉妹	その他の親 族	友人など家 族以外 の人	間 寮や施設 の職員・仲 間	ひとり暮 らし	その他	無回 答
全 体	436	56.2	33.0	0.9	14.0	23.4	2.8	7.8	0.9	0.9	0.0	13.8	1.4	1.6
18～39歳	68	22.1	19.1	0.0	52.9	58.8	10.3	27.9	1.5	2.9	0.0	10.3	2.9	1.5
40～64歳	348	64.1	35.3	1.1	7.2	17.0	1.4	4.0	0.9	0.6	0.0	15.2	1.1	0.0
65歳以上	9	44.4	77.8	0.0	0.0	11.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

問6 あなたは、普段近所の方とどの程度おつきあいをしていますか。(○印は1つ)

「あいさつをする程度のつきあい」の割合が52.5%と最も高く、次いで「立ち話をする程度のつきあい」の割合が28.7%、「ほとんどつきあいはない」の割合が15.4%となっています。

【年齢別】

年齢別にみると、年齢が上がるほど「立ち話をする程度のつきあい」の割合が高く、「ほとんどつきあいはない」の割合が低くなっています。

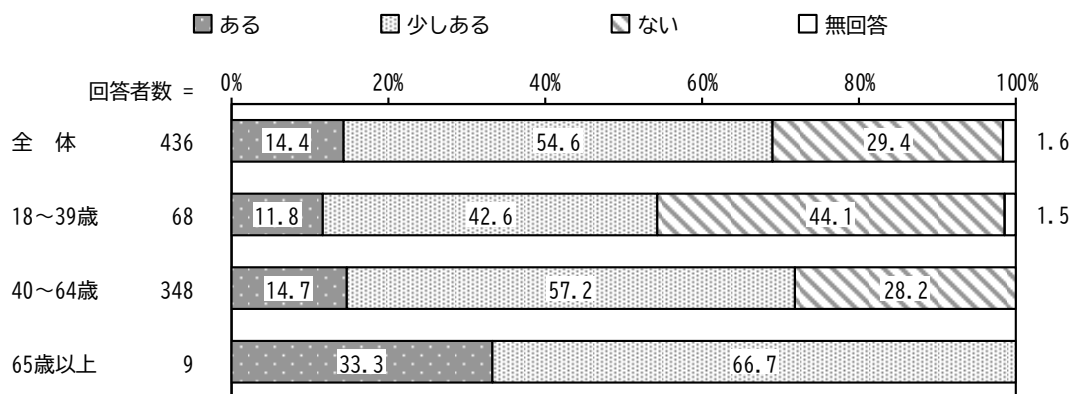


問7 あなたは、障害福祉に関心がありますか。(○印は1つ)

「ある」の割合が 14.4%、「少しある」の割合が 54.6%、「ない」の割合が 29.4%となっています。

【年齢別】

年齢別にみると、年齢が上がるほど「ある」「少しある」の割合が高く、「ない」の割合が低くなっています。



問8 あなたの身近に障害や難病等のある方がいますか。(あてはまるものすべてに○印)

「自分自身がそうである」の割合が 2.1%、「身近な方がそうである」の割合が 28.0%、「いない」の割合が 69.0%となっています。

【年齢別】

年齢別にみると、10 件以上の項目で大きな差はみられません。

単位：％

区分	回答者数 (件)	自分自身が そうである	身近な方が そうである	いない	無回答
全 体	436	2.1	28.0	69.0	2.1
18～39歳	68	2.9	26.5	73.5	0.0
40～64歳	348	2.0	28.4	69.5	0.9
65歳以上	9	0.0	22.2	77.8	0.0

問9 あなたは、障害や難病等のある方と交流がありますか。(あてはまるものすべてに○印)

「交流する機会がほとんどない」の割合が 58.5%と最も高く、次いで「家族等身近な親族にいる」の割合が 20.4%、「学校や職場の同僚として交流がある」の割合が 11.2%となっています。

【年齢別】

年齢別にみると、年齢が上がるほど「家族等身近な親族にいる」の割合が高く、「学校や職場の同僚として交流がある」の割合が低くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	家族等 身近な 親族 にいる	学校や 職場の 同僚 として 交流が ある	知人・ 友人と して交 流があ る	地域行 事など の活 動で交 流があ る	ボラン ティア 活動 で交 流があ る	交流す る機会 がほと んどな い	その他	無回 答
全 体	436	20.4	11.2	7.8	0.9	0.7	58.5	7.3	1.8
18～39歳	68	13.2	13.2	7.4	1.5	0.0	66.2	10.3	0.0
40～64歳	348	21.6	11.2	7.8	0.9	0.9	58.6	6.9	0.6
65歳以上	9	22.2	0.0	11.1	0.0	0.0	66.7	11.1	0.0

障害への理解について

問10 普段の生活の中で、困っている障害者（児）に対し「あなたができる支援」は何ですか。（あてはまるものすべてに○印）

「乗り物で席を譲る」の割合が 92.2%と最も高く、次いで「階段の昇降や道路の横断、電車・バス乗降に手を貸す」の割合が 61.9%、「車椅子を押したり持ち上げるのを手伝う」の割合が 43.6%となっています。

【年齢別】

年齢別にみると、年齢が下がるほど「様子を見に行ったり、声かけをする」「車椅子を押したり持ち上げるのを手伝う」「災害や急病などの緊急時の通報」「手話や筆談で話す」の割合が高く、「階段の昇降や道路の横断、電車・バス乗降に手を貸す」「車で送迎するなど、外出の手助けをする」「買い物を代わりにする」の割合が低くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	乗り物で席を譲る	階段の昇降や道路の横断、電車・バス乗降に手を貸す	様子を見に行ったり、声かけをする	荷物を持つ	車椅子を押したり持ち上げるのを手伝う	災害や急病などの緊急時の通報	安否確認の声かけ
全 体	436	92.2	61.9	26.4	39.0	43.6	26.6	21.3
18～39歳	68	91.2	58.8	29.4	36.8	44.1	32.4	25.0
40～64歳	348	92.5	62.9	25.9	39.1	43.1	25.6	20.4
65歳以上	9	77.8	66.7	11.1	33.3	33.3	22.2	22.2

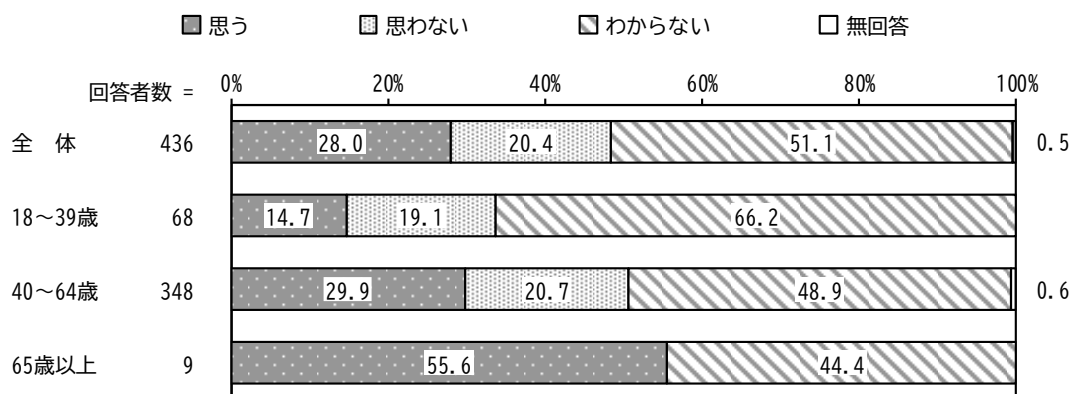
区分	訪問したり話し相手になる	手話や筆談で話す	車で送迎するなど、外出の手助けをする	食事を作ったり、掃除や洗濯を手伝う	買い物を代わりにする	特にできることがない	その他	無回答
全 体	6.7	7.6	5.7	4.8	8.7	4.4	1.1	0.2
18～39歳	4.4	10.3	4.4	2.9	5.9	7.4	0.0	0.0
40～64歳	6.9	6.9	5.7	5.2	8.9	3.4	1.4	0.3
65歳以上	0.0	0.0	11.1	0.0	11.1	22.2	0.0	0.0

問 11 お住まいの地域及び職場で、障害者（児）への理解が10年前に比べて深まっていると思いますか。（○印は1つ）

「思う」の割合が28.0%、「思わない」の割合が20.4%となっています。

【年齢別】

年齢別にみると、年齢が上がるほど「思う」の割合が高くなっています。



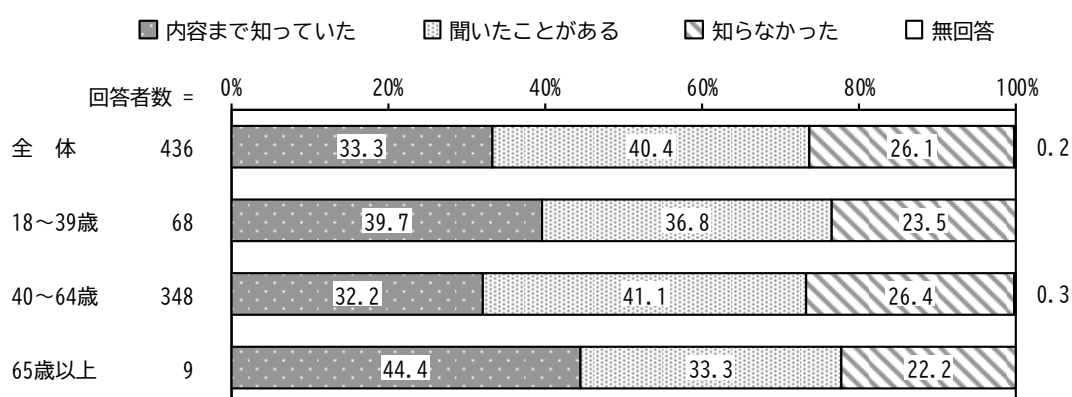
問 12 あなたは、ヘルプカード、ヘルプマークを知っていますか。（それぞれに○印は1つ）

『②ヘルプマーク』で「内容まで知っていた」が、『①ヘルプカード』で「知らなかった」が高くなっています。

①ヘルプカード

【年齢別】

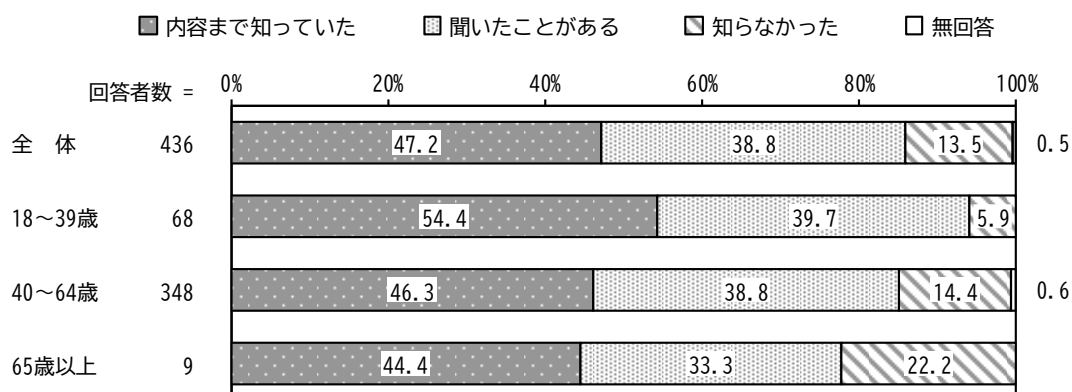
年齢別にみると、18～39歳で「内容まで知っていた」の割合が高くなっています。



②ヘルプマーク

【年齢別】

年齢別にみると、年齢が下がるほど「内容まで知っていた」「聞いたことがある」の割合が高く、「知らなかった」の割合が低くなっています。

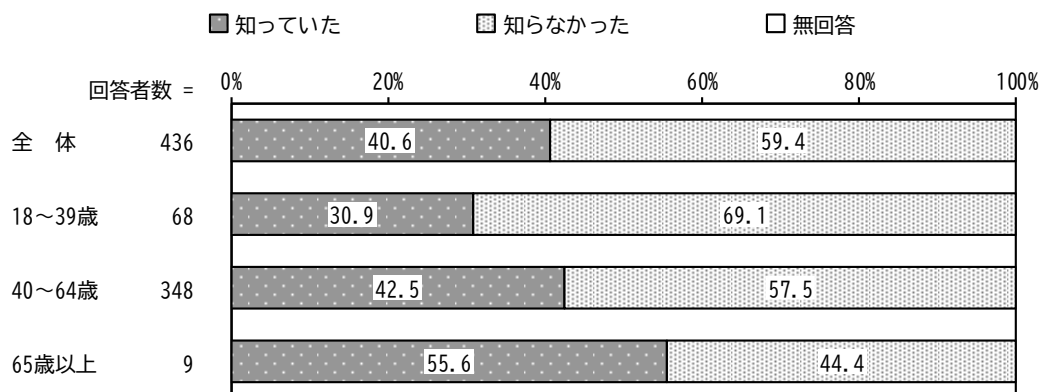


問 13 「障害者虐待防止法」により、家庭、職場及び障害者施設において障害者（児）の虐待を発見した市民には、通報義務があることを知っていましたか。（○印は1つ）

「知っていた」の割合が 40.6%、「知らなかった」の割合が 59.4%となっています。

【年齢別】

年齢別にみると、年齢が上がるほど「知っていた」の割合が高くなっています。

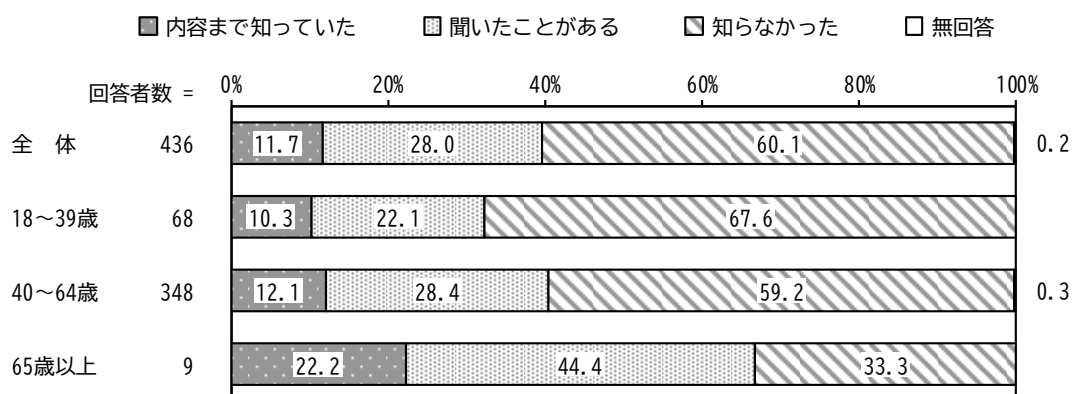


問 14 あなたは、「障害者差別解消法」について知っていましたか。(○印は1つ)

「内容まで知っていた」の割合が 11.7%、「聞いたことがある」の割合が 28.0%、「知らなかった」の割合が 60.1%となっています。

【年齢別】

年齢別にみると、年齢が上がるほど「内容まで知っていた」「聞いたことがある」の割合が高く、「知らなかった」の割合が低くなっています。

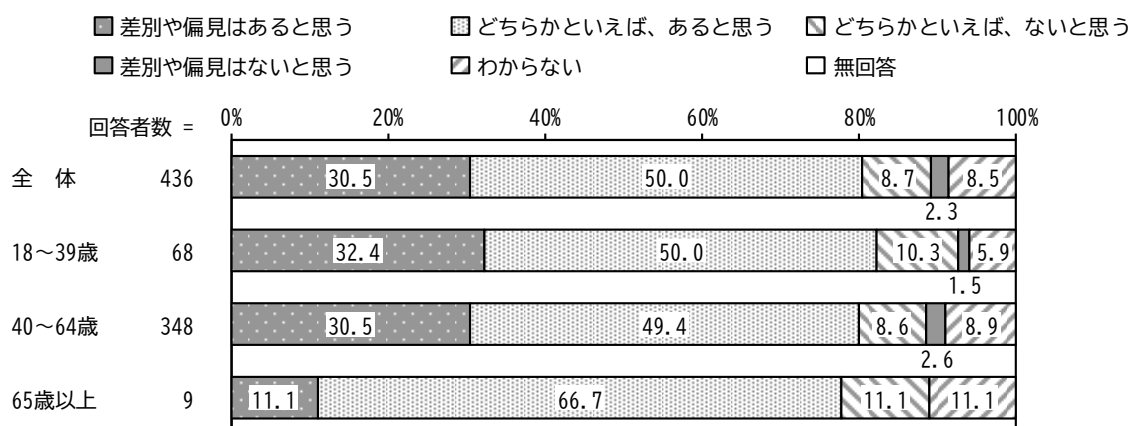


問 15 現在の社会には、障害のある人に対する差別や偏見があると思いますか。(○印は1つ)

「どちらかといえば、あると思う」の割合が 50.0%と最も高く、次いで「差別や偏見はあると思う」の割合が 30.5%となっています。

【年齢別】

年齢別にみると、年齢が下がるほど「差別や偏見はあると思う」の割合が高くなっています。



問 15 で「差別や偏見はあると思う」「どちらかといえば、あると思う」を選んだ方におたずねします。

問 15－1 障害者（児）に対する差別・偏見、または理解のなさはどのようなところにあると思いますか。具体的な内容もご記入ください。（あてはまるものすべてに○印）

「仕事」の割合が 62.1%と最も高く、次いで「建物の構造」の割合が 48.7%、「収入」の割合が 42.5%となっています。

【年齢別】

年齢別にみると、年齢が下がるほど「お店等の店員の対応や態度」「行政の対応」の割合が高く、「教育の機会」の割合が低くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	仕事	建物の構造	地域の方の 接し方 や態度	収入	交通機関	教育の機会	お店等の店員の 対応や態度	行政の対応	保育所や学校の 対応	その他	無回答
全 体	351	62.1	48.7	33.3	42.5	32.2	22.5	22.2	15.4	16.5	4.0	3.1
18～39歳	56	62.5	46.4	32.1	44.6	26.8	16.1	33.9	19.6	14.3	10.7	1.8
40～64歳	278	62.2	50.4	31.7	41.4	33.5	23.0	20.1	14.4	17.3	2.9	3.6
65歳以上	7	71.4	42.9	71.4	71.4	14.3	42.9	14.3	14.3	14.3	0.0	0.0

問 15－1 障害者（児）に対する差別・偏見、または理解のなさはどうのようなところにある
 と思いますか。具体的な内容もご記入ください。

全体で 94 件の意見がありました。

No	内容	件数
1	ハード面(バリアフリー・道路の整備等)	25 件
2	職場	21 件
3	差別的な接し方	12 件
4	理解	11 件
5	学校・教育・子供	8 件
6	接し方・状況がわからない	5 件
7	駅や電車・バス	5 件
8	外出先	2 件
9	その他	5 件

ハード面(バリアフリー・道路の整備等)

バリアフリーではないところも多い
全てがバリアフリーでは無いと思う
車椅子利用の際に出入口の幅が狭すぎス場合がある。又、方向転換のためのスペース不足。ゆとりあるスペースが必要
バリアフリーのところが少ない
エレベーターのない建物
段差が多かったり、その段差を埋めるようなスロープ（簡易なものでも）にできるような板の準備がない、など
車いすで行動できない所がある
古い建造物は昔のままで段差が多い
EV の設置が少ない
道も含め、段差が多い。点字ブロックも壊れている所が多い
段差が多い
古い建物は、おいついていないよね
バリアフリー、エスカレーターエレベーターなどの施設利用の優先度
歩道の整備がされてなく、車イスなどの通行がむずかしい場所が多い
バリアフリーも不十分
バリアフリーと言っても、まだまだ段差がある場所がある
道路や公共の建物でも一部まだ対応できていない所は多い
道路の段差（バリアフリー）
病院でのマイナンバーカードでの顔認証が車椅子の人にはできない高さになっている
お店や学校が全てバリアフリーというわけではない。そのため限られた場所しか使用できない

お店で、棚の高い所に商品があると、「取りましょうか？」と声がけしたいが、余計なお世話かなと思ってしまう
未だ、バリアフリーが整った建物が多いとは言えない
歩道がガタガタ、狭い、段差がある
バリアフリーの考え方、段差がなければバリアフリーだと思っている(HP にかいてある)店、人が多いが、車イスで入れるトイレ、移動するのに十分な広さがある通路、のりおりしやすい駐車スペースなど全てそろってバリアフリーだと思う
バリアフリーも増えてきていますが場所によっては階段しかなかったり

職場

障害者の工賃が低い。A 型事業所の不正。法定雇用率を守らない企業がある
障害者雇用をしている職種が少ないように感じます
求職活動、採用において障害のある方ない方では大きな差が出てくると考える
低賃金で働いてもらえると思ってる人がいる
障害の有る方を採用する企業は少ないと思う
一般企業等に就職できている人は、ある程度の収入が得られているかも知れないが、就労支援施設に従事している人などは単身、自力生活するだけの収入は得られていないように感じる
障害を持った方の働き場所はまだまだ少いのでは
重度の障害者は就業の機会が限られている
働く機会や選択肢に制約が生じやすい
自分の収入だけで生活できるような仕事に就くことが難しい
仕事の機会が限られている
会社に採用されても仕事と呼べるような内容の業務を任せられず、本人は勤労意欲を失い退職を招く結果になりやすい。障害者雇用とは名ばかりの企業が多いと感じている
経済的にフルタイムで働きたいが、障がいのためむずかしく、希望する時間で働く場がない、断られたと当事者の兄から聞いた
障害者採用で就職した者は人数カウントされないためかある程度仕事ができても低収入（実際に知っている人）
そもそも、賃金の差がある
仕事も限られる為、収入も不十分だと思われる
収入面では健常者との差はある
収入においても厳しい状況であると感じます
体の障害によりつけない仕事がある。がこれは差別ではなく区別であるのでしかたがないと思う
健常に比べて収入がとても低いなと感じてしまう
就業出来ても賃金格差があるように思う

差別的な接し方

見てみないふりする人の多さ。嫌だという態度など
身体障害は分かりやすいが、内部疾患による障害がある方は、理解を得づらく、差別や偏見につながると思います
見た目には障害者とわかりづらい人には差別的な態度で接する方が多くいると思う（人より動作が遅かったりなど）
所詮他人、かかわりたくない。見て見ぬふり、ちょっとこわい・・・的な目で見える社会
接客業についており、同僚等から誤解されている場面を感じることもある。お客さんとして気に入って来て頂いているのに、何もしていないのに、嫌われてしまっているなど
態度（めんどくさそう）
障害者を見る目が違うように見えた
あまり関わらないようにしてしまう空気感があると感じる
あまり立ち入ってはいけないのかなとかかわらないようにしているかも
障害のある方がいても、身体的な方はお手伝いしますが精神的な方は攻撃的な方がいるので見て見ぬふりをしてしまう
障害者に対する他者の視線も、良いものとは決して言えない
ヘルプマークを持っても、無関心の人がいる

理解

精神障がい者への理解は進んでいない
誰もが自分の生活が忙しく他人への関心をする余裕がない
かかわる機会自体が少ないので、“理解する”ということがそもそも難しいと感じる
障害を正しく理解し、どういった助けが必要か知る機会があまりなく、よく分からない部分が多いと思います
障害への理解不足から勝手な主観が先行していて出来るだけ関わらない方を選ぶ人がどこにいても多いと感じます
知識不足による偏った印象
身体と精神の違い
障害者と健常者が交流することが、そもそも少なく、どう接するのが良いか学ぶ機会がない
うつなどの気分障害への理解が難しいのかなと思う（ネガティブなイメージが強いので、風邪のように気軽に病院に行っていいたとか、家族や本人が気軽に相談ができる場所があればよいと思う）
人それぞれ考え方がちがうので接し方や態度を強制することが難しいと思う
手や足などにみえる障害（先天性や事故で ex. 片方なかったりなど）は、周囲からもフォローが必要など見て、分かることだけど、発達障害 ADHD・ASD などは、みためではふつうの人と同じだから、理解されにくい現実はあると思う

学校・教育・子供

小学生の段階から別学となっていることから、小さいころから、身近にいない存在となるため
施設対応等にした方がよいケースもある
特に子供時代に接することがあれば大人になっても、理解が得られるのではないか
子供の時からの対応や話し合い等する
学校等で特別支援を受ける申請が煩雑で時間がかかる
どうしても、ADHD と分かっていたとしても保育現場などでは、手がかかってあたりまえなのに、周りの環境でそのようにフォローが必要であることが見えにくくなってしまふことがある
教育でも対応出来ず、同じ環境で学べない
教育に関しては支援級や支援学校など増えるといいなと思う

接し方・状況がわからない

障害のある人への、接し方がわからない人が多いのだと思う
障害とひとくくりにできない。行動や発声が奇をてらうように思えるところもあり、対処法がわからないことにおそれを感じてしまうところかと思う
差別しているというよりは無関心な人が多いと思う。どのように接したらいいのかわからない
どのように対応していいのかわからない為、ご本人に接する時に困っている
差別か区別かわかりませんが、条件がちがうことはあると思う

駅や電車・バス

バスや電車で若い方はスマホをみていてお年寄りや障害の方が乗ってきても気がつかない
バスの乗り降り。歩道との距離が中途半端で車道に降りてから乗り降りするか大股で歩道から乗り降りしないとだめ。運転手は見ているのに一向に対策されないのは、差別、偏見、理解されていないと同じ。
車イスでの移動が困難である（建物も交通機関も）
車イスの方がバスなどを利用する時など、運転士の方が1人で対応するのは難しそう
電車の優先席にどっかり座って眠る。障がい者に席を譲る意志が全くない

外出先

盲導犬を拒絶する店がある事
障害を理由に、あきらめざるを得ない、行きたい所に行けないことがある

その他

昔に比べれば差別、偏見は解消されつつあるが、人的問題や費用面でコストがかかるため表面的な対応画一的な対応になってしまい、当事者（障害者・児）は不利益を被ることがある
この項目が当てはまるとかではなく、なんとなく肌感でそのようなものを感じる。なんとなくという理由です
無意識的な感じ
無意識的なレベルで何かしらあると思います
なんとなく感じる

問 16 あなたは、障害のある方もない方も共に住み慣れた地域で生活できるように地域の理解を進めていくためには、どのようなことが必要だと思いますか。（○印は3つまで）

「学校でのインクルーシブ教育や障害に関する教育の推進」の割合が 56.2%と最も高く、次いで「障害者の一般企業への就労の促進」の割合が 36.2%、「地域行事への障害者（児）の参加を促進するなど、地域住民等との交流の場を増やす」の割合が 34.4%となっています。

【年齢別】

年齢別にみると、年齢が下がるほど「障害についての正しい知識の普及啓発のための講演会等の開催」「障害者作品展や障害者（児）と交流するイベントの開催」の割合が高く、「地域行事への障害者（児）の参加を促進するなど、地域住民等との交流の場を増やす」の割合が低くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	地域行事への障害者 (児)の参加を促進す るなど、地域住民等と の交流の場を増やす	学校でのインクルー シブ教育や障害に関 する教育の推進	障害についての正し い知識の普及啓発の ための講演会等の開 催	障害者作品展や障害 者(児)と交流するイ ベントの開催
全 体	436	34.4	56.2	28.2	15.6
18～39歳	68	23.5	58.8	32.4	19.1
40～64歳	348	35.1	56.3	27.6	15.2
65歳以上	9	88.9	55.6	22.2	11.1

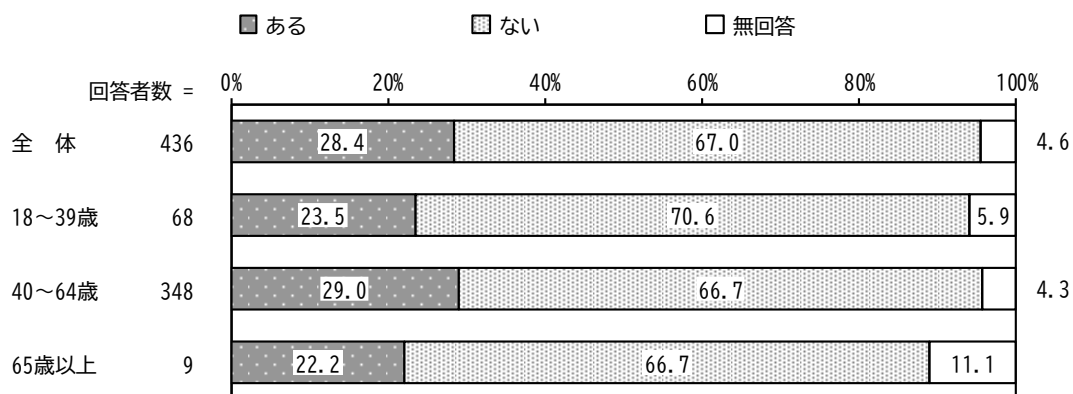
区分	障害者(児)の生活や 障害についての正し い知識等を伝えるリ フレットの発行	障害者の一般企業へ の就労の促進	特にな い	そ の 他	無 回 答
全 体	22.7	36.2	5.0	2.5	3.4
18～39歳	23.5	33.8	2.9	1.5	2.9
40～64歳	23.3	37.4	5.2	2.9	3.2
65歳以上	22.2	22.2	0.0	0.0	11.1

問 17 あなたは、障害のある方の介助（支援）をしたことがありますか。（○印は1つ）「ある」と回答した方は、支援した内容を枠内にご記入ください。

「ある」の割合が 28.4%、「ない」の割合が 67.0%となっています。

【年齢別】

年齢別にみると、40～64 歳で「ある」の割合が高くなっています。



問 17 あなたは、障害のある方の介助（支援）をしたことがありますか。（○印は1つ）「ある」と回答した方は、支援した内容を枠内にご記入ください。

全体で 77 件の意見がありました。

No	内容	件数
1	車いすの介助	19 件
2	仕事・実習で	15 件
3	目が見えない方	12 件
4	生活全般	11 件
5	家族の介助	6 件
6	外出移動支援	3 件
7	声掛け	3 件
8	譲る(電車内で座席を譲る等)	2 件
9	電車やエレベーターの乗り降り	2 件
10	ボランティア	1 件
11	その他手助け	1 件
12	その他	2 件

車いすの介助

患者様の介助 歯科医院の為、待合室に上がる時の車椅子の際の介助、診療室に入る時の介助
車イスを押してあげたり、移動を手助けした
車いすを押す、歩行補助
声かけや車イスのお手伝い等
車イスの移動に困った方の介助
車椅子が道路の段差にひっかかり持ち上げた事があります
車イスの介助 周りの目が気になることがある スペースや段差など移動に困ることがある。多目的トイレがなくとても困ることが多い
車イスを押してあげた事がある（同内容ほか 1 件）
車いすを押した（坂になっているところで）
車いすの方の歩行の出助け（同内容ほか 1 件）
車いすの方の段差を超える手伝い
車いすの介助（同内容ほか 2 件）
車いす移乗や移動の介助
段差のない坂を通る車いすの方が居たので声かけをしてお手伝いした。歩道に自転車が真中に置いてあって車いすの方が通れないので自転車を動かした
車イスを利用している方の乗り物の降りる時の手伝い・車イスを利用している方が荷物を落としたり、くつがぬげてしまったりした時に手伝い

仕事・実習で

身体に障害のある方、精神に障害のある方それぞれお互い理解を深めながら協力し合いながら一緒に仕事（事務系）をした事がある
障害児施設に 27 年間勤務していました
仕事が保育園のため、実際に障害を持った子ども達と接してきている。その家族ともかかわっている
一般就労のお手伝い
障害者施設にて支援スタッフとして就労していた。主に衣・食・住の介助、外出支援など
医療機関に勤めているのでほぼ毎日関わっています
児童助員の経験あり。学校生活での個々に対応した支援
仕事で
保育園（職場）で年長児の担任をした時に、就学に向けて、小学校への連絡会での引き継ぎ、や保護者へ就学支援シートの記入を進めることや、市の発達子育て支援に相談できる所があることを伝え、進める
知的障害のある生徒を教育する仕事をしている
仕事の相談
仕事で児童発達支援の児童指導員をしています
仕事が介護支援
仕事内ですが、精神疾患の方や、高齢者の方への介助
同じ職場で働いていた時、作業中は見守り声をかけない（見守る）

目が見えない方

目の不自由な方への道案内・誘導
目の不自由な方に声をかけ、共に歩いた
視覚障害のある方に「そちら行き止まりです」というような声が
コンビニで働いているので目の見えないお客様の買い物のお手伝い
目の不自由な方へ・駅ホームで乗る位置を声かけ（ホーム先まで行きそうだったので）
駅（ホームドアの無い駅）のホームで視力に問題のある方（白いつえ利用者）の立ち位置の修正
目の不自由な方を道案内し連れて行く
視覚障害の方の介助
視覚障害者の外出援助
目の見えない方の誘導
駅へ向う途中、白杖の方へ声をかけ、サポートが必要か確認してから手を貸して改札口まで案内した。本人が周囲に助けを求めていたが誰も手を貸さず素通りする状況だった
目の不自由な方の乗り物への案内や手伝いなど

生活全般

仕事で障害者の方（児童）の支援をしている。車イスの子のトイレ介助や外出で一緒に散歩をしたり、または仕事で関わる人が多いので療育面が多い
生活の手伝い
病院へのつきそい
生活支援をしている
日常生活の補助、家事、送迎
通院同行し医師に症状を伝える。書類の代筆
父(故人)の食事時の補助、ベットから車椅子への移動、車椅子補助など(脳梗塞による右半身不随)
ストマ交換
車イス移動、入浴介助、外出介助
食事を買って自宅まで運んだりしました
自立障害者の居宅で、食事、排せつ介護、車いすでの外出援助

家族の介助

父の介助
母の介護
弟が自閉症（重度）である為、介護経験は幼い頃からあります
兄が障害者だったので生活の一部で父母が介助していたのをお手伝いしてました
家族に障害者がいるので
親が難病の為、介護をしている(他市で生活している為通い)

外出移動支援

通学、通勤のサポート
視覚障害者の移動支援
毎週日曜日、キリスト教会へ視覚障害者の送迎をしている

声掛け

バスの降りるところがわからなくなっていた人に声をかけて目的の施設に連絡して向かえにきてもらった
バスに乗る時前の方が目の見えない方だったので乗車の際に声かけをした
信号が無い横断歩道で、白い杖の人が居たので、「大丈夫です。渡れます」と声かけをした

譲る(電車内で座席を譲る等)

電車内で盲導犬をつれた人が乗車してきた際、席を譲った
席をゆずった

電車やエレベーターの乗り降り

目の不自由な方へ電車乗車時声かけ誘導

ボランティア

キリスト教会(市外)で発達障害児の放課後支援をしている

その他手助け

銀行の ATM で耳の不自由な方のトラブルに筆談で内容を確認、ATM の Tel で銀行へ連絡した

その他

ホームヘルパー資格取得研修時

筆談で会話

問 18 災害時、身近な方や地域に向けて「あなたができる支援」は何ですか。（あてはまるものすべてに○印）

「安否確認・声かけ」の割合が 68.1%と最も高く、次いで「安全な場所への避難誘導」の割合が 53.4%、「家族への連絡」の割合が 39.4%となっています。

【年齢別】

年齢別にみると、年齢が下がるほど「安否確認・声かけ」「家族への連絡」「情報提供」「相談・話し相手」の割合が高く、「協力（支援）は困難」の割合が低くなっています。また、18～39 歳で「安全な場所への避難誘導」の割合が高くなっています。

単位：％

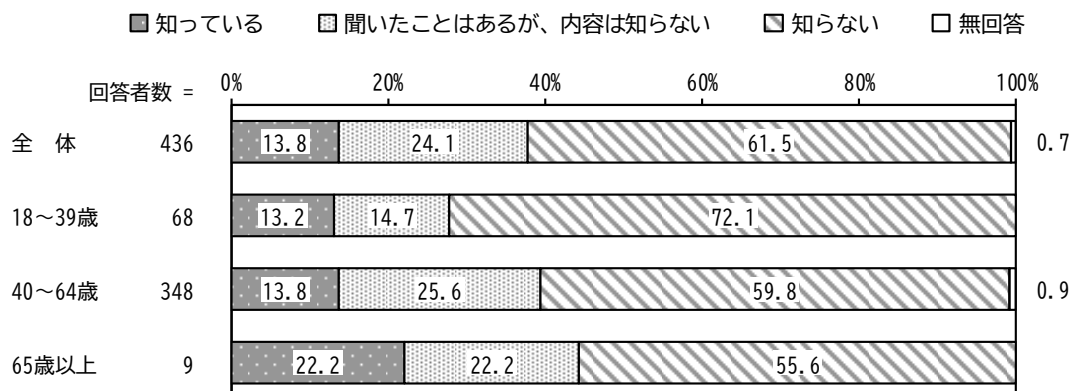
区分	回答者数 (件)	安 否 確 認 ・ 声 か け	家 族 へ の 連 絡	安 全 な 場 所 へ の 避 難 誘 導	応 急 手 当	情 報 提 供	相 談 ・ 話 し 相 手	協 力 (支 援) は 困 難	わ か ら な い	そ の 他	無 回 答
全 体	436	68.1	39.4	53.4	18.3	38.3	28.0	2.5	11.9	0.5	0.9
18～39歳	68	75.0	51.5	64.7	25.0	48.5	32.4	1.5	8.8	0.0	0.0
40～64歳	348	67.0	37.4	51.4	17.2	37.1	26.7	2.6	11.8	0.6	1.1
65歳以上	9	66.7	33.3	66.7	22.2	22.2	22.2	11.1	22.2	0.0	0.0

問 19 令和 3 年に障害者差別解消法が改正され、令和 6 年から事業者等による障害のある方への「合理的配慮の提供」が義務化されました。「合理的配慮の提供」とは、障害のある方から社会の中にある障壁を取り除くための何らかの配慮を求める意思表示があったときに、負担が重すぎない範囲で対応することです。あなたは、合理的配慮の提供について知っていますか。（○印は 1 つ）

「知っている」の割合が 13.8%、「聞いたことはあるが、内容は知らない」の割合が 24.1%、「知らない」の割合が 61.5%となっています。

【年齢別】

年齢別にみると、年齢が上がるほど「知っている」の割合が高く、「知らない」の割合が低くなっています。

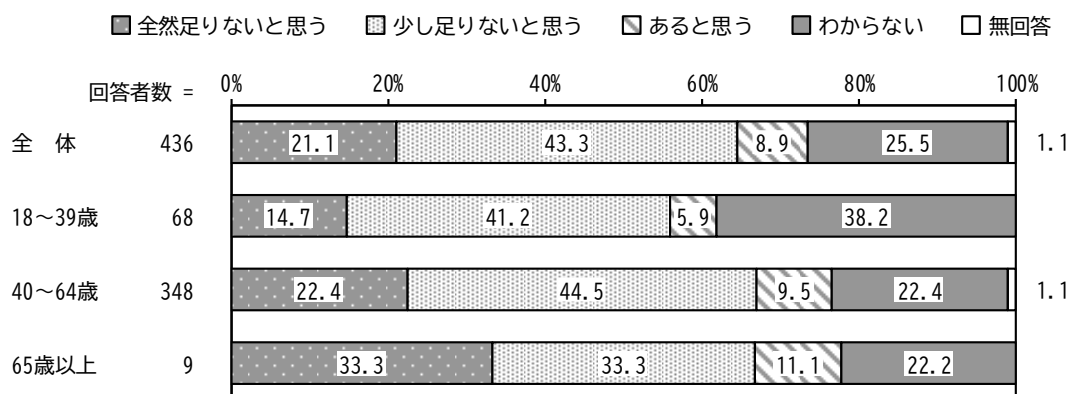


問 20 あなたは、社会には障害のある方への対応や理解が十分にあると感じますか。(○印は1つ)

「全然足りないと思う」の割合が 21.1%、「少し足りないと思う」の割合が 43.3%、「あると思う」の割合が 8.9%となっています。

【年齢別】

年齢別にみると、年齢が上がるほど「全然足りないと思う」「あると思う」の割合が高くなっています。



問 20 で「全然足りないと思う」「少し足りないと思う」を選んだ方におたずねします。

問 20-1 それはどんな場合ですか。(あてはまるものすべてに○印)

「仕事や収入」の割合が 68.0%と最も高く、次いで「交通機関や建築物の配慮」の割合が 57.3%、「街なかでの人の視線」の割合が 41.6%となっています。

【年齢別】

年齢別にみると、年齢が上がるほど「教育の機会」「地域の行事や集まり」「医者にかかりにくいこと」「交通機関や建築物の配慮」の割合が高く、「街なかでの人の視線」「行政の対応」の割合が低くなっています。また、18～39 歳で「店員の対応や態度」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	教育の機会	仕事や収入	近所づきあい	地域の行事や集まり	店員の対応や態度	医者にかかりにくいこと	交通機関や建築物の配慮	街なかでの人の視線	行政の対応	その他	無回答
全 体	281	37.7	68.0	22.1	15.3	25.3	11.0	57.3	41.6	18.5	2.5	1.1
18～39歳	38	34.2	68.4	23.7	10.5	36.8	10.5	55.3	55.3	21.1	2.6	0.0
40～64歳	233	37.3	68.2	21.0	15.9	23.2	10.7	56.7	39.9	18.0	2.6	1.3
65歳以上	6	50.0	66.7	33.3	33.3	33.3	33.3	66.7	33.3	16.7	0.0	0.0

東久留米市の障害福祉施策について

問 21 障害福祉に関する情報は、主にどこから得ていますか。(○印は3つまで)

「市や社会福祉協議会等の広報紙」の割合が 25.5%と最も高く、次いで「今は必要がないので、得ていない」の割合が 25.0%、「テレビやラジオ」の割合が 19.3%となっています。

【年齢別】

年齢別にみると、年齢が上がるほど「市や社会福祉協議会等の広報紙」「声の広報」「テレビやラジオ」「新聞・雑誌」「市や都の窓口」の割合が高く、「今は必要がないので、得ていない」「情報は得られていない」の割合が低くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	今は必要がない ので、得ていない	市や社会福祉協議 会等の広報紙	声の広報	テレビやラジオ	新聞・雑誌	インターネット、S NS	障害者団体	民生委員・児童委 員、身体・知的障害 者相談員
全 体	436	25.0	25.5	1.4	19.3	13.1	18.8	0.9	0.9
18～39歳	68	29.4	10.3	0.0	10.3	1.5	16.2	1.5	0.0
40～64歳	348	25.0	28.2	1.4	20.7	14.9	19.5	0.6	1.1
65歳以上	9	0.0	33.3	11.1	22.2	33.3	11.1	11.1	0.0

区分	ホームヘルパー	家族・親戚	友人・知人	医療機関	市や都の窓口	障害者の福祉施設	情報は得られてい ない	その他	無回答
全 体	0.2	6.4	7.3	4.6	2.8	3.7	15.1	2.3	3.4
18～39歳	0.0	8.8	8.8	2.9	1.5	4.4	27.9	1.5	0.0
40～64歳	0.3	5.7	7.2	5.2	2.3	2.9	12.9	2.0	4.0
65歳以上	0.0	0.0	11.1	0.0	22.2	33.3	11.1	0.0	0.0

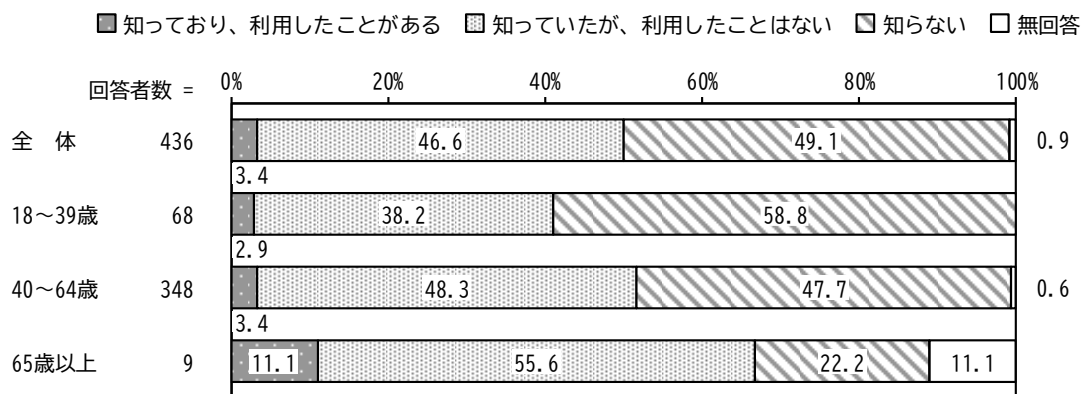
問 22 次の障害者（児）に関する市の相談窓口を知っていますか。また、それらを利用したことはありますか。（①～⑩までそれぞれに○印は1つ）

『④市役所内ワークコーナー（ハローワーク窓口）』で「知っており、利用したことがある」が、『①さいわい福祉センター』で「知っていたが、利用したことはない」が、『⑩当事者団体等によるピアカウンセリング等』で「知らない」が高くなっています。

①さいわい福祉センター

【年齢別】

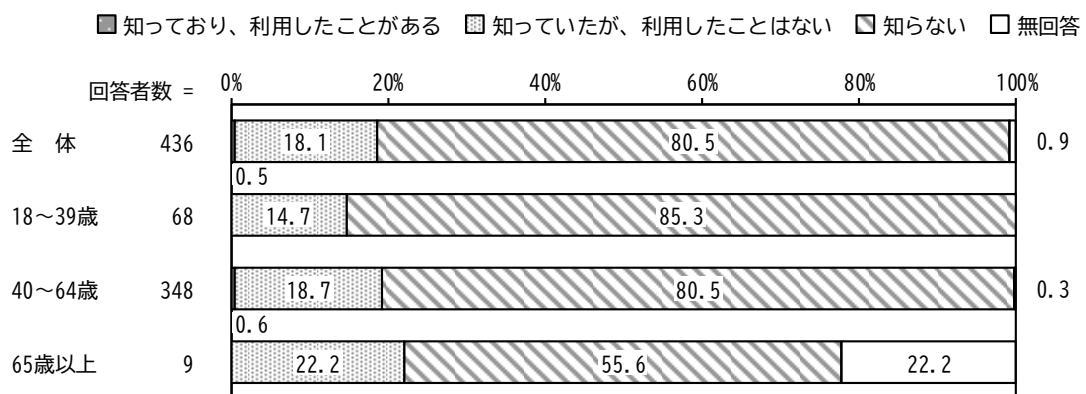
年齢別にみると、年齢が上がるほど「知っており、利用したことがある」「知っていたが、利用したことはない」の割合が高く、「知らない」の割合が低くなっています。



②地域生活支援センターめくるくまーる

【年齢別】

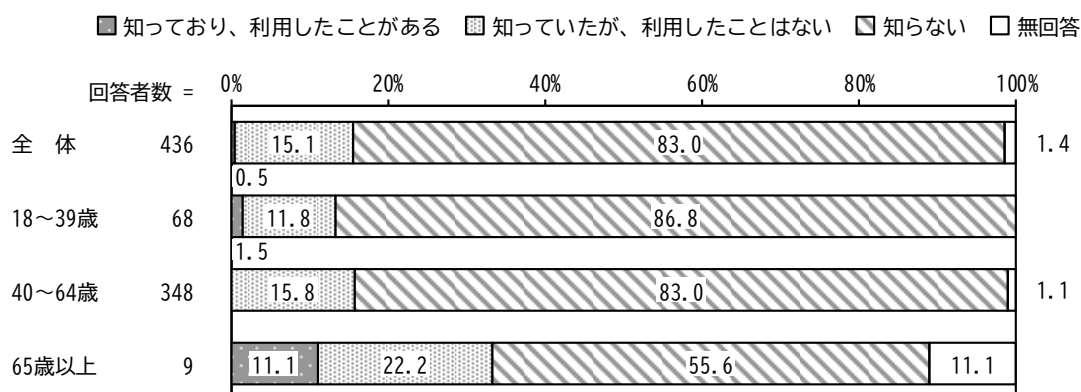
年齢別にみると、年齢が上がるほど「知っていたが、利用したことはない」の割合が高く、「知らない」の割合が低くなっています。



③障害者就労支援室「さいわい」「あおぞら」

【年齢別】

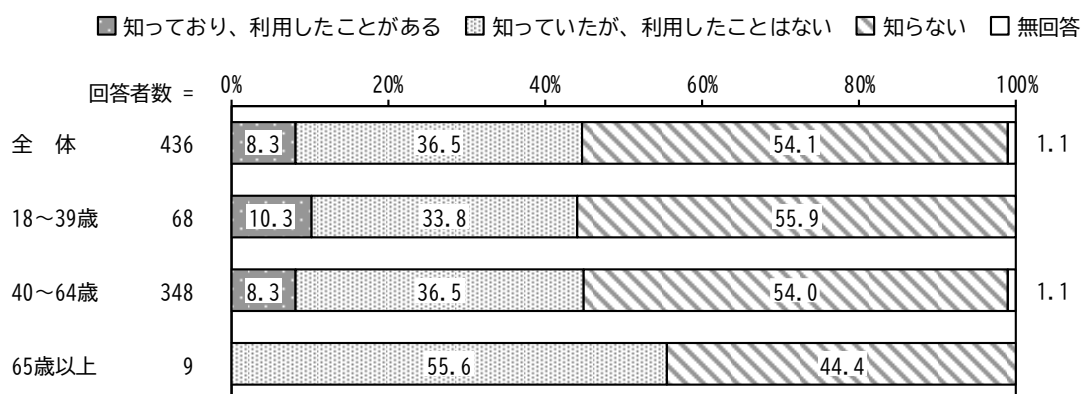
年齢別にみると、年齢が上がるほど「知っていたが、利用したことはない」の割合が高く、「知らない」の割合が低くなっています。



④市役所内ワークコーナー（ハローワーク窓口）

【年齢別】

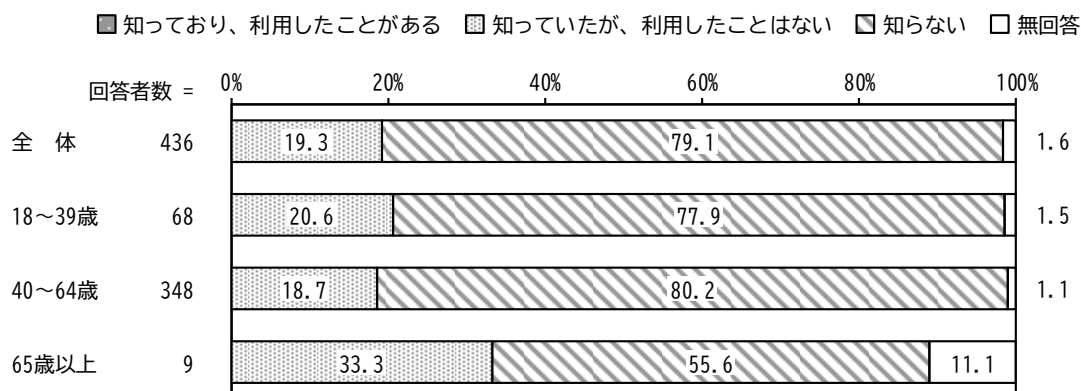
年齢別にみると、年齢が下がるほど「知っており、利用したことがある」「知らない」の割合が高く、「知っていたが、利用したことはない」の割合が低くなっています。



⑤障害者虐待防止センター（市障害福祉課）

【年齢別】

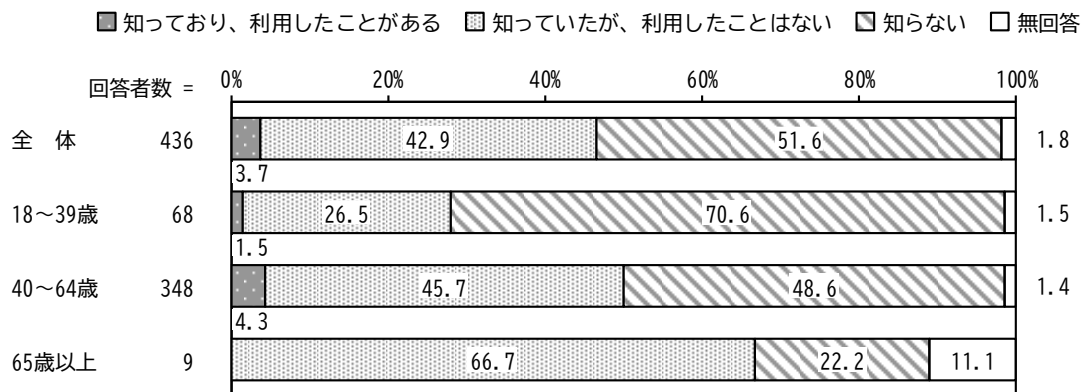
年齢別にみると、10件以上の項目で大きな差はみられません。



⑥社会福祉協議会

【年齢別】

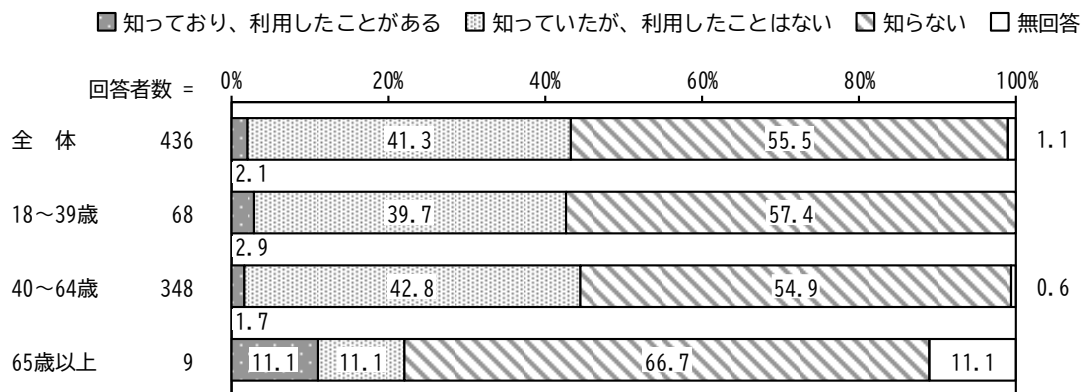
年齢別にみると、年齢が上がるほど「知っていたが、利用したことはない」の割合が高く、「知らない」の割合が低くなっています。



⑦児童発達支援センターわかさ学園（児童）

【年齢別】

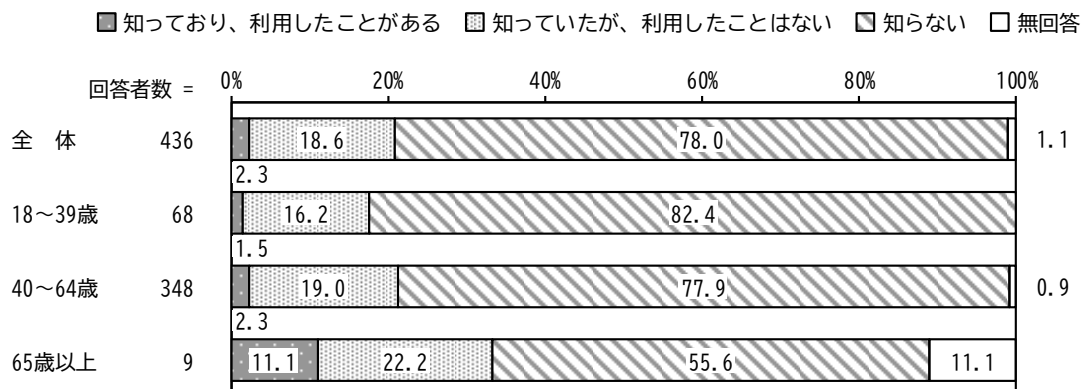
年齢別にみると、10 件以上の項目で大きな差はみられません。



⑧教育センター（児童）

【年齢別】

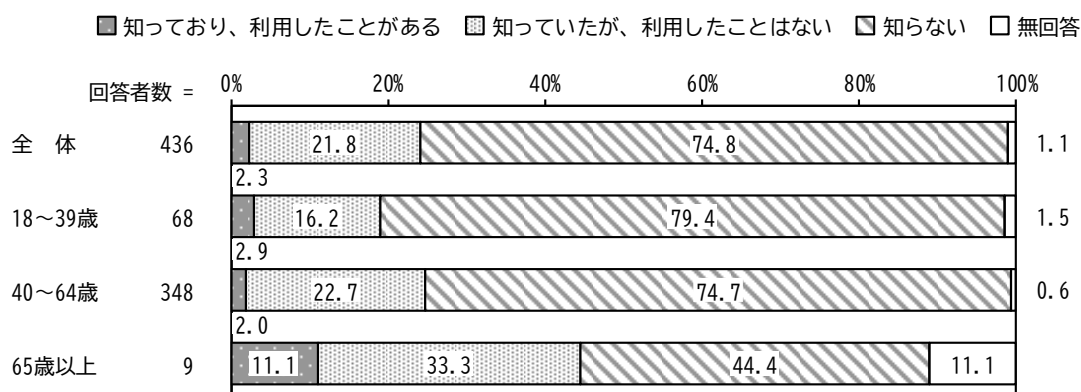
年齢別にみると、年齢が上がるほど「知っており、利用したことがある」「知っていたが、利用したことはない」の割合が高く、「知らない」の割合が低くなっています。



⑨滝山教育相談室（児童）

【年齢別】

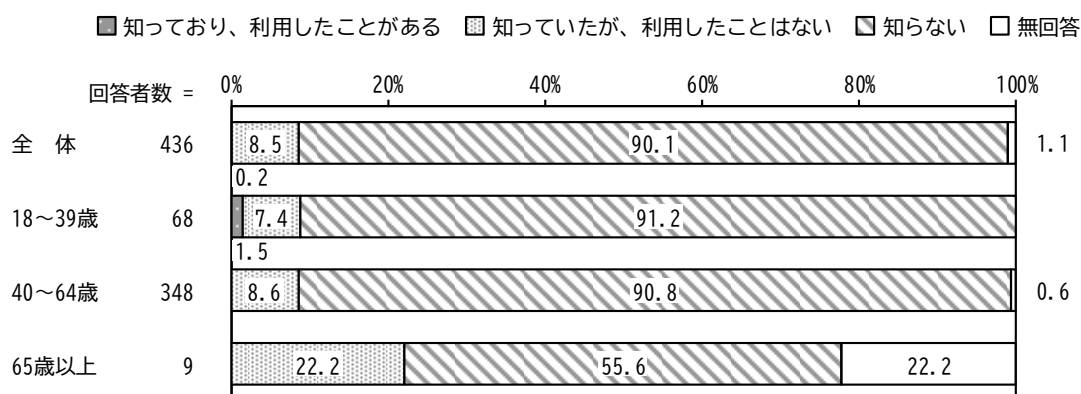
年齢別にみると、年齢が上がるほど「知っていたが、利用したことはない」の割合が高く、「知らない」の割合が低くなっています。



⑩当事者団体等によるピアカウンセリング等

【年齢別】

年齢別にみると、年齢が上がるほど「知っていたが、利用したことはない」の割合が高く、「知らない」の割合が低くなっています。



問 23 今後、市行政で重点的に取り組むべきと思う障害福祉施策は何ですか。(○印は3つまで)

「障害者の就労支援の充実」の割合が 33.7%と最も高く、次いで「児童の発達相談を切れ目なく受けられる体制づくり」の割合が 30.5%、「バリアフリーのまちづくり」の割合が 28.0%となっています。

【年齢別】

年齢別にみると、年齢が上がるほど「成人期の余暇活動の場づくり」「障害者の就労支援の充実」「重度の障害者(児)の日中活動の充実と場所の確保」「グループホームの施設整備」「相談支援体制の強化」の割合が高く、「障害者(児)への虐待の予防・権利擁護」「障害児保育の充実等による親の就労支援」「障害特性に応じた情報提供」の割合が低くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	児童の発達相談を切れ目なく受けられる体制づくり	特別支援教育の充実	教育と福祉の連携を強めること	障害児の放課後や余暇活動の充実	成人期の余暇活動の場づくり	障害者(児)への虐待の予防・権利擁護	障害者の就労支援の充実	障害児保育の充実等による親の就労支援	就労系事業所の定員の拡大	重度の障害者(児)の日中活動の充実と場所の確保
全 体	436	30.5	16.5	19.5	7.1	6.2	12.2	33.7	12.2	7.3	9.2
18～39歳	68	35.3	16.2	19.1	8.8	5.9	13.2	23.5	17.6	10.3	5.9
40～64歳	348	28.4	16.1	19.3	7.2	6.0	12.1	35.9	11.5	6.9	8.9
65歳以上	9	77.8	44.4	22.2	0.0	11.1	0.0	44.4	0.0	11.1	22.2

区分	在宅でも医療を受けられる体制づくり	グループホームの施設整備	バリアフリーのまちづくり	障害特性に応じた情報提供	相談支援体制の強化	障害者(児)への理解を深めるための講習やイベント	研修等による支援者やボランティアの育成	災害時の支援	その他	無回答
全 体	11.9	13.8	28.0	6.9	9.4	5.3	6.2	12.6	1.1	5.7
18～39歳	7.4	10.3	22.1	11.8	5.9	5.9	2.9	10.3	0.0	11.8
40～64歳	12.9	14.4	29.3	6.3	10.1	5.5	7.2	13.2	1.1	4.9
65歳以上	0.0	22.2	11.1	0.0	11.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

東久留米市の障害福祉施策について、ご意見やご要望などがありましたら、自由にご記入ください。

全体で 47 件の意見がありました。

No	内容	件数
1	市政全般	17 件
2	心のバリアフリー・インクルーシブ教育	7 件
3	障害の多様化に応じた相談支援体制の充実	5 件
4	公共施設等バリアフリー化の促進	3 件
5	就労支援の充実と地域での仕事の開拓	3 件
6	特別支援教育の充実	2 件
7	情報アクセシビリティの向上	2 件
8	経済的支援の実施	2 件
9	アンケートについて	2 件
10	生涯学習活動への支援と余暇活動の充実	1 件
11	地域ぐるみの協力体制の構築	1 件
12	医療・健康づくり	1 件
13	その他	1 件

市政全般

親の会活動が行政に働きかけ、整ってきた事が沢山あります。是非、現場の声に対応する市であり続けて欲しいです
この世の中の全ての人が平等で暮らせるようにして欲しい。小さい市からで良いと思うので、その輪が広がっていくと良いと思います
障害福祉施策に限らず、どんな施策にも言えることですが、市にお金がないと全ての施策は理想にとどまってしまう。まずは市民が暮らしやすい町づくりを目指し、人口を増やしたり、ふるさと納税を充実させる等ことで収入源を増やす施策を考えてほしいです。また、東久留米市が障害・福祉に積極的であるイメージがありません。例えば東久留米市（民）専用のアプリを作成する等して、市民に対する情報の強化を要請します、そうすれば1つのアプリにあらゆる情報が集約して、意見も活発になるのではないのでしょうか。
すでに独立しておりますが、幼い頃はさいわい、わかくさその他東久留米にあるありとあらゆる支援に助けられ、母や父との時間を私はすごすことができました。本人だけでなく姉である私は大変助けられておりました。育ててもらいました。支援やサービスに不満はなく、大人になれています。幸せに育ったと思います。私本人が直接お世話になることはなさそうですが私には税金を払う意味が実感できています。ありがとうございました。より良く、なるといいなと思います
今後もしようをお願いします
福祉施策にも限界があることを理解してもらわないと、お金がいくらあっても足りなくなる
がんばってください
わかくさ学園で働いている母親がおります。話を聞く限り、福祉従事者の待遇や給与制度の構造に問題があると感じております

障害福祉ももちろん大切だとは思いますが、東久留米市はもう少し高齢者向けサービスを増やした方が良いと思います。クルブーは有料、コミュニティバスも無い。無料の見守り配食なども無い為、これではお金を持っていないと東久留米では高齢者の生活は出来ません。元気なシニアがもっと活動しやすくしてほしいです。※障害を持っている方が近くに居ないと、大変さは全く理解できないと思います
いろいろなサービスが市にお金がない、という理由でどんどん縮小になっている。財政がきびしい中でも必要なサービスに制限されることは絶対さけるべき。障害のある本人にとっても家族にとっても東久留米市に住むことを拒否されるように感じる
予算を確保し、福祉政策の充実に努めて下さい
今のところ福祉サービスを利用していないので、市内の現状はわかりませんが、たとえ社会参加が困難な状態になったとしても、基本的な日常生活だけは今の住み慣れた地域で維持できていると思っています。行政に対しての要望としては、あまり価値観の多様性や外部の評価に振り回されず、東久留米に必要なサービスが必要な住民にだけ適切に提供していけるようしっかり見極めていただければ、と思います。ご苦労様です
福祉に積極的に取組む「市」として、実態とともに認知されるようになるとうよいと思っています。とはいえ、個人個人ができることは限られます。少なくとも、常に意識を向けることを心がけていきたいと思います。ひとりひとりの意識を高めていくことが大切です
障害のある人（大人）の母親から「自分の息子とあなた（私のこと）は同じ年ぐらい。自分は死ぬまで息子を助けてくらしている。自分が死ぬと息子はどう生活していくか不安で仕方ない」と言われました。そのような不安をなくしていけるように区役所や市役所ががんばって欲しい。個々の家庭では限度あるのではないか。経済にゆとりある家ばかりではないのではないかと
東久留米市役所の障害福祉課は、人手不足です。人員を増やしていただくよう、早急に、ご対応いただきたい。自立支援医療の手続きに時間がかかりすぎると思います。これは、都の問題もあるかと思っています。障害のある方にご負担がかからないよう迅速なご対応を切に、希望いたします。心を病む方が増加する一方です。支える側が心を病んでしまったら、本末転倒です。よろしくお願いいたします
市役所障害者窓口に立っても、大きな声で何度か声をかけるまで対応に来てくれなかった。後から来た方にも同じだった。忙しいかもわからないが冷たく感じた
家族や知人、自分も病気で障害者になります。その時の為に福祉や市行政の援助や介護など分かりやすい障害福祉政策など自分も勉強しておく必要があると思いました

心のバリアフリー・インクルーシブ教育

障害を持った方達に、手をさしのべるのが普通になる様に、子供達にもきちんと教えるような授業があると良いし、具体的に障害者施設を訪ねたりする体験授業もあると良いかもしれないと思います。すでに実現されていたら、すみません
私は手話サークル、カルチャースクール、通信教育を以前（市外）しておりました。聾者と交流することをしていましたが（市外）、仕事が忙しく20年程、会社と家の往復の毎日で、東久留米市在住ながら、全く土地勘がありません。買物も市内ではしません。手話を習っている時、先生はおっしゃいました「バリアフリー、バリアフリーという事自体が差別している」と。障害者と健常者がお互い平等というのであれば、特別扱いせず、困ったときはお互い様で、手をさしのべるのが平等だと思います。当たり前の事だと思いますが、違いますでしょうか？
街で困まっている障害者がいたら手助けをしたいと思っているが、声を掛けられてパニックになってしまう障害者（特に子ども）もいると思うので容易に声かけができない。親や学校から「知らない人に声をかけら

れたら不審者と思え」と教えられているので、今の世の中ではそういう流れになっているので遠慮してしまいます
障害者と健常者を分けることなく1つの社会が構成できることが理想だと思う。児童の教育の場においても、交流できる時間があり、理解を深めることが自然な助け合いを生むことにつながると思う。市はボランティア活動や交流会のアナウンスを行うことや、健常者にできること、気づけていない自分の周りの社会に目を向けるためのヒントやきっかけを与えてくれるといいと思う。健常者も自分の生活のことでいっぱいになっている。でも、つながり合うことで、個人ではなく同じ東久留米に住む仲間になれるかもしれない
レベルの高い先生と、そうでもない（かんじの）先生と差が大きいように感じます。株式会社、植草葉月の先生を東久留米市でお招きして研修することで、市内全域の底上げになるのでは、と。「障害児教育部門等」のAmazon書籍ランキング1位の方です。学校内のあらゆる争いごとが激減するはずです。先生と先生が支え合い、先生と保護者が支え合い、そして全ての大人達が子供達の伴走者として支えるシステムを構築することができます。傷つく子供を0にするために、先生を東久留米市に、呼んでください(保護者にも受講できるようにしてください)。東久留米市が少しピースフルになると思います
知人など、少しでも身近に居れば、理解が進むけれど、現状、全く周りに居なかったのも、興味、関心が低いです。興味関心がなくても、情報が入ってくると少しは理解が進むと思います。勝手な意見ですみません
「障害福祉施策」について何も存じ上げずお恥ずかしいです。ただ2歳になった孫の子育てで奮闘する娘を見ているとベビーカーでの移動も大変だと感じますので、車椅子の方々はより大変だと思います。まずは「知ること」からでしょうが、日々の生活に追われている現状です

障害の多様化に応じた相談支援体制の充実

”障害”ではなく”障がい”を使うのが一般的では？障がい者のいる家族への支援を厚くすべきと思います
施策として対処方法受け身が多いのではと思ってしまう。娘が発達障害かもと相談にいったことはあるが、ただカウンセリングをそちらからの積極的なかわりはなかった
（問23に関してです！）未就学児への発達相談や、支援に関することをもっと充実してほしいです。手続き等簡易的になると、少しでも迷っていたり悩んでいたりする保母の方がやりやすいと思います。相談に来たら、必ず受けてほしいです。Webでの申し込みの際、項目が多すぎて途中でやめようとしていた方がいたので、お手伝いをしたので、簡易的だともっと相談までの過程でつまづかないと思いました（保育士をしていて、就学相談に関わる機会が多く、思っていたことを書いてみました）
児童 大人になった時親への相談支援
障害者の親御さん自身の困っていること、不安や悩み等を相談できるところがあればよいと思う

公共施設等バリアフリー化の促進

とにかくバリアフリー。歩道にあがる段差がありすぎる。自転車でもこわすぎる
身近に障害者がいないので本当に必要な市の施策については、よくわかりません。当事者やそのご家族の声を参考にするとよいのではないのでしょうか。街での車イス利用者の不便さはよくみかけるので（交通機関や医療機関）もう少し周りの人々が気をつかえる、配慮できるようになるとよいと思います。誰もがいつどこで障害者になるかわかりません。福祉は大事な施策だと思うので市の職員の皆様も大変だと思いますが、少しでもよりよい市民生活になるようよろしくお願いします
だれもが平等でくらしやすい、安心して住める市になることを願っております。東久留米市はとてもステキな所なので、いつか自分が高齢者になった時にも、住み続けられるよう、さらにステキな市に（バリアフリー面などでも）なっていったらいいです。こういった、市民の声をきいて下さるアンケートの機会をつくって下さり、感謝いたします。福祉部門は必要とする人が増えており、大変なお仕事だと思いますが、頑張ってください。今後の施策を楽しみにしております

就労支援の充実と地域での仕事の開拓

この度は、アンケートの機会を与えていただきましてありがとうございます。少しではありますが障害福祉施策について視野が広がり考えるきっかけとなりました。特に就労支援の充実とバリアフリー（道路及び歩道）と施設の整備を推進してゆくことを優先的に望みます
障害者の就労支援だけでなく、障害者を雇用する、あるいは雇用を考えている企業支援が重要。障害者の一般企業への就労の拡大の要は、企業支援である。埼玉県障害者雇用総合サポートセンター等の取組みを参考にしてください
現在障害を持った子と職を共にしております。高等学校を卒業してから2年が経ち成人を迎えどこまでの成長を期待をしたら良いのか迷う日々です。障害を持つ子の成長は共会わないのかその子その子によって違いがあるのか？一般人には未知の生活で受け入れる企業、職場人に理解、推進して行くことを望みます

特別支援教育の充実

保育園、幼稚園、小、中学校等教育機関で他の子どもと一緒に教育を受ける際、担任や施設への負担がとても大きいと感じる。障害を持つ子どもたちをサポートする人の人員確保をし、担任一人への負担を減らすべきだと思う。心身ともに疲れきってしまう前に適切な人員配置が急務と考える
保育現場における、加配保育士の増加や基準の見直しを、もっと徹底して欲しいと切に願います。ただでさえ、人手不足や給料が低いことで保育士から離れてしまう人が多いのも事実です。その中でこの時世、年々、発達障害児が増えていることも事実です。特に、3～5才児の担任となると子ども25人に対して保育者1人対任、又は、+1人クラス補助、でも、発達障害児と診断される前のグレーの子が25人の中に多くて7～8人いることもあります。ただ、グレーというところで止まってしまう為、加配がつけられません。特に多いのが、グレーと保育者が気付き保護者に伝えても保護者自身が認めない、あるいは相談できる所を紹介しても行かないといった目をそらす、家では困ってない、といったことがそれが故に保護現場の中で”グレー”というところで止まってしまう、医者でない私達には診断をつけられない、一番多く長い時間長い日々を一緒にすごしてきているのは私達、保育士なのに。だから、発達障害児ではないとグレー、手のかかる子で、通常基準の配置で保育をしないといけなくなってます。なので、グレーでも保護者が認める、認めないとかではなく、保育士が、クラスの補助を増やして欲しいといったら、すぐに増員できる体制をつくって欲しいです。あと、市の発達巡回の回数や保護者へのつなぎ方などもっと内容を充実させてほしいです

情報アクセシビリティの向上

すでに載せていたら申し訳ありませんが市報で施策の内容を読めるように(分かり易く)載せてほしいと思います(活動内容など)

家族が障害を負って初めて福祉制度について調べることになりましたが、制度や支援内容が分かりにくく、必要な情報にたどり着くのが大変でした。市の HP や案内資料を障害ごとに利用できる支援制度が分かるよう、より分かるよう整備してほしい。また高齢者はインターネット等で自ら情報を調べるのが難しい場合もあります。支援が必要になった際に、病院や医療機関から利用できる福祉サービスや相談窓口について案内を受けられる仕組みがあると助かります

経済的支援の実施

歳をとれば皆、障害が出てくる。うちの父親も、難聴、白内障、足が悪くなり、つえ。ほぼ障害者。いろいろと買ったり、病院へ行ったり大変でお金がいくらあっても足りない。税金、税金、物価高。ほちょう器すら新しい物など買えず、古い物を未だに使っている。障害者が安心して暮らせるなんて、お金だと思ってる。ヘルプマークも、道があるくとほぼほぼ、皆リュックに、付けてる人が多くて本当に必要？とうたがってしまう。ちゃんと病院や市で、基準をつけて交付した方がいいと思ってしまいます(色わけするとか)

東久留米には、補聴器の補助が無いと耳にしました。他の市や区と同等の補助があると良いですね

アンケートについて

このようなアンケートは初めてでした。今後の福祉施策にお役に立てることを望みます。何より、一番大変な思いをされているのは障害者・児本人と、その親、兄弟姉妹だと思います

障害のある方について改めて考える良い機会となりました。身近に障害のある方がいないため、これまで深く考える機会が多くありませんでしたが、今回のアンケートを通じて日常生活の中でどのような配慮や支援が必要なのかを考えるきっかけになりました。今後も理解を深めていきたいと思っています

生涯学習活動への支援と余暇活動の充実

研修等で1人でも多くの支援者やボランティアの方々が増えていく事を願っています

地域ぐるみの協力体制の構築

現在は仕事をしているため、時間に余裕がないが、余裕ができればボランティア活動等にも参加したい。まずは地域での福祉の充実。障害者の家族の話に耳をかたむけて、いっそう充実した福祉になることを願っています

医療・健康づくり

1 杉並区では医療ニーズのある児童もケアしていましたが(在宅で)この東久留米にはないということですか？11番の体制に付いて21~18までの施策を検討することとても大事ですがまず障害者(児童をもつ町両親も)のneedsは一番何なのかを声として反映させた方がよろしいのでは？

V 資料

成人調査調査票

成人

ひがしくろくろめししょうかいやしく かん 東久留米市障害者施策に関する

ちようさ アンケート調査について

みなさまには、日頃より本市の障害福祉施策にご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。
この度、「東久留米市障害者計画・第8期障害福祉計画・第4期障害児福祉計画」の策定にあたり基礎資料とするため、アンケート調査を実施することといたしました。
このアンケートは、みなさまの生活状況や、市の障害福祉施策に對するご意見などをお聞かせいただくことで、現状の把握及びニーズ分析を行い、計画策定に活用させていただきます。

アンケートは、市内にお住まいで、調査に關する事項をお持ちの方などにお送りしています。
お送りしいところ大変感謝ですが、調査の進捗をおくみ取りいただき、ご協力 부탁드립니다。
ますよう、お願い申し上げます。

令和8年5月

東久留米市長 齋田 隆博

※ 令和8年3月1日締結で当市に住民登録されている方を対象としています。また、お答えいただいた方は、プライバシーの保護に配慮し、個人情報を開示いたしません。

● 記入について
・ 詳細によりご本人が記入できない場合は、ご家族の方などがご本人の立場に立ってご記入ください。

・ 回答は、あてはまる番号を「○」で囲んでください。

● 調査票の送付について

・ インターネットによる回答も可能です。その場合、この調査票の送付は不要です。若の QR コード、または、下の URL から、専用のウェブサイトにアクセスしてください

URL: <https://question.jp/q/NLLHZ257>

・ ご記入された調査票は、封筒の送付封筒に入れ、令和8年6月12日（金）までに投函していただくことも構いません。なお、インターネットで回答された方は、調査票の送付は不要です。

お問い合わせ先

東久留米市 福祉課 福祉推進課
TEL: 042-470-7747 FAX: 042-475-8181
※ 平日 8時30分から17時まで（土日祝日を除く）

あなた（あて名のご本人）自身について

問1 この調査票にご回答いただくのは、どなたですか。（○印は1つ）

- 1 あて名のご本人 2 ご家族や近親者がご本人に代わって回答
3 ご家族や近親者がご本人の意向を代わって回答 4 その他（ ）

※ 性別、この調査票が送られたあて名の方を「あなた」とお呼びしますので、ご本人（アンケートの回答者＝調査のある方）の状況などについて、お答えください。

問2 あなたの性別は、次のうちどれですか。（○印は1つ）

- 1 男性 2 女性 3 その他

問3 あなたの年齢（令和8年4月1日現在）をお答えください。

（ ）歳

問4 あなたのお住まいをお聞かせします。（○印は1つ）

- 1 第1ブロック（上の原、神宮町、金山町、永川町）
2 第2ブロック（大門口、新川町2丁目、浅間町）
3 第3ブロック（東米町、新川町1丁目、米町）
4 第4ブロック（小田、幸町、下巻1丁目と7丁目、新沢、八幡町1丁目）
5 第5ブロック（中央町、八幡町2～3丁目、新沢1～2丁目）
6 第6ブロック（幸町、ひばりが丘、南沢、南町）
7 第7ブロック（新沢3～5丁目、新沢、新生）
8 第8ブロック（下巻2～6丁目、新沢）
9 市外（大塚、大塚、グループホーム等）

問5 あなたはどのような暮らし方をしていますか。（○印は1つ）

- 1 家族と暮らしている 2 一人暮らしをしている
3 グループホーム等で暮らしている 4 施設に入院している
5 その他（ ）

問5で「1 家族と暮らしている」か「2 一人暮らしをしている」に○をつけた方にお読みします。

問5-1 あなたのお住まいの階層はどれですか。(○印は1つ)

1 持ち家の戸建て住宅	2 持ち家の集合住宅 (マンション・アパート等)
3 賃貸の1戸建て	4 賃貸の集合住宅 (マンション・アパート等)
5 公営住宅 (給付・公社住宅)	6 社宅・公営賃貸等
7 その他 ()	

あなたの障害の状況について

問6 あなたが持っている子供の障害と等級、診断の有無をお聞かせします。あてはまる子供の番号と、カッコ内の等級 (度数) に○をつけてください。(あてはまるものすべてに○印)

1 身体障害者手帳	→ (1 級 2 級 3 級 4 級 5 級 6 級)
2 知的障害者手帳	→ (1 度 2 度 3 度 4 度)
3 精神障害者保健福祉手帳	→ (1 級 2 級 3 級)
4 発達障害の診断を受けている	
5 自立支援医療 (精神通院医療) を受けている	
6 難病又はがん関連性特定疾患の認定を受けている	
7 その他 ()	

難病又はがん関連性特定疾患の認定：この欄に、東京都の難病変異遺伝子検査又はがん関連性特定疾患診断遺伝子検査を受けた結果、診断された難病又はがん関連性特定疾患の認定を受けている方を指します。

問6で「1 身体障害者手帳」に○をつけた方にお読みします。

問6-1 障害の種別は次のうちどれですか。(あてはまるものすべてに○印)

1 肢体不自由 (上肢機能障害・下肢機能障害・両肢機能障害・体幹機能障害)
2 音声・言語・そしゃく機能障害
3 視覚障害
4 聴覚・平衡機能障害
5 内臓機能障害 (心臓機能障害、腎臓機能障害、呼吸器機能障害、泌尿・生殖器機能障害、内分泌機能障害、免疫機能障害、発達機能障害、肝臓機能障害)

問7 あなたが社会生活上で課題となる行動・状態はありますか。

(あてはまるものすべてに○印)

1 自傷	2 他傷	3 放浪行動
4 行動停止	5 哭声・叫声	6 多動
7 放浪行動	8 異食	9 偏食
10 飲食障害 (過食・拒食)	11 睡眠障害	12 昼夜逆転
13 パニック	14 二つの行動に集中して 他が自に入らない	15 自分でトイレに行けない
16 排泄物を漏らしてしまう	17 飛び出し等突進的な行為	18 不法等不適切な行為
19 てんかん	20 その他 ()	21 稀にない

問8 あなたが社会生活上で課題となる行動・状態の中で、特に課題が顕著と感じることはありませんか。(あてはまるものすべてに○印)

1 自傷	2 他傷	3 放浪行動
4 行動停止	5 哭訴・叫声	6 多動
7 放浪行動	8 異食	9 偏食
10 飲食障害(過食・ 拒食)	11 睡眠障害	12 昼夜逆転
13 パニック	14 二つの行動に集中して 他に自に入らない	15 自分でトイレに行けない
16 排泄物を漏らしてしまう	17 飛び出し等突進的な行為	18 不法等不適切な行為
19 てんかん	20 その他 ()	21 稀にない

問9 これまでに、専門機関等から「発達行動障害」(あるいはそれに相当する状態)との判定や指図を受けたことがありますか。(○印は1つ)

1 判定・指図を受けたことがある
2 受けたことはないが、その指図があると感じている
3 受けたことはなく、その指図もない
4 わからない

発達行動障害

自傷、他害、放浪、こだわり、もの壊し、睡眠の乱れ、異食、多動など本人や周囲の芳の暮らしに影響を及ぼす行動が、「著しく高い頻度で起こるため、特別に配慮された支援が必要」となっている「状態」です。



問9で「1 判定・指摘を受けたことがある」に○をつけた方にお聞きします。

問9-1 貴団にどこで判定・指摘を受けましたか。(○印は1つ)

1 児童相談所	2 児童相談
3 学校	4 障害児支援施設
5 その他 ()	

問9で「1 判定・指摘を受けたことがある」に○をつけた方にお聞きします。

問9-2 あなたが困っていることは何ですか。(あてはまるものすべてに○印)

1 言葉での表現が難しい場合、言葉や表情が伝わらず、行動が難しくなる
2 予定変更、場所の移動、音・光などの刺激に敏感
3 受け入れられない経験や経験が繰り返される
4 周囲の視線や視線、視線回避の難しさ
5 自信・他意につながる行動が突然起こることがある
6 24時間体制の角守りが必要なケースも多い
7 施設、家族、児童など周囲の支援者が変わる
8 行動の理由が「慣れ」や「呪い」により異なるため、「脱離」が難しい
9 緊急時の生活、受け入れられ、施設管理、施設での暮らし
10 「わがまま」「しつけの厳格」と認識されることがある
11 その他 ()

問9で「1 判定・指摘を受けたことがある」に○をつけた方にお聞きします。

問9-3 どのような支援が必要ですか。(あてはまるものすべてに○印)

1 わかりやすいコミュニケーション手段の提供
2 見通しを持てる生活づくり
3 感覚刺激への配慮
4 本人が嫌がる場面を減らす
5 成功体験を積み重ねる機会づくり
6 身体の不調を早期に気づける仕組み
7 安心できる方・場所の確保
8 家族や関係者を巻き込んだ活動の提供
9 行動が起きる前のサインに合わせた支援
10 本人のペースを尊重する
11 その他 ()

問10 あなたは貴団の生活で介助が必要としていますか。介助が必要なのは、至る介助者の芳をお書きください。(○印は1つ)

1 親(父・母)	2 配偶者(夫・妻)	3 子(子の配偶者を含む)
4 祖父母	5 兄弟姉妹	6 その他の家族
7 貴団の芳・知人・友人	8 ホームヘルパー	9 ボランティア
10 施設・病院等の専門	11 その他 ()	12 状況、介助は必要ない
介助者		

問11 貴団から、家族・親族の芳が介助している方にお聞きします。

現在、至る介助者の芳が困っていることは何ですか。(あてはまるものすべてに○印)

1 代わりの介助を頼める方がいない	2 休養や休息の機会がない
3 貴団の旅行や外出ができない	4 仕事に出席できない
5 介助者自身の健康に不安がある	6 身体的な負担が大きい
7 精神的な負担が大きい	8 経済的な負担が大きい
9 平日、本人の会社や施設施設の最寄り駅	10 その他 ()
早く、貴団の労働が難しい	11 特になし

問12 貴団から、家族・親族の芳が介助している方にお聞きします。

今後、介助や支援にあたって課題になると考えられることは何ですか。

(あてはまるものすべてに○印)

1 代わりの介助を頼める方がいない	2 休養や休息の機会がない
3 貴団の旅行や外出ができない	4 仕事に出席できない
5 介助者自身の健康に不安がある	6 身体的な負担が大きい
7 精神的な負担が大きい	8 経済的な負担が大きい
9 本人の住まいの確保	10 本人の経済的に困る問題
11 本人の会社や施設施設の最寄り駅	12 その他 ()
居場所がない	13 特になし

問13 普段から、家族・親族の芳が介助している方にお聞きします。

普段介助している方が一時的に介助できなくなったとき、あなたはどのようにしますか。

(1つに○印)

- 1 同居している他の家族に介助を頼む
- 2 同居していない家族や縁せきに介助を頼む
- 3 介助や家事支援等を有するホームヘルプサービスを利用する
- 4 施設への短期入所（ショートステイ）を利用する
- 5 知人・友人に介助を頼む
- 6 ボランティアに介助を頼む
- 7 その他（ ）
- 8 介助を頼むあてがない

問14 あなたは、医療的な支援（医療的ケア）を受けていますか。

(あてはまるものをすべてに○印)

- 1 受けていない
- 2 経管栄養（留置チューブ・鼻ろう・経ろう）
- 3 嚥下（口唇閉鎖、エアウェイ内・鼻管内）
- 4 酸素管理
- 5 エアウェイの管理
- 6 導尿
- 7 緊急処置時の衛生管理
- 8 鼻ろう・経ろう他の衛生管理
- 9 ストマ（人工肛門・人工膀胱）の管理
- 10 中心静脈栄養
- 11 人工透析
- 12 定期的な薬物投与
- 13 人工呼吸器の作動状況の確認及び調整
- 14 その他（ ）

問14で何らかの医療的ケアを受けている方にお聞きします。

問14-1 あなたは、医療的ケアに関して、困っていることや不安に思うことはありませんか。

(あてはまるものをすべてに○印)

- 1 いつ症状が悪化するかわからない
- 2 体調が変化したら、医療機関を受診すべきが判断に困る
- 3 日常的なケアや症状への対応が難しい
- 4 医療者の対応に不安がある
- 5 医療機関の通院・管理が難しい
- 6 主たる介護者が、ケアによる身体的な負担が大きい
- 7 主たる介護者が、ケアにより自分の時間を持てない
- 8 経済的な負担が大きい
- 9 精神的苦痛により、働きたくても働くことができない
- 10 医療的ケアが必要な方がいる家族が士業のつながりが少ない
- 11 希望したい設備・その他（ ）

にちじょうけいかつ
日常生活について

問15 あなたは、平日に会社や福祉施設が終わってからどこで過ごしたいですか。

(あてはまるものすべてに○印)

1 自宅	2 家族や友人の家
3 福祉センター	4 地区センター
5 家族が帰ってくるまで、会社や福祉施設で過ごしたい	6 障害者向けのグループホームや短所入所（ショートステイ）
7 図書館や公民館などの公共施設	8 カフェやレストランなどの飲食店
9 趣味や趣味の教室	10 当事者会やピアサポートの集まり
11 福祉サービス事業所が主催する余暇活動やイベント	12 その他（ ）

問16 あなたには、日常生活で通っていることはありますか。(あてはまるものすべてに○印)

1 習字・絵画のこと	2 仕事や習字・生活のこと
3 日常会話・コミュニケーションのこと	4 学習活動や趣味の活動など
5 習字・習字、習字教室	6 作業・生活のこと
7 外出・買い物など	8 福祉・福祉サービスに就くこと
9 習字・生活の場所のこと	10 福祉サービスに就くこと
11 習字・学校生活のこと	12 交通機関の利用に就くこと
13 習字・習字、習字教室	14 習字・習字のこと
15 習字、習字、習字などに就くこと	16 習字・習字の高齢化のこと
17 習字できる方がいない(聞かれている)	18 その他（ ）
19 習字にない	

問17 あなたは、日常生活で通った時に、誰に（どこに）相談・確認しますか。

(あてはまるものすべてに○印)

1 家族・親類	2 習字の所・習字・友人
3 習字・習字	4 福祉施設の職員
5 公民館・市役所、保健所、児童相談所など	6 民生委員・児童委員
7 習字・習字、習字の所	8 福祉・福祉施設
9 インターネット、SNS	10 その他（ ）
11 相談しない	

問18 あなたは今後、どのような生活の場を過ごしたいと思いますか。(○印は1つ)

1 家族と過ごしたい	2 一人暮らしをしたい
3 グループホームで生活したい	4 福祉者のための入所施設で生活したい
5 その他（ ）	6 わからない

問19 あなたは、福祉とどれくらい外出しますか。(○印は1つ)

1 ほぼ毎日	2 週に数回
3 月に数回	4 ほとんど外出しない

問20 福祉外出するときに、習字や習字は何かですか。(あてはまるものすべてに○印)

1 バスや福祉などの公共交通機関が少ない、またはない	2 バスや福祉などの乗車時間が長い	3 道路や歩道に障害や危険が多い
4 習字の費用や乗車料金がわかりにくい	5 トイレやエレベーターなどの福祉の設備が不足	6 習字者が確保できない
7 習字者が確保できない	8 ヘルパーの負担などにお金が掛かる	9 福祉の自費が高くなる
10 福祉の所からの福祉・手配がない	11 福祉など突然の福祉が不足	12 通った時にどうすればよいかわからない
13 福祉できる場所が少ない	14 その他（ ）	15 福祉にない

問21 あなたが生活していく上での収入は荷ですか。(あてはまるものすべてに○印)

1 勤め先の給与・賞金	2 通所施設・事業所などの賞金・工資
3 事業収入 (営業など)	4 財産収入 (家賃収入など)
5 年金・手当など	6 家族の収入・給付などの援助
7 生活保護費	8 その他 ()

問22 あなた (ご本人) やご家族、介助してくれる方は、あなた (ご本人) の「頼がなくなった後」や、将来の生活について、心配なことや不安がありますか。(○印は1つ)

※「頼」とは、日常時に介助してくれる方のこと。

1 稀に心配なことや不安はない	2 心配なことや不安がある
3 どちらともいえない	4 わからない

問23 あなた (ご本人) やご家族は、「頼がなくなった後」の生活に関するつぎのことについて、心配や不安を感じていますか。(あてはまるものすべてに○印)

1 住む場所	2 日常的な介助や家事の援助
3 日常的な意思決定や支援	4 相談できる方や機関
5 医療機関の受診	6 生活に必要ない収入
7 お金の管理や支援	8 旨いものを頂く
9 休みの日の過ごし方	10 災害や急病などの緊急時
11 その他 ()	



住まい
地域での生活について

問24 あなたは、普段、近所の方との程度おつきあいをしていますか。(○印は1つ)

1 縁を付きあうつきあい	2 立ち寄りをする程度のつきあい
3 あいさつをする程度のつきあい	4 ほとんどつきあいはない

問25 障害者が入所施設で生活するのではなく、今後、住み慣れた地域で暮らしていくことについてどう思いますか。(○印は1つ)

1 稀に躊躇はない	2 躊躇で暮らすのは難しいと思う
3 その他 ()	4 わからない

問26 あなたは、障害者が地域で生活していくためには何が必要だと感じますか。
(稀に必要と感じるもの3つまで○印)

1 生活支援やサービス利用に關する相談支援	2 訪問サービス(※)の充実
3 旨い食料・調理場所や作業所の充実	4 グループホームの充実
5 手話などによるコミュニケーションの支援	6 実証(※)によりコミュニケーションが 旨い方への参加支援
7 障害者のための住宅の確保	8 利用しやすい送迎機関
9 一時的に泊まるための支援	10 交通機関や施設などのバリアフリー化
11 地域の方たちの障害に對する理解	12 その他 ()
13 稀に感づいていることはない	

訪問サービス

居宅介護 (ホームヘルプ) や行動支援 (主に居宅介護) がある方が外出する際のガイドヘルプ) など、サービス提供者が利用者の自宅等を訪問して提供されるサービスです。

実証

脳卒中や脳外傷などの後遺症として生じることばの障害です。「聞く」「話す」「読む」「書く」という言葉の機能が低下した状態)

例) 相手の言葉が理解できない、旨い言葉が出てこない、文字が書けないなど
(症状や重症度は人によって異なります)。



問27 あなたは、相手とコミュニケーションをする時や必要な情報を利用する時に、特に困るのはどのような場合ですか。(あてはまるものすべてに○印)

- | | |
|-----------------------|------------------|
| 1 飲食店を利用する時 | 2 初めて行くところに出かける時 |
| 3 銀行を利用する時 | 4 緊急にかかった時 |
| 5 旅行をする時 | 6 買い物をする時 |
| 7 スポーツやレクリエーションに参加する時 | 8 住まいを探す時 |
| 9 仕事をする時 | 10 その他() |

問28 あなたは、成年後見制度について知っていますか。また、利用したことはありませんか。(○印は1つ)

- | | |
|-------------------|--------------------|
| 1 知っており、利用したことがある | 2 知っているが、利用したことはない |
| 3 知らない | |

成年後見制度

認知症、知的障害、精神障害などの理由で判断能力が十分でないために、不動産取引、相続、契約、贈与などの財産を管理したり、身のまわりの世帯のために介護などのサービスや施設への入所に関する契約を代行したり、懸念事項の解消等から守ったりするするための制度です。

問29 将来的にあなた自身がいかなる契約や手続きをする際にひとりで決めることに不安や心配のある場合、成年後見制度を利用したいと思いますか。(○印は1つ)

- | | |
|---------|------------|
| 1 思う | 2 思わない |
| 3 わからない | 4 後者利用中である |

問30 障害者差別解消法が改正され、令和6年から事業者等による障害のある方への「合理的配慮の提供」が義務化されました。「合理的配慮の提供」とは、障害のある方から社会の中にある障害を取り除くための障りからの配慮を求める意思表示があったときに、負担が重すぎない範囲で対応することです。あなたは、合理的配慮の提供について知っていますか。(○印は1つ)

- | |
|----------------------------|
| 1 知っていて、合理的配慮の提供を求めたことがある |
| 2 知っているが、合理的配慮の提供を求めたことはない |
| 3 知らない |



問31 あなたは、合理的配慮の提供がなされていないと感じた時、どのようなアクションを取りますか。(あてはまるものすべてに○印)

- | | |
|------------------|-----------------------|
| 1 その場で指摘して対応を求める | 2 事後に事業者に向い合わせて改善を求める |
| 3 行政窓口へ相談する | 4 その他() |
| 5 何もしない | |

問32 あなたは、障害への理解を深めていくためにどのようなことに力を入れるべきだと思いますか。(あてはまるものすべてに○印)

- | |
|------------------------------|
| 1 障害や障害者に関するパンフレットの発行 |
| 2 障害者作品展やイベントの開催 |
| 3 障害に関する講演会や職場研修会の開催 |
| 4 学校や生涯学習での障害に関する教育や情報 |
| 5 施設や学校で障害への理解を学ぶ機会を設けること |
| 6 施設での交流の機会を設けて、施設の雰囲気をつなぐこと |
| 7 障害者の「継続学習」の促進 |
| 8 その他() |

問33 地域で生活するなかで、あなたが手助けしてほしいと思うことはありますか。(あてはまるものすべてに○印)

- | | |
|---------------|-------------|
| 1 安否の届けかけ | 2 趣味などの趣味相手 |
| 3 手荷・介護等の相談相手 | 4 ちょつとした買い物 |
| 5 コミ出し | 6 掃除・就たく |
| 7 障むしりや障木の手入れ | 8 調理や洗濯の手伝い |
| 9 災害や急病などの緊急時 | 10 その他() |
| | 11 特にない |



しゃかいさんか
社会参加について

問34 これまでに赤城活動、文化芸術、スポーツ活動など、参加したことのあるものはありますか。(あてはまるものすべてに○)

1 コンサートや観劇、スポーツなどの鑑賞・見学	2 スポーツ活動
3 旅行	4 学習や趣味の活動
5 ボランティアなどの社会貢献活動	6 地域での交流、自治会などの活動
7 障害者団体などの活動	8 パソコンを使った活動
9 その他 ()	10 特になし

問35 今後参加したい赤城活動、文化芸術・スポーツ活動はありますか。

(あてはまるものすべてに○)

1 コンサートや観劇、スポーツなどの鑑賞・見学	2 スポーツ活動
3 旅行	4 学習や趣味の活動
5 ボランティアなどの社会貢献活動	6 地域での交流、自治会などの活動
7 障害者団体などの活動	8 パソコンを使った活動
9 その他 ()	10 特になし

問36 あなたが赤城活動、文化芸術・スポーツ活動に参加するためには、どのような条件が必要だと思えますか。(○印は3つまで)

1 活動情報の提供がある	2 収入や時間がある
3 身近なところで活動できる	4 外出手段が確保されている
5 介助者がいる	6 適切な指導者やリーダーがいる
7 障害に配慮した施設や設備がある	8 経済的な負担が少ない
9 家族や同僚の理解がある	10 心身の健康状態の維持・向上
11 いろいろな方との出会いの場・機会がある	12 障害のある方でもない方も一緒にできる
13 施設の予約が取りやすい	14 単独などによるコミュニケーションの支援
15 その他 ()	16 特になし

しょうがいにくし
障害福祉サービスなどについて

問37 あなたは盲点、次のような障害福祉サービスを利用していますか。また、今後利用したいと思えますか。(それぞれに○印は1つ)

※ サービスの内容については、22 ページ以降をご覧ください。

区 分	利用しており、 今後も利用したい	利用していないが3年以上 に利用したい	利用の予定はない	
訪問系サービス	① 居宅介護 (ホームヘルプ)	1	2	3
	② 居宅訪問介護	1	2	3
	③ 訪問介護	1	2	3
	④ 行動介護	1	2	3
日中系サービス	① 生活介護	1	2	3
	② 自立訓練 (職業訓練・生活訓練)	1	2	3
	③ 就労移行支援	1	2	3
	④ 就労継続支援 (A 型)	1	2	3
	⑤ 就労継続支援 (B 型)	1	2	3
	⑥ 就労定着支援	1	2	3
	⑦ 就労移行支援	1	2	3
	⑧ 障害介護	1	2	3
	⑨ 短期入所 (ショートステイ)	1	2	3
居宅系サービス	① 自立生活援助	1	2	3
	② 共同生活援助 (グループホーム)	1	2	3
	③ 施設入所支援	1	2	3
利用系サービス	① 計画相談支援	1	2	3
	② 計画移行支援	1	2	3
	③ 計画定着支援	1	2	3
	④ 通所継続支援事業 (主に障害者福祉への学習支援の提供)	1	2	3
その他	⑤ 障害者雇用奨励金等事業	1	2	3
	⑥ 移動支援事業 (外出時のガイドヘルプ)	1	2	3
	⑦ 日中一時支援事業 (緊急一時帰国)	1	2	3
	⑧ 成年後見制度	1	2	3
	⑨ 障害者年金 (遺児・障害者等) の給付	1	2	3

問38 あなたは、^{労働者}労働者のサービス利用に就いて困っていることがありますか。
(あてはまるものすべてに○印)

- | | |
|-----------------------|--------------------|
| 1 利用がわかりにくい | 2 利用したいサービスを利用できない |
| 3 利用できる自費が限られ利用回数が少ない | 4 サービスの幅について困っている |
| 5 他の利用者との関係が円滑 | 6 市町村での手続きが煩雑 |
| 7 事業所との自費などの負担が大きい | 8 事業所への移動が困難 |
| 9 経済的負担が大きい | 10 利用したい内容のサービスがない |
| 11 その他 () | 12 特に関心していることはない |

問39 あなたは、^{労働者}労働者のサービスに、満足していますか。(○印は1つ)

- | |
|---------------------------------|
| 1 必要なサービスを全て受けており大いに満足 |
| 2 ほぼ必要なサービスを受けており大いに満足 |
| 3 ほぼ必要なサービスを受けているがサービスの幅に満足できない |
| 4 必要なサービスが十分に受けられず不満足 |
| 5 受けたいサービスがほとんどなく不満足 |
| 6 現在は特にサービスを受ける必要がないので利用していない |

問40 「4 必要なサービスが十分に受けられず不満足」か「5 受けたいサービスがほとんどなく不満足」に○をつけた方にお聞きします。

問40-1 地域の中で、^{労働者}労働者に就くサービスのうち何が不足していると感じますか。

40歳以上の方にお聞きします。

問40 介護保険による認定を受けていますか。要介護・要支援認定を受けている方はあてはまる要介護度に○をつけてください。(○印は1つ)

- | | | |
|-------------|--------|--------|
| 1 認定を受けていない | 2 要介護1 | 3 要介護2 |
| 4 要介護1 | 5 要介護2 | 6 要介護3 |
| 7 要介護4 | 8 要介護5 | |

40歳以上の方にお聞きします。

問40-1 介護保険のサービスを受けるにあたり、不安に思うことはありますか。
(あてはまるものすべてに○印)

- | |
|-----------------------------------|
| 1 利用回数が減ること |
| 2 利用回数が少なくなること |
| 3 これまで利用していた事業所が廃止になること |
| 4 これまで利用していた介護施設の介護サービスよりも質が下がること |
| 5 その他 () |
| 6 特に関心はない |

雇用・就労について

あなた (あて名のご本人) が18歳以上の場合のみお答えください。

問41 あなたは普段、平日の昼中をどのように過ごしていますか。(○印は1つ)

- | | |
|----------------------|-----------------------|
| 1 正社員として働いている | 2 パート・アルバイトなどで働いている |
| 3 自営などを営んでいる | 4 無職で就労している (福祉事業所など) |
| 5 無職で就労以外の通所施設に通っている | 6 自宅で家事や手伝いをしている |
| 7 学校などに通っている | 8 就業訓練中・就労活動中 |
| 9 その他 () | 10 特に関心はない |

問41 で「1」～「4」に○をつけた方にお聞きします。

問41-1 あなたが仕事をすると決まっていることはなんですか。
(あてはまるものすべてに○印)

- | | |
|---------------------|--------------|
| 1 給与・年金などの収入が少ない | 2 通勤が大変 |
| 3 身体的な負担が大きい | 4 精神的な負担が大きい |
| 5 業務に就くための訓練が不足している | 6 無職の収入が低い |
| 7 仕事が自分には合わない | 8 その他 () |
| 9 特に関心はない | |

問41 で「4」、「5」に○をつけた方にお聞きします。

問41-2 日中活動終了後、どのように過ごしていますか。また、どのように過ごしたいですか。自由に記入ください。

問41 で「5」、「6」、「9」に○をつけた方にお聞きします。

問41-3 あなたが就労していない理由はなんですか。(あてはまるものすべてに○印)

- | | |
|----------------------|---------------------|
| 1 障害や病気が重いから | 2 高齢だから |
| 3 自分に合った仕事が見つからないから | 4 希望に合った求人が見つからないから |
| 5 働くための知識や能力に自信がないから | 6 無職の生活に不安があるから |
| 7 通勤が遠いから | 8 仕事以外のことをしたいから |
| 9 その他 () | 10 わからない |

全ての方にお聞きします

あなたは、就労していくためには、どのような支援が必要だと思いますか。

(あてはまるものすべてに○印)

1	仕事探しから就労までの幅広い相談支援
2	働くための知識や能力を身につけるための訓練
3	相談を継続するための就労支援
4	障害の特性にあった働き方・雇用の拡大
5	障害に対する理解を深めるための職場への働きかけ
6	職場のバリアフリー化
7	障害や病気などに起因した柔軟な勤務体制
8	ジョブコーチや介助者が職場に定着し、支援を受けられる環境
9	その他 ()

令和7年10月1日から、障害者本人が就労先及び働き方についてより良い選択ができるよう、就労アセスメント（就労サービス利用意向がある障害者との面談による、就労ニーズの把握や能力・適性の評価及び就労開始後の配属事項等の整理）の手法を活用して、本人の希望、就労能力、適性等に合った選択を支援する「就労選択支援」が創設されました。あなたは、「就労選択支援」について知っていますか。(○印は1つ)

1	以前から知っていた
2	聞いたことがあった
3	初めて知った

あなたは今後、就労選択支援を利用したいと思いますか。(○印は1つ)

1	利用したい
2	利用しない



ひがしくさぬし しやうかいふくしきく
東久留米市の障害福祉施策について

あなたは、市や社会福祉協議会等の広報誌に掲載されている情報は、主にどこから得ていますか。(○印は3つまで)

1	市や社会福祉協議会等の広報誌
2	市の広報誌
3	テレビやラジオ
4	新聞・雑誌
5	インターネット
6	障害者団体
7	民生委員・児童委員、確保・奨励障害者相談員
8	ホームヘルパー
9	家族・親戚
10	友人・知人
11	医療機関
12	市や県の窓口
13	障害者の福祉施設
14	その他 ()
15	情報は得られていない

市や社会福祉協議会等の広報誌に掲載されている情報は、主にどこから得ていますか。(○印は1つ)

①	さいわい福祉センター	知っており、利用したことがある	1	2	3
②	福祉生活支援センターめぐも	知っており、利用したことはない	1	2	3
③	障害者就業支援室「さいわい」「あおぞら」	知っており、利用したことはない	1	2	3
④	市役所内ワークコーナー（ハローワーク窓口）	知っており、利用したことはない	1	2	3
⑤	障害者虐待防止センター（市障害福祉課）	知っており、利用したことはない	1	2	3
⑥	社会福祉協議会	知っており、利用したことはない	1	2	3
⑦	福祉生活支援センターわかさ亭（前橋）	知っており、利用したことはない	1	2	3

あなたは、悩み事などを相談するときに、語り部や記事はありますか。(あてはまるものすべてに○印)

1	どこに問い合わせてもわからないから知らない
2	身近な人に相談するところがない
3	電話やFAXを使って「情報」や相談をすることができない
4	インターネットを使って「情報」や相談をすることができない
5	高学歴や音声コード、録音テープなどによる情報提供がない
6	相談先で、関りの方に相談音が聞こえてしまう
7	その他 ()
8	相談や知人に相談したり、情報を得られるので特に困っていない



問48 今後、市行政で重点的に取り組むべきと認める施策はありますか。(○印は3つまで)

- | | |
|------------------------|-----------------------------|
| 1 児童の発達支援をいかに充実させるか | 2 特別支援教育の充実 |
| 3 教育と地域の連携を強めること | 4 障害児の発達支援や家庭支援の充実 |
| 5 成人職の発達支援のための職場づくり | 6 障害者（児）への虐待の予防・虐待防止 |
| 7 障害者の就業支援の充実 | 8 障害児保育の充実等による就労支援 |
| 9 就労支援事業所の定員の拡大 | 10 児童の障害者（児）の自己活動の充実と福祉の確保 |
| 11 在宅でも支援を受けられる体制づくり | 12 グループホームの施設整備 |
| 13 バリアフリーのまちづくり | 14 障害特性に起因した障害提供 |
| 15 相談支援体制の強化 | 16 障害者（児）への理解を深めるための講習やイベント |
| 17 研修等による支援者やボランティアの育成 | 18 災害時の支援 |
| 19 その他（ ） | |

東久留米市の障害福祉施策について、ご意見やご要望などがありましたら、自由に記入ください。

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。
この調査票を同封の返信用封筒に入れて、
令和8年6月12日(金)までにポストへ入れてください。



★サービスの概要 (16ページ問37の回答の参考にして下さい。)

居宅介護 (ホームヘルプ)	自宅で入浴、排泄、食事、着脱の介助等を行います。
福祉訪問介護	重度の肢体不自由者または重度の知的障害者もしくは精神障害により常に介護を必要とする人に、自宅で、入浴、排泄、食事、着脱の介助、外出時における移動支援、又臨時の支援等を総合的に提供します。
行動支援	知的障害・精神障害により行動上「著しい困難を有する」に對する外出時の準備、移動中の介護を行います。
同行支援	視覚障害により、移動に「著しい困難を有する」人が外出するとき、必要な情報提供や介護を行います。
生活介護	常に介護を必要とする人に、昼間に入浴、排泄、食事、着脱の介助等を行うとともに、創作活動または生涯学習の機会を提供します。
自立訓練 (施設型・型別)	自立した日常生活又は社会生活ができるよう、「一定期間、身体機能または生活能力の向上のために必要な訓練を行います」。
就労移行支援	「一定期間、就労に必要となる知識及び能力の向上のために必要な訓練を行います」。
就労継続支援 (A型・B型)	「一定期間、就労に必要となる知識及び能力の向上のために必要な訓練を行います」。
就労定着支援	「一定期間、就労に必要となる知識及び能力の向上のために必要な訓練を行います」。
療養介護	医療と療養介護を必要とする人に、医療機関で機能訓練、療養上の管理、看護、介護及び日常生活の世話を行います。
短期入所 (ショートステイ)	自宅で介護する人が病気の場合などに、短期間、夜間も含め施設で、入浴、排泄、食事、着脱の介助等を行います。
児童発達支援	障害児に、日常生活における基本的な動作の指導、知識技能の付与、集団生活への適応訓練等を行います。
放課後等デイサービス	就学している障害児につき、療養の終了後または休日に児童福祉施設の向上のために必要な訓練、社会との交流の促進等のサービスを行います。
保育所等訪問支援	保育所その他の児童が障害児等である施設等に通う障害児につき、当該施設を訪問し、障害児以外の児童との集団生活への適応のための専門的な支援を行います。
自立生活援助	障害者支援施設やグループホーム等を利用していた人でひとり暮らしを希望する人に對し、短期間に居住を訪問し、必要な助言や医療機関等との連絡調整を行います。
共同生活援助 (グループホーム)	被介護者、共同生活を行う住居で、入浴、排泄、食事、着脱の介助等を行います。



施設入所支援	施設に入所する人に、夜間や休日に入浴、排せつ、食事の介護等を行います。
地域移行支援	地域における生活に移行するために置換的な支援を必要とする人に、住居の確保や相談等の支援を行います。
地域定着支援	居宅において単身等で生活する人に、精神の遅延体制を確保し、障害の特性に起因して生じた緊急の事態等に相談等の支援を行います。
★用語の説明	
ピアサポート	障害や疾患、悩みなど同じような共通項と親近性をもつ人同士（ピア）の受え合いを促す言葉。



225

東久留米市障害者施策に関する

アンケート調査について

みなさまには、白旗より本市の図書館に施^{おこな}されたご理解とご協^{きょう}力をいただき、誠にありがとうございます。

この度、「東久留米市障害者計画・第8期障害者福祉計画・第4期障害児福祉計画」の策定にあたり基幹資料とするため、アンケート調査を実施することといたしました。

このアンケートは、みなさまの自らの生活状況や、市の障害福祉政策に対するご意見などを伺わせたいということで、現状の把握及びニーズ分析を行い、計画策定に活用させていただくものです。

アンケートは、市内にお住まいで、障壁に関する手帳をお持ちの方などにお送りしています。

お忙しいところ大変恐縮ですが、謝辞の趣意をおくみ取りいただき、ご協力く
ださいますよう、お願い申し上げます。

昭和8年5月

東京市豊島区

※ 令和8年3月1日時点で当市に住所登録されている方を対象としています。また、お答えいただいた内容は、プライバシーの尊重に万全を期すとともに、アンケート結果の集計以外には使用いたしません。

● 217C-X

●事情によりご本人が記入できない場合は、ご家族の方などがご本人の立場に立ってご記入ください。

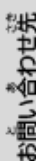
・**回答は、あてはまる番号を「○」で囲んでください。**

● 調査票の返信について

- ・インターネットによる回答も可能です。その場合、この調査票の送付先は不変です。右のQRコード、または、下のURL から、専用のウェブサイトにアクセスしてください。

URL : <https://questantip/a/J8YDEPGY>

ご記入された調査票は、調査の遠征前封筒に入れ、令和8年6月12日(金)までに投函していただくようお願いできません。なお、インターネットで回答された方は、調査票の返信は不要です。



東京大学 東洋文化研究所 東洋言語学研究室 教授 田中 邦子
TEL: 042-470-7747 FAX: 042-475-8181
※ 平日8時30分から17時まで（土日祝日を除く）



あなた（あて名のご本人）自身について

第1 回の調査票に1回答いただいたのは、とたたですが。(〇印は1つ)

- 1 あて名のご本人
- 2 ご家族や受検者がご本人に代りて代筆
- 3 ご家族や受検者がご本人の前向きを考えて代筆
- 4 その他()

※これ以降、この物語線が翻送されたあて名の方を「あなた」とお呼びしますので、ご本人（アンケートの対象者＝編者のある方）の状況などについて、お答えください。

問2 あなたの性別は、次のうちどれですか。(○印は1つ)

- | | | | |
|---|------|---|-----|
| 1 | 三好重信 | 3 | その他 |
| 2 | 三好元就 | | |

問3 あなたの年齢（令和8年4月1日現在）をお書きください。

(二)

問4 あなたのお住まいをお聞^ききます。(○印は1つ)

- 1 第1ブロック 上の駅、神室町、釜山町、永田町
- 2 第2ブロック 大阿部、新川町2丁目、浅崎町
- 3 第3ブロック (東本町、新川町1丁目、本町)
- 4 第4ブロック 小山、幸町、下重1丁目と7丁目、新大久保、八幡町1丁目
- 5 第5ブロック (中英町、八幡町2～3丁目、新沢1～2丁目)
- 6 第6ブロック (新園町、ひばりが丘駅前、南沢、高町)
- 7 第7ブロック 新沢3～5丁目、菊山、荻生
- 8 第8ブロック 下重2～6丁目、柳屋
- 9 市外 (大所園駅、グループホーム等)

5 あなたはどのような暮らし方をしていますか。(〇印は1つ)

- 1 家族と暮らしている
- 2 施設に⁵³入所している



問5で「1 家族と暮らしている」に○をつけた方にお読みします。

問5-1 あなたのお住まいの種類はどれですか。(○印は1つ)

1 持ち家の戸建て住宅	2 持ち家の集合住宅 (マンション・アパート等)
3 賃貸の戸建て	4 賃貸の集合住宅 (マンション・アパート等)
5 公営住宅 (給付・公営住宅)	6 社宅・公営住宅等
7 その他 ()	

あなたの障害の状況について

問6 あなたの持っている学校の種類と等級、診断の等級をお聞きます。あてはまる学校の番号と、カッコ内の等級 (度数) に○印をつけてください。(あてはまるものすべてに○印)

1 身体障害者学校	→ (1級) 2級 3級 4級 5級 6級
2 養子学校 (養育学校)	→ (1度) 2度 3度 4度
3 精神障害者保健福祉学校	→ (1級) 2級 3級
4 発達障害の診断を受けている 自立支援医療 (精神通院医療) を受けている	
5 難病又は介護療養型医療の認定を受けている	
7 療育施設支援を利用している	

難病又は介護療養型医療の認定：この場合、東京都の難病医療認定又は介護療養型医療認定医療施設助成を受けている方を指します。

問6で「1 身体障害者学校」に○をつけた方にお読みします。

問6-1 障害の種類は次のうちどれですか。(あてはまるものすべてに○印)

1 肢体不自由 (上肢機能障害・下肢機能障害・両肢機能障害・両肢機能障害)
2 音声・言語・しゃく機能障害
3 視覚障害
4 聴覚・平衡機能障害
5 内部障害 (心臓機能障害、腎臓機能障害、肝臓機能障害、膵臓機能障害、糖尿病、免疫機能障害、気管支機能障害)



問7 あなたが社会生活上で課題となる行動・状態はありますか。
(あてはまるものすべてに○印)

1 自傷	2 他害	3 暴行
4 行動停止	5 笑顔・奇声	6 多動
7 夜間行動	8 異常	9 異常
10 異常行動 (過食・拒食)	11 睡眠障害	12 昼夜逆転
13 パニック	14 二つの行動に集中して 他が自に入らない	15 自分でトイレに行けない
16 排泄物を嘔吐して しまう	17 角び出し等交差する行為	18 歩法等不適切な行為
19 てんかん	20 その他 ()	21 稀にない

問8 あなたが社会生活上で課題となる行動・状態の中で、特に配慮が必要と感じることはいくつありますか。(あてはまるものすべてに○印)

1 自傷	2 他害	3 暴行
4 行動停止	5 笑顔・奇声	6 多動
7 夜間行動	8 異常	9 異常
10 異常行動 (過食・拒食)	11 睡眠障害	12 昼夜逆転
13 パニック	14 二つの行動に集中して 他が自に入らない	15 自分でトイレに行けない
16 排泄物を嘔吐して しまう	17 角び出し等交差する行為	18 歩法等不適切な行為
19 てんかん	20 その他 ()	21 稀にない

問9 これまでに、専門職等から「強度行動障害」(あるいはそれに相当する状態)との判定や指摘を受けたことがありますか。(○印は1つ)

1 判定・指摘を受けたことがある
2 受けたことはないが、その傾向があると感じている
3 受けたことはなく、その傾向もない
4 わからない

強度行動障害

自傷、他害、こだわり、もの壊し、睡眠の乱れ、異常な多動など本人や周囲の安全に影響を及ぼす行動が、「著しく高い頻度で起こるため、特別に配慮された支援が必要」となっている「状態」です。



問9で「1 判定・指摘を受けたことがある」に○をつけた方にお聞きします。

問9-1 真体司にどこで判定・指摘を受けましたか。(○印は1つ)

1 児童相談所	2 児童福祉
3 学校	4 児童福祉施設
5 その他 ()	

問9で「1 判定・指摘を受けたことがある」に○をつけた方、ご家族・介助者の方にお聞きします。

問9-2 介助者が困っていることは何ですか。(あてはまるものすべてに○印)

1 介助者が「何を求めているのか」を読み取る負担が大きい
2 争論できない状況でパニックや強い行動が出やすい
3 診察や検査が難航し、必要な情報が得られないこともある
4 介助者が常に緊張し、外出自注が負担になる
5 介助者は常に安全確保を覚え続ける必要がある
6 相談できる相手が多く、精神的に追い詰められやすい
7 行動の背景理解や対応方針が統一されず、混乱が生じる
8 長引く相談が続き、苦痛も増大しやすい
9 本人の意向をどう尊重しつつ支援体制を作るのが大きな課題
10 行動の背景にある認知特性やコミュニケーションの困難が理解されにくい
11 その他 ()

問9で「1 判定・指摘を受けたことがある」に○をつけた方にお聞きします。

問9-3 どのような支援が必要ですか。(あてはまるものすべてに○印)

1 わかりやすいコミュニケーション手段の提供
2 負担しを減らす生活づくり
3 認知特性への配慮
4 本人が望むペースでの行動を促す
5 成功体験を積み重ねる機会づくり
6 身体の不調を早期に気づける仕組み
7 安心できる方・場所の確保
8 関係や信頼を築かした活動の提供
9 行動が起きる前のサインに合わせた支援
10 本人のペースを尊重する
11 その他 ()

問10 あなたは貴族の生活で介助を必要としていますか。介助が必要な方は、主な介助者の芳をお書きください。(○印は1つ)

1 親(父・母)	2 祖父母	3 その他の親族
4 貴族の芳・友人・友人	5 ホームヘルパー	6 ボランティア
7 施設・病院等の専門介助者	8 貴族、介助は必要ない	9 その他 ()

貴族から、家族・親族の芳が介助している方にお聞きします。

問11 貴族、主な介助者の芳が困っていることは何ですか。(あてはまるものすべてに○印)

1 代わりの介助を頼める方がいない	2 休養や退席の機会がない
3 貴族の旅行や外出ができない	4 仕事に出られない
5 介助者自身の健康に不安がある	6 身体的な負担が大きい
7 精神的な負担が大きい	8 経済的な負担が大きい
9 その他 ()	10 特になし

貴族から、家族・親族の芳が介助している方にお聞きします。

問12 今後、介助や支援にあたって困難になると考えられることは何ですか。

(あてはまるものすべてに○印)

1 代わりの介助を頼める方がいない	2 休養や退席の機会がない
3 貴族の旅行や外出ができない	4 仕事に出られない
5 介助者自身の健康に不安がある	6 身体的な負担が大きい
7 精神的な負担が大きい	8 経済的な負担が大きい
9 本人の住まいの確保	10 本人の権利擁護に関する課題
11 その他 ()	12 特になし

施設から、家族・親族の方が介護している方にお聞きします。

問13 施設介護している方が一時的に介護できなくなったとき、あなたはどのようなにしますか。

(1つに○印)

- | | |
|-------------------------------|---|
| 1 同居している他の家族に介護を頼む | |
| 2 同居していない家族や縁せきに介護を頼む | |
| 3 介護や家事援助等を行なうホームヘルプサービスを利用する | |
| 4 施設への短期入所（ショートステイ）を利用する | |
| 5 知人・友人に介護を頼む | |
| 6 ボランティアに介護を頼む | |
| 7 その他（ | ） |
| 8 介護を頼むあてがない | |

問14 あなたは、医療的な支援（医療的ケア）を受けていますか。

(あてはまるものすべてに○印)

- | | |
|-------------------------------|------------------------|
| 1 受けていない | 2 経管栄養（経管チューブ・胃ろう・腸ろう） |
| 3 吸引（口鼻吸引・エアウェイ内・鼻吸引） | 4 酸素管理 |
| 5 エアウェイの管理 | 6 導尿 |
| 7 鼻管の挿入の衛生管理 | 8 胃ろう・腸ろう等の衛生管理 |
| 9 ストマ（人工肛門・人工膀胱）の管理 | 10 中心静脈栄養 |
| 11 人工透析 | 12 定時の薬物投与 |
| 13 人工呼吸器の作動状況の確認及び
警報音の確認等 | 14 その他（ |

問14 で何らかの医療的ケアを受けている方にお聞きします。

問14-1 あなたは、医療的ケアに関して、困っていることや不安に思うことはありませんか。

(あてはまるものすべてに○印)

- | | |
|-------------------------------|---|
| 1 いつ症状が悪化するかわからない | |
| 2 症状が変化したら、医療機関を受診すべきが判断に迷う | |
| 3 日常生活的なケアや症状への対応が難しい | |
| 4 医療者の対応に不安がある | |
| 5 医療機関の看護・管理が難しい | |
| 6 主たる介護者が、ケアによる身体的な負担が大きい | |
| 7 主たる介護者が、ケアにより自分の時間を持てない | |
| 8 経済的な負担が大きい | |
| 9 精神的苦痛により働きたくても働くことができない | |
| 10 医療的ケアが必要な方がいる家族の士気や生活の質が低い | |
| 11 希望したい対応・その他（ | ） |

日常生活について

問5 あなたは、日常生活で困っていることはありますか。(あてはまるものすべてに○印)

1 居場所・相談のこと	2 日常生活・コミュニケーションのこと
3 収入・職、場所づきあい	4 外出・買い物など
5 保護・支援サービスに関すること	6 住居・生活の環境のこと
7 福祉サービスに関すること	8 通学・学校生活のこと
9 交通機関の利用に関すること	10 身体・健康のこと
11 結婚、性、恋愛などに関すること	12 親や介護者の高齢化のこと
13 相談できる方がいない (隠れている)	14 その他 ()
15 箱にない	

問6 あなたは、日常生活で困った時に、誰に(どこに)相談・確認しますか。

(あてはまるものすべてに○印)

1 家族・親戚	2 友人・知人
3 保護者、幼稚園、学校の先生	4 医療関係者
5 福祉施設の職員	6 公的機関 (市役所、保健所、児童相談所など)
7 民生委員・児童委員	8 同じ悩みや苦しみを持つ人の保護者
9 相談支援事業所	10 インターネット、SNS
11 その他 ()	12 相談しない

問7 あなたは今後、どのような生活の場で暮らしたいと思いますか。(○印は1つ)

1 家族と暮らしたい	2 一人暮らしをしたい
3 グループホームで生活したい	4 障害者(児)のための施設で生活したい
5 その他 ()	6 わからない



問18 あなたは、施設でどれくらい外出しますか。(○印は1つ)

1 ほぼ毎日	2 週に数回
3 月に数回	4 ほとんど外出しない

問19 普段外出するときに、困ることはありますか。(あてはまるものすべてに○印)

1 バスや電車などの公共交通機関がない、または少ない	3 通学や職に通勤や送迎が多い
2 バスや電車などの乗り場が遠い	5 トイレやエレベーターなどの施設の設備が不便
4 施設の古い方や乗換えがわかりにくい	7 交通費(乗車など)にお金がかかる
6 介護者が確保できない	9 施設の自らが長になる
8 ヘルパーの報酬などにお金がかかる	11 発作など突然の体調不良が心配
10 施設の方からの配慮・手助けがない	13 保護できる場所が少ない
12 困った時にどうすればよいかわからない	14 その他 ()
15 箱にない	

問20 あなたや家族、介護してくれる方は、あなたの「頼りがなくなった後」や、将来の生活について、心配なことや不安がありますか。(○印は1つ)

※「頼」とは、日常時に介助してくれる方のこと。

1 箱に心配なことや不安はない	2 心配なことや不安がある
3 どちらともいえない	4 わからない

問21 あなたや家族は、「頼りがなくなった後」の生活に困るつぎのことについて、心配や不安を感じていますか。(あてはまるものすべてに○印)

1 住む場所	2 日常生活や家事の援助
3 日常生活の意思決定や変化	4 相談できる方や相談
5 医療機関の受診	6 生活に必要なお金
7 お金の貯蓄や変化	8 百年を過ごす場所
9 休みの日の過ごし方	10 緊急時の変化
11 その他 ()	



問22 あなたや家族は、“親が亡くなった後”への準備をするうえで、困ることがありますか。
 (あてはまるものすべてに○印)

1 準備が怖にくい	2 相談やいっしょに考える方がない
3 準備をする時間的な余裕がない	4 考えるとさらに不安になる
5 準備をするために費用がかかる	6 その他 ()
7 何をすればよいかわからない	



住まい
 地域での生活について

問23 あなたは、最後、送別の方との程度おつきあいをしていますか。(○印は1つ)

1 会を付きあえるつきあい	2 立ち見をする程度のつきあい
3 あいさつをする程度のつきあい	4 ほとんどつきあいはない

問24 障害者が入所施設で生活するのではなく、今後、住み慣れた地域で暮らしていくことについてどう思いますか。(○印は1つ)

1 特に問題はない	2 地域で暮らすのは嬉しいと思う
3 その他 ()	4 わからない

問25 あなたは、障害者が地域で生活していくためには何が必要だと思いますか。
 (特に必要と思われるもの3つまで○印)

1 地域生活やサービス利用に関する相談支援	2 緊急対応サービス(※)の充実
3 日中の活動・訓練場所や就業場の充実	4 グループホームの拡充
5 半信などによるコミュニケーションの支援	6 災害時(※)によりコミュニケーションが難しい方への意思疎通支援
7 障害者のための住宅の確保	8 利用しやすい送別施設
9 労働者としての支援	10 交通機関や施設などのバリアフリー化
11 地域の方たちの障害に対する理解	12 その他 ()
13 特に困っていることはない	

訪問サービス

居宅介護(ホームヘルプ)や行動援助(主に知的障害がある方が外出する際のガイドヘルプ)など、サービス提供者が利用者の自宅等を訪問して提供されるサービスです。

災害時

地震や火災などの災害発生時に、避難所として生じることばの障害です。「聞く」「話す」「読む」「書く」という言葉の機能が低下した状態
 (例)相手の言葉が理解できない、言いたい言葉が出てこない、文字が書けないなど
 (症状や重症度は人によって異なります)



問26 あなたは、相手とコミュニケーションをする時や必要な情報を利用する時に、特に困るのはどのような場合ですか。(あてはまるものすべてに○印)

1 飲食店を利用する時	2 初めて行くところにゆかける時
3 銀行を利用する時	4 病院にかかった時
5 旅行をする時	6 買い物をする時
7 スポーツやレクリエーションに参加する時	8 住まいを探す時
9 仕事をする時	10 その他 ()

問27 障害者差別解消法が改正され、令和6年から事業者等による障害のある方への「合理的配慮の提供」が義務化されました。「合理的配慮の提供」とは、障害のある方から社会の中にある障害を取り除くための簡易な配慮を求める意思表示があったときに、負担が重すぎない範囲で対応することです。あなたは、合理的配慮の提供について知っていますか。(○印は1つ)

1 知っていて、合理的配慮の提供を求めたことがある
2 知っているが、合理的配慮の提供を求めたことはない
3 知らない

問28 あなたは、合理的配慮の提供がなされていないと感じた時、どのようなアクションを取りますか。(あてはまるものすべてに○印)

1 その場で指摘して対応を求める	2 事後に事業者に向い合わせて改善を求める
3 行政窓口へ相談する	4 その他 ()
5 何もしない	

問29 あなたは、障害への理解を進めていくためにどのようなことに力を入れるべきだと思いますか。(あてはまるものすべてに○印)

1 障害や障害者に關するパンフレットの発行
2 障害者作品展やイベントの開催
3 障害に關する講演会や座談会等の開催
4 学校や生涯学習での障害に關する教育や情報
5 地域や学校等が障害への理解を学ぶ機会を設けること
6 地域での交流の機会を設けて、障害の方とつながりを持つこと
7 障害者の一般就労の促進
8 その他 ()



しょうがいふくし
障害福祉サービスなどについて

問30 あなたは、福祉、系のような障害福祉サービスを利用していますか。また、今後利用したいと思いますか。(それぞれに○印は1つ)

※サービスの内容については、23ページ以降をご覧ください。

区 分	利用しており、 今後も利用したい	利用していないが3年以内に 利用したい	利用の予定はない
①障害介護（ホームヘルプ）	1	2	3
②障害施設介護	1	2	3
③障害介護	1	2	3
④行動介護	1	2	3
⑤短期入所（ショートステイ）	1	2	3
⑥児童発達支援（通園型含む）	1	2	3
⑦児童発達支援等サービス（通園型含む）	1	2	3
⑧障害児通園支援	1	2	3
⑨障害児通園支援	1	2	3
⑩地域福祉支援事業 （主に障害児福祉への支援事業の提供）	1	2	3
⑪障害児福祉支援事業 （主に障害児福祉への支援事業の提供）	1	2	3
⑫障害児福祉支援事業 （主に障害児福祉への支援事業の提供）	1	2	3
⑬障害児福祉支援事業 （主に障害児福祉への支援事業の提供）	1	2	3
⑭障害児福祉支援事業 （主に障害児福祉への支援事業の提供）	1	2	3
⑮障害児福祉支援事業 （主に障害児福祉への支援事業の提供）	1	2	3

問31 あなたは、福祉の障害福祉サービスを利用していることがありますか。
(あてはまるものをすべてに○印)

1 制度がわかりにくい	2 利用したいサービスを利用できない
3 利用できる量が限られ利用回数が少ない	4 サービスの質について落っている
5 他の利用者との関係が円滑でない	6 市役所での手続きが煩雑
7 事業所との関係が円滑でない	8 事業所への移動が円滑でない
9 関係が円滑でない	10 利用したいサービスのサービスがない
11 その他（ ）	12 他に落っていることはない

問32 あなたは、福祉受けている障害福祉サービスに、満足していますか。(○印は1つ)

- 1 必要なサービスを受けられており、大いに満足
- 2 ほぼ必要なサービスを受けられており満足
- 3 ほぼ必要なサービスを受けられているがサービスの質に満足できない
- 4 必要なサービスが十分に受けられ満足
- 5 受けたサービスが満足に満足
- 6 満足は稀にサービスを受ける必要がないので利用していない

問32で「4 必要なサービスが十分に受けられ満足」か「5 受けたサービスが満足に満足」に○をつけた方にお聞きします。

問32-1 地域の中で、障害者に必要なサービスのうち何が満足していると思いますか。



しょうがいこくし
障害児福祉について

問33 あなたは普校、特別の児童をどのように通っていますか。(○印は1つ)

- 1 幼稚園、保育園、児童発達支援事業所などに通っている
- 2 特別支援学校（小・中・高専）に通っている
- 3 小学校、中学校、高等学校（2を併く）に通っている
- 4 自宅で通っている
- 5 通っている施設や病院などで通っている
- 6 その他（ ）

問34 あなたの障害に気づいたきっかけは何でしたか。(あてはまるものすべてに○印)

- 1 病院などの医療機関による受診・診断
- 2 市が実施する健診
- 3 小学校で実施する就学時健康診断
- 4 児童発達支援センターわかくさ学級の訪問
- 5 幼稚園、保育園の訪問
- 6 学校の訪問
- 7 家族による気づき
- 8 その他（ ）

問35 あなたは普校、放課後や夏休みなどの長期休暇では、主にどのような場所を過ごしていますか。(あてはまるものすべてに○印)

- 1 幼稚園、保育園
- 2 学習クラブ
- 3 児童館
- 4 放課後等デイサービス
- 5 公団等
- 6 学校の部活動
- 7 習い事
- 8 地域のスポーツクラブ
- 9 自らの家
- 10 友達の家
- 11 その他（ ）

問36 幼稚園、保育園、通所施設などに通ううえで重要と思われるものをお答えください。

(○印は3つまで)

- 1 送迎など、通所・通学のサポート
- 2 学習支援や介助など、通・学校生活のサポート
- 3 生活訓練や職業訓練など、専門的な指導
- 4 授業や宿題など、継続的なケア
- 5 福祉サービス事業所など、外部の支援機関との連携
- 6 子ども同士の理解を深める交流機会を創やす
- 7 保育園や学校施設のバリアフリー化
- 8 就学相談や進路相談を積極的に行う
- 9 通常の学習への受け入れを進める
- 10 放課後や夏休み等の一時預かりがでる場所を創やす
- 11 その他（ ）

問37 今の学校の卒業後について、希望する進路はどれですか。(○印は1つ)

- 1 訓練や職業指導を受けられる施設に通いたい
- 2 又所して、訓練などを受けた
- 3 企業などへ就職したい
- 4 職業訓練校で訓練を受けたい
- 5 上級学校に進学したい
- 6 その他（ ）
- 7 まだ考えていない

保護者の方にお願します。

問38 保護者の方は、あて名のご本人の現在または将来について、

どのような不安や悩みがありますか。(○印は3つまで)

1	本人の習熟度にあった学習指導	2	学校での集団生活や入退校保護
3	学校生活に関する相談	4	通学に合った送迎の相談支援
5	通学路の環境変化に伴う本人の適応性	6	通学途中における教育機関での引継ぎ
7	教育機関の運営に際する理解	8	教育・保育施設での送迎時ケアの対応
9	異年齢混雑時の子どもの過ごし方	10	通学時の送迎
11	通学に合った就労先の紹介	12	就労に必要な技能等の訓練の機会
13	就労に関する総合的な相談支援	14	成人後の自身の通所先
15	成人後の自身の活動終了後の過ごし方	16	その他()
17	特になし		

保護者の方にお願します。

問39 保護者の方が、不安や悩みを相談する場として希望するものはどれですか。

(○印は3つまで)

1	ペアレントトレーニングやペアレントプログラム	2	ピアサポート活動
3	家族会への参加	4	こども発達センター
5	障害児通所支援事業所	6	相談支援事業所
7	発達障害支援センターわかぐさ学舎	8	さいわい福祉センター
9	スクールソーシャルワーカー	10	教育相談室
11	その他()	12	特になし
13	わからない		

ひがしくるめし しやうがいにくしきく

東久留米市の障害福祉施策について

問40 福祉に関する情報は、主にどこから得ていますか。(○印は3つまで)

1	市や区社会福祉協議会等の広報誌	2	市の広報
3	テレビやラジオ	4	新聞・雑誌
5	インターネット	6	障害者団体
7	発達障害・障害児、障害者・知的障害者相談員	8	ホームヘルパー
9	家族・親類	10	友人・知人
11	支援機関	12	市や区の窓口
13	障害者の施設施設	14	情報は得られていない
15	その他()		

問41 次の障害者(児)に関する市の相談窓口を知っていますか。また、それらを利用したことはありますか。(①～⑩までそれぞれに○印は1つ)

	知っており、 利用したことが ある	知っており、 利用したことは ない	知らない
①さいわい福祉センター	1	2	3
②福祉生活支援センターめぐまーる	1	2	3
③障害者就労支援室「さいわい」「あおぞら」	1	2	3
④市役所内ワークコーナー（ハローワーク窓口）	1	2	3
⑤障害者虐待防止センター（市障害福祉課）	1	2	3
⑥社会福祉協議会	1	2	3
⑦発達障害支援センターわかぐさ学舎	1	2	3
⑧教育センター市英相談室（発達）	1	2	3
⑨教育センター荒山相談室（発達）	1	2	3
⑩当事者団体等によるピアカウンセリング等	1	2	3

問42 あなたは、悩み事などを相談するときに、困ることはありますか。
(あてはまるものすべてに○印)

- 1 どこに高い音かせたらよいかわからない
- 2 身近な曲に相談するところがない
- 3 電話やFAXを使って情報収集や相談をすることができない
- 4 インターネットを使って情報収集や相談をすることができない
- 5 活字版や音声コード、録音テープなどによる情報提供が少ない
- 6 相談費で、周りの労に相談費が重なってしまう
- 7 その他（ ）
- 8 家族や友人に相談したり、情報を得られるので忙しに感じない

前3 今後、市行政で重点的に取り組むべきと思われる施策はありますか。(〇印は3つまで)

- 1 1 屍體の発見と捜査をめぐり自らがかけられる疑いづくりに関する捜査の進展を促めること
- 2 2 特別支援教育のいっそうの充実
- 3 3 教育と福祉の連携を促めること
- 4 4 障害児の放課後や休校時の支援
- 5 5 成人期の支援活動の場づくり
- 6 6 障害者（児）への虐待の予防・権利擁護
- 7 7 障害者の就労支援の充実
- 8 8 障害児保育の充実等による親の就労支援
- 9 9 就労支援事業所の定員の拡大
- 10 10 産後の障害者（児）の母子世帯の充実と居場所の確保
- 11 11 在宅でも支援を受けられる体制づくり
- 12 12 グループホームの施設整備
- 13 13 バリアフリーのまちづくり
- 14 14 障害特性に応じた情報提供
- 15 15 相談支援体制の強化
- 16 16 障害者（児）への理解を深めるための講習やイベント
- 17 17 研修等による支援者やボランティアの育成
- 18 18 災害や震災などの緊急時の支援
- 19 9 その他（ ）

東京都米市の障害福祉課について、ご意見やご要望などがありましたら、自由にご記入ください。

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。

★サービスの概要 (15ページ増30の回答の参考にしてください。)

施設入所支援	施設に入所する人に、夜間や休日に欠落、排せつ、着脱の介達等を行います。
地域移行支援	地域における生活に移行するために置換的な支援を必要とする人々に、住居の確保や相談等の支援を行います。
地域定着支援	居宅において単身等で生活する人に、高齢の家族世帯を確保し、介護の特性に起因して生じた緊要の事態等に相談等の支援を行います。
角語の説明	
ピアサポート	障害や疾病、悩みなど同じような共通項と対等性をもつ欠陥生（ピア）の支え合いを要する言葉。
ペアレントトレーニング	保護者が子どもとの行動を観察して理解を深めたり、発達障害の特性をふまえたほめ方やしかり方等を学び、具体的にどのような対応ができるかを学習していくためのプログラム。
ペアレントプログラム	育児に不安がある保護者、体調確保を要することに困っている保護者などを、地域の支援者（保護士、保健師、福祉保健所の職員等）が効果的に支援できるよう設定された、グループ・プログラム。

市民

ひがしくるめししょうがいしゃに 東久留米市障害者施策に関する

アンケート調査について

白旗は、本市の障害福祉施策につきまして、ご協力をお願いいたします。
本市では現在、「東久留米市障害者計画・第8期障害福祉計画・第4期障害児福祉計画」の策定に向けた取り組みを進めています。

そのため、市民の皆さまの福祉に関する意見、意向などを把握し、計画策定や施策推進に役立てるためのアンケート調査を実施することといたしました。

この調査策の送付対象者は、本市にお住まいの18歳以上64歳以下の方から無作為に抽出させていただきます。
お忙しいところ大変恐縮ですが、調査の趣旨をお取りいただき、ご協力くださいますよう、お願い申し上げます。

令和8年5月

東久留米市長 栗田竜馬

※ 令和8年3月1日時点で当市に住民登録されている方を対象としています。また、お答えいただいた内容は、プライバシーの保護に万全を期すとともに、アンケート結果の集計以外には使用いたしません。

● 記入について

- ・ 回答は、あてはまる番号を「○」で囲んでください。
- 調査票の送付について
- ・ インターネットによる回答も可能ですが、その場合、この調査票の送付はできません。各のQRコード、または、下のURLから、専用のウェブサイトにアクセスしてください。
- URL: <https://questant.jp/q/FNFOLZFR>
- ・ ご記入された調査票は、封筒の送付用封筒に入れ、令和8年6月12日（金）までに投函していただいても構いません。なお、インターネットで回答された方は、調査票の送付は不要です。



お問い合わせ先

東久留米市 福祉保健部 障害福祉課
TEL: 042-470-7747 FAX: 042-475-8181
※ 平日8時30分から17時まで（土日祝日を除く）

あなたご自身について

欄1 あなたの性別は、次のうちどれですか。(○印は1つ)

1 男性 2 女性 3 その他

欄2 あなたの年齢（令和8年4月1日現在）をお書きください。(数字を記入)

() 歳

欄3 あなたの職業についてお書きください。(○印は1つ)

1 職 2 自営業（経営・主理・事務所など）
3 会社員・公務員など 4 パート・アルバイト
5 学生 6 専業主婦
7 専業主夫（主婦・主夫） 8 無職
9 その他（ ）

欄4 あなたのお住まいをお書きします。(○印は1つ)

1 第1ブロック（上の原、神宮町、安田町、新川町）
2 第2ブロック（矢野町、新川町2丁目、浅間町）
3 第3ブロック（栗原町、新川町1丁目、栗原町）
4 第4ブロック（小島、幸町、下町1丁目と7丁目、新栄町、新栄町1丁目）
5 第5ブロック（中央町、新栄町2丁目、新栄町1丁目）
6 第6ブロック（新栄町、ひばりが丘、新栄町、新栄町）
7 第7ブロック（新栄町3丁目、新栄町、新栄町）
8 第8ブロック（下町2丁目、新栄町）
9 市外（八潮市、大塚市、武蔵野市など）

問5 あなたは、誰と一緒に生活していますか。(あてはまるものすべてに○印)

1 配偶者(妻・夫)	2 子ども
3 子どもの配偶者	4 父
5 母	6 祖父母
7 兄弟・姉妹	8 その他の家族
9 友人・友人以外の近しい人	10 親や祖父母の介護・看護
11 ひとり暮らし	12 その他()

問6 あなたは、普段通ずる方との程度おつきあいをしていますか。(○印は1つ)

1 緊を付きあふつきあい	2 立ち廻をする程度のつきあい
3 あいさつをする程度のつきあい	4 ほとんどつきあいはない

問7 あなたは、障害福祉に関心がありますか。(○印は1つ)

1 ある	2 少しある	3 ない
------	--------	------

問8 あなたの身近に障害や難病等のある方がいますか。(あてはまるものすべてに○印)

1 自分自身がそうである	2 身近な方がそうである	3 いない
--------------	--------------	-------

問9 あなたは、障害や難病等のある方と交流がありますか。

(あてはまるものすべてに○印)

1 家族等身近な家族にいる	2 学校や職場の同僚として交流がある
3 知人・友人として交流がある	4 地域行事などの居間で交流がある
5 ボランティア活動で交流がある	6 交流する機会がほとんどない
7 その他()	

しょうがい 障害への理解について

問10 普段の生活の中で、困っている障害者(児)に対し「あなたができる支援」はありますか。
(あてはまるものすべてに○印)

1 車いすで歩ける
2 聴覚の障害や通話の困難、聴覚・ハブ装置に手を貸す
3 椅子を肩に付いたり、肩かけをする
4 同席を待つ
5 車椅子を昇下りしたり持ち上げるのを手伝う
6 災害や避難などの緊急時の連絡
7 安全確保の声かけ
8 緊急時や避難時の声かけ
9 手話や筆談で話す
10 車で送迎するなど、外出の手助けをする
11 災害を作ったり、掃除や洗濯を手伝う
12 買い物や食料の買い出しを手伝う
13 病にできることがない
14 その他()

問11 お住まいの地域及び職場で、障害者(児)への理解が10年前に比べて深まっていると感
いますか。(○印は1つ)

1 思う	2 思わない	3 わからない
------	--------	---------

問12 あなたは、ヘルプカード、ヘルプマークを知っていますか。(それぞれに○印は1つ)

①ヘルプカード	1 内容まで知っていた	2 聞いたことがある	3 知らなかった
②ヘルプマーク	1 内容まで知っていた	2 聞いたことがある	3 知らなかった

ヘルプカード・ヘルプマーク

市では、障害のある方や難病に罹患している方が、日常で困った際に、また災害時や緊急時に、周囲の方に支援や配慮をお願いしやすくなるため、ヘルプカードを作成しました。ヘルプマークは平成24年に東京都が作成したもので、平成29年にJIS Z8210(案内用記号)が改定され、周囲の方に配慮を必要としてヘルプマーク
+ 心
いることを知らせることができるよう全国共通のマークとなっています。

問3 「被害者虐待防止法」により、家庭、職場、職場及び被害者施設において被害者（児）の虐待を防止した市町村には、通報義務があることを知っていましたか。（○印は1つ）

1 知っていた	2 知らなかった
---------	----------

問4 あなたは、「被害者差別解消法」について知っていましたか。（○印は1つ）

1 以前まで知っていた	2 聞いたことがある	3 知らなかった
-------------	------------	----------

被害者虐待防止法

（被害者虐待防止、被害者の権利に対する支援等に関する法律）

被害者のある方に対する虐待は、個人の尊厳を侵害するものであり、被害者の自立や社会参加にとって大きな妨げとなります。被害者への虐待の防止や被害者に対する支援に取り組むため、平成24年10月に施行されました。

被害者差別解消法（被害を理由とする差別の解消の推進に関する法律）

被害を理由とする差別の解消を推進することにより、「全ての国民が被害の有無によって分け隔てられることなく、相互に人格と個性を尊重し合いながら共生する社会の実現」を旨とし、平成25年6月に公布され、同28年4月から施行されました。

問5 親戚の社会には、被害のある人に対する差別や偏見があると聞きますか。（○印は1つ）

1 差別や偏見はあると聞	2 どちらかといえば、あると聞
3 どちらかといえば、ないと聞	4 差別や偏見はないと聞
5 わからない	

問5 で「1 差別や偏見はあると聞」 「2 どちらかといえば、あると聞」を選んだ方におたずねします。

問5-1 被害者（児）に対する差別・偏見、または理解のなさとはどのようなところにあると思いますか。具体的な内容もご記入ください。（あてはまるものすべてに○印）

1 仕事	2 職場の偏見
3 職場の労働環境や制度	4 教育
5 交通機関	6 教育の機会
7 お店等の店員の態度や制度	8 行政の対応
9 保育所や学校の対応	10 その他
具体的に：	

問6 あなたは、被害のある方にも共に住み暮れた地域で生活できるように地域の理解を求めていくためには、どのようなことが必要だと思いますか。（○印は3つまで）

1 地域行事への被害者（児）の参加を促進するなど、地域住民等との交流の場を設けず
2 学校でのインクルーシブ教育※や被害に関する教育の推進
3 被害についての正しい知識の普及啓発のための講演会等の開催
4 被害者支援施設や被害者（児）と交流するイベントの開催
5 被害者（児）の生活や被害についての正しい知識等を伝えるリーフレットの発行
6 被害者の一人ひとりの被害の促進
7 知らない
8 その他（ ）

※被害の有無にかかわらず、誰もが望めば自分に合った配慮を受けながら、地域の通常学級で学べることを目指すこと。

問17 あなたは、障害のある方の介助（支援）をしたことがありますか。（○印は1つ）
「ある」と回答した方は、支援した内容を表内にご記入ください。

1 ある	2 ない
詳細別記：	

問18 災害時、身近な方や地域に向けて「あなたができる支援」はありますか。
（あてはまるものすべてに○印）

1 災害情報・声かけ	2 家族への連絡
3 安全な場所への避難誘導	4 緊急手当
5 情報提供	6 相談・話し相手
7 留方（支援）は継続	8 わからない
9 その他（	）

問19 令和3年に障害者差別解消法が改正され、令和6年から事業者等による障害のある方への「合理的配慮の提供」が義務化されました。「合理的配慮の提供」とは、障害のある方から社会の中にある希望を取り戻すための障らかの配慮を要する意思表示があったときに、貴店が置きえない範囲で対応することです。あなたは、合理的配慮の提供について知っていますか。（○印は1つ）

1 知っている	2 聞いたことあるが、内容は知らない
3 知らない	

問20 あなたは、社会には障害のある方への対応や理解が十分にあると感じますか。
（○印は1つ）

1 全然足りないと思う → (問20-1へ)	2 少し足りないと思う → (問20-1へ)
3 あると思う	4 わからない

問20 で「1 全然足りないと思う」「2 少し足りないと思う」を選んだ方におたずねします。

問20-1 それはどんな場合ですか。（あてはまるものすべてに○印）

1 教育の機会	2 仕事や収入
3 就労の機会	4 地域の行事や集まり
5 生活の対応や配慮	6 被害にかかわりにくいこと
7 交通機関や建築物の整備	8 身近なかでの人の関係
9 住居の環境	10 その他（

東久留米市の障害福祉施策について

問21 障害福祉に関する情報は、聖にどこから得ていますか。（○印は3つまで）

1 写真は影響がないので、得ていない	2 市や社会福祉協議会等の広報誌
3 市の広報	4 テレビやラジオ
5 新聞・雑誌	6 インターネット、SNS
7 障害者団体	8 民生委員・児童委員、身体・知的障害者相談員
9 ホームヘルパー	10 家族・親戚
11 友人・知人	12 医療機関
13 市や都の窓口	14 障害者の福祉施設
15 情報は得られていない	16 その他（

問22 次の被害者（児）に對する市の相談窓口を知っていますか。また、それらを利用したこと
 はありますか。①～⑩までそれぞれに○印は1つ

	知っており、 利用したこと がある	知っていた が、利用した ことは無い	知らない
①さいわい福祉センター	1	2	3
②地域生活支援センターめぐるまーる	1	2	3
③被害者救済支援室「さいわい」「あおぞら」	1	2	3
④市役所内ワークコーナー（ハローワーク窓口）	1	2	3
⑤被害者虐待防止センター（市被害者支援課）	1	2	3
⑥社会福祉協議会	1	2	3
⑦児童発達支援センターわかさ学園（児童）	1	2	3
⑧教育センター（児童）	1	2	3
⑨滝山教育相談室（児童）	1	2	3
⑩当事者団体等によるピアカウンセリング等	1	2	3

問23 今後、市行政で重点的に取り組むべきと想う被害者支援施策は何か。

(○印は3つまで)

1 児童発達支援センターの整備	2 被害者支援センターの整備
3 被害者支援センターの整備	4 児童発達支援センターの整備
5 成人期の支援活動の場づくり	6 被害者（児）への虐待の予防・被害者支援
7 被害者の就業支援の充実	8 児童発達支援センターの充実等による就労支援
9 就業支援事業所の定員の拡大	10 児童の被害者（児）の日常活動の充実と虐待の予防
11 在宅でも支援を受けられる体制づくり	12 グループホーム等の施設整備
13 バリアフリーのまちづくり	14 被害者特性に即した情報提供
15 相談支援体制の強化	16 被害者（児）への理解を深めるための講習やイベント
17 研修等による支援者やボランティアの育成	18 児童の支援
19 その他（	）

※主に被害者が日常生活の相談及び虐待、災害、僻地等における介護を受けるが、被害者支援を要する住居

東久留米市の障害福祉施設について、ご意見やご要望などがありましたら、自由に記入ください。

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。
この調査票を同封の返信用封筒に入れて、
令和8年6月12日(金)までにポストへ入れてください。

東久留米市
障害者施策に関するアンケート調査報告書
発行年月：令和８年６月
発行：東久留米市 福祉保健部 障害福祉課
〒203-8555
東京都東久留米市本町３－３－１
電話：042-470-7747